クボタコンバイン

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

 ホーン

 エンジン回転数［**低回転**］

 エンジン回転数［**高回転**］

 ウインカランプ

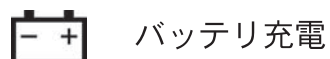
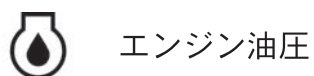
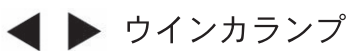
ヘッドランプ

ヘッドランプと作業灯

 駐車ブレーキ

 燃料

 エンジン油圧

 バッテリ充電

専門用語の説明

用語	説明
● 予熱（グロー）	エンジンの始動を容易にするための補助装置
● マルチワンレバー	油圧式の操向操作レバーと刈取部昇降レバー
● ブレーキターン	左右どちらかのクローラを停止させて方向を変える旋回
● ソフトターン	左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
● 接地センサ	ほ場面に接地して刈取部とほ場面の高さ（刈高さ）を一定に保持するセンサ
● デバイダ	こくかんを分けすくい上げる部分
● ドレーン（プラグ）	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
● HST	油圧式の無段変速装置
● アジャスト	調節を意味する
● 主変速レバー	［前進］［後進］の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
● １番スクリュ	精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
● ２番スクリュ	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
● チャフシーブ	こく粒を粗選する桟状の板
● トウミ	選別風を発生させるファン
● グレンシーブ	こく粒を精選するあみ体
● 送じん調節レバー	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
● 排じん調節板	選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
● こぎ胴	脱こくするドラム
● フィードチェーン	稲を挟持搬送するチェーンコンベア
● 縦スクリュ	精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
● こぎ胴オープン	こぎ胴を上に上げる機構
● 揺動板（シーブケース）	揺動運動してこく粒を選別する装置
● アンローダ	グレンタンクからもみを排出する筒

は じ め に

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法, 簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され, お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し, かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また, お読みになったあとも製品に近接して保存し, わからないことがあったときには取出してお読みください。なお, 品質・性能向上あるいは安全上, 使用部品の変更を行なうことがあります。その際には, お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので, あらかじめご了承ください。

⚠ 安 全 第 一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは, 人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお, ⚠表示ラベルが汚損したり, はがれた場合はお買上げの購入先に注文し, 必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では, 特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について, 次のように表示しています。

注意事項を守らないと, 死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

注意事項を守らないと, 死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

注意事項を守らないと, ケガを負うおそれのあるものを示します。

重 要

注意事項を守らないと, 機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補 足

その他, 使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取り·収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は**［ER447SDSQ 仕様］**を基本とし，**［ER447SDSQ 仕様］**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

①刈取条数・エンジン出力によって．．．
- ［329］（３条刈り・29PS）
- ［335］（３条刈り・35PS）
- ［438］（４条刈り・38PS）
- ［447］（４条刈り・47PS）

②諸装置の仕様によって（別表参照）．．．
- ［DX 仕様］（デラックス）
- ［HD 仕様］（ハイデラックス）
- ［SD 仕様］（スーパーデラックス）

③自動車体水平制御装置によって．．．
- ［M 仕様］（左右モンロー）
- ［4M 仕様］（4PC モンロー）

④バックモニタ付きキャビン．．．．［SQ 仕様］

⑤クローラによって．．．．．．．．．．．．

型式	クローラ幅（mm）	
	［W 仕様］	［W2 仕様］
［329・335］	410	―
［438・447］	―	470

諸装置		仕様 DX	HD	SD	備考
自動化装置	自動エンジン回転セット	―	○	○	
	自動車速制御	―	―	○	
	自動方向制御	―	―	△	
	自動刈高さ制御 上昇自動	―	○	○	
	自動刈高さ制御 昇降自動	―	―	○	
	自動こぎ深さ制御	○	○	○	
	刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止機能〕	―	○	○※	
	自動脱こく制御	―	―	○	
	アンローダ自動旋回制御	○	○	○	
	エンジン正逆流ファン制御	○	○	○	［438・447］
	自動エンジン停止装置	○	○	○	
ファインビューメータ		○	○	○	
手動アクセルダイヤル		○	○	○	
副変速切換えスイッチ		○	○	○	
作業（楽刈）レバー		―	○	○	
ワンタッチ設定スイッチ		―	―	○	
旋回モード切換えダイヤル		○	○	○	
ポジピタスイッチ〔刈取部ワンタッチ昇降機能〕		―	―	○	
引起しオープン		○	○	○	
刈取オープン		○	○	○	
刈取かき込みペダル		○	○	○	
左分草かん電動開閉スイッチ		―	○	○	電動
パワークラッチ〔脱こく・刈取・もみ排出〕		―	○	○	電動
バイブロシャッタ		―	―	○	自動（もみ排出連動）
もみこぼれ防止シャッタ		―	○	○	作動時もみ排出連動
アンローダリモコン		○	○	○	有線式
無線アンローダリモコン		―	―	△	無線式
バックモニタ		―	―	○	［SQ仕様］
CDプレーヤ付きラジオ		―	―	○	［SQ仕様］
集中注油装置		○	○	○	電動
刈取防じんカバー		△	△	○	［SQ仕様除く］

○：標準装備　―：非装備（後付け不可）△：オプション（後付け可）
※［SD仕様］はフィードチェーン駆動連動
※ 楽刈レバーは本文中で作業レバーと記載しています。

目　次

▲安全に作業するために

サービスと保証について

装置の名称と取扱い

目　次

コンバインの不調と処置

付表

索引

▲安全に作業するために　　必ず読んでください

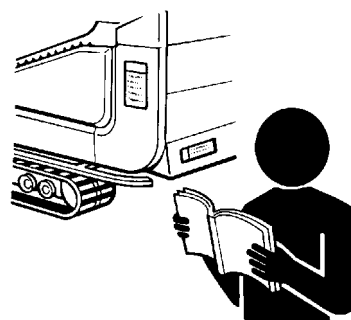
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で▲危 険・▲警 告・▲注 意・重 要・補 足としてそのつど取上げています。

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

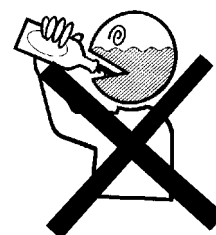
◆ 一般的な注意事項

▲取扱説明書及び機械に貼付けている▲表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。

[守らないと]
死亡又は傷害を負うおそれがあります。

1BBAAAAAP0280

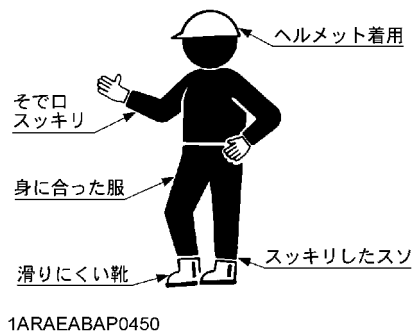
▲体の状態が悪いときには運転操作をしない。

- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行なわないでください。
  ・お酒を飲んでいる方　・睡眠不足の方
  ・妊娠中のご婦人　　　・過労，病気の方
  ・16 歳未満の方

[守らないと]
思わぬ事故の原因になります。

1ARAEABAP0420

⚠作業時には運転者，補助者とも作業に適した服ならびにヘルメット，滑りにくい靴を着用する。

1ARAEABAP0450

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。
- 必要に応じて安全靴，保護メガネや手袋などを着用する。
- 点検整備には帽子と安全な服装を着用する。
  作業内容によってはヘルメット，安全靴，保護メガネ，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用する。
  各保護具は使用前に機能を確認する。

[守らないと]
レバーや作動部に引っかかったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。

⚠取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

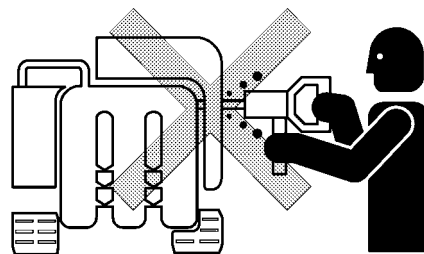
1AAACAAAP008A

- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。

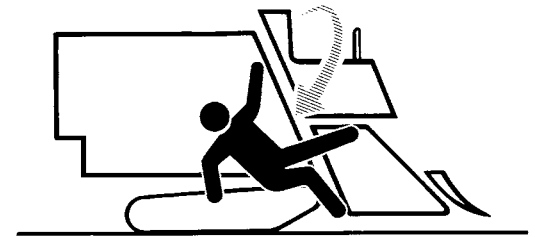
[守らないと]
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

⚠機械を改造しない。

1ARABAHAP0040

[守らないと]
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。

運転席に乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしない。

- 平坦な場所でハンドルをしっかり握り，すべらないようにステップに足をしっかり掛けて乗り降りする。

[守らないと]
転倒・転落し，傷害を負うおそれがあります。

1ARADBHAP2410

運転者以外は機械に乗らない。

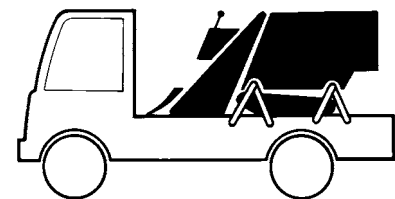
- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

[守らないと]
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

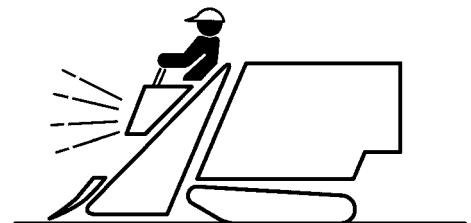
1ASABAAAP3730

公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は，所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は，トラックで運搬する。

[守らないと]
交通事故をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0440

夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは，必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯させる。

[守らないと]
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP1260

◆ 作業前の注意事項

1ARAEAAAP0560

屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

[守らないと]
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。

1AAACAAAP001A

燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

[守らないと]
火災の原因になります。

1ARAEAAAP0780

機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

- ■ **エンジンを始動するときは，運転席に座って，主変速レバーを［停止］位置，副変速レバーを［N］（中立）以外の位置にし，［DX 仕様］は脱こく・刈取クラッチレバーを［切］位置，［HD・SD 仕様］は作業レバーを刈取・脱こく［切］位置にして，ホーンを鳴らすなどの合図をする。**
- ■ **機械を発進するときや作業レバーを入れるときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。**

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0580

- ■ **初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。**

[守らないと]
思わぬ事故の原因となります。

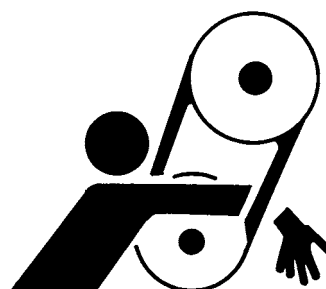
作業前点検（日常点検）を実施する。

■ 運転の前には点検項目（77 ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

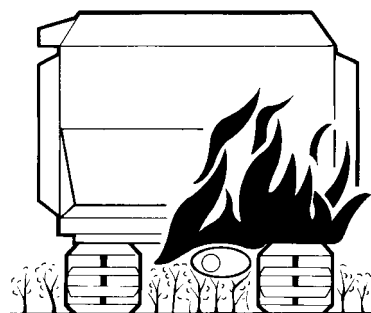
［守らないと］
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0460

■ 点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
■ 取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

［守らないと］
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

1AAAAABAP0180

■ マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。

［守らないと］
火災の原因になります。

1ARAEABAP0600

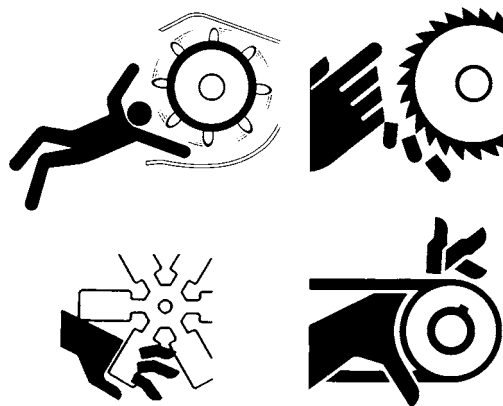
■ 点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

［守らないと］
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP0780

刈取部，引起し部，エンジンルーム［Q 仕様除く］，こぎ胴，カッタ部，結束機，防じんカバー［Q 仕様］，グレンタンクを開閉するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

1ARAAAAAP1130

- 各部の開閉を行なうときは平坦な場所で行なう。
- 刈取部，引起し部，こぎ胴，カッタ部，結束機を開いたときは，ストッパを掛ける。
- 各部を開いたままエンジンを始動しない。

［守らないと］
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

［SDSQ 仕様］

後進するときは，バックモニタの液晶パネル画像だけを見ながらの運転操作はしない。

1ARAEABAP0580

- 後進するときは，機械の周りに人や障害物などがないか，バックミラーや目視でも必ず後方の確認しながらゆっくりと運転操作を行なう。
- 夜間は視界が悪いため運転操作を行なうときは，特に機械の周りに人や障害物などがないか確認しながらゆっくりと運転操作を行なう。
- CCD カメラからバックモニタに写しだされる画像（広角映像）に慣れるまではゆっくりと慎重に運転操作を行なう。

［守らないと］
接触したり，ひかれたりして死亡又は，重大な傷害を負うおそれがあります。

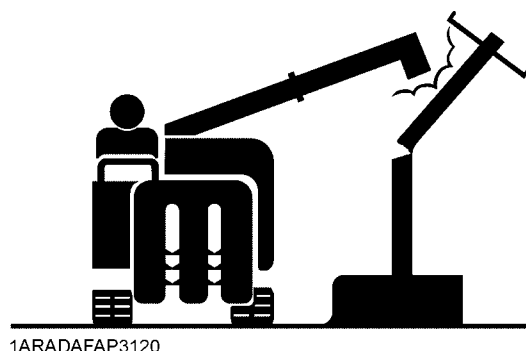
［SDSQ 仕様］

◆ 移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

⚠移動走行するときは，次の事項を守る。

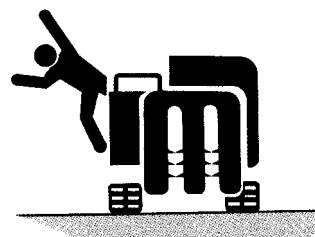
1ARADAFAP3120

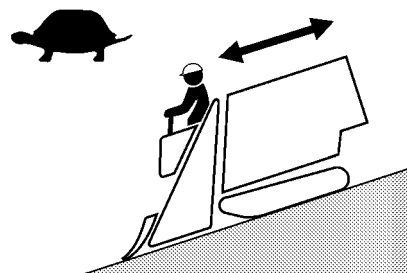
- **［DX 仕様］**は脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置，**［HD・SD 仕様］**は作業レバーを**刈取・脱こく［切］**位置，もみ排出クラッチを**［切］**位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて排出する。
- 副変速レバーを切換えるときは，平坦な場所で主変速レバーを**［停止］**位置にし，走行をいったん止めてから行なう。
- 副変速切換えスイッチを押すときは，走行をいったん止める又は，機体の速度を 1.0m/s 以下に落としてから副変速を切換える。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダカバーを取付ける。
- 左補助デッキ，左分草かん前・後を収納して，機体幅を狭くする。
- アンローダを下げ，アンローダを折りたたんでアンローダ支えに収納してバンドを掛ける。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
- 旋回モード切換えダイヤルを，**［ソフトターン］**位置に切換える。

［守らないと］
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠移動走行時は急旋回をしない。

1ARAEAAAP0870

- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），マルチワンレバーをゆっくり倒して旋回する。

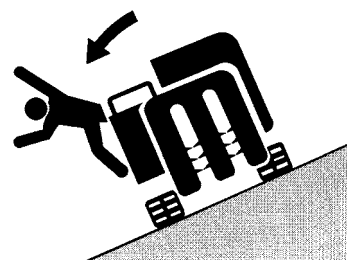
［守らないと］
機械から振り落とされたり，転倒するおそれがあります。

右又は，左方向の傾きがある傾斜地は走行しない。

- 坂道（傾斜地）やほ場の進入路では，上り又は，下り方向に低速でゆっくりと走行する。
- 坂道（傾斜地）では，右又は，左に傾いた方向に走行しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回をしない。

1ASAAAHAP367B

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

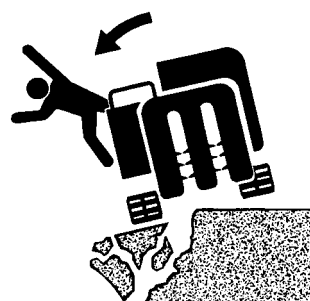
1ASAAAHAP368B

坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

- もみは全て排出する。
- 坂道（傾斜地）では，急なマルチワンレバーの操作や副変速切換えスイッチ，副変速レバー，駐車ブレーキペダル，水平操作手動スイッチ **[M 仕様]**，傾斜角手動調節スイッチ **[M 仕様]**，かき込みペダル，旋回モード切換えダイヤル，アンローダリモコンの操作はしない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。

1ARAEAAAP0860

[守らないと]
暴走したり，転倒するおそれがあります。

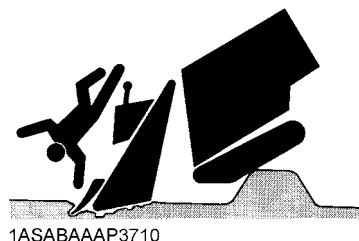
道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。

1ARAEABAP0500

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。

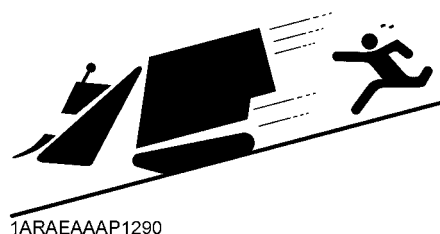
ほ場の出入りで，あぜなど段差のあるところではあゆみ板を使う。

1ASABAAAP3710

- 10cm以上の段差のあるところでは,段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- グレンタンク内のもみはすべて排出する。

[守らないと]
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

駐車するときや運転席を離れるときは，平たんな場所に止め，副変速レバーを［低］位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

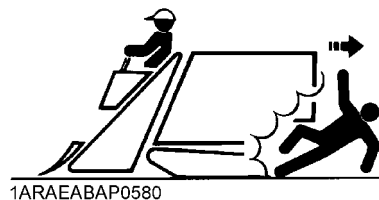
1ARAEAAAP1290

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。

[守らないと]
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

◆ 作業時の注意事項

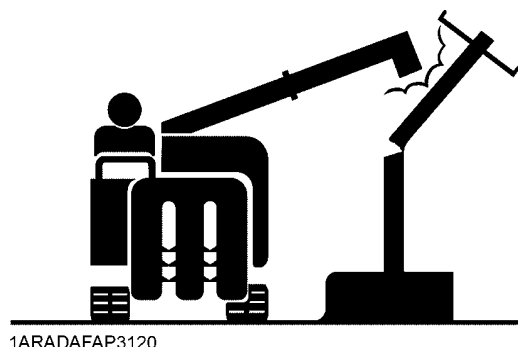
⚠共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。

1ARAEABAP0580

- エンジン始動時, 及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは, ホーンなどで合図し, 必ず補助者の OK をもらう。
- 補助者が機械に近づくときは, 運転者に知らせることを徹底させる。

[守らないと]
補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

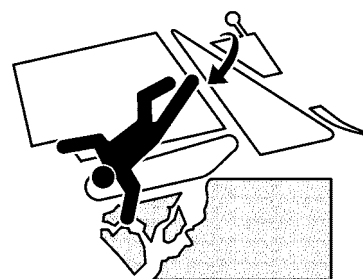
⚠アンローダを動かすときは, 旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。

1ARADAFAP3120

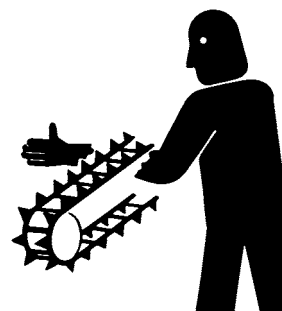
- 旋回範囲に人がいたり，障害物があるときは，アンローダを動かさない。
- 折りたたみ式のアンローダを伸ばして作業するときは，周囲に人や障害物がないことを確認する。
- アンローダは, アンローダ支えに収納した状態で作業を行なう。

[守らないと]
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

⚠すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。

1ARAEAAAP1300

[守らないと]
後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。

手こぎ作業するときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給する。

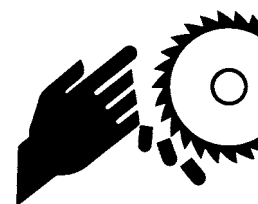
1ARAEABAP0570

- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキを掛ける。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。**［M 仕様］**
- 刈取防じんカバー付きの機械は，刈取防じんカバーを開ける。
- **［DX 仕様］**は刈取クラッチレバーを**［切］**位置，**［HD・SD 仕様］**は作業レバーを**刈取［切］**位置にして，枕こぎ台の上にわらを乗せて手刈り脱こくを行なう。
- 脱こく部入り口にたまった，わらやもみなどを脱こく部に入れるときは，チェーンに手や腕が巻込まれないように，少量ずつ行なう。

［守らないと］
チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

1ARAEAAAP0460

- わらの巻付きや詰まりを取除くときや，もみの点検・掃除をするとき，**［DX 仕様］**は脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置，**［HD・SD 仕様］**は作業レバーを**刈取・脱こく［切］**，もみ排出クラッチを**［切］**位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。
- 引起し部を上げて刈取部に詰まったわらなどを取除くときは，下降防止のロック金具を掛ける。

［守らないと］
カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0550

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

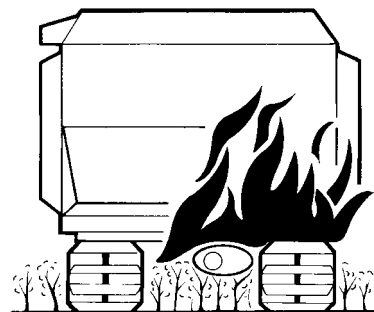
- ベルトやチェーンのカバー, 及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

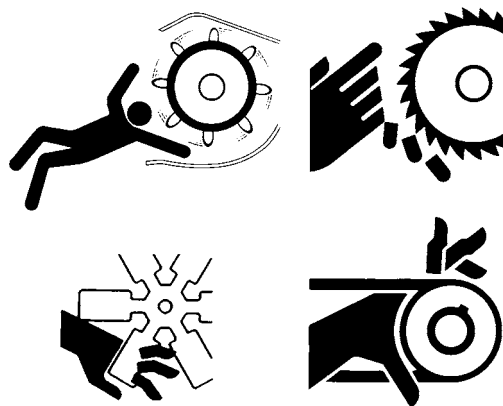
1ARAEAAAP0460

◆ 作業後・格納時の注意事項

⚠わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

[守らないと]
わらくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。

1ARAEABAP0600

⚠点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

[守らないと]
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAAAAAP1130

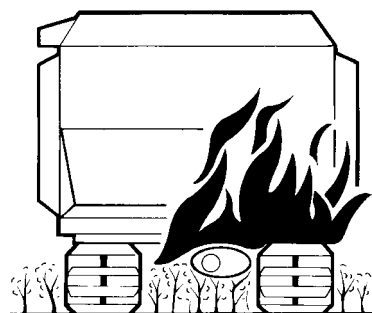
⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

- エンジン本体・マフラ・排気管は，エンジン停止直後は触れない。

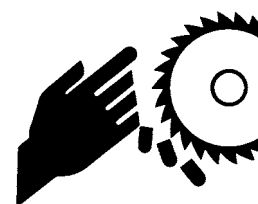
[守らないと]
やけどを負うおそれがあります。

1AKADACAP1390

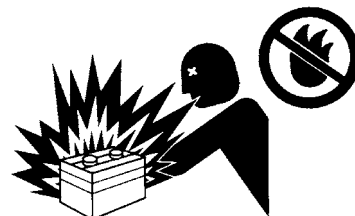
⚠エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内，配線部，バッテリ周辺のわらくずを点検し，きれいに取除く。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。

1ARAEABAP0600

⚠掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0550

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルをショートさせない。

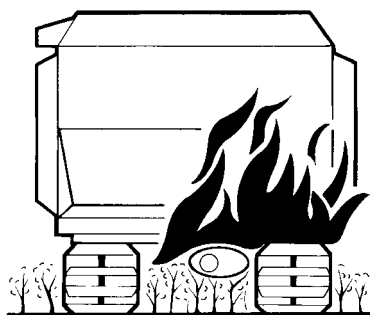
[守らないと]
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。

1ARAEABAP0110

⚠ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

[守らないと]
ショートによる火災発生のおそれがあります。

1ARAEAAAP0410

機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

1ARAEABAP0600

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。

◆ 点検整備時の注意事項

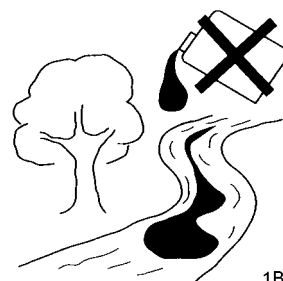
⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

1ARAEABAP0460

[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

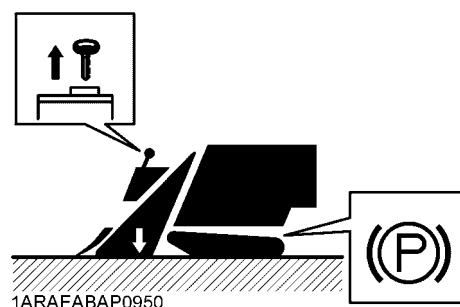
⚠廃棄物をみだりに捨てたり，焼却しない。

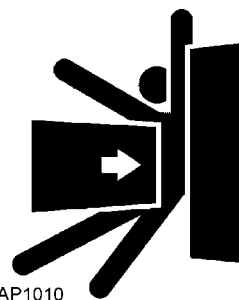
1BJABAAAP0180

- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受ける。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしない。
- 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理する。

[守らないと]
環境汚染につながります。

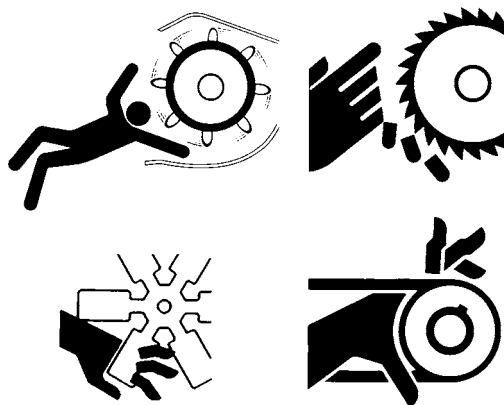
⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜き，[DX 仕様] は脱こく・刈取クラッチレバーを [切] 位置，[HD・SD 仕様] は作業レバーを刈取・脱こく [切] 位置，もみ排出クラッチを [切] 位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

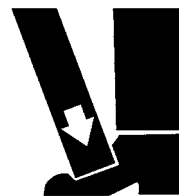
1ARAEABAP0950

[守らないと]
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

刈取部，引起し部，こぎ胴，カッタ部，結束機を開いたときは，ストッパで固定する。

[守らないと]
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP1010

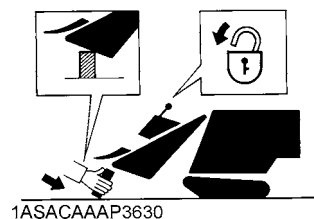
刈取部，引起し部，エンジンルーム［Q 仕様除く］，こぎ胴，カッタ部，結束機，防じんカバー［Q 仕様］，グレンタンクを開いたままエンジンを回さない。

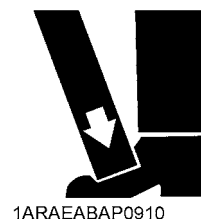
[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

シーブケースや切断軸アッシ，結束機など重量物の脱着作業は，2 人以上で行なう。

[守らないと]
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0910

⚠刈取部を上げる又は，開いて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

1ASACAAAP3630

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。
- 刈取部を開くときは，平たんな場所で自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。**[M 仕様]**

[守らないと]
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0910

⚠刈刃，カッタ刃，わら切刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0550

⚠取外したカバー類は，必ず取付ける。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP0460

バッテリを取外すときは，最初にマイナス（－）側のケーブルを取外す。

1ARAEABAP0110

- バッテリの近くに裸火（マッチ・ライタ・タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルのショートによるスパークをさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付ける。

［守らないと］
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。［補水タイプ］

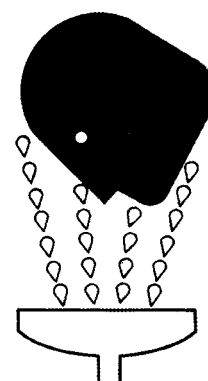
1ARAEABAP0130

- バッテリ液が不足していれば，すぐに**UPPER LEVEL（上限）**と**LOWER LEVEL（下限）**の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

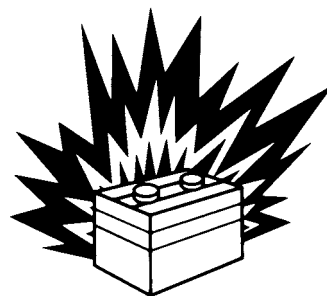
［守らないと］
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，爆発の原因となることがあります。

バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐ水でよく洗う。

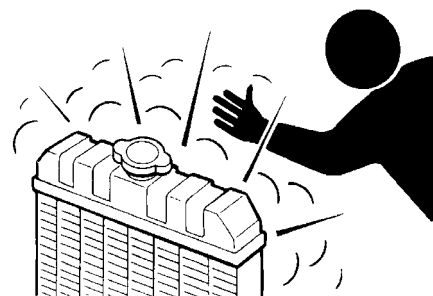
［守らないと］
失明やヤケドのおそれがあります。

指定外のバッテリは使わない。

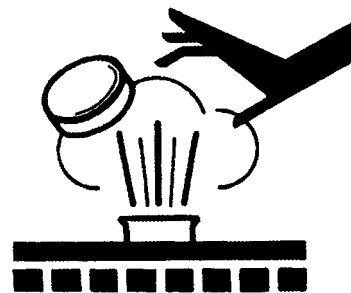
- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。

[守らないと]
思わぬ事故が発生するおそれがあります。

1ARAEABAP0120

1ARAEABAP0620

ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

- エンジン停止後，３０分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。

1ARAEABAP0050

[守らないと]
熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0160

燃料ホース，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

[守らないと]
燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。

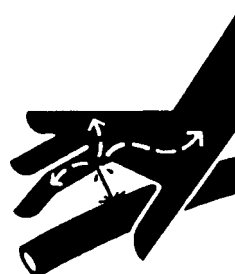
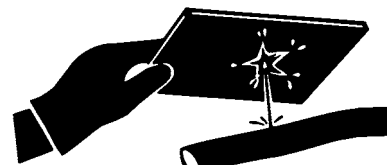
1AAAAABAP0240

1AAAAABAP0250

燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。

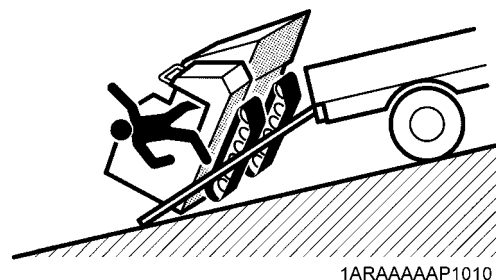
1BAACAAAP0100

[守らないと]
油が皮ふに侵入して，強度のアレルギーや感染症を引起す可能性があります。

1ARAEABAP0060

◆ 運搬時の注意事項

トラックへの積込み・積降しは平たん地で行なう。

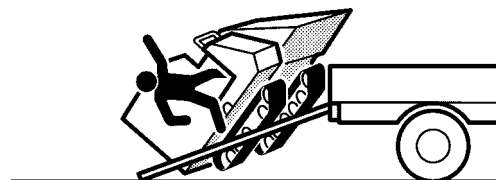
1ARAAAAAP1010

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキを掛け，トラックの変速レバーを **R（後進）** 又は，**１速** に入れたあと，さらにタイヤに車止めを行ない，トラックが動かないようにしっかり固定する。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。

1ARAAAAAP1020

- あゆみ板の基準

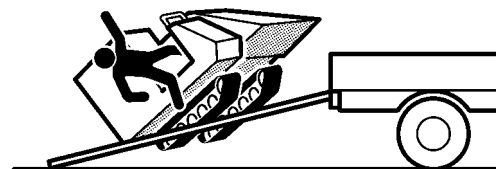
項目	基準
長　　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	55cm 以上
数　　量	２枚
強　　度	１枚が 2400kg 以上に耐えうる

- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

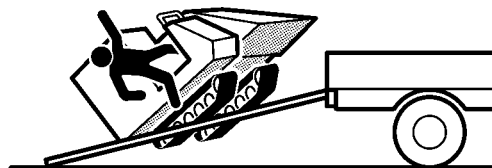
積込み・積降し前に，もみはすべて排出する。

1ARAAAAAP1030

- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。
- アンローダは，折りたたんで収納する。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。**[M 仕様]**

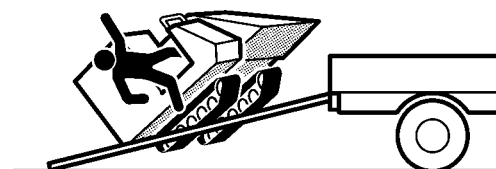
[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

トラックへの積込み・積降しは最低速で行なう。

1ARAAAAAP1030

- **[DX 仕様]** は脱こく・刈取クラッチレバーを **[切]** 位置，**[HD・SD 仕様]** は作業レバーを**刈取・脱こく [切]** 位置，もみ排出クラッチを **[切]** 位置にする。
- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。
- 結束機を装着している機械は後進で積込み，前進で積降しを行なう。

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

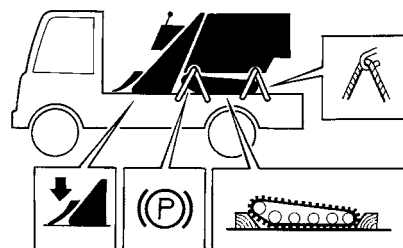
あゆみ板の上では方向修正しない。

1ARAAAAAP1030

- あゆみ板の上では, 急なマルチワンレバーの操作や副変速切換えスイッチ，副変速レバー，駐車ブレーキペダル，水平操作手動スイッチ **[M 仕様]**，傾斜角手動調節スイッチ **[M 仕様]**，かき込みペダル，旋回モード切換えダイヤル, アンローダリモコンの操作はしない。
- 方向を変えるときは，いったん地上，又は荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。

[守らないと]
急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

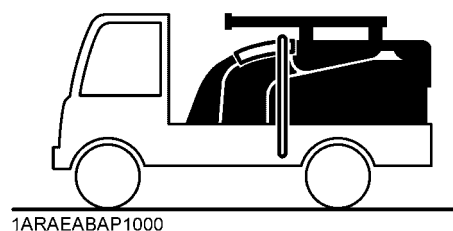
トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。

1AVAAAAAP2220

- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。**[M 仕様]**
- 副変速レバーを **[低]** 位置にし，駐車ブレーキを掛ける。
- 所定の **[ロープ掛けフック（4 箇所）]** にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

[守らないと]
機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

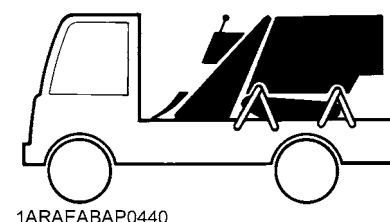
▲トラックに積んだときは，機体の各カバーを固定する。

1ARAEABAP1000

- 樹脂カバー・着脱の簡単なカバー・折りたたみ部品などは, ロープで確実に固定するか, 外して荷台に置く。
- 刈取防じんカバーは閉じる。**［刈取防じんカバー付］**

［守らないと］
輸送中に風圧で破損，脱落のおそれがあります。

▲輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

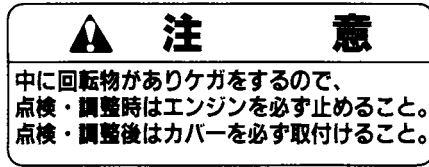
1ARAEABAP0440

［守らないと］
輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

安全作業するための表示ラベル

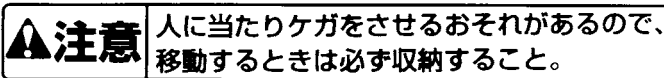
■表示ラベルの内容・貼付位置

①品番　5K190-6432-1

注　意

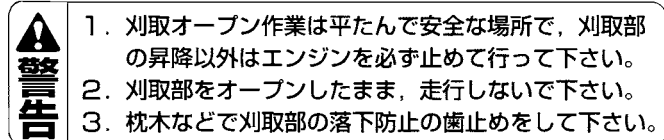
中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADBEAP341J

②品番　5H601-4344-1

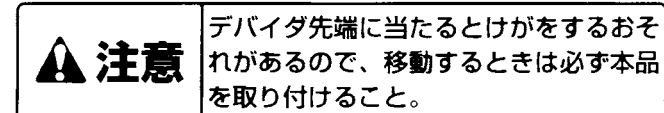
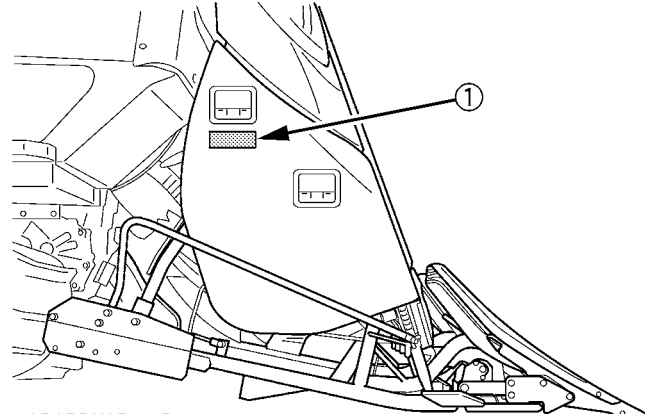
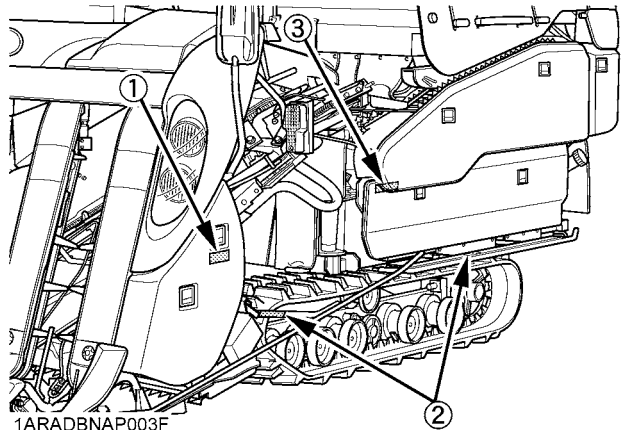
注意　人に当たりケガをさせるおそれがあるので、
移動するときは必ず収納すること。

1ARADBEAP342J

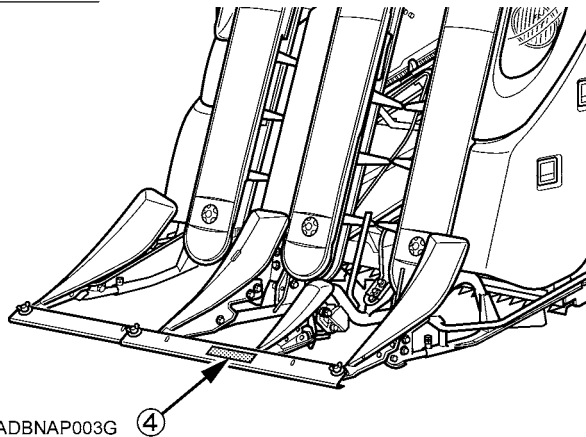
③品番　5H700-4367-1

警告

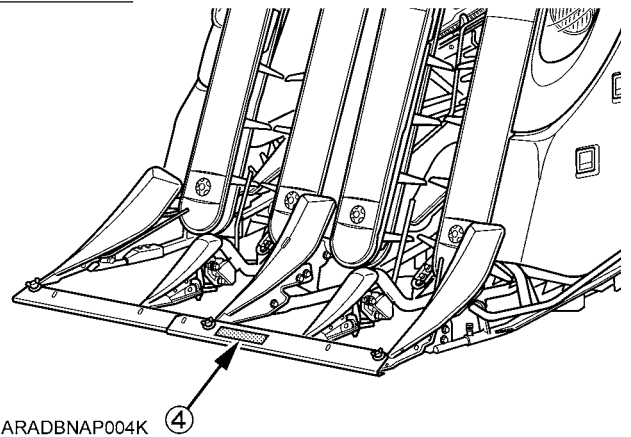
1．刈取オープン作業は平たんで安全な場所で，刈取部の昇降以外はエンジンを必ず止めて行って下さい。
2．刈取部をオープンしたまま，走行しないで下さい。
3．枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをして下さい。

1ARADBEAP343J

④品番　59700-4332-2

注意　デバイダ先端に当たるとけがをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

1ARADBEAP344J

1ARADBNAP102D

1ARADBNAP003F

[329・335]

1ARADBNAP003G

[329・335]

[438・447]

1ARADBNAP004K

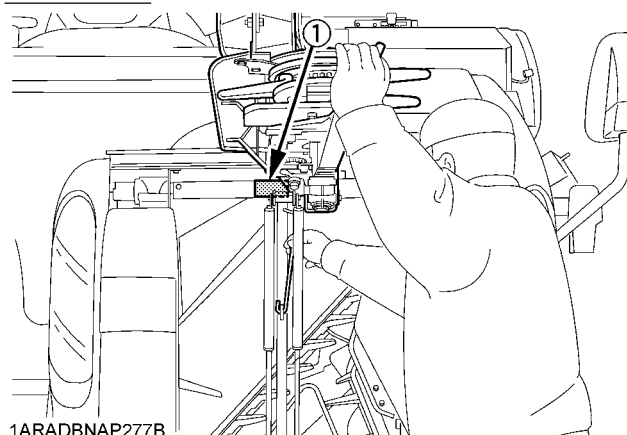
[438・447]

①品番　5H803-7925-1

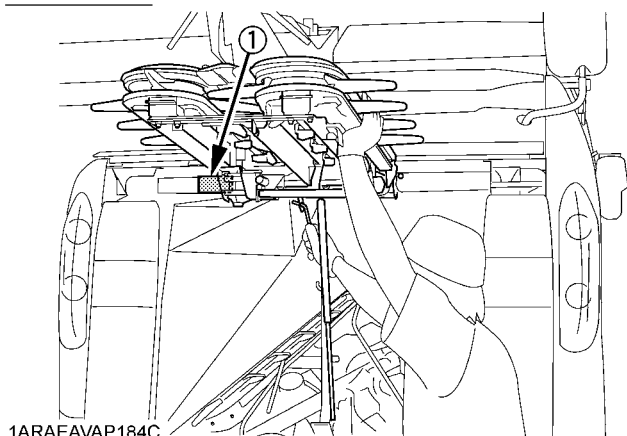
注意

1, 引起しオープン状態で、刈取部を回転させると非常に危険ですので、エンジンは絶対に始動しないこと。
2, 引起し装置が落下して身体がはさまれる恐れがあるので、ロック棒で必ず固定すること。

1ARAEASAP1820

［329・335］

1ARADBNAP277B

［329・335］

［438・447］

1ARAEAVAP184C

［438・447］

①品番　5H706-4328-1

▲ 注　意

作業前
1.安全に作業するために，取扱説明書を読んで，機械の使い方を覚えること。
2.エンジンを始動するときは，各クラッチを切り，主変速レバーを「停止」にすること。
3.屋内は排気ガスが溜まり易く，ガス中毒の危険があるので換気すること。
4.ケガをするおそれがあるので，掃除・点検・調整のときは，各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。

移動・作業中
1.発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは，周囲の安全を確かめ合図して，機械に人を近付けないこと。
2.転落・転倒事故の危険があるので，傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。
3.走行を停止するときは，主変速レバーを操作して「停止」の位置にすること。
※主変速レバーのノブを握ると「停止」の位置がわかりにくくなるので，ノブを握らないこと。
4.道路交通法規定により，トラック運搬時（特にキャビン付）は，地上高3.8 m以下で運行すること。
5.刈取作業時以外(あぜ乗越時，移動走行時，運搬時，格納時)は，「もみ」をすべて排出または降ろして，各作業クラッチを“切”にし，M仕様(車体水平制御)は，機体を一番下げた状態にすること。

積込 ・積降ろし
1.転倒・転落事故の危険があるので，車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。
1 積み込むときは前進で，降ろすときは後進にすること。
2 副変速を倒伏にし，エンジンの回転を落として(2000rpm 以上)，低速にすること。
3 あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは，いったん地上または荷台に戻って向きを正し，再度やり直すこと。
4 あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さで，すべり止めがあり，基準に合ったものを使用すること。

駐・停車
1.火災の危険があるので，機械を停止するときは，切りワラや雑草の上に止めないこと。
2.急発進・暴走の危険があるので，副変速レバーを切り換えるときは，平坦な場所で主変速レバーを「停止」の位置にし，駐車ブレーキペダルをいっぱい踏むこと。
3.機械から離れるときは，エンジンを止めて始動キーを抜き，駐車ブレーキを必ずロックすること。また，坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

1ARADBEAP345J

②品番　5H706-4324-1

▲ 注　意

エンジンを始動するときは，主変速レバーを「停止」にし，駐車ブレーキを「入」にし，各作業クラッチを「切」にすること。

1ARADBEAP346J

④品番　5H601-4354-1

▲ 注　意

坂道で副変速レバーを操作すると機械が、暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと

副変速レバー

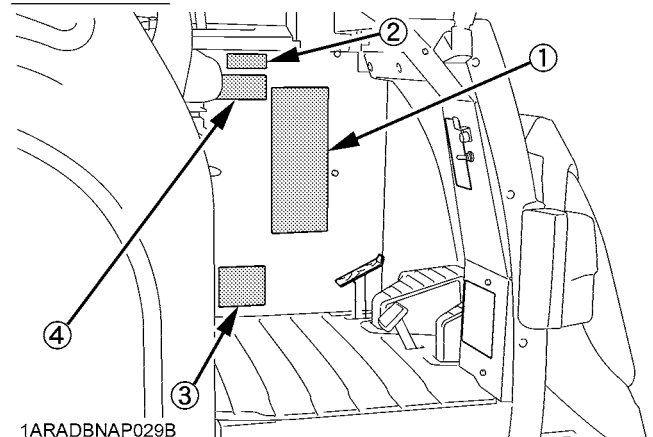
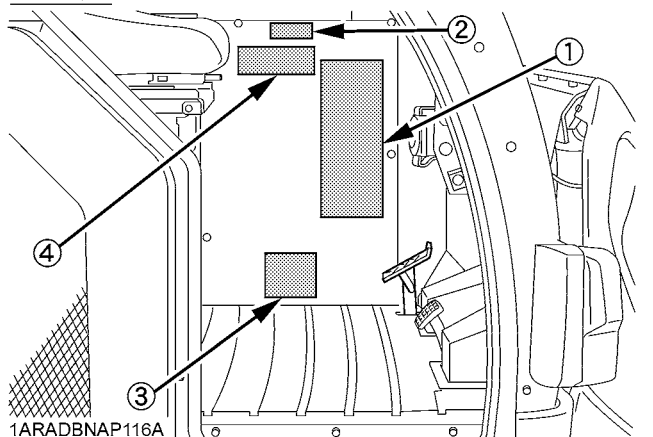
1ARADBEAP348J

[Q仕様除く]

1ARADBNAP029B

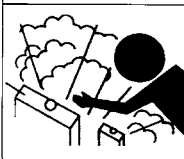
[Q仕様除く]

[Q仕様]

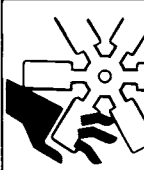
1ARADBNAP116A

[Q仕様]

③品番　5H700-4322-1

▲ 注　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1．駐車するときは、車止めをすること。
2．駐車ブレーキを解除するときは、副変速を「倒伏」又は「標準」にし、主変速を「停止」にすること。

駐車ブレーキの操作方法

駐車ブレーキペダル

①主変速レバーを「停止」位置にし停止を確認すること。
②駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込むと自動的にロックされます。
③ロックを解除する時は、もう一度ペダルを踏み込んで下さい。

1ARADBEAP347J

①品番　5H601-4343-1

注　意

オーバーヒートでエンジンルームを開けて点検、整備するときは、次の手順を守ること。
1．エンジンを止める。
2．必ず停止後30分以上経過してから
　　エンジンルームを開けること。
エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。

1ARADBEAP349J

②品番　5H601-4342-1

注　意

エンジンを回転したままエンジンルームを開けると、ファンやベルトでケガをするおそれがあるので、エンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

1ARADBEAP350J

③品番　52320-3159-1

マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

1ARADBEAP351J

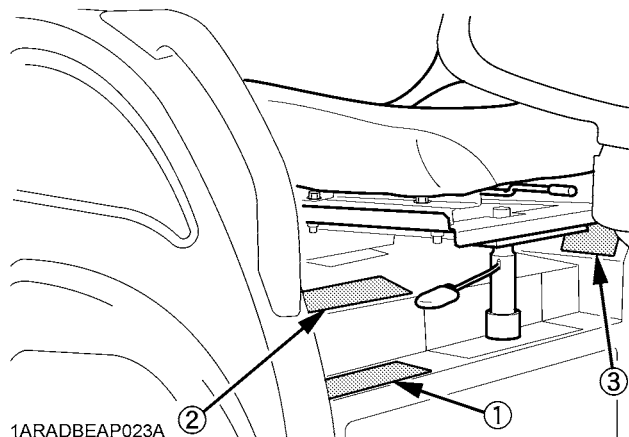
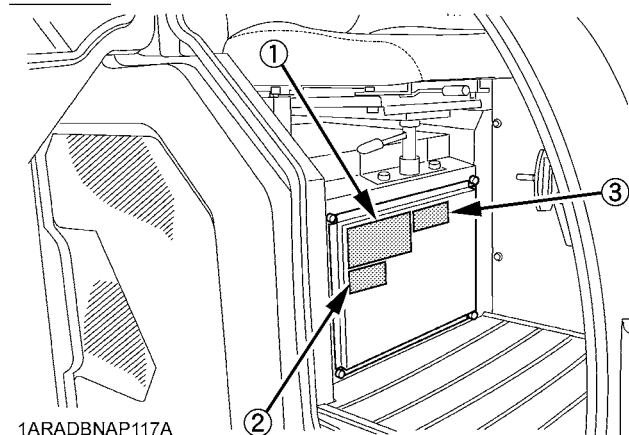
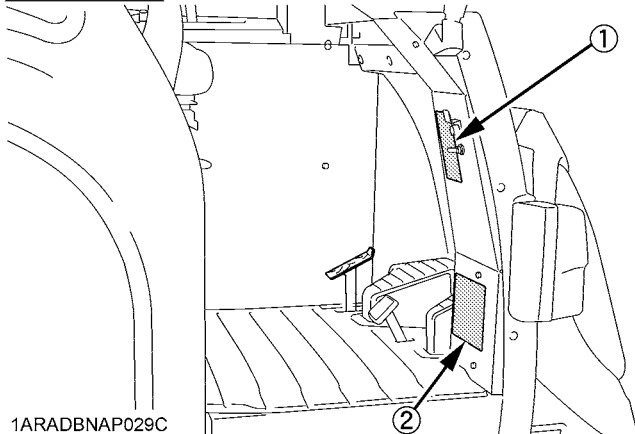
［Q仕様除く］

1ARADBEAP023A

［Q仕様除く］

［Q仕様］

1ARADBNAP117A

［Q仕様］

[Q仕様除く]

1ARADBNAP029C

[Q仕様除く]

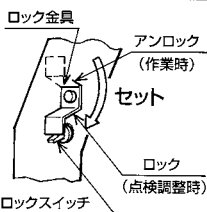
[Q仕様]

1ARADBNAP313A

[Q仕様]

①品番　5H730-4322-1
[Q仕様除く]
5H690-4322-1
[Q仕様]

注　意

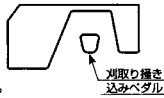
刈取部を上昇して、点検調整を行うときには、必ずロックスイッチを下げてロック金具をセットすること。

1ARADBEAP352J

②品番　5H730-4317-1 [Q仕様除く]

注　意

1. 刈取り掻き込みペダルを傾斜地や、あゆみ板の上で踏むと暴走する恐れがあるので踏まないこと。
2. 機体が動いている時は刈取り掻き込みペダルを踏んでも機体が止まらない場合があるので、主変速レバーが「停止」以外にあるときは、刈取り掻き込みペダルを踏まないこと。

刈取り掻き込みペダルの操作方法

①主変速レバーを「停止」位置にし機体の停止を確認して下さい。
②刈取り掻き込みペダルを踏みます。
③ペダルを踏んだまま、主変速レバーをゆっくりと前進方向へ動かして掻き込み作業を行います。
④掻き込み作業終了後は主変速レバーを「停止」にした後掻き込みペダルから足を離して下さい。
⑤上記手順を守らないと機械が故障する場合がありますので、必ず手順を守って下さい。

刈取り掻き込みペダル

1ARADBEAP607J

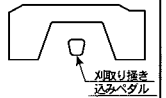
②品番　5H736-4317-2 [Q仕様]

注　意

1. 刈取り掻き込みペダルを傾斜地や、あゆみ板の上で踏むと暴走する恐れがあるので踏まないこと。
2. 機体が動いている時は刈取り掻き込みペダルを踏んでも機体が止まらない場合があるので、主変速レバーが「停止」以外にあるときは、刈取り掻き込みペダルを踏まないこと。

刈取り掻き込みペダルの操作方法

①主変速レバーを「停止」位置にし機体の停止を確認して下さい。
②刈取り掻き込みペダルを踏みます。
③ペダルを踏んだまま、主変速レバーをゆっくりと前進方向へ動かして掻き込み作業を行います。
④掻き込み作業終了後は主変速レバーを「停止」にした後掻き込みペダルから足を離して下さい。
⑤上記手順を守らないと機械が故障する場合がありますので、必ず手順を守って下さい。

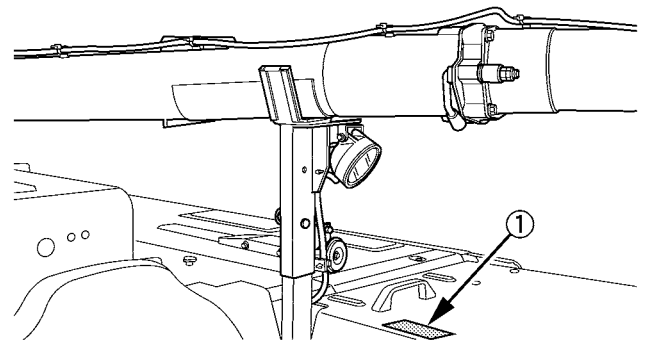
刈取り掻き込みペダル

1ARADBEAP617J

[SD仕様]

①品番　52000-7917-2

 注　意

トラックで輸送するときは、風圧でカバーが浮き破損・脱落し、ケガをさせるおそれがあるので、刈取部を下げて、ボウジンカバーを閉じ、ロープ等で浮き上がりを防ぐこと。

1ARADBEAP353J

1ARADBNAP053D

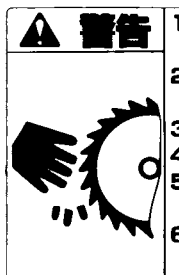
[SD仕様]

①品番　5K275-6433-1
②品番　5K275-6434-2

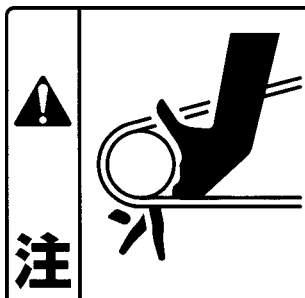
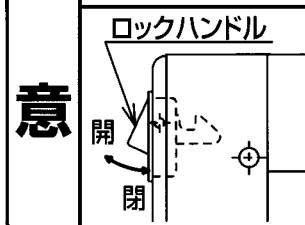
1ARADBLAP2740

③品番　5K275-6418-2

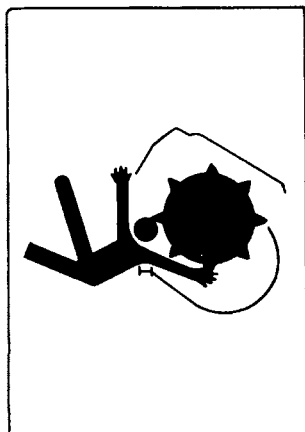
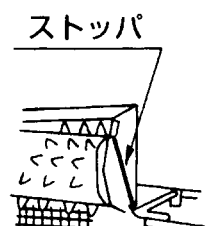
1ARADBLAP2750

④品番　5K275-6425-2

1ARADBLAP2760

①品番　5K200-6188-2

警告	
	1. カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないこと。 2. ワラ・雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

1ARADBEAP358J

②品番　5K190-6442-2

警告	
	1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので，手を絶対に入れないこと。 2. チェーン・ベルトに接触すると，手をケガするので，手を絶対に入れないこと。 3. カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。 4. カッタをオープンしたまま運転しないこと。 5. 点検・調整，ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。 6. 点検・調整などが終わったら，カバーを元通りに必ず取り付けること。

1ARADBEAP359J

③品番　5K275-6434-2

注意
1. 回転物に接触するとけがをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。
ロックハンドル
開
閉
1. カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

1ARADBLAP2740

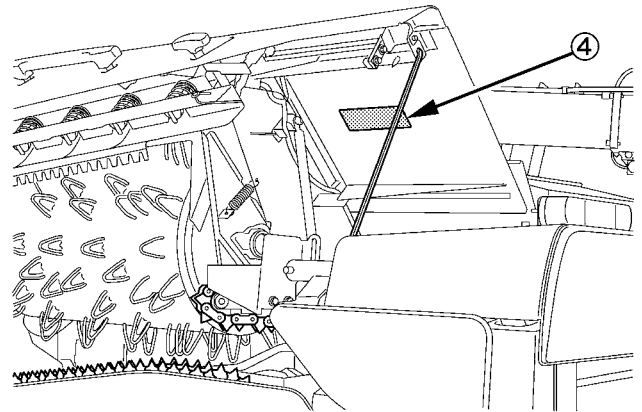
①
②
③

1ARADBNAP004M

1ARADBNAP224C

④品番　53981-6416-3

	警　　告	
	1. 扱胴オープンした状態で脱こく機を回転させせると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。 2. 扱胴をオープンして、受網の脱着や扱室の掃除をするときは扱胴が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定すること。 3. パワーアップ扱胴仕様には、ストッパの必要がない為、装備していません。	ストッパ

1ARADBEAP362J

①品番　5K200-6416-2

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

1ARADBEAP608J

②品番　5K200-6212-1

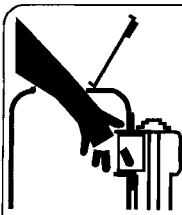
注　意

火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

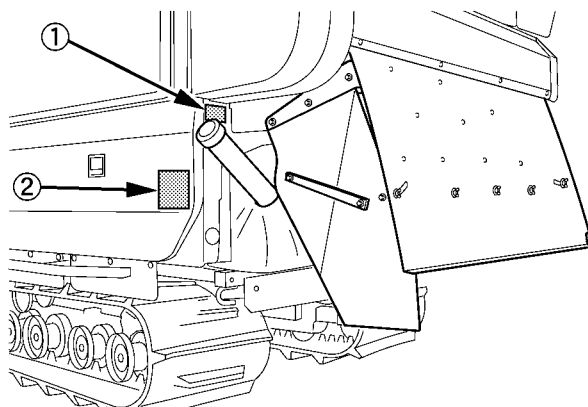
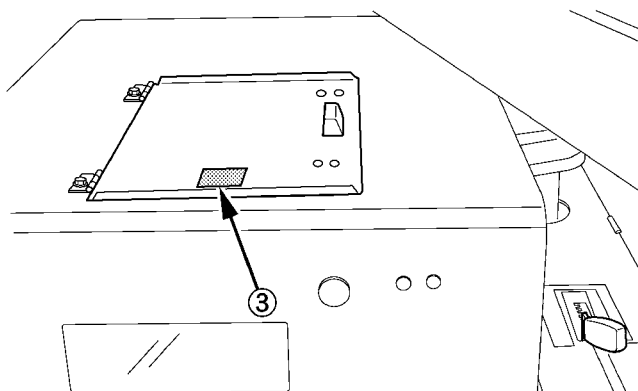
ディーゼル軽油

1ARADBEAP361J

③品番　5H250-5338-1

⚠ 警　告

1. タンクの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。
2. 手を入れるときは必ずエンジンを停止すること。

変形や落下のおそれがあるので、タンクの上に物を載せないこと。

1ARADBEAP363J

1ARADBNAP127A

1ARADBNAP111A　※イラストはSD仕様

①品番　5K190-6432-1

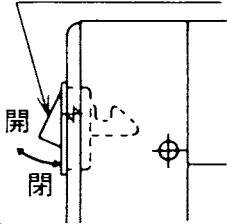
注　意

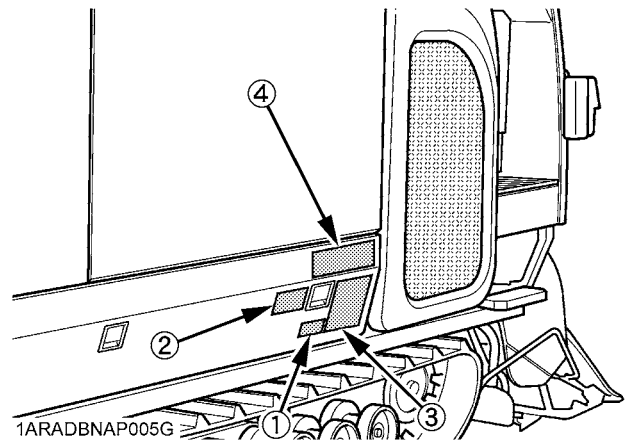
中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADBEAP341J

1ARADBNAP005G

②品番　5K190-6433-1

注意

1. このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2. ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

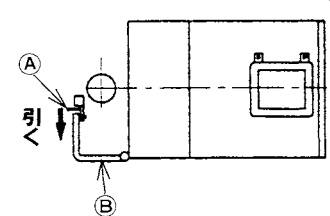
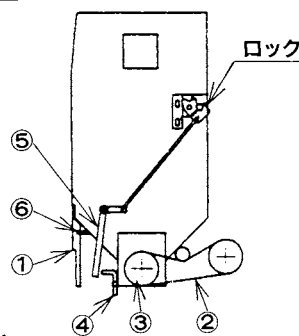
1ARADBEAP360J

③品番　5G061-8114-1

注　意

グレンタンクをオープンするときは、ベルトに手をはさまれたりタンクに身体がはさまれるおそれがあるので、平坦な場所で、内部の「もみ」を排出し、エンジンを停止してからオープンすること。

◆タンクオープンのしかた

1) タンク内を空にしてエンジンを停止してください。
2) カバー ① を外し、ベルト ② をプーリ ③ から外してタンク固定ピン ④ を抜いてください。
3) タンクオープンレバー ⑤ を持って手前に引きロックを解除し、さらに取っ手 ⑥ を持ってタンクを開いてください。
4) タンクを閉じる時は上記の逆の順番で確実にタンクを固定しベルトをかけてください。

◆タンクをオープンする時は、カッタを閉じてください。

◆カバー Ⓑ を開く時は、カバー Ⓐ の取っ手を引いてください。閉じるときはカバー Ⓑ を押し込んでください。

1ARADBEAP364J

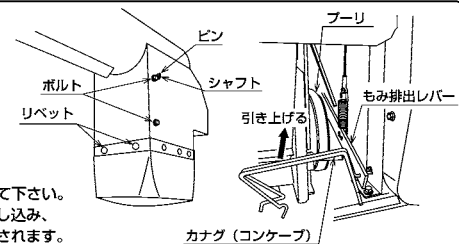
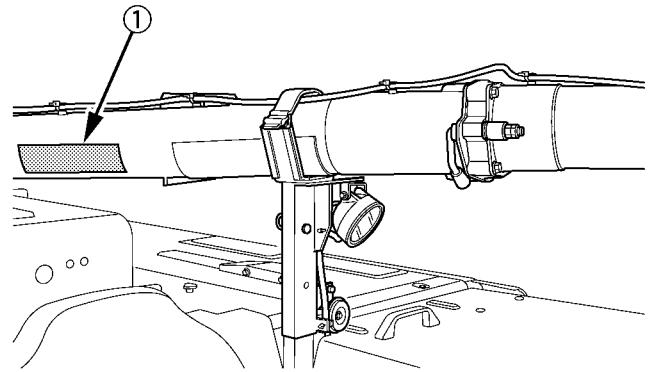
④品番　5G079-8114-2

警　告

もみ排出レバーを操作してもみを排出するときは、奥に回転物があり、けがをするおそれがあるため、プーリ周辺に手を近づけないこと。

◆ もみ排出レバーでのもみ排出のしかた

1) アンローダ先端のもみシャッタを外して下さい。
　◆もみシャッタの外し方
　①ブーツの後ろ側のリベットを2個外します。
　②ボルト4個とカプラを外し、モータユニットを外します。
　③ピンを外してシャフトを抜き、シャッタを外します。
　④外したリベットでブーツを元通りに固定します。

2) アンローダを排出位置にセットして下さい。
3) 主変速レバーを「停止」位置にし、駐車ブレーキペダルを踏んでロックして下さい。
4) タンク下カバーを外し、カナグ（コンケーブ）をもみ排出レバーの穴に差し込み、カナグ（コンケーブ）でもみ排出レバーを引き上げて下さい。もみが排出されます。

1ARADBNAP129A

1ARADBNAP054D

①品番　5G021-1713-2

注　意

手をはさみ、ケガをするおそれがあるので、「アンローダ受け」に手を置かないこと。

アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの作用範囲に人がいるときはアンローダを動かさないこと。

アンローダが自然に動きケガをするおそれがあるので、アンローダを伸ばしたり、折りたたんだりするときはアンローダを水平の状態にしエンジンを止めること。

あぜ越え・移動時およびトラックで輸送する場合、アンローダが人・物にぶつかる危険があるので下記を守ること。
1. 「アンローダ受け」を「下」位置にする。
2. アンローダを収納する。
3. アンローダを折りたたむ。
4. アンローダを浮き上がらないようにバンドで固定する。

「アンローダ受け」の取扱い

アンローダからの「もみ」こぼれをなくすために下記を守ってください。
1. 作業時は「アンローダ受け」を「上」位置にしてください。
2. 「もみ」の排出を途中で止めて、アンローダを「アンローダ受け」に戻さないでください。
3. アンローダを折りたたむときは、アンローダをいったん最上位まで上昇させた後、「アンローダ受け」に戻してから折りたたんでください。

「アンローダ受け」
「上」位置
「下」位置

1ARADBEAP365J

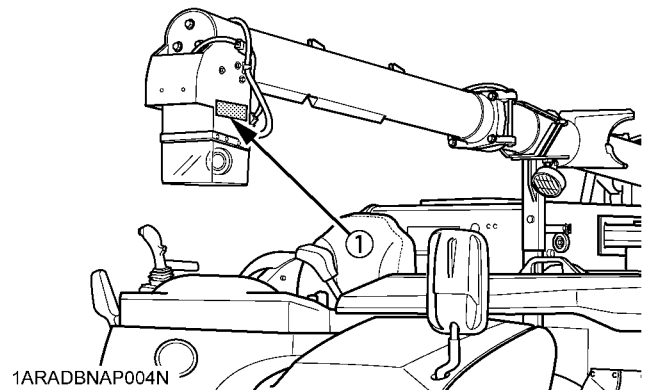
---

①品番　5G200-6425-1

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。

アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。

1ARADBEAP366J

1ARADBNAP004N

①品番　58071-8174-1

注意

掃除口

中に回転物があり
ケガをするので、
清掃時はエンジン
を必ず止めること
清掃後はフタを必
ず閉じること。

1ARADBEAP368J

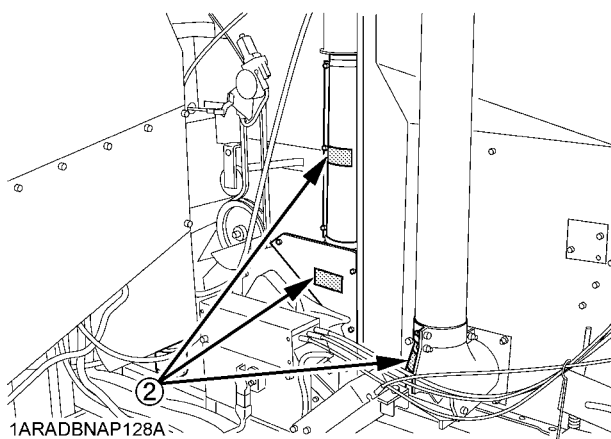
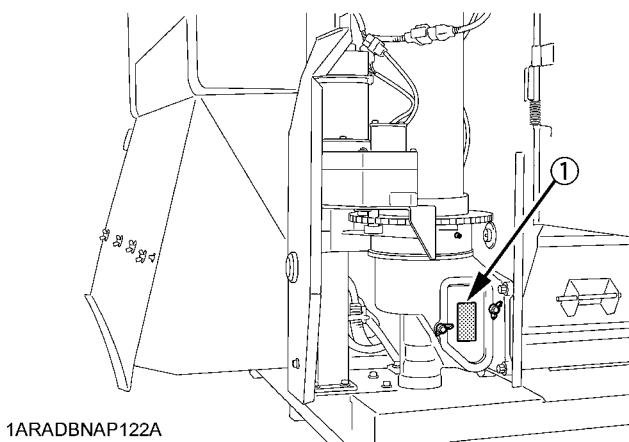
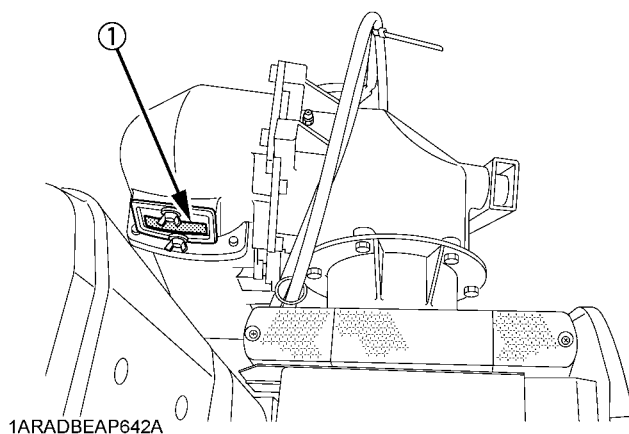
1ARADBEAP642A

1ARADBNAP122A

②品番　5K190-6461-1

注意

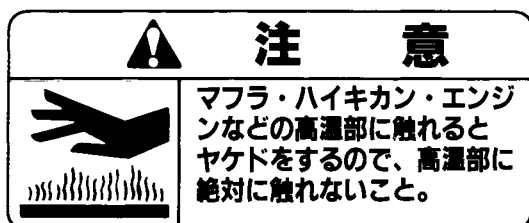
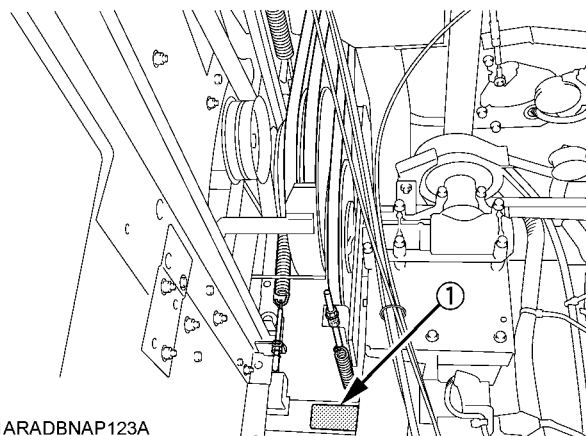
掃除口

中に回転物がありけがをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADBEAP369J

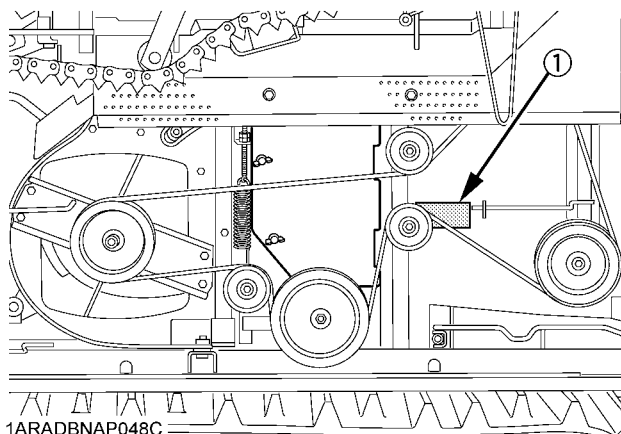
1ARADBNAP128A

①品番　52320-3159-1

 注　意

マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

1ARADBEAP351J

1ARADBNAP123A

①品番　5K190-6461-1

掃　除　口

注意

中に回転物がありけがをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADBEAP369J

②品番　58071-8175-2

掃　除　口

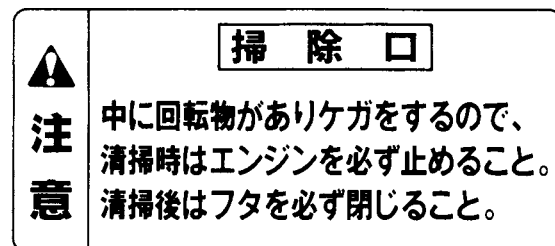
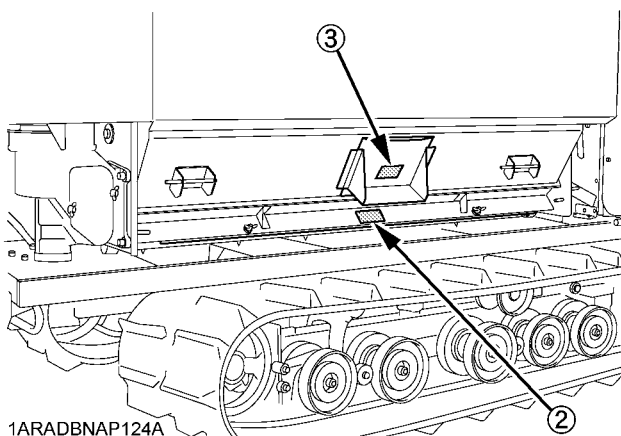
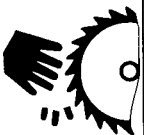
注意

中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。

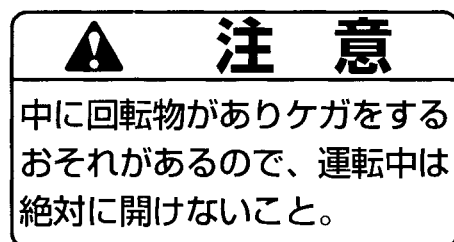
1ARADBEAP370J

③品番　5G046-3129-1

 注　意

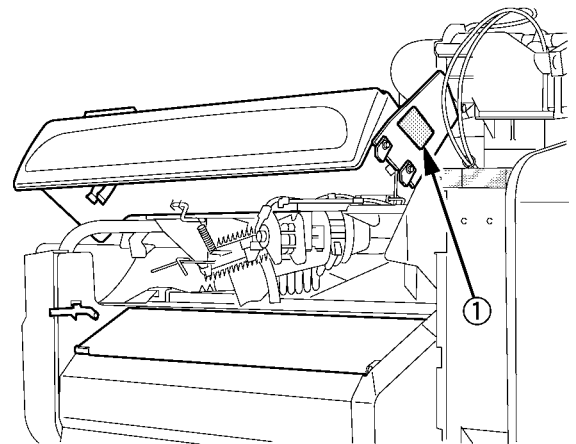
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に開けないこと。

1ARADBEAP367J

1ARADBNAP048C

1ARADBNAP124A

①品番　53981-6191-1

警告

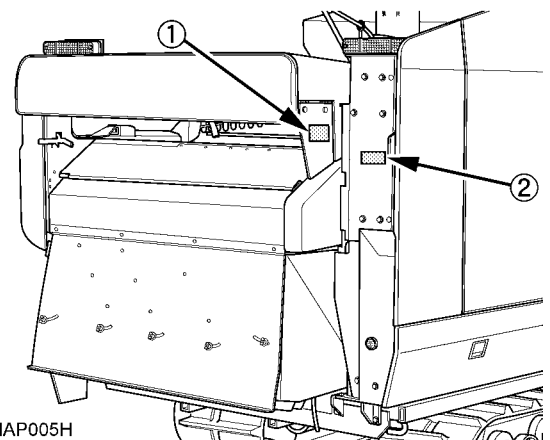
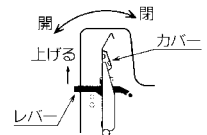
1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

1ARADBEAP371J

1ARADBEAP647A

②品番　5H700-4329-1

注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に開けないこと。

1ARADBEAP367J

1ARADBNAP005H

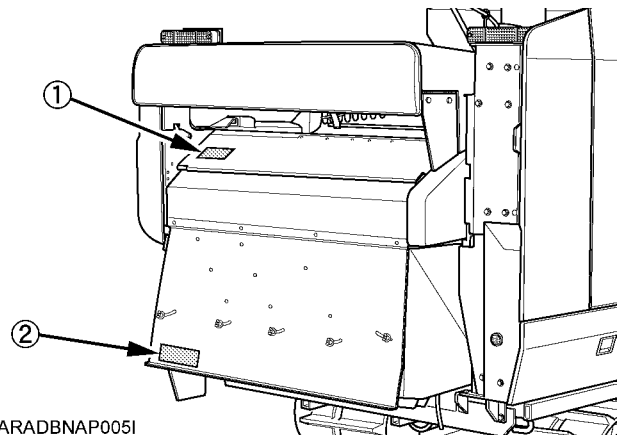
---

①品番　5F619-7113-1

警告

1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対にいれないこと
2. 点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること
3. 点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを元通りに必ず戻すこと

1. このカバーを開く場合、カバーを押さえながらレバーを持ち上げます
2. カバーを閉じる場合、カバーを押しこむとレバーで固定されます
3. カバーを開いた状態でエンジンをかけ、脱こくクラッチを入れると、エンジンが停止します

1ARADBIAP2640

②品番　57691-5315-1

警告

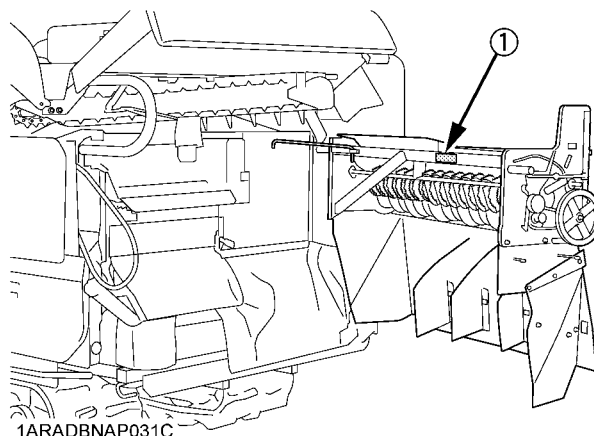
1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

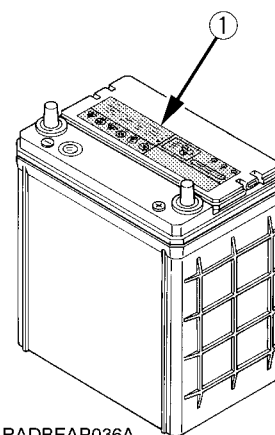
1ARADBEAP373J

1ARADBNAP005I

①品番　57745-5124-1

注意
1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。

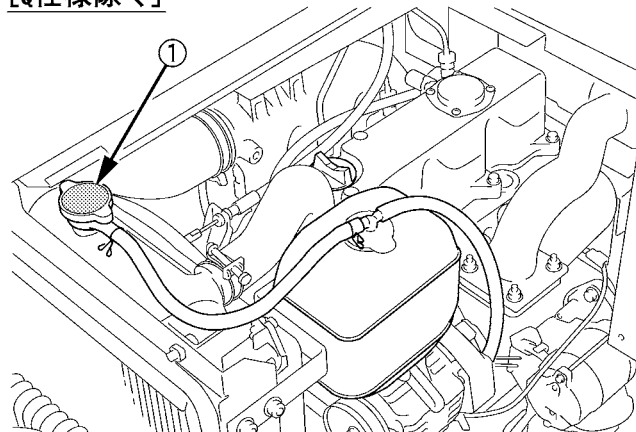
1ARADBEAP374J

1ARADBNAP031C

①品番　5H522-4112-1

1ARADBEAP375J

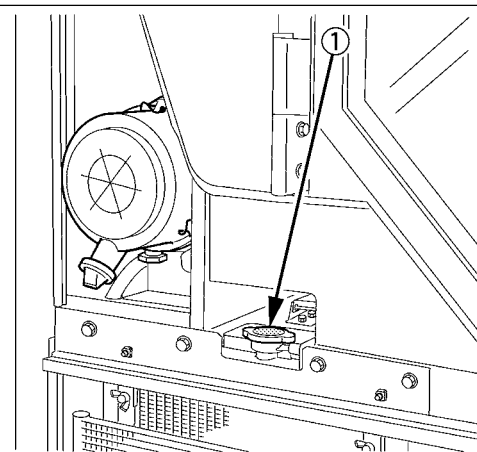
1ARADBEAP036A

①品番　16667-8724-1

1ARADBEAP376J

［Q仕様除く］

1ARADBNAP018B

［Q仕様除く］

［Q仕様］

1ARADBNAP125A

［Q仕様］

表示ラベルの手入れ

■表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- ⚠表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふく。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

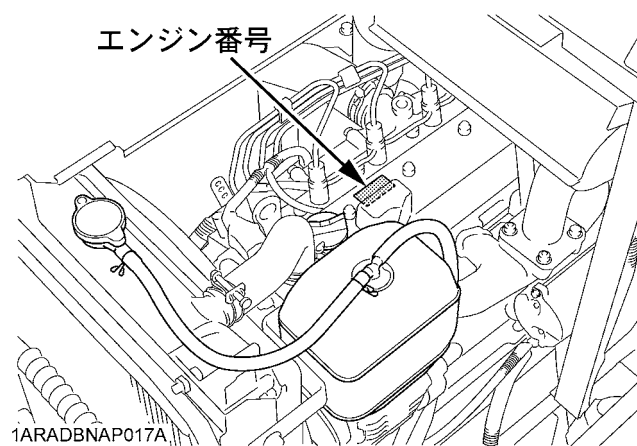
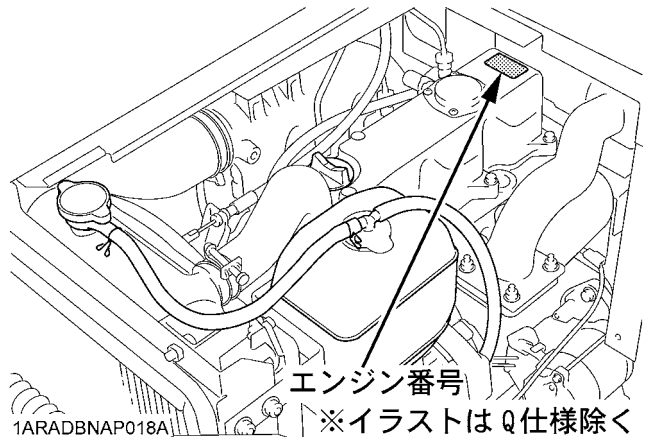
この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

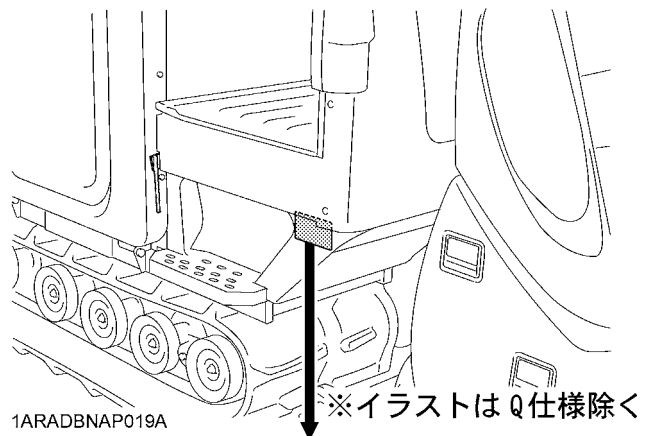
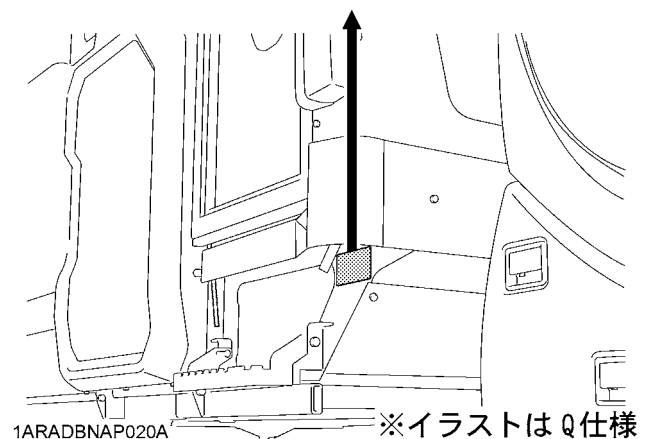
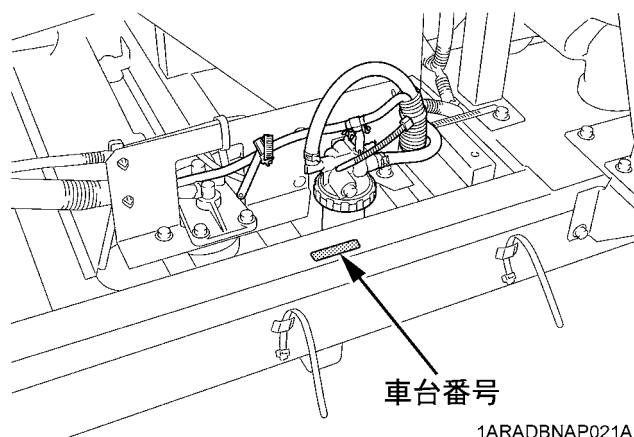
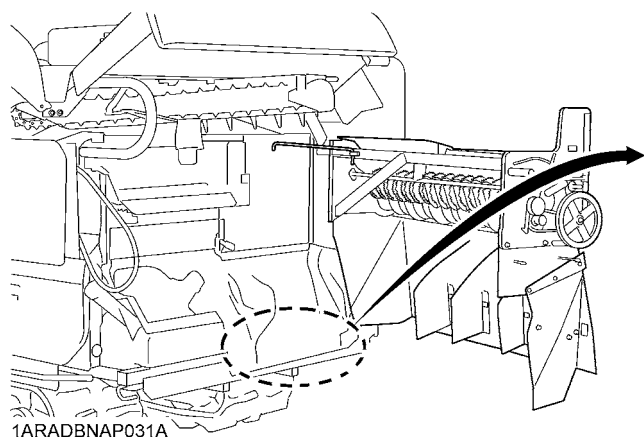
◆ **ご相談窓口**
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ **[ご相談窓口]** を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際，
1. 販売型式名（商品名）・区分と車台番号
2. エンジンの型式名（model）と番号（serial）
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

＊ **機械の改造は危険ですので，改造しないでください。**

重 要

＊ 機械を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

[329・335]

[329・335]

[438・447]

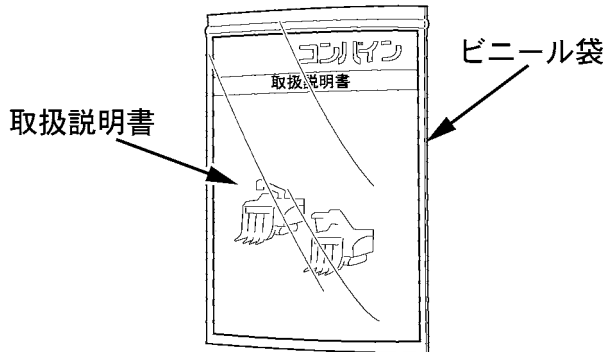
[438・447]

農業機械の種類	コンバイン（自脱型）
型　式　名	クボタ
販売型式名	
区　　分	
車両型式名	クボタ
車台（製造）番号	
製造会社	株式会社クボタ

◆ 認定番号
安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び認定番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

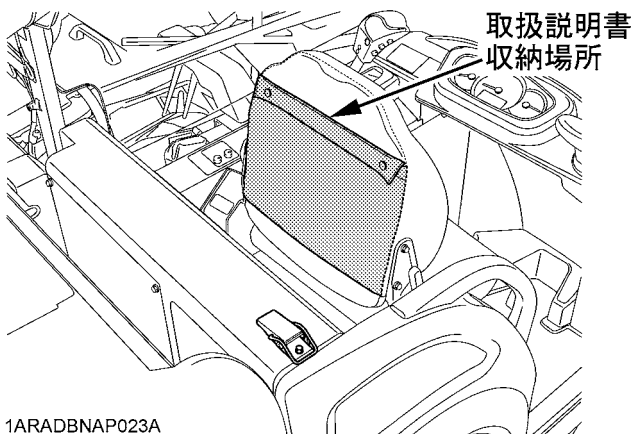
商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車	
			車両型式名	型式認定番号
ER329	クボタ R0904	34201	クボタ EDM-C326	農 3248
ER335	クボタ R0903	34200	クボタ EDM-C326	農 3248
ER438 [Q 仕様除く]	クボタ R0902	34199	クボタ EDM-C428	農 3250
ER438 [Q 仕様]	クボタ R0902	34199	クボタ EDM-C428	農 3250
ER447 [Q 仕様除く]	クボタ R0901	34198	クボタ EDM-C427	農 3249
ER447 [Q 仕様]	クボタ R0901	34198	クボタ EDM-C427	農 3249

補　足

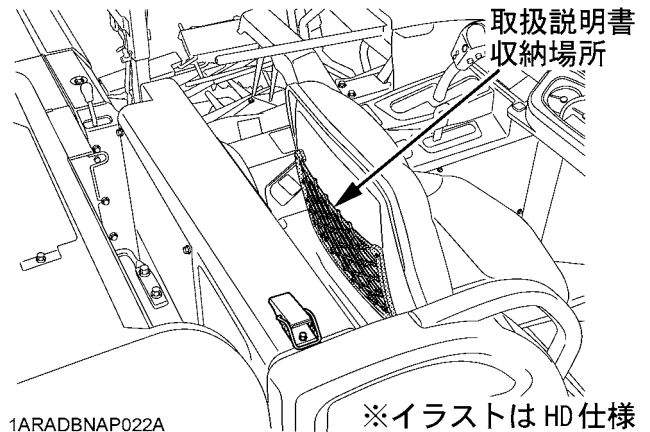
＊ 届出には型式認定番号が必要ですが，車台番号（打刻）で代用することができます。
＊ 詳しくは，購入先に連絡してください。

◆ 補修用部品の供給年限について
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

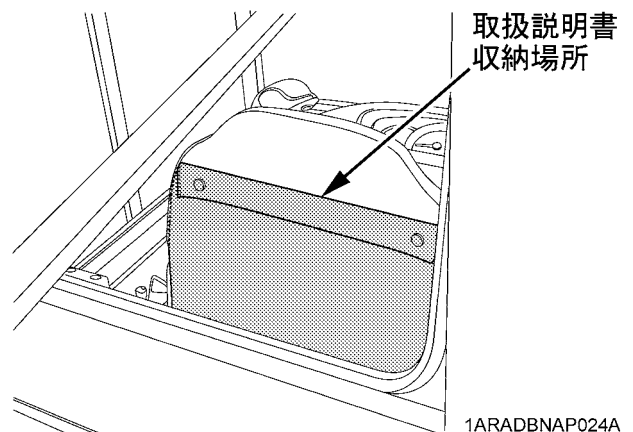
◆ **取扱説明書の収納場所について**
本冊子を付属部品のビニール袋にいれたあと，運転席（シート）裏側にある取扱説明書収納場所に本冊子を収納して，常時携帯してください。（出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。）

1ARADBEAP042A

［SD 仕様］

1ARADBNAP023A

［SD 仕様］

［DX・HD 仕様（Q 仕様除く）］

1ARADBNAP022A

［DX・HD 仕様（Q 仕様除く）］

［Q 仕様］

1ARADBNAP024A

［Q 仕様］

補　足

＊ 取扱説明書収納場所は，デバイダカバー収納後の組付け部品の保管場所としても使用してください。（100 ページ参照）

小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。

＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

補　足

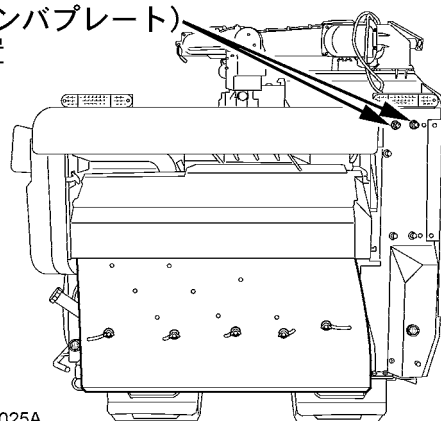
＊ 作業灯は**［道路運送車両法の保安基準］**第42条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

＊ このコンバインは，小型特殊自動車で道路運送車両法の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。

1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では，道路走行することはできません。
4. 結束機，ドロッパ，スイスイデバイダなどを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは，トラック輸送（96ページ参照）してください。（カッタは，装着したままで走行できます。）

◆ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバプレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，標識（ナンバプレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車取得の証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバプレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバプレート）を車体の取付け位置に取付けてください。

◆ 損害賠償保険について

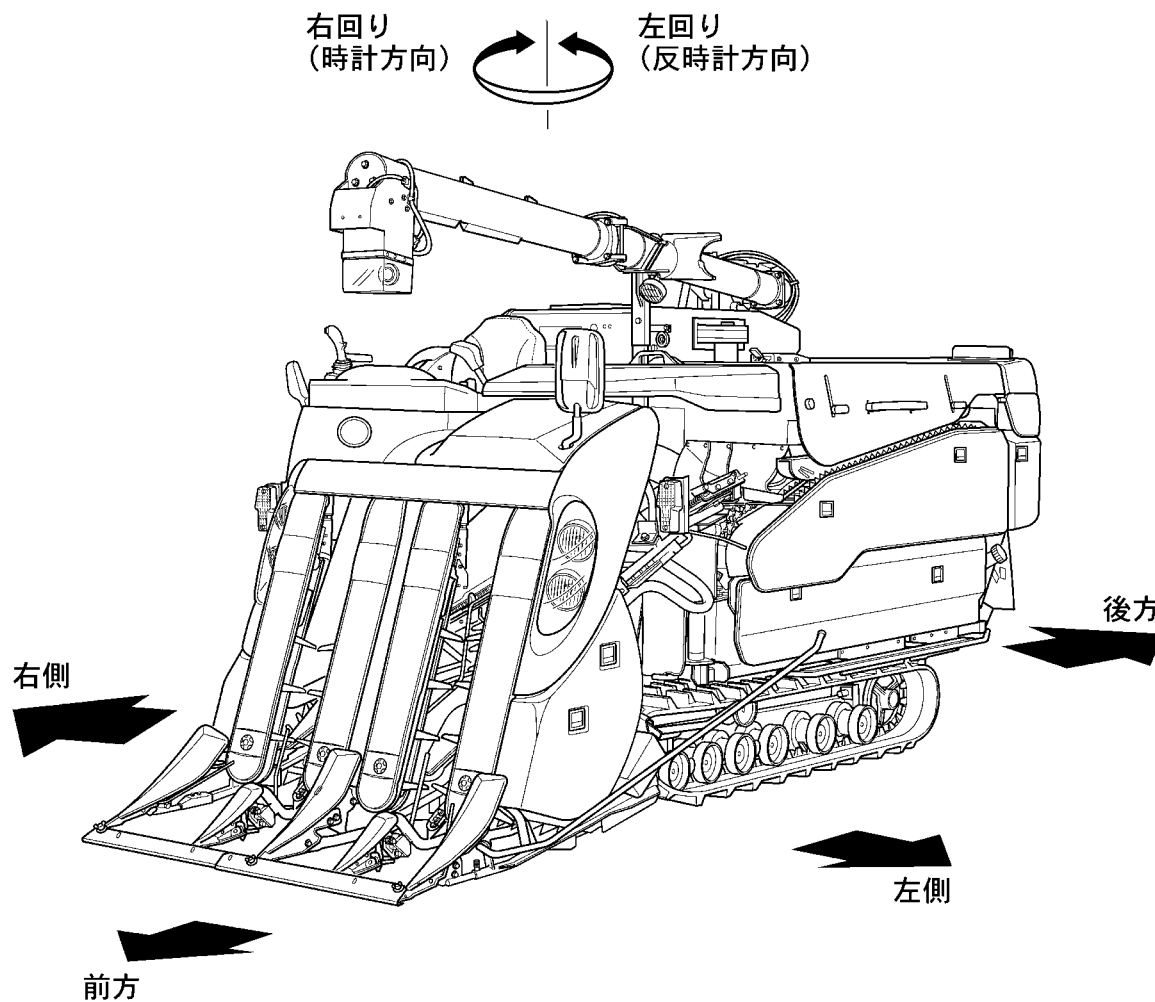
万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

◆ 運転免許証の携帯

公道走行時は，大型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

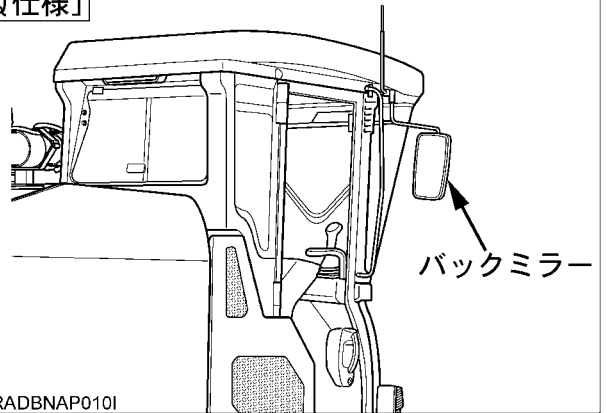
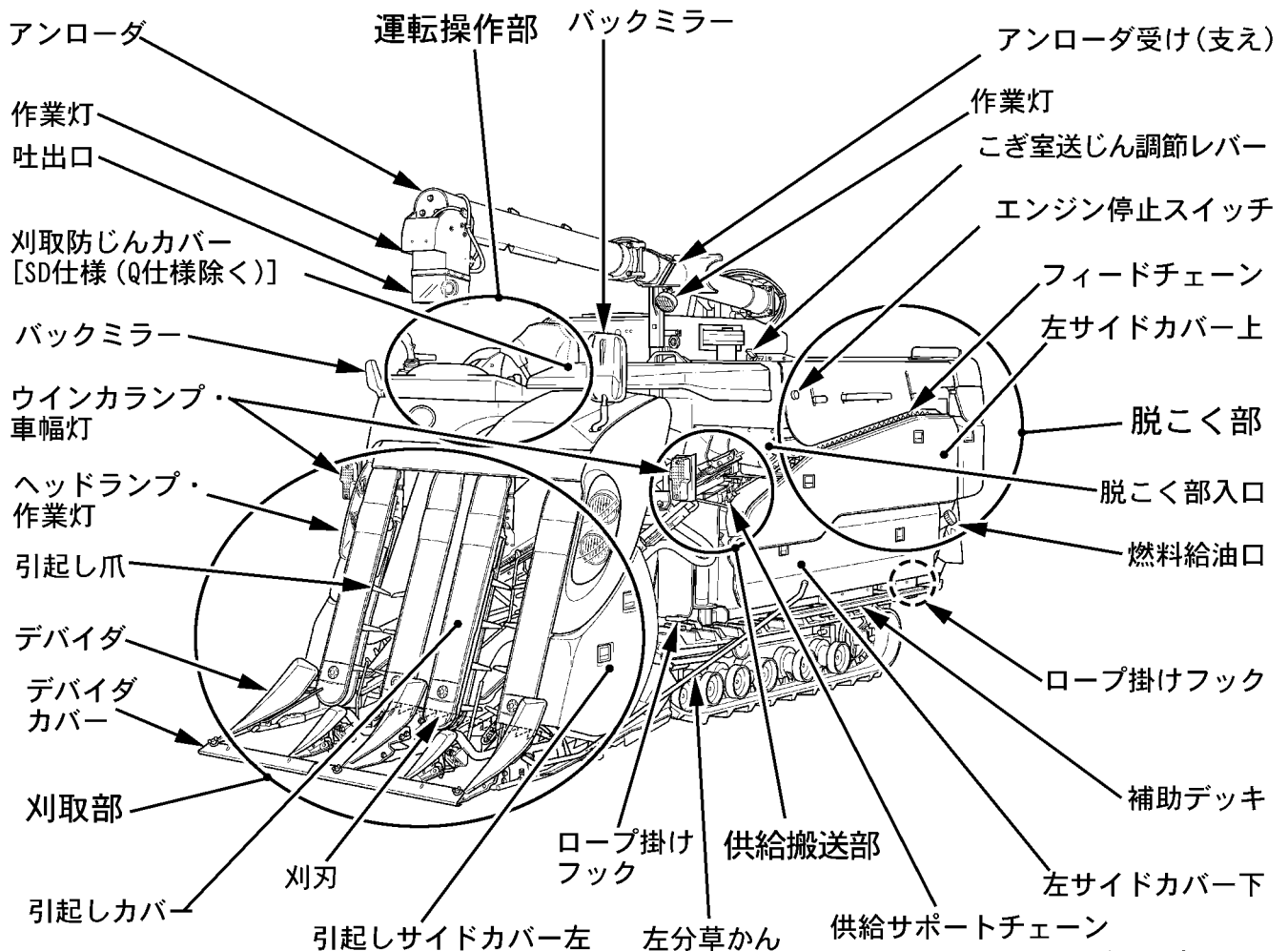
機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

※イラストは 447

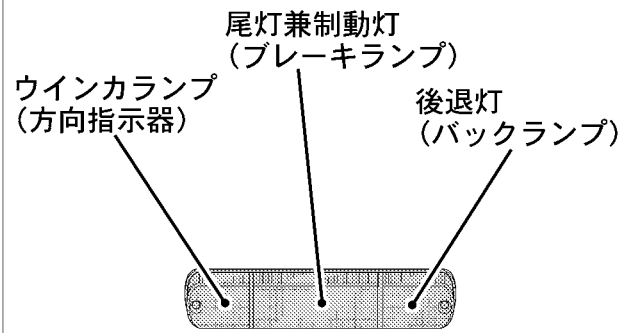
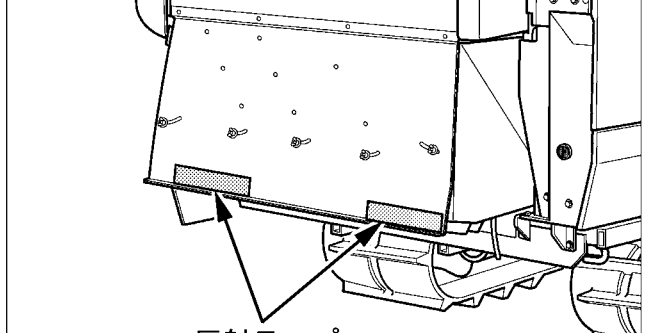
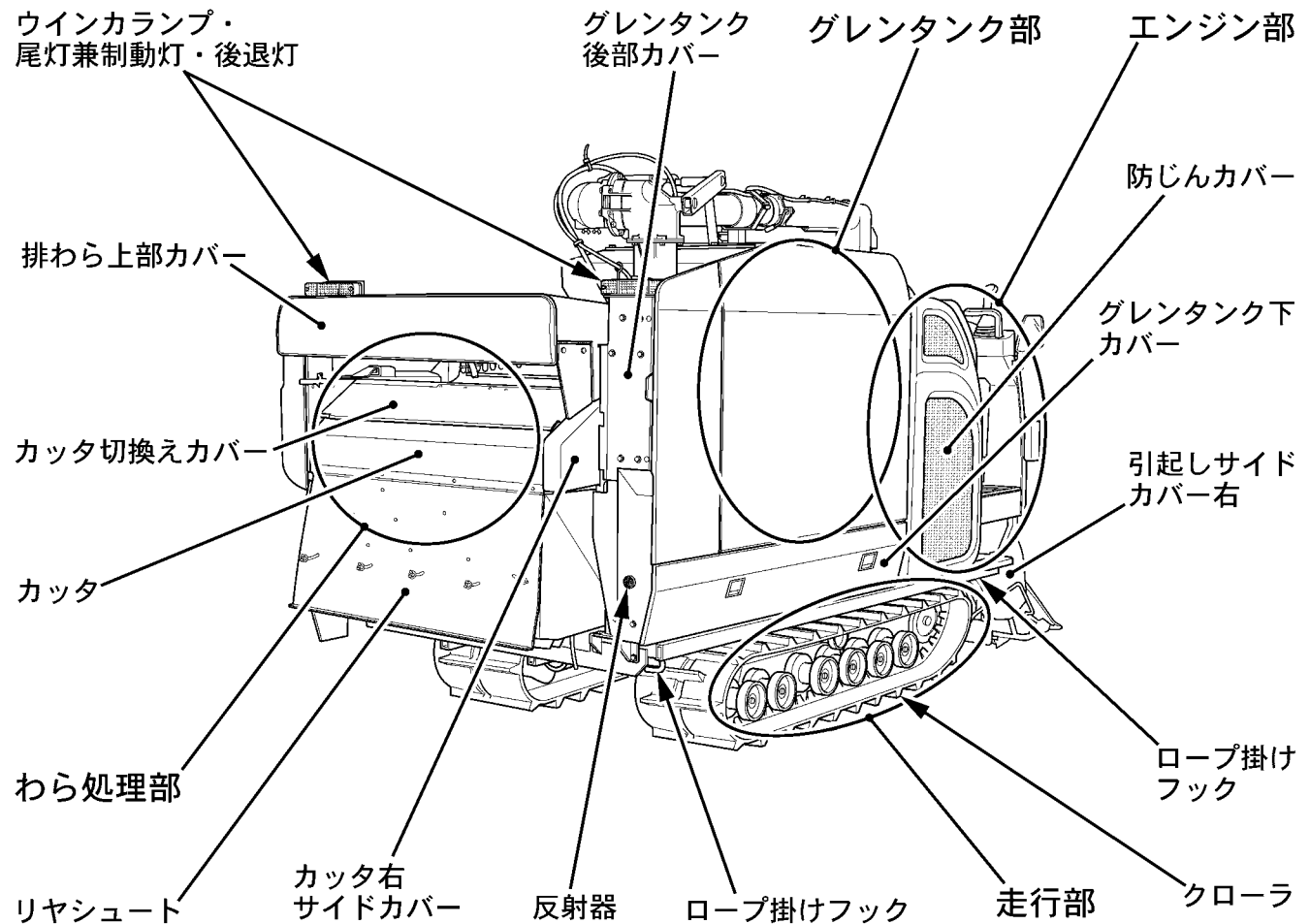
装置の名称とはたらき

［ウインカランプ·車幅灯］［前側］

［Q仕様］

アンローダ
運転操作部
バックミラー
アンローダ受け（支え）
作業灯
作業灯
吐出口
こぎ室送じん調節レバー
エンジン停止スイッチ
刈取防じんカバー
［SD仕様（Q仕様除く）］
フィードチェーン
左サイドカバー上
バックミラー
ウインカランプ・
車幅灯
脱こく部
脱こく部入口
ヘッドランプ・
作業灯
燃料給油口
引起し爪
デバイダ
ロープ掛けフック
デバイダ
カバー
刈取部
補助デッキ
ロープ掛け
フック
供給搬送部
刈刃
左サイドカバー下
引起しカバー
引起しサイドカバー左
左分草かん
供給サポートチェーン
※イラストは447
1ARADBNAP004J

- **運転操作部**……………………エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**…………………………作物の引起しと刈取を行なうところ
- **供給搬送部**……………………刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**………………………作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ**……………………グレンタンクからもみを排出する筒

［ウインカランプ･尾灯兼制動灯･後退灯］［後退］

Q仕様

ウインカランプ・
尾灯兼制動灯・後退灯
グレンタンク
後部カバー
グレンタンク部
エンジン部
防じんカバー
排わら上部カバー
グレンタンク下
カバー
カッタ切換えカバー
引起しサイド
カバー右
カッタ
ロープ掛け
フック
わら処理部
リヤシュート
カッタ右
サイドカバー
反射器
ロープ掛けフック
走行部
クローラ
1ARADBNAP005F
※イラストは447

- **エンジン部**…………運転席下部にある動力装置
- **走行部**………………クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ
- **わら処理部**…………わらの切断やばら落しなどわらの処理を行なうところ

[DX 仕様]

駐車ブレーキペダル
（駐車ブレーキ）
ファインビューメータ
メインスイッチ
マルチワンレバー
主変速レバー
ハンドル
コンビネーション
スイッチ
副変速レバー
刈取りかき込み
ペダル
旋回モード
切換えダイヤル
脱こくクラッチレバー
刈取クラッチレバー
運転席（シート）
1ARADBNAP011A

[HD・SD 仕様]

[HD・SD 仕様]

[DX 仕様]

[DX・HD 仕様]

[DX・HD 仕様]

[DX 仕様]

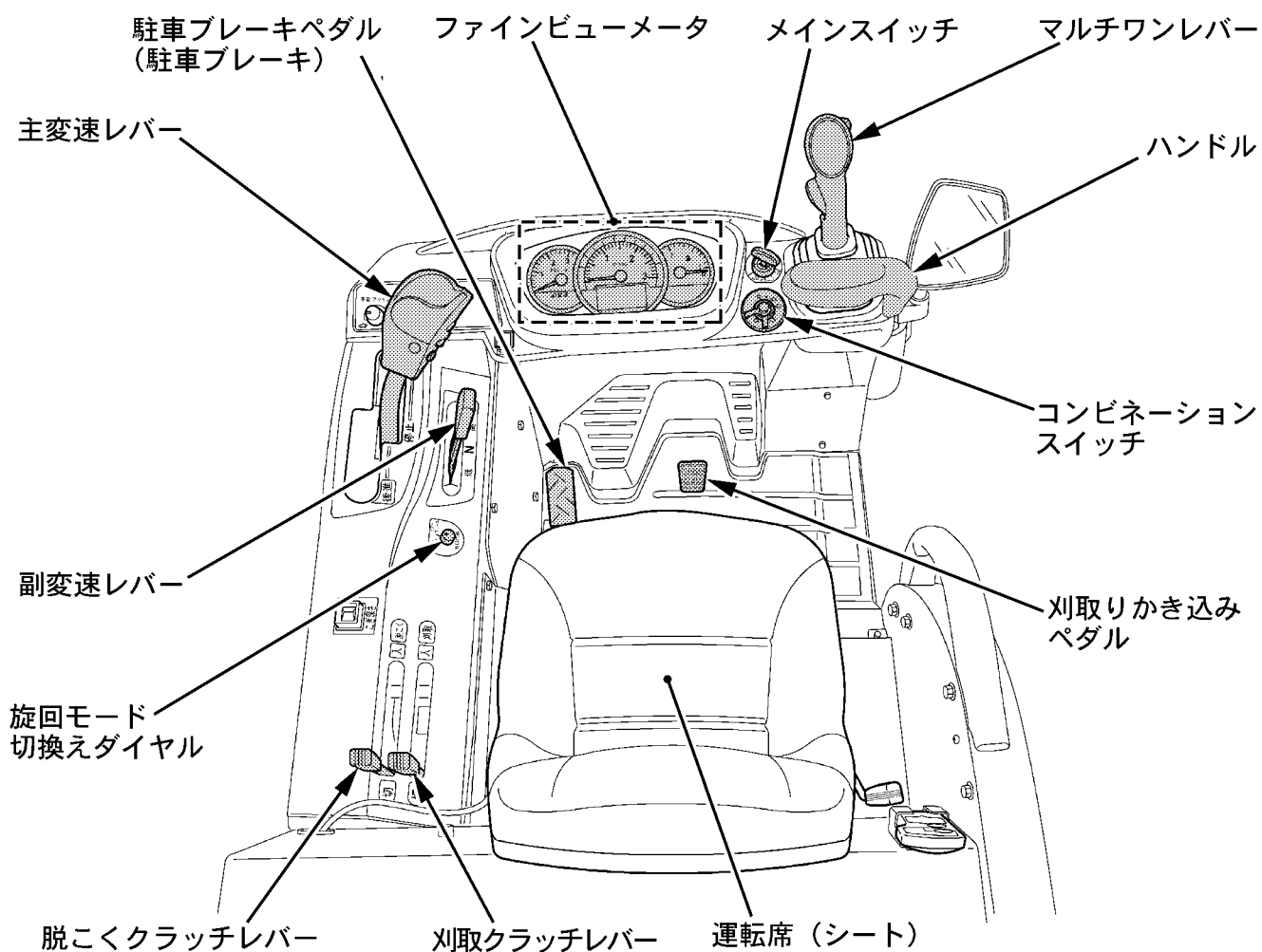
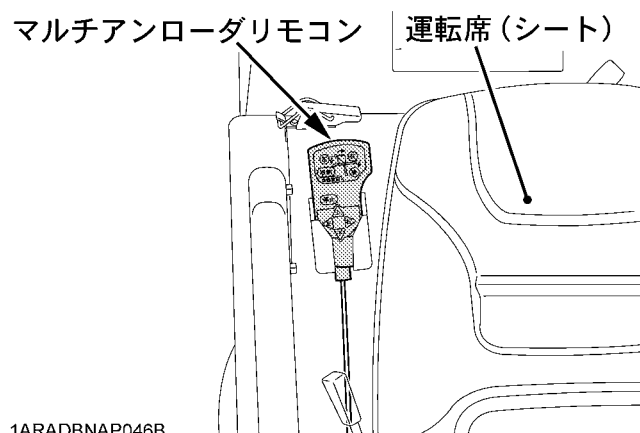
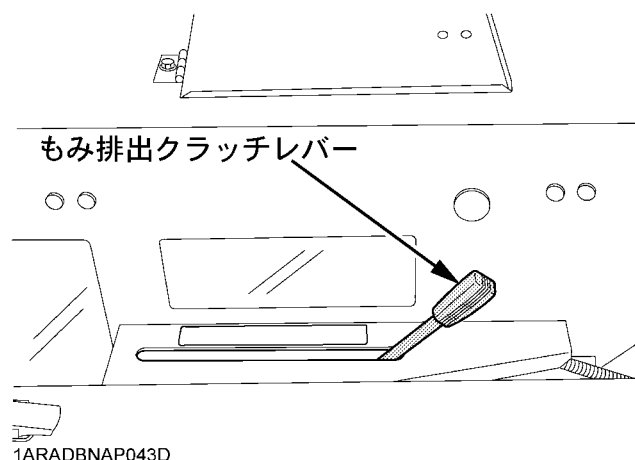
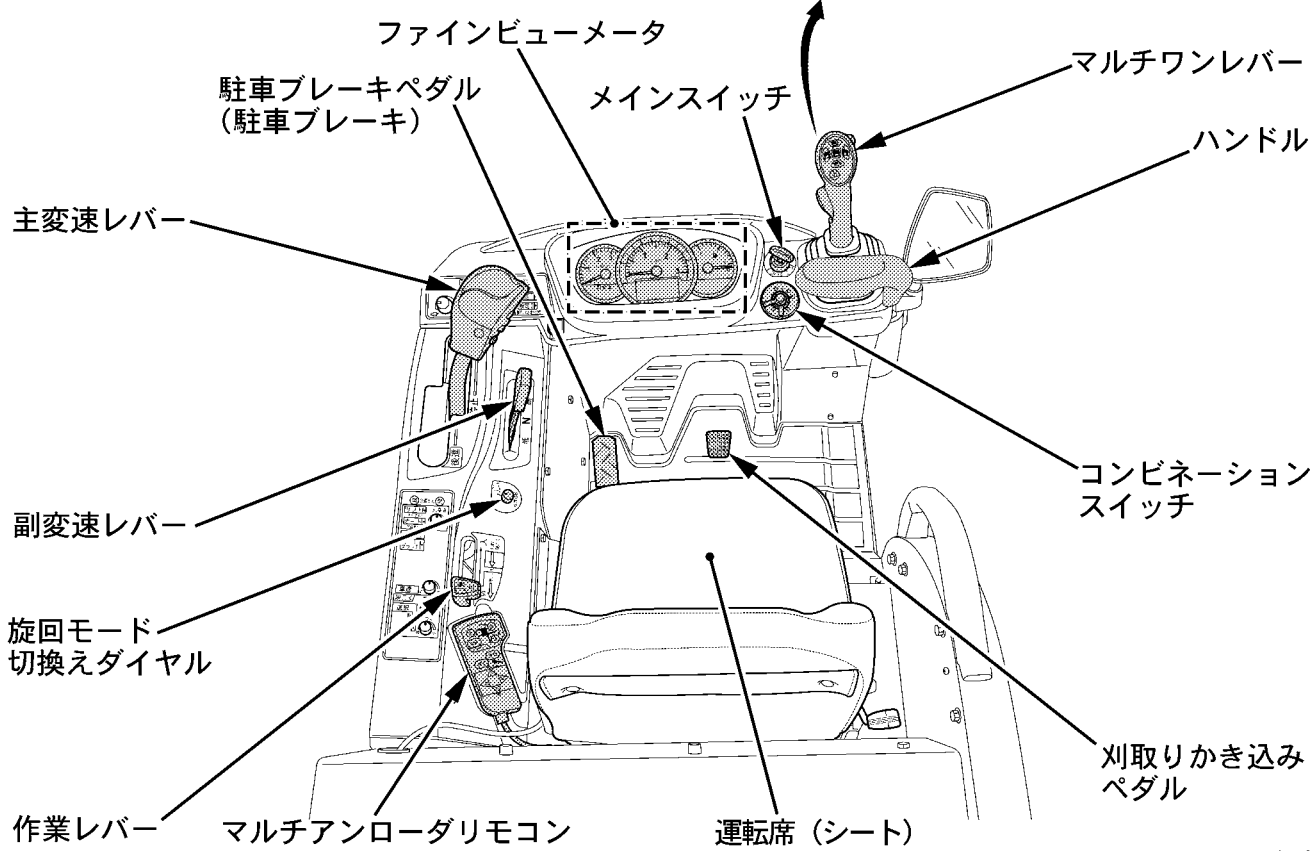
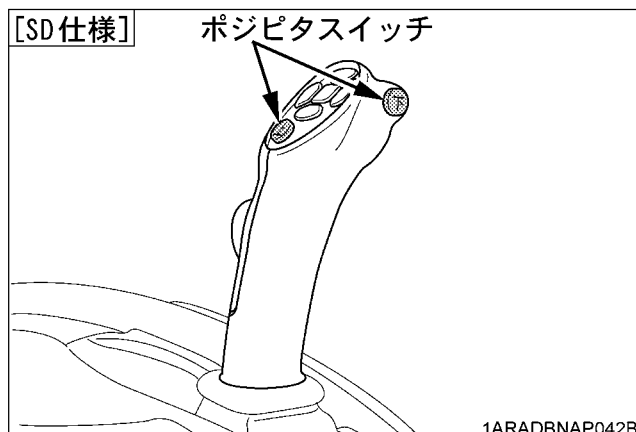
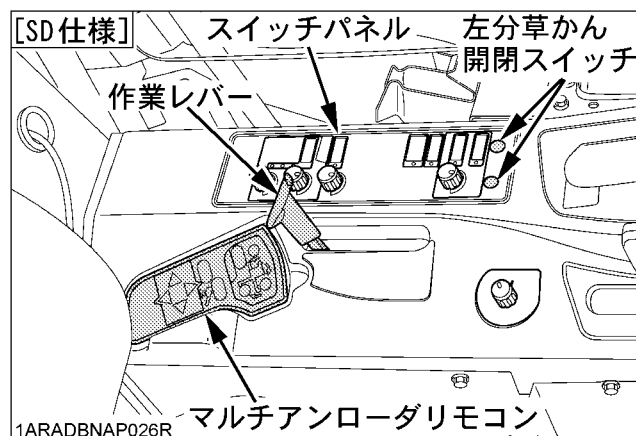
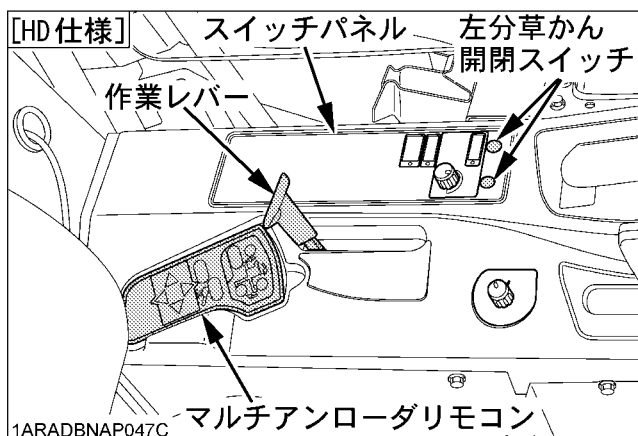
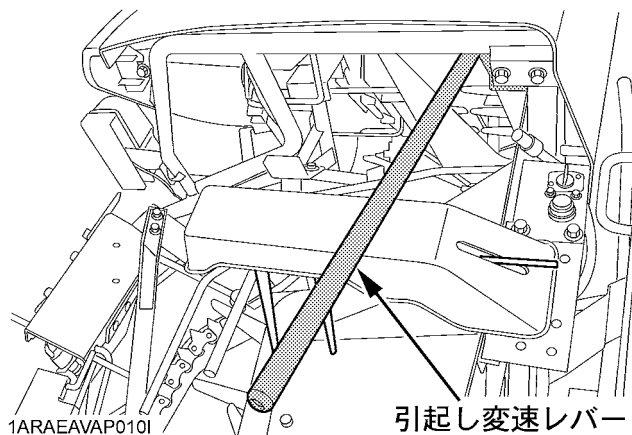
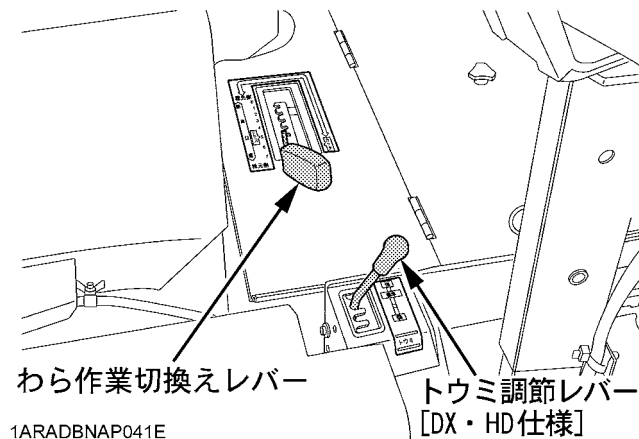
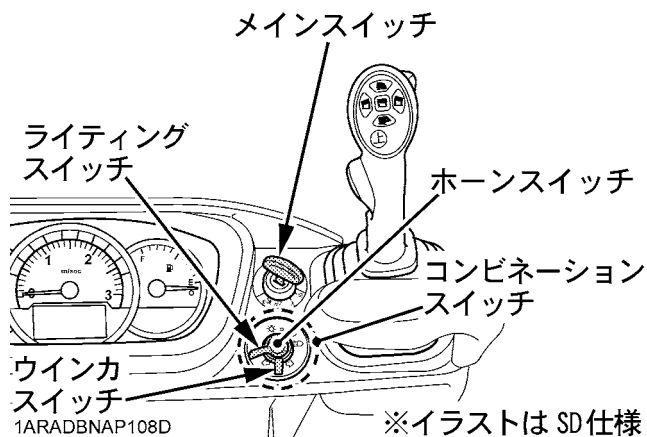
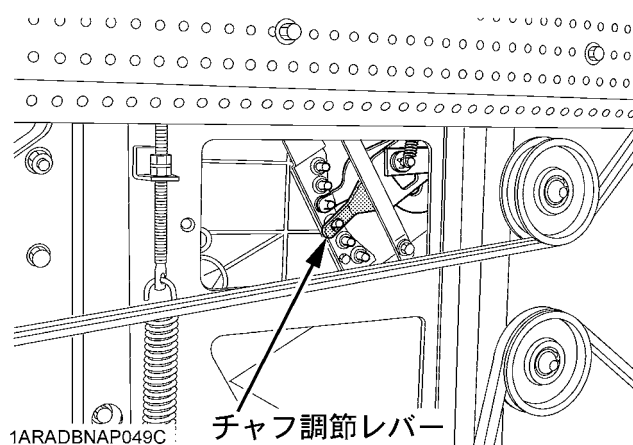
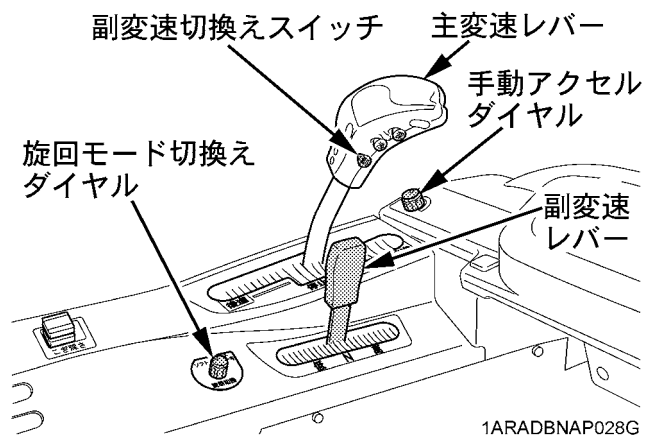
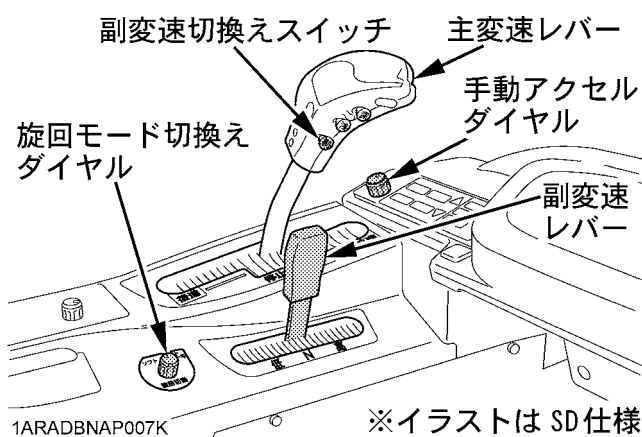
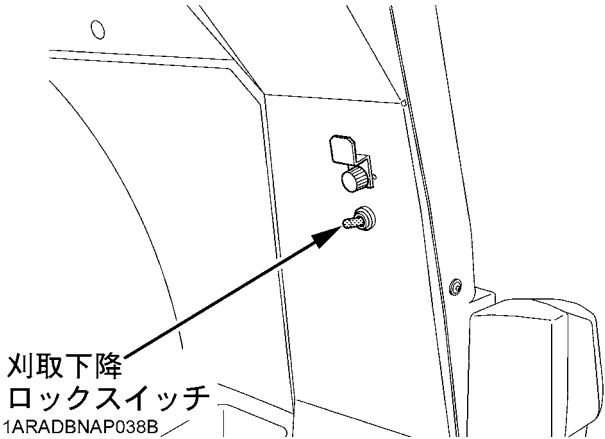
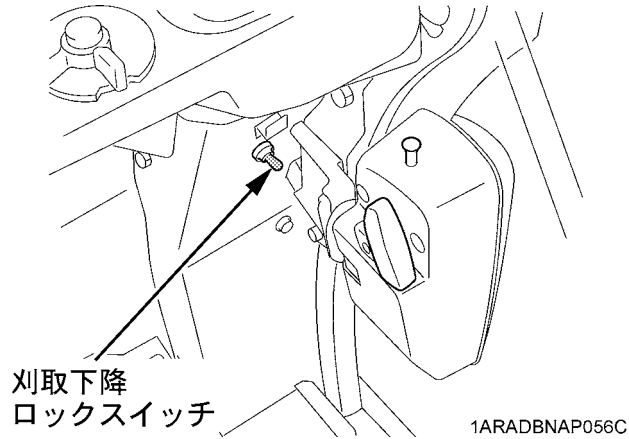
[HD・SD 仕様]

[HD・SD 仕様]

[Q 仕様除く]

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

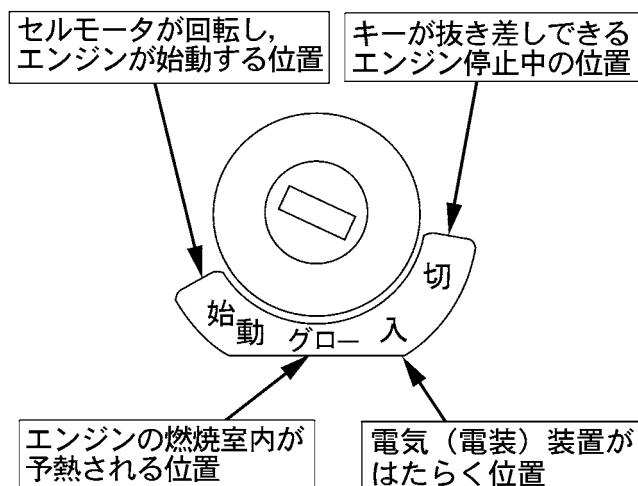
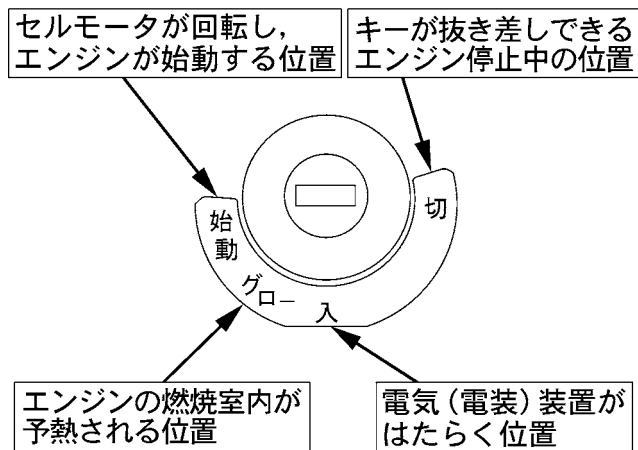
[Q 仕様]

◆ エンジン操作関係

■メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。

［Q 仕様除く］

［Q 仕様除く］

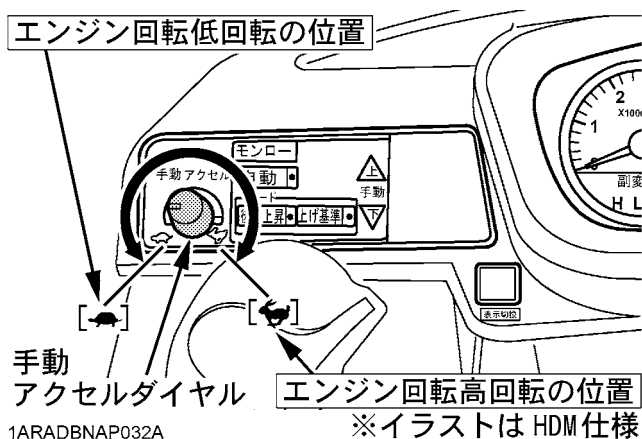
［Q 仕様］

［Q 仕様］

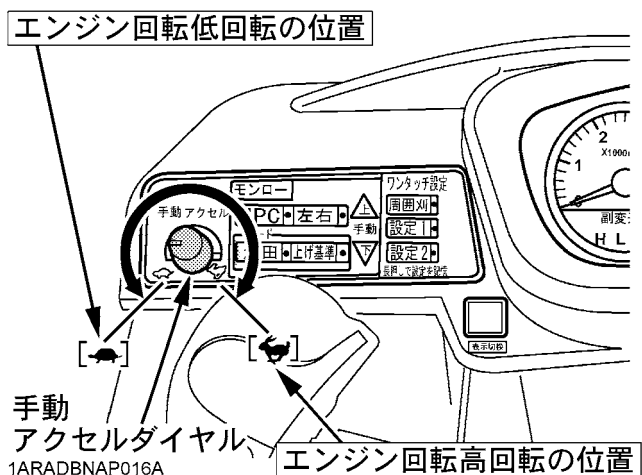
補　足

＊ エンジン始動後，メインスイッチのキーから手を離すとキーは，［**入**］の位置に戻ります。

■手動アクセルダイヤル

エンジン回転をコントロールするダイヤルです。ダイヤルを右に回すと回転数が上がります。

［DX・HD 仕様］

［DX・HD 仕様］

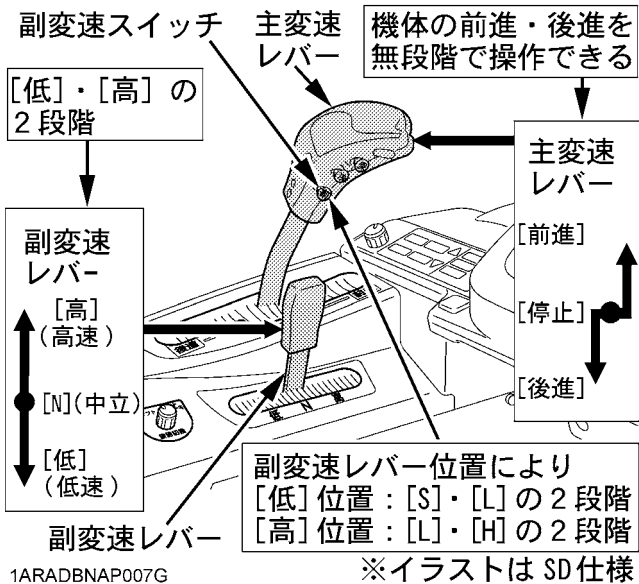
［SD 仕様］

［SD 仕様］

補　足

＊ エンジン回転計は，26 ページを参照してください。

◆ 走行操作関係

■主変速レバー，副変速レバー，副変速切換えスイッチ

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバー・スイッチです。

1ARADBNAP007G　※イラストはSD仕様

1ARADBNAP016V　※イラストはSD仕様

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

補　足

＊ 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**[停止]** 位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。
＊ 後進するときは，主変速レバーを **[後進]** 側に引いてください。**[後進]** 位置にするとバックブザーが鳴り，後退灯（バックランプ）が点灯します。
＊ 副変速切換えスイッチと副変速レバー操作の組合わせにより，速度が **[S]（倒伏位置）⟷[L]（作業位置）⟷[H]（走行位置）** の３段階に切換わります。
＊ 副変速切換えスイッチと副変速レバーを操作することにより，エンジン回転計の下側にある **副変速** の表示部に下記のように表示します。

副変速	切換えスイッチ操作	
[低]（低速）	[S]（倒伏） ⟷	[L]（作業）
↕ レバー操作	↕	↕
[高]（高速）	[L]（作業） ⟷	[H]（走行）

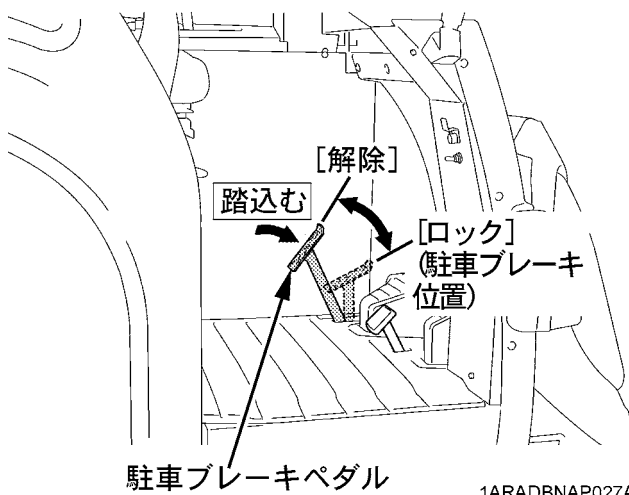
＊ 副変速切換えスイッチを押すと，**副変速** の表示部の表示により，液晶ディスプレイに下記のように表示します。

副変速表示部	液晶ディスプレイ表示
[S]（倒伏位置）	**[副変速 S 倒伏]**
[L]（作業位置）	**[副変速 L 作業]**
[H]（走行位置）	**[副変速 H 走行]**

＊ メインスイッチのキーを **[入]** 位置にした直後の副変速切換えスイッチは **[L]（作業位置）** です。
＊ 副変速切換えスイッチが **[H]（走行位置）** の状態で刈取作業を開始すると，**[L]（作業位置）** へ自動的に切換わります。
＊ 刈取作業中は，副変速切換えスイッチを押しても **[H]（走行位置）** には切換わりません。
＊ 主変速レバーが **[中立]** 位置以外の位置でエンジンを始動しようとすると，液晶ディスプレイに **[主変速を中立にする]** と表示します。

* 刈取作業は **[L]（作業位置）** 又は，**[S]（倒伏位置）**，傾斜地（あぜ越えやあゆみ板）で移動を行なうときは **[S]（倒伏位置）**，通常の移動走行を行なうときは **[H]（走行位置）** で使用してください。
* 副変速切換えスイッチを **[H]（走行位置）** に切換えると，旋回モード切換えダイヤルで選択している位置に関係なく旋回力が **ソフトターン** に固定されます。

■駐車ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

駐車ブレーキペダルを踏込むと駐車ブレーキペダルはロック位置で固定され駐車ブレーキが掛かります。駐車ブレーキを解除するときは，駐車ブレーキペダルを強く踏込んでロックを解除してください。

重　要

* 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

補　足

* 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**[停止]** 位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。
* 移動（路上を含む）走行時は，駐車ブレーキペダルを **[解除]** 位置にしてください。
* 駐車ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは始動しません。また，駐車ブレーキペダルを踏込まずにエンジンを始動しようとすると，液晶ディスプレイに **[駐車ブレーキを踏む]** と表示します。

■マルチワンレバー

マルチワンレバーは，機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

[左]⟷[右] …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。

[下げ]
↕
[上げ] …… レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。

…… レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に，刈取部が上下に動きます。

[M 仕様除く]

1ARADBNAP033A

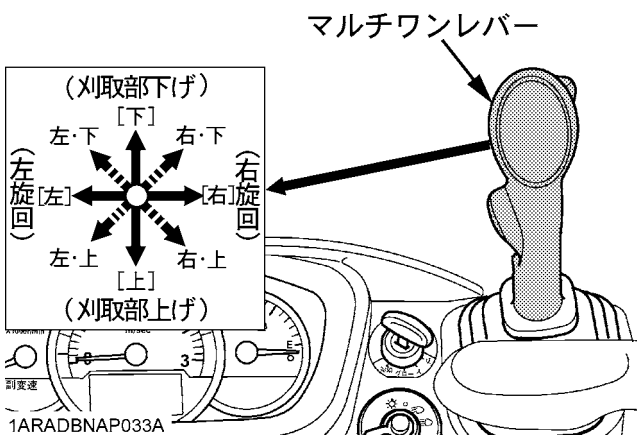
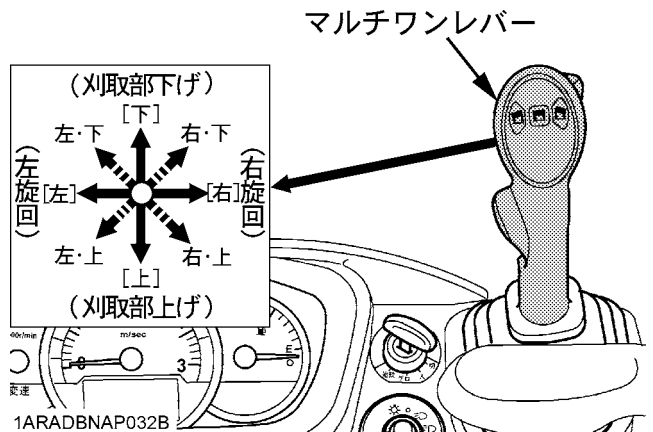
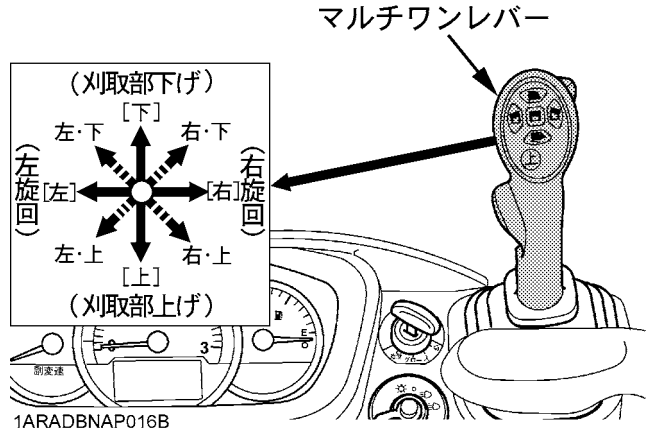
[M 仕様除く]

[HDM 仕様]

1ARADBNAP032B

[HDM 仕様]

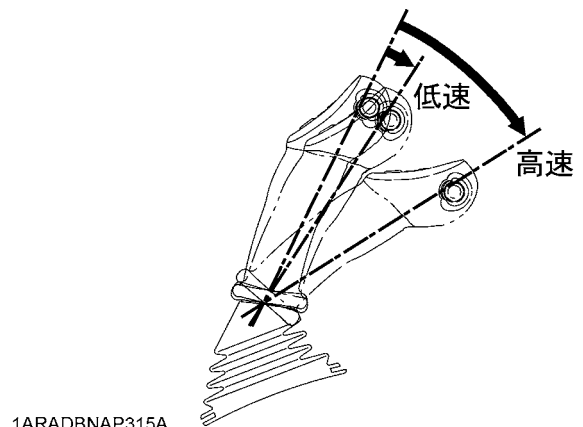
[SD4M 仕様]

1ARADBNAP016B

補 足

＊ 刈取部の**上昇⟷下降**操作を行なうとき，レバーを倒す量に応じて昇降速度が変化します。昇降速度は，レバーを倒す量が大きいほど速くなります。

1ARADBNAP315A

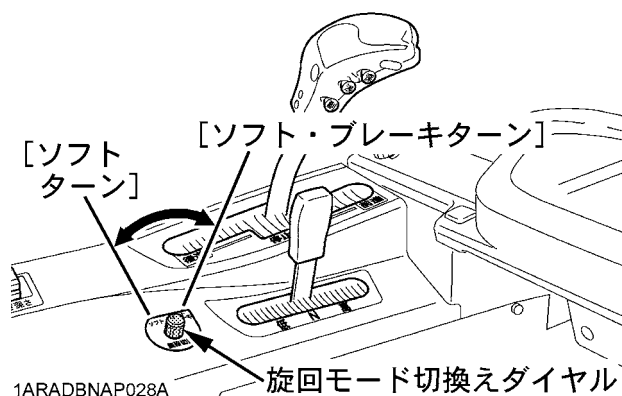
[SD4M 仕様]

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

補　足

＊ エンジンが停止中で，刈取部が上がっているときにマルチワンレバーを前方（**［下］**方向）に倒しても刈取部は下がりません。

■旋回モード切換えダイヤル

旋回方式を選択するダイヤルです。作業条件に応じて切換えてください。

［DX 仕様］

［DX 仕様］

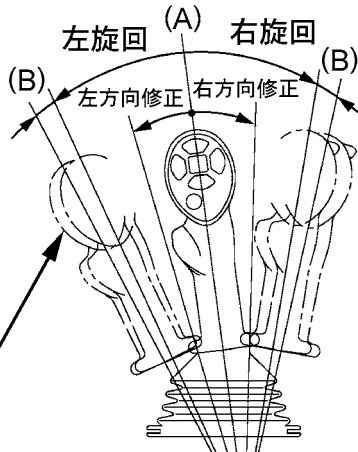
［HD・SD 仕様］

［HD・SD］

［ソフトターン］……
左右のクローラに回転差をつけ両輪で駆動しながら旋回します。旋回半径は，やや大きくなりますが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合や移動走行時に使用してください。

［ソフト・ブレーキターン］……
マルチワンレバーを右又は，左に倒すと，ソフトターンで旋回し，一定角度以上倒すとブレーキターンに切換わります。ブレーキターンは，倒した方向のクローラの駆動が停止した状態で旋回します。小回りが必要なときに使用してください。

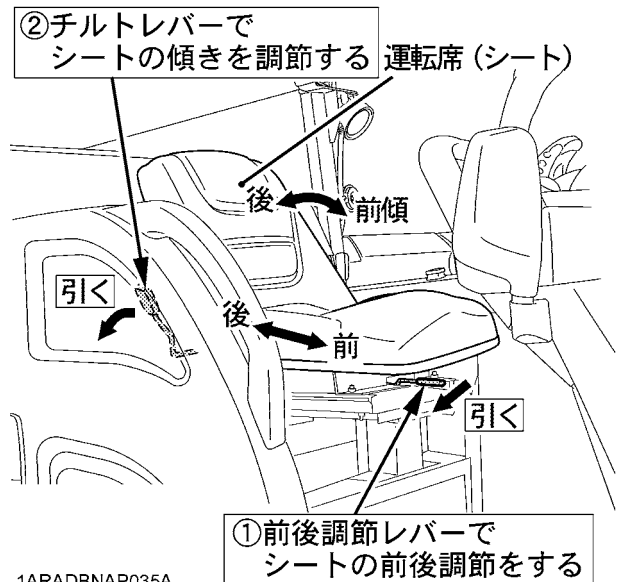
補 足

＊ 通常の刈取作業を行なうときは，**［ソフト・ブレーキターン］**位置にしてください。
＊ 旋回モード切換えダイヤルを**［ソフト・ブレーキ］**位置に選択すると**（A）**から**（B）**の範囲に切換るとブレーキターンとなります。

1ARADBNAP073C

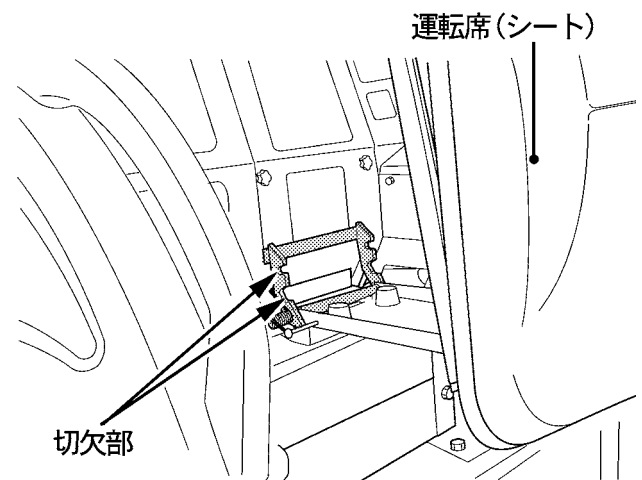
＊ 副変速切換えスイッチを**［H］（走行位置）**に切換えると，旋回モード切換えダイヤルで選択している位置に関係なく旋回力が**ソフトターン**に固定されます。
＊ 旋回モード切換えダイヤルを操作すると，液晶ディスプレイに**［旋回切換 ソフト］**又は，**［旋回切換 ソフト・ブレーキ］**と表示します。

■運転席（シート）

［DX・HD仕様］

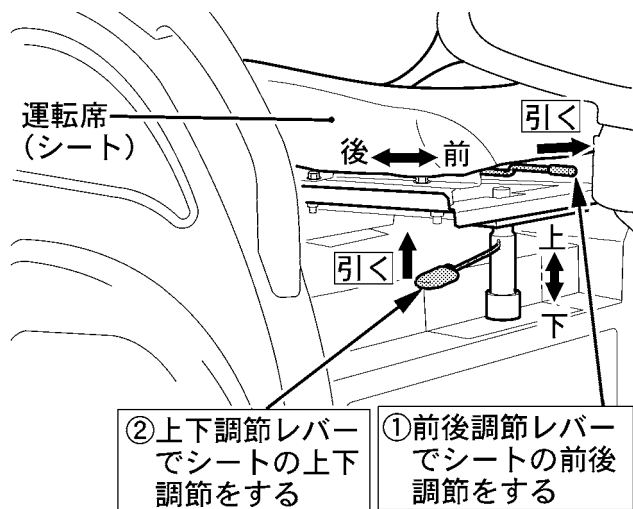
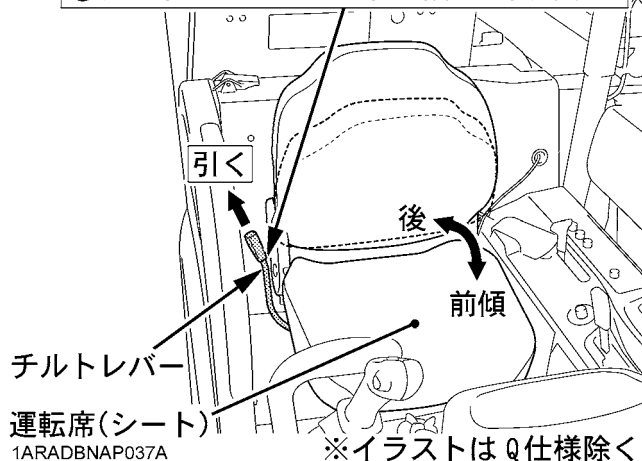
運転席は，**前，後**方向と**前傾斜**方向に調節が行なえます。調節は，前後調節レバー（**前，後**方向），チルトレバー（**前傾斜**方向）をそれぞれ引いて行なってください。

1ARADBNAP035A

補 足

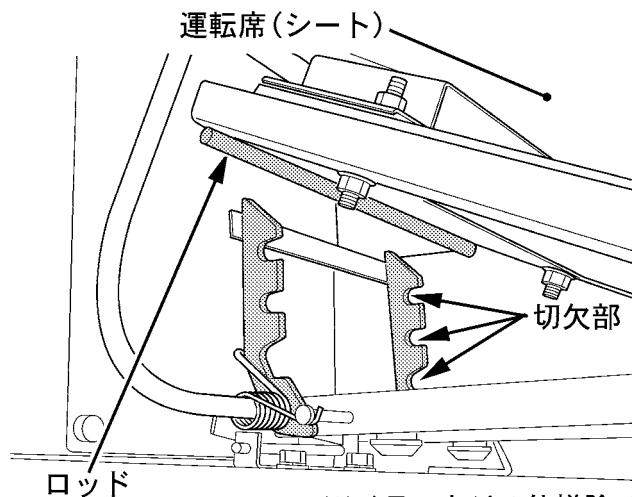
＊ 前傾斜方向は２段階の調節が行なえますが，運転席後下の切欠部にロッドを必ず掛けてフックしてください。

1ARADBNAP036A

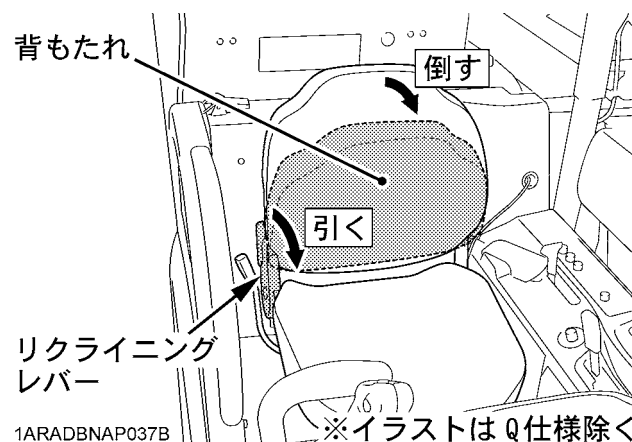
［DX・HD仕様］

［SD 仕様］

運転席は，**前，後**方向と**上，下**方向及び**前傾斜**方向に調節が行なえます。調節は，前後調節レバー（**前，後**方向），上下調節レバー（**上，下**方向），チルトレバー（**前傾斜**方向）をそれぞれ引いて行なってください。

1ARADBEAP023C　※イラストは Q 仕様除く

1ARADBNAP037A　※イラストは Q 仕様除く

補　足

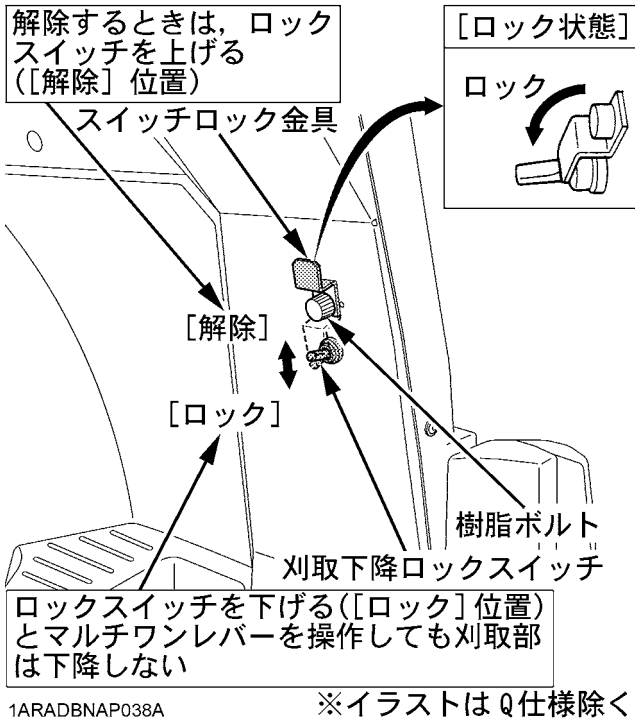
＊ 前傾斜方向は３段階の調節が行なえますが，運転席後下の切欠部にロッドを必ず掛けてフックしてください。

1ARAEAVAP021A　※イラストは Q 仕様除く

＊ 運転席の背もたれは，リクライニングレバーを引いて前方へ倒すことができます。元に戻るときは，背もたれをロックするまで後方に倒してください。

1ARADBNAP037B　※イラストは Q 仕様除く

［SD 仕様］

■刈取下降ロックスイッチ

刈取部の下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを下げる（**[ロック]** 位置）とマルチワンレバーを操作しても刈取部は下降しません。

1ARADBNAP038A　※イラストはQ仕様除く

補　足

＊ ロックスイッチを下げたときは，必ずスイッチロック金具でロックスイッチを固定し解除防止を行なってください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。

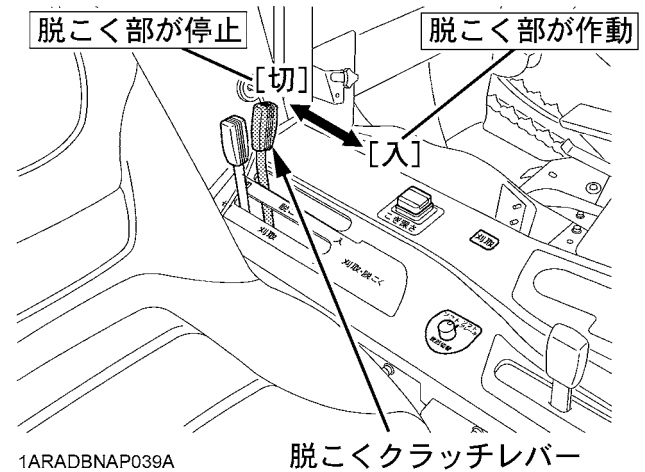
＊ エンジンを始動しないと刈取部は上昇，下降しません。

◆ 刈取・脱こく関係

■脱こくクラッチレバー

[DX 仕様]

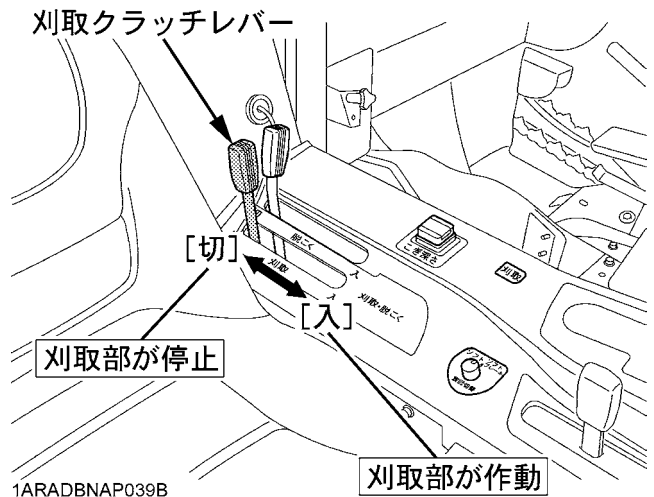
脱こく部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。

1ARADBNAP039A

[DX 仕様]

■刈取クラッチレバー

[DX 仕様]

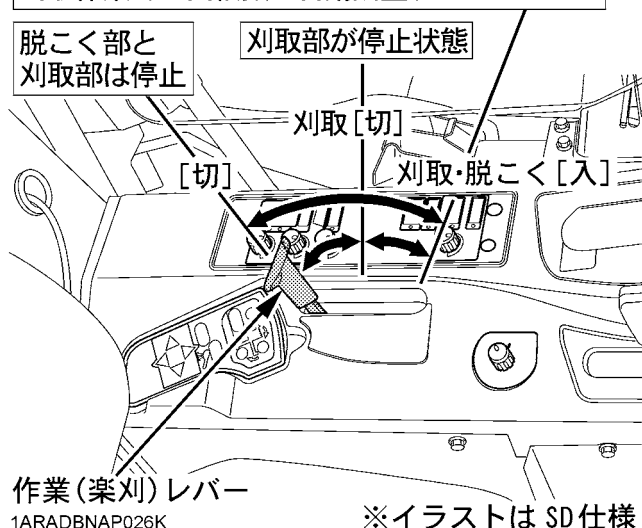
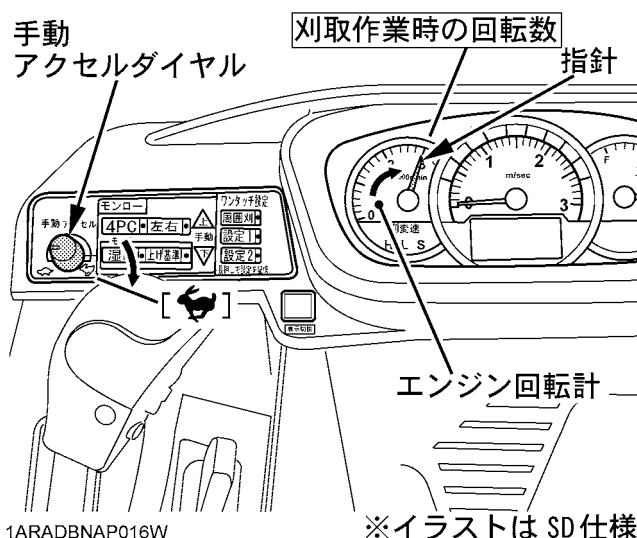
刈取部の動力を**入・切**するクラッチレバーです。

1ARADBNAP039B

[DX 仕様]

■作業レバー（楽刈レバー）

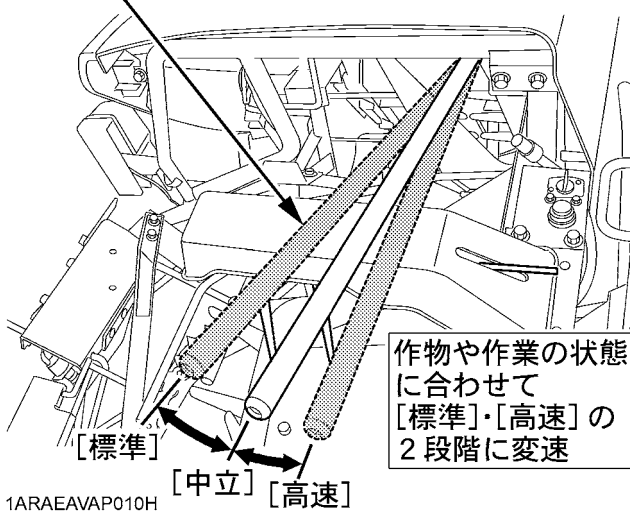
［HD・SD 仕様］

脱こく部，刈取部各動力の**入・切**及びエンジン回転数を，刈取作業時の回転数に自動調整するレバーです。

補　足

＊ 作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置にすると，脱こく部が作動すると同時にエンジン回転数が刈取作業時の回転数に自動的にセットされ，自動こぎ深さ制御がはたらきます。また，このとき刈取部は作動状態です。
＊ 作業レバーを**［切］**位置から**刈取［切］**位置にしたとき，脱こく部と刈取部は停止状態です。また，作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置から**刈取［切］**位置にすると刈取部が停止し，脱こく部は作動状態となります。
＊ 作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置にしたときのエンジン回転数は，手動アクセルダイヤルの位置に関係なく，作業回転となります。

＊ 作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置にしたあとにエンジン回転数の調整を行なうときは，手動アクセルダイヤルを回してください。手動アクセルダイヤルで設定したエンジン回転数が優先されます。
＊ 作業レバーを**刈取・脱こく［入］**から**［切］**位置にしたとき，エンジン回転数は刈取作業時の回転数の状態です。

［HD・SD 仕様］

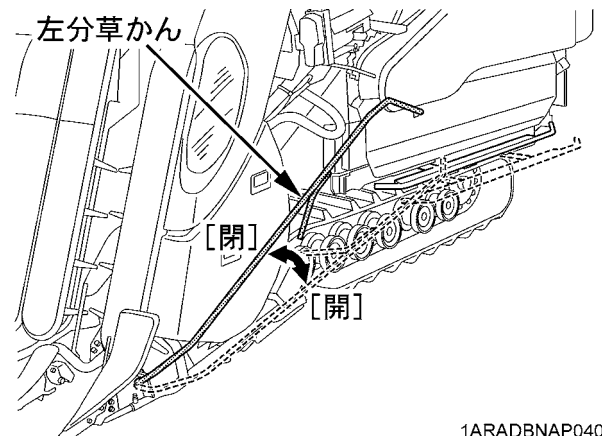
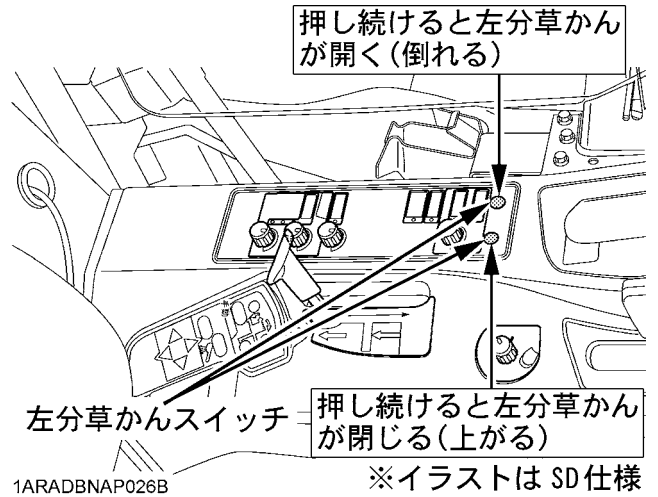
■引起し変速レバー

刈取部の速度を切換えるレバーです。

補　足

＊ 127 ページを参照して適正な引起し速度を選んでください。
＊ 引起し部の開閉を行なうときは，引起し変速レバーを**［中立］**位置にしてください。
(164 ページ参照)

■左分草かん開閉スイッチ

［HD・SD 仕様］

左分草かんを開閉するスイッチです。

補　足

＊ 左分草かん開閉スイッチを操作すると，エンジン停止中でも，メインスイッチのキーが**［入］**の位置で左分草かんは開閉しますが，バッテリ上がり防止のため，エンジンを始動してから操作してください。
＊ 左分草かんは手動でも開閉操作が行なえます。
＊ 左分草かん開閉スイッチを押すと，液晶ディスプレイに**［分草かん　開］**又は，**［分草かん閉］**と表示します。

［HD・SD 仕様］

■刈取りかき込みペダル

あぜぎわなどで前進しながら刈取作業が行なえないとき，機体の走行を停止した状態で作物の刈取りを行なうときに使用するペダルです。**［DX 仕様］**は脱こく・刈取クラッチレバーをそれぞれ**［入］**位置，**［HD・SD 仕様］**は作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置にしたあと，かき込みペダルを踏込み，主変速レバーを**［前進］**側に操作すると刈取部及び搬送部が動き，作物の刈取り（かき込み）を行ないます。

かき込み作業を行なうときは，主変速レバーをいったん**［停止］**位置に戻したあと，かき込みペダルをいっぱいまで踏込んでください。そのあと，主変速レバーを再度**［前進］**側に操作してください。また，かき込み作業を終了するときは，主変速レバーをいったん**［停止］**位置に戻したあと，かき込みペダルから足を離してください。

補　足

* 誤操作による急発進を防ぐため，主変速レバーをいったん**［停止］**位置まで戻さないとペダルを離しても発進しません。
* かき込み作業中に誤作動を起こすおそれがあるため下記操作は行なわないでください。
  - かき込みペダルから足を離さないでください。
  - マルチワンレバーを左又は，右方向に動かさないでください。
* 下記条件のときは，かき込みペダルを踏込んでも刈取部が作動しません。
  - 駐車ブレーキが掛かっているとき
  - **［DX 仕様］**は脱こく・刈取クラッチレバーが**［切］**位置，**［HD・SD 仕様］**は作業レバーが**刈取［切］**又は，**［切］**位置のとき

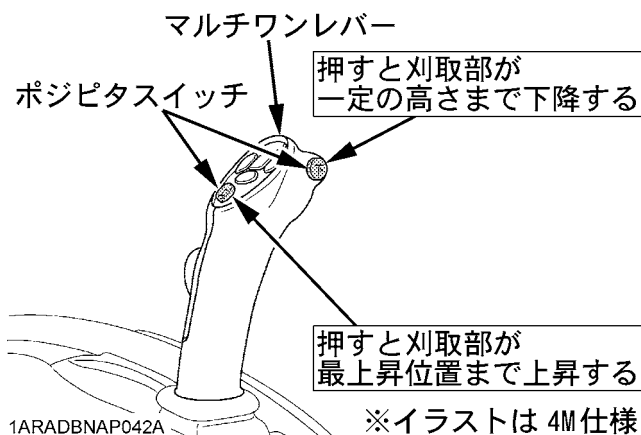
［HD・SD 仕様］

* 作業レバーが**刈取［切］**位置のとき，かき込みペダルを踏込んだ状態で主変速レバーを操作すると機体が前進又は，後進します。

［HD・SD 仕様］

■ポジピタスイッチ

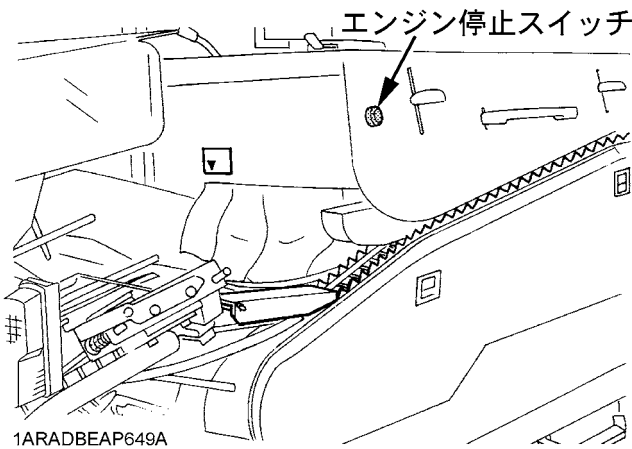
［SD 仕様］

刈取作業中に，ポジピタスイッチを押すと刈取部が**上昇⟷下降**します。

補　足

* ポジピタスイッチは作業レバーを**刈取［切］**位置又は，**刈取・脱こく［入］**位置にするとはたらきます。

［SD 仕様］

■エンジン停止スイッチ

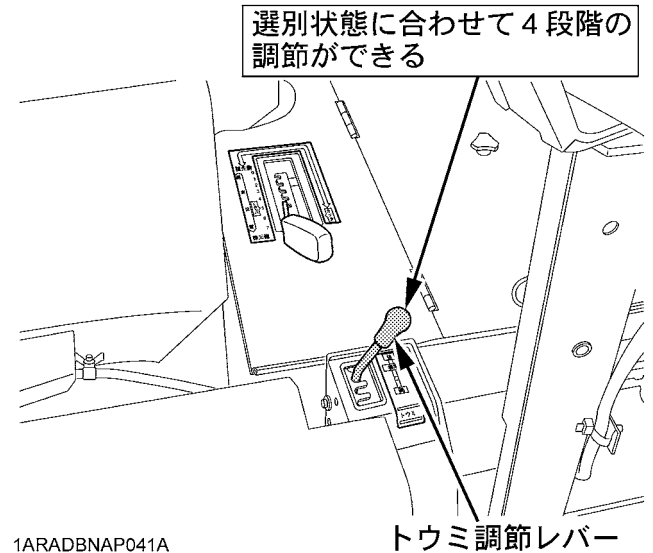
エンジンを停止するスイッチです。エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。

補　足

＊ エンジン停止スイッチを押すと，液晶ディスプレイに**［エンジン停止しました］⟷［メインスイッチ切にして下さい］**を一定時間交互に表示します。

＊ エンジンの再始動を行なうときは，下記項目を遵守してください。
  - メインスイッチのキーを**［切］**位置にしてブザーを止めてください。
  - メインスイッチのキーを**［切］**位置にしてから約５秒間待ってください。エンジンの停止直後にメインスイッチのキーを**［始動］**位置にしてもエンジンは始動しません。

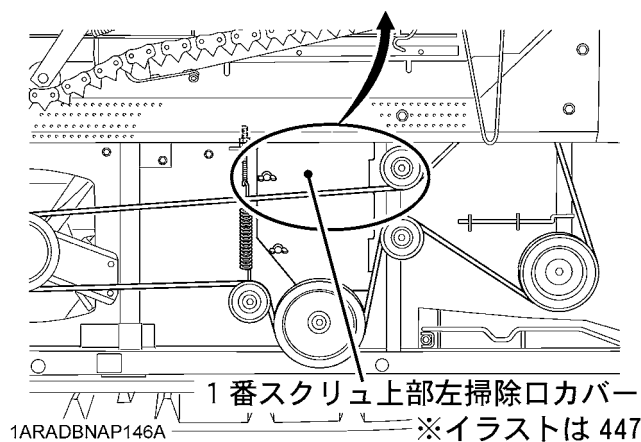
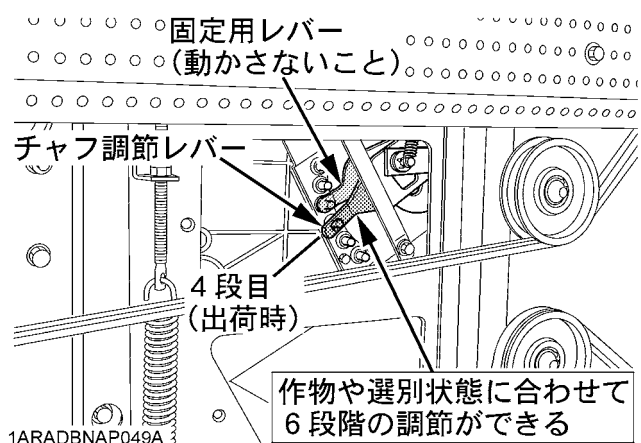
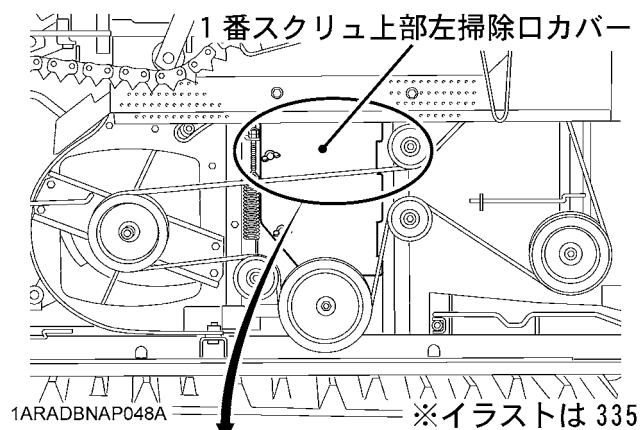
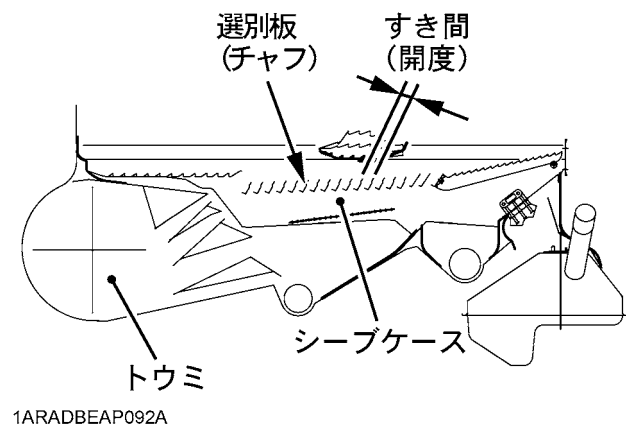
■トウミ調節レバー

［DX・HD 仕様］

トウミの風力調節を行なうレバーです。

［DX・HD 仕様］

■チャフ調節レバー

[DX・HD 仕様]

シーブケースにある選別板のすき間（開度）の調節を行なうレバーです。

補　足

＊ チャフ調節レバーは，左サイドカバーを取外し，脱こく部左の掃除口カバーを取外すとあります。

＊ 調節は，チャフ調節レバーで行なってください。また，固定用レバーは動かさないでください。

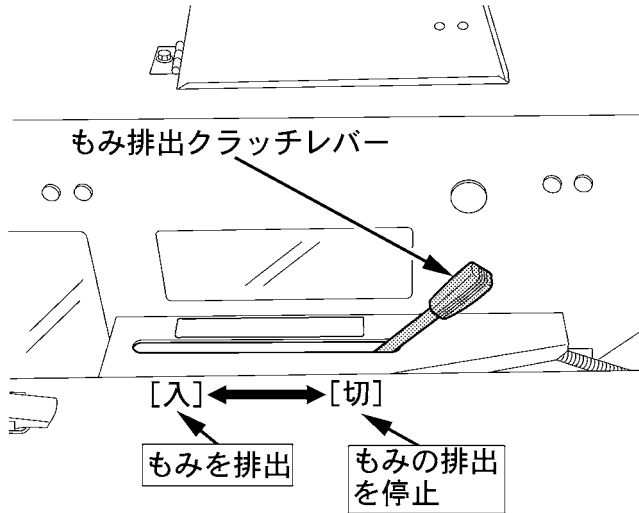
＊ 出荷時は，上から **4 段目**位置です。

[DX・HD 仕様]

◆ グレンタンク関係

■もみ排出クラッチレバー

[DX 仕様]

グレンタンク内のもみ排出操作を行なうレバーです。

1ARADBNAP043A

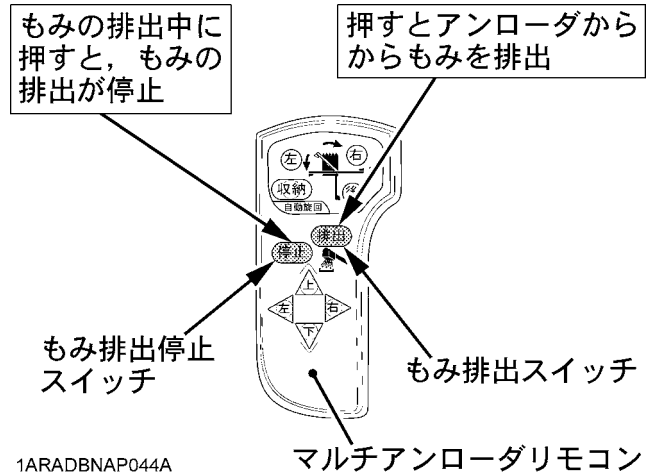
補　足

* ＊ もみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にしないと，エンジンは始動しません。
* ＊ もみ排出クラッチレバーが **[入]** 位置でエンジンを始動しようとすると，液晶ディスプレイに **[モミ排出クラッチ切に]** と表示します。
* ＊ アンローダリモコンの **[停止]** スイッチを押してももみの排出は停止しないため，操作を間違えないでください。**[停止]** スイッチを押すと旋回中のアンローダが停止します。

[DX 仕様]

■もみ排出スイッチ

[HD・SD 仕様]

グレンタンク内のもみの排出操作を行なうスイッチです。

1ARADBNAP044A

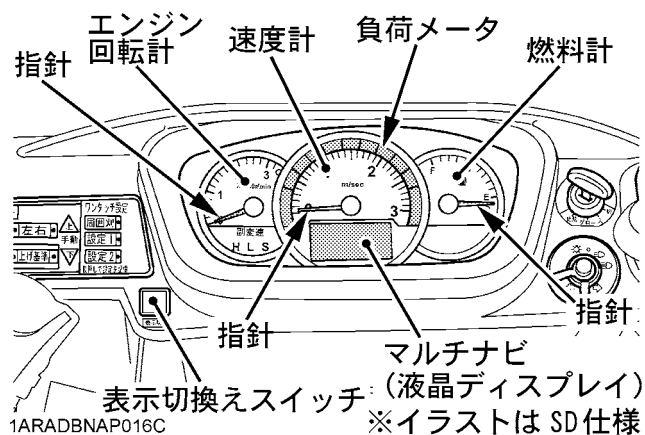
補　足

* ＊ エンジン始動後にアンローダが収納状態のときや作業レバーを **[切]** 位置にしないと，もみ排出スイッチを操作しても，もみは排出されません。

[HD・SD 仕様]

◆ **電装関係**

■**ファインビューメータ**

1ARADBNAP016C

補　足

＊ メインスイッチのキーを **[切]** 位置から **[入]** 位置にすると，各ランプが一定時間全て点灯（ランプ点灯確認）すると同時に，各メータの指針が動きます。（作動確認）

◆**各メータ**

● **エンジン回転計（単位：r/min(rpm)）**

１分間のエンジン回転数を指針で表示します。

● **燃料計**

燃料の残量を指針で表示（**[E]**〔空〕⟷**[F]**〔満タン〕）します。

● **速度計（単位：m/s）**

１秒間に進む距離を指針で表示します。

補　足

＊ ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。

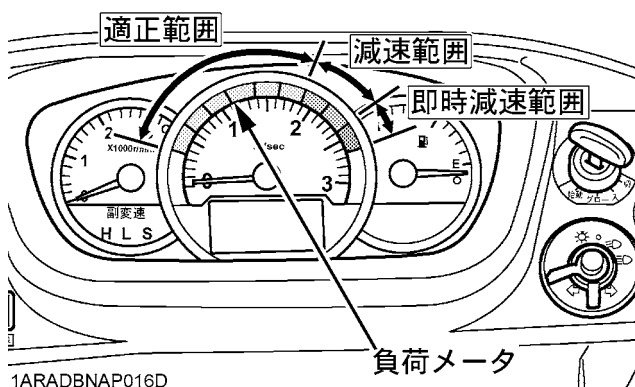
● **負荷メータ**

刈取作業中にエンジンにかかる負荷の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

補　足

＊ エンジン回転数は，負荷が大きくなるほど下がります。負荷メータのランプ点灯表示で以下のようになります。

適正状態…　適正範囲：負荷メータ６目盛（ランプ：緑色）
⬇
減速………　減速範囲：負荷メータ２目盛（ランプ：オレンジ色）
⬇
即時減速…　即時減速範囲：負荷メータ１目盛（ランプ：赤色）

1ARADBNAP016D

◆ マルチナビ

マルチナビは機械の状態や状況（通常作業時，異常発生時，誤操作時など）に応じて，液晶ディスプレイに必要な情報を表示します。

補　足

＊ 表示切換えスイッチは，液晶ディスプレイに異常や警報を表示したときに通常表示に戻す場合やメンテナンス作業で使用します。

1. 移動走行・通常作業時

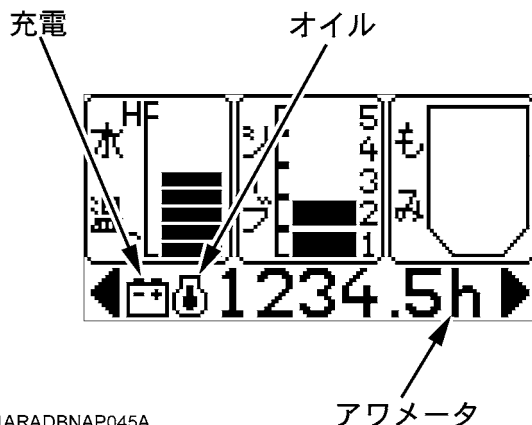
(1) ［アワメータ・オイル・充電］表示

駐車ブレーキが掛かっていない状態でメインスイッチのキーを**［切］**位置から**［入］**位置にすると表示します。（エンジンは停止状態）

● **アワメータ**表示**（単位：h［時間］）**

エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。

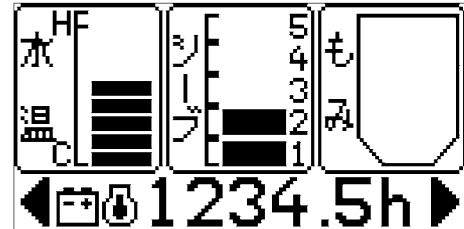
● **オイル・充電**表示

オイルの圧力と充電状態に異常が発生したとき，警報を出す準備状態にあることを表示します。

1ARADBNAP045A

重　要

＊ 異常が発生したときは，直ちに購入先に連絡してください。
＊ メインスイッチのキーが**［入］**で，エンジンが停止状態では，表示していますが，表示が消えているときは，警報機能に異常があります。その場合は，直ちに購入先に連絡してください。

(2) ［水温 / シーブ / もみ］表示

エンジン始動後，作業時の基本表示**［水温 / シーブ / もみ］**を表示します。

1ARADBNAP045B

補　足

＊ エンジン始動中，異常発生時以外のときは，オイル・充電表示はされません。

2. 異常発生時

補　足

＊ 処置については 146 ページを参照してください。

● **表示**

燃料を給油	燃料を給油 して下さい	燃料の残量が少なくなると表示します。
充電系異常	充電系統が 異常です	充電系統に異常が発生すると表示します。
エンジン油圧異常	ｴﾝｼﾞﾝ油圧 異常です	エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると表示します。
オーバーヒート	オーバー ヒート	エンジンの冷却水温が高温になると表示します。
負荷	負荷	刈取作業中にエンジンに大きな負荷がかかると表示します。
もみ満杯	もみが 満杯です	グレンタンク内のもみが満杯になると表示します。
２番	２番	２番処理ケース内又は，１番，２番縦スクリュケース内が詰まると，表示します。
こぎ深さ	こぎ深さ	自動こぎ深さ制御がはたらいている状態で，穂先センサにわらの引掛かりなどの異常が発生すると表示します。
シーブ	シーブ	脱こく機の選別板上のもみの量が異常に多くなったとき表示します。
排わら	排わら	フィードチェーン終端部にわらが詰まり，エンジンが自動停止（**エンジン自動停止装置**）すると表示します。
カッタ	カッタ	わら処理（カッタ）部にわらが詰まり，エンジンが自動停止（**エンジン自動停止装置**）すると表示します。

結束詰まり	結束機	結束機にわらが詰まり，エンジンが自動停止（**エンジン自動停止装置**）すると表示します。**［結束機付き仕様］**
結束ひも切れ	結束機	結束機のひもが切れ又は，結束機のビルにわらが巻付きエンジンが自動停止（**エンジン自動停止装置**）すると表示します。**［結束機付き仕様］**

3. 誤操作時

● 表示

アンローダを上昇する	ｱﾝﾛｰﾀﾞ を上昇する	アンローダ**下降不可範囲**内で，誤ったアンローダリモコンの操作をすると表示します。
アンローダを確認する	ｱﾝﾛｰﾀﾞ を確認する	アンローダが収納位置以外の位置のとき，走行を開始すると表示します。

補　足

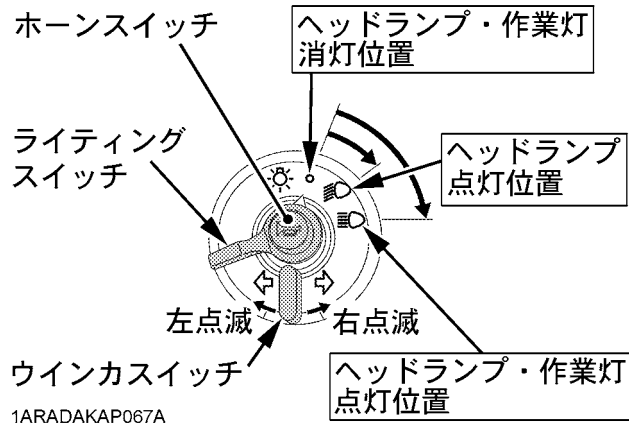
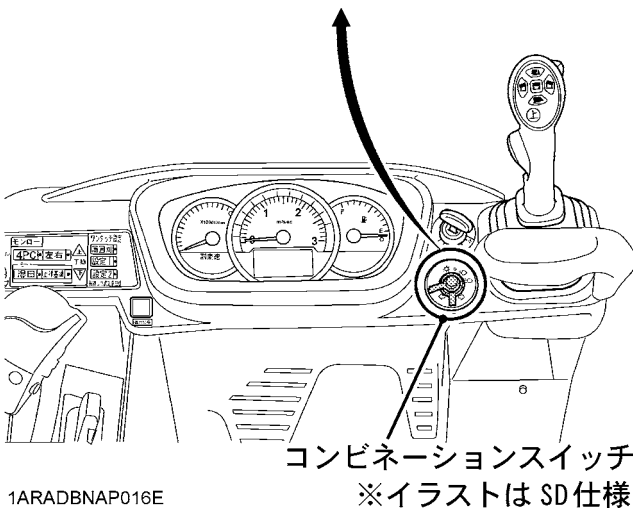
＊ **下降不可範囲**については，128 ページを参照してください。

● **表示**

排わら切換 確認する	**排わら切換 確認する**	カッタ部にわらや雑草が詰まり，カッタ切換えカバーが切換わらなかったときに表示します。
結束機起動 SW 確認する	**結束機起動 SW 確認する**	結束機起動スイッチが **[ON]（入）**位置のとき，わら処理切換えスイッチを押すと表示します。**[結束機付き仕様]**

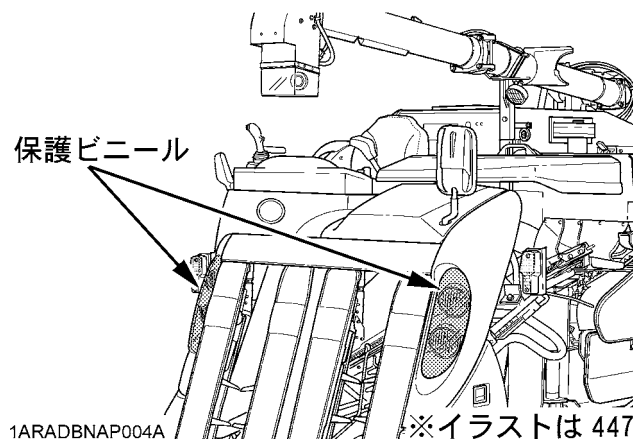
エンジン始動時にメインスイッチのキーを **[始動]** 位置にしたとき，始動条件を満たしていない場合，その内容を表示します。

脱こくクラッチ を切る	**脱こくｸﾗｯﾁ を切る**	**[DX 仕様]** は脱こくクラッチレバー・刈取クラッチレバーが **[入]** 位置，**[HD・SD 仕様]** は作業レバーが**刈取 [切]** 位置又は，**脱こく・刈取 [入]** 位置のときに表示します。
主変速を 中立にする	**主変速を 中立にする**	主変速レバーが **[停止]**（中立）位置以外のときに表示します。
駐車ブレーキ を踏む	**駐車 ﾌﾞﾚｰｷ を踏む**	駐車ブレーキペダルを踏んでいないときに表示します。
もみクラッチを 切る	**もみ ｸﾗｯﾁを 切る**	もみ排出クラッチが **[入]** のときに表示します。

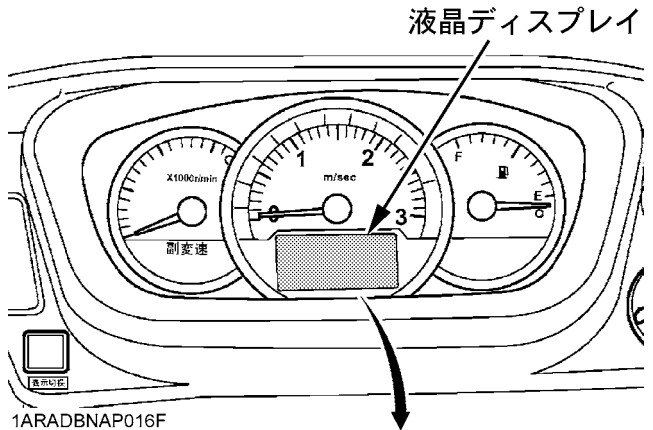
■コンビネーションスイッチ，ホーンスイッチ

1ARADAKAP067A

1ARADBNAP016E

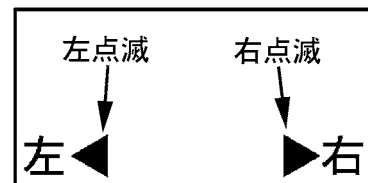
● **ライティングスイッチ**
スイッチを操作するとランプが点灯します。

重　要

＊ 刈取部の左，右にあるヘッドランプと作業灯のカバーに保護ビニールが貼られているときは，保護ビニールをはがしてください。ランプの熱でビニールが溶けたりランプが高熱になり破損する原因となります。

1ARADBNAP004A

● **ホーンスイッチ**
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

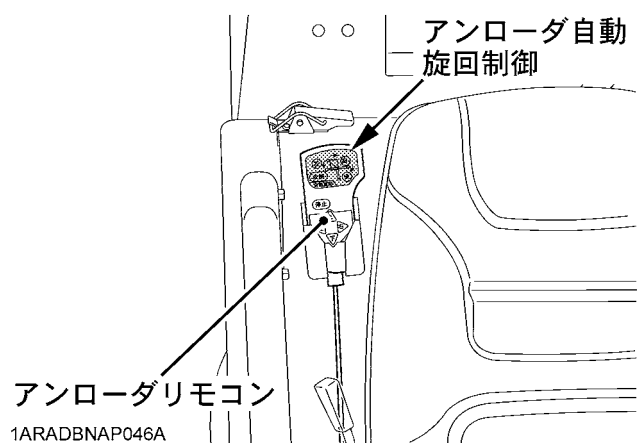
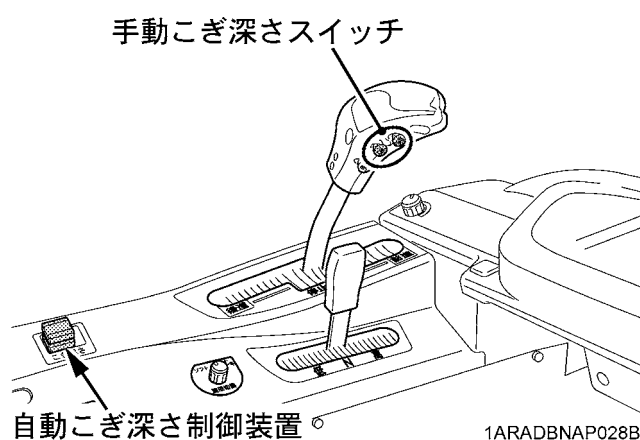
● **ウインカスイッチ**
旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅すると同時にマルチナビの液晶ディスプレイにウインカ表示が点滅します。

1ARADBNAP016F

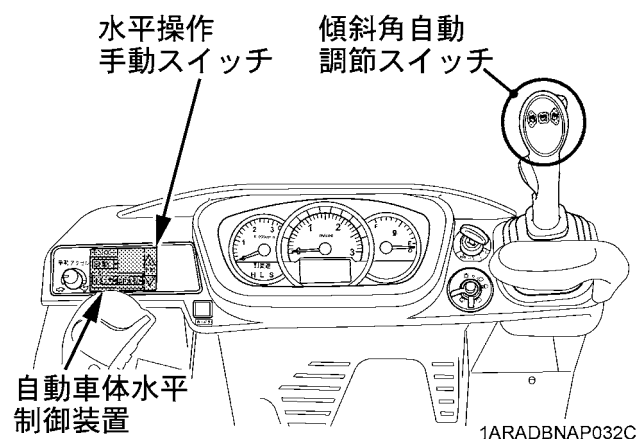
［ウインカ表示ランプ］

1ARAEASAP189C

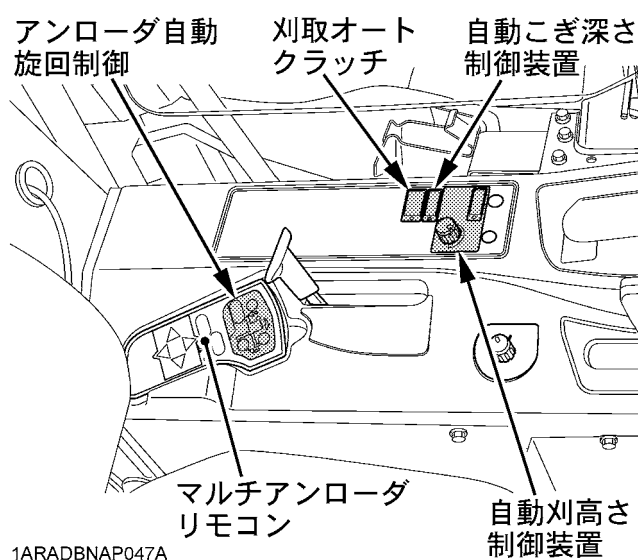
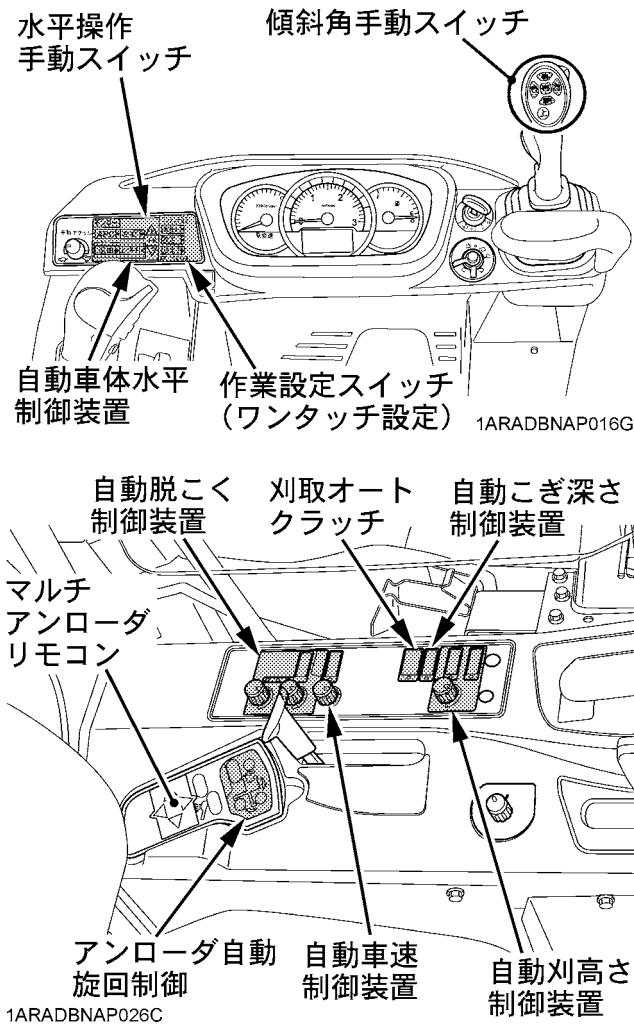
重　要

＊ ウインカスイッチを操作したとき，ウインカ表示（**[左◀]** 又は，**[▶右]**）が高速点滅（いつもより点滅速度が速い）したときは，ウインカランプの故障又は，ハーネスのカプラの接続不良が発生しています。（処置については，297，300 ページを参照してください）

自動化装置の名称とはたらき

[DX 仕様]

[DX 仕様]

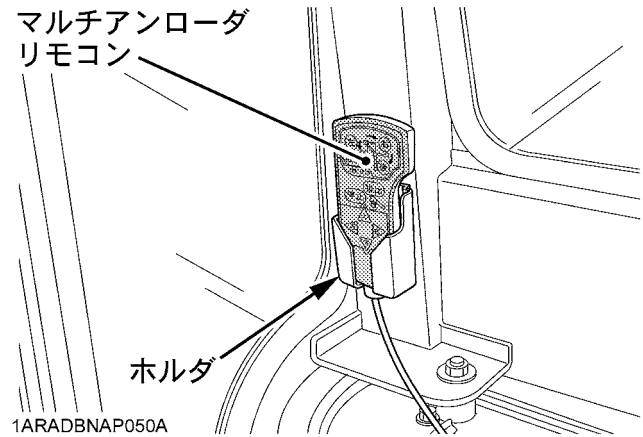
[HDM 仕様]

[HDM 仕様]

[HD 仕様]

[HD 仕様]

［SD仕様］

［SD仕様］

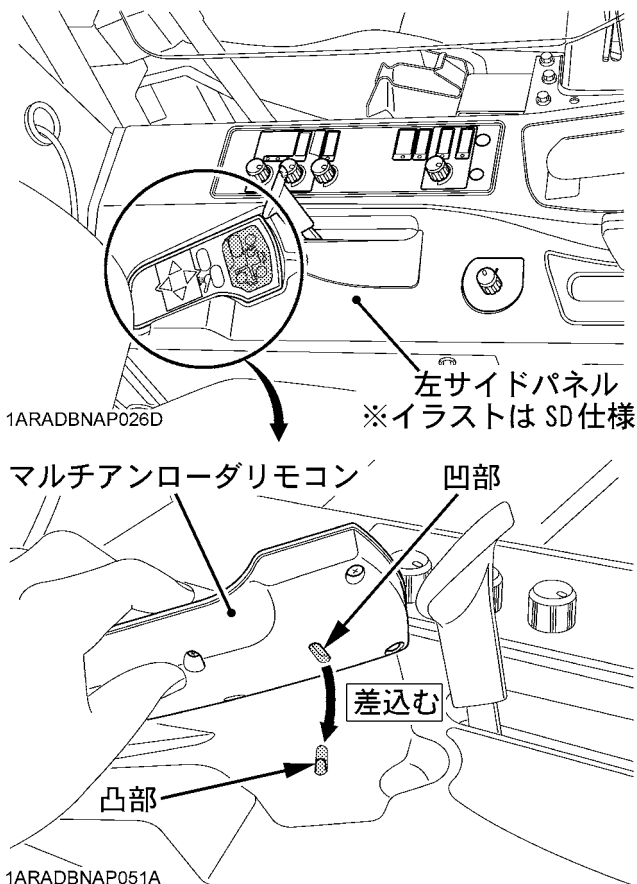
［Q仕様］

補　足

＊ 運転席左後部にマルチアンローダリモコンのホルダを設置していますので作業に応じて収納してください。

［Q仕様］

[HD・SD仕様]

補　足

＊ アンローダリモコンを左サイドパネル部に収納するときは，アンローダリモコン裏側の凹部を左サイドパネル部収納側の凸部に差込んでください。

[HD・SD仕様]

◆ 走行操作関係

■自動車速制御装置

[SD仕様]

自動車速制御装置は，刈取作業中の速度を制御する装置です。エンジンの負荷に応じて自動的に最適な刈取速度に変速（増・減速）します。

● **車速自動スイッチ**

自動車速制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**車速[入]／[切]**を一定時間表示します。

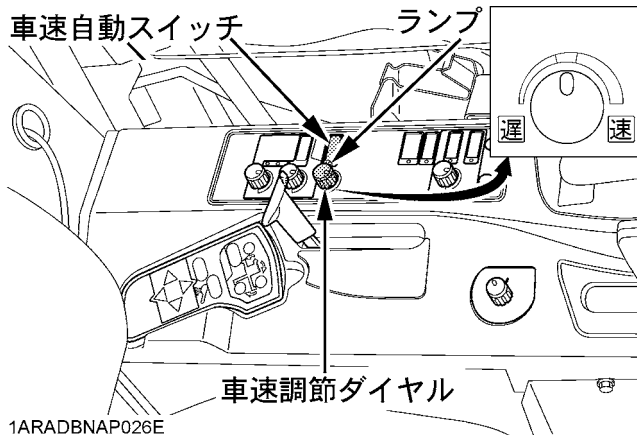
自動車速制御[入]… ランプが点灯し，自動車速制御が作動します。

車速 入

自動車速制御[切]… ランプが消灯し，自動車速制御が解除されます。

車速 切

● **車速調節ダイヤル**
自動車速制御で増速する**最高速度**の設定を行なうダイヤルです。作業速度を速くしたいときや遅くしたいときに変更してください。ダイヤルを**時計方向**に回すと**速く**なり，**反時計方向**に回すと**遅く**なります。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに９段階の目盛で表示します。

1ARADBNAP026E

［液晶表示］

1ARAEASAP231A

補　足

＊ 自動制御がはたらいているときでも，主変速レバーによる操作が優先されます。

［SD 仕様］

■自動車体水平制御装置（左右モンロー）

［HDM 仕様］

自動車体水平制御装置は，脱こく部が作動しているときに機体が左・右に傾くと，自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

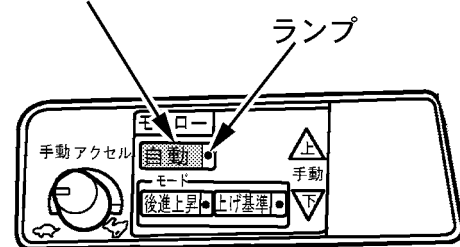
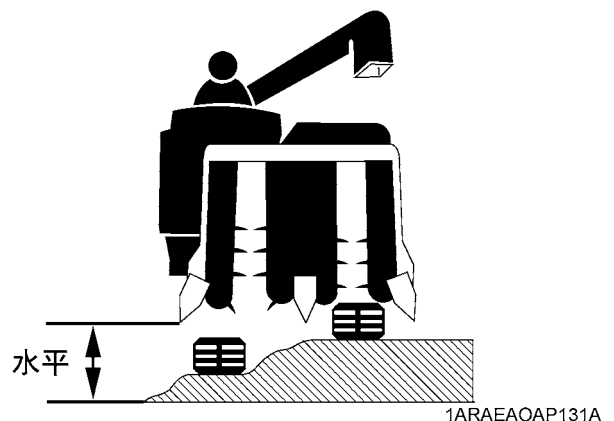
● **水平自動スイッチ**
自動車体水平制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**モンロー［入］／［切］**を一定時間表示します。

自動車体水平制御［入］…… ランプが点灯し，自動制御が作動します。

自動車体水平制御［切］…… ランプが消灯し，自動車体水平制御が解除されます。

モンロー　切

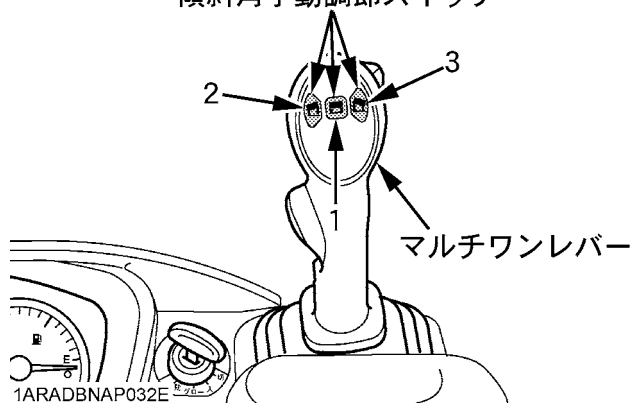
1ARADBNAP032D

1ARAEAOAP131A

補　足

＊ 自動で作業した後，**［DX 仕様］**は脱こく・刈取クラッチレバーを**［切］**位置，**［HD 仕様］**は作業レバーを**［切］**位置にする又は，水平自動スイッチを**［切］**にすると，機体は左右共に**最下降位置**まで下がります。（下限復帰）また，下降中に，水平操作手動スイッチを操作すると下降が停止します。

● **傾斜角手動調節スイッチ**

自動車体水平制御がはたらいているとき，機体を左又は，右に傾けた状態で制御をはたらかせるスイッチです。

1ARADBNAP032E

1 ……… スイッチを押すと，左右水平となる状態で制御します。

2 ……… スイッチを押している間，機体が**右上り**になります。また，スイッチから手を離すと，そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

3 ……… スイッチを押している間，機体が**左上り**になります。また，スイッチから手を離すと，そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

補　足

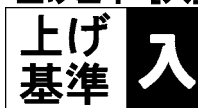
＊ 傾斜角手動調節スイッチの［ ］又は，［ ］を押している間機体が傾きます。

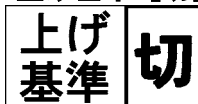
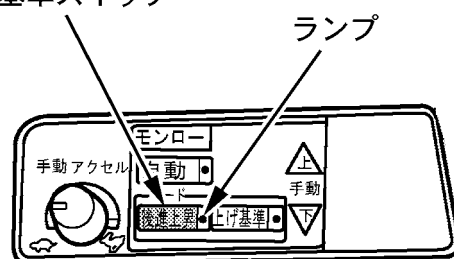
＊ 水平自動スイッチが**［切］**で自動車体水平制御が解除されているとき，［ ］又は，［ ］スイッチを押すと機体がその方向に傾きます。また，［ ］スイッチを押すと機体は**最下降位置**まで下降します。

● **上げ基準スイッチ**

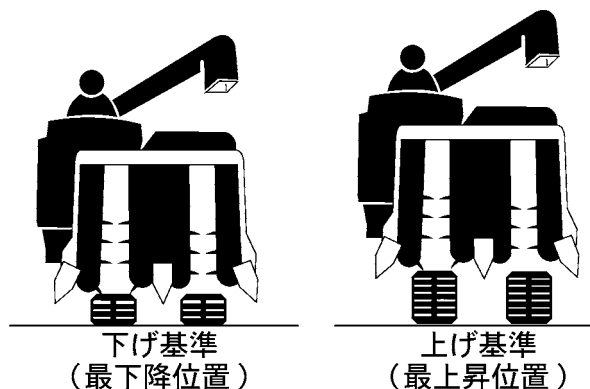
自動車体水平制御がはたらいているとき，水平制御を行なう基準の高さを切換えるスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**上げ基準［入］／［切］**を一定時間表示します。

上げ基準［入］……　ランプが点灯し，上げ基準で作動します。

上げ基準 入

上げ基準［切］……　ランプが消灯し，下げ基準で作動します。

上げ基準 切

1ARADBNAP032F

1ARAEASAP570A

補　足

＊ 通常は **［下げ基準］（ランプ消灯）** にて，作業してください。深い湿田での刈終り時に，旋回が困難な場合にスイッチを押して **［上げ基準］（ランプ点灯）** 状態にさせることにより，旋回が容易になります。直進刈取状態になれば，再びスイッチを押して **［下げ基準］（ランプ消灯）** にしてください。

＊ 超湿田で **［上げ基準］** を選択したまま刈取り作業を行なうと，車体が深みにはまった場合，脱出不能となることがあります。超湿田の刈取作業は **［下げ基準］** で行なってください。

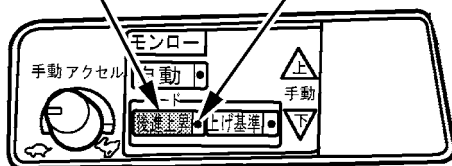
● **後進時機体上昇スイッチ**

自動車体水平制御が **下げ基準** で制御されているとき，機体が後進時のみ，**上げ基準** に切換えるスイッチです。スイッチを操作すると同時に，液晶ディスプレイに **後進時上昇［入］／［切］** の表示をします。

後進時上昇［入］……　ランプが点灯し，後進時 **上げ基準** で作動します。

後進上昇	入

後進時上昇［切］……　ランプが消灯し，**下げ基準** で作動します。

後進上昇	切

1ARADBNAP032F

補　足

＊ 乾田では **［切］** にしてください。

＊ 湿田で後進時に機体が後上りになり後進しにくいときは，後進時機体上昇スイッチを **［入］** にしてください。

［HDM 仕様］

■自動車体水平制御装置（4PC モンロー）

［SD 仕様］

自動車体水平制御装置は，脱こく部が作動しているときに機体が前・後及び左・右に傾くと，自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

補　足

＊ 自動車体水平制御をはたらかせるときは，4PC 水平自動スイッチ又は，左右水平自動スイッチのどちらかを選択してください。
また，自動車体水平制御を使用しないときは，4PC 水平自動スイッチと左右水平自動スイッチ両方共に **［切］**（ランプ消灯）にしてください。

● **4PC 水平自動スイッチ**

前・後及び左・右方向の水平制御の **入／切** をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに **モンロー［4PC］／［切］** を一定時間表示します。

自動車体 4PC 水平制御［入］……　ランプが点灯し，前後及び左・右方向の自動制御が作動します。

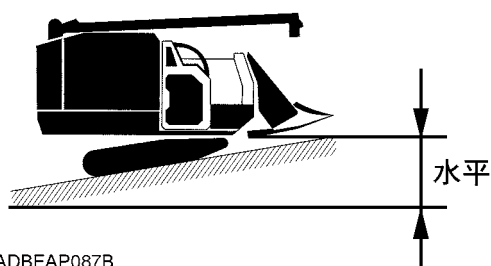
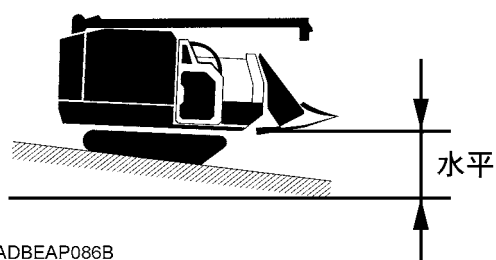
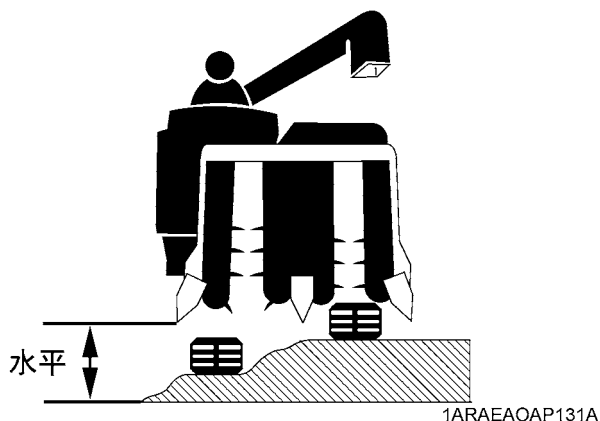
モンロー	4PC

自動車体 4PC 水平制御［切］……　ランプが消灯し，前・後及び左・右方向の自動制御が解除されます。

1ARADBNAP016H

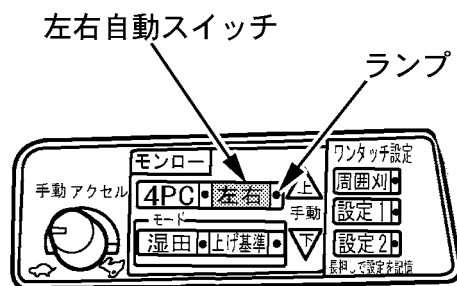
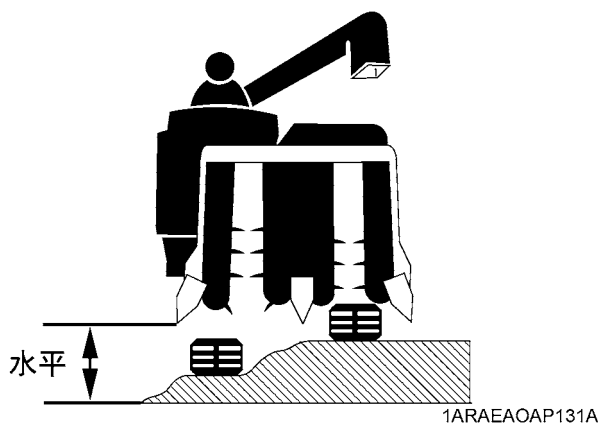
1ARAEAOAP131A

1ARADBEAP086B

1ARADBEAP087B

● **左右水平自動スイッチ**

左・右方向の水平制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**モンロー［左右］／［切］**を一定時間表示します。

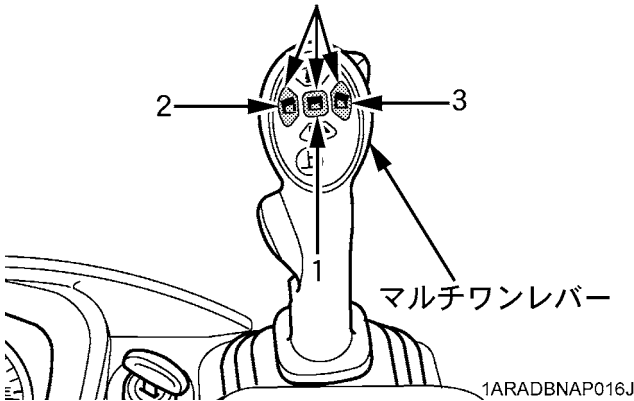
自動車体左右水平制御［入］……………………… ランプが点灯し，左・右方向の自動制御が作動します。

自動車体左右水平制御［切］……………………… ランプが消灯し，左・右方向の自動制御が解除されます。

1ARADBNAP016I

1ARAEAOAP131A

補　足

＊ 自動で作業したあと，作業レバーを**［切］**位置にする又は，水平自動スイッチを**［切］**にすると，機体は前後・左右共に**最下降位置**まで下がります。（下限復帰）また，下降中に，水平操作手動スイッチを操作すると下降が停止します。

● 左右傾斜角手動調節スイッチ

自動車体水平制御がはたらいているとき，機体を左又は，右に傾けた状態で制御をはたらかせるスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに傾きを一定時間表示します。

1 ……… スイッチを押すと，前後・左右水平となる状態で制御します。

2 ……… スイッチを押している間，機体が**右上り**になります。また，スイッチから手を離すと，そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

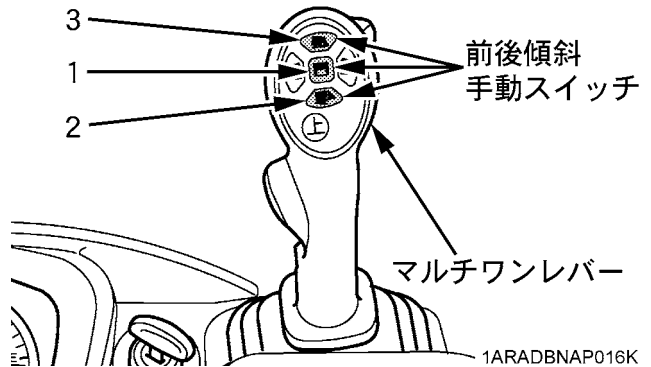
3 ……… スイッチを押している間，機体が**左上り**になります。また，スイッチから手を離すと，そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

補　足

＊ 左右傾斜角手動調節スイッチの［ ］又は，［ ］を押している間機体が傾きます。

＊ 水平自動スイッチが［**切**］で自動車体水平制御が解除されているとき，［ ］又は，［ ］スイッチを押すと機体がその方向に傾きます。また，［ ］スイッチを押すと機体は**最下降位置**まで下降します。

● 前後傾斜手動調節スイッチ

機体の**前・後**方向の傾きを調整する手動スイッチです。ほ場の出入りなどで機体を前後に傾けたいときは，4PC 水平自動スイッチを［**切**］にし，手動スイッチで操作してください。

1 ……… スイッチを押すと，前後・左右水平となる状態で制御します。

2 …… スイッチを押している間，機体が**前上り**になります。また，スイッチから手を離すと，そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

3 …… スイッチを押している間，機体が**後上り**になります。また，スイッチから手を離すと，そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

補　足

＊ 傾斜角手動調節スイッチの［ ］又は，［ ］を押している間機体が傾きます。

＊ 水平自動スイッチが［**切**］で自動水平制御が解除されているとき，［ ］又は，［ ］スイッチを押すと機体がその方向に傾きます。また，［ ］スイッチを押すと機体は**最下降位置**まで下降します。

＊ 左右水平自動スイッチが［**入**］の状態で，前後方向の手動スイッチを操作すると，前後に傾斜した状態で左・右の水平制御を行ないます。

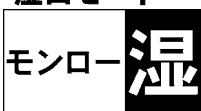
＊ 手動スイッチの操作を行なうと機体は下記のように作動します。

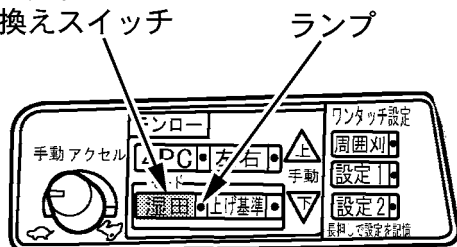
- ［ ］……… 機体後部が最下降したあと，機体前部が上昇します。
- ［ ］……… 機体前部が最下降したあと，機体後部が上昇します。

● **湿田／乾田モード切換えスイッチ**

湿田／乾田モードを切換えるスイッチです。また, スイッチを操作すると液晶ディスプレイに**モンロー［湿］**，**モンロー［乾］**を一定時間表示します。

湿田モード……………… ランプが点灯し，湿田モードで水平制御が作動します。

モンロー 湿

乾田モード……………… ランプが消灯し，乾田モードで水平制御が作動します。

モンロー 乾

1ARADBNAP016L

補　足

＊ 自動で作業したあと，作業レバーを［切］位置にする又は，水平自動スイッチを［切］にすると，機体は前後・左右共に**最下降位置**まで下がります。（下限復帰）また，下降中に，水平操作手動スイッチを操作すると下降が停止します。

＊ 湿田モードを選択すると，水平制御が敏感にはたらきます。前後及び左右の動きが大きいときは，乾田モードを選択してください。

● **上げ基準／下げ基準モード切換えスイッチ**

自動車体水平制御がはたらいているとき, 水平制御を行なう基準の高さを切換えるスイッチです。スイッチを操作すると, 液晶ディスプレイに**上げ基準［入］／［切］**を一定時間表示します。

上げ基準［入］…… ランプが点灯し，上げ基準で作動します。

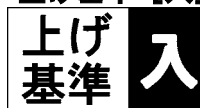
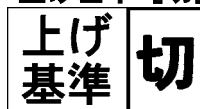
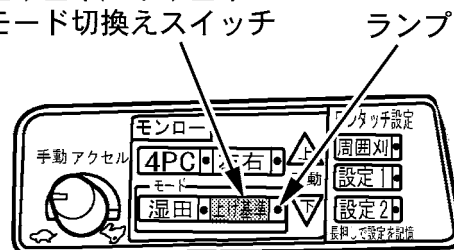
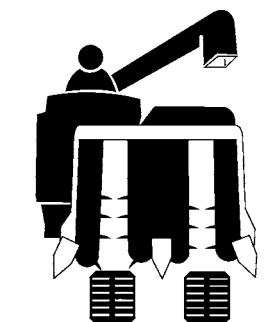
上げ基準 入

上げ基準［切］…… ランプが消灯し，下げ基準で作動します。

上げ基準 切

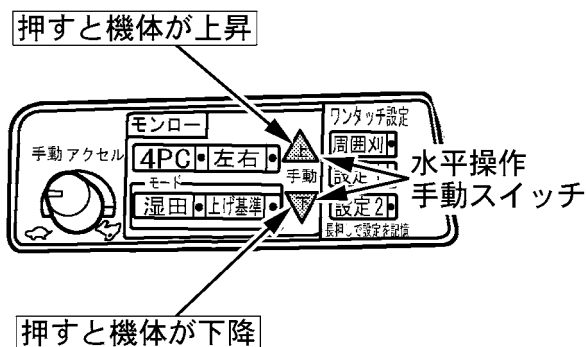
1ARADBNAP016M

1ARAEASAP570A

補　足

- ＊ 通常は **[下げ基準]（ランプ消灯）** にて，作業してください。深い湿田での刈終り時に，旋回が困難な場合にスイッチを押して **[上げ基準]（ランプ点灯）** 状態にさせることにより，旋回が容易になります。直進刈取状態になれば，再びスイッチを押して **[下げ基準]（ランプ消灯）** にしてください。
- ＊ 超湿田で **[上げ基準]** を選択したまま刈取り作業を行なうと，車体が深みにはまった場合，脱出不能となることがあります。超湿田の刈取作業は **[下げ基準]** で行なってください。

[SD 仕様]

■水平操作手動スイッチ

機体の**上昇⟷下降**を行なう手動の操作スイッチです。

※イラストは SD 仕様

補　足

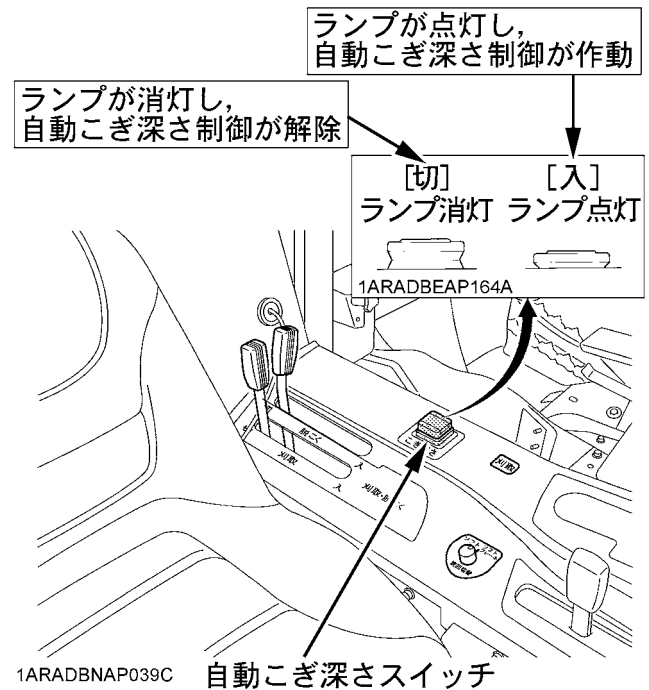
- ＊ 水平操作手動スイッチを押している間機体が上昇又は，下降します。
- ＊ 傾斜地では操作しないでください。
- ＊ モンロー操作時（特に全上昇，全下降）は，エンジン回転数を上げてください。

◆ 刈取・脱こく関係

■自動こぎ深さ制御装置

自動こぎ深さ制御装置は，作物の長さに応じて，適正なこぎ深さを保つ装置です。

[DX 仕様]

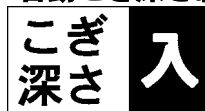
● 自動こぎ深さスイッチ

[DX 仕様]

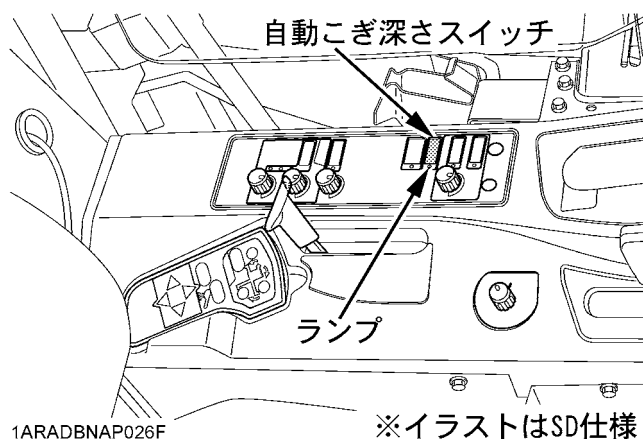
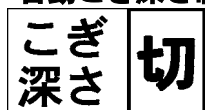
［HD・SD 仕様］

● **自動こぎ深さスイッチ**

自動こぎ深さ制御の**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**こぎ深さ［入］／［切］**を一定時間表示します。

自動こぎ深さ制御［入］…… ランプが点灯し，自動こぎ深さ制御が作動します。

こぎ深さ 入

自動こぎ深さ制御［切］…… ランプが消灯し，自動こぎ深さ制御が解除されます。

こぎ深さ 切

1ARADBNAP026F ※イラストはSD仕様

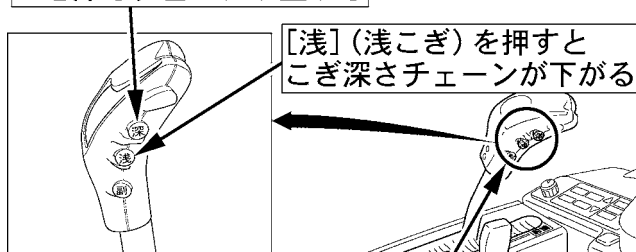
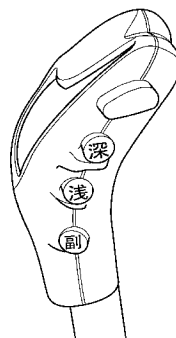
［HD・SD 仕様］

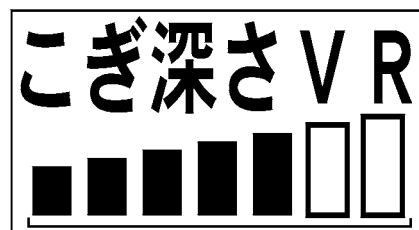
補 足

＊ 穂先センサ（株元側，穂先側）に浮きわらや雑草が引っ掛かると，正常な自動制御ができませんので取除いてください。
＊ 下記のときは，手動で操作してください。
- 長かん作物（約 130cm 以上）を刈取るとき
- 遅れ穂が多く，こぎ残しが出るとき
- 極端に作物の長さが不揃いのとき
- 雑草が多いとき
- 倒状作物を低速で刈取るとき

■手動こぎ深さスイッチ

● **手動こぎ深さスイッチ**

こぎ深さの調節を手動で行なうスイッチです。スイッチを操作すると同時に，液晶ディスプレイに７段階の目盛でこぎ深さチェーンの位置を表示します。

1ARADBNAP007C ※イラストは SD 仕様

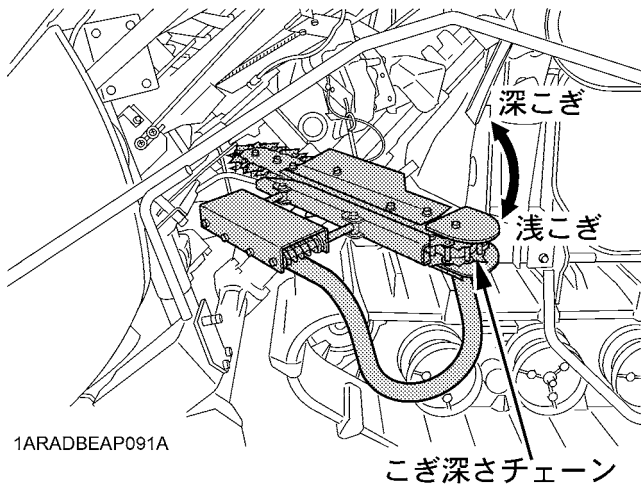
［液晶表示］

浅い ⟵ こぎ深さ ⟶ 深い

1ARAEASAP232A

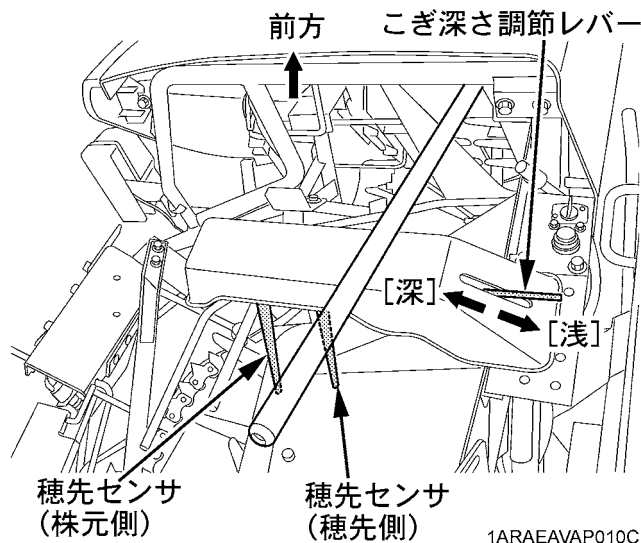
1ARAEASAP151B	スイッチの操作	こぎ深さチェーンの動き
	深	上がる
	浅	下がる

補　足

＊ 自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

1ARADBEAP091A

● **穂先センサの位置調節について**

通常は **［ほぼ中央］** に合せてください。調節は，レバーを **［深］** の方向に倒すと，深こぎ気味に保持され，レバーを **［浅］** の方向に操作すると，浅こぎ気味に保持されます。

1ARAEAVAP010C

■自動刈高さ制御装置

［HD・SD 仕様］

自動刈高さ制御装置は，刈取作業中の刈取部の高さを地面に対して，一定以上の高さに修正する **（リフトモード）** 又は，一定の高さに修正・保持 **（オートモード）** する装置です。

● **上昇（リフト）自動スイッチ**

上昇（リフト）制御の **入／切** をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに **楽刈リフト［入］／［切］** を一定時間表示します。

上昇（リフト）制御［入］……………………ランプが点灯し，上昇（リフト）制御が作動します。

楽刈リフト 入

上昇（リフト）制御［切］……………………ランプが消灯し，上昇（リフト）制御が解除されます。

楽刈リフト 切

［SD 仕様］

● **昇降（オート）自動スイッチ**

昇降（オート）制御の **入／切** をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに **楽刈オート［入］／［切］** を一定時間表示します。

昇降（オート）制御［入］……………………ランプが点灯し，昇降（オート）制御が作動します。

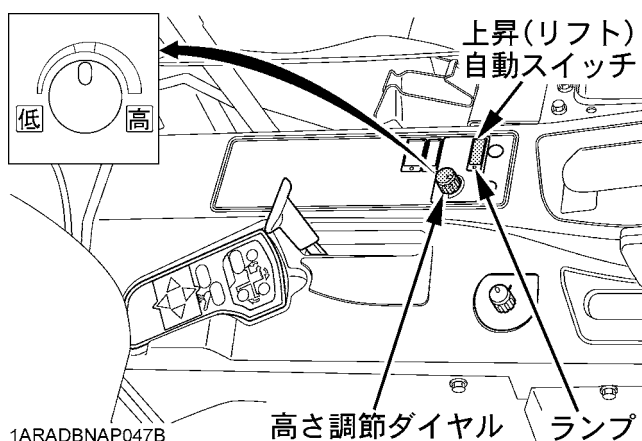
昇降（オート）制御［切］……………………ランプが消灯し，昇降（オート）制御が解除されます。

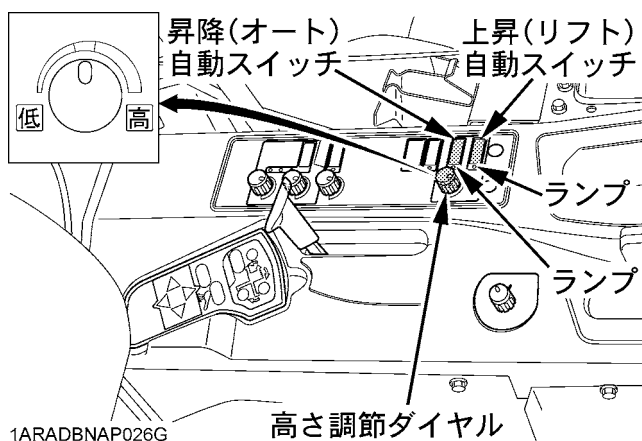
楽刈オート 切

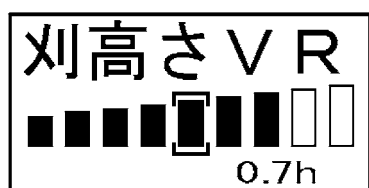
［SD 仕様］

● **高さ調節ダイヤル**

ほ場条件に応じて刈取部の高さ調節を行なうダイヤルです。
ダイヤルを**時計方向**に回すと刈高さが**高く**なり，**反時計方向**に回すと刈高さが**低く**なります。また，液晶ディスプレイに９段階の目盛で刈取部の高さを表示します。

[HD 仕様]

[HD 仕様]

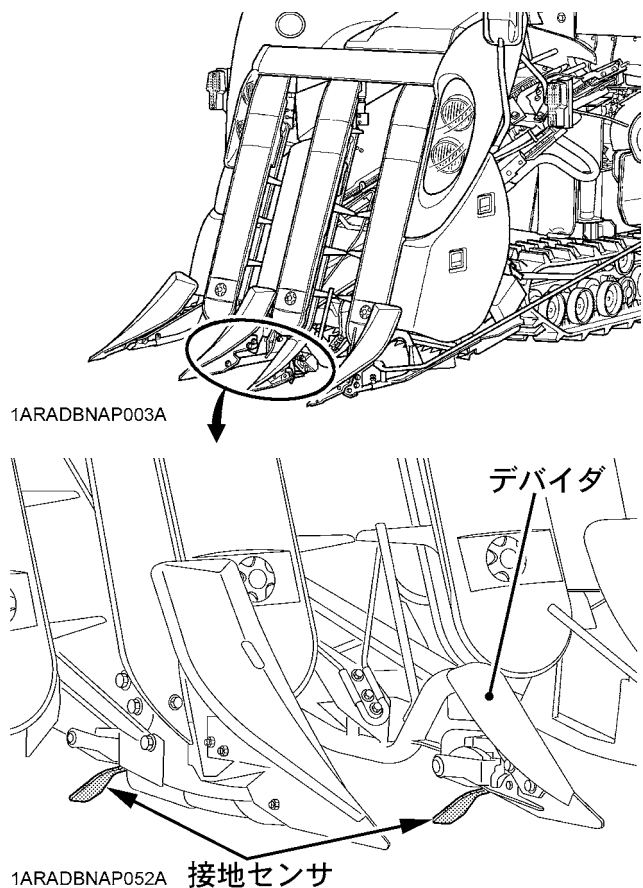
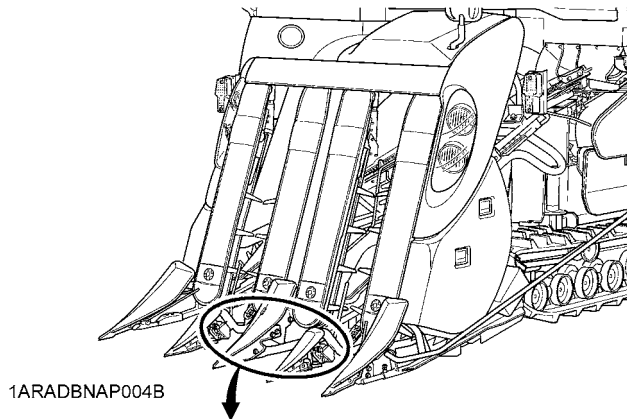
[SD 仕様]

[SD 仕様]

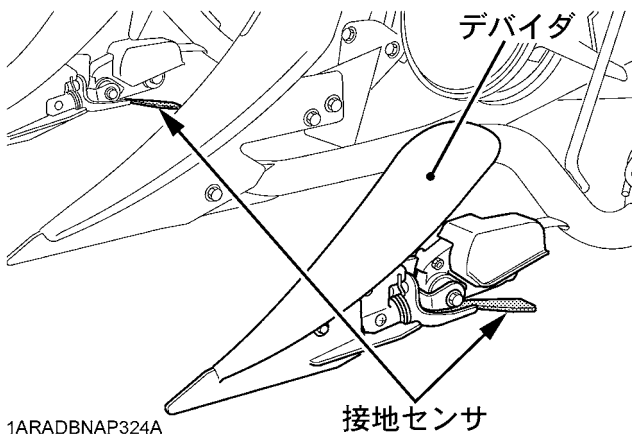
［液晶表示］

補　足

＊ ほ場に溝やわだちがあるときは，突込み防止のため，高さ調節ダイヤルの低１～低３で使用しないでください。

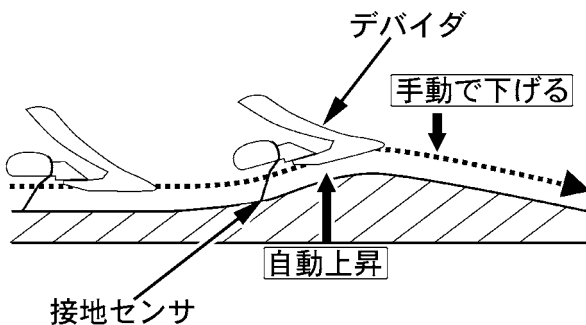
● **上昇自動（リフト），昇降自動（オート）[SD 仕様］について**

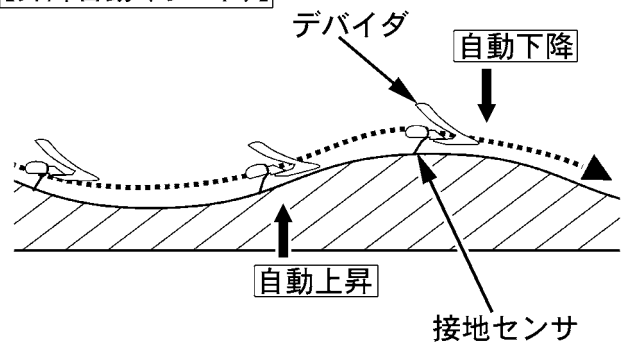
上昇自動（リフト）…
デバイダの地面への突込みを防止する制御のみを行ないます。刈取部を下降する操作はマルチワンレバーで行なってください。
昇降自動（オート）[SD 仕様］…
刈取部が地面の凹凸に追従し，一定の刈高さに修正・保持します。

[329・335]

[329・335]

[438・447]

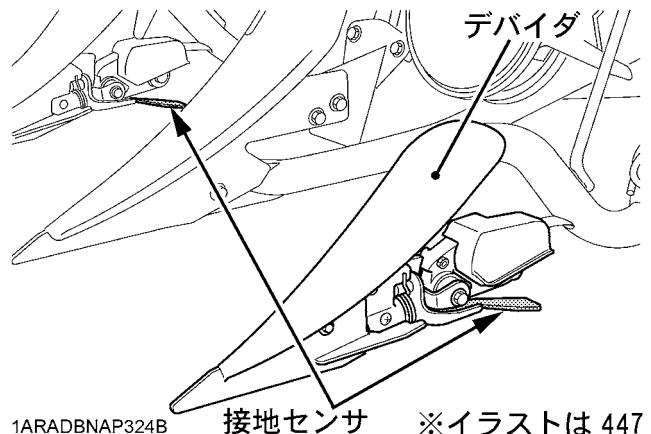
1ARADBNAP004B

1ARADBNAP324A

[438・447]

[上昇自動(リフト)]

1ARAEASAP289A

[昇降自動(オート)]

1ARAEASAP289B

補　足

＊ 自動制御がはたらいているときでも，マルチワンレバーによる操作が優先されます。
＊ 高さ調節ダイヤルを低い側に調整すると，地面の状態により，デバイダの突込みを生じる場合があります。
＊ 刈始めに，切わらや土の盛上りを接地センサが検知して刈取部が上昇する場合は，前進しながらマルチワンレバーで，適正な高さに修正してください。
＊ 接地センサの下部に，泥やわらが付着すると，誤動作することがありますので，エンジンを必ず止めてから泥やわらを取除いてください。

1ARADBNAP324B　※イラストは 447

＊ 左右両方の接地センサがほ場の溝やわだちの上を通ると，デバイダが地面に突込むおそれがありますので，上昇（リフト）自動スイッチ及び昇降（オート）自動スイッチ **[SD 仕様]** を **[切]**（ランプ**消灯**）にし，マルチワンレバーを操作して刈取作業を行なってください。

[HD・SD 仕様]

■刈取オートクラッチ

[HD・SD 仕様]

刈取オートクラッチは，刈取部及び脱こく部が作動中にマルチワンレバーやポジピタスイッチ**[SD仕様]**を操作したとき，刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部及び，フィードチェーン**[SD 仕様]**が停止し，一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

補 足

＊ **[HD 仕様]**の刈取オートクラッチは，刈取搬送部の自動停止機能はありますが，フィードチェーンの自動停止機能はありません。

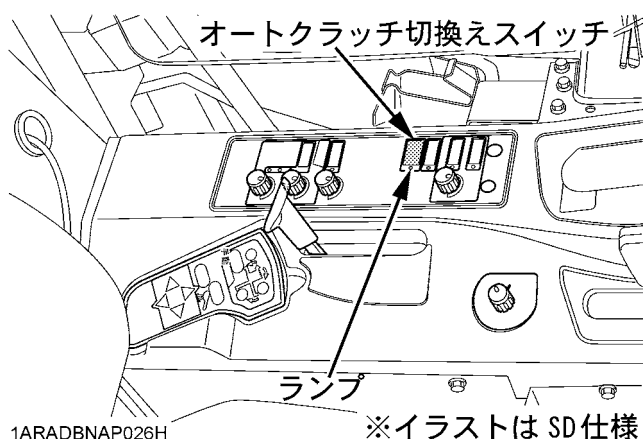
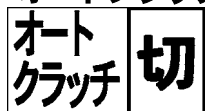
● オートクラッチ切換えスイッチ

刈取オートクラッチの**入／切**をするスイッチです。スイッチを操作すると，液晶ディスプレイに**オートクラッチ［入］／［切］**を一定時間表示します。

オートクラッチ［入］… ランプが点灯し，刈取オートクラッチが作動します。

オート クラッチ 入

オートクラッチ［切］… ランプが消灯し，刈取オートクラッチが解除されます。

オート クラッチ 切

※イラストは SD仕様

[HD・SD 仕様]

■自動脱こく制御装置

[SD 仕様]

自動脱こく制御装置は，もみの量や刈取速度の変化に対応してチャフ開度とトウミ風力を自動的に調節し（作物選択スイッチの**[濡]**除く），安定した選別作業を行なう装置です。

● 作物（手動／麦／稲）選択スイッチ

作物の種類や濡れ状態に合わせて選択を行なうスイッチです。作物選択スイッチを押すと**[稲]** ➡ **[麦]** ➡ **[濡]**の順に切換わります。また，ランプが点灯し，液晶ディスプレイに**稲／麦／通常表示**の表示をします。

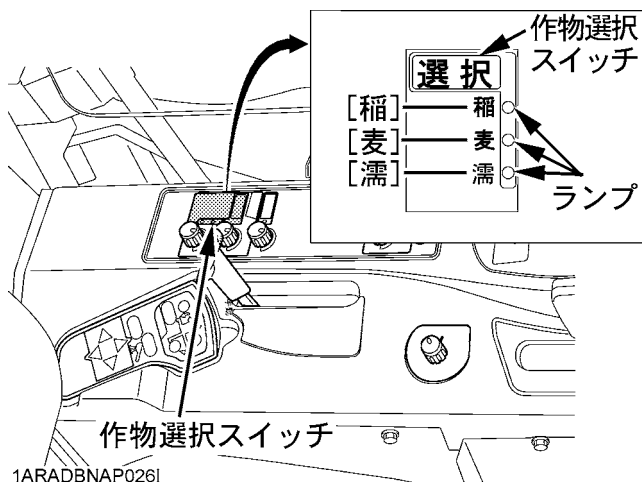
選択スイッチ［麦］…… 作物が麦のときに選択します。

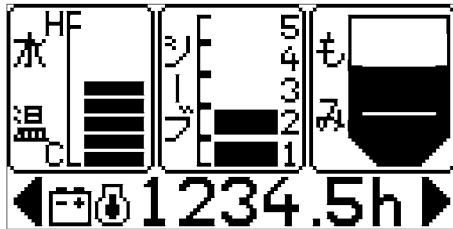
作物 選択 麦

選択スイッチ［稲］…… 作物が稲のときに選択します。

作物 選択 稲

選択スイッチ［濡］…… 濡れた作物のときに選択します。

作物 選択 濡

補　足

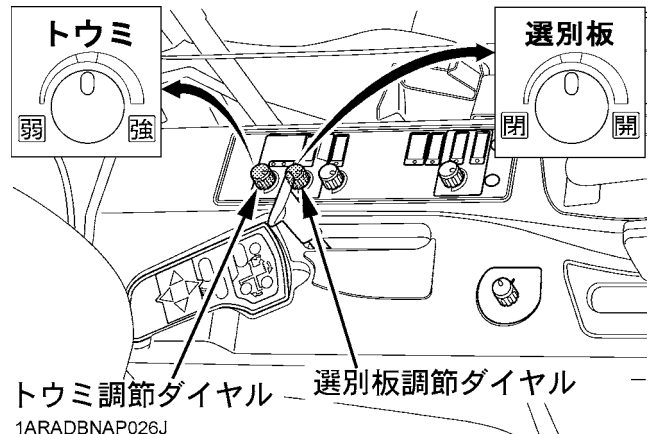
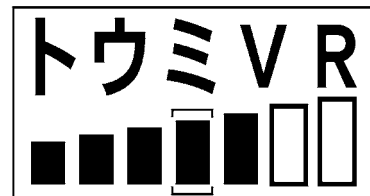
＊ 作物選択スイッチが**［濡］**位置のときは，液晶ディスプレイに**通常表示（水温／シーブ／もみ）**を表示します。

1ARAEAVAP024B

● **トウミ調節ダイヤル**

トウミの風力調節を行なうダイヤルです。風力は，ダイヤルを**時計方向**に回すと**強く**なり，**反時計方向**に回すと**弱く**なります。液晶ディスプレイに７段階の目盛でトウミの風力を表示します。

● **選別板調節ダイヤル**

シーブケース選別板の開度の調節を行なうダイヤルです。ダイヤルを**時計方向**に回すと**開き**，**反時計方向**に回すと**閉じ**ます。また，調節ダイヤルを回すと，液晶ディスプレイに７段階の目盛で選別板の開度を表示します。

1ARADBNAP026J

［液晶表示］

弱い ⟵ トウミの風力 ⟶ 強い

1ARAEASAP233A

［液晶表示］

閉じる ⟵ 選別板の開度 ⟶ 開く

1ARAEASAP234A

［SD 仕様］

◆ グレンタンク関係

■アンローダ自動旋回制御装置

アンローダ自動旋回制御装置は，**[左]**・**[右]**・**[後]**の自動旋回スイッチの操作により，アンローダが**排出位置**に自動旋回し，収納スイッチの操作により，アンローダが**収納位置**に自動旋回する装置です。

● アンローダ自動旋回（左・右・後）スイッチ

アンローダ自動（左・右・後）旋回スイッチを押すと，アンローダが選択した排出位置まで自動旋回します。

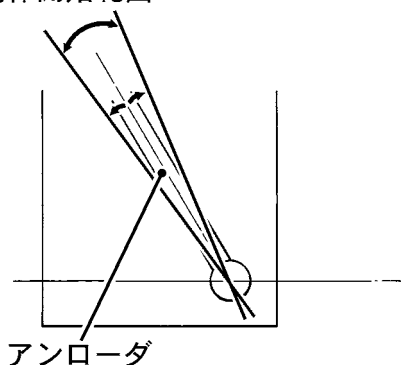
補　足

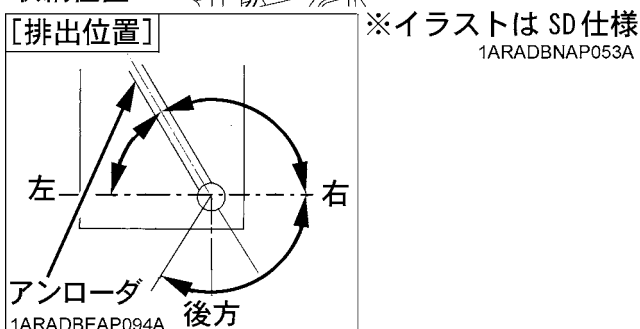
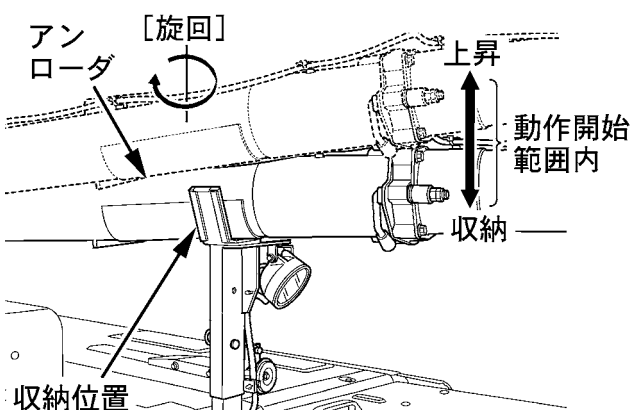
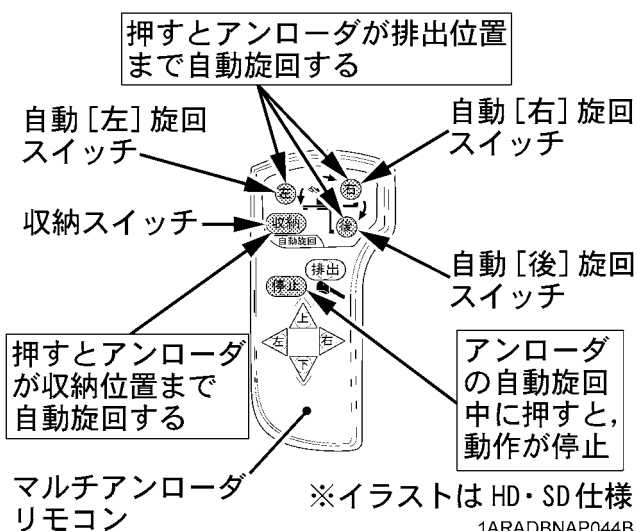
＊ アンローダが動作開始範囲外にあるときは，アンローダ自動旋回（左・右・後）スイッチを押してもアンローダは自動旋回しません。旋回するときは，アンローダ手動スイッチで手動で操作する又は，アンローダをいったんアンローダ受けに収納したあと，アンローダ自動旋回スイッチを操作してください。

● 収納スイッチ

収納スイッチを押すと，アンローダが収納位置まで自動旋回します。

補　足

＊ アンローダが動作開始範囲内にあるときは，収納スイッチを押してもアンローダは収納しません。収納するときは，アンローダ手動スイッチで手動で操作してください。

● 停止スイッチ

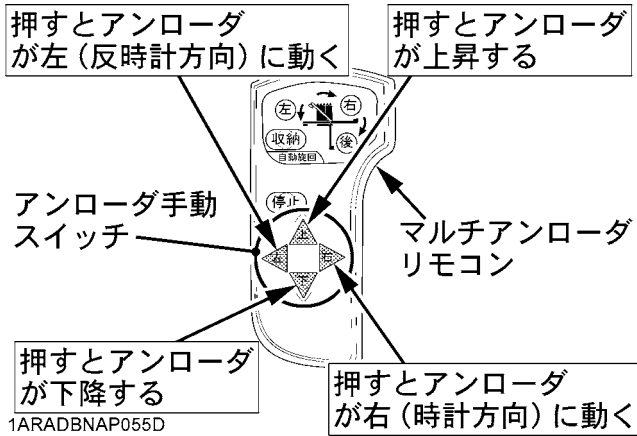
自動上昇・旋回・下降途中で停止スイッチを押すと，その位置でアンローダが停止します。

補　足

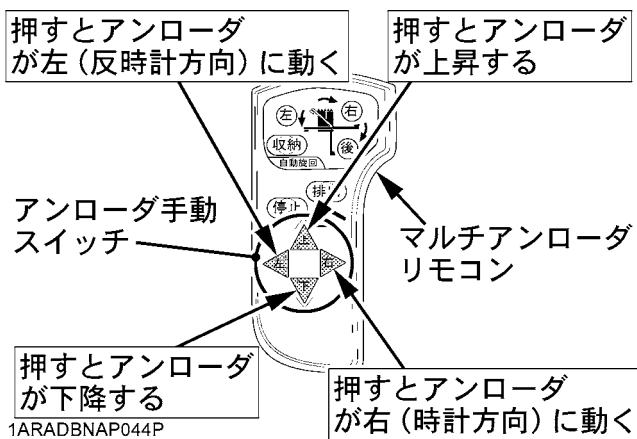
＊ 自動旋回制御装置作動中でもアンローダ手動スイッチの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

＊ 自動旋回制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，アンローダ自動旋回スイッチを押しても自動旋回は作動しません。10 秒程度待ってから自動スイッチを押す又は，停止スイッチを１度押してから自動スイッチを押してください。

■アンローダ手動スイッチ

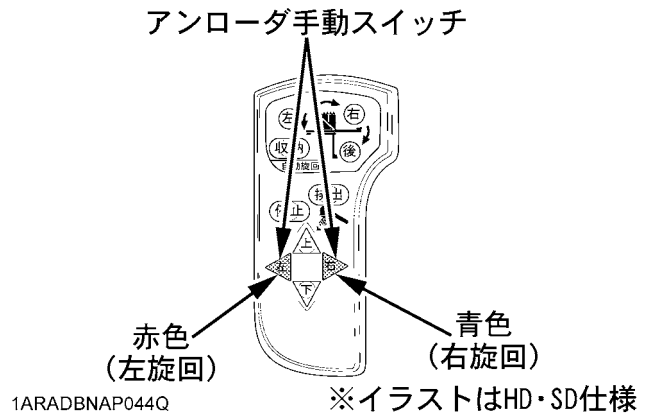
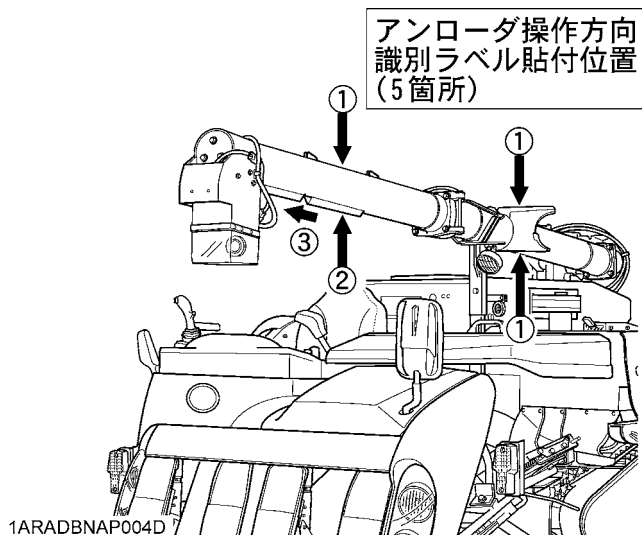
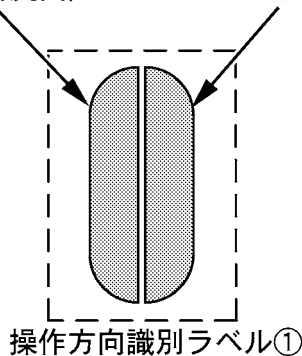
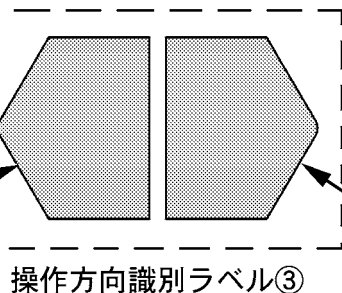
アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動の操作スイッチです。

[DX 仕様]

[DX 仕様]

[HD・SD 仕様]

[HD・SD 仕様]

補　足

＊ アンローダ手動スイッチの **[左]**，**[右]** とアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダ手動スイッチを操作してください。アンローダ手動スイッチの **[左]（赤色）** を押すとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダ手動スイッチの **[右]（青色）** を押すとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。

1ARADBNAP004D

1ARADBEAP096A

1ARADBEAP097A

1ARADBEAP098A

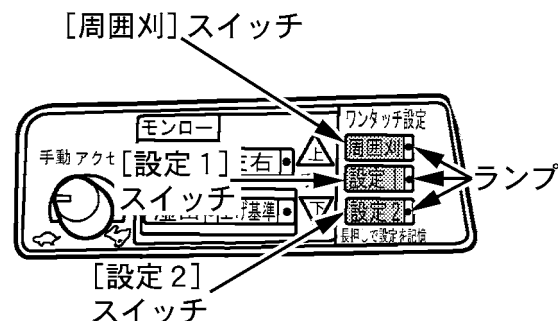
◆ **その他**

■**作業設定スイッチ（ワンタッチ設定）**

［SD 仕様］

作業やほ場の条件に合わせて，はたらかせたい各自動制御装置の組合せを設定するスイッチです。

● **作業設定スイッチ**

［周囲刈］・**［設定１］**・**［設定２］**のいずれかのスイッチを操作すると，ランプが点灯すると同時に液晶ディスプレイに**ワンタッチ［周囲刈］/［切］**・**ワンタッチ［設定１］/［切］**・**ワンタッチ［設定２］/［切］**を一定時間表示します。

1ARADBNAP016O

設定内容の変更を行なうときは，はたらかせたい各自動制御装置を**［入］**（ランプ**点灯**）にしたあと，設定内容を記憶させたい**［周囲刈］**・**［設定１］**・**［設定２］**のいずれかの作業設定スイッチを**“ピピッ”**と音がするまで押してください。
設定が終わったあとは，作業やほ場の条件に合わせて３種類の各作業設定スイッチのいずれかを選び，スイッチを押して切換えてください。

補　足

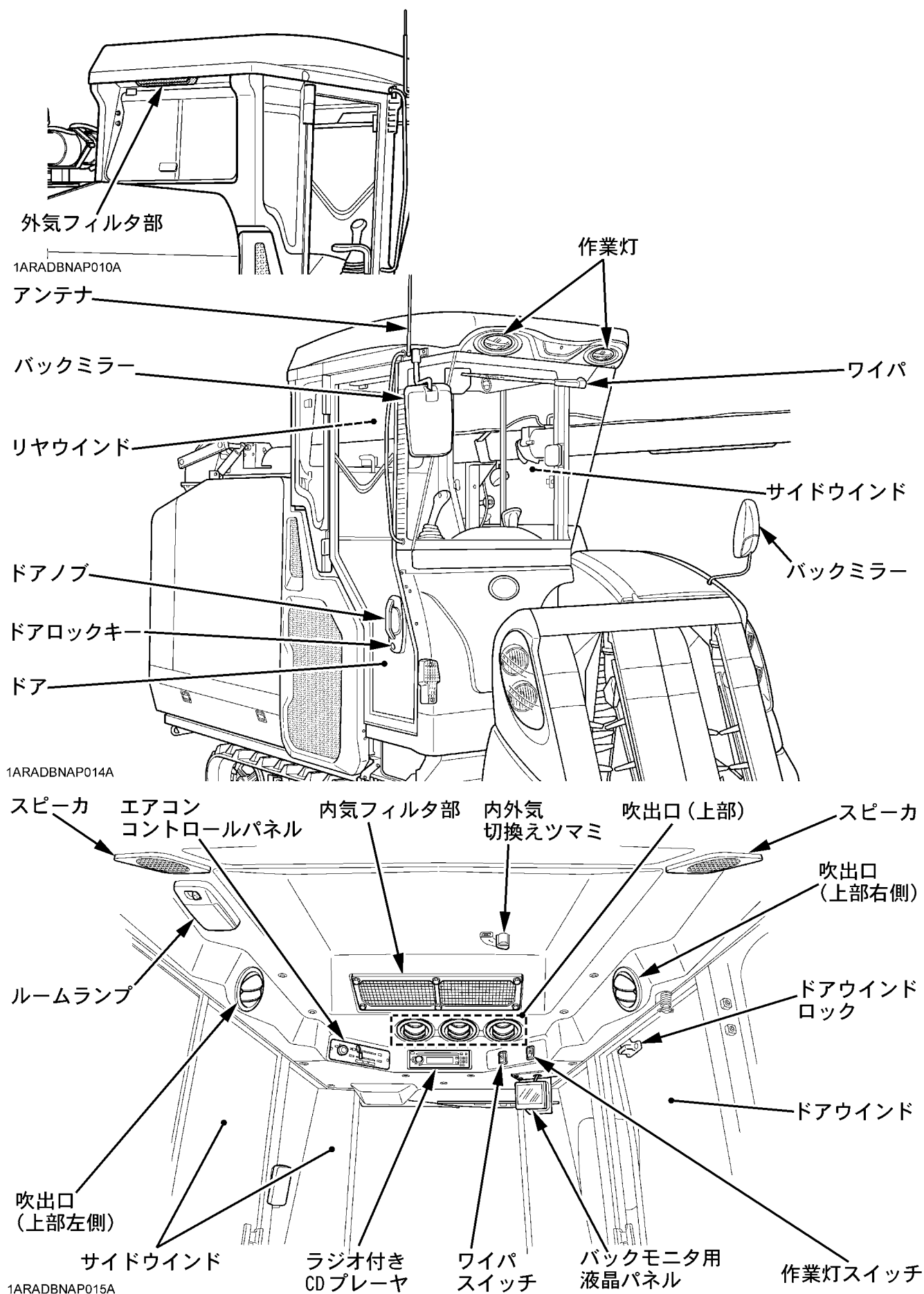
＊ 出荷時の各作業設定スイッチの自動制御装置の設定は下表の通りです。

○：[入]　×：[切]

自動制御装置		作業設定スイッチ		
		周囲刈	設定１	設定２
車速		×	×	○
車体水平		○	○	○
こぎ深さ		○	○	○
刈高さ	リフト	×	×	×
	オート	○	○	○
刈取オートクラッチ		×	○	○
脱こく		**[稲]**	**[稲]**	**[稲]**

※自動車体水平制御は **[4PC]**

[SD 仕様]

キャビン装置の名称とはたらき［Q 仕様］

各装置の取扱い

■ドアの開閉，ロックのしかた

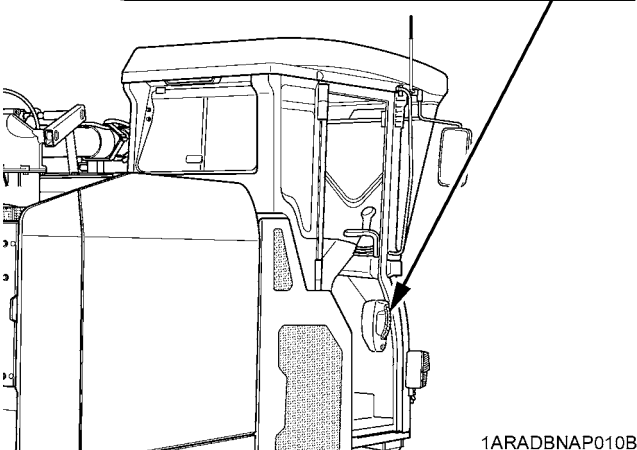
注　意

＊ ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。
＊ ドアは確実に閉じてください。不意にドアが開いてケガをするおそれがあります。

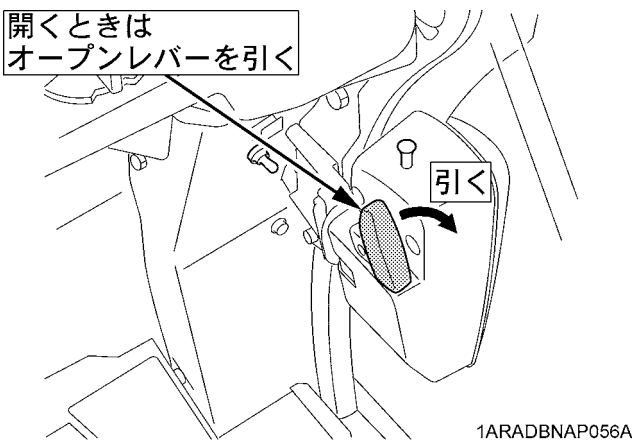
◆ ドアの開閉のしかた

● 室外から

ドアノブを引くと開き，閉じるときは［バタン］と音がするまで強く押す

1ARADBNAP010B

● 室内から

開くときは
オープンレバーを引く

1ARADBNAP056A

重　要

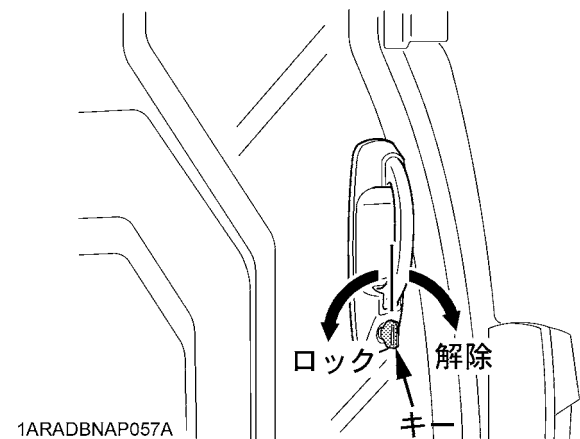
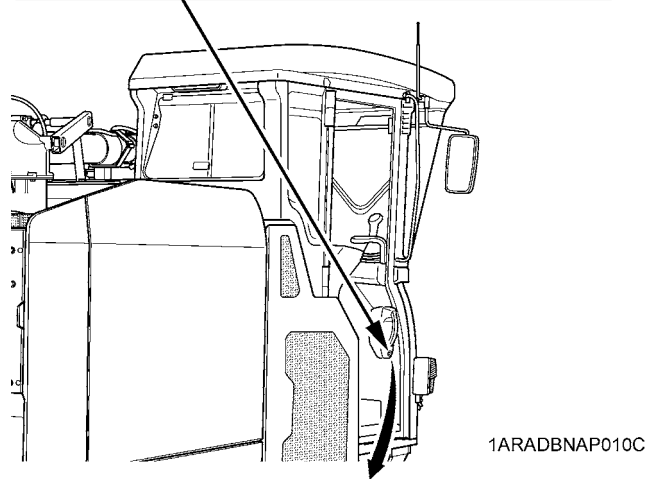
＊ ドアにぶらさがったり，開閉範囲を越えた無理な操作をしないでください。また，閉じるときに物を挟まないでください。ドアが破損するおそれがあります。

◆ ドアのロック・解除のしかた

● 室外から

ドアが閉じている状態で，ドアロックキーにキャビン用キーを差し込む

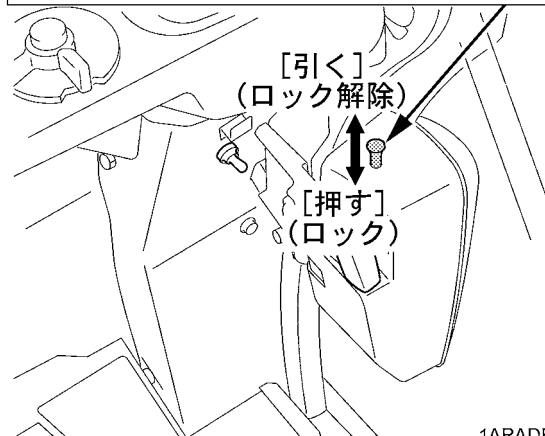
1ARADBNAP010C

1ARADBNAP057A

補　足

＊ 長時間コンバインから離れるときは，必ずドアのロックをしてください。

● 室内から

ドアの開閉をロックするときはロックレバーを押し，解除するときはロックレバーを引く

1ARADBNAP056B

■各ウインドの開閉のしかた

注 意

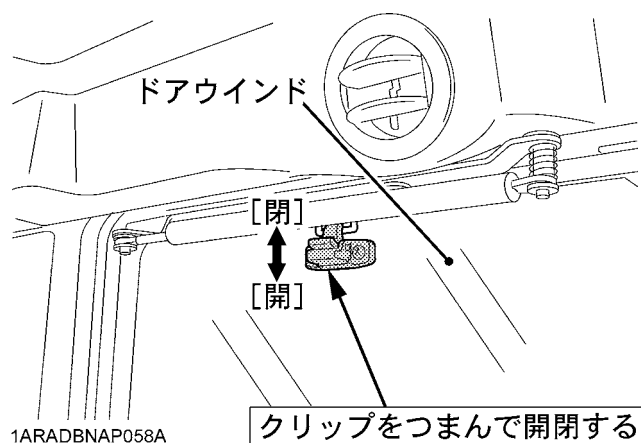
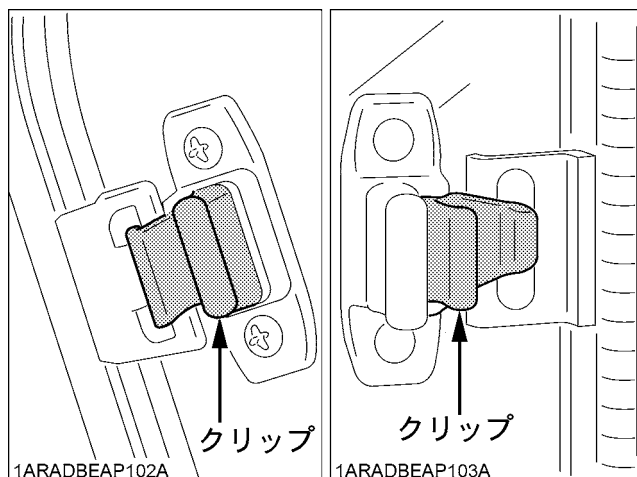
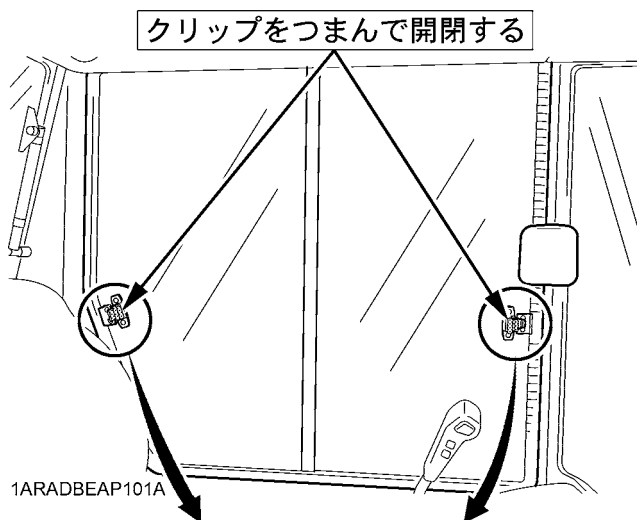
＊ リヤウインド後方で作業をする場合は，頭などを打つおそれがあるため注意してください。

◆ ドアウインド

1ARADBNAP058A

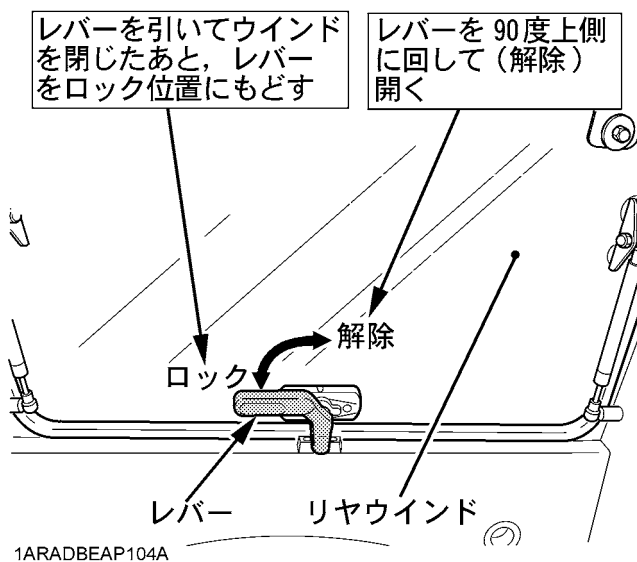
◆ サイドウインド

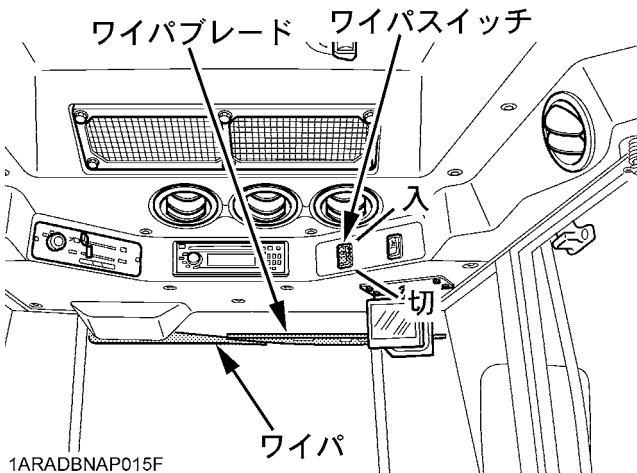
1ARADBEAP101A

1ARADBEAP102A　1ARADBEAP103A

◆ リヤウインド

重 要

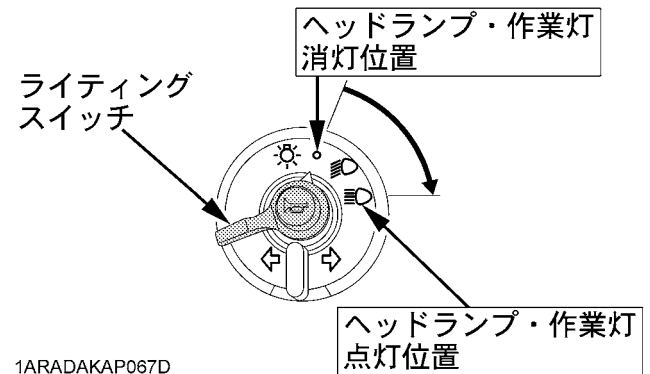
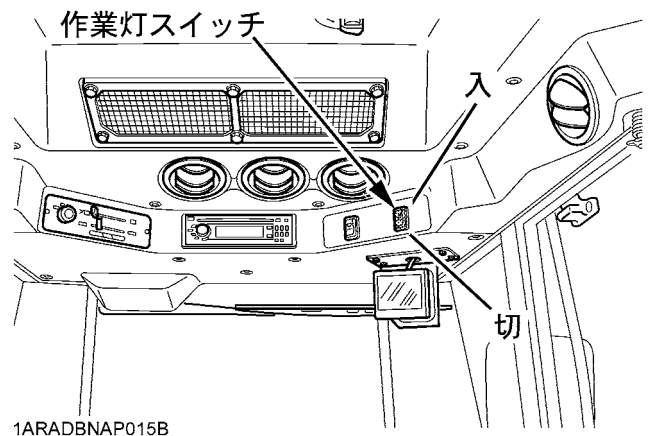
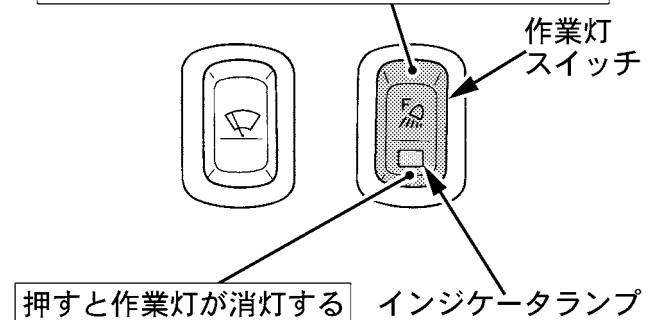
＊ リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

1ARADBEAP104A

■ワイパの使いかた

メインスイッチのキーが **[入]** 位置のとき，ワイパスイッチの上側を押すと作動 **[入]** し，下側を押すと停止 **[切]** します。

重　要

＊ ガラス表面に泥などが付着している場合は，汚れの程度に応じて濡れタオルなどでふき取ってください。泥などが付着したまま作動させると，ガラスのキズ付やワイパブレード（ゴム部）の損傷の原因になります。
＊ 長期使用しなかったときや寒冷時に動かすときは，ワイパブレード（ゴム部）がガラス面に接着していることがありますので注意してください。
＊ エンジンを停止して長時間使用するとバッテリが上がるおそれがあります。

■作業灯スイッチ

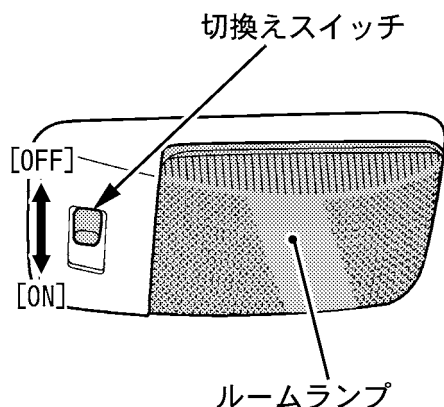
メインスイッチのキーが **[入]** 位置のとき，ライティングスイッチを **[≣◯]** 位置（**ヘッドランプ・作業灯点灯**）にしたあと，作業灯スイッチの上側を押す **[入]** と作業灯が点灯し，下側に押す **[切]** と作業灯が消灯します。

補　足

＊ 夜間など暗いときにライティングスイッチを **[≣◯]（ヘッドランプ点灯）** 位置にすると，作業灯スイッチのバックライトが点灯します。また，作業灯の点灯状態を示すインジケータランプも点灯します。

■ルームランプの使いかた

メインスイッチのキーが【入】位置のとき，ルームランプの切換えスイッチを【ON】（入）にすると点灯します。

【OFF】（切）…　ドアの開閉に関係なく，ランプは点灯しません。

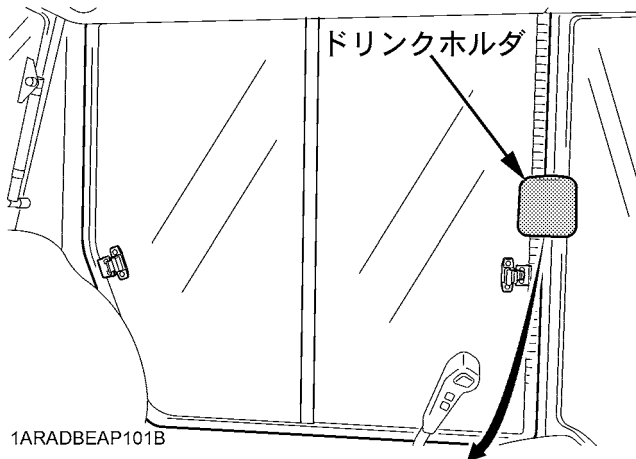
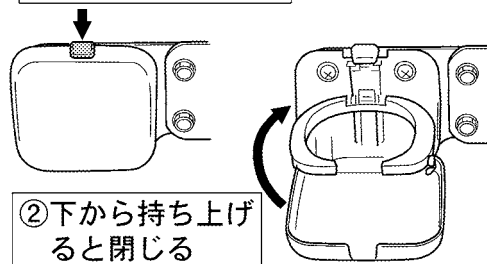
【ON】（入）…　ドアの開閉に関係なく，ランプが点灯します。

1ARAEASAP014A

重　要

＊ エンジンを停止して長時間点灯するとバッテリが上がるおそれがあります。

■ドリンクホルダの使いかた

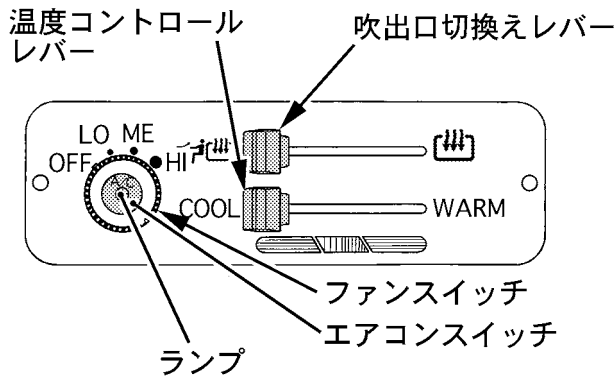
飲料水の置き場として使用してください。使用するときはボタンを押して開き，収納するときはホルダ底をロックするまで下から持上げてください。

1ARADBEAP101B

1AGACBAAP073A

補　足

＊ ドリンクホルダに飲料水以外の物はのせないでください。重量物をのせると破損するおそれがあります。

エアコンの取扱い

■コントロールパネル

1ASADACAP257A

◆ エアコンスイッチ
エアコンの電源を**入・切**するスイッチです。

重　要

＊ １週間以上又は，長期放置後にエアコンを使うとき，エンジン回転をアイドリングしてエアコンスイッチを**［入］**にしてください。エンジン回転が高いままで，エアコンスイッチを**［入］**にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

補　足

＊ エアコンスイッチを押して**［入］**の状態で，ファンスイッチが**［OFF］**位置以外（送風状態）のときに，中央のランプ（青色）が点灯します。

◆ ファンスイッチ
風量を調節するスイッチです。スイッチを回すことにより３段階（**LO（弱）←→ ME（中）←→ HI（強）**）の調節が行なえます。

補　足

＊ ファンスイッチが**［OFF］**位置のとき，送風が停止すると同時にエアコンの電源も切れます。（ランプ消灯）

◆ 温度コントロールレバー
温度を調整するレバーです。レバーを**［COOL］**（左側）に操作すると温度は低くなり，**［WARM］**（右側）に操作すると温度が上がります。

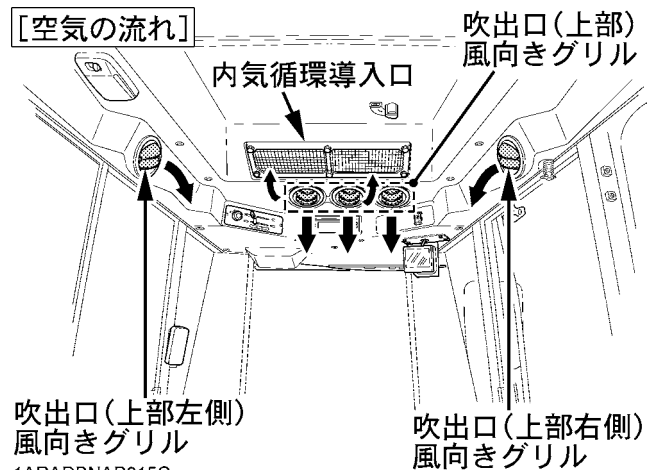
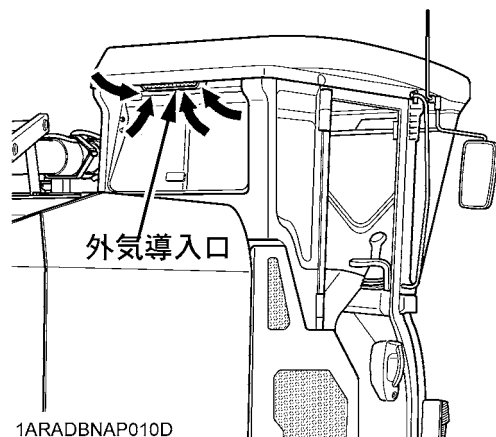
◆ 吹出口切換えレバー
送風の吹出口を切換えるレバーです。

（上部＋両横）…… 吹出口風向グリル（上部）と吹出口（上部両横）より吹出します。

（上部）……… 吹出口風向グリル（上部）より吹出します。

● 吹出口風向きグリルの調整のしかた
吹出口の風向きグリルを動かして風量や風向きの調整を行なってください。

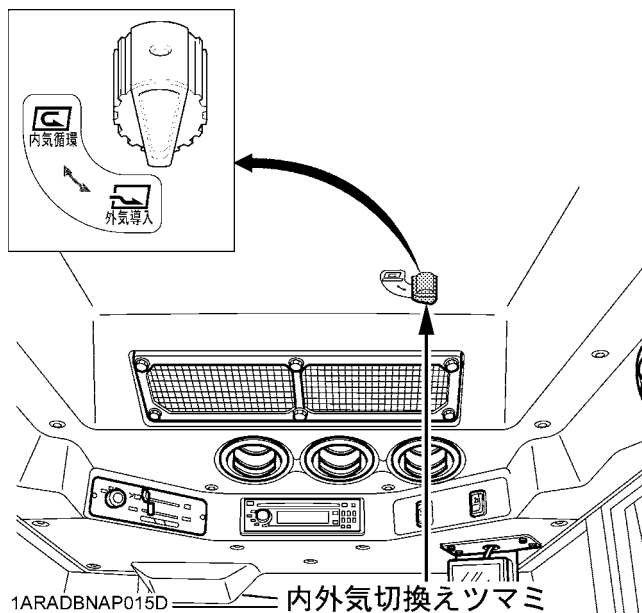
補　足

＊ キャビン内の空気の流れを参照して，吹出口の風量や風力を調節してください。また，外気導入口は，キャビン後部の天井下側にあります。

1ARADBNAP015C

1ARADBNAP010D

■内外気切換えツマミ

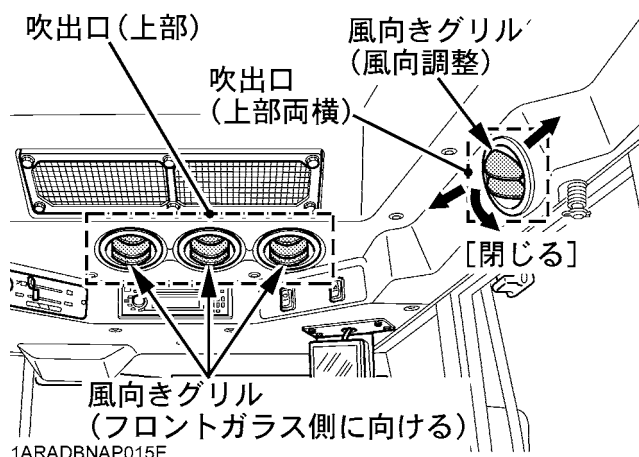
キャビン室内の空気の状態を切換えるツマミです。

(内気循環)… 切換えると内気のみの循環を行ないます。

(外気導入)… 切換えると外気を取入れます。

重　要

＊ 洗車を行なうとき，外気導入口に水をかけないでください。故障の原因になります。

補　足

＊ キャビン室内の温度を早く下げたい又は，上げたいときは，**［内気循環］**位置にしてください。
＊ **［内気循環］**での長時間暖房は避けてください。ガラスがくもりやすくなります。
＊ 作業中にほこりが多いときは，**［外気導入］**位置にしてキャビン内に新鮮な空気を入れてください。
＊ 吹出口（上部前）又は，吹出口（上部両横）の風量は，吹出口風向きグリルの角度を変更して行なってください。風向きグリルを閉じると開いている風向きグリルの風量が増えます。
＊ キャビン内のガラスがくもっているときは，くもりがなくなるまで待ってください。くもりを早く取りたいとき，例えばフロントガラスがくもっているときは，吹出口（上部前）の風向きグリルをフロントガラスに向けたあと，吹出口（上部両横）の風向きグリルを全て閉じてください。

■エアコン操作のしかた

◆ 暖房

1. エアコンスイッチを押し［切］にします。
2. 吹出口切換えレバーを又は,•又は,にします。
3. 内外気切換えツマミを［外気導入］にします。
   早く室温を上げたいときは［内気循環］にします。
4. ファンスイッチと温度コントロールレバーを調整します。

◆ 冷房・除湿暖房

1. 吹出口切換えレバーをにします。
2. 内外気切換えツマミを［外気導入］にします。
3. エアコンスイッチを押し［入］にします。
4. ファンスイッチを調整します。
5. 温度コントロールレバーを［COOL］位置（左端）又は，中間位置に調整します。

補　足

＊ 冷房・除湿暖房の運転状態で，温度調整つまみを中間位置で使用すると，顔が涼しく足元が暖かい（頭寒足熱）快適な状態となります。

◆ デフロスト

フロントガラスのくもり及び凍結除去するときは,

1. 吹出口(上部)を,フロントガラスに向けます。
2. 吹出口切換えレバーをにします。
3. 内外気切換えツマミを［外気導入］にします。
4. ファンスイッチを［HI(強)］,温度コントロールレバーを［WARM］位置（右端）に回します。

補　足

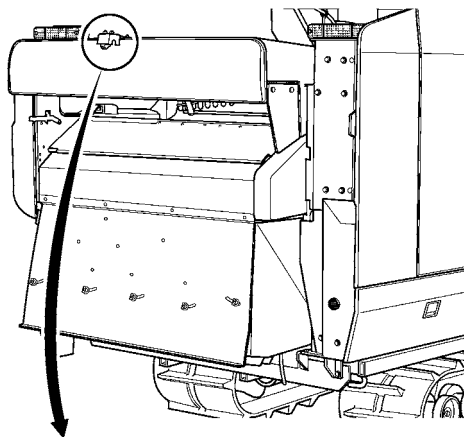
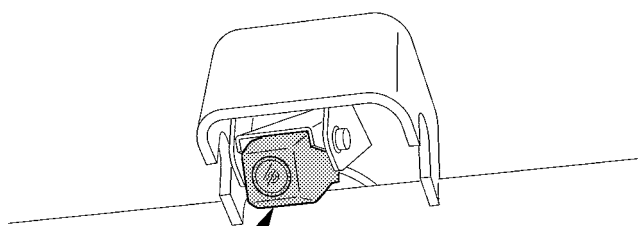
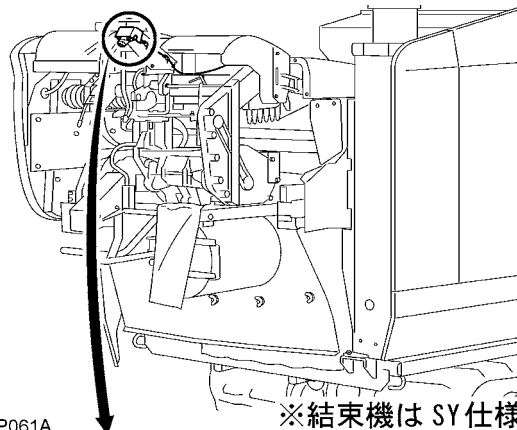
＊ 湿度が高く窓ガラスがくもりやすいときは，除湿暖房を行なってください。
＊ 健康上，冷房はやや弱い目に効かせてください。また，冷風は身体１箇所に集中して風を当てるのは避けてください。
＊ 連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると，冷気吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転は避けてください。
＊ エンジンの冷却水の水温が高くなるまでは暖房ができません。

バックモニタの取扱い

警　告

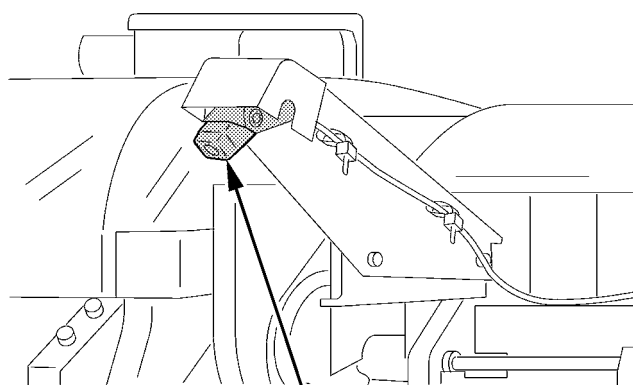
＊ **後進するときは，液晶パネル画像確認以外にも，必ずバックミラーや目視で後方確認作業を行なってください。CCD カメラの死角になっている人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。**
＊ **CCD　カメラから液晶パネルに写し出される広角の画像に慣れるまでは，ゆっくりと慎重に運転してください。速度を上げて後進すると判断を誤まり，人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。**

注　意

＊ **他の目的で使用したり，他の機械などで使用しないでください。感電やケガをするおそれがあります。**

1ARADBNAP010E

1ARADBNAP060A

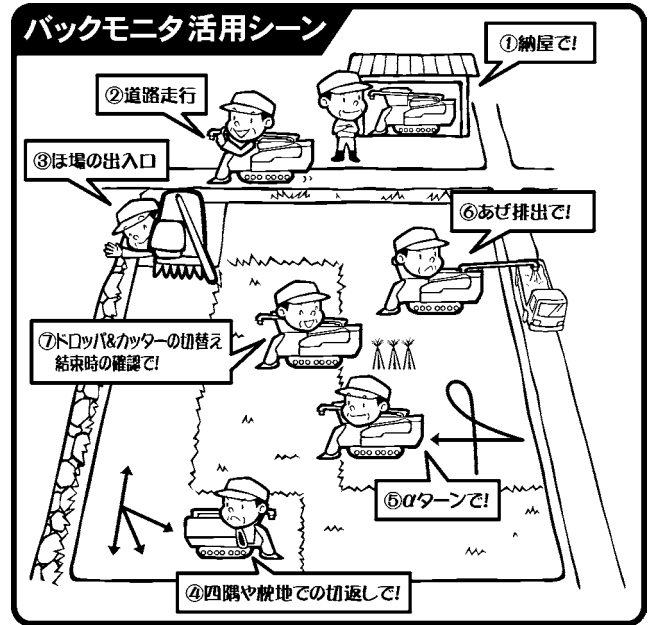
［結束機付き仕様］

1ARADBNAP061A

1ARADBNAP062A

［結束機付き仕様］

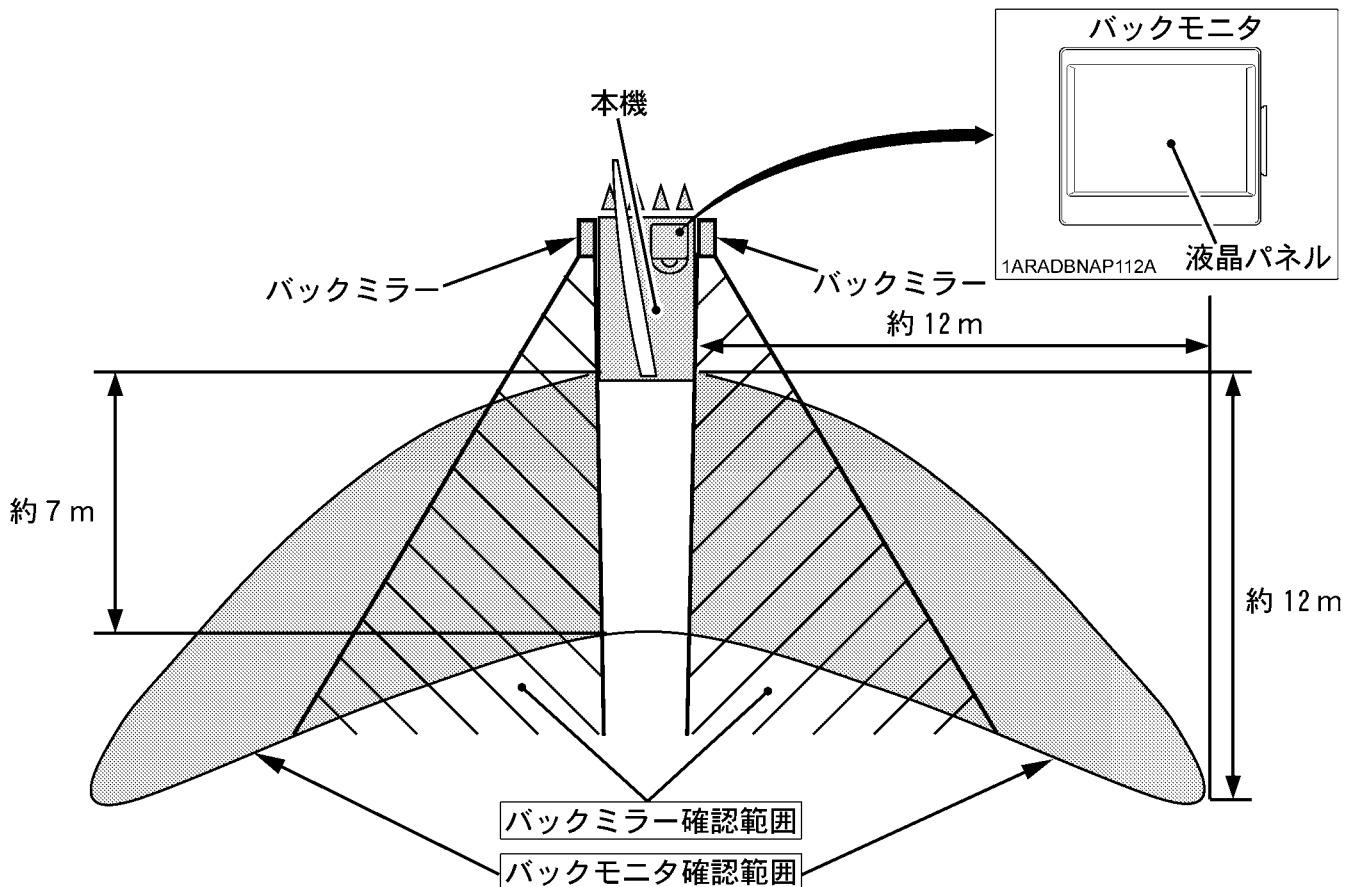
■バックモニタについて

バックモニタは機体後進時，機体後方周辺の安全確認を行なうための補助装置です。
下記作業などを行なう場合の確認作業に活用してください。

- 移動走行時，収穫作業時，納屋格納時などの後方確認作業。
- ほ場の出入り，枕地での切返し，あぜ際などでの機体の位置確認作業。
- 排わら処理の切換え確認や排わら処理状態の確認作業。

1ARAEAQAP067A

■液晶パネルについて

液晶パネルに写し出される範囲(確認範囲)は左右約 12m,後方左右両端部約 12m,後方真後で約 7 m です。

バックモニタ
本機
バックミラー
バックミラー
約 12 m
約 7 m
約 12 m
液晶パネル
1ARADBNAP112A
バックミラー確認範囲
バックモニタ確認範囲

1ARADBNAP118A

補　足

＊ 上図の範囲は目安です。CCD カメラの角度設定により確認範囲は異なります。

■ **CCD カメラの取扱いについて**

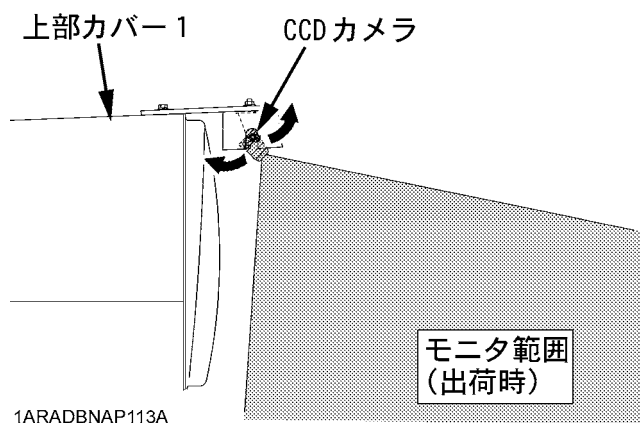
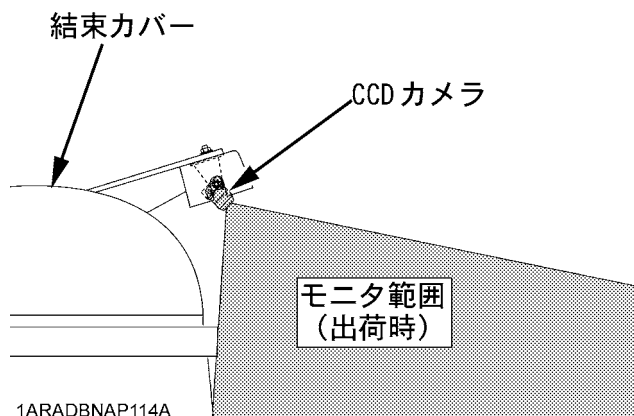
バックモニタの液晶パネルに写し出される画像での確認範囲の前後方向の修正は，機体後方のカッタ上部カバー１又は，結束カバー**［結束機付き仕様］**に取付けているCCDカメラを前後方向に回動して調整を行なってください。

◆ **調整のしかた**

1. メインスイッチのキーを**［入］**位置にすると，液晶パネルに画像が写し出されます。

重　要

＊ エンジンの始動は必要ありませんが，長時間に亘り調整作業を行なうとバッテリ上がりの原因となります。

2. CCD カメラを前後方向に手で回動して調整を行ないます。

［結束機付き仕様］

［結束機付き仕様］

3. 液晶パネルの画像を確認し，目標とするモニタ範囲になるまで再調整を行ないます。
4. メインスイッチのキーを**［切］**位置にして液晶パネルの電源を切ります。

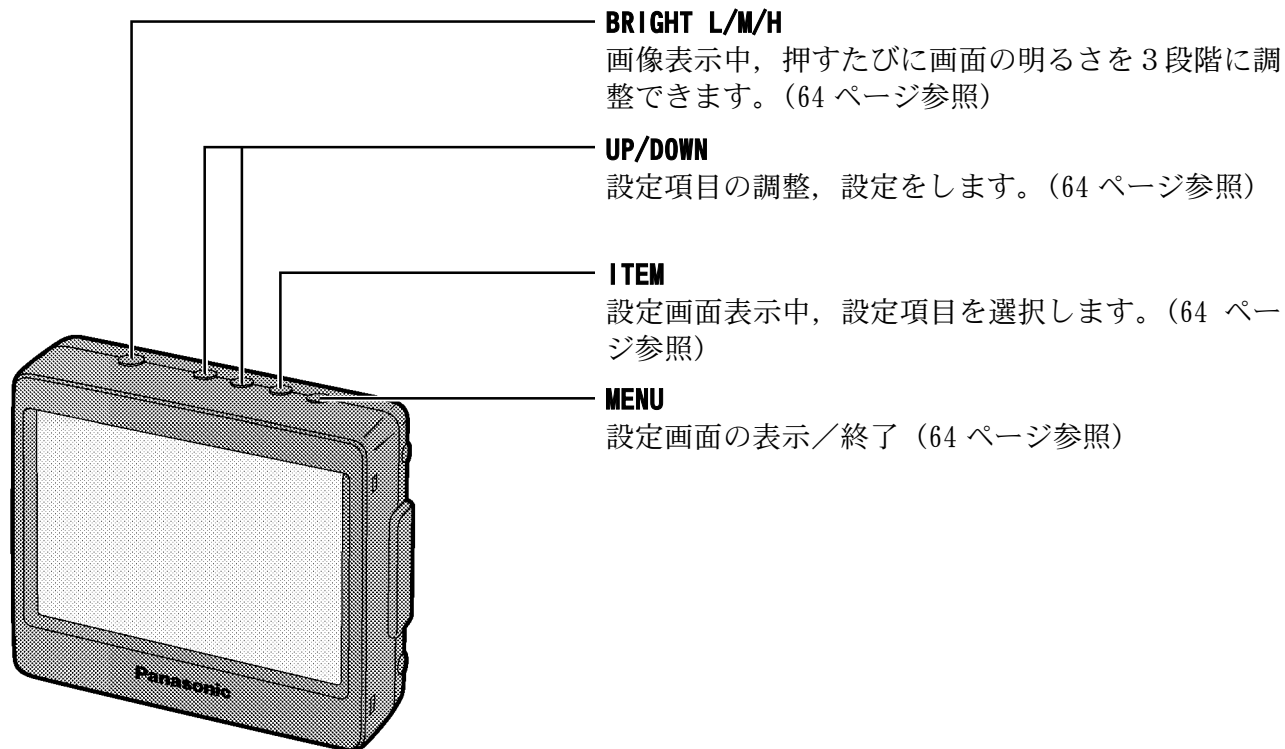
バックモニタの操作

■バックモニタの各部の名称とはたらき

◆ モニタ

BRIGHT L/M/H
画像表示中，押すたびに画面の明るさを３段階に調整できます。(64 ページ参照)

UP/DOWN
設定項目の調整，設定をします。(64 ページ参照)

ITEM
設定画面表示中，設定項目を選択します。(64 ページ参照)

MENU
設定画面の表示／終了（64 ページ参照)

1ARADBNAP119B

■バックモニタの調整

明るさの調整

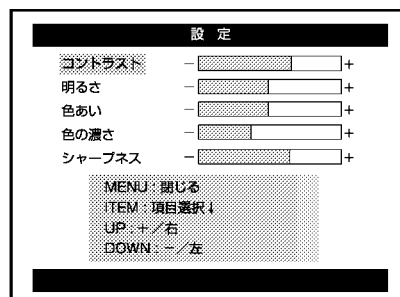
画像表示中，画面の明るさを３段階に調整できます。

[BRIGHT L/M/H] を押すたびに，切換わります。

[L]（やや暗い）→ **[M]**（標準）→ **[H]**（やや明るい）

一番見やすい明るさに設定してください。

初期設定を変える場合には

① **[MENU] を押す。**
設定画面が表示されます。
- 設定画面は２ページあります。

② **[ITEM] を押して，設定を変更したい項目を選ぶ。**
- 次のページを見るには，最後の項目まで進み，もう一度 **[ITEM]** を押す。
- 前のページに戻るには，最後の項目まで進み，もう一度 **[ITEM]** を押す。

③ **[UP]，[DOWN] を押して，設定する。**
DOWN：－／**左**の方向へ移動します
UP：　＋／**右**の方向へ移動します

■ メニュー （１ページ目）

コントラスト	－：白と黒の差が小さくなる	＋：白と黒の差がはっきりする
明るさ	－：暗くなる	＋：明るくなる
色合い	－：緑色が強くなる	＋：赤色が強くなる
色の濃さ	－：色が薄くなる	＋：色が濃くなる
シャープネス	－：くっきり感が減り，おだやかな画像	＋：くっきり感が増す

■ メニュー （２ページ目）

色調	ノーマル（標準）　ウォーム（暖かい感じ）クール（冷たい感じ）
言語（メニュー言語を選べます）	日本語　English（英語）
初期化（設定をお買い上げ時の状態に戻します。）	項目を選んだ状態で，[UP] 又は [DOWN] を押すと実行します。

④ **[MENU] を押す。**
設定画面が終了します。

■バックモニタが故障かな？と思ったら

● 故障かな？と思ったら，修理を依頼する前に，もう一度次の点をお調べください。

症　状	原　因	処　置
カメラの映像が写らない	●各コードの接続や設定は正しいですか？ ●ヒューズが切れている。	各コードの接続状態や設定状態を確認し，正しい状態にしてください。 お買い上げの販売店にご相談ください。
映像が暗い	●明るさは正しく調整されていますか？ ●低温になると，画像が暗くなったり，出画が遅なったりすることがあります。また，映像の動きに違和感，（残像など）が出たり，画質が劣化したりすることがあります。（使用温度範囲：－ 10 ℃～＋ 50 ℃）	明るさ調整で見やすい明るさに調整します。（64 ページ参照） 故障ではありません。常温になってから使用してください。
映像がゆれる	●バッテリの能力以上の電力を消費していませんか？（エアコン，フォグランプなど）	使用する機器を制限する。
映像の色が実際と異なる **色がにじむ**	●本機は，近赤外線の光波長まで感度範囲をのばし，夜間の感度を向上させているため，周囲の光源の種類により被写体（写す物体）の色とは異なって見える場合があります。 ●本機は，広範囲を写すために広角レンズを使用しているため，画面の周囲に，収差（光ったものなどに着色する現象）や色のにじみが発生します。	故障ではありません。 故障ではありません。
映像が不鮮明	●カメラに泥やほこりがついていませんか？ ●液晶パネルに汚れが付いていませんか？	レンズの汚れを拭いてください。（64 ページ参照） 液晶パネルが汚れたときは，柔らかいクロスで，パネルにキズなどがつかないように軽く拭いてください。
画面に白線（光の縦線）が出る	●太陽光を直接映したり，強い光（バンパーからの反射やヘッドライトなど）が入射した場合，光源の上下に明るい縦線が現れることがあります。（スミア現象）	故障ではありません。
画面に赤，青，緑または白点が出る **画素抜け（黒色）がある**	●液晶パネル特有の現象です。液晶パネルは，精密な技術でつくられていますが，画素欠けや常時点灯する場合があります。	故障ではありません。
画面がちらつく	●蛍光灯などで照らされた場所を映した場合，画面がちらつくことがあります。（フリッカー現象）	故障ではありません。
画面が見えにくい	●暗いところを映したとき，部分的に明るい光を映したとき，カメラが高温のとき，画面が見えにくくなることがあります。	故障ではありません。

※上記対処を行なっても復帰しない場合は，本体の電源を切り，お買い求めの販売店にご相談ください。

補　足

＊ 太字の項目の確認には，専門の技術と経験が必要です。安全のため，購入先にご相談ください。

■バックモニタの取扱い上の注意

1. システムの動作中に，ケーブルの抜き差しは絶対におやめください。故障の原因となります。必ず電源を切って（OFF）から行なってください。
2. モニタ画面上の CCD カメラ映像は，広角レンズを採用しているため，人や障害物の距離が実際の距離と比べて詰まって映ります。ご注意ください。
3. 非常に寒いとき，画面の動きが遅くなったり画面が暗くなったりすることがありますが，故障ではありません。常温に戻れば回復します。
4. 液晶パネルの中には，小さな黒点や輝点が出ることがありますが，液晶特有の現象で，故障ではありません。
5. 液晶パネル部の表面は傷つきやすいので，硬いものでこすったり，たたいたりしないでください。
6. 液晶パネル部に水滴などをつけた状態で放置しないでください。変色，シミの原因となります。また，水分が内部に侵入すると故障の原因となります。水滴などがついてしまった場合は，すぐ脱脂綿や柔らかい布などで拭取ってください。
7. 夏期は車内温度が高くなることがありますので，車内の温度を下げてからお使いください。
8. 本製品は－ 10 ℃～＋ 60 ℃の温度範囲の条件下で使用してください。
9. 本製品を分解したり，改造しないでください。火災及び感電の原因となります。
10. 車に設置時，エンジンを止めている状態で長時間使用する場合は，バッテリが過放電される可能性がありますので，必ずエンジンをかけた状態で使用してください。
11. 水や飲料など，異物が入ると故障の原因となります。

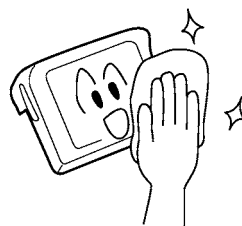
● キャビネットのお手入れ

やわらかい乾いた布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは，水で薄めた中性洗剤をやわらかい布につけて軽く拭取り，乾いた布で仕上げてください。

補　足

＊ 自動車用クリーナなどは，変質したり，塗料がはげる原因となりますので使わないでください。また，ゴムやビニール製品を長時間接触させておくと，シミのつくことがあります。

● 液晶表示部のお手入れ

ホコリがつきやすいので，ときどき，やわらかい布で拭いてください。

補　足

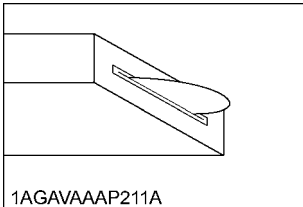
＊ ベンジンやシンナなどの溶剤で液晶パネル部を清掃しないでください。

AM/FMラジオ付きCDプレーヤの取扱い

＊ **運転中は安全のため車外の音が聞こえる音量にしてください。**
＊ **CD が落下して頭にあたったりするおそれがあるので，下図の状態で放置しないでください。**

1AGAVAAAP211A

共通部の操作のしかた

1AGAVAAAP147I

■電源の入／切

1. **[SRC]** ボタンを押すと電源が入り，前回電源を切ったときのソースで始まります。
2. **[SRC]** ボタンを押すたびに，ラジオと CD が交互に切換わります。CD が入っていないときには，**[NO DISC]** と表示されます。
3. **[SRC]** ボタンを約 1 秒間押すとラジオ又は CD への電源が切れます。

補　足

＊ 電源が **[切]** 状態でも，キースイッチが **[ON]** 位置では，時計が表示されます。(時刻の設定は **[時刻合わせ]** の項を参照)

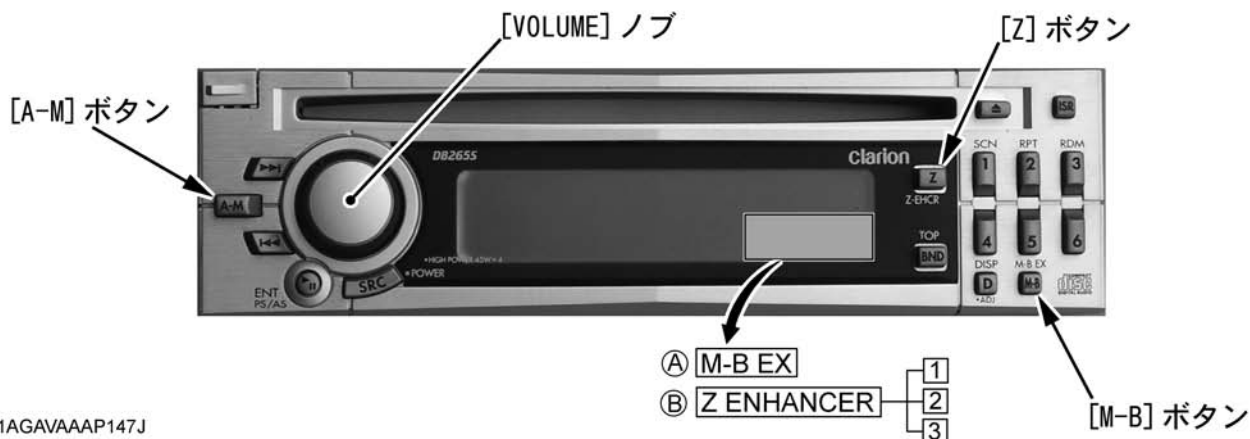
■音量調節

[VOLUME] ノブを左右に調節します。
右へ回すと大きくなり，左へ回すと小さくなります。

補　足

＊ 調節時はディスプレイに音量値が **[VOLUME 0]** ～ **[VOLUME 33]** の範囲内で表示されます。

■リリースボタン

このボタンを押すと操作パネルが外れます。
操作パネルは衝撃に弱いため，必要以外には取り外さないでください。

Ⓐマグナベース EX　ON 時点
Ⓑ Z エンハンサーインジケータ

■音質調整

◆ 音質自動ワンタッチ設定

[Z] ボタンを押すごとにインジケータ表示が下記のように切換わります。お好みの音質を設定してください。

インジケータ	備　考
Z ENHANCER 1	低音を重視したサウンド
Z ENHANCER 2	高音を重視したサウンド
Z ENHANCER 3	低音と高音を重視したサウンド
消灯（OFF）	初期設定

◆ 音質手動設定

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BASS]** または **[TREB]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回し調節します。
   右へ回すと強調され，左へ回すと減衰されます。（調整範囲は，－ 7 ～＋ 7 です。）
4. **[A-M]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音質は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

■重低音の増強

[M-B] ボタンを押すと，マグナ・ベース EX（MAGNA BASS EX）が ON になり，重低音が増強されます。**[M-B]** ボタンを再度押すと，マグナ・ベース EX 機能が解除されます。

■**時計表示への切換え**

[D] ボタンを押すごとに下記のように表示が切換わります。

ラジオモードの場合

	表示例
周波数表示	FM 1 83.00
時間表示	AM 10:05

CD モードの場合

	表示例
演奏状態表示	TO 1 00:01
時間表示	PM 10:05

補 足

* 常に時計を表示させるには，スクリーンセーバー機能を **[SS OFF]** に設定します。
（**[スクリーンセーバーの設定]** の項を参照）
* 時計表示のときは，ラジオの選局や CD の選曲などのボタン操作時に，受信周波数やトラック No. などを表示した後，元の時計表示に戻ります。

■**時刻合わせ**

1. キースイッチを **[ON]** にします。
2. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し，**[SCRN SVR]** を表示させる。
3. サーチボタンを押して，**[CLOCK〈E〉]** を選択します。
4. プレイ / ポーズボタンを押します。
調整時点（**[AM 10:16]** など）の時刻を表示して，時刻設定モードになります。
5. サーチボタンを押して，「時」または「分」を選択します。
点滅している項目が調整できます。
6. **[VOLUME]** ノブを回して，時刻を合わせます。
7. プレイ / ポーズボタンを押すと設定が完了します。

補 足

* 時計は 12 時間表示です。
* 時刻を合わせる途中で他のボタンを操作すると，時刻調整は解除されます。

■左右スピーカの音量バランス調整

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BAL]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回します。

右へ回すと右側が強調され，左へ回すと左側が強調されます。（調整範囲は，L13 ～ R13 です。）

4. **[A-M]**ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音量は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

■スクリーンセーバーの設定

1. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し，**[SCRN SVR]** を表示させる。
2. サーチボタンを押して，**[SCRN SVR]** を選択します。
3. **[VOLUME]** ノブを回して，**[SS　ON]** 又は **[SS OFF]** を選択します。

SS ON	スクリーンセーバー機能がONになります。 演奏などの状態表示で30秒間何も操作しないと，スクリーンセーバー表示になります。
SS OFF	スクリーンセーバー機能が OFF になります。

4. **[D]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 初期設定は **[SS ON]** です。ディスプレイに演奏状態を常に表示させておきたい場合は，**[SS OFF]** に設定しておいてください。

ラジオを聴くには

1AGAVAAAP147M

■ラジオの選択

1. **[SRC]** ボタンを押すと受信バンドと受信周波数（**[FM1 83.00]** など）を表示して，ラジオが選択されます。

補　足

＊ **[SRC]** ボタンを押すたびに，ラジオと CD が切換わります。

■受信バンドの選択

1. **[BND]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイが切換わります。
   お好みのバンドを選択してください。

FM1 → FM2 → AM1 → AM2

■クイック選局（ISR 機能）

ISR 機能とはどのソースからでもすぐに，特定の放送局を呼び出す機能です。
交通情報など，運転中に聴きたい情報などをすばやく選局できます。

1. **[ISR]** ボタンを押すと，ディスプレイに **[ISR 1620]** が表示されます。
2. **[ISR]** ボタン又は **[SRC]** ボタンを押すと，元のソースに戻ります。

補　足

＊ 初期設定では，AM1620kHz の交通情報が登録されています。

◆ 登録のしかた

登録させたい放送局を選局し，**[ISR]** ボタンを約 2 秒間押すと登録されます。

Ⓐ **ST：ステレオ放送受信時に点灯**
Ⓑ **MANU：手動選局モード時点灯**

■**プリセット選局**

あらかじめ自動又は手動でメモリ登録しておくと，ダイレクトボタン（1 ～ 6）を押すだけで選局できます。（登録のしかたは **[メモリ登録（自動選局）]** 又は **[メモリ登録（手動選局）]** の項を参照）

■**メモリ登録（自動選局）**

登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ，計 24 局です。

1. **[BND]** ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
2. プレイ / ポーズボタンを約 2 秒間押します。受信電波の強い放送局が自動的にダイレクトボタン（1 ～ 6）に登録されます。

補　足

＊ 電波の弱い場所では 6 局すべて登録されない場合もあります。

■**メモリ登録（手動選局）**

登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ，計 24 局です。

1. **[BND]** ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
2. サーチボタンを押して登録させたい放送局を選択します。
3. 登録させたいダイレクトボタン（1 ～ 6）を約 2 秒間押すと登録されます。

■**メモリ登録の確認**

プレイ / ポーズボタンを押すと，登録された放送局を順に受信します。
プレイ / ポーズボタンを再度押すと解除されます。

■**自動選局**

1. ディスプレイに **[MANU]** が点灯しているときは，**[BND]**ボタンを約1秒間押し消灯させせます。（消灯時のみ自動選局できます。）
2. サーチボタンを押します。
3. 放送のあるところで自動的に選局が止まります。他を選局したいときは，再度ボタンを押してください。

■**手動選局**

1. ディスプレイに **[MANU]** が消灯しているときは，**[BND]**ボタンを約1秒間押し点灯させせます。（点灯時のみ手動選局できます。）
2. サーチボタンを押して，放送のあるところに合わせます。

CD を聴くには

1AGAVAAAP1470

■ CD の挿入と再生

CD の挿入口に CD を入れると **[T01 00:00]** を表示し，自動的に演奏が始まります。
8cm CD のときは，CD 挿入口の中央に入れます。

すでに CD が入っている場合は，**[SRC]** ボタンを押して CD を選択すると，トラック No. (**[T01 00:00]** など）を表示し，自動的に CD の演奏が始まります。

補　足

＊ 本機は disc マーク表示のあるコンパクトディスク以外はご使用になれません。

COMPACT disc DIGITAL AUDIO
1AGAVAAAP1530

＊ CD-R/RW　で記録されたディスクは，使用できない場合があります。
＊ CD は印刷面を上にして入れてください。

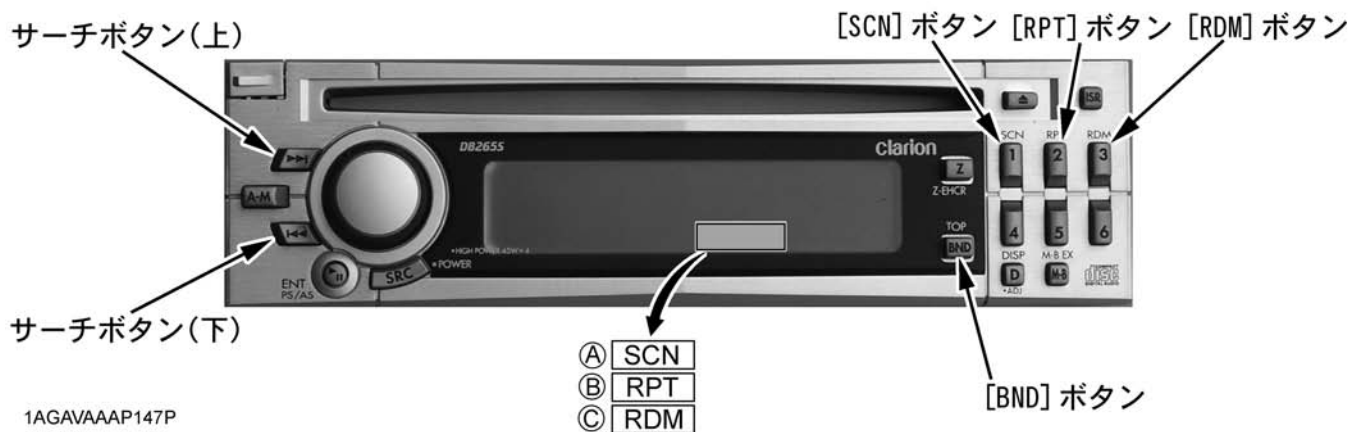
■ CD の取出し

イジェクトボタンを押すと CD が取出されます。

補　足

＊ CD をイジェクトしたままにしておくと，15 秒後に本機内に引き込まれます（オートリロード）。
＊ オートリロード前に無理に CD を押し込むと，CD にキズがつくおそれがあります。
＊ 8cm CD はオートリロードされません。
　イジェクトした場合は，8cm CD を取出してください。

■演奏の一時停止

プレイ / ポーズボタンを押すと **[PAUSE]** が表示され，演奏が一時停止します。
プレイ/ポーズボタンを再度押すと演奏が再開されます。

ⒶSCN：スキャン演奏時に点灯
ⒷRPT：リピート演奏時に点灯
ⒸRDM：ランダム演奏時に点灯

■次の曲／前の曲の選択

次の曲を聴くときは，サーチボタン（上）を押します。また押した回数だけ先の曲が演奏されます。
前の曲を聴くときは，サーチボタン（下）を2回押します。サーチボタン（下）を押すと，演奏中の曲を最初から演奏します。
さらに押すと，押した回数だけ前の曲が演奏されます。
曲の頭部分を演奏しているときにサーチボタン（下）を2回押すと，2つ前の曲へ戻ることがあります。

■早送り／早戻し

早送りするときはサーチボタン（上）を押し続けます。
早戻しするときはサーチボタン（下）を押し続けます。

1秒以上押すと5倍速で，3秒後には30倍速で，演奏曲が早送りまたは早戻しされます。

■トップ機能

[BND]ボタンを押すと，最初の曲（トラックNo.1）から演奏されます。

■曲を探す（スキャン演奏）

CDに収録されている全曲を10秒間ずつ演奏します。
[SCN]ボタンを押すと，ディスプレイの**[SCN]**が点灯して，スキャン演奏します。スキャン演奏は，演奏している曲の次の曲から始まります。

■曲を繰り返し聴く（リピート演奏）

演奏中の1曲を繰り返し演奏します。
[RPT]ボタンを押すと，ディスプレイの**[RPT]**が点灯して，リピート演奏します。

■ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏）

CDに収録されている全曲を順不同に演奏します。
[RDM]ボタンを押すと，ディスプレイの**[RDM]**が点灯して，ランダム演奏します。

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤが故障かな？と思われたら

次のような症状は，故障ではないことがあります。修理を依頼される前に，もう一度次のことをお調べください。

現　象	原　因	修　理
電源が入らない。 （音が出ない）	ヒューズが切れている。	ヒューズ容量を確認し，新しいヒューズと交換してください。 再度切れる場合は，お買い求めの販売店又は最寄の弊社修理相談窓口にご相談ください。
CD がすぐ出てしまう。	CD を裏表逆に入れている。	CD の印刷面を上にして入れてください。
音飛びする。 ノイズなどが入る。	CD が汚れている。	CD を柔らかい布で拭いてください。
	CD に大きい傷やソリがある。	CD を無傷なものに交換してください。
電源を入れた直後音質が悪い。	湿気の多いところに駐車すると，内側のレンズに水滴が付くことがあります。	電源を入れた状態にして 1 時間乾燥させてください。
ボタンを押しても動作しない，又はディスプレイが正確に表示されない。	ノイズなどが原因で，マイコンが誤動作している。	リセットボタンを，細い棒などで約 2 秒間押してください。 リセットボタンを押したときは，設定したプリセットメモリなどが全て消えますので，もう一度設定し直してください。

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのエラー表示について

本機はシステム保護のため，各種の自己診断機能を備えています。
傷害が発生したときには，各種のエラーが表示されますので，対処方法にしたがって傷害を取除いてください。障害を取除けば，通常の動作に復帰します。

エラー表示	原　因	対処方法
ＥＲ ２	本機の CD デッキ内の CD が引掛かってイジェクトされないとき。	引掛かる要素を取除いてください。CD がイジェクトされない場合は，機器の故障と思われますので，お買い求めの販売店にご相談ください。
ＥＲ ３	本機の CD デッキ内の CD に傷などがあり，演奏できないとき。	傷やソリのない CD と交換してください。

※上記対処を行なっても復帰しない場合は，本体の電源を切り，お買い求めの販売店又は，クラリオン（株）お客様相談室にご相談ください。

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤの取扱い上の注意

1. discマークのついたCDをご使用ください。

   また，ハート形や八角形など，特殊形状の CD は使用しないでください。
   CD-R/CD-RW で記録されたディスクは，使用できない場合があります。
   CD が曇っているときは，やわらかい布でふいてください。
2. 本機はシステム保護のため，各種の自己診断機能を備えています。ディスプレイにエラーが表示されたときには，**［エラー表示について］**の項を参照して障害を取除いてください。障害を取除けば，通常の動作になります。
3. 本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気に十分ご注意ください。
4. 車内の温度に気をつけてください。
   極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，－ 20 ～ 70 度の範囲で使用してください。
5. 本機操作は，安全性の面からできるだけ停車中に行なってください。また運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
6. 本機のお手入れは，乾いたやわらかい布でふいてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また，汚れがひどい場合にはやわらかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽くふき取ってください。
7. CD はディスク面に，傷や指紋をつけないように扱ってください。
   汚れたときは，やわらかい布で，内側から外側へ向かって，よくふいてください。
8. 8cm CD をイジェクトした状態で走行しないでください。走行中の振動により，ディスクが落下するおそれがあります。
9. CD は次のような場所には保管しないでください。
   - 直射日光のあたる場所
   - 湿気やホコリの多い場所
   - 暖房の熱が直接あたる場所

◆ 推奨クリーニングディスク

クラリオン製　CTC-007-210

■ AM/FM ラジオ付き CD プレーヤのお問合わせ

この AM/FM ラジオ付 CD プレーヤの取扱いに関するお問合わせは，下記メーカ窓口でもご相談いただけます。
なお，故障修理に関しては，お買上げの購入先にご相談ください。

クラリオン（株）
　お客様相談室
TEL　0120-112-140
　　（土・日・祝除く / AM9:30 ～ 12：00
　　　　　　　　　　　PM1:00 ～ 5：00）

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，153 ページ以降を参照）

警 告

* **平たんで安全な場所で，エンジンを始動してからの確認作業以外は，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜き，駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。**
* **バッテリの点検･充電･交換中は火気厳禁です。**
* **各部の調整･点検･交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。**
* **取外した回転部のカバー類は，外したままでは衣服などを巻込むおそれがあり危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。**

* **燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
* **運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。**
* **使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。**
* **燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。**
* **バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。**
* **刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。**

重 要

各部への給油と交換

* 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
* 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，必ず指定の**［クボタ純オイル・クボタ純グリース］**を使用してください。
* 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

■日常点検項目

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参 照 ページ
機体の周りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	— — 229 187, 308 ⚠-25
刈刃，わら切刃，カッタ刃	・刃の損傷はないか。	・交換する。	273, 278, 283
受あみ，こぎ歯	・極端な摩耗や破損はないか。（摩耗量の確認）	・組換え又は，交換する。	176, 276
クローラ	・たるみや損傷はないか。	・調整又は，交換する。	302
防じんあみ	・詰まりはないか。	・掃除する。	232
反射器， 反射テープ **［Q 仕様］**	・汚れや損傷はないか。	・掃除又は，交換する。	301
エンジン回りを確認して			
エンジンオイル	・油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	・規定量まで補給する。 ……クボタ純オイル **［329・335・438］**…… D10W-30 **［447］**…… D10W-30 スーパー CD	216
ラジエータ冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの **FULL 線と LOW 線の間**）あるか。	・清水を規定量まで補給する。	225
ラジエータフィン	・詰まりはないか。	・掃除する。	232
オイルクーラフィン			
コンデンサフィン **［Q 仕様］**			
エアクリーナ	・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除又は，エレメントを交換する。	227
ファン駆動ベルト， ミッション駆動ベルト	・たるみはないか。 ・損傷はないか。	・調整する。 ・交換する。	253, 253
パイプ，ホース	・油もれや水もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	229
配線コード	・コネクタの外れはないか。 ・被覆の損傷はないか。	・接続する。 ・交換する。	297

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参　照 ページ
運転席に座りメインスイッチを入れて			
各ランプ	・各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの切れを調べ交換又は，接続をする。 ・バッテリの充電又は交換する。	291， 297， 300
液晶ディスプレイ	・表示はされているか。 ・切換えスイッチを押すと表示内容が変わるか。		
燃料計	・作業に必要な燃料はあるか。	・軽油を補給する。	215
ホーン	・スイッチを押すと鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	297， 300
バックブザー	・主変速レバーを **［後進］** 位置にするとブザーが鳴るか。		
バッテリ	・エンジンは始動するか。	・充電又は，交換する。	291
エンジンを始動して			
エンジン回転計・速度計	・回転計の作動に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	26
エンジン（マフラ）	・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先に連絡してください。	—
刈刃，各チェーン	・注油後の動きに異常はないか。	・調整又は，交換する。	262， 273
各レバー	・各レバーの作動に異常はないか。	・調整する。	239 ～ 243
駐車ブレーキ	・機体は停止するか。また，遊び量は適正か。	・調整する。	239
エンジン停止スイッチ	・スイッチを押すと，ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	23， 297

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ 高速での刈取作業は避けてください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

＊ エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業をするために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊ コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ コンバインに乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。
＊ 始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。
＊ 副変速レバーが［N］（中立）位置では，油圧ロックが作動しないため，坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。

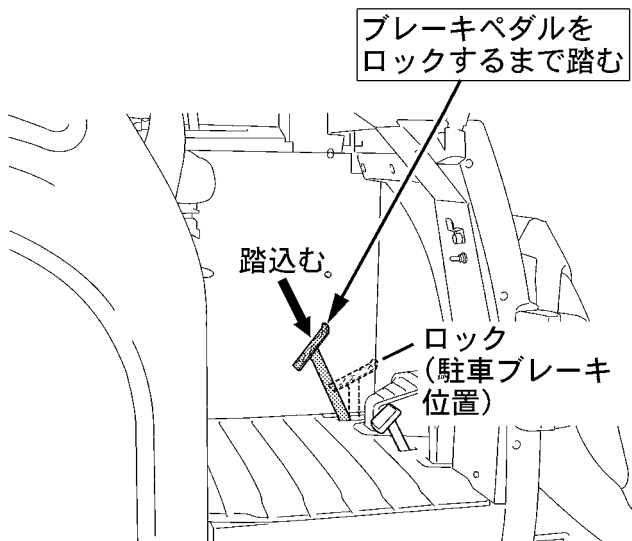
■始動のしかた

1. **ハンドルをしっかりと握り，補助ステップに確実に足を掛けてすべらないように注意しながら運転席に座ります。**

重　要

＊ 運転席へ乗降りするときは，ハンドル以外は握らないでください。特にマルチワンレバーを握って乗降りすると，変形したり，破損する原因となります。また，マルチワンレバーが変形したり破損すると，正常なコンバインの運転が行なえなくなるおそれがあります。

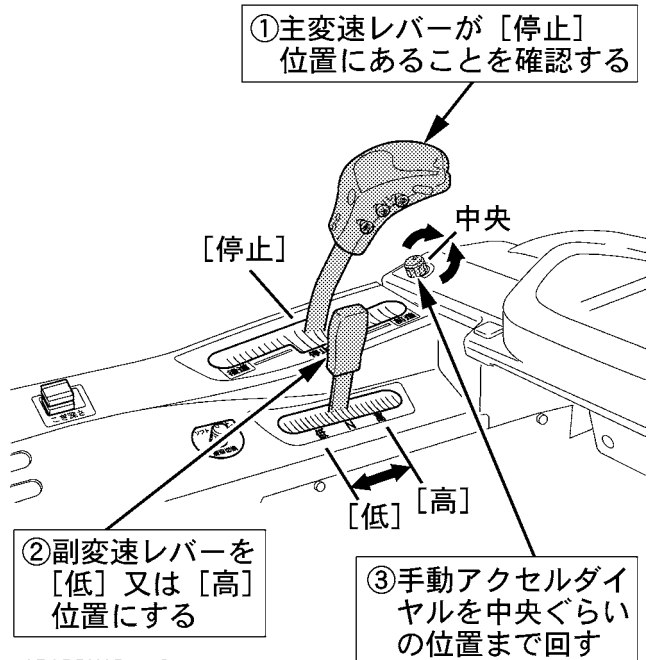
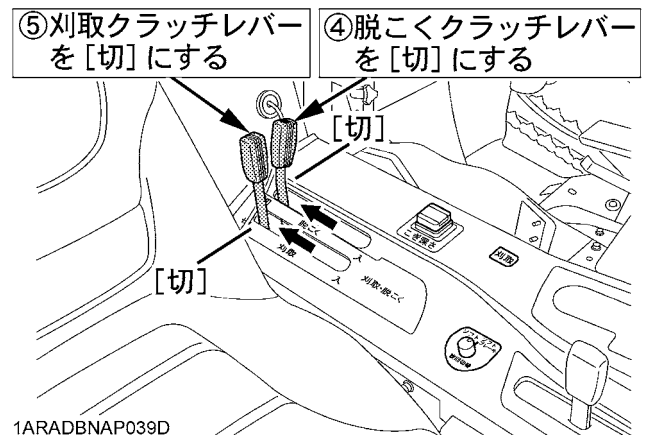
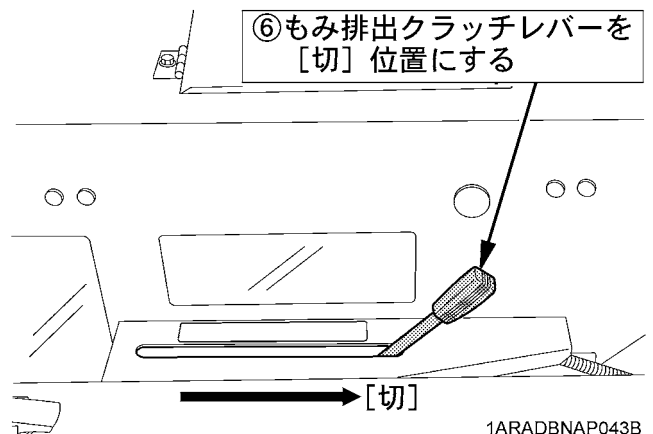
2. **運転席（シート）の調整（17 ページ参照）を行なって楽な姿勢で運転操作が行なえる状態にします。**

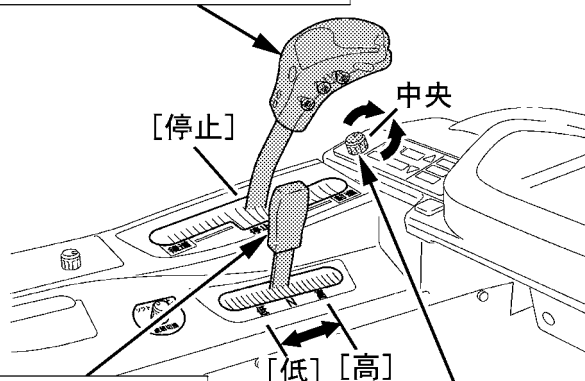
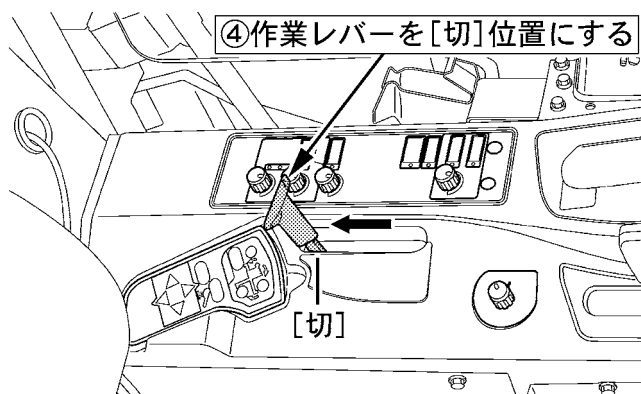
3. **駐車ブレーキを掛けます。**

1ARADBNAP027C

補　足

＊ 駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが **［停止］** 位置に戻ります。また，ブレーキペダルが **［ロック］** 位置の場合は，主変速レバーは動きません。

4. **各レバー位置の確認をします。**

［DX 仕様］

1ARADBNAP028C

1ARADBNAP039D

1ARADBNAP043B

［DX 仕様］

[HD・SD 仕様]

[HD・SD 仕様]

補　足

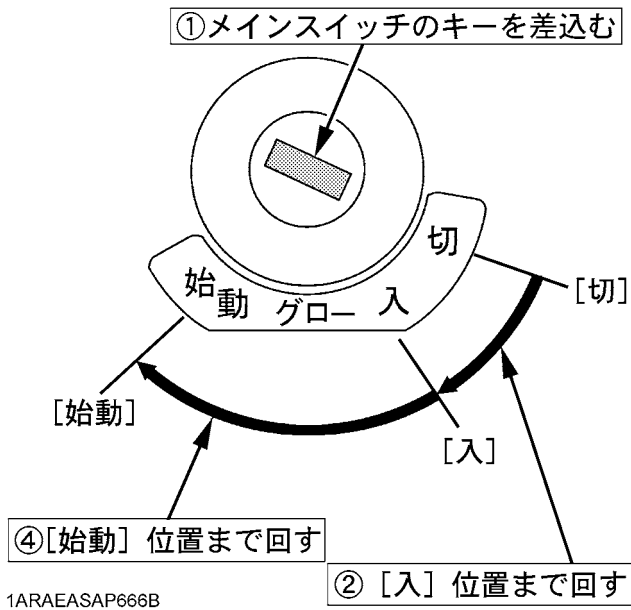
＊ 各レバーの位置がエンジンの始動条件に合っていないと，メインスイッチのキーを回してもエンジンは始動せず液晶ディスプレイに次の内容を表示しますので始動条件に合うように処置を行なってください。

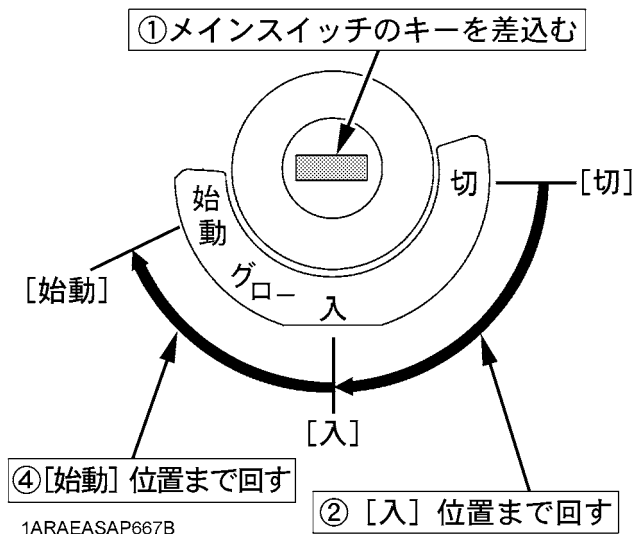
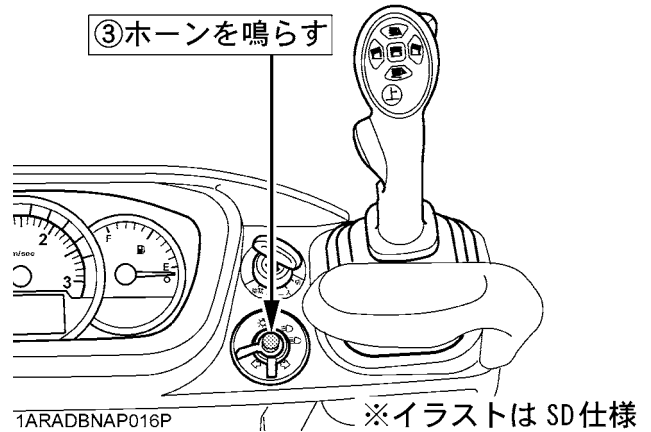
- **［脱こくクラッチを切る］**……
  ［DX 仕様］は脱こくクラッチレバー，**［HD・SD 仕様］**は作業レバーを**［切］**位置にする。
- **［主変速中立にする］**……
  主変速レバーを**［停止］（中立）**位置にする。
- **［駐車ブレーキを踏む］**……
  駐車ブレーキペダルを踏込む。
- **［もみクラッチを切る］**……
  もみ排出クラッチを**［切］**にする。

5. エンジンを始動します。

補　足

＊ エンジンを始動するとき，メインスイッチのキーを**［入］**位置から**［始動］**位置に回しても下記理由により，エンジンはすぐに始動しません。エンジンを始動するときはメインスイッチのキーを**［入］**位置の状態で一定時間待ってからエンジンを始動してください。
- マイコンがエンジンの始動条件を判定するまで約 2 秒かかります。
- 作業レバーを**刈取［切］**又は，**刈取・脱こく［入］**位置でエンジンを停止した場合，次回エンジンを始動するときは，作業レバーを**［切］**位置にしたあと，メインスイッチのキーを**［入］**位置にしてからエンジンの始動条件が整うまでに約 3 秒かかります。従って，この場合はメインスイッチのキーを**［入］**位置にして約 5 秒待ってください。

[Q 仕様除く]

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

[Q 仕様]

重　要

＊ メインスイッチのキーを **[始動]** 位置に回して 10 秒たっても始動しないときは，いったんメインスイッチのキーを **[切]** 位置にして，30 秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。**[始動]** 位置で 10 秒以上回すと故障の原因になります。

＊ エンジン回転中に，メインスイッチのキーを **[始動]** 位置に回すと故障の原因になります。

補　足

＊ メインスイッチのキーを **[入]** 位置にすると，マルチナビの液晶ディスプレイに **[アワメータ・オイル（ ）・充電（ ）]** が表示されますが，エンジンを始動してもオイル又は，充電の図柄の表示が消えないときは，購入先に連絡し，処置してください。

＊ 駐車ブレーキが掛かっている状態でメインスイッチのキーを **[入]** 位置にすると **[駐車ブレーキ（P）]** が優先して表示し，駐車ブレーキを解除すると表示は消えます。

＊ ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

■暖機運転について

エンジン始動後,エンジン回転数を約1500rpmに合わせて通常（寒冷時以外）約5～10分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重 要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。
＊ 寒冷時は暖機運転を怠るとマルチワンレバーが操作できなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　温	暖機運転時間
0℃～-10℃	約10分
-10℃～-15℃	10～15分
-15℃～-20℃	15～20分
-20℃以下	20分以上

■寒冷時の始動のしかた

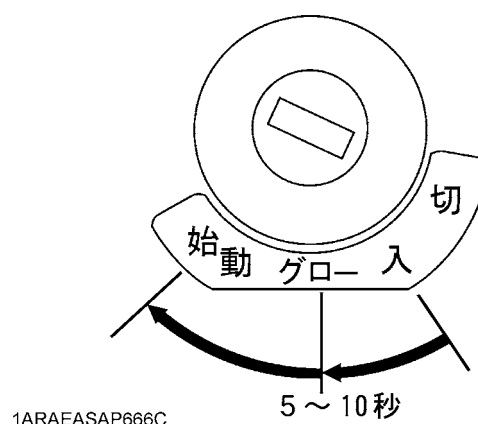
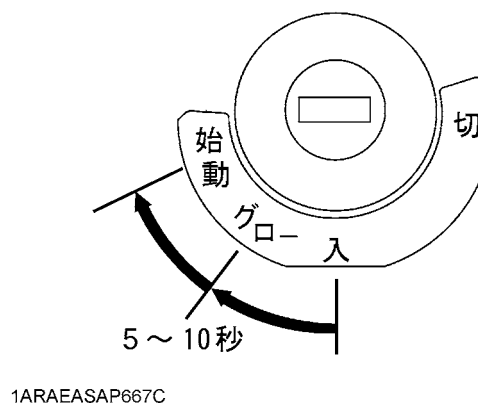
寒冷時にエンジンを始動するときは,始動する前にメインスイッチのキーを**［グロー］**位置で5～10秒間予熱したあと**［始動］**位置に回してください。

[Q仕様除く]

1ARAEASAP666C

[Q仕様除く]

[Q仕様]

1ARAEASAP667C

[Q仕様]

■燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は,

[DX 仕様]

1. 脱こく・刈取クラッチレバー及びメインスイッチのキーを **[切]** 位置にします。

[DX 仕様]

[HD・SD 仕様]

1. 作業レバー及びメインスイッチのキーを **[切]** 位置にします。

[HD・SD 仕様]

2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかた**の **1 〜 4** を確認後,エンジンを始動します。

補　足

＊ メインスイッチのキーを **[入]** 位置にすると約 5 〜 10 秒で自動的にエア抜きされます。

■バッテリが上がったときの始動のしかた

＊ **バッテリの近くに裸火(マッチ,ライタ,タバコの火など)を近づけたり,(+)端子と(−)端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは,バッテリの補充電又は,交換を行なってください。(291 ページ参照)
補充電や交換がすぐに行なえないときは,救援車のバッテリにブースタケーブルを接続してください。

重　要

＊ 接続するバッテリは,必ず 12V のものを利用してください。故障の原因となります。
＊ バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
＊ 充電異常による場合(充電ランプ点灯)は購入先に連絡してください。

補　足

＊ ブースタケーブルの取扱いは,ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ブースタケーブル(赤)をコンバイン側と救援車側のバッテリの **(+)端子**にそれぞれ接続したあと,ブースタケーブル(黒)を救援車側のバッテリの **(−)端子**に接続し,コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は,エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取外します。

■停止のしかた

［DX 仕様］

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを **［切］** 位置にします。

［DX 仕様］

［HD・SD 仕様］

1. 作業レバーを **［切］** 位置にします。

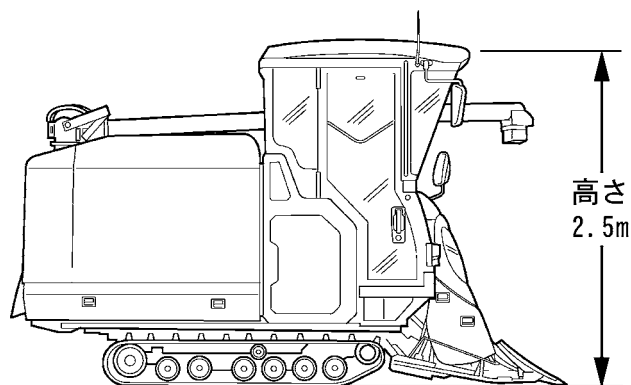
［HD・SD 仕様］

2. 手動アクセルダイヤルを **［🐢］**（低回転）位置にします。
3. メインスイッチのキーを **［切］** 位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊ エンジン停止中でメインスイッチのキーが **［入］** 位置の状態のまま長時間放置すると **バッテリ上り** となります。

移動走行について

＊ グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。
＊ 安全のためヘルメットを着用してください。
＊ 運転者以外の人を乗せないでください。
＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリートの畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊ 水平操作手動スイッチで機体をいっぱい下げた状態にしてください［M 仕様］。
［Q 仕様］は高さ制限のあるところを走行するときは注意してください。

1ARADBNAP063A

＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は，副変速レバーを［低］位置，副変速切換えスイッチを［S］（倒伏位置）位置にし，低速で走行してください。
走行途中に停止するときは，主変速レバーを操作して停止してください。
＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）の走行途中で急なマルチワンレバーの操作や副変速スイッチ，副変速レバー，ブレーキペダル，水平操作手動スイッチ［M 仕様］，傾斜角手動調節スイッチ［M 仕様］，かき込みペダル，旋回モード切換えダイヤル，アンローダリモコンを操作すると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下する危険がありますので操作しないでください。
＊ あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは，速度を最低速にし，あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

＊ **下記のようなところは，転倒しケガをするおそれがあるので走行しないでください。**
- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**

重　要

＊ 路面の凹凸（溝や穴など）や荒れた路面上は走行しないでください。クローラの破損や早期摩耗の原因となります。

＊ アンローダ受けにアンローダを必ず収納してください。

補　足

＊ 結束機，ドロッパ，スイスイデバイダなどを装着している場合は，**[道路運送車両法]** の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。

＊ **[道路運送車両法]** の **[保安基準]** に抵触するおそれがあるため，公道走行する前には必ず下記項目を確認し，異常があるときは購入先に連絡して処置を行なってください。また，異常があるときは必ずトラック輸送を行なってください。
- 機械の周囲を回って油もれ，水もれ，燃料もれが発生している場合
- エンジン音に異常がある場合
- 旋回異常がある場合
- ブレーキ，各変速，各クラッチに異常がある場合
- 各警報（ブザー），灯火装置（スイッチ，ランプ）に異常がある場合

■移動走行前の準備

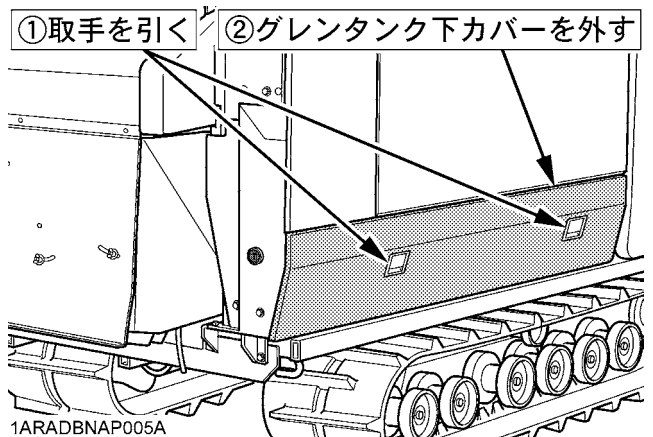
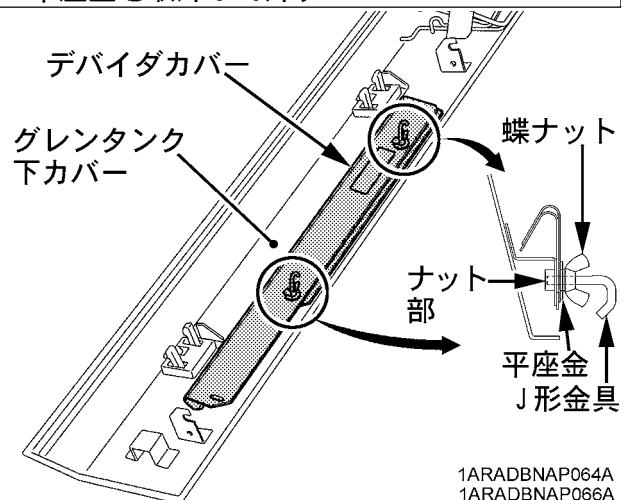
注　意

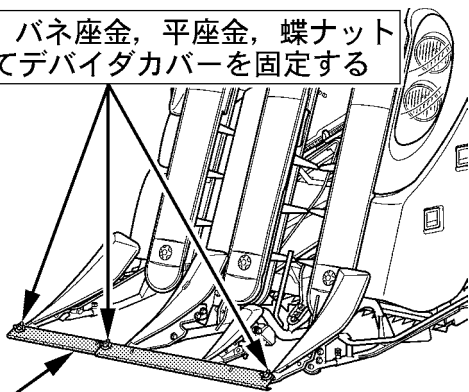
＊ **平たんな場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。**

＊ **木や電線に接触して破損したり，周囲の人にケガをさせるおそれがあるのでアンローダを収納状態にしてください。**

＊ **取外したカバー類は必ず取付けてください。**

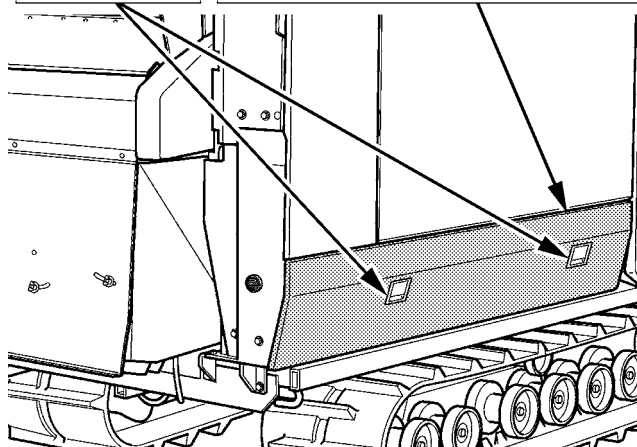
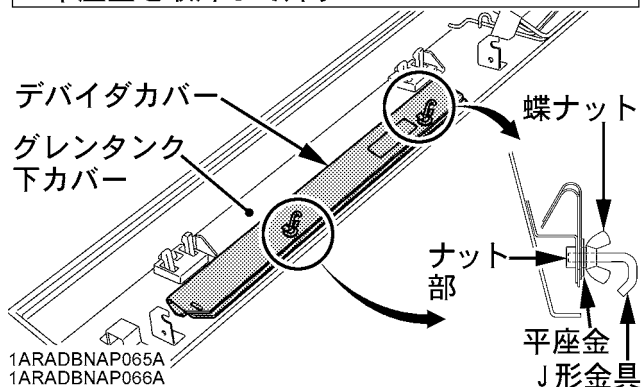
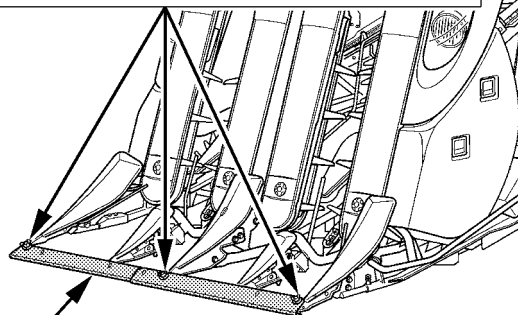
1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。（128 ページ参照）
2. デバイダカバーを取付けます。

[329・335]

1ARADBNAP005A

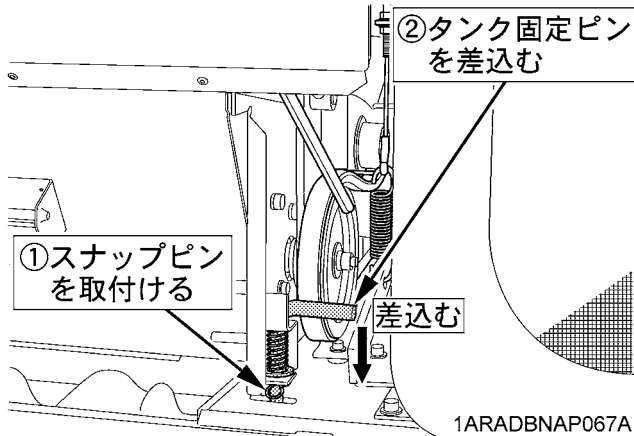
1ARADBNAP064A
1ARADBNAP066A

補　足

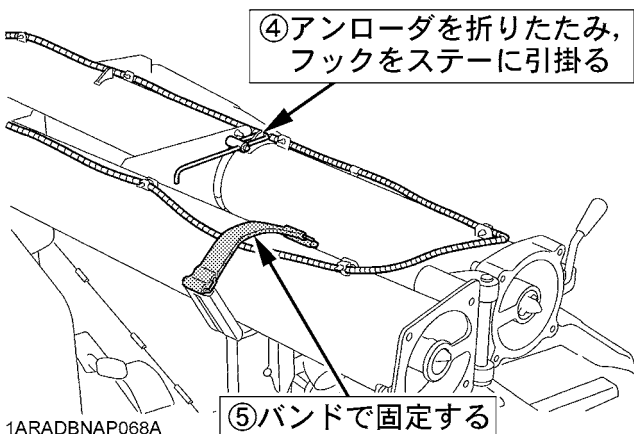
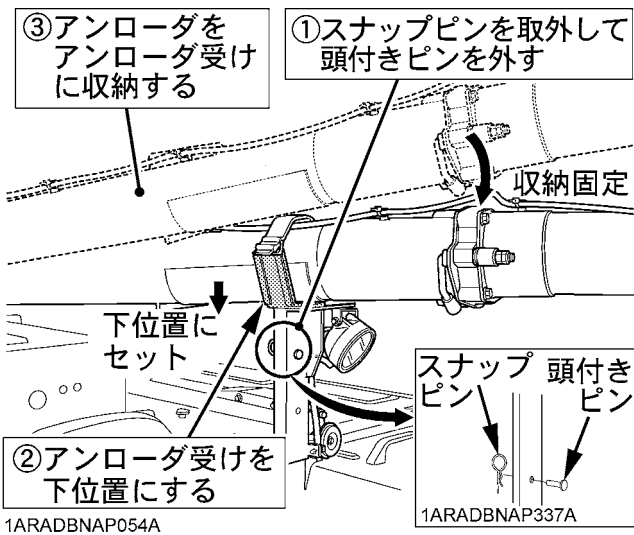
＊　Ｊ形金具，平座金各１個とバネ座金３個は運転席裏側の取扱説明書収納場所に保管している袋などから取出してください。

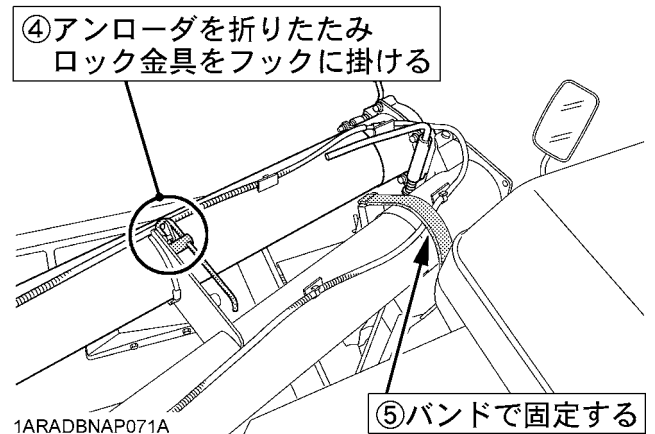
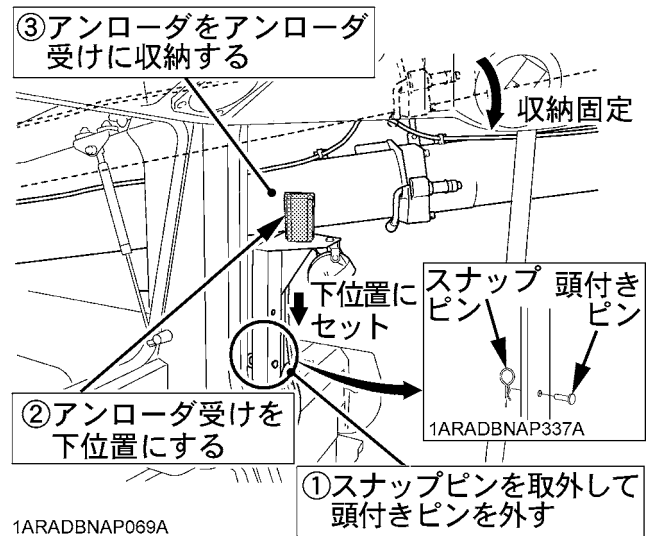
[329・335]

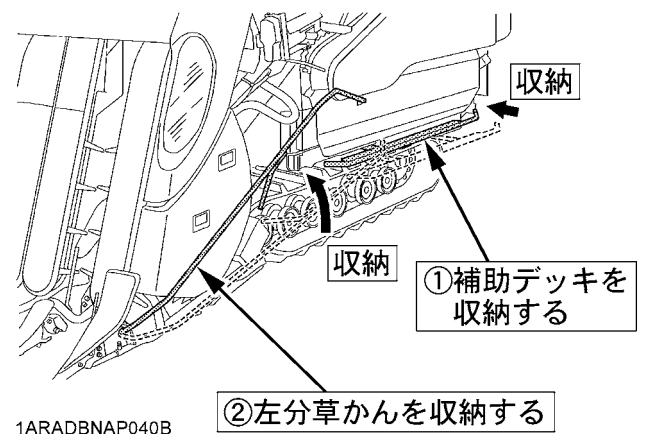
[438・447]

補　足

＊　Ｊ形金具，平座金各１個とバネ座金３個は運転席裏側の取扱説明書収納場所に保管している袋などから取出してください。

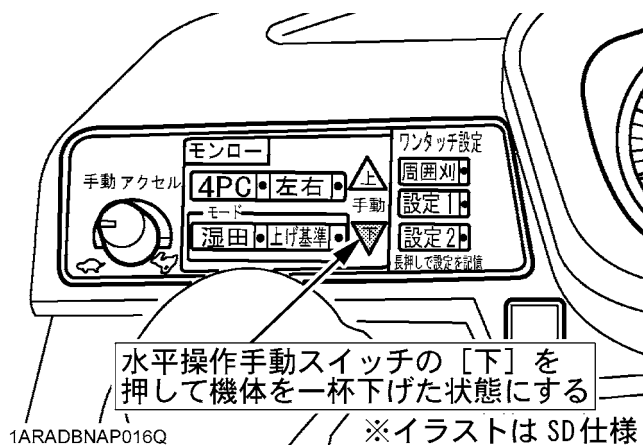
[438・447]

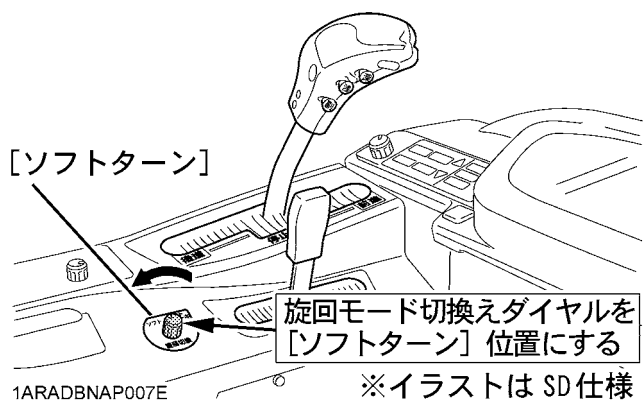
3. グレンタンクの固定を確認したあと，グレンタンク下カバーを取付けます。

4. アンローダを収納します。

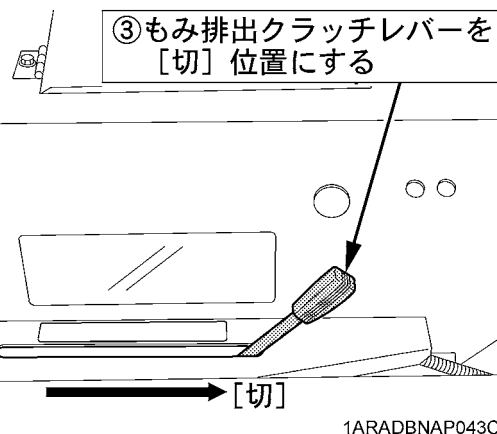
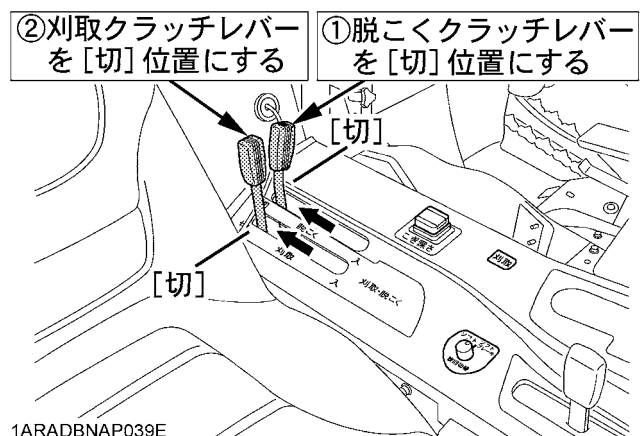
[Q 仕様除く]

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

[Q 仕様]

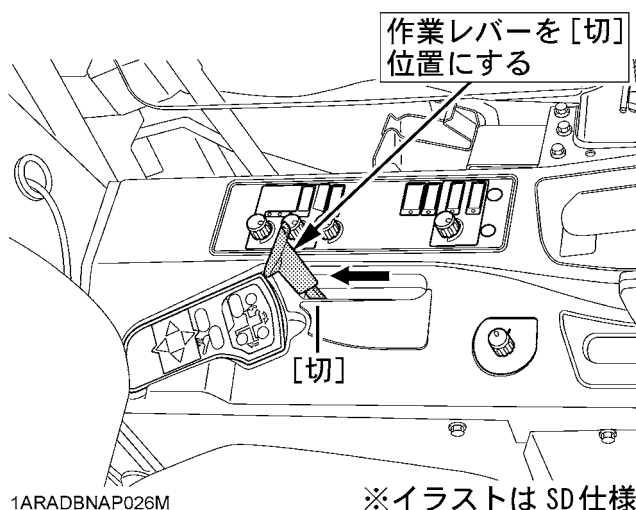
5. 補助デッキ，左分草かんを収納します。

[HD・SD 仕様]

6. 水平操作手動スイッチで機体をいっぱいまで下げます。

[HD・SD 仕様]

7. 旋回モード切換えダイヤルを **[ソフトターン]** の位置にします。

[DX 仕様]

8. 各作業クラッチ（刈取，脱こく，もみ排出）各レバーを **[切]** 位置にします。

[DX 仕様]

[HD・SD 仕様]

8. 作業レバーを **[切]** 位置にします。

[HD・SD 仕様]

■発進のしかた

> **注　意**
>
> ＊ 発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。
> ＊ 急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。

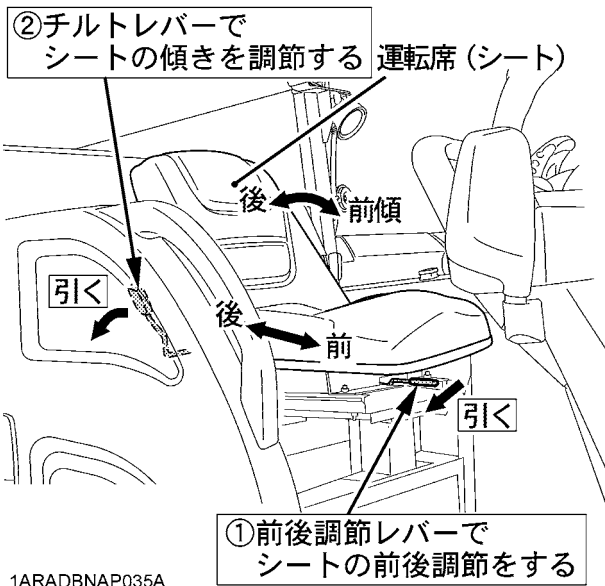
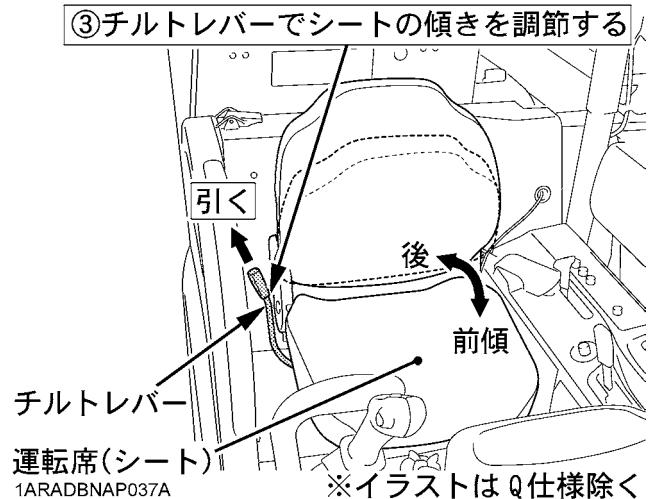
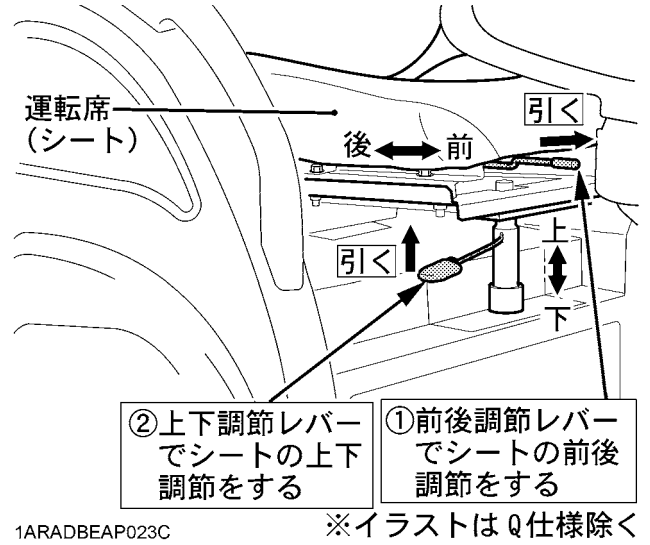
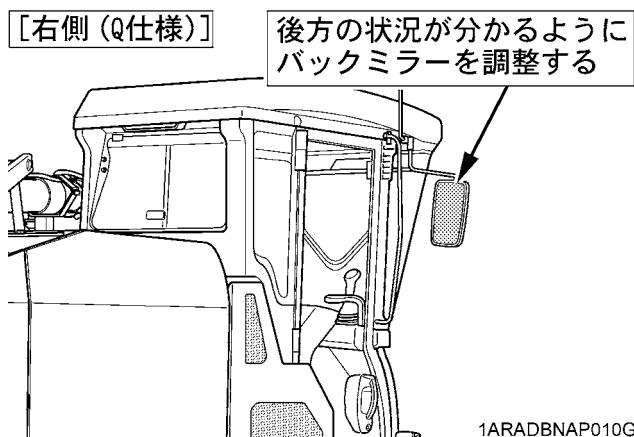
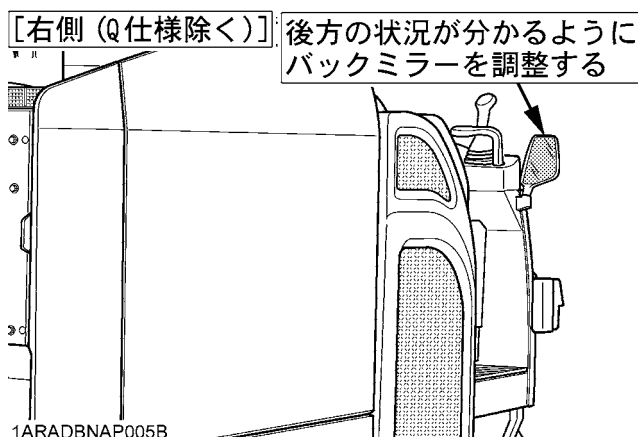
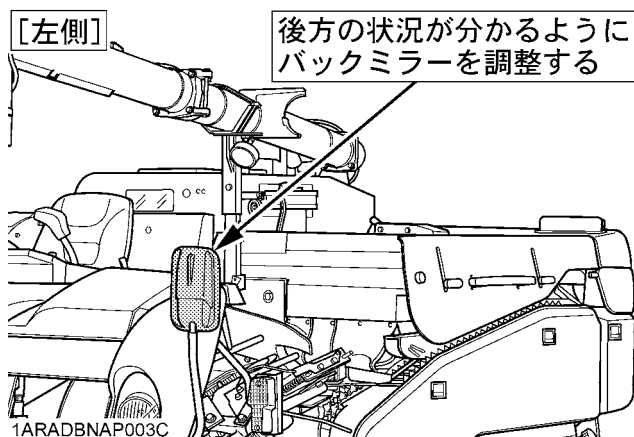
1.　運転席，バックミラーの調整を行ないます。

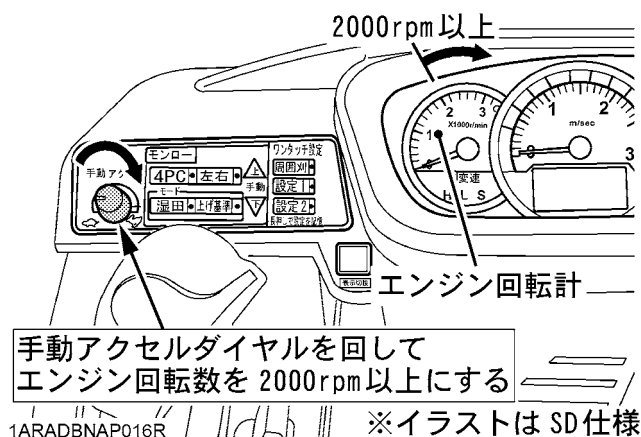
［DX・HD仕様］

［DX・HD仕様］

［SD仕様］

※イラストはQ仕様除く

※イラストはQ仕様除く

［SD仕様］

2.　手動アクセルダイヤルを操作します。

3.　刈取部を上げます。

マルチワンレバーを引き，刈取部の
デバイダ先端部を地面から約 28cm程度
のところまで上げる。

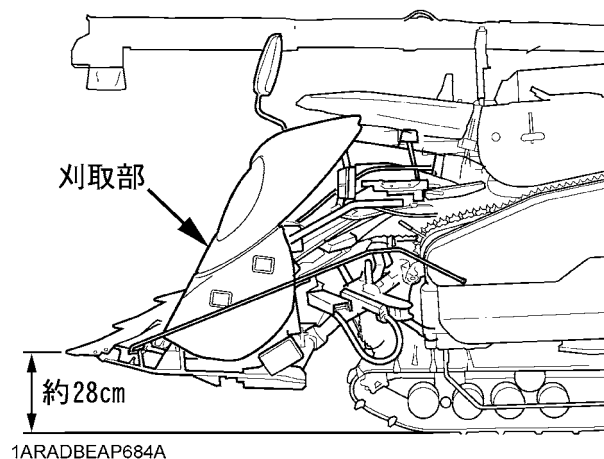
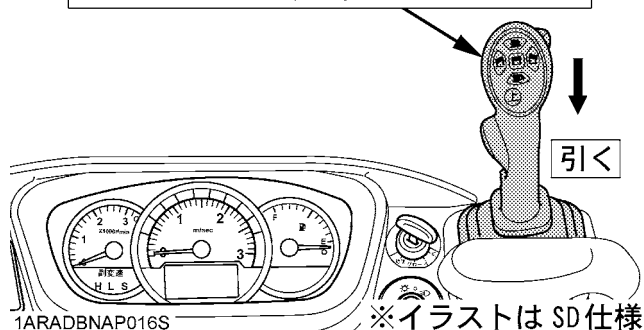
引く

※イラストは SD仕様

1ARADBNAP016S

刈取部

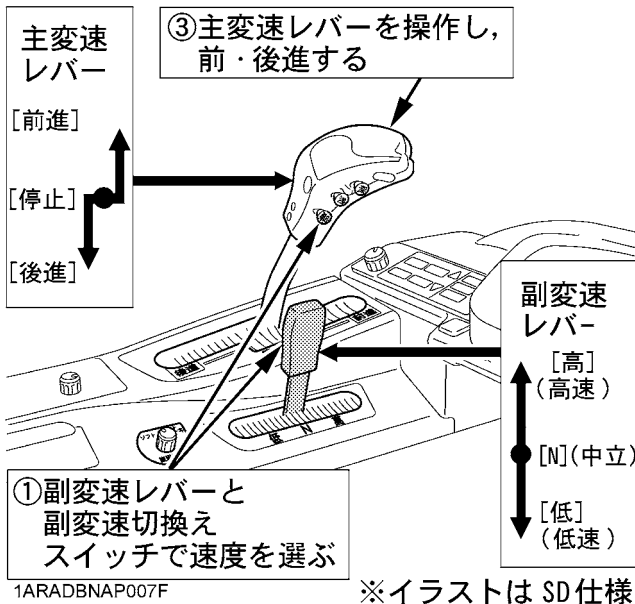
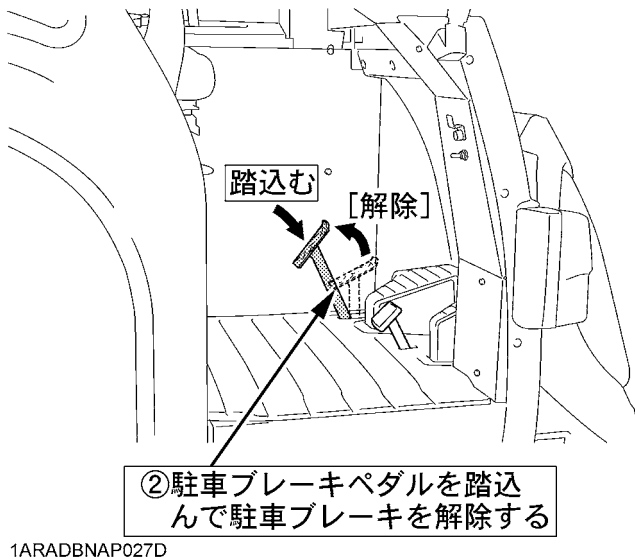
約28cm

1ARADBEAP684A

4.　走行速度を選んで発進します。

主変速レバーを **［停止］** 位置より前に押すと **前進** し，後に引くと **後進** します。

1ARADBNAP007F　※イラストは SD仕様

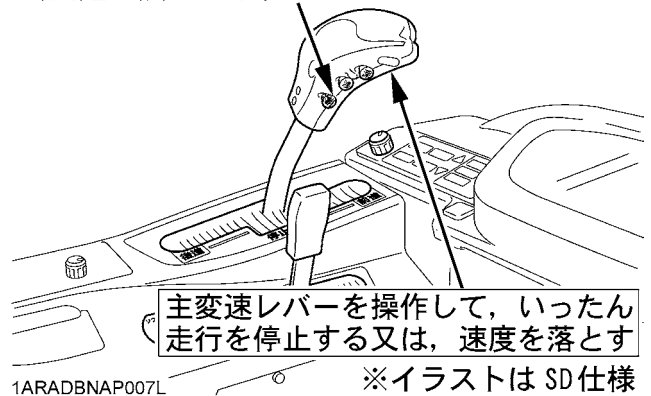
1ARADBNAP027D

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。また，駐車ブレーキが掛かっている状態で主変速レバーを動かして警報が鳴ったときは，主変速レバーを **［停止］** 位置にして駐車ブレーキを解除してください。

＊ 副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを **［停止］** 位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

＊ 走行中に副変速切換えスイッチを押したとき，急激な増・減速に伴なうショックが発生することがあるため，副変速切換えスイッチを押すときは，機体をいったん停止する又は，機体の速度を1.0m/s以下に落としてから副変速を切換えてください。

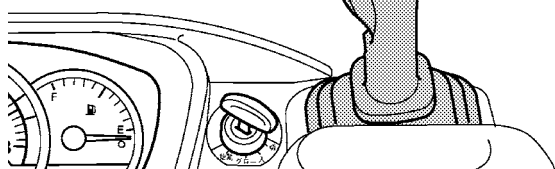
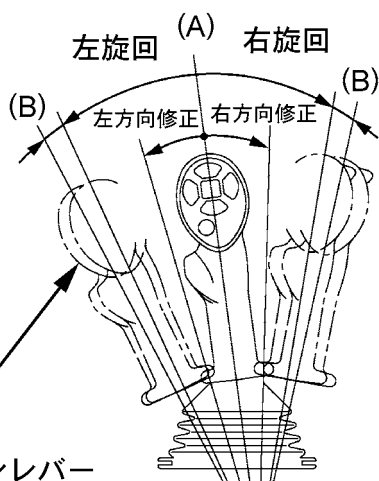
1ARADBNAP007L　※イラストは SD仕様

補　足

＊ 副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し **［前進］** 側に動かして停止に戻してから切換えてください。

■旋回のしかた

注　意

＊ 高速走行時，マルチワンレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にマルチワンレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。

重　要

＊ 砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

補　足

＊ 車体旋回モードの切換えスイッチが **[ソフト・ブレーキ]** 位置のときは，マルチワンレバーを操作すると **(A)** から **(B)** の範囲に切換わるとブレーキターンとなります。

■停車・駐車のしかた

注　意

＊ コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ やむをえず坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを **[停止]** 位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

3. 手動アクセルダイヤルを **[🐢]（低回転）** 位置にします。
4. 副変速レバーを **[N]（中立）** 以外の位置にします。
5. 刈取部を降ろして地面に接地します。
6. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。
7. **[Q 仕様]** はキャビンのドアをロックします。

■道路走行について

注意

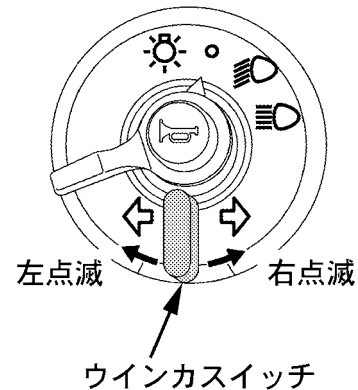
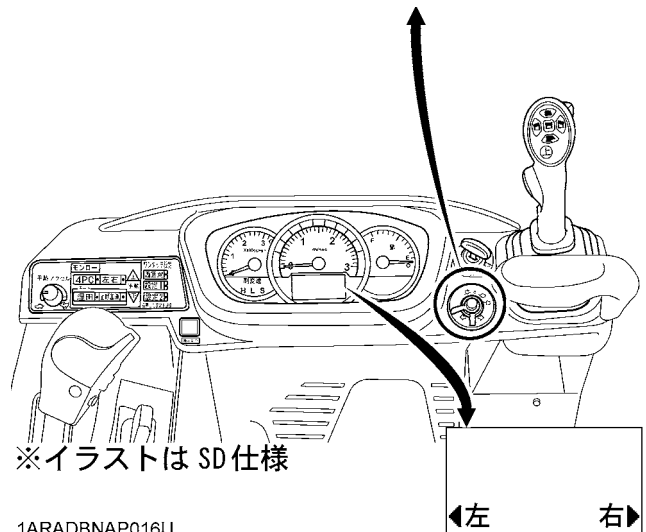
＊ 結束機，ドロッパ，スイスイデバイダなどを装着した状態で移動するときは，トラック輸送してください。
＊ 夜間など暗いときに移動走行するときは，ヘッドランプを必ず点灯し，作業灯は必ず消灯してください。

道路走行中，進路方向を変えるときは，ウインカ（方向指示器）で進路方向を他の自動車に知らせてください。

補足

＊ 道路を走行するときは，大型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。
＊ 作業灯は **［道路運送車両法の保安基準］** 第42条（灯火の色などの制限）において，**［走行中に使用しない灯火］** とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

● **ウインカスイッチ**

旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，マルチナビの液晶ディスプレイに **［◀］（左方向）** 又は，**［▶］（右方向）** 方向を示す矢印が点滅表示します。

1ARADAKAP067E

1ARADBNAP016U

補足

＊ 旋回が終わるとウインカスイッチを中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

＊ 積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛け，トラックの変速レバーを R（後進）又は，１速に入れたあと，さらにタイヤに車止めを行ない，トラックが動かないようにしっかりと固定してください。

＊ あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（55cm 以上），長さ（高さの４倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊ あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	55cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が2400kg以上の重量に耐えうる

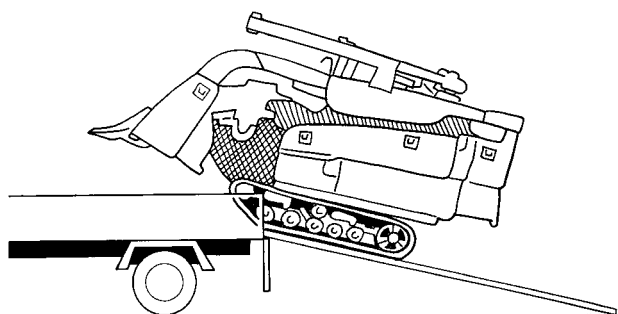
■トラックへ積込み時のコンバインの準備

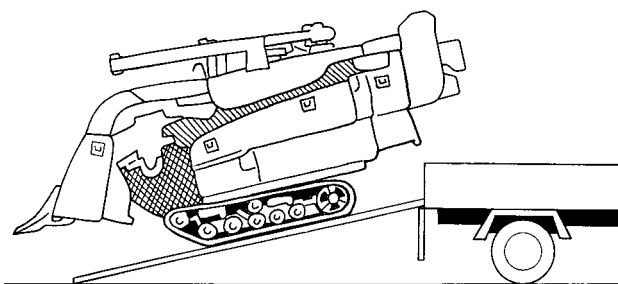
もみをすべて排出し，アンローダ受けを下（収納）位置にしてアンローダを収納後，折りたたみ式アンローダを折りたたみ，バンドで固定し，脱こく・刈取クラッチレバー **[DX 仕様]**，作業レバー **[HD・SD 仕様]**，もみ排出クラッチレバー **[DX 仕様]** を **[切]** 位置にし，自動車体水平制御（モンロー）**[M 仕様]** を機体いっぱいまで下げ，補助デッキや左分草かんをそれぞれ収納したあと，デバイダカバーを取付けます。（87 ページ参照）

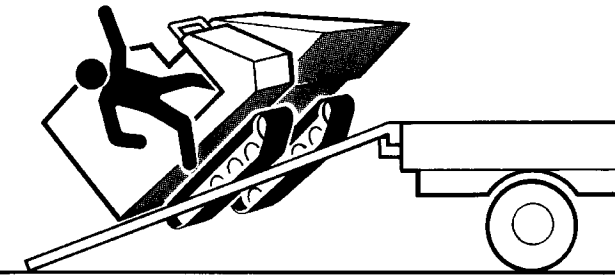
■トラックへの積込み・積降しのしかた

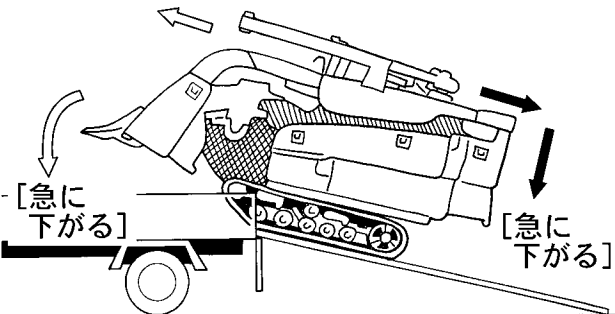
注　意

＊ 積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。ただし，結束機を装着している機械は後進で積込み，前進で積降しを行なってください。

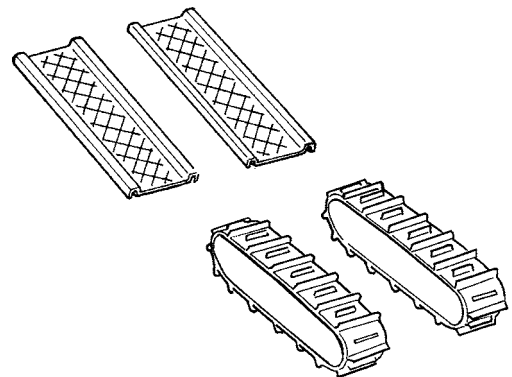
＊ 平たん地を選び，できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また，助手以外の人をコンバインの周辺に近づけないでください。特にコンバインの前後に人を近づけないでください。

1ARADBEAP120A

[結束機付]

1ARADBEAP121A

＊ **あゆみ板の途中で急なマルチワンレバーの操作や副変速スイッチ，副変速レバー，駐車ブレーキペダル，水平操作手動スイッチ［M仕様］，傾斜角手動調節スイッチ［M仕様］，かき込みペダル，旋回モード切換えダイヤル，アンローダリモコンを操作すると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下り直してください。**

1ARADBEAP122A

＊ **機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。**

1ARADBEAP123A

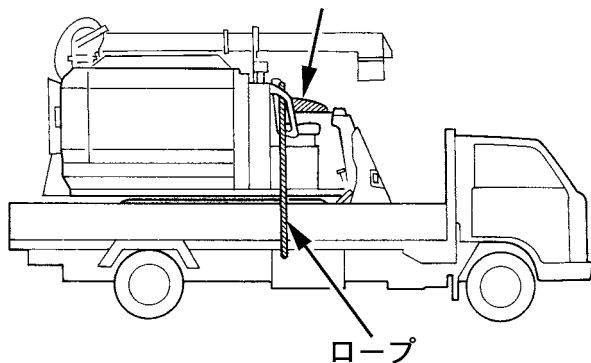
◆ **操作のしかた**

1. 各作業クラッチレバー，作業レバー **［HD・SD仕様］** を **［切］** 位置にします。
2. 水平操作レバーで機体を**最下降位置**まで下げます。**［M仕様］**
3. マルチワンレバーで刈取部を上げます。
4. 手動アクセルダイヤルを操作してエンジン回転数を 2000rpm 以上にし，副変速レバーを **［低］** 位置，副変速スイッチを **［S］**（倒状位置）にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，**低速**で走行します。
5. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，機体から降りてあゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。

1ARADBEAP124A

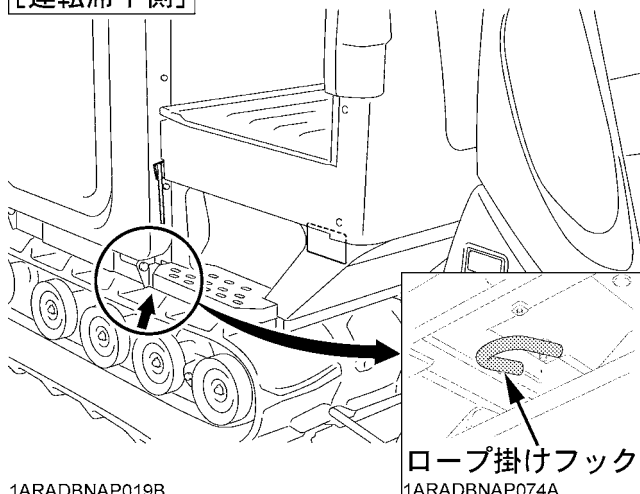
6. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

■トラック上での処置

注　意

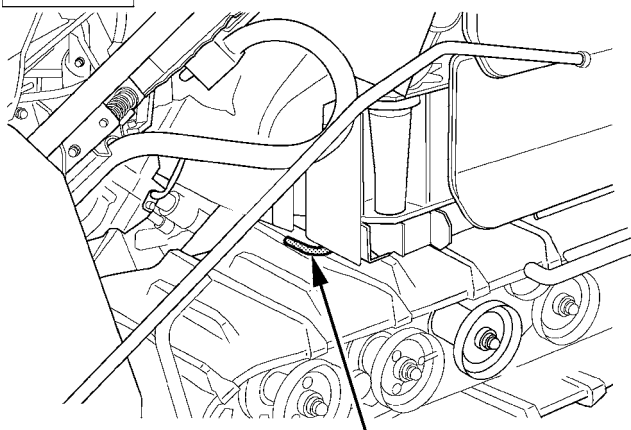
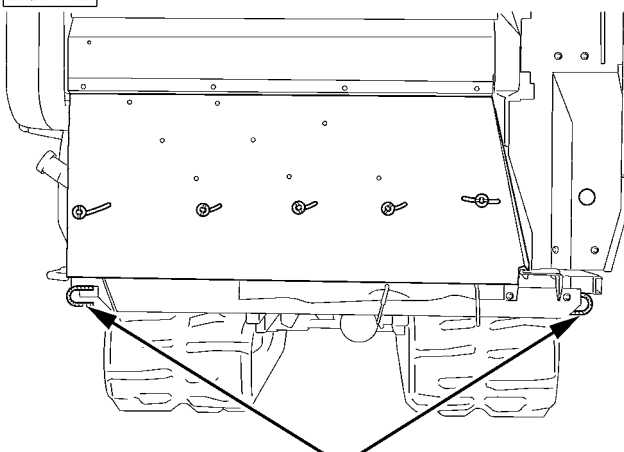
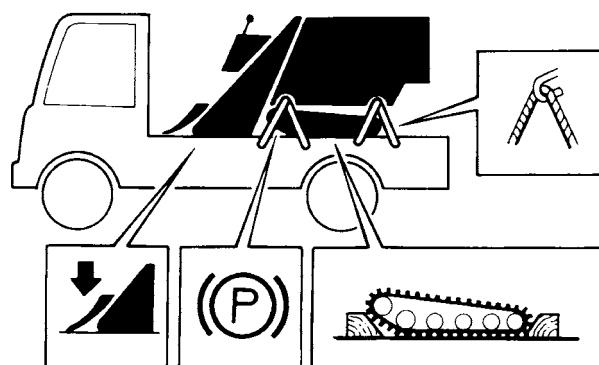
* **＊ 刈取部を床まで降し，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。**
* **＊ トラックで輸送する場合は，風圧で刈取防じんカバーが浮き破損・脱落し，ケガをさせるおそれがあるので，刈取部を下げて，刈取防じんカバーを閉じ，ロープなどで浮上がりを防いでください。［SD 仕様（Q 仕様除く）］**

1ARADBEAP128A

1. コンバインをトラックの荷台に乗せたあと，刈取部を床まで降ろし，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. コンバインにロープを掛けます。ロープを掛けるときは，必ず指定のロープ掛け用のフック 4 箇所に掛けてください。

［運転席下側］

1ARADBNAP019B　1ARADBNAP074A

［左前側］

1ARADBNAP075A

［後側］

1ARADBNAP076A

1ARADBEAP127A

重　要

＊ ロープ掛けフック以外の所には，ロープを掛けないでください。
＊ ロープ掛けフックはけん引作業に使用しないでください。また，けん引作業を行なうときにロープをロープ掛けフックに掛けないでください。

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては，刈取作業ができない場所があります。作業を始める前によく確かめて，収穫量が上がる能率のよい作業を行なってください。

■作物の条件

◆ 作物の長さ

刈取れる長さは，標準の刈高さで
……全長約 55 〜 130cm

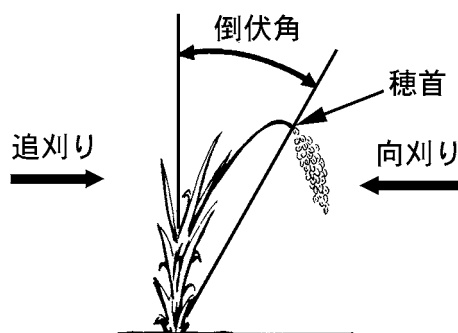
補 足

＊ **［438・447］**は短かん調節（140 ページ参照）を行なうと，全長約 50 〜 120cm の作物の刈取が行なえます。

1ARADBEAP129A

◆ 作物の倒伏

作物の倒れかた（倒伏角）により，刈取り方向に注意してください。

刈取りかた（方向）	倒 伏 角
追刈り	85 度以下
向刈り	70 度以下

1ARADBEAP130A

◆ 作物のぬれ

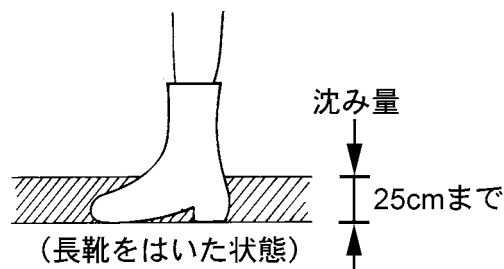
作物は乾いて，手でしごいてぬれていない状態が適期です。

重 要

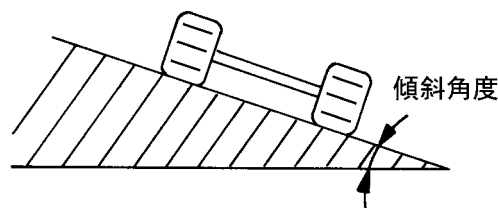
＊ 湿田の倒伏やぬれ作物の刈取作業を行なうとき，受あみが目詰まりを起すことがあります。この場合排じんロス（もみの飛散）が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し，受あみの目詰まりを取除いてください。
掃除を行なうときは，必要に応じて受あみを取外してください。（176 ページ参照）

■ほ場の条件

◆ ほ場のぬかるみ

足の沈み量を測って目安にしてください。

1ARADAFAP350C

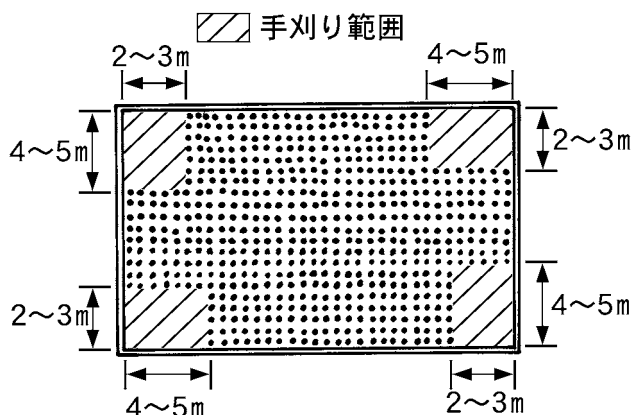
◆ ほ場の傾き

傾斜角度 5 度以上では，作業できません。

1ARADBEAP132A

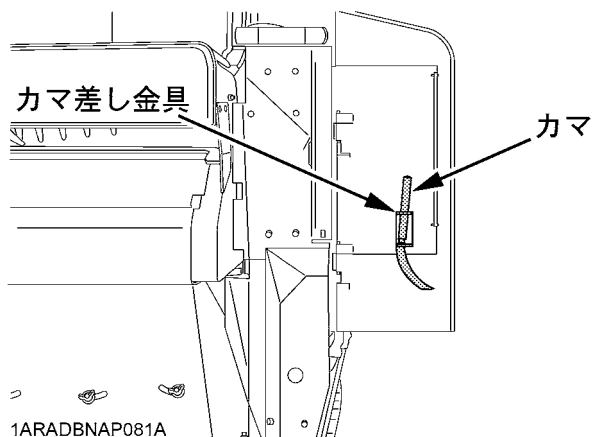
ほ場の準備

■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四隅で旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲（面積）の手刈り（枕刈り）をします。

1ARADBEAP133A

補　足

＊ カマの収納場所は下図の位置にあります。

1ARADBNAP081A

コンバインの準備

＊ **平たんな場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。**
＊ **取外したカバー類は必ず取付けてください。**

■コンバインの準備のしかた

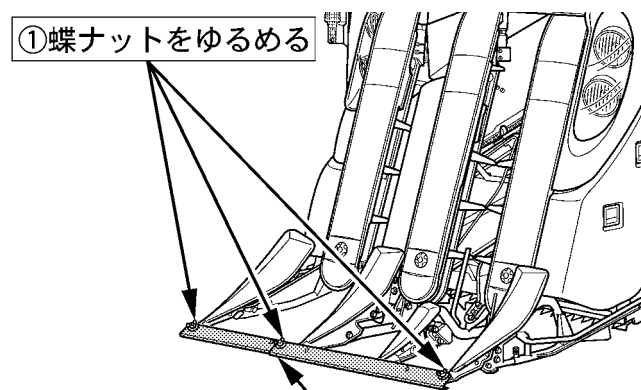
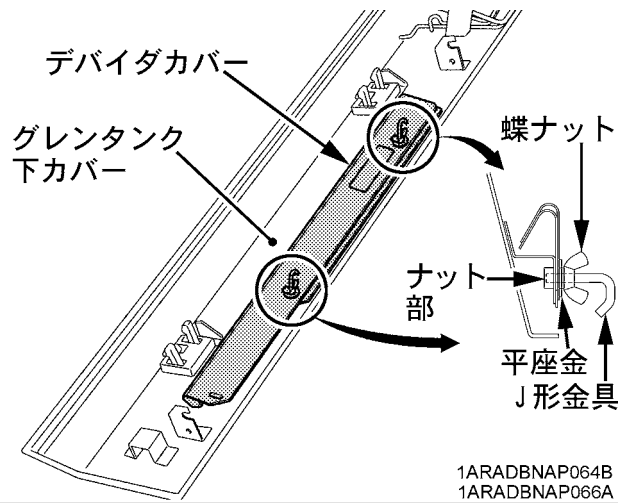
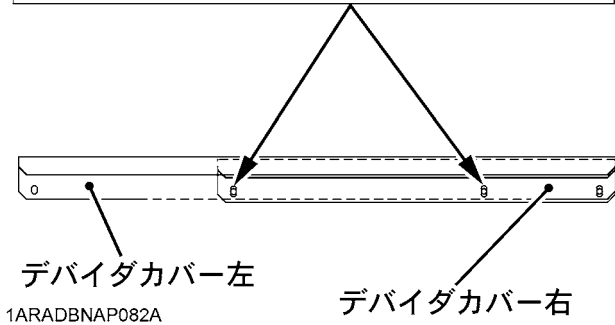
1.　各部への注油

作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。(192 ページ参照)

2.　デバイダカバーの取外しと収納

[329・335]

1ARADBNAP003D

1ARADBNAP005D

⑤デバイダカバー左の内側にデバイダカバー右を重ね，タンク（下カバー）に取付けるための取付穴２箇所を合わせる

⑥取外したＪ形金具に蝶ナット，平座金を差込み，グレンタンク下カバーのナット部にＪ形金具を手で締付けたあと，蝶ナットを締付ける

補　足

＊ デバイダカバーの取付けに使用しない部品（Ｊ　形金具，平座金，蝶ナット各１個，バネ座金３個）はビニール袋などに入れたあと，運転席裏側にある取扱説明書収納場所になくさないように保管してください。

⑦グレンタンク下カバーを機体に取付ける

1ARADBNAP100A

［329・335］

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

［438・447］

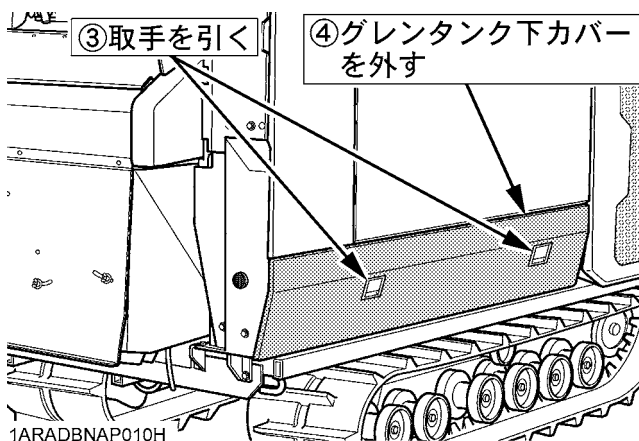
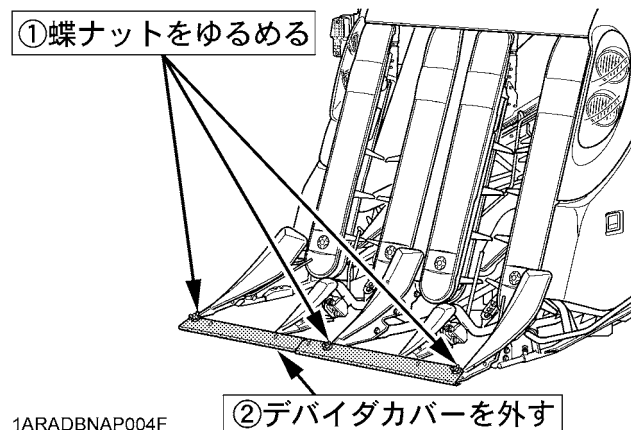
①蝶ナットをゆるめる

②デバイダカバーを外す

1ARADBNAP004F

③取手を引く

④グレンタンク下カバーを外す

1ARADBNAP010H

⑤デバイダカバーを内側にもう１個のデバイダカバーを重ね，グレンタンク下カバーに取付けるための取付穴２箇所を合せる

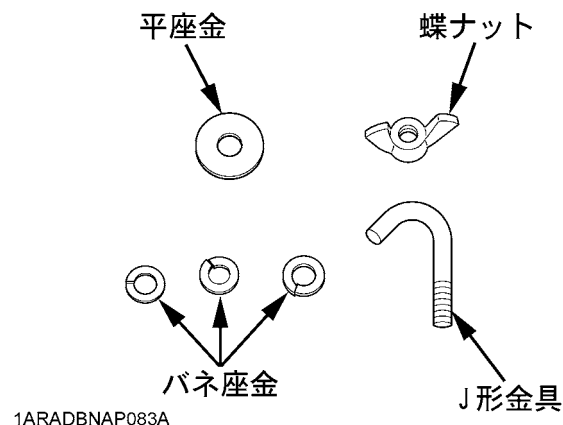
デバイダカバー

1ARADBEAP136B

1ARADBNAP065B
1ARADBNAP066A

⑥取外したＪ形金具に蝶ナット，平座金を差込み，グレンタンク下カバーのナット部にＪ形金具を手で締付けたあと，蝶ナットを締付ける

補　足

＊ デバイダカバーの取付けに使用しない部品（Ｊ 形金具，平座金，蝶ナット各１個，バネ座金３個）はビニール袋などに入れたあと，運転席裏側にある取扱説明書収納場所になくさないように保管してください。

1ARADBNAP083A

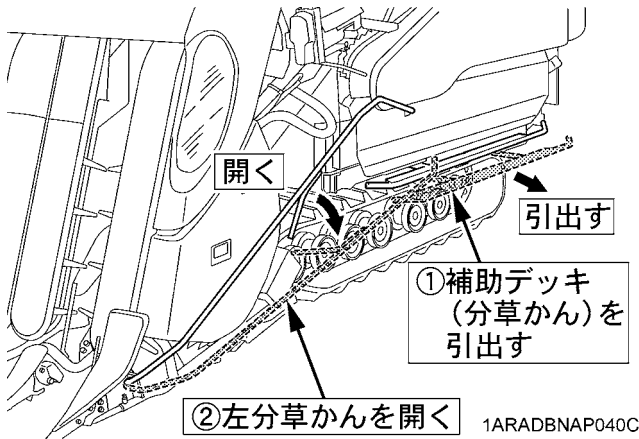
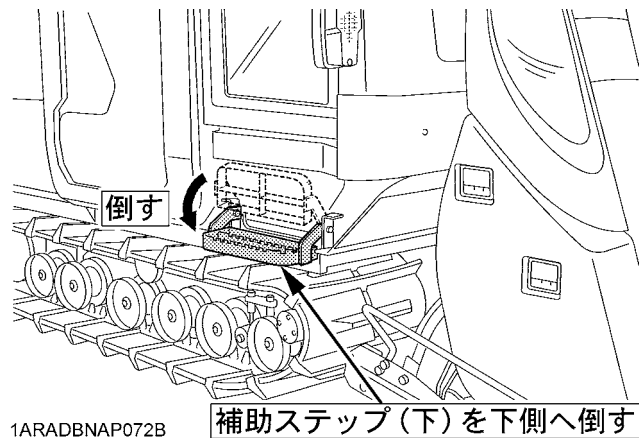
⑦グレンタンク下カバーを機体に取付ける

1ARADBNAP100A

［438・447］

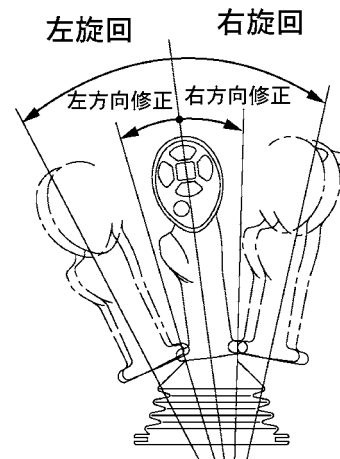
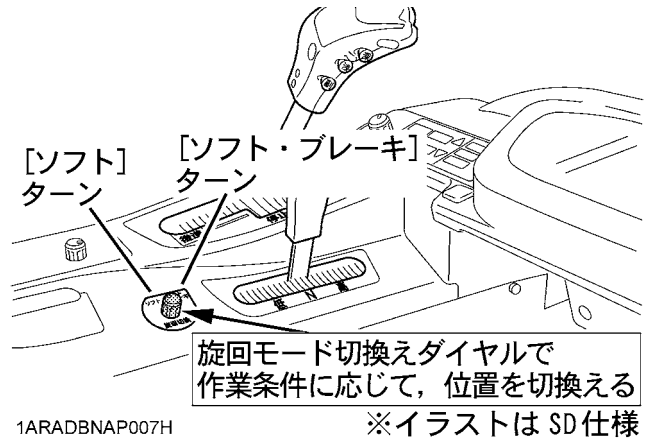
3. 左分草かんのセット

1ARADBNAP040C

［Q 仕様］

4. 補助ステップ（下）のセット

1ARADBNAP072B

［Q 仕様］

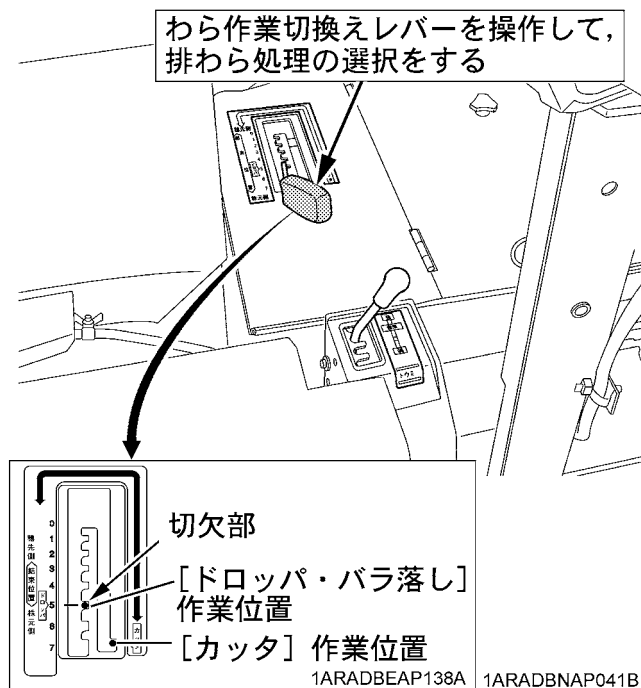
5. 旋回モード切換えダイヤルの選択

1ARADBNAP007H ※イラストは SD 仕様

1ARADBNAP073D

補　足

＊ **［ソフト・ブレーキターン］** 位置で作業を行なったとき，機体の振動が大きいとき，湿田での作業，ほ場の荒れが大きいときなど，**［ソフトターン］** 位置に切換えてください。

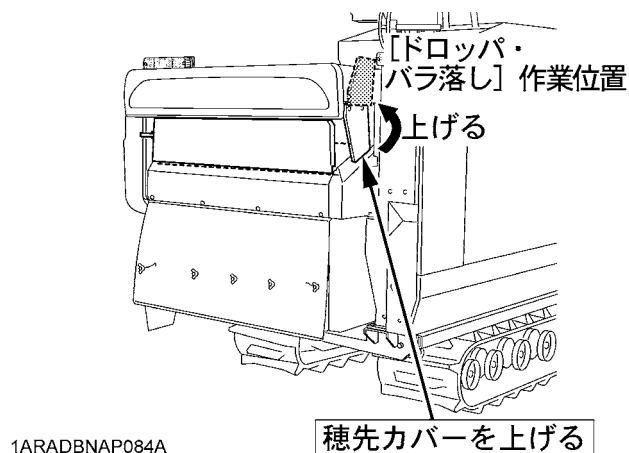
6. 排わら処理の選択

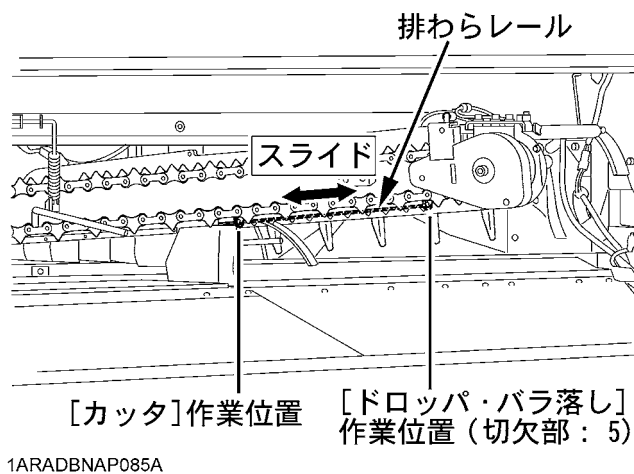
1ARADBEAP138A 1ARADBNAP041B

重 要

＊ 作業中に切換えレバーを切換えるときは，搬送されている作物が完全に流れ終わってから脱こく機が作動状態で行なってください。故障の原因となります。

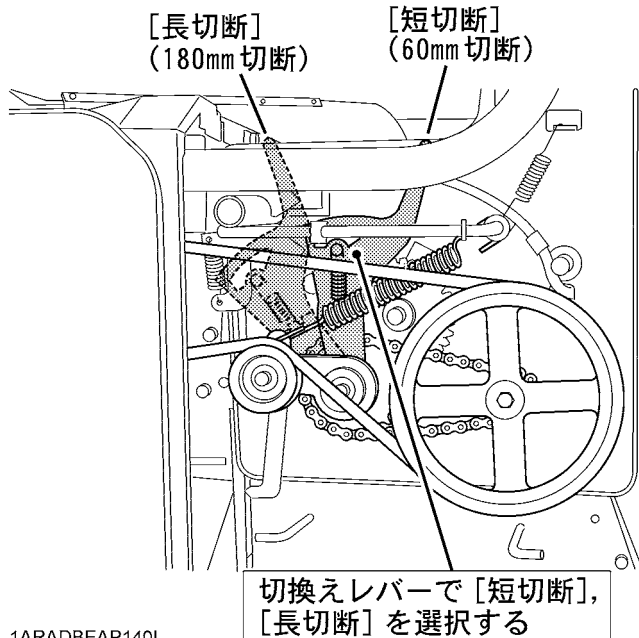
補 足

＊ **ドロッパ・バラ落し**作業を選択するときは，切換えレバーを**［5］**の切欠部の位置にしてください。
＊ **ドロッパ・バラ落し**作業を選択したときに，切換えレバーの位置が**1～4**の切欠部にあると，わらを次行程で踏付けたり，**6～7**の切欠部にあると，排わらチェーンがわらを巻上げて詰まりの原因となります。
＊ ドロッパ・バラ落し作業のときは，穂先カバーを上げてください。

1ARADBNAP084A

＊ 切換えレバーを操作すると，カッタ部の排わら切換えカバーが開閉すると同時に，排わらレールがスライドします。

1ARADBNAP085A

7. 排わら切断長さの選択

わらの切断長さの切換えを行なってください。
切換えるときは，カッタ左サイドカバーを外し，切換えが終わったあとはカバーを取付けてください。

1ARADBEAP140I

補　足

＊ シュータ式拡散装置は，切断長さに応じてリヤシュートを前、後方向に調節してください。

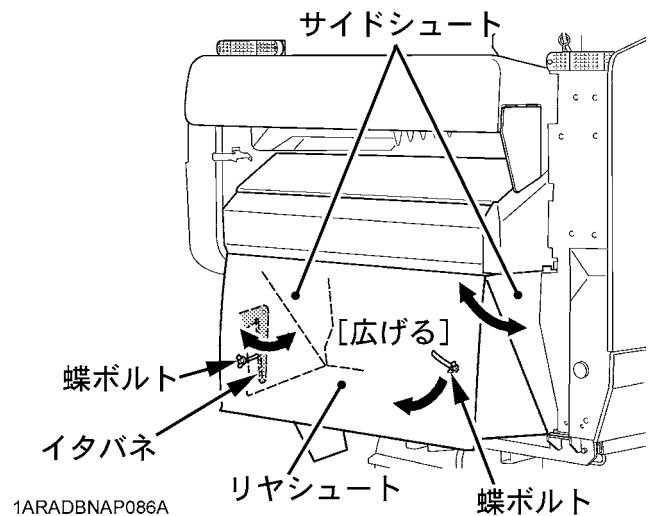
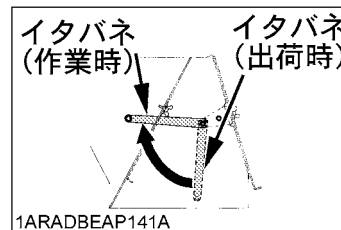
8. リヤシュート・サイドシュートの準備

［329・335］

◆ セットのしかた

1. 蝶ボルトをゆるめたあと，リヤシュートから左，右のサイドシュートを一度外します。
2. 左，右のサイドシュートを広げたあと，リヤシュートを後に広げます。
3. 左サイドシュートのイタバネを作業時の位置に締付け，蝶ボルトで両サイドのシュートを締付けます。

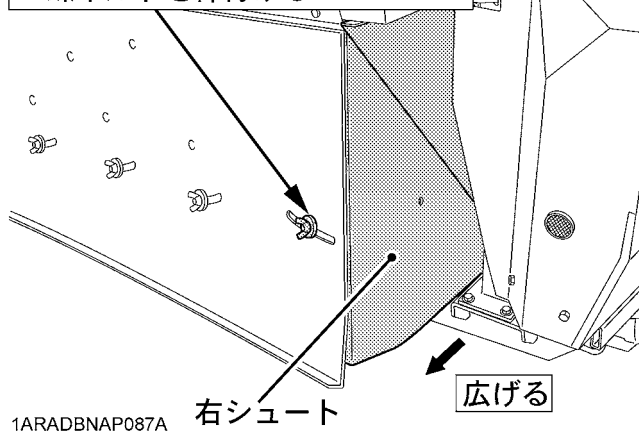
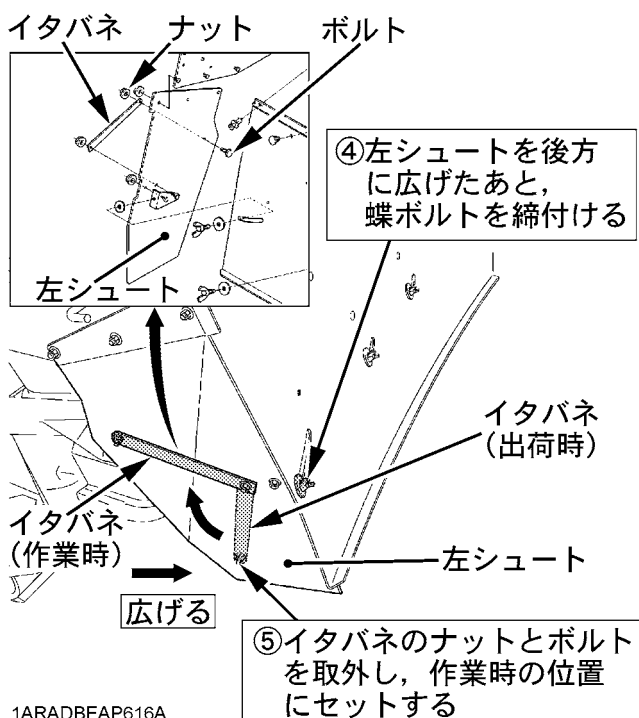
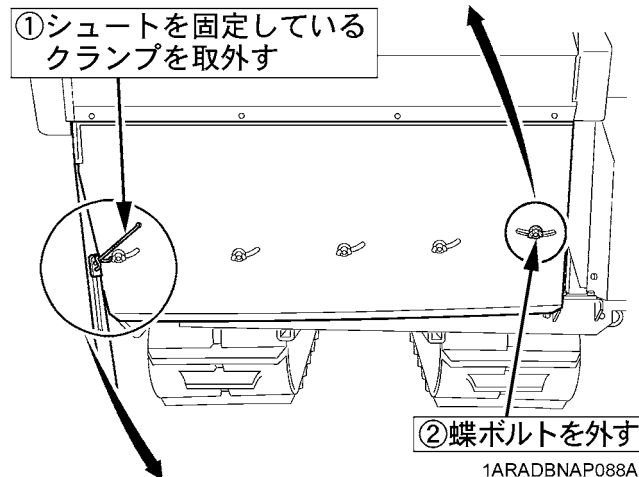
◆ 調整のしかた

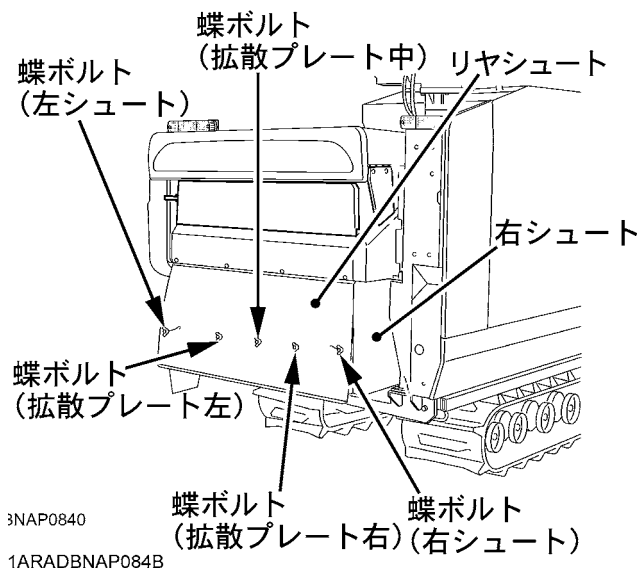
作業に合わせて蝶ボルトをゆるめ，長穴方向に動かして調整します。

1ARADBEAP141A

1ARADBNAP086A

［329・335］

[438・447]

◆ **セットのしかた**

◆ **調整のしかた**

排わらの切断長さや拡散又は，中割り作業に応じてリヤシュート及びサイド（右，左）シュートの調整を行なってください。また，調整が終わったあとは，蝶ボルトを確実に締付けてください。

● **全面散布作業⟷中割り作業**

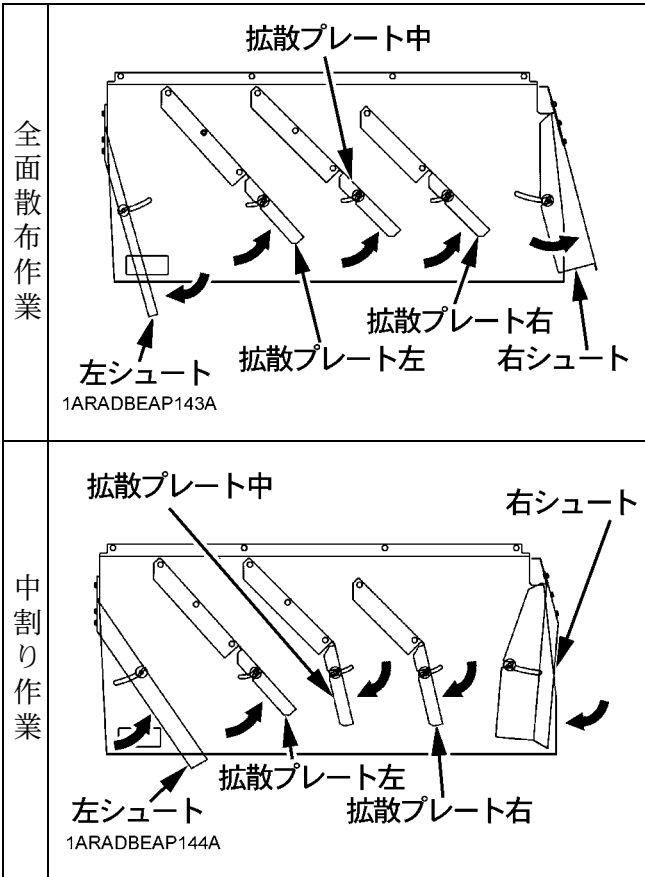
リヤシュート側にある蝶ボルト５本をゆるめて，左，右のシュートと拡散プレートを調整してください。

全面散布作業… 排わら切断長さの切換えレバーを［**短切断**］位置（60mm切断）にしたあと，左・右のシュートを外側に広げ，拡散プレート左，中，右を右側位置にします。

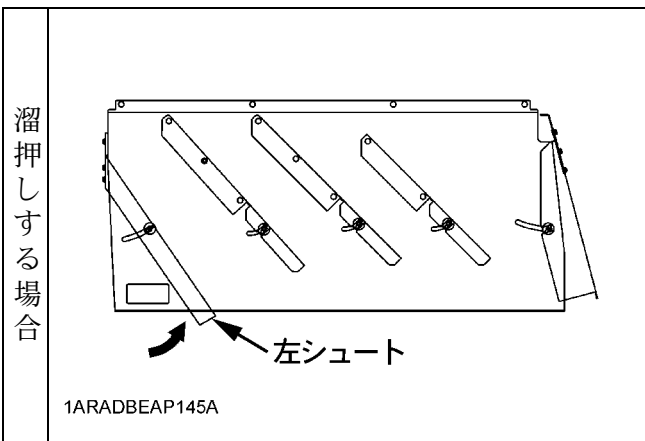
補　足

＊ 排わら切断長さが［**長切断**］位置（180mm 切断）では，全面散布は行なえません。

中割り作業…… 左シュートを右側に寄せ，右シュートを左側に寄せたあと，拡散プレート左を右側，拡散プレート中，右を左側にします。

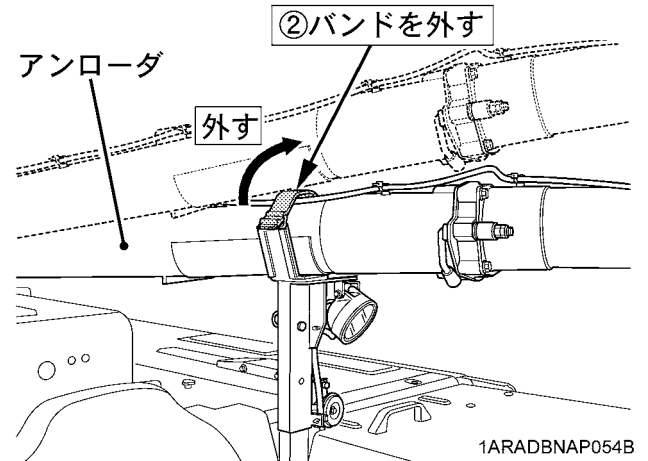
全面散布作業	
中割り作業	

補　足

＊ 次行程でわらの溜押しがあるときは，左シュートを右側にしてください。

溜押しする場合	

［438・447］

9. アンローダの準備

1. エンジンを始動して，アンローダを作業状態にします。

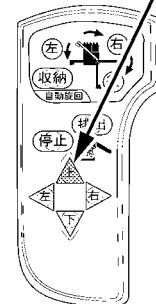
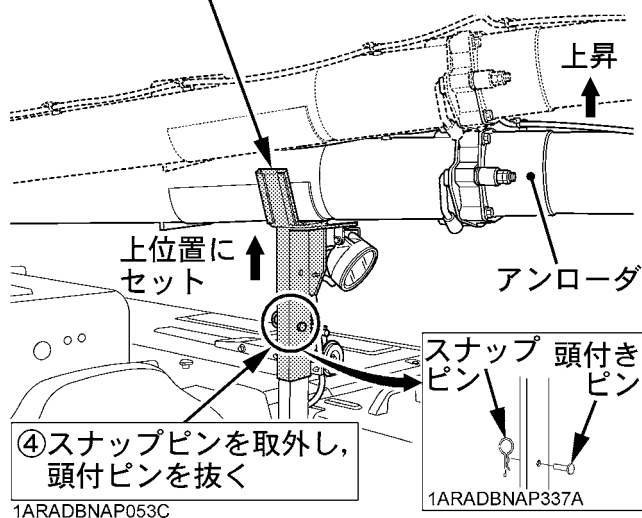
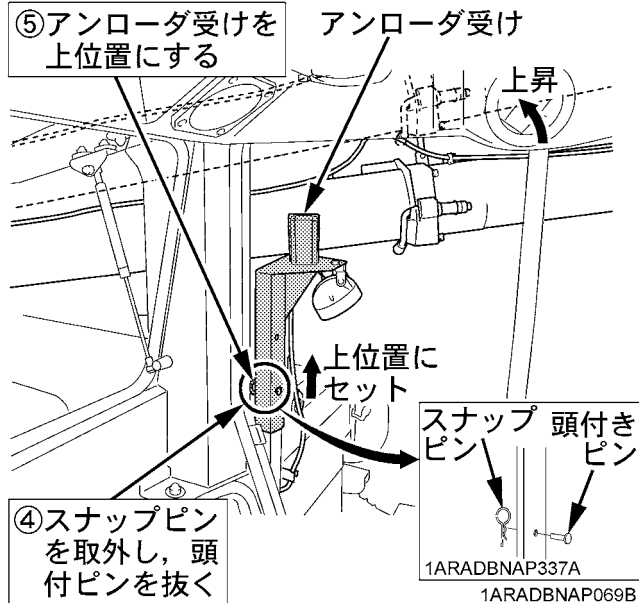
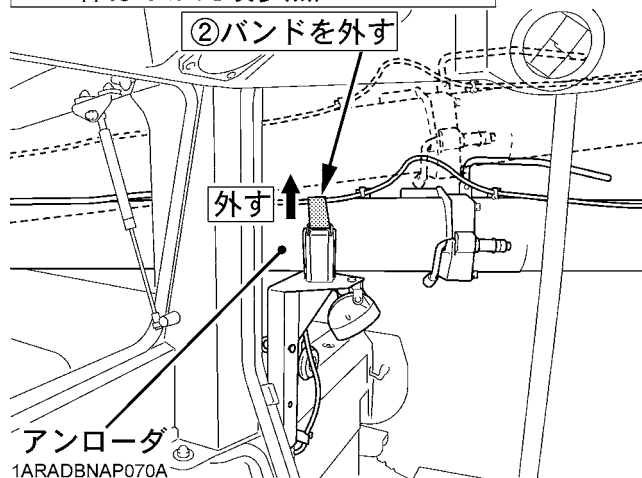
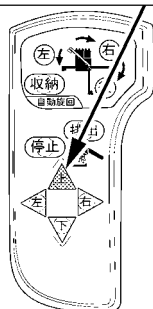
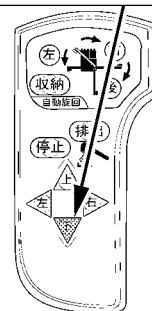
［Q 仕様除く］

※イラストはHD・SD仕様

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

［Q 仕様除く］

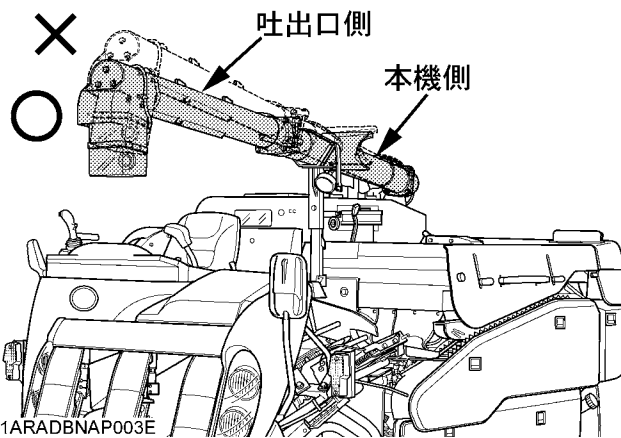
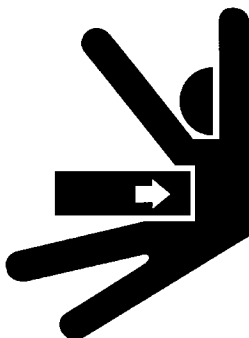
［Q 仕様］

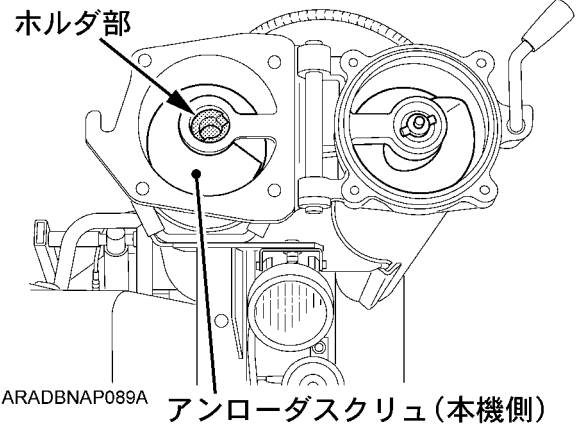
2. エンジンを停止します。

［Q 仕様］

■アンローダの折りたたみ・伸ばしかた

注 意

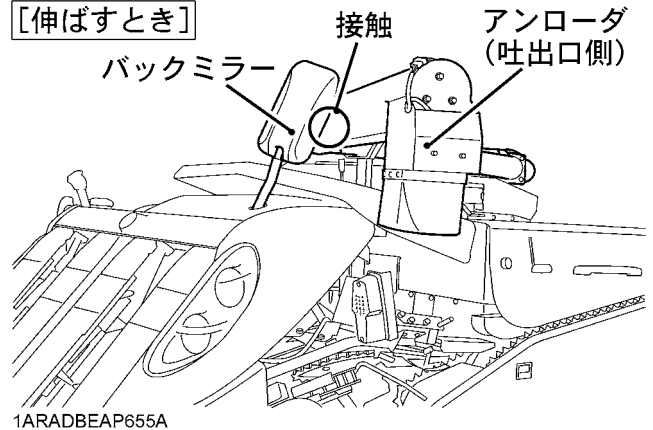
- **＊ 水平で平たんな場所でエンジンを必ず停止させて，メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **＊ 機体やアンローダが傾いていると，吐出口側のアンローダが自然に動きケガをするおそれがありますので，アンローダは必ず水平状態にしてください。**

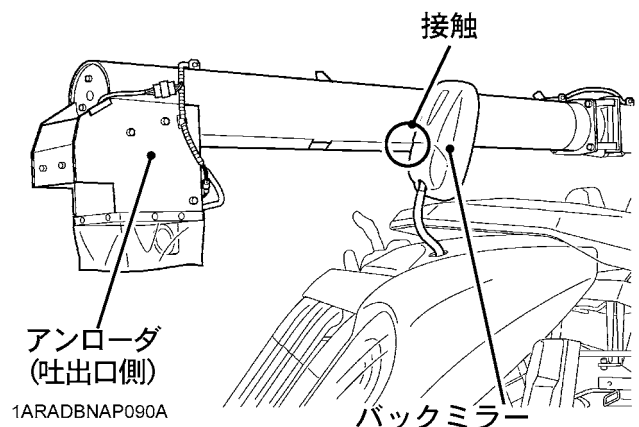
1ARADBNAP003E

- **＊ アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。**
- **＊ フックの金具が確実にロックされていないと吐出口側のアンローダが不意に動いてケガをするおそれがあります。**

1ARADBEAP148A

- **＊ エンジンを始動した状態でもみ排出クラッチを［入］位置にしないでください。［入］位置にすると，アンローダスクリュ（本機側）が回転し，ケガをするおそれがあります。**

1ARADBNAP089A

重 要

＊ 刈取部を上昇した状態でアンローダの折りたたみ又は，伸ばす作業を行なうと，吐出口側のアンローダが左側のバックミラーに接触し，破損するおそれがありますので，刈取部は必ず地面に接地させてください。

［伸ばすとき］

1ARADBEAP655A

［折りたたむとき］

1ARADBNAP090A

◆ 折りたたみかた

＊ あぜ越え，移動走行時及びトラックで輸送するときは，アンローダが人や物にぶつかるおそれがあるので必ず折りたたんでください。

1. マルチワンレバーを操作して刈取部が地面に着くまで降ろしたあと，エンジンを停止します。

[DX 仕様]

補　足

＊ アンローダ内にもみが残っているときは，一度アンローダを最上昇させてください。

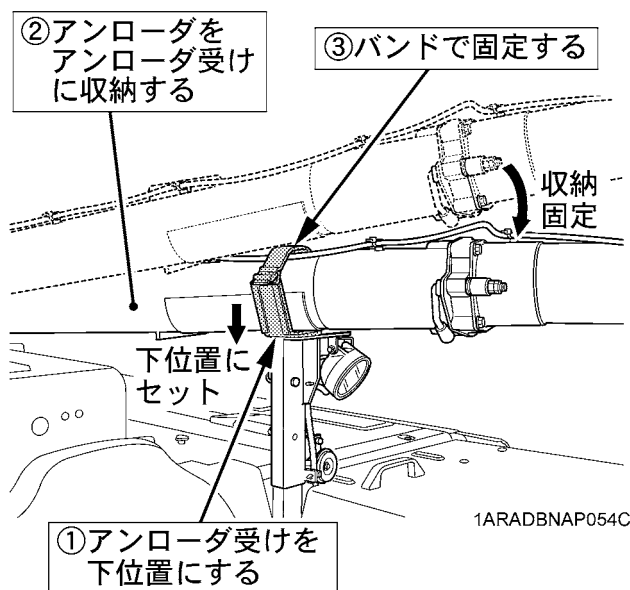
[DX 仕様]

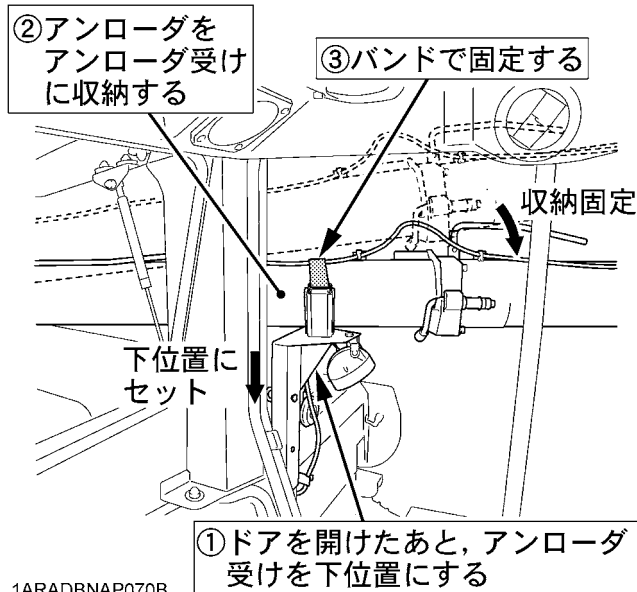
2. こぎ胴を閉じます。(156 ページ参照)

重　要

＊ こぎ胴を開いた状態でアンローダを折りたたむと，アンローダとこぎ胴上部カバーが接触し破損するおそれがあります。

3. アンローダを収納します。

[Q 仕様除く]

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

[Q 仕様]

4. アンローダを折りたたみます。

[Q 仕様を除く]

1ARADBNAP092A

1ARADBNAP091A

1ARADBNAP068B

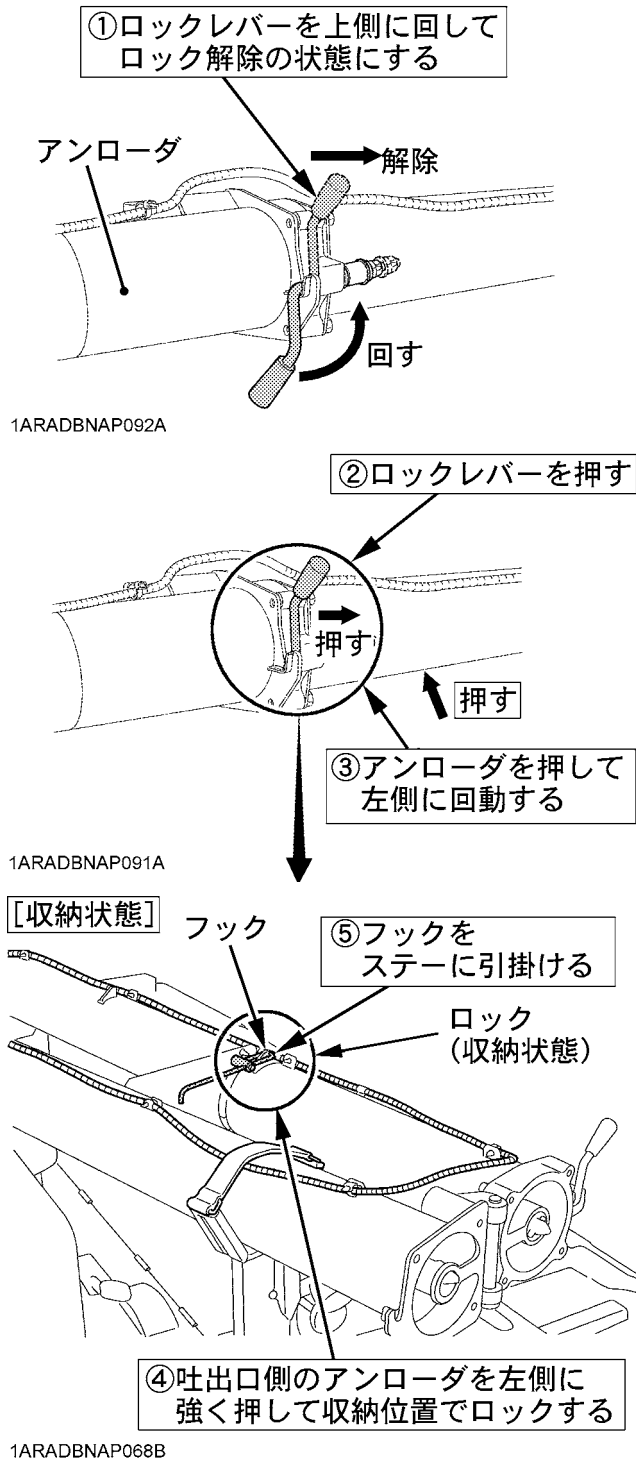
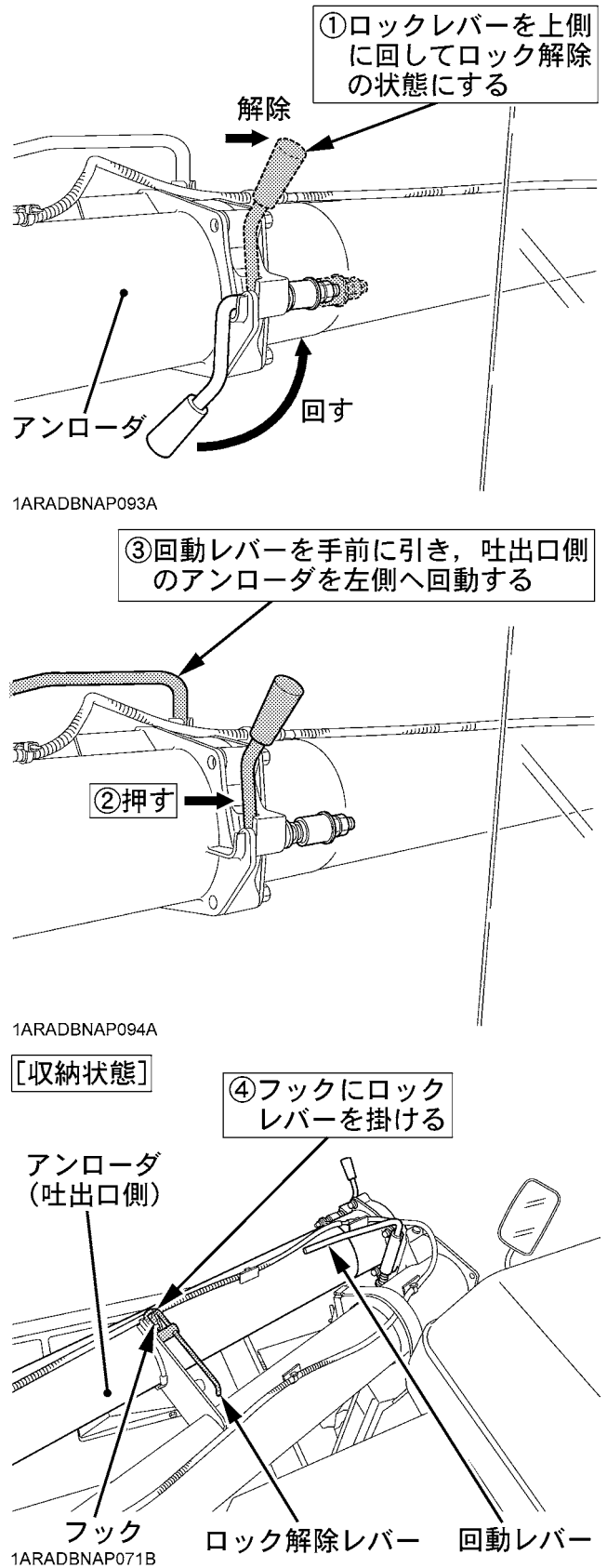
[Q 仕様を除く]

[Q 仕様]

1ARADBNAP093A

1ARADBNAP094A

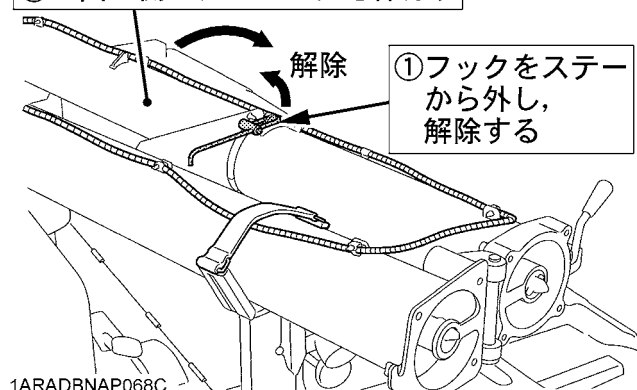
1ARADBNAP071B

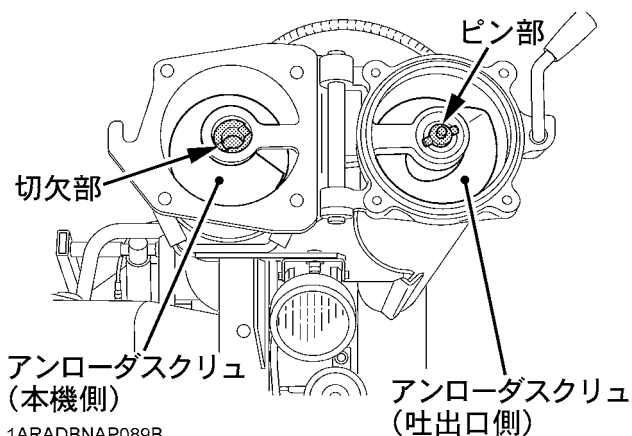
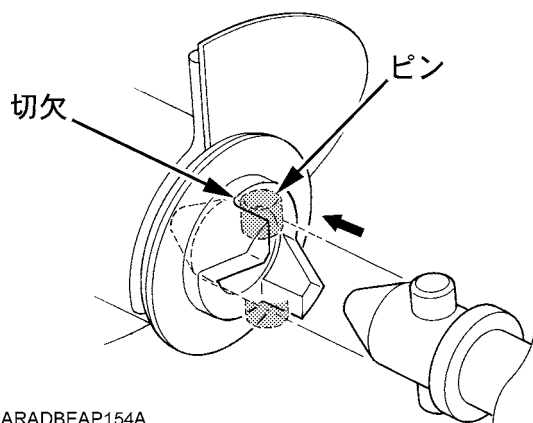
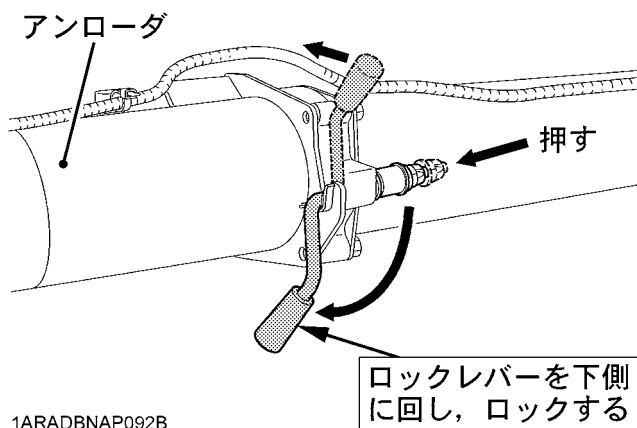
[Q 仕様]

補　足

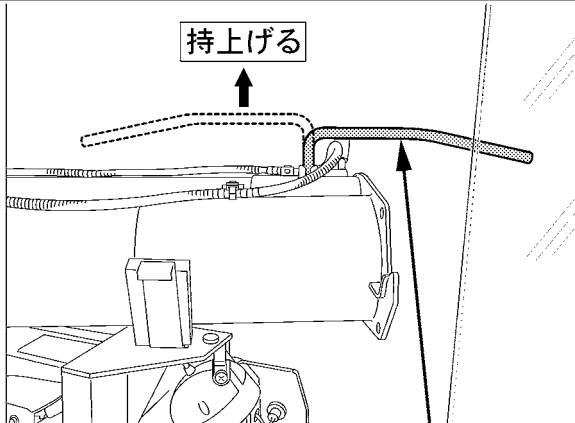
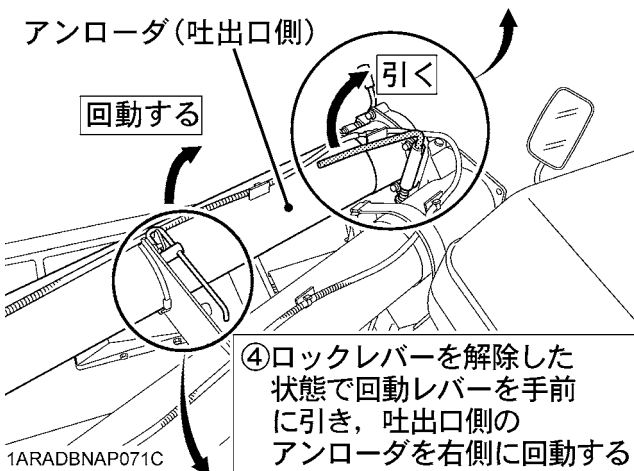
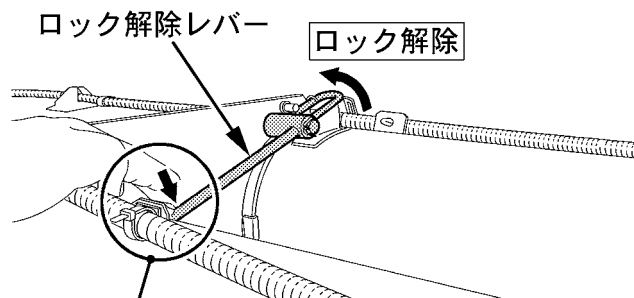
＊ 吐出口側のアンローダを強く押すと収納位置でステーにフックが引掛かり自動的にロックされます。
＊ もみの排出途中で排出を止めたとき，アンローダ内に残っているもみがこぼれますので，アンローダは折りたたまないでください。

◆ **伸ばしかた（作業時）**

1. エンジンを始動したあと，アンローダをいったん上昇します。
2. アンローダ受けを下位置にしたあと ，アンローダをアンローダ受けに収納します。
3. マルチワンレバーを操作して刈取部が地面に着くまで降ろしたあと，エンジンを停止します。
4. アンローダを伸ばします。

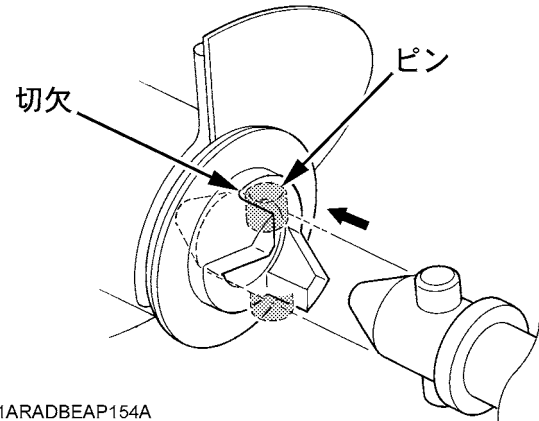
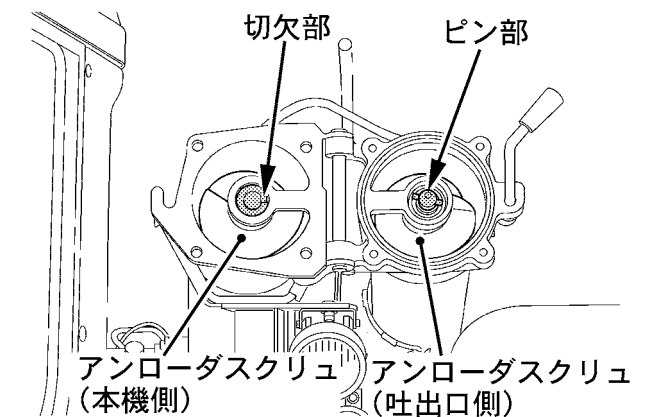
[Q 仕様除く]

補　足

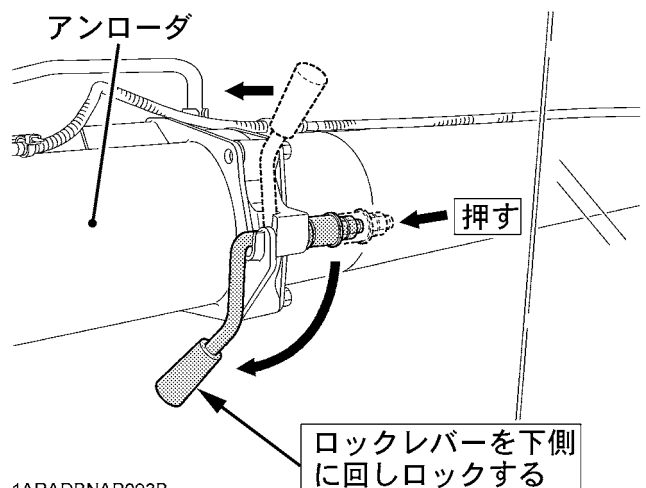
＊ アンローダを伸ばすときは，本機側アンローダスクリュの切欠に吐出口側のピンを合せてください。

5. ロックレバーで本機側と吐出口側のアンローダを固定します。このとき，スプリング部を指で押して，ロック溝にレバーを通して，下側に回してロックします。

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

1ARADBNAP095A

1ARADBNAP071C

1ARADBNAP096A

補　足

＊ 運転席からアンローダを伸ばしづらいときは，アンローダが伸ばせる位置まで左側に旋回して水平状態にしたあと，エンジンを停止し，運転席から降りてアンローダを伸ばしてください。

＊ アンローダを伸ばすときは，本機側アンローダスクリュの切欠に吐出口側のピンを合せてください。

1ARADBEAP154A

1ARADBNAP097A

5.　ロックレバーで本機側と吐出口側のアンローダを固定します。このとき，スプリング部を指で押して，ロック溝にレバーを通して，下側に回してロックします。

1ARADBNAP093B

[Q 仕様]

6. バンドを外します。
7. エンジンを始動したあと，アンローダを上昇させます。
8. アンローダ受けを**上位置**にします。
9. アンローダをアンローダ受けに収納します。

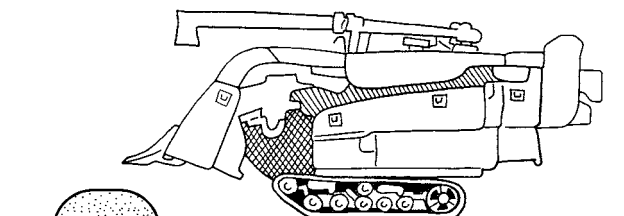
刈取作業のしかた

■ほ場の出入りのしかた

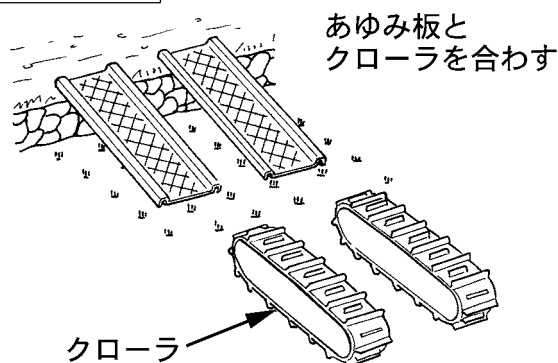
注意

- **＊ グレンタンク内に残っているもみは全て排出してください。**
- **＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。**
- **＊ あゆみ板はじゅぶんな強度，幅（55cm 以上），長さ（高さの４倍以上）のある基準（96 ページ参照）に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。また，あゆみ板はあぜに直角に置いてください。**
- **＊ あゆみ板を使うときや前後左右とも 10 度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にしてください。**
- **＊ あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。**
  斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
- **＊ あぜ越えやあゆみ板を走行するときは，自動車体水平制御（モンロー）は機体をいっぱい下げた状態にしてください。[M 仕様]**
- **＊ 右又は，左方向の傾きがある傾斜地は走行しないでください。機体が傾き転倒するおそれがあります。**
- **＊ 後進する場合は後方の安全確認，また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。**
- **＊ 機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。**

1. 副変速切換えスイッチを **[低]（低速）** 位置，副変速スイッチを **[S]（倒伏位置）** にし，手動アクセルダイヤルを操作してエンジン回転を 2000rpm 以上にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速であぜ越えしてください。

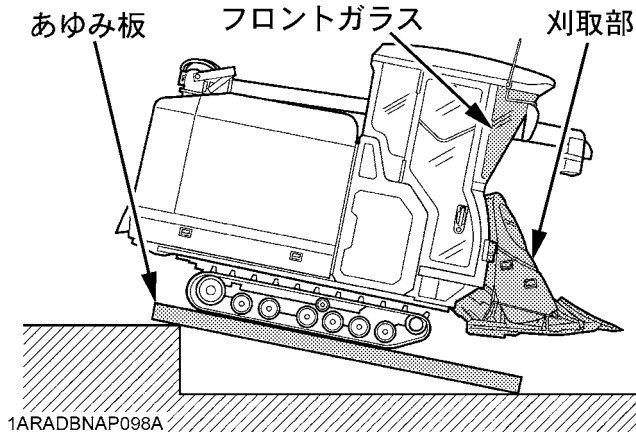
[低いあぜ越え]

1ARADBEAP155A

2. 10cm以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。

[高いあぜ越え]

1ARADBEAP124B

[Q 仕様]

重　要

＊ あゆみ板を使用しないと刈取部が突上げられて，キャビンのフロントガラスが割れるおそれがあります。

[Q 仕様]

■刈取作業の手順

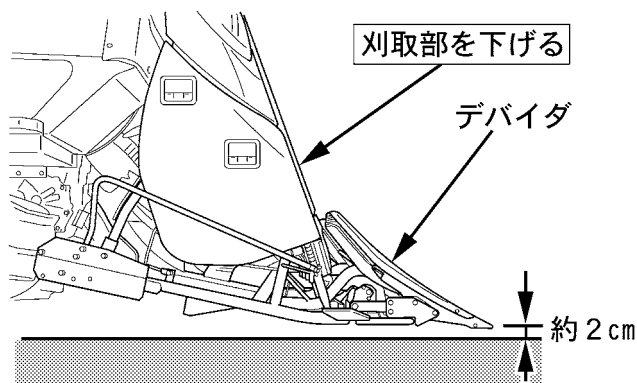
注　意

＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。
＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。
＊ 傾斜地で刈取作業中にかき込みペダルを踏込むと，機体がすべるおそれがあるため，傾斜地では刈取かき込みペダルは踏まないでください。
＊ 夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。
＊ 共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なってください。

重　要

＊ 枕地を刈取るとき，アンローダの先端が，障害物（電柱や壁など）に当たり，破損するおそれがありますので，アンローダは折りたたんだ状態で作業を行なってください。
＊ 作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊ 湿田で作業をする場合，特に一方刈りで何回も後進するときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。

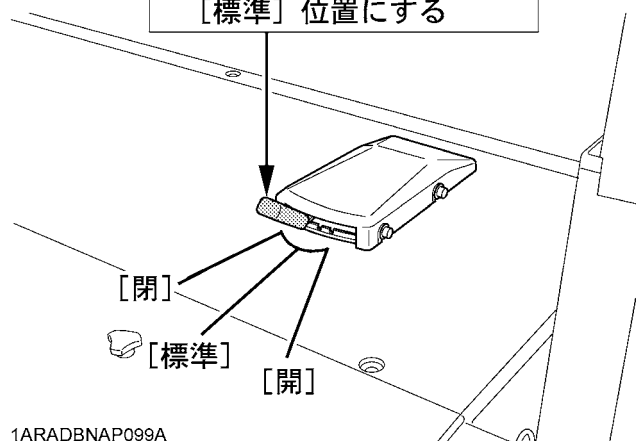
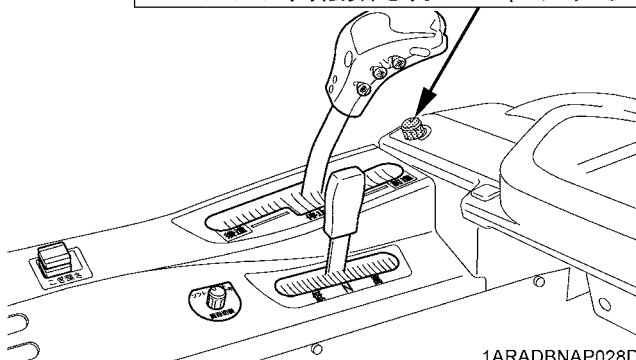
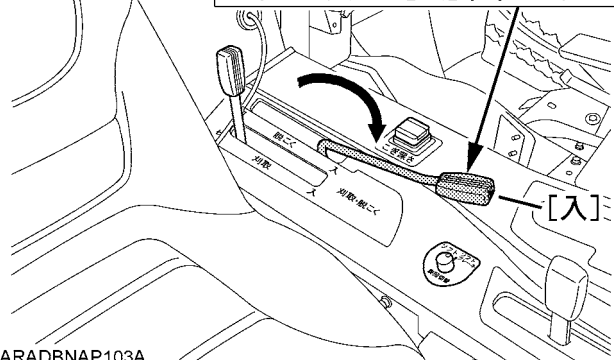
[DX 仕様]

1. マルチワンレバーを操作し，通常はデバイダの先端を地面すれすれ（約２ cm 程度）のところまで刈取部を下げます。

1ARADBNAP102A

補　足

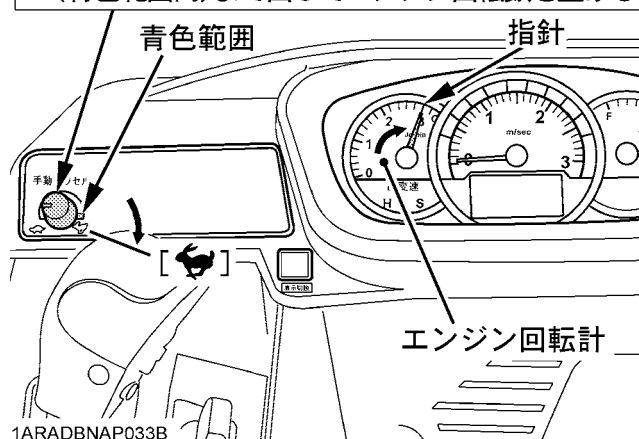
＊ 長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。

2. 各レバー・スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行ないます。

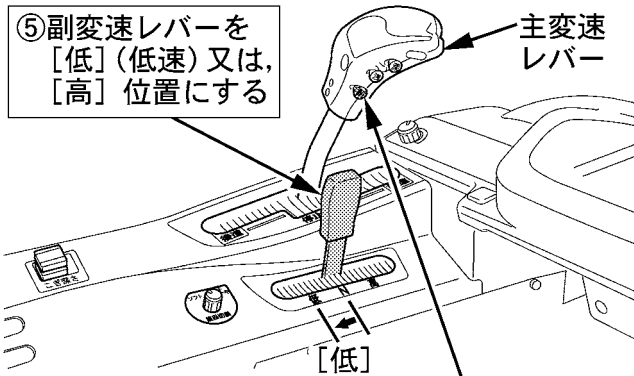
1ARADBNAP099A

1ARADBNAP028D

1ARADBNAP103A

重　要

＊ エンジン回転数が 2200rpm 以上のとき，脱こくクラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。

1ARADBNAP033B

補　足

＊ エンジンの回転数は，走行を停止した状態で合わせてください。
＊ 手動アクセルダイヤルを右側いっぱい（ラベルの**青色範囲内**）まで回したときのエンジン回転数が通常の刈取作業回転数です。
＊ エンジン回転数が低すぎると，ブザーがなります。

補　足

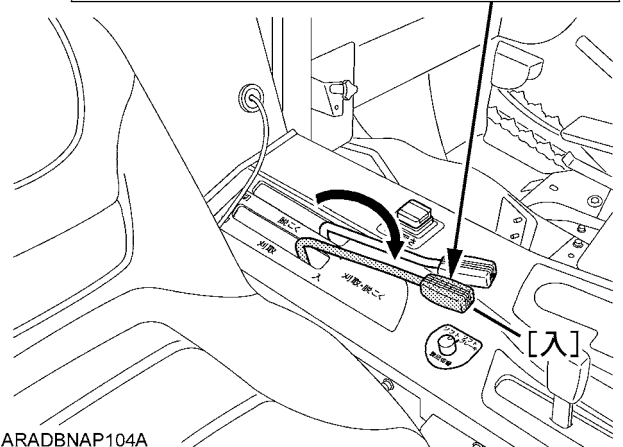
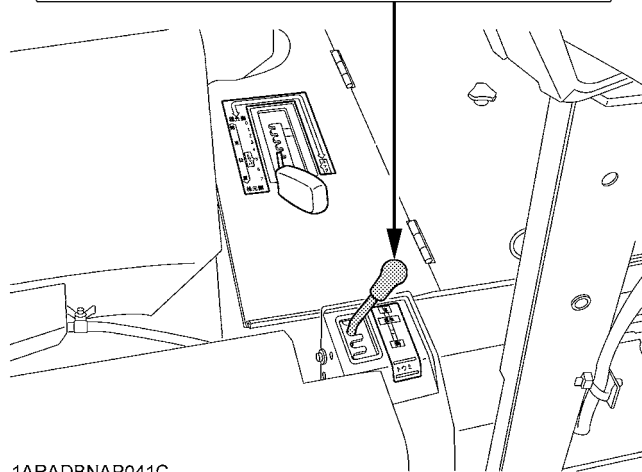
＊ 副変速切換えスイッチを押し，エンジン回転計下側にある表示部に **［L］（作業位置）** を表示すると同時に，液晶ディスプレイに **［副変速 L 作業］** と表示します。

重　要

＊ 副変速レバーの切換えは，必ず平たんな場所で主変速レバーを **［停止］** 位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。
＊ 走行中に副変速切換えスイッチを押したとき，急激な増減速に伴なうショックが発生することがあるため，副変速切換えスイッチを押すときは，機体をいったん停止する又は，機体の速度を1.0m/s以下に落としてから副変速を切換えてください。

1ARDBNAP028F

補　足

＊ 副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し **［前進］** 側に動かして **［停止］** に戻してから切換えてください。

1ARADBNAP104A

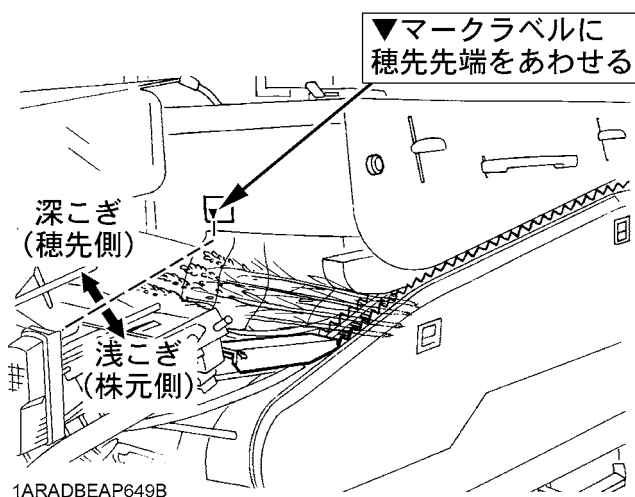
1ARADBNAP041C

補　足

＊ トウミの調節は，脱こく部を必ず回転させてから行なってください。

3. 作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは，主変速レバーにある手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあと，自動こぎ深さ切換えスイッチを **［入］**（ランプ点灯）にします。（41，42 ページ参照）
4. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。（127 ページ参照）
5. 作物の穂先先端を脱こく入口の **［▼マーク］**（こぎ深さ標準位置）に合うようにこぎ深さを調節します。（41，42 ページ参照）

1ARADBEAP649B

補　足

＊ **浅こぎ状態**では，こぎ残しが出て収穫量が下がったり，**深こぎ状態**では，負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

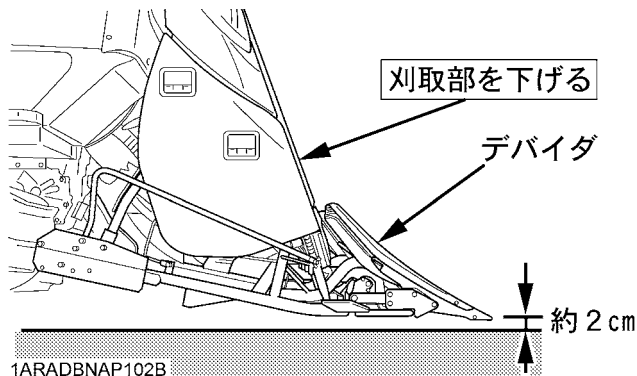
6. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（143，145 ページ参照）を行なってください。
7. 刈取作業が終わると，脱こくクラッチレバーを **［切］** 位置にし，脱こくが終わりもみが全て，グレンタンク内に入ったことを確認して，刈取クラッチレバーを **［切］** 位置にします。

［DX 仕様］

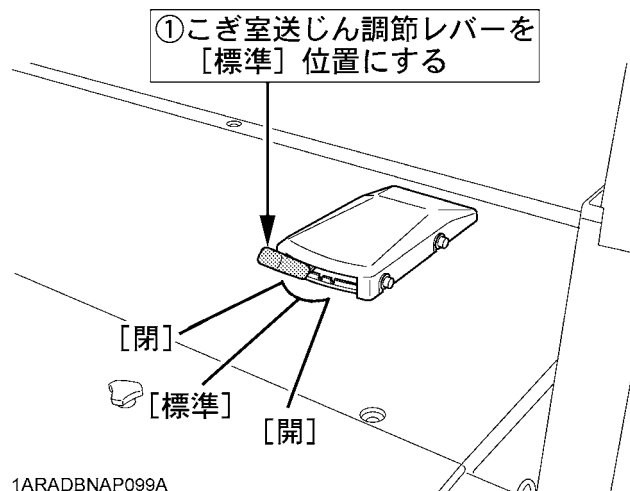
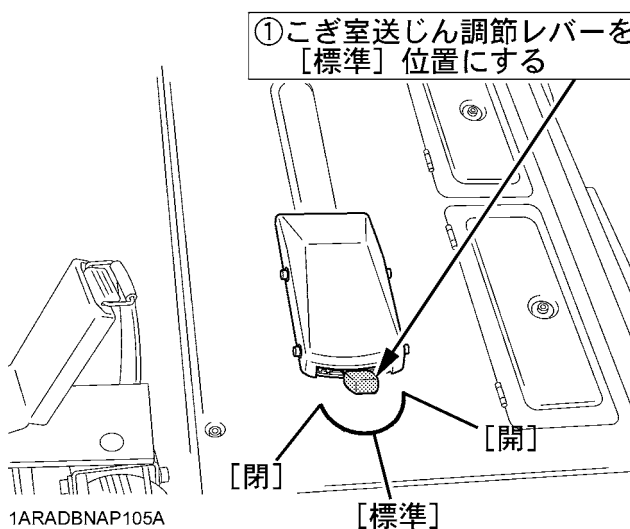
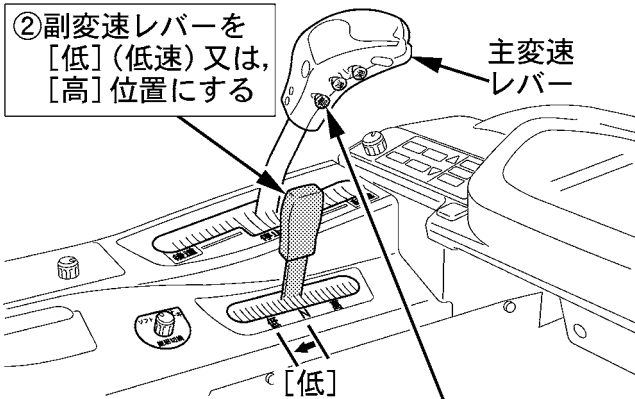
［HD・SD 仕様］

1. マルチワンレバーを操作し，通常はデバイダの先端を地面すれすれ（約 2 cm 程度）のところまで刈取部を下げます。

1ARADBNAP102B

補　足

＊ 長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。

2. 各レバーのセットを行ないます。

［329・335］

1ARADBNAP099A

［329・335］

［438・447］

1ARADBNAP105A

［438・447］

1ARADBNAP007I　※イラストはSD仕様

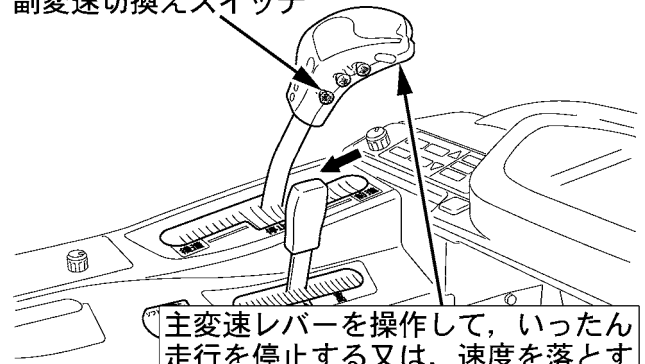
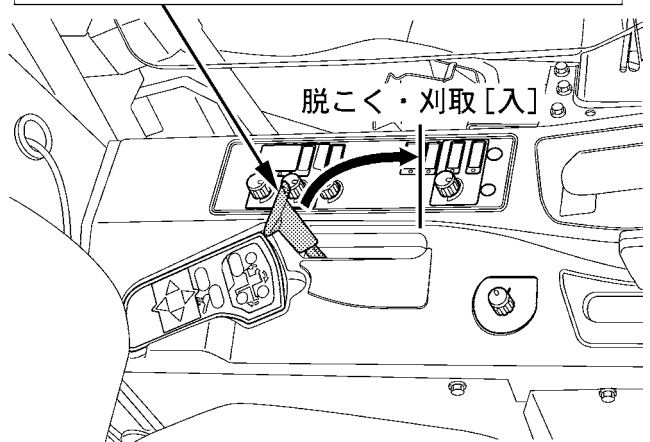
補　足

＊ 副変速切換えスイッチを押し，エンジン回転計下側にある表示部に **［L］（作業位置）** を表示すると同時に，液晶ディスプレイに **［副変速 L 作業］** と表示します。

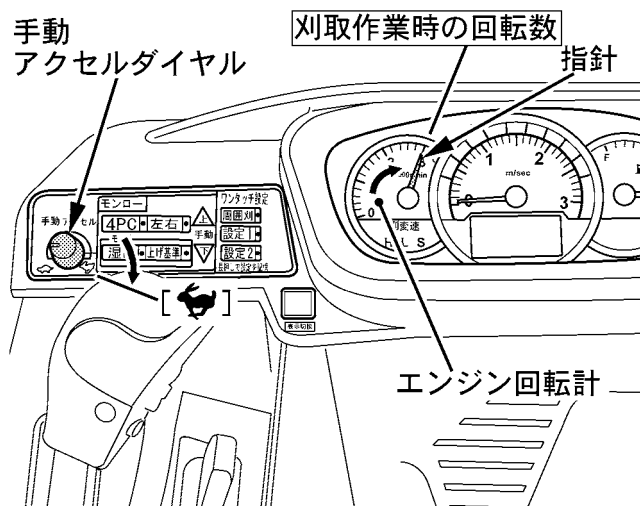
重　要

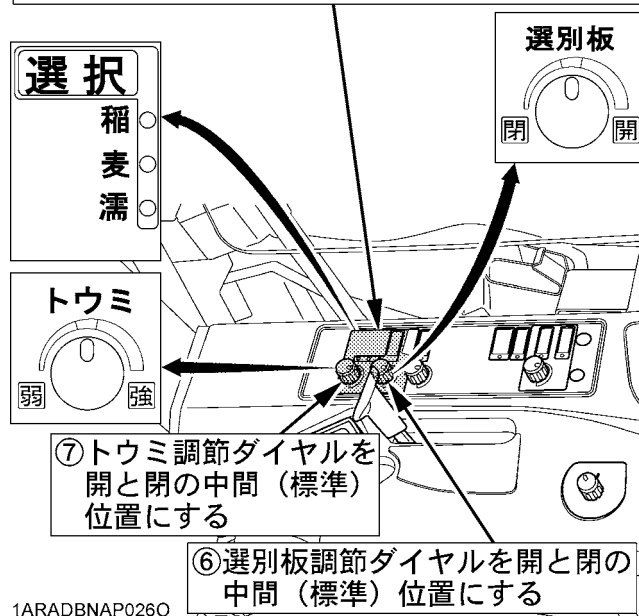
＊ 副変速レバーの切換えは，必ず主変速レバーを **［停止］** 位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

補　足

＊ 副変速レバーが切換えにくいときは，主変速レバーを少し **［前進］** 側に動かして **［停止］** に戻してから切換えてください。
＊ 走行中に副変速切換えスイッチを押したとき，急激な増減速に伴なうショックが発生することがあるため，副変速切換えスイッチを押すときは，機体をいったん停止する又は，機体の速度を1.0m/s以下に落としてから副変速を切換えてください。

1ARADBNAP007J　※イラストはSD仕様

1ARADBNAP026N　※イラストはSD仕様

補　足

＊ 作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置にすると，脱こく部が作動すると同時にエンジン回転数が刈取作業時の回転数に自動的にセットされ，刈取部が作動状態となり，自動こぎ深さ制御がはたらきます。
＊ 作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置にしたときのエンジン回転数は，手動アクセルダイヤルの位置に関係なく，作業回転となります。

＊ 作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置にしたあとにエンジン回転数の調整を行なうときは，手動アクセルダイヤルを回してください。手動アクセルダイヤルで設定したエンジン回転数が優先されます。
＊ 手動アクセルダイヤルで回転数の調整を行なったとき，エンジン回転数が低すぎるとブザーが鳴ります。

［SD 仕様］

［SD 仕様］

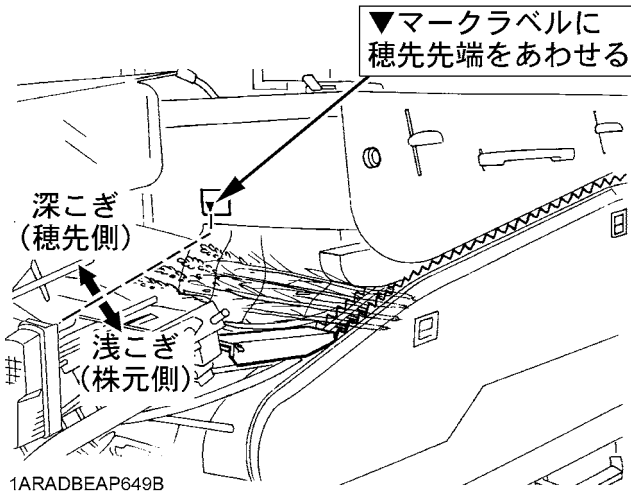
補　足

＊ 副変速切換えスイッチが**［H］（走行位置）**の状態で刈取作業を開始すると，**［L］（作業位置）**へ自動的に切換わります。

3. 作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは，主変速レバーにある手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあと，自動こぎ深さ切換えスイッチを**［入］**（ランプ点灯）にします。（42，41 ページ参照）
4. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。（127 ページ参照）
5. 作物の穂先先端を脱こく入口の**［▼マーク］**（こぎ深さ標準位置）に合うようにこぎ深さを調節します。（41，42 ページ参照）

▼マークラベルに穂先先端をあわせる
深こぎ（穂先側）
浅こぎ（株元側）

1ARADBEAP649B

補　足

＊ **浅こぎ状態**では，こぎ残しが出て収穫量が下がったり，**深こぎ状態**では，負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

6. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（143，145 ページ参照）を行なってください。
7. 刈取作業が終わると，作業レバーを**刈取［切］**位置にし，脱こくが終わりもみが全て，グレンタンク内に入ったことを確認して，作業レバーを**［切］**位置にします。

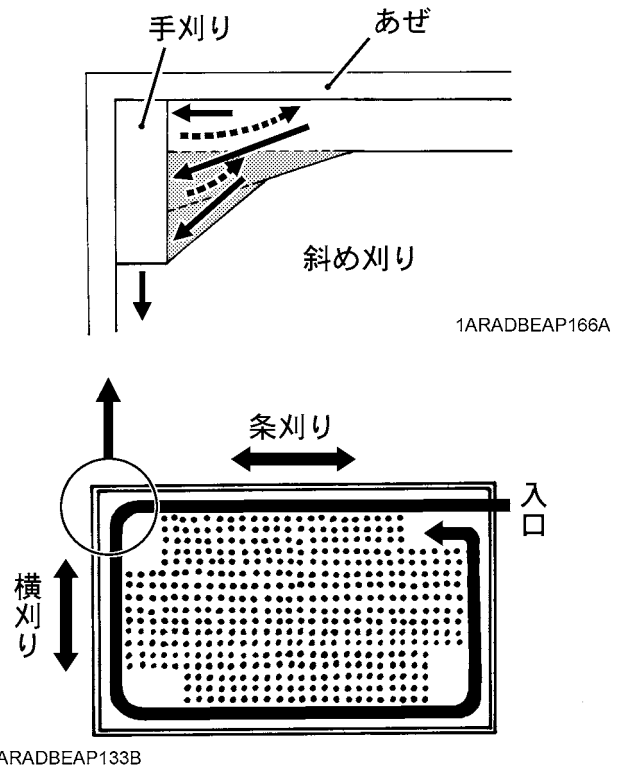
［HD・SD 仕様］

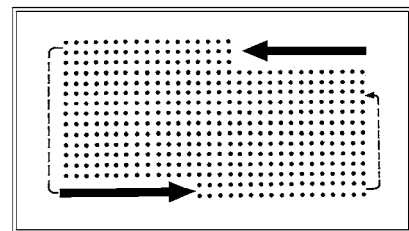
■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈りで左回りの 2 方向刈りを行なってください。

1. あぜは旋回できるまで２～４回斜め刈りします。

1ARADBEAP166A

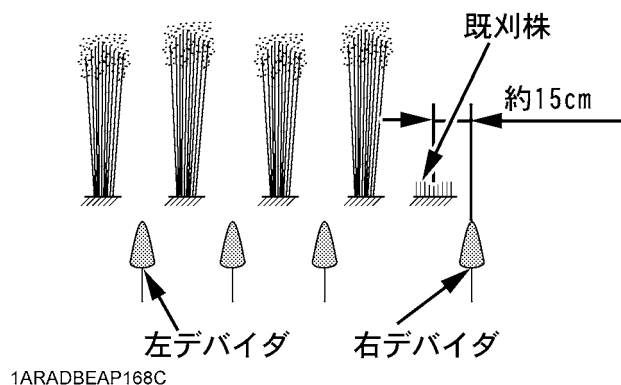
1ARADBEAP133B

2. 両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら２方向刈りを行なってください。

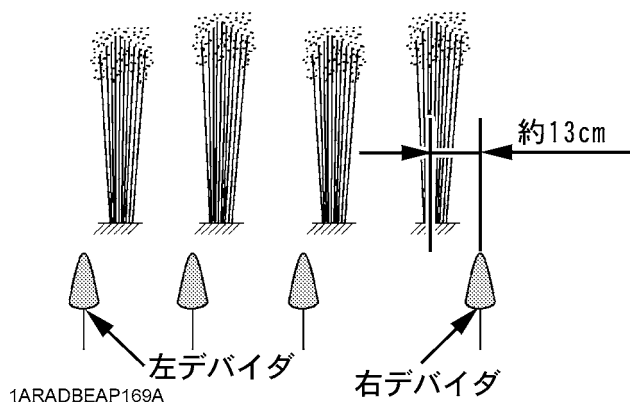
1ARADBEAP167A

◆ デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

[329・335]

右から２つ目のデバイダを株と株の間（中心）に入れるように条合わせを行なってください。

● 通常の回り刈りのとき

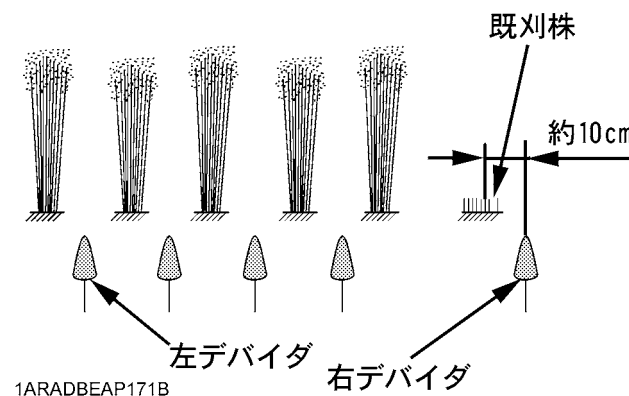
既刈株に右デバイダを約 15cm の位置に右デバイダを合わせてください。

● 刈始め・あぜぎわ刈り・中割り作業のとき

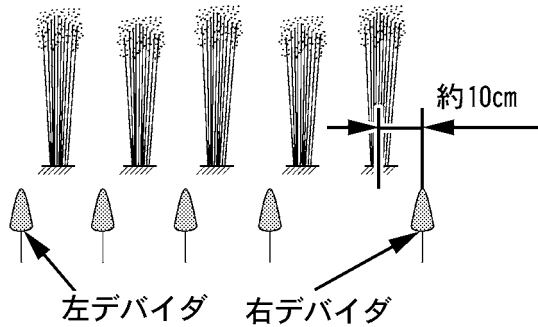
1. 右デバイダ基準で４条分刈取ってください。
2. 右デバイダを約13cmになるように合わせてください。

[329・335]

[438・447]

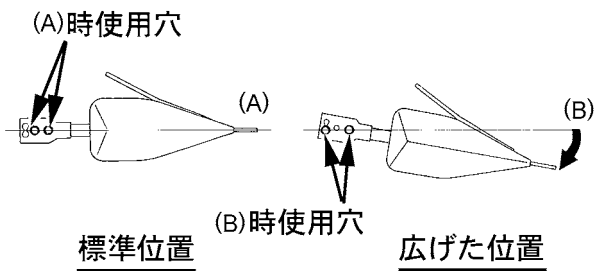
右から３つ目のデバイダ又は，分草ガイドを株と株の間（中心）に入れるように条合わせを行なってください。また，作物の植幅に合わせて，右デバイダも調節してください。

● 通常の回り刈りのとき

既刈株から約 10cm の位置に右デバイダを合わせてください。

● **刈始め・あぜぎわ刈り・中割り作業のとき**

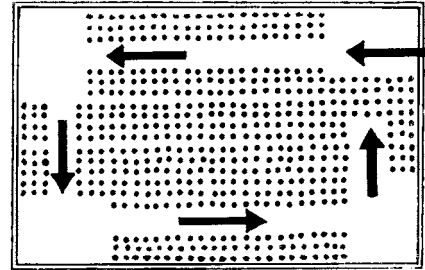
1. 右デバイダ基準で５条分刈取ってください。
2. 右デバイダを約10cmになるように合わせてください。

1ARADBEAP172A

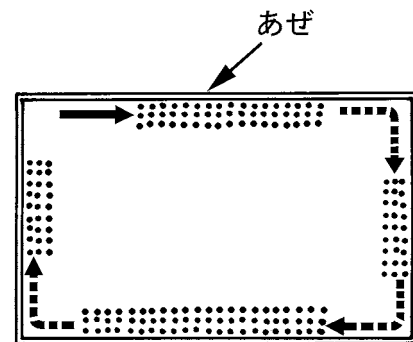
補 足

＊ 植付け条間が広いとき（33cm条間又は麦）右デバイダを広げてください。（(B) 位置）

1ARADBEAP173A
1ARADBEAP187A

［438・447］

◆ **あぜぎわの刈りかた**

1. あぜぎわの条があぜに近く，右クローラがあぜに乗り上げるときは，１周目は周囲３条［329・335］又は，４条分［438・447］を残して４条分［329・335］又は，５条分［438・447］を刈取ります。

1ARADBEAP174A

2. あぜぎわに残した**作物**の**刈取り**は，左分草かんを収納し，低速で右回りで行ないます。

1ARADBEAP175A

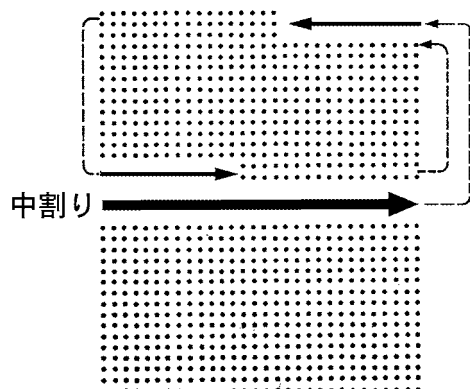
重　要

＊ あぜぎわ刈りをするとき，デバイダをあぜに突込まないように，少し高刈りをしてください。また，分草かんを畦に強く当てると刈取部が変形しますので，収納して作業してください。
＊ コンクリートの畦畔にクローラをこすりつけると，クローラを欠損する場合がありますので注意してください。

補　足

＊ 自動こぎ深さ装置を **[切]** 位置にして，こぎ残しが出ないように手動スイッチで**深こぎ**ぎみにしてください。

◆ **広いほ場の場合**

中割り刈りで分割して，同じ要領で刈取ります。

1ARADBEAP176A

補　足

＊ 中割り刈り以外のときは，通常の回り刈りをしてください。

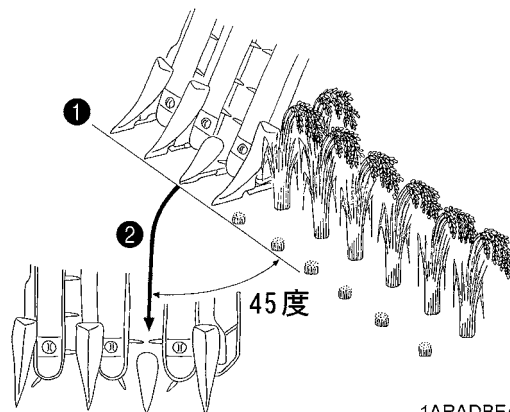
◆ **旋回のしかた**

1. 刈終わると前進しながら刈取部を**最上昇位置**まで上げます。

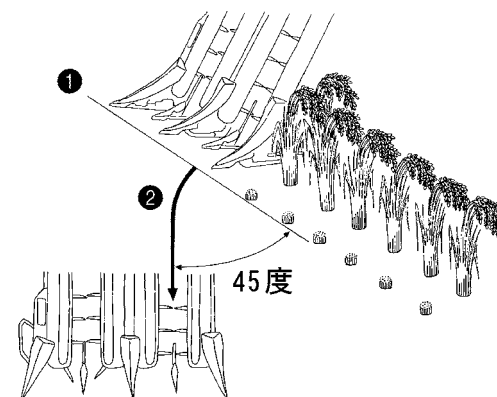
補　足

＊ 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。
＊ エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。
＊ マルチワンレバーを斜め方向に操作すると，機体の旋回と同時に刈取部が上下します。

2. マルチワンレバーを左に一杯倒し，45 度くらい旋回した位置で走行を停止します。

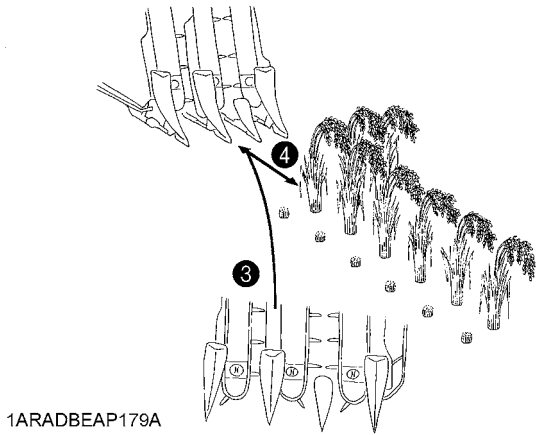
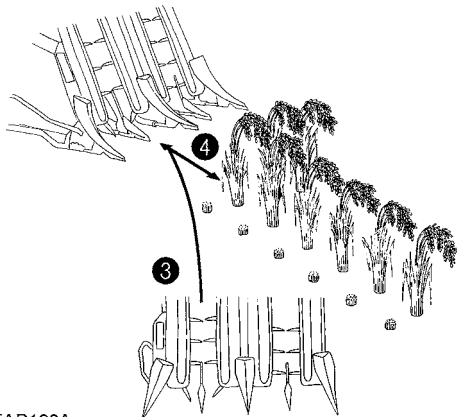
[329・335]

1ARADBEAP177A

[329・335]

[438・447]

1ARADBEAP178A

[438・447]

3. 主変速レバーを**後進**位置に入れ，後進しながらマルチワンレバーを右に倒し，次に刈る方向に刈取部を合わせます。
4. 刈取部を下げて前進します。

[329・335]

[329・335]

[438・447]

[438・447]

重 要

＊ エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

[HD・SD 仕様]

補 足

＊ 刈取オートクラッチを **[入]** 位置にしておくと，刈取部を上げたとき，自動的に刈取部の回転が停止するため，旋回が楽に行なえます。

[HD・SD 仕様]

■湿田作業のしかた

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いて処置してください。

湿田で刈取作業を行なうときは，作物の状態（倒伏角の大きさなど）やほ場の状態（ぬかるみや起伏の大きさなど）をよく確認してください。また，異常が発生したときは，下表を参照してください。

現　象	処　置
・スリップする。 ・沈下して動かなくなる。 ・機体が傾く。	・低速で作業を行なう。 ・同じ場所での旋回は避ける。 ・急旋回はしない。（マルチワンレバーを小刻みに操作し，大廻りする。） ・急発進はしない。 ・機体を軽くする。（グレンタンク内のもみを早期排出する。）
・刈取部が詰まる。	・わらくずや泥の付着を取除く。（パッカ下部や搬送部） ・少し高刈りする。
・カッタ部が詰まる。	・わらくずや泥の付着を取除く。

■作物に合わせた変速の選びかた

作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

◆ 刈取変速・引起し変速の選びかた

刈取部の引起し及び搬送の速度を作物の状態に合わせ，下表を参考にして，副変速切換えレバーを**[低]**位置の状態で副変速切換えスイッチ（**[S]**・**[L]** の２段階）と引起し変速レバー（**[標準]**・**[高速]** の２段階）で変速を行なってください。

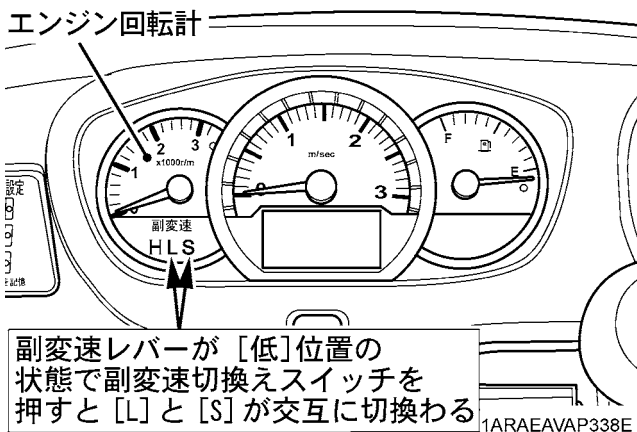
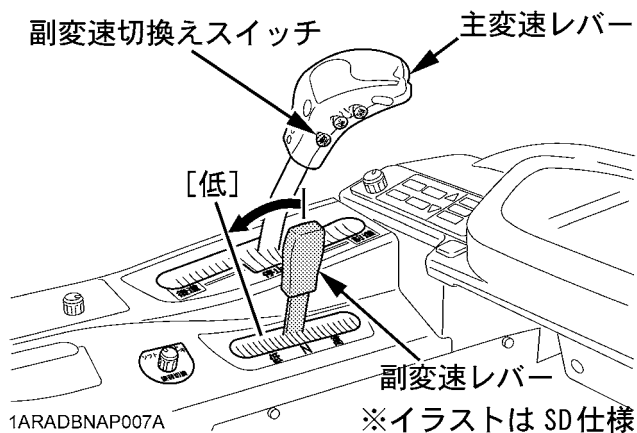
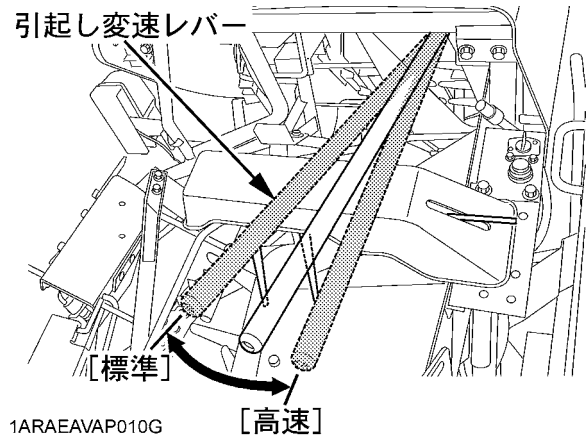
<table>
<tr><th colspan="2">作物状態</th><th colspan="2">スイッチ，レバー位置</th></tr>
<tr><th>倒伏度合</th><th>その他の条件</th><th>副変速切換えスイッチ位置</th><th>引起し変速レバー位置</th></tr>
<tr><td rowspan="3">直立</td><td>一般的作物</td><td>[L]</td><td rowspan="4">[標準]</td></tr>
<tr><td>周囲刈りなど
低速走行作業</td><td>[L]
（又は，[S]）</td></tr>
<tr><td>脱粒しやすい作物
（麦穂切れ大も含む）</td><td rowspan="2">[L]
（又は，[S]）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">倒伏</td><td>45 度以下の倒伏作物</td></tr>
<tr><td>45 度以上の倒伏作物
長かん作物</td><td>[S]
（又は，[L]）</td><td>[標準]
（又は，[高速]）</td></tr>
</table>

● **倒伏スイッチ**

1ARADBNAP007A

1ARAEAVAP338E

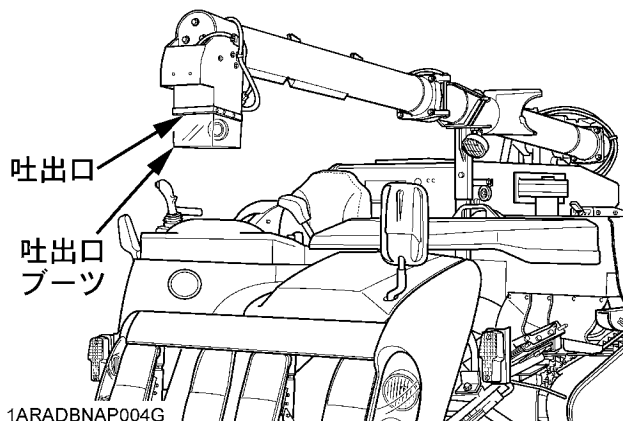
● **引起し変速レバー**

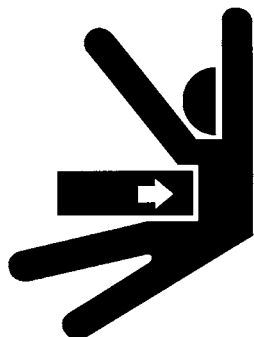
1ARAEAVAP010G

補　足

＊ 副変速切換えスイッチを押すと，エンジン回転計下側にある**副変速**の表示部に **[L]（標準）** と **[S]** を交互に表示します。
＊ 変速の選びかたの表は目安です。
＊ 出荷時の引起し変速レバーは **[標準]** 位置です。
＊ 刈取部の引起し及び搬送の速度は，車速が増減すると増減します。

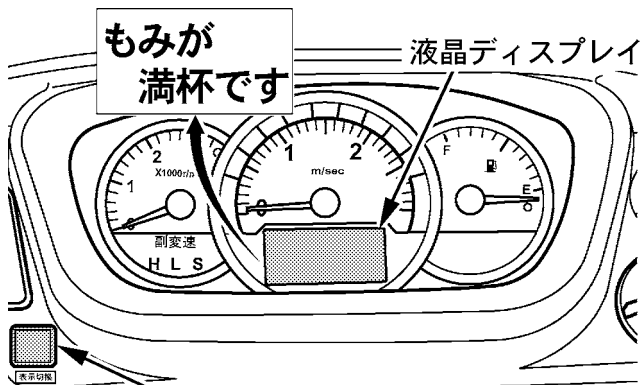
■もみの排出のしかた

注　意

＊ コンバインを必ず停止してください。
＊ 吐出口に手は入れないでください。また，吐出口ブーツが破損したときは，直ちに交換してください。

1ARADBNAP004G

＊ 手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。
＊ ［DX 仕様］はもみ排出クラッチレバーを［入］位置，［HD・SD 仕様］はもみ排出スイッチを押して，もみがアンローダ排出口から排出されるとき，頭部や顔などをアンローダ先端部に近付けないでください。もみの重みでアンローダ先端部がわずかに下がります。
＊ アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあります。

1ARADAFAP076A

＊ 排出時は機体を水平な場所に停車させ，［DX 仕様］は脱こく・刈取クラッチレバー，［HD・SD 仕様］は作業レバーを［切］位置にしてから排出作業を行なってください。

1. グレンタンク内のもみが満杯になると，マルチナビの液晶ディスプレイが **［もみが満杯です］** と表示すると同時にブザーが鳴ります。

1ARADBNAP016X

重　要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補　足

＊ 表示切換えスイッチを押すと，ブザーは停止します。

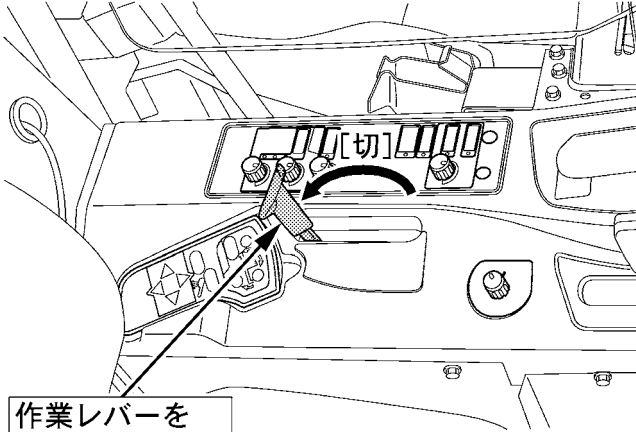
［DX 仕様］

2. 刈取作業をいったん中止し，30 秒以上待ったあと，脱こくクラッチレバーを **［切］** 位置にして，所定の排出位置に移動します。

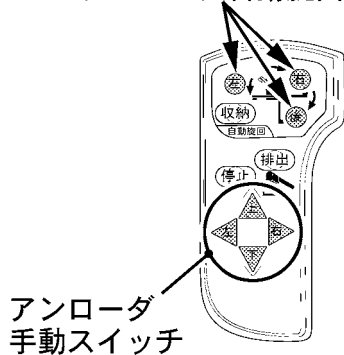
1ARADBNAP039F

［DX 仕様］

[HD・SD仕様]

2. 刈取作業をいったん中止し，30秒以上待ったあと，作業レバーを **[切]** 位置にして，所定の排出位置に移動します。

1ARADBNAP026P ※イラストはSD仕様

[HD・SD仕様]

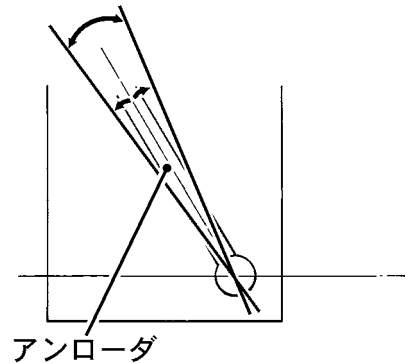
3. 主変速レバーを **[停止]** 位置にして，駐車ブレーキを掛けます。
4. アンローダ自動旋回スイッチ（左・右・後）又は，アンローダ手動スイッチを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。

1ARADBNAP044T ※イラストはHD・SD仕様

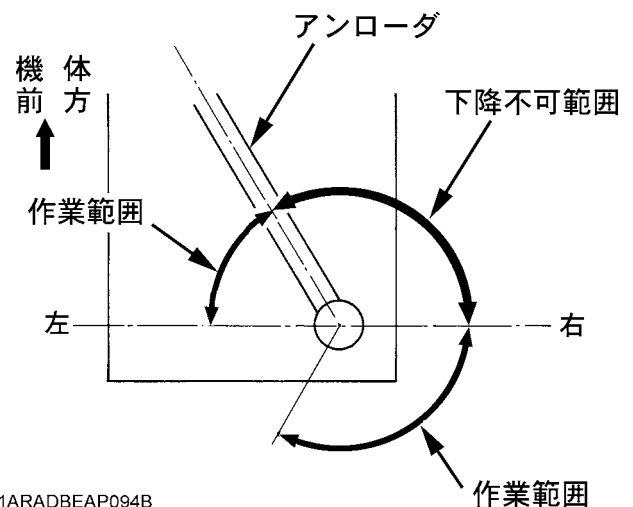
重　要

＊ 走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）及び，アンローダホーム位置のズレによる収納不良の原因になります。
＊ 自動スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

補　足

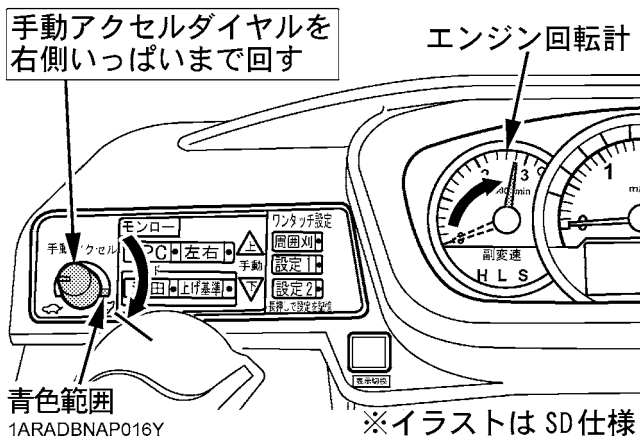
＊ 自動旋回制御装置作動中に，停止スイッチを押す又は，アンローダ手動スイッチを操作すると，自動旋回制御は停止します。

＊ アンローダ自動旋回スイッチを押したとき，アンローダが動作始動開始範囲外にあるときは，アンローダは自動旋回しません。旋回するときは，アンローダ手動スイッチで手動で操作する又は，アンローダをいったんアンローダ受けに収納したあと，アンローダ自動旋回スイッチを操作してください。

1ARAEASAP571A

＊ 自動旋回制御装置作動中でもアンローダ手動スイッチの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。
＊ アンローダが最上昇位置のとき，**下降不可範囲**ではアンローダ手動スイッチを操作しても下降しません。また，このときに液晶ディスプレイに **[アンローダを上昇する]** と表示しますので，アンローダを最上昇位置まで上げて旋回してください。
＊ アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき，アンローダ手動スイッチを操作しても**下降不可範囲**内には旋回しません。また，このときに液晶ディスプレイに **[アンローダを上昇する]** と表示します。

1ARADBEAP094B

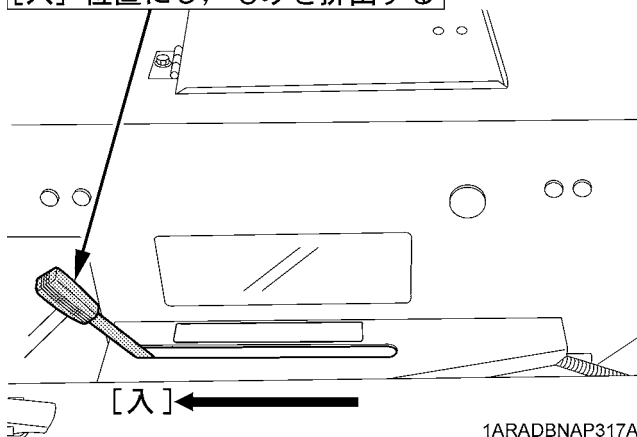
＊ アンローダ手動スイッチとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し，アンローダ手動スイッチを操作してください。アンローダ手動スイッチの **[左]（赤色）** を押すとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダ手動スイッチの **[右]（青色）** を押すとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。
＊ アンローダが収納されていない状態で走行を開始すると，液晶ディスプレイに **[アンローダを確認する]** と表示すると同時に警報ブザーが鳴ります。

5. 手動アクセルダイヤルを右側いっぱい（青色範囲内）まで回して刈取作業時と同じエンジン回転数にします。

1ARADBNAP016Y

補　足

＊ 排出作業は刈取作業時の回転のままでしてください。
＊ エンジン回転数を **1600rpm 以下**に下げないでください。もみ詰まりの原因となります。
＊ 損傷しやすい作物は，エンジン回転数を約2000rpm 程度まで下げてください。

[DX 仕様]

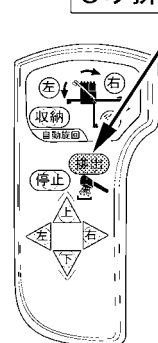
6. もみ排出クラッチレバーを **[入]** 位置にし，もみを排出します。

1ARADBNAP317A

補　足

＊ アンローダリモコンの **[停止]** スイッチを押してももみの排出は停止しないため，操作を間違えないでください。**[停止]** スイッチを押すと旋回中のアンローダが停止します。

[DX 仕様]

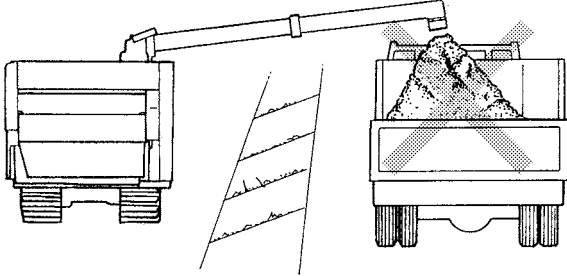
[HD・SD 仕様]

6. もみ排出スイッチを押し，もみを排出します。

1ARADBNAP044F

[HD・SD 仕様]

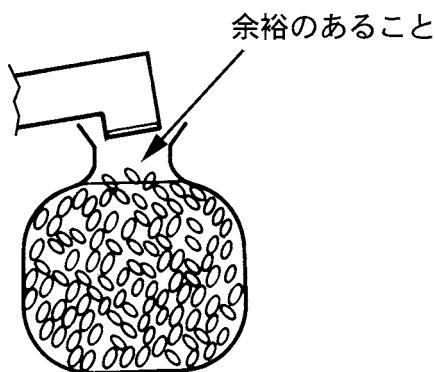
重　要

＊ 吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。

［アンローダ出口注意］　［吐出口をふさがない］

1ARADBEAP181C

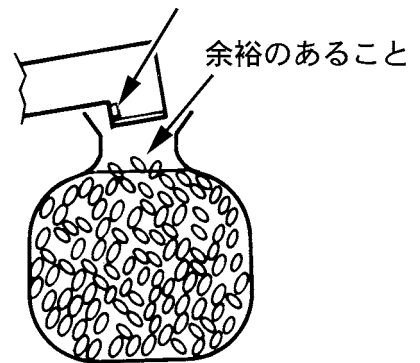
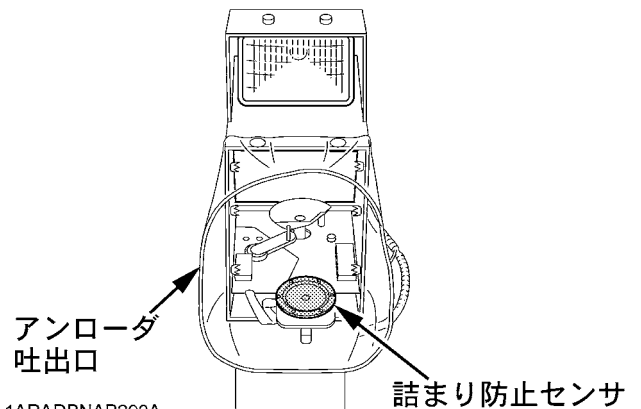
＊ アンローダには，絶対に物を吊るさないでください。

[DX 仕様]

＊ アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると駆動系統の故障の原因になります。

1ARADBEAP182A

[DX 仕様]

[HD・SD 仕様]

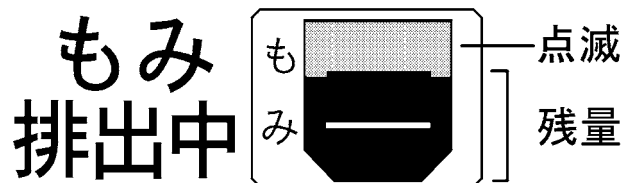
＊ アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止センサに一定時間もみが接触するとセンサがはたらいてもみの排出が停止しますが，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，アンローダリモコンの **[停止]** スイッチを押してください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。

1ASADACAP311A

1ARADBNAP290A

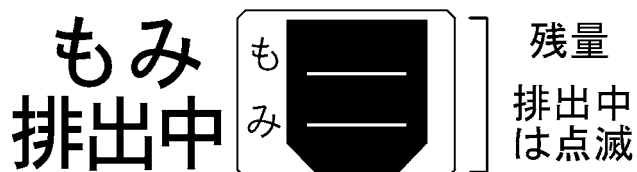
[HD・SD 仕様]

補　足

＊ もみ排出中は，液晶ディスプレイにグレンタンク内のもみの残量を表示します。もみを排出し，もみの残量が少なくなると排出された目盛が点滅に変わります。

［SD 仕様］

1ARADBNAP351A

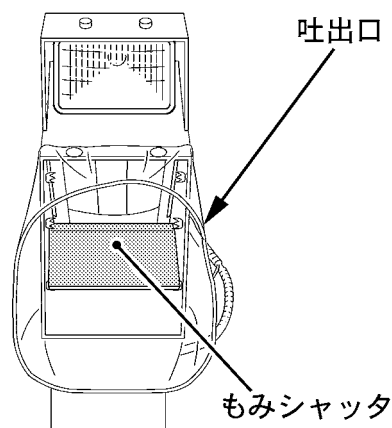
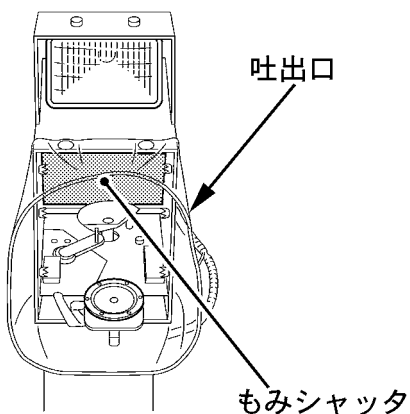
［SD 仕様］

［DX・HD 仕様］

1ARADBNAP352A

［DX・HD 仕様］

＊ もみ排出クラッチが**［入］**の間は，液晶ディスプレイに**［もみ排出中］**を表示します。

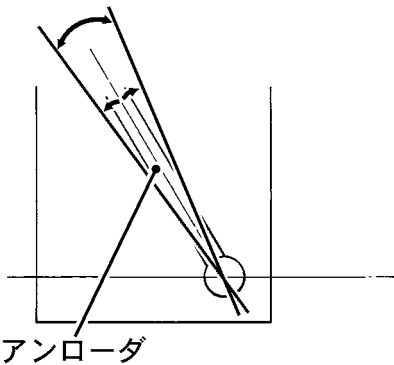
［HD・SD 仕様］

＊ アンローダ先端部の吐出口にあるもみこぼれ防止用のもみシャッタは，もみを排出したあと，アンローダ受けに収納するときに閉じます。

1ARADBNAP289A

1ARAEADBNAP290C

［HD・SD 仕様］

7. もみの排出が終わると，**[DX 仕様]** はもみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置，**[HD・SD 仕様]** はアンローダリモコンの **[停止]** スイッチを押し，排出を停止させたあと，収納スイッチ又は，アンローダ手動スイッチを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

補　足

* アンローダ手動スイッチでアンローダを操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。
* 収納スイッチを押したとき，アンローダが動作開始範囲内にあるときは，アンローダは収納しません。収納するときは，アンローダ手動スイッチで手動で操作してください。

1ARAEASAP571A

* アンローダ手動スイッチを操作してアンローダを収納するとき，手動スイッチを押し続けるとアンローダ受けの上側でアンローダがいったん停止します。そのあと，アンローダの旋回を行なうときは，いったん手動スイッチから手を離し，再度手動スイッチを操作してください。

[DX 仕様]

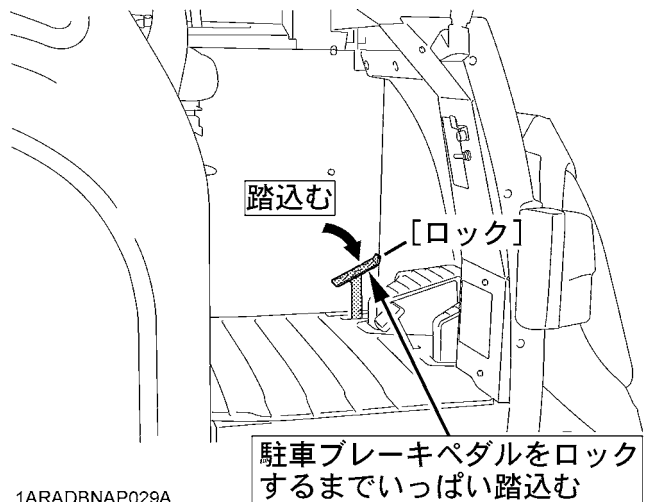
* アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

[DX 仕様]

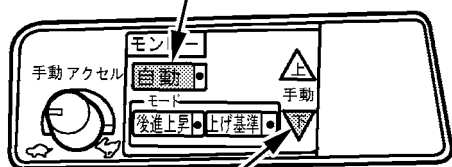
■手刈り（枕刈り）脱こくのしかた

警　告

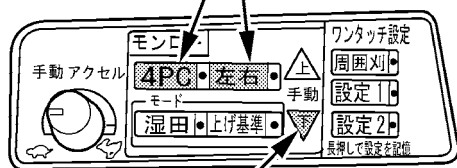
* **そで口はきっちり止めて，手袋，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。**
* **コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。**
* **刈取部は地面に接地させて，停止してください。**
* **手刈り（枕刈り）脱こくするときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側（コンバインから離れる位置）にして，作物を少量ずつ供給してください。**

1. 駐車ブレーキを掛けます。

1ARADBNAP029A

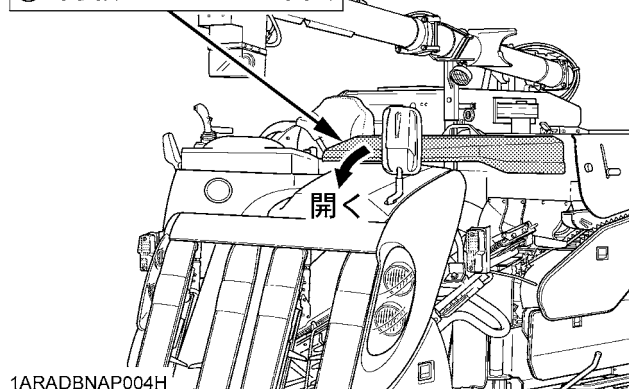
2. 機体を下げて，各部の準備をします。

［HDM 仕様］

1ARADBNAP032G

［HDM 仕様］

［SD4M 仕様］

1ARADBNAP016Z

［SD4M 仕様］

［SD 仕様］

1ARADBNAP004H

補　足

＊ 刈取防じんカバーは前方いっぱいまで開けてください。

［SD 仕様］

［DX 仕様］

3. 脱こくクラッチレバーを**脱こく［入］**位置にし，脱こく部だけを動かします。

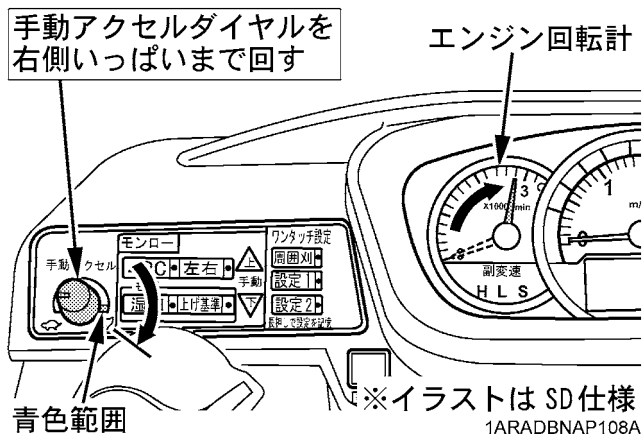
［DX 仕様］

［HD・SD 仕様］

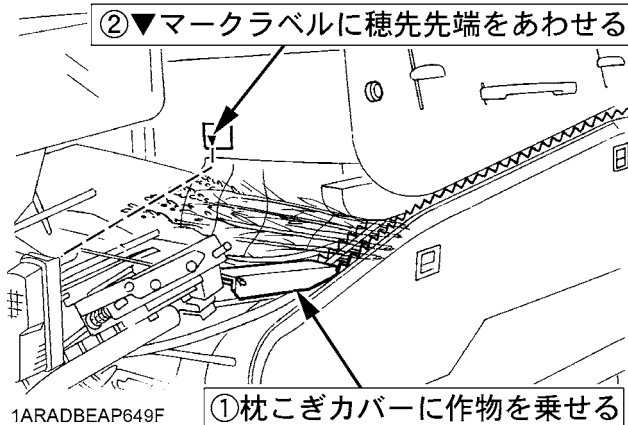
3. 作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置にしたあと，**刈取［切］**位置にし，脱こく部だけを動かします。

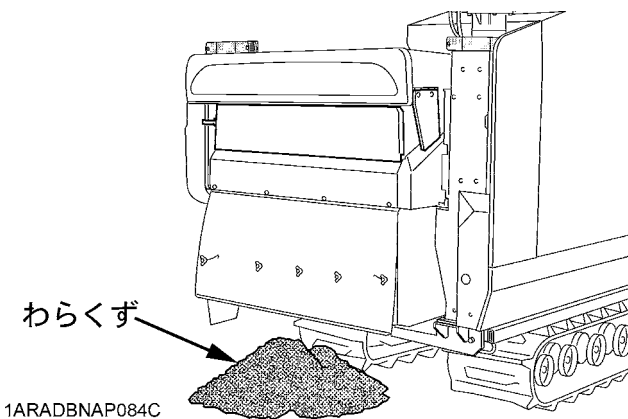
［HD・SD 仕様］

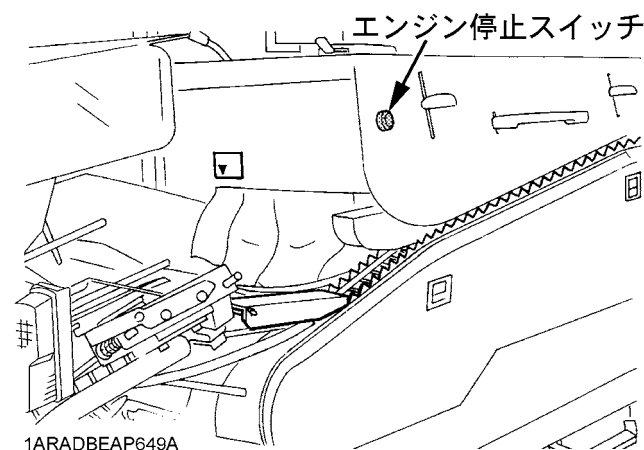
4. 手動アクセルダイヤルを右側いっぱいまで回します。

1ARADBNAP108A

5. 手刈り作物を枕こぎカバーに乗せたあと，作物の穂先先端を **［▼マーク］** に合わせ，少量ずつフィードチェーンに供給します。

1ARADBEAP649F

重　要

＊ １箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を定期的に移動させてください。
＊ 切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は，エンジンを必ず止めて取除いてください。

1ARADBNAP084C

＊ 手刈り脱こく時に万一異物などのかみ込みが発生したときは，エンジン停止スイッチを押してください。

1ARADBEAP649A

■作業に合わせた各部の調整･調節のしかた

警　告

＊ 作業中の調整以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから，調整・調節を行なってください。
＊ 衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

注　意

＊ 平たんで安定した場所で行なってください。
＊ コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

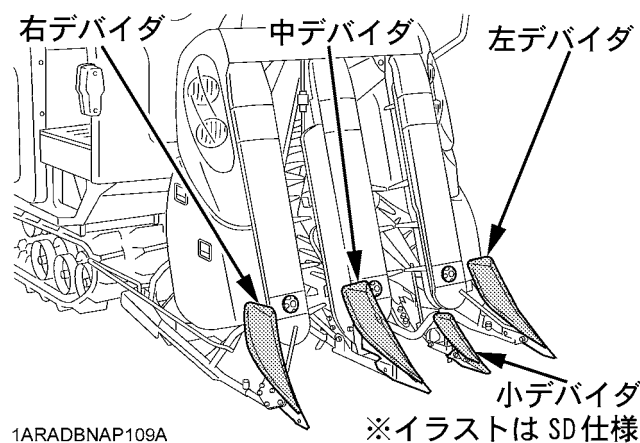
◆刈取部

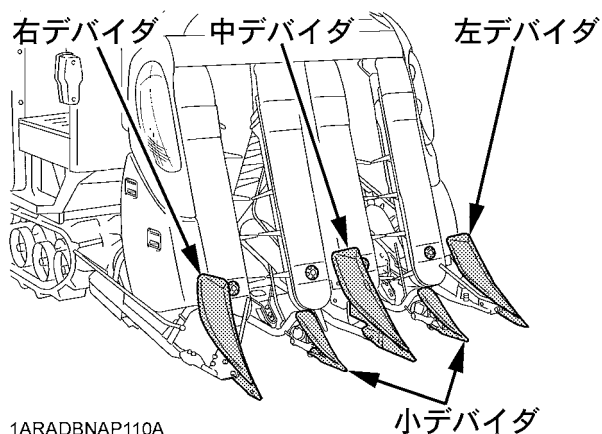
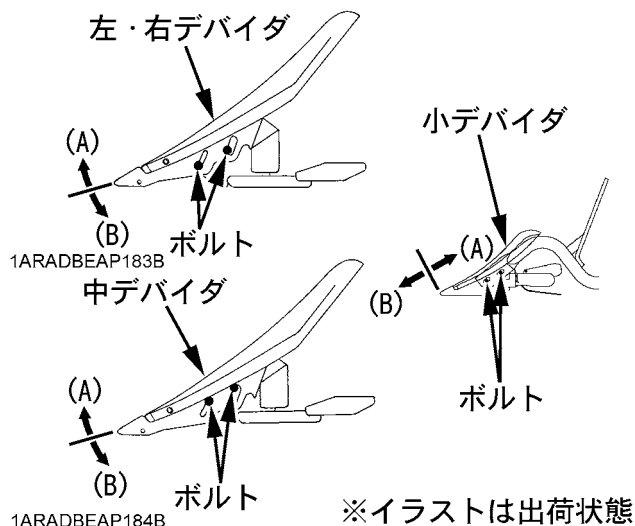
■デバイダの上下調整

下表の作物条件を目安にして，調整を行なってください。調整のしかたは，ボルトをゆるめて下表を参照し調整を行なったあと，ボルトを締付けます。

作物・ほ場条件	調整方向
標準	出荷位置
湿田で前上りになるとき	（A）方向
うね作業のとき	（B）方向
雑草が多く高刈りしたいとき	
横倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いとき	

※上表は目安です。

[329・335]

[329・335]

[438・447]

[438・447]

補　足

＊ デバイダの上下高さは，全てのデバイダを同じ高さにしてください。

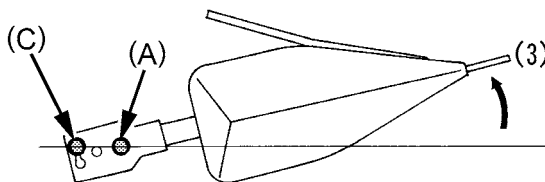
■右デバイダの調整

[438・447]

下表の作業条件を目安にして，調整を行なってください。調整のしかたは，ボルト(A)と(B)又は(C)の2箇所をゆるめたあと，ボルト(B)又は，(C)の取付け位置を変更します。下表を参照し調整を行なったあと，ボルト2箇所を締付けます。

調整位置	作業条件
(1)	● 標準位置
(2)	● 湿田でコンバインが前上りになるとき ● うね作業のとき ● 雑草が多く高刈りしたいとき
(3)	● 短かん作物の中割り作業などで搬送の乱れやこぎ残しがあるとき

1ARADBEAP173B

1ARADBEAP187B

1ARADBEAP188A

補　足

＊ デバイダカバーを取付けるときは，(1)（標準）の位置にしてください。

［438・447］

■引起し爪高さの調節

作物条件に応じて，引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

1. 引起しサイドカバー左，右を取外したあと，引起しカバーのノブボルトを外して，引起しカバーを全て外します。

1ARADBNAP110C

※イラストは 447

1ARADBEAP191B

※イラストは 447

調節位置		作物条件
(1) (2) (3) (4)	(1)	● 極端に脱粒しやすい作物 ● 穂切れ，ヘッドロスが多い作物
	(2)	● 脱粒しやすい品種 ● わらちぎれの多い作物（過熟小麦など）
	(3)	● 標準の作物［**出荷時**］
	(4)	● 極長かん（130cm 以上） ● 長かんで倒伏している作物

2. 引起しカバーを全て装着したあと，ノブボルトを締付けます。
3. 引起しサイドカバー左，右を取付けます。

■刈刃の高さ調節

注 意

- ＊ **平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。**
- ＊ **刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。**
- ＊ **脱着作業は手袋をして，2 人で刈刃の両端を持って行なってください。**

作物の刈株跡の高さを低くするときは，刈刃の高さ調節を行なってください。調節を行なうときは 2 人作業で行なってください。

補 足

＊ カラーを取付けると刈刃の高さが約 9 ㎜低くなります。

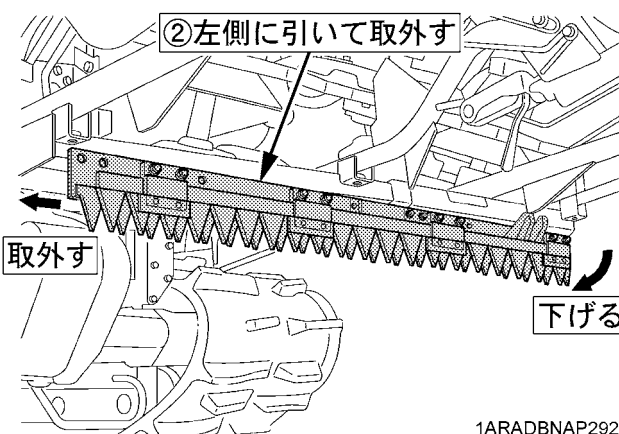
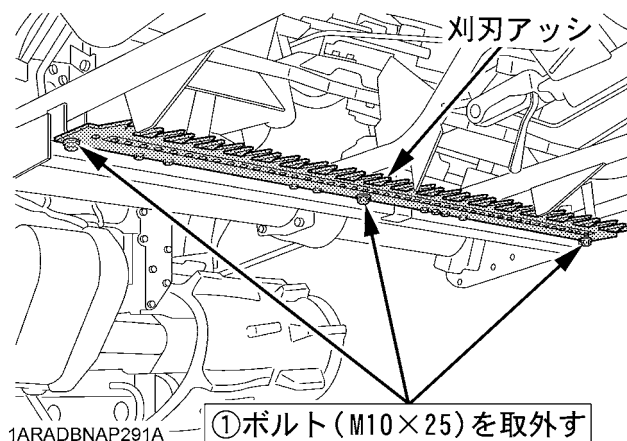
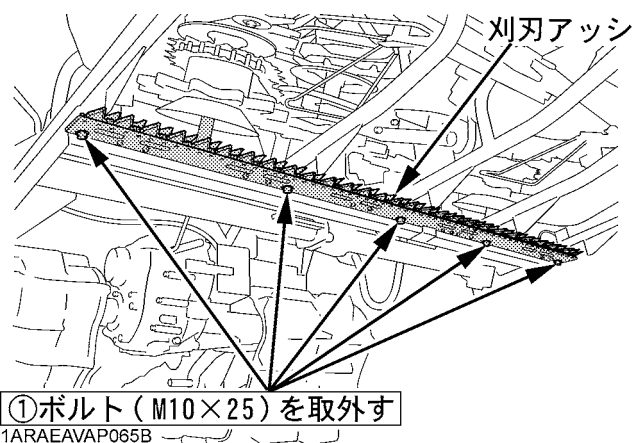
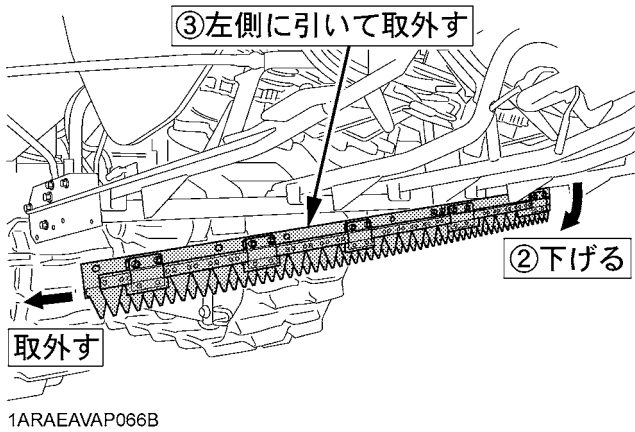
1. エンジンを始動したあと，**［M 仕様］**は自動水平制御装置の手動スイッチの**［上］**を押して機体を**最上昇位置**にします。
2. 刈取部を**最上昇位置**にしたあと，刈取下降ロックスイッチを**［ロック］**位置にして刈取部の下降防止を行なったあと，エンジンを停止します。また，枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。
3. ボルト（M10 × 25）（**［329・335］**は 3 本，**［438・447］**は 5 本）を外して刈刃を取外します。（273 ページ参照）

［329・335］

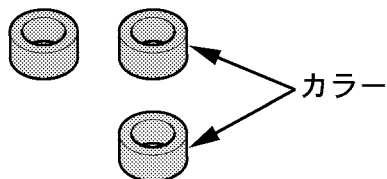
［329・335］

［438・447］

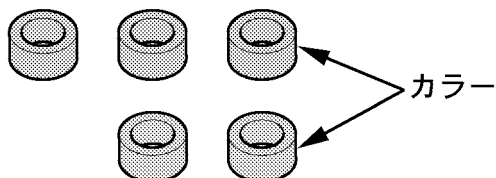
③左側に引いて取外す
②下げる
取外す

1ARAEAVAP066B

[438・447]

4. 付属部品のカラー（[329・335] は３個，[438・447] は５個）をフレームと刈刃の受刃台の間にはさんで付属部品のボルト（M10 × 35）を取付けます。
（刈刃の取付けかたは 273 ページ参照）

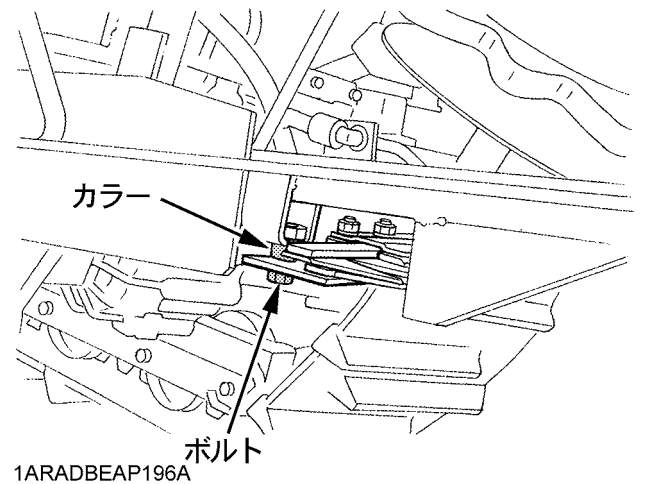
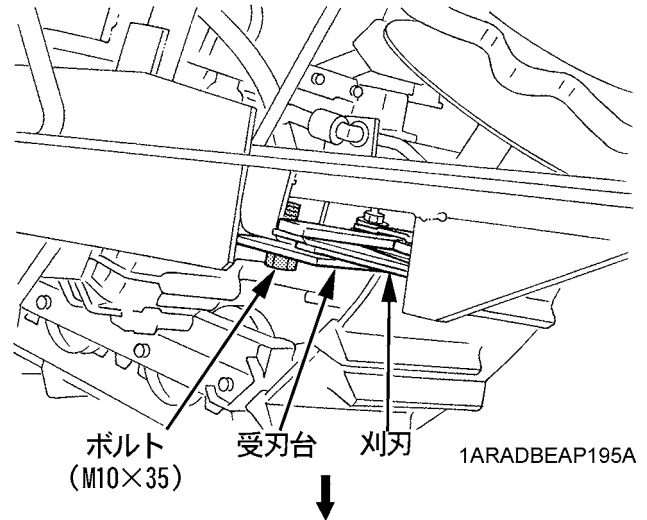
[329・335]

1ARADBEAP194C

[329・335]

[438・447]

1ARADBEAP194B

[438・447]

1ARADBEAP195A

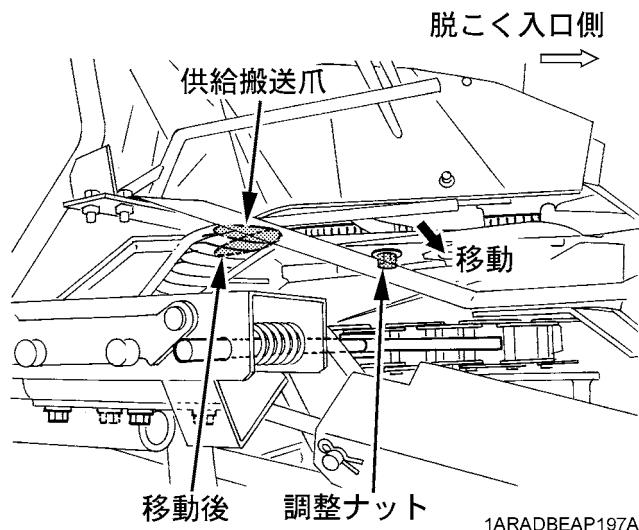
1ARADBEAP196A

5. [329・335] は３箇所とも，[438・447] は５箇所ともカラー及びボルトを締付けて刈刃を取付けます。

重　要

＊ 下記条件のときは，作業のしかたにより刈刃に泥・土がかかり破損の原因となりますので**標準位置**（出荷時）で作業を行なってください。
- ほ場が湿田のとき
- 作物が麦などのうねのあるほ場のときや，雑草が多いとき

■右穂先チェーン爪ガイドの調整

脱粒しやすい稲で，ロスを少なくしたいときに右穂先チェーンの搬送爪の倒れ量を調整してください。

下図のように右爪ガイドの下のナット（ケース裏側，1コ）をゆるめ，➡方向に移動させてナットを締付けてください。

補　足

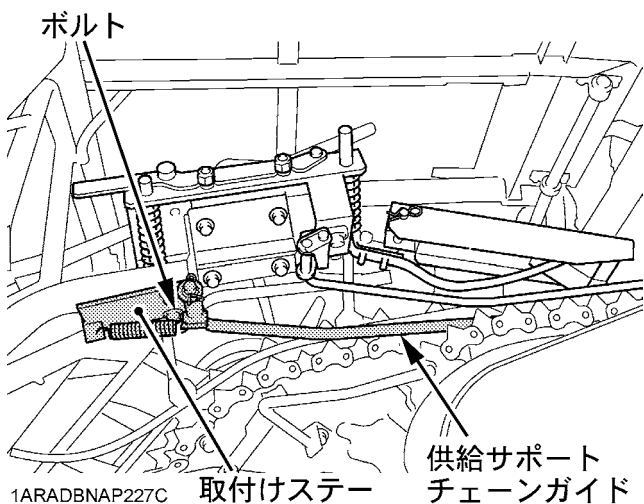
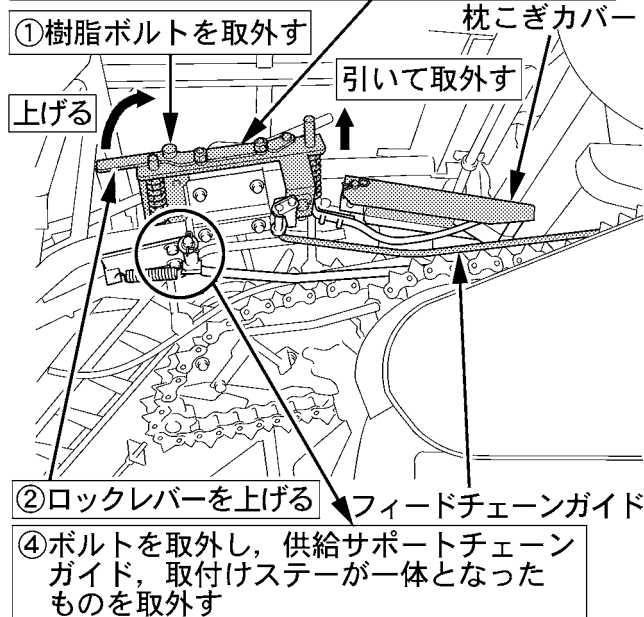
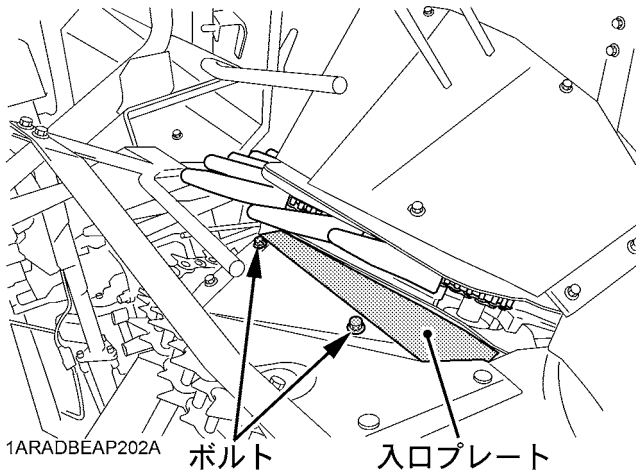
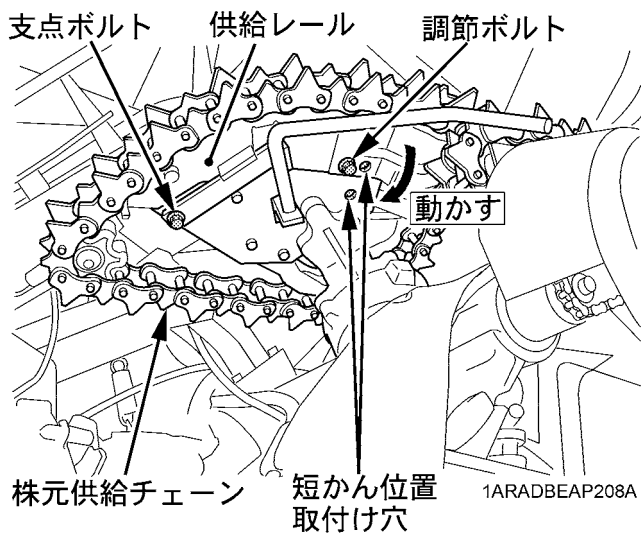
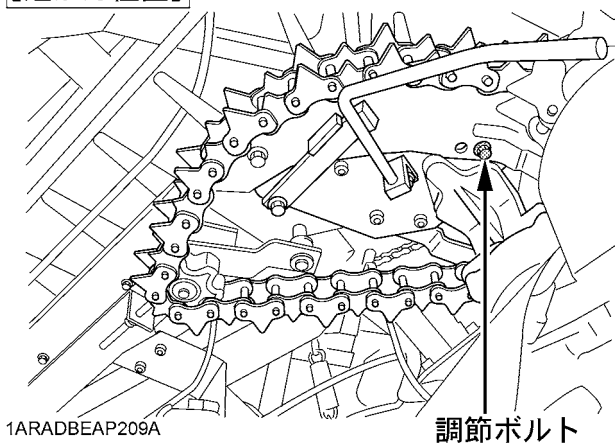
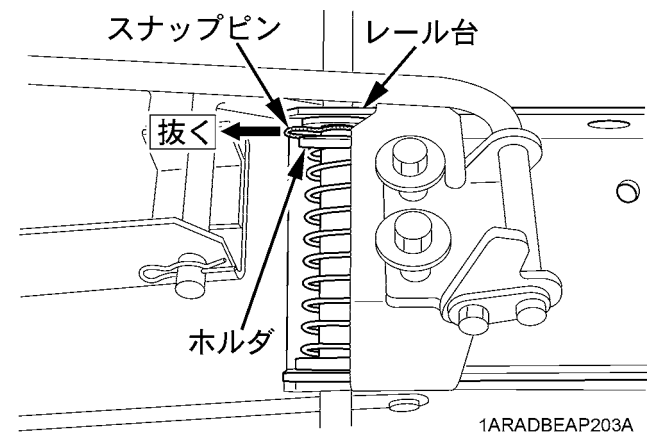
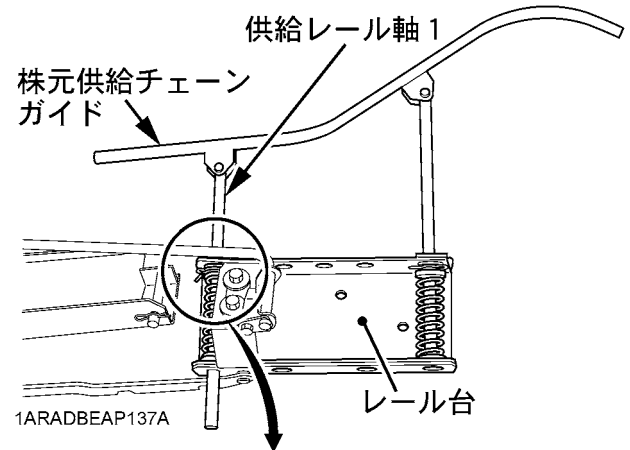
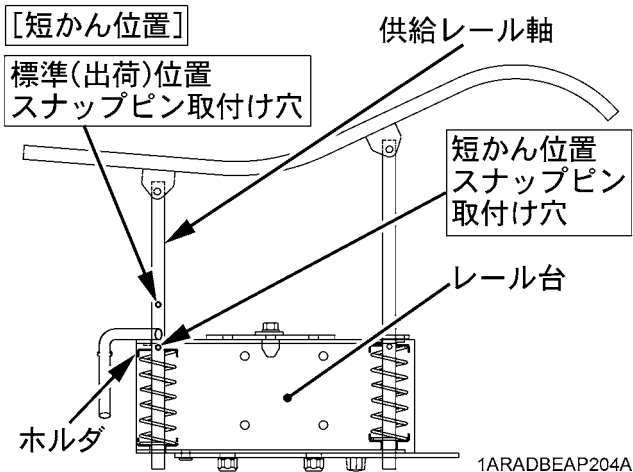
＊ 脱こくへの供給姿勢に乱れが多いときは，標準位置で使用してください。

■短かん調節

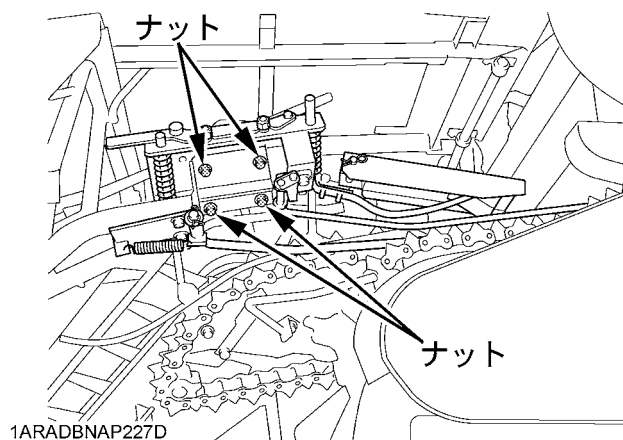
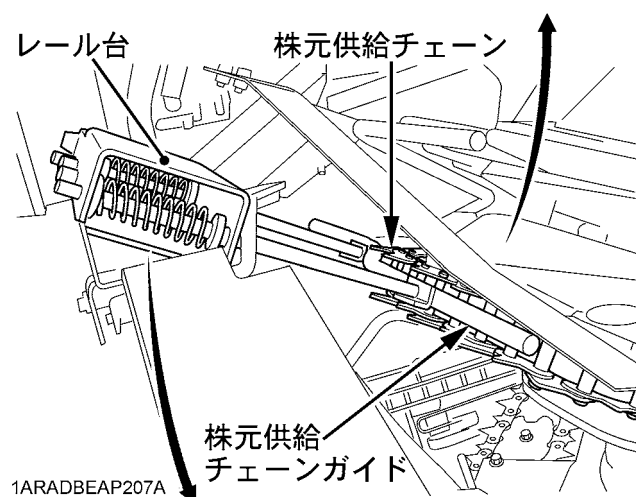
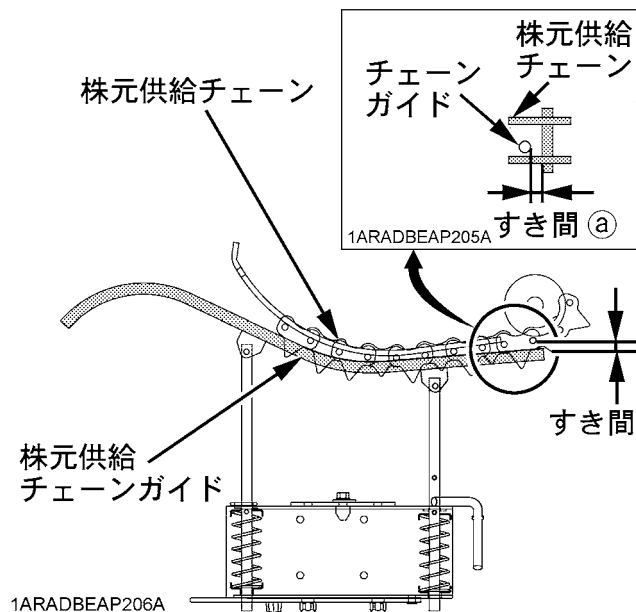
[438・447]

短かん作物（かん長50～55cm）の刈取作業を行なうときは，供給搬送部の供給レール部の調節をを行なってください。

◆ 調節のしかた

1. **[M仕様]** は機体を最下降位置まで下げます。
2. 刈取部を地面まで降ろしたあと，エンジンを停止します。
3. こぎ胴を開きます。
4. わら詰まり除去装置と供給サポートチェーンガイドを取外します。

5. ボルトを取外して，入口プレートを外します。

6. 供給搬送部の株元供給チェーンの供給レール下側にある支点ボルトをゆるめたあと，調節ボルトを取外します。
7. 供給レールを動かして短かん位置用の取付け穴と調節ボルトの位置を合わせたあと，支点ボルトと調節ボルトを締付けます。

8. 取外したわら詰まり除去装置のレール台を裏返し，供給レール軸１のホルダとレール台の間に取付けているスナップピンを，供給レール軸１より取外します。
9. 取外したスナップピンを供給レール軸１の短かん位置の穴に差し込みます。

補　足

＊ スナップピンはホルダとレール台の間に取付けてください。

10. わら詰まり除去装置と供給サポートチェーンガイドを取付けます。(工程 4. 参照)
11. 株元供給チェーンのテンションスプリングの長さを 123 ～ 129mm に調整します。(270 ページ参照)
12. 株元供給チェーンとチェーンガイドのすき間を０～５ mm に調整します。
    (1) レール台を取付けている４箇所のナットをゆるめます。
    (2) レール台を動かして，株元供給チェーンとチェーンガイドのすき間を全体が均一になるよう調整します。
    (3) レール台の取付け４箇所のナットを締付けます。

13. こぎ胴を閉じます。

[438・447]

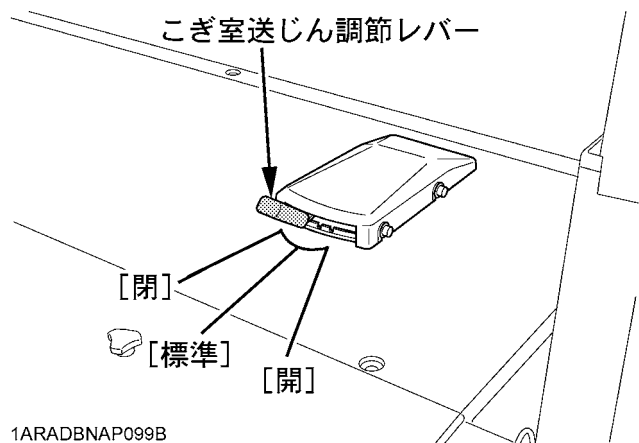
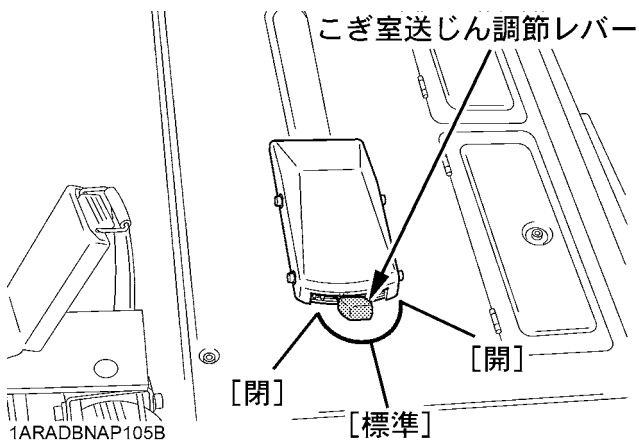
◆脱こく部

■こぎ室送じん調節レバーの調節

下表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態），条　件
[開] ⬆ [標準] ⬇ [閉]	● ゴトゴトと大きな異音がする（こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り ● 脱ぷや損傷（胴割れや欠け）粒が多い
	● 選別が悪い 　● 芒・枝梗粒が多い 　● 穂切れ粒が多い 　● ササリ粒が多い ● 排じんロス（もみの飛散）が多い

[329]

[329]

[335・438・447]

[335・438・447]

■排じん調整板の調整

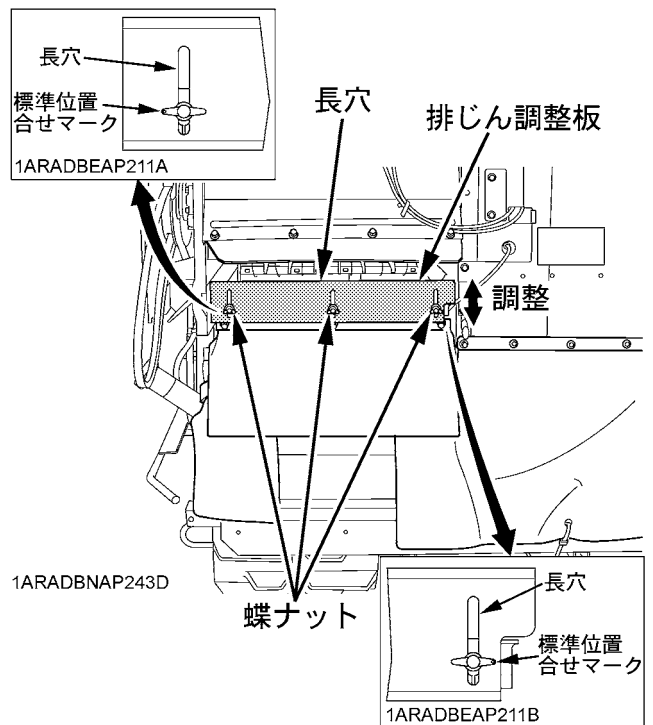
下表を参照して排じん調整板を調整してください。

1. カッタ部を開きます。（169 ページ参照）
2. 蝶ナット３個をゆるめます。

補　足

＊ 出荷時は，左・右の長穴横にある**標準位置合せマーク**位置に蝶ナットで締付けています。

3. 排じん調整板を動かして調整します。

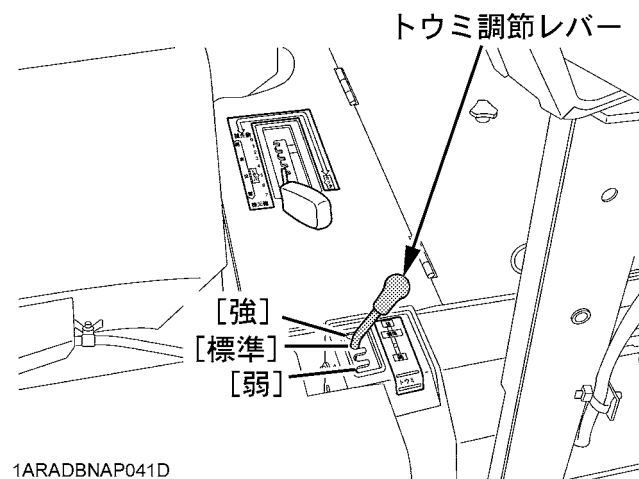
調節方向	現　象（状　態）
上 ⬆ [標準] ⬇ 下	● 排じんロスが多い
	● ぬれ作物の刈取り ● 雑草が多い ● 能率を上げる（高速刈取り）

4. 蝶ナットを締付けて，カッタ部を閉じます。

■トウミ（風力）とチャフ（選別板のすき間）の開度の調節

[DX・HD 仕様]

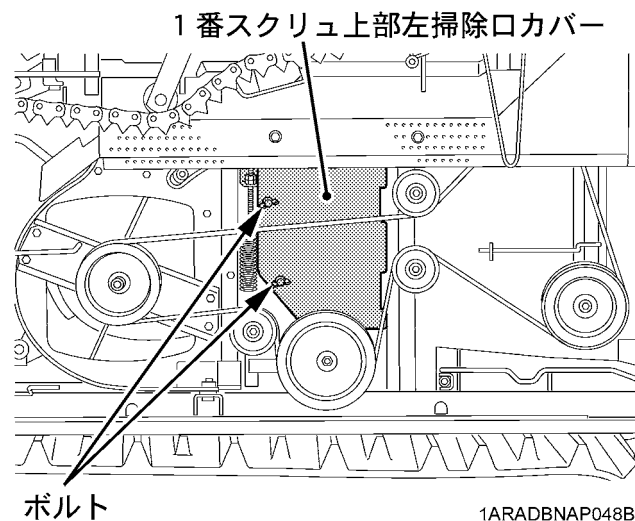
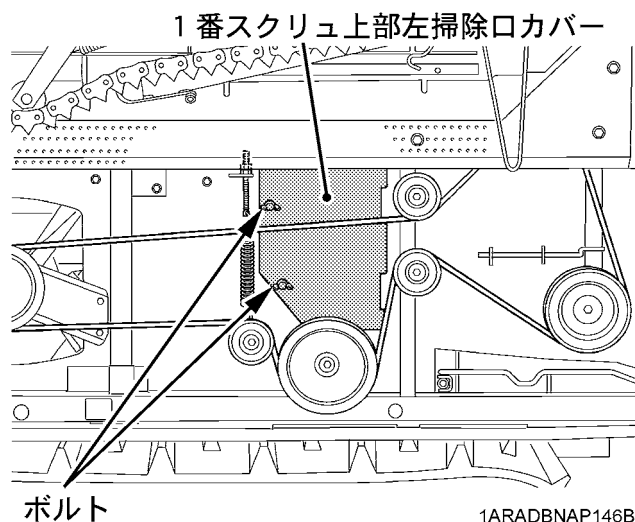
[トウミ（風力）調節]

作物の選別や飛散状態に合わせ，下表を参照してトウミ調節レバーで調節してください。

調節方向	現　象（状　態）
[強] ⬆ [標準] ⬇ [弱]	● 選別が悪い
	● 排じんロス（もみの飛散）が多い

[チャフ（選別板のすき間）調節]

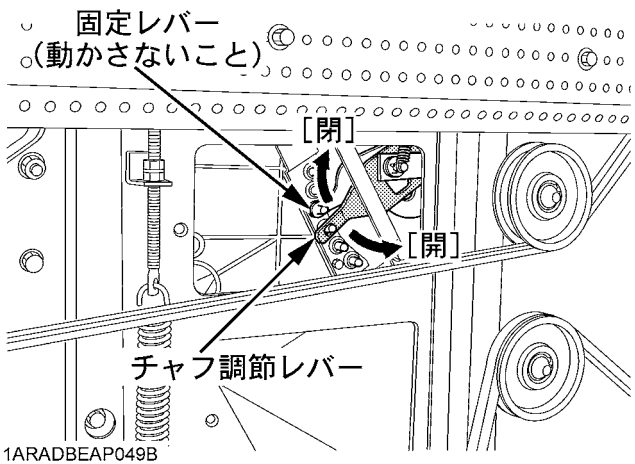
作物の選別や飛散状態に合わせ，下表を参照してチャフ調節レバーで調節してください。

1. 左サイドカバー上，下を取外します。
2. ボルト２個を取外して１番スクリュ上部左掃除口の掃除口カバーを外します。

[329・335]

[329・335]

[438・447]

[438・447]

3. チャフ調節レバーで調節します。調節を行なうときは，必ずチャフ調節レバーで行なってください。このとき，固定用レバーは動かさないでください。

調整方向	現象（状態）
［閉］ ⬆ ［標準］ ⬇ ［開］	● 選別が悪い ● 小枝梗が多い
	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● 脱ぷが多い

補　足

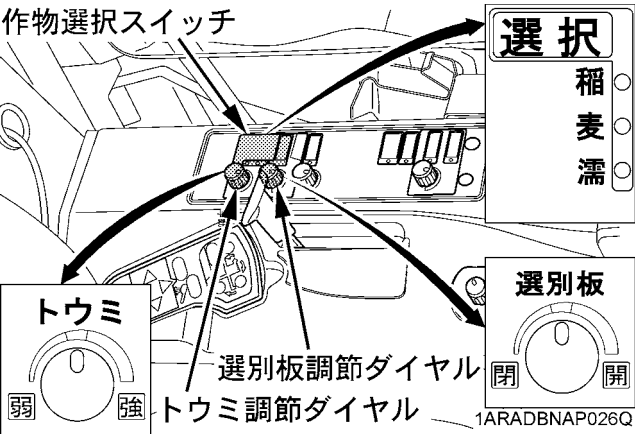
＊ チャフの調節は，脱こく機内にこく粒が残っていないときに行なってください。
＊ チャフ（選別板のすき間）はもみの量により自動開閉するようになっていますが，選別をさらに良くしたい場合は作物の脱こく状態に合わせて調節を行なってください。

4. 掃除口カバーをボルトで締付けたあと，左サイドカバー（上，下）を取付けます。

［DX・HD 仕様］

■自動脱こく制御の調節

［SD 仕様］

作物に合わせて作物選択スイッチを押して**［稲］**／**［麦］**／**［濡］**の選択を設定したあと，下表を参照してトウミ調節ダイヤル（風力の調節）及び選別板調節ダイヤル（選別板のすきまの調節）で調節してください。

トウミ調節ダイヤル

調節方向	現　象（状　態）
［強］ ↕ ［弱］	● 選別が悪い
	● 排じんロス（もみの飛散）が多い

選別板調節ダイヤル

調節方向	現　象（状　態）
［開］ ↕ ［閉］	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● 脱ぷが多い
	● 選別が悪い ● 小枝梗が多い

［SD 仕様］

■マルチナビによる異常と処置

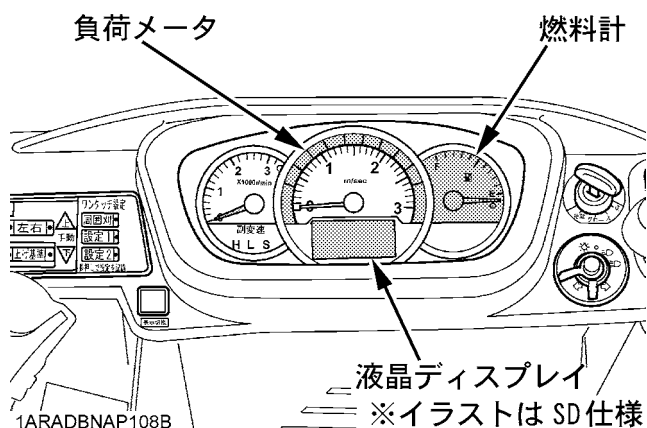
警 告

＊ 各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注 意

＊ エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。

マルチナビの液晶ディスプレイに警報が表示されたときは，下表を参照して処置してください。

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ）異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ）処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
燃料警報	**燃料を給油して下さい**（約５秒後消灯）		○ 断続（約５秒後停止）	・燃料が少なくなっています。 ・そのまま作業を続けると… **[エンジンが停止します。]**	・燃料を補給します。	－
油圧警報	**ｴﾝｼﾞﾝ 油圧 異常です**（処置後消灯）	－	○ 断続（処置後停止）	・エンジンオイルの圧力が不足しています。 ・そのまま作業を続けると… **[エンジンが焼付きを起こし停止します。]**	・エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ・オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ・バンドの増締めをします。 ・購入先へ連絡してください。	216 229 229 －

<table>
<tr><th rowspan="2">警報の種　類</th><th colspan="2">液晶表示
（液晶ディスプレイ）</th><th rowspan="2">警報ブザー
（吹鳴時間）</th><th rowspan="2">現　　象</th><th rowspan="2">処　　置</th><th rowspan="2">参 照
ページ</th></tr>
<tr><th>異常内容
（表示時間）</th><th>処置内容</th></tr>
<tr><td>オーバーヒート警報</td><td colspan="2">←交互に表示→
オーバーヒート ／ ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞにして下さい
（処置後消灯）

←交互に表示→
オーバーヒート ／ 冷却後点検して下さい
（処置後消灯）

←交互に表示→
オーバーヒート ／ ｴﾝｼﾞﾝ停止して下さい ↕ 冷却後点検して下さい
（処置後消灯）</td><td>○
断続
（処置後停止）</td><td>・エンジンの冷却水温が上昇しています。

・そのまま作業を続けると．．
［エンジンが焼付きを起こし停止します。］</td><td>・［アイドリングにして下さい］を表示すると…
アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を最低回転位置にします。

・［冷却後点検して下さい］を表示すると…
エンジンを停止し，30 分以上たってから点検と処置をします。

・［エンジン停止して下さい］
⟷［冷却後点検して下さい］
を表示すると…
エンジンを直ちに停止し，
30 分以上たってから点検と処置をします。
・点検と処置
(1) 冷却水量の点検
不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給
水もれ…排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増締め
(2) ファン駆動ベルトの点検
ゆるみ……張り調整
破損など…交換・調整
(3) 防じんあみ・ラジエータフィンの点検
汚れ・詰まり…掃除して取除く
・購入先へ連絡してください。</td><td>

225

225

225

225,
229

253
253

232
—</td></tr>
<tr><td>充電警報</td><td>充電系統が異常です
（処置後消灯）</td><td>－</td><td>○
断続
（処置後停止）</td><td>・バッテリに充電されていません。

・そのまま作業を続けると…
［バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。］</td><td>・エンジンを停止後，点検と処置をします。
(1) ファン駆動ベルトの点検
ゆるみ……張り調整
破損など…交換・調整
(2) バッテリ
電圧低下…充電
・バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。</td><td>

253
253

291
291</td></tr>
</table>

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
負荷警報	ランプ表示が（C）範囲のとき			・エンジンや脱こく部に負担が掛かっています。	・作業速度を落としてください。	12,115
	⬅交互に表示➡ **負荷** / **速度を落として下さい** （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	**負荷** 作業中にエンジン回転数が下がってきたときは，脱こく部に負荷が掛かっています。負荷メータのランプ表示を確認しながら適性範囲で作業してください。 (A) 適正範囲（青色） …作業を継続 (B) 減速範囲（オレンジ色） …速度を落とす (C) 即時減速（赤色） …主変速レバーで減速する ※警報ブザーは速度を落として，(B) 減速範囲に戻ると停止します。		
					・作業条件に合った調節や調整を行なってください。	127, 143, 145
				・そのまま作業を続けると… **［エンジンが停止します。］**		—
もみ満杯警報	**もみが満杯です** （処置後消灯）	—	○ 断続 （処置後停止又は，表示切換えスイッチを押すと停止）	・グレンタンク内のもみが満杯です。	・刈取作業を中止し，もみを排出します。	128
				・そのまま作業を続けると… **［グレンタンクからもみがあふれます。又は，１番スクリュが詰まります。］**		—
２番警報	⬅交互に表示➡ **２番** / **詰まりを取り除く** （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・１番縦スクリュケース内又は，２番処理胴（ツースバー），２番縦スクリュケース内が詰まっています。	・１番縦スクリュケース又は，２番処理胴（ツースバー），２番縦スクリュケースを掃除します。	187
				・そのまま作業を続けると… **［ベルトの焼付きやベルト切れとなります。］**		—
浮きわら警報	⬅交互に表示➡ **こぎ深さ** / **穂先センサを点検** （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	・浮きわらや雑草が，穂先センサに長時間接触しています。	・穂先センサを点検し，浮きわらや雑草を取除きます。	42
				・自動制御が困難なとき。	・自動こぎ深さ制御を解除し（切換えスイッチ **［切］** 位置），手動で操作を行なってください。	41
				・そのまま作業を続けると… **［選別不良となります。］**		—

警報の種類	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現　　象	処　　置	参照ページ
シーブ警報	⬅交互に表示➡ **シーブ** （処置後消灯）	**速度を落として下さい**	○ 断続 （処置後停止）	・シーブケース上に詰まりが発生しています。 ・刈取量が処理能力をこえています。 ・そのまま作業を続けると… **［ロスや損傷米が増えたり，２番詰まりが発生します。］**	・作業速度を落とします。 ⬇ ・作業速度を落としても表示が消えないときは，選別板調節ダイヤルを右（開）方向いっぱいまで回します。（選別板のすき間を全開） ⬇ ・刈取作業を中止し，脱こく部を空運転します。	13，115 46，145 13，20，115
詰まり各警報	自動的にエンジンが停止すると同時に表示します。⬇			・わら詰まりをしています。	・異常の原因（詰まり）を取除いて復帰します。	－
排ワラ詰まり警報	⬅交互に表示➡ **排ワラ** （処置後消灯）	**詰まりを取り除く**	○ 断続 （処置後又は，メインスイッチのキーが**［切］**で停止）	・フィードチェーン終端部にわらが詰まっています。	・こぎ胴を開いて，フィードチェーン終端部のわらを取除きます。	156，308
カッタ詰まり警報	⬅交互に表示➡ **カッタ** （処置後消灯）	**詰まりを取り除く**		・カッタ部にわらが詰まっています。	・カッタの切換えカバーを開いて，わらを取除きます。	308
結束機詰まり・ひも切れ・巻付き警報	⬅交互に表示➡ **結束機** （処置後消灯）	**詰まりを取り除く**		・結束部にわらが詰まっています。	・わらを取除きます。	－ （※）
	⬅交互に表示➡ **結束機** （処置後消灯）	**ひも切れ点検**		・結束機のひもなし・ひも切れです。 ・結束機の結節部のビルにわらやひもが巻付いています。	・新しいひものセット・ひもの再セットをします。 ・ビルからわらやひもを取除きます。	

※結束機仕様は，別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡して修理を依頼してください。

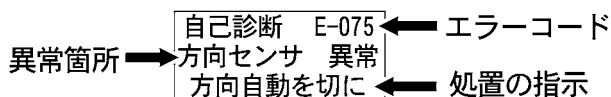
■マルチナビによる故障と処置

故障が発生すると，マルチナビの液晶ディスプレイに異常内容を表示します。故障による異常が発生したときは刈取作業を中止し，購入先に連絡して処置してください。
なお，故障の内容によっては，下表を参照して手動操作で刈取作業を行なうことができますが，作業終了後には必ず購入先に連絡してください。また，下表以外の異常内容が表示された場合は，直ちに購入先に連絡して処置してください。

補　足

* 液晶ディスプレイに故障の異常内容が表示されたとき，警報ブザーは鳴りませんので注意してください。
* 手動操作で作業を続ける場合は，下表の処置の欄の内容を良く理解し，注意をしながら作業を行なってください。
* 液晶ディスプレイに表示される異常内容は，**エラーコード**，**異常箇所**，**処置の指示**を表示します。

[表示例]

異常箇所 → 方向センサ　異常
自己診断　E-075 ← エラーコード
方向自動を切に ← 処置の指示

* 異常内容によっては異常箇所又は，**処置の指示**を表示しない場合があります。
* 購入先に連絡する際には，液晶表示のエラーコード及び異常内容を連絡してください。
* 故障の内容の表示は，異常内容のみの表示と異常内容と処置内容を交互に表示する場合があります。
* 自動方向制御装置はオプション部品です。

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 異常内容	処置内容	異常内容	処置	参照ページ
自己診断 E-064 昇降レバー VR異常	---	マルチワンレバーを操作しても刈取部が昇降しません。	ポジピタスイッチで刈取部の昇降操作を行なうことができますが，購入先に連絡して処置してください。**[SD 仕様]**	22
自己診断 E-069 刈取位置センサ 異常 点滅中の自動切に	---	刈高さ制御，刈取オートクラッチ，ポジピタがはたらきません。また，刈高さ制御がはたらいているときは，警報ブザーが鳴ります。	マルチワンレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 刈高さ自動，刈取オートクラッチ自動スイッチを**[切]**にしてください。	15, 43, 46
自己診断 E-072 かき込みセンサ センサ信号異常	---	刈取かき込みペダルを踏んでもかき込み作業ができません。	作業を続けて行なうことができますが，購入先に連絡して処置してください。	-
自己診断 E-073 こぎ深さセンサ異常	---	こぎ深さ制御がはたらきません。	手動こぎ深さスイッチの操作で作業を続けて行なうことができますが，こぎ深さに注意してください。	42

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 異常内容 ⟷ 処置内容		異常内容	処置	参照ページ
異常内容	処置内容			
自己診断 E-076 刈高さセンサ右 センサ信号異常	自己診断 E-076 刈高さ自動を切に	刈高さ制御がはたらきません。また，刈高さ制御がはたらいているときは，警報ブザーが鳴ります。	マルチワンレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 刈高さ自動スイッチを **［切］** にしてください。	15， 43
自己診断 E-077 刈高さセンサ左 センサ信号異常	自己診断 E-077 刈高さ自動を切に			
自己診断 E-079 モンロ左前センサ異常 水平自動を切に	―――	水平制御がはたらきません。	水平操作手動スイッチで機体を最下降位置にし，作業を続けてください。 水平自動スイッチを **［切］** にしてください。	35， 37， 41
自己診断 E-080 モンロ左後センサ異常 水平自動を切に	―――			
自己診断 E-081 モンロ右前センサ異常 水平自動を切に	―――			
自己診断 E-082 モンロ右後センサ異常 水平自動を切に	―――			
自己診断 E-083 モンロ左センサ異常 水平自動を切に	―――			
自己診断 E-084 モンロ右センサ異常 水平自動を切に	―――			
自己診断 E-085 ローリングセンサ異常 水平自動を切に	―――			
自己診断 E-086 ピッチングセンサ異常 水平自動を切に	―――			

液晶表示（液晶ディスプレイ）		異常内容	処置	参照ページ
交互に表示 異常内容 ⟷	処置内容			
自己診断 E-089 アンローダ位置 センサ信号異常	自己診断 E-089 アンローダ 手動操作のみ可	アンローダ自動旋回制御がはたらきません。	アンローダ手動スイッチで作業を続けて行なうことができますが，運転席の上部（頭上）には注意してください。	48，49
自己診断 E-090 シーブセンサ異常	---	シーブセンサが故障しています。	作業を続けて行なうことができますが，選別やロスに注意してください。	–
自己診断 E-099 結束株揃え板 センサ信号異常	---	結束制御がはたらきません。	結束手動スイッチで作業を続けて行なうことができます。**［結束機付き仕様］**	※
自己診断 E-101 刈高さダイヤル センサ信号異常	自己診断 E-101 刈高さ自動を切に	刈高さ制御がはたらきません。	マルチワンレバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 刈高さ自動スイッチを **［切］** にしてください。	15，43
自己診断 E-102 車速ダイヤル センサ信号異常	自己診断 E-102 車速自動を切に	車速制御がはたらきません。	主変速レバーの操作で作業を続けて行なうことができます。 車速自動スイッチを **［切］** にしてください。	13，34
自己診断 E-103 選別板ダイヤル センサ信号異常	---	選別板の調節ができません。	作業を続けて行なうことができますが，選別やロスには注意してください。	–
自己診断 E-104 トウミダイヤル センサ信号異常	---	トウミの調節ができません。		
自己診断 E-105 シャッタセンサ センサ信号異常	---	シャッタ位置センサが故障しています。	もみを排出することができません。**［SD・HD 仕様］** モータ・詰まり防止センサアッシを外して作業を続けて行なうことができますが，購入先に連絡して処置してください。	313
自己診断 E-120 脱こく SW 異常	---	脱こくクラッチレバースイッチが故障しています。	作業を続けて行なうことができますが，２番スクリュに詰まりが発生しても２番の詰まり警報がなりませんので注意してください。	313

※結束機仕様は，別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

各部の開閉と脱着のしかた

警 告

＊ 平たんで安全な場所で，機械の移動や各部を動かすとき以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 傾斜地では，開閉や脱着を行なわないでください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注 意

＊ エンジンルームを閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

■エンジンルームの開閉

[Q 仕様除く]

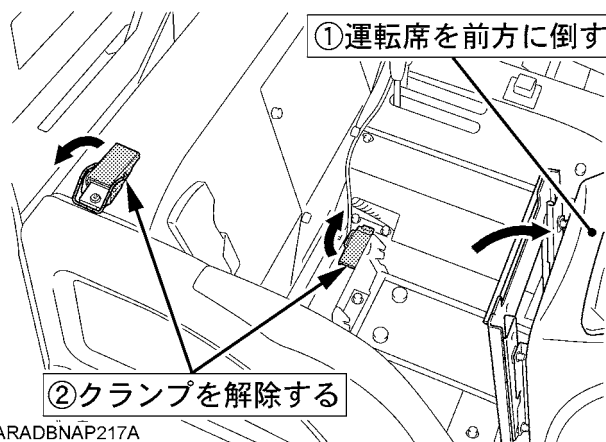
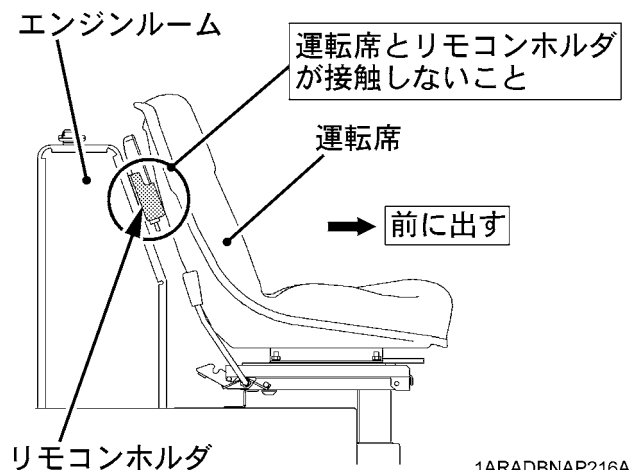
注 意

＊ オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) 作業を中止する。
(2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転したあと，エンジンを停止し，メインスイッチのキーを抜く。
(3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
(4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊ エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

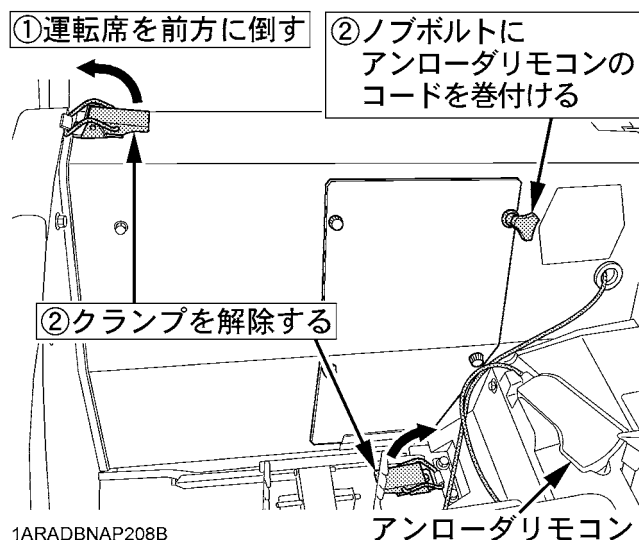
◆開きかた

[DX 仕様]

重 要

＊ 運転席が**最後方**位置のときにエンジンルームを開くと，アンローダのリモコンホルダに接触するおそれがあるため，運転席を前方に動かしてからエンジンルームを開いてください。(17 ページ参照)

[DX 仕様]

[HD・SD 仕様]

1ARADBNAP208B

重　要

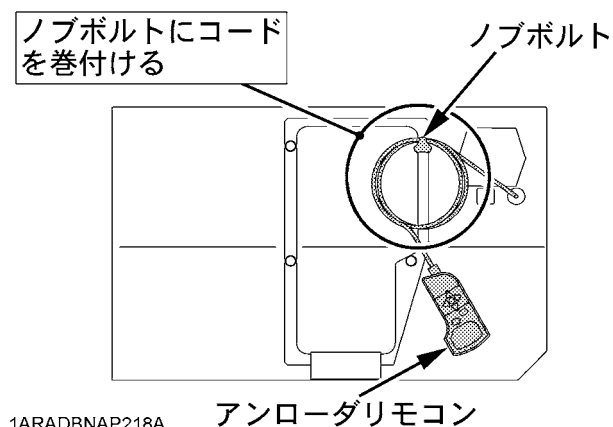
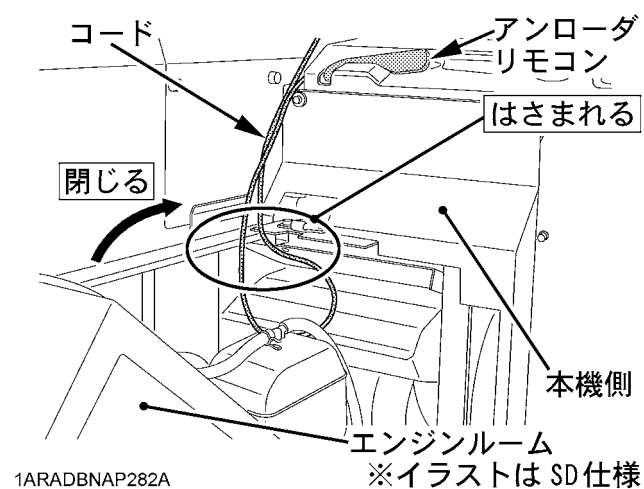
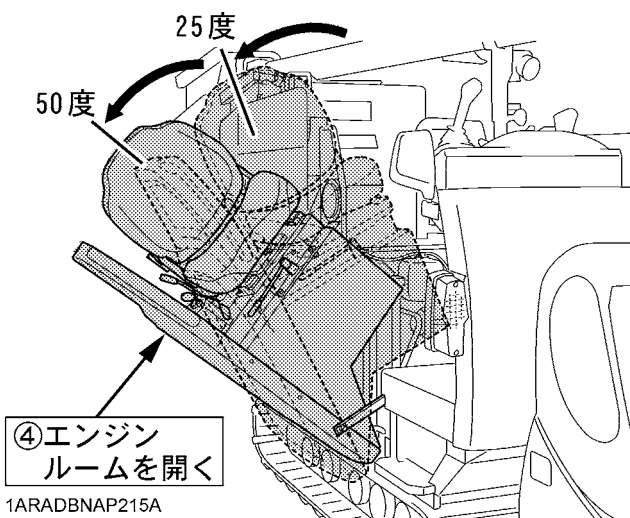
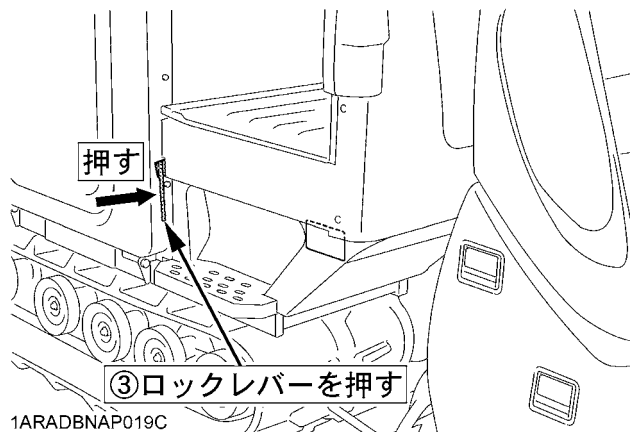
＊ エンジンルームを閉じるとき，エンジンルームと機体にアンローダリモコンのコードをはさむとコードが破損するおそれがあります。

1ARADBNAP282A

1ARADBNAP218A

[HD・SD 仕様]

1ARADBNAP019C

1ARADBNAP215A

補　足

＊ エンジンルームは，25 度と 50 度の 2 段階開きます。25 度でいったん止まったあと，再度ロックレバーを押すと 50 度まで開きます。

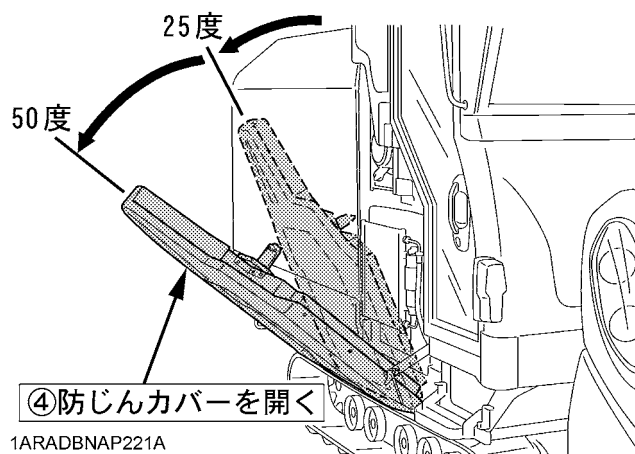
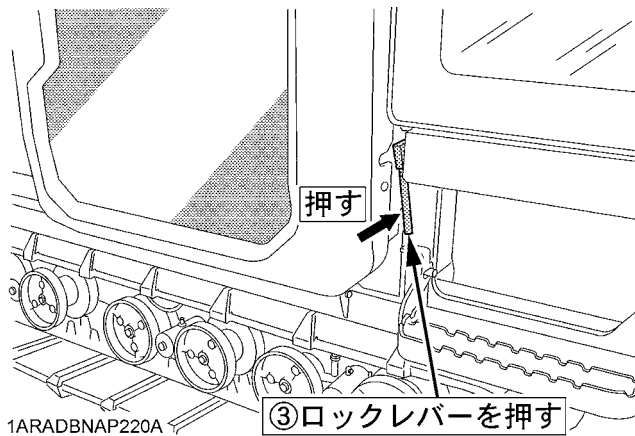
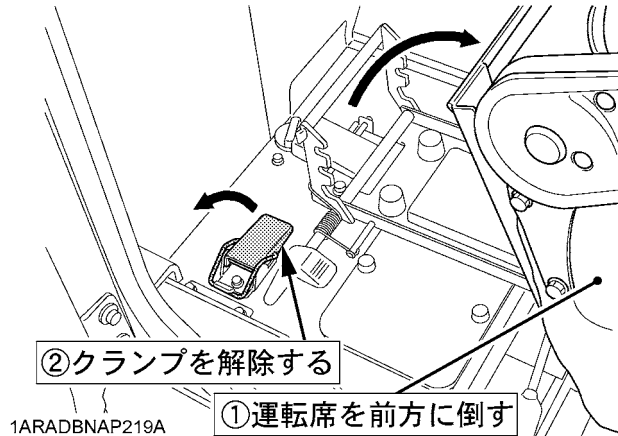
◆閉じかた

エンジンルームを閉じたあと，2 箇所のクランプをします。

[Q 仕様除く]

■防じんカバーの開閉と脱着

[Q 仕様]

◆開きかた

重　要

＊ 防じんカバーの網の部分を押すと網が変形します。

補　足

＊ 防じんカバーは，25 度と 50 度の 2 段階開きます。25 度でいったん止まったあと，再度ロックレバーを押すと 50 度まで開きます。

◆閉じかた

防じんカバーを閉じたあと，クランプをします。

重　要

＊ 閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

＊ 防じんカバーにクランプをしていない状態で走行すると，防じんカバーが開いて障害物に接触して破損するおそれがあります。

[Q 仕様]

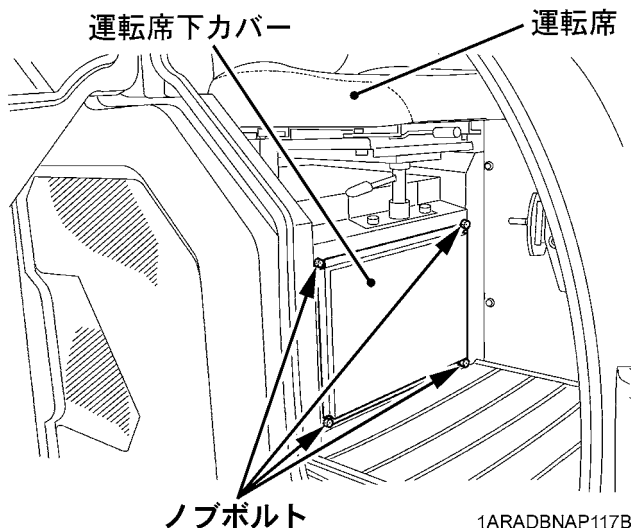
■運転席下カバーの脱着

[Q 仕様]

注　意

- ＊ **オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。**
  - **(1) 作業を中止する。**
  - **(2) エンジンを約５分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。**
  - **(3) エンジン停止後30分以上経過してから開ける。**
  - **(4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。**
- ＊ **エンジンが冷えていないとき，運転席下カバーを開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。**

◆取外しかた

樹脂ボルト４本を外して取外します。

◆取付けかた

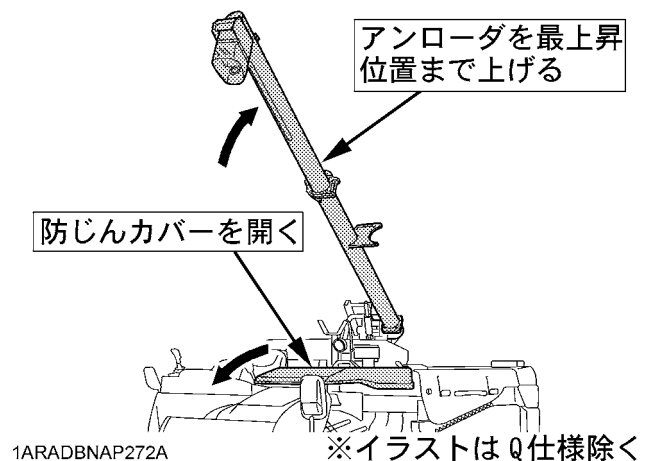
取外しかたと逆の手順で取付けます。

[Q 仕様]

■こぎ胴の開閉

- ＊ **こぎ胴を開閉するときは，平たんで安全な場所で行なってください。**
- ＊ **中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。**
- ＊ **こぎ胴を開いて，受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは，こぎ胴が落下して身体がはさまれるおそれがあるので，オープンストッパで必ず固定してください。**
- ＊ **傾斜地では，こぎ胴の開閉は行なわないでください。**
- ＊ **こぎ胴を開いた状態で走行しないでください。**
- ＊ **こぎ胴の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**

◆開きかた

1. エンジンを始動し，**防じんカバー付き仕様**は防じんカバーを開き，アンローダを最上昇させたあと，エンジンを停止し，メインスイッチのキーを抜きます。

重　要

＊ アンローダを折りたたんだ状態で収納位置のときにこぎ胴を開くと，こぎ胴上部カバーがアンローダに接触し，変形するおそれがあります。

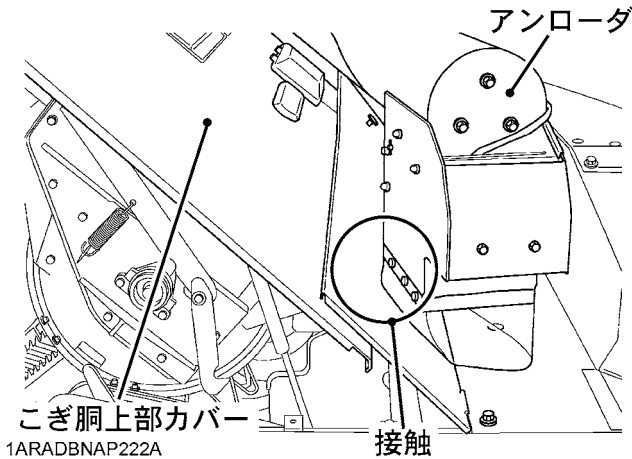
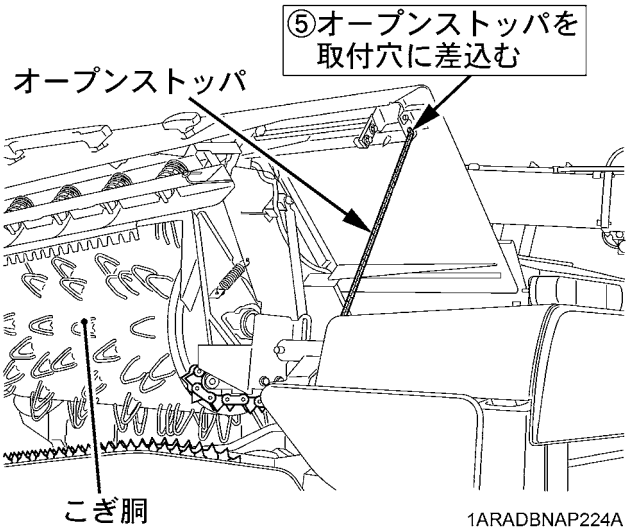
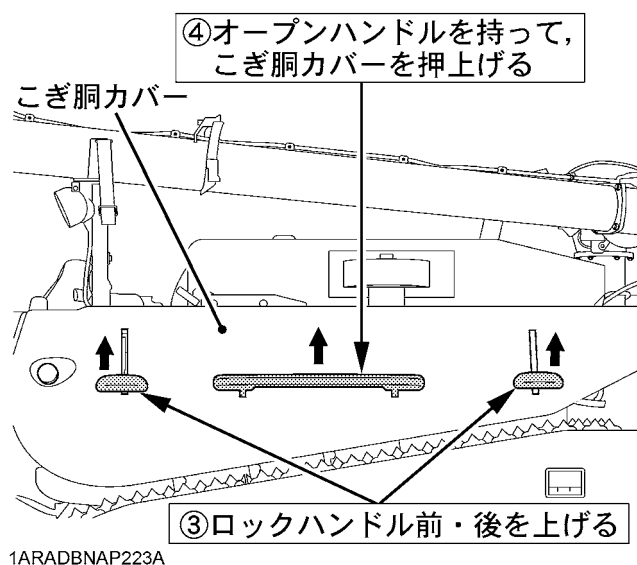
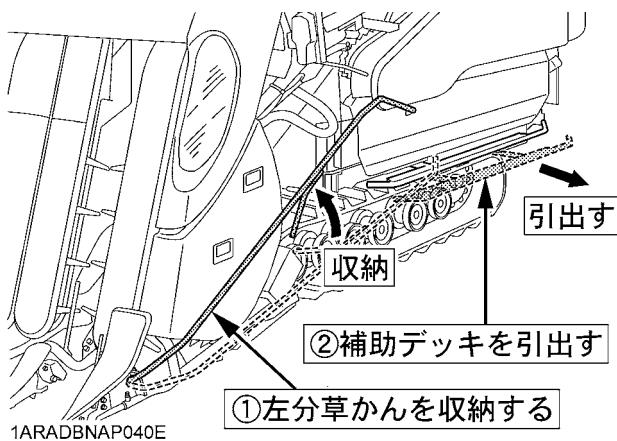
1ARADBNAP222A

2. こぎ胴を開きます。

1ARADBNAP040E

1ARADBNAP223A

1ARADBNAP224A

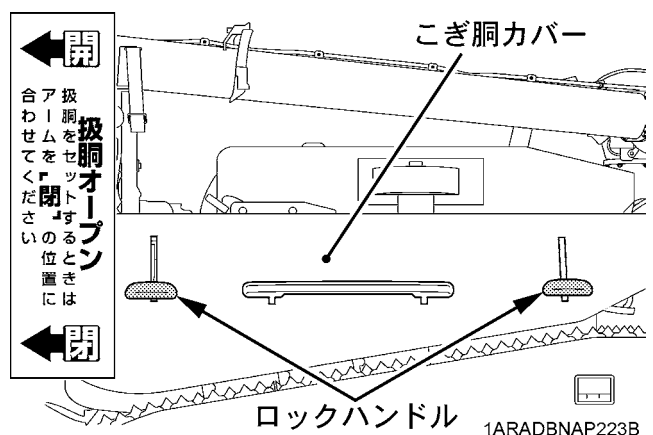
重　要

＊ 補助デッキの上に乗って作業を行なうとき，パイプ部の上に乗ると変形するおそれがあるため必ず板の部分に乗ってください。

◆閉じかた

1. オープンストッパを取付穴から外します。
2. オープンハンドルを持って，こぎ胴カバーを押下げます。

重　要

＊ こぎ胴カバーを閉じたとき，ロックハンドルの前と後が，ハンドル横の **[開]⟷[閉]** ラベルの **[閉]** の位置にあることを確認してください。**[閉]** の位置以外で作業を行なうと，こぎ室フレームが変形することがあります。

1ARADBNAP223B

3. 補助デッキを収納したあと，アンローダを収納します。
4. **防じんカバー付き仕様**は防じんカバーを閉じます。

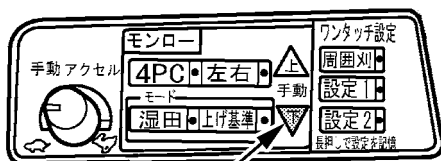
目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

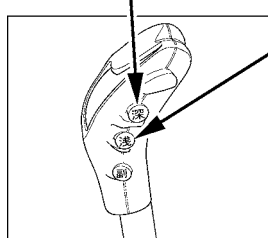
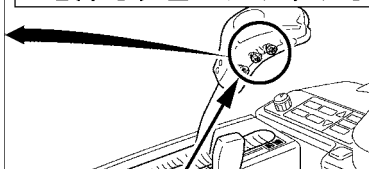
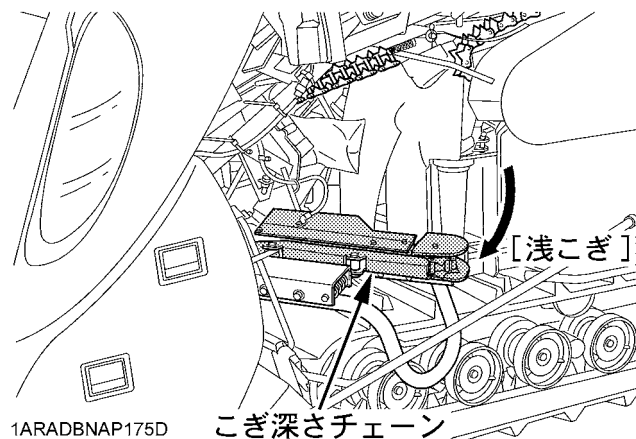
■刈取部の開閉

⚠ 警 告

- ＊ **刈取部を開閉するときは，平たんで安全な場所で，刈取部の昇降操作以外はエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- ＊ **傾斜地では，刈取部の開閉を行なわないでください。**
- ＊ **刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は，枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。**
- ＊ **刈取部を開いたときは，刈取部が閉じないようにストッパを必ず掛けてください。刈取部が閉じると体がはさまれてケガをするおそれがあります。**
- ＊ **刈取部を開いた状態で走行をしないでください。**
- ＊ **刈取部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- ＊ **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

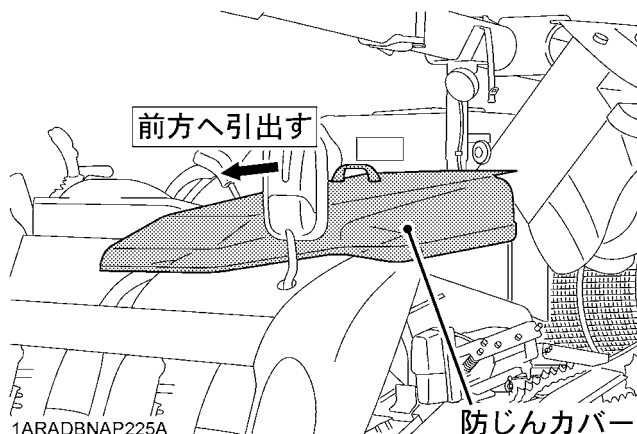
◆開きかた

1. **［M 仕様］**はエンジンを始動したあと，機体を**最下降**位置まで下げます。

1ARADBNAP108G ※イラストは SD4M仕様

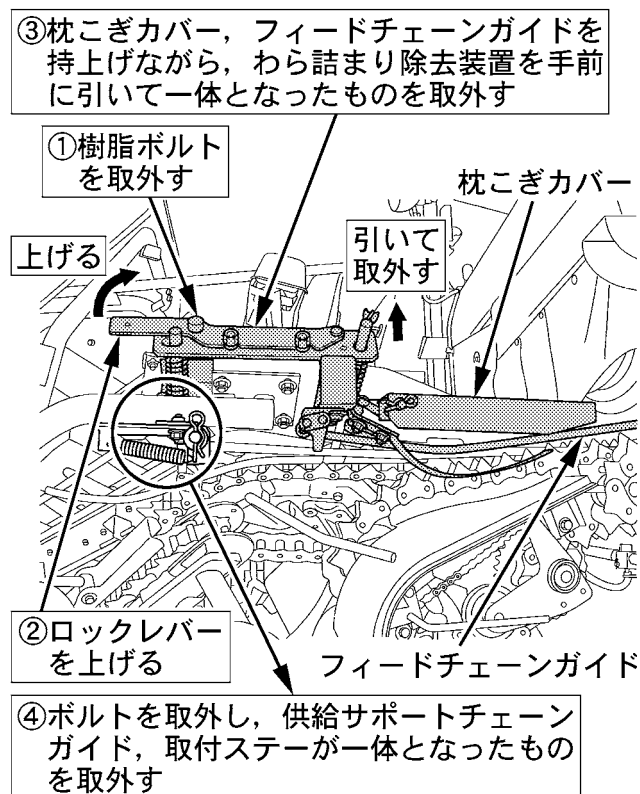
2. 刈取部を地面まで降ろしたあと，エンジンを停止します。
3. メインスイッチのキーを**［入］**位置にしたあと，手動こぎ深さスイッチの**［浅］**を押してこぎ深さチェーンを**最下降**（浅こぎ側）位置にします。そのあと，メインスイッチのキーを**［切］**位置にします。

1ARADBNAP007C ※イラストは SD仕様

1ARADBNAP175D

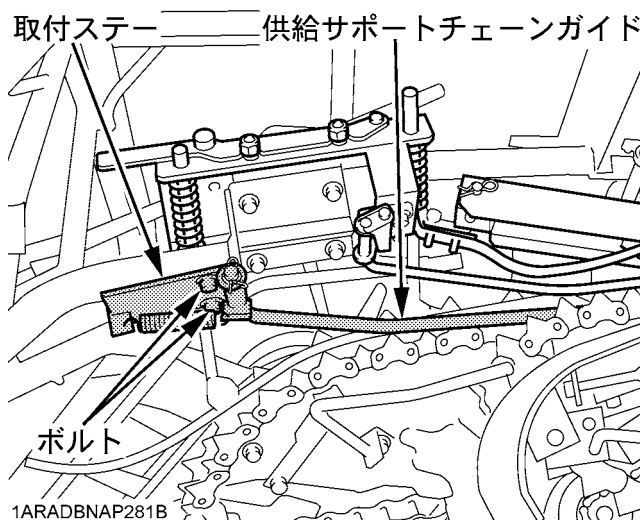
4. **［Q 仕様を除く SD 仕様］**は防じんカバーを前方いっぱいまで引出します。
5. こぎ胴を開いたあと，脱こく左サイドカバー上，下を取外します。

［SD 仕様］

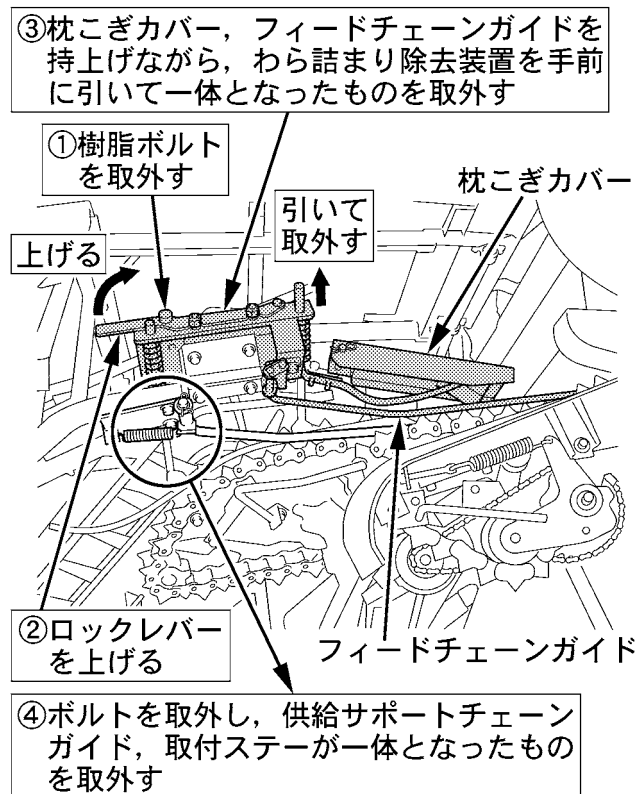
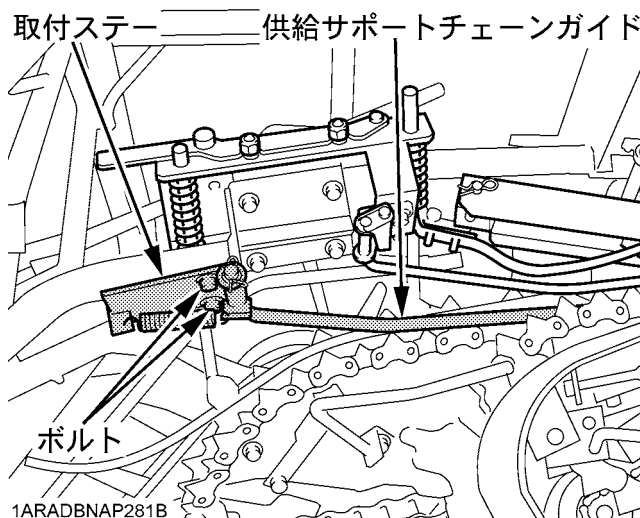
6. 刈取防じんカバーを前方へ引出します。

1ARADBNAP225A

［SD 仕様］

7. わら詰まり除去装置を取外します。

[329・335]

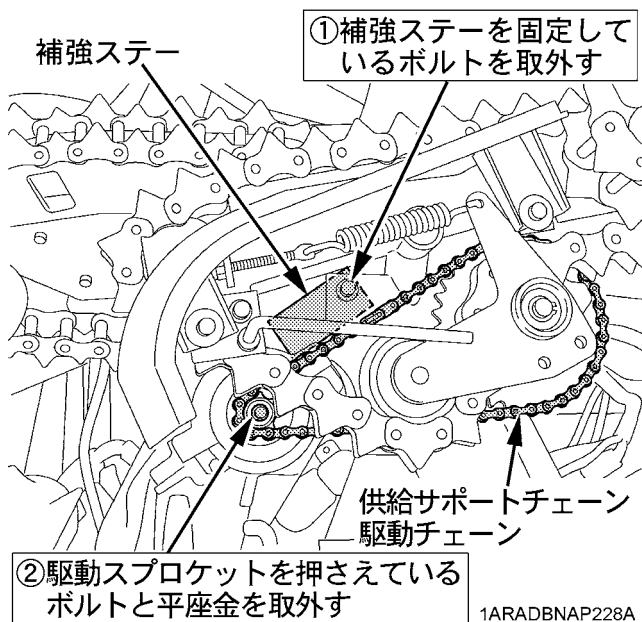
1ARADBNAP338A

1ARADBNAP281B

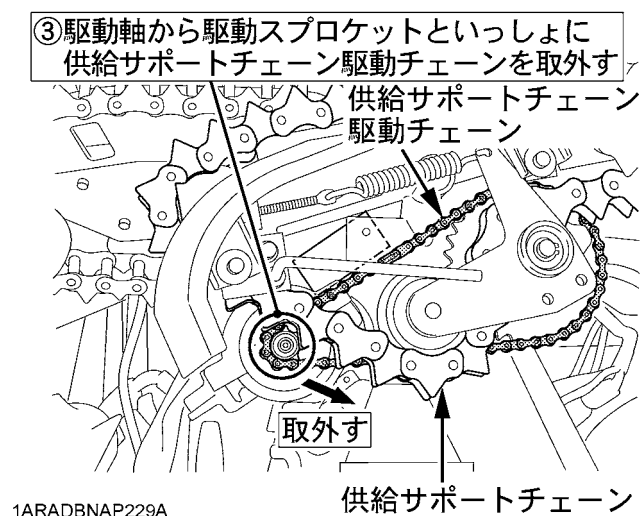
[329・335]

[438・447]

1ARADBNAP281A

1ARADBNAP281B

[438・447]

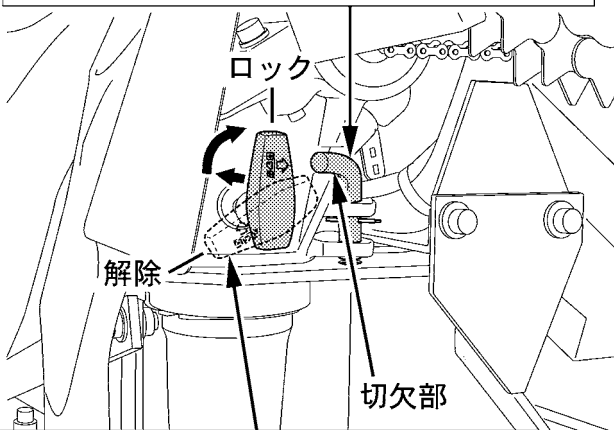
8. 供給サポートチェーン駆動チェーンの駆動スプロケットを取外します。

1ARADBNAP228A

重　要

＊ ステーを固定しているボルトを取外し忘れると，刈取部を開くときに補強ステーが引張られて破損するおそれがあります。

1ARADBNAP229A

補　足

＊ 供給サポートチェーン駆動チェーンは駆動スプロケットに取付けた状態で，そのまま垂らしておいてください。

9. エンジンを始動したあと，刈取部を**最上昇**位置にします。
10. 刈取下降ロックハンドルをロック位置にします。

1ARADBNAP230A

補　足

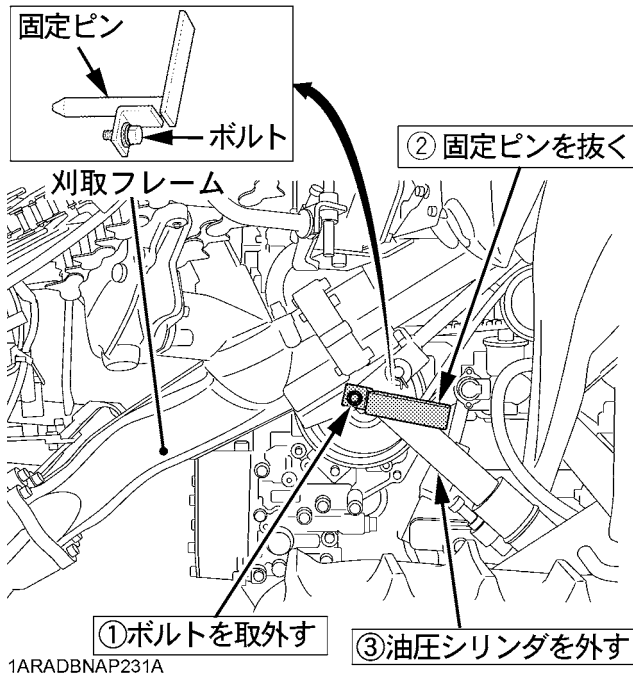
＊ 回動ロックピンがロック状態で刈取部を回動すると，回動ロックピンが変形したり，ケースが破損するおそれがあります。

11. マルチワンレバーで刈取部の下降が停止するまで下げます。このとき，下降が停止したあとも２～３秒間マルチワンレバーを押さえ続けてからエンジンを停止します。

補　足

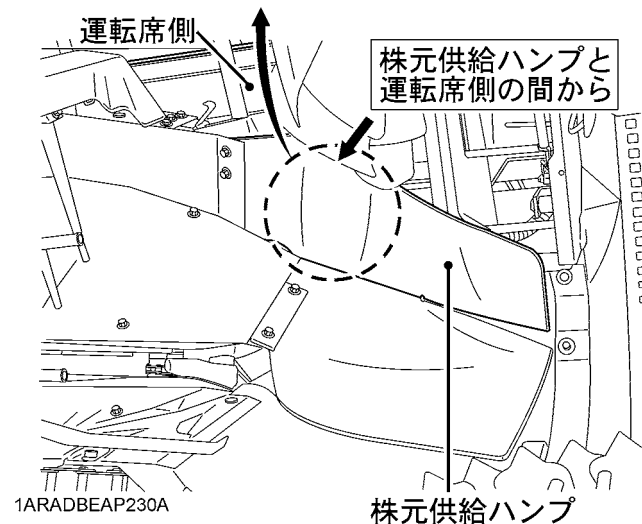
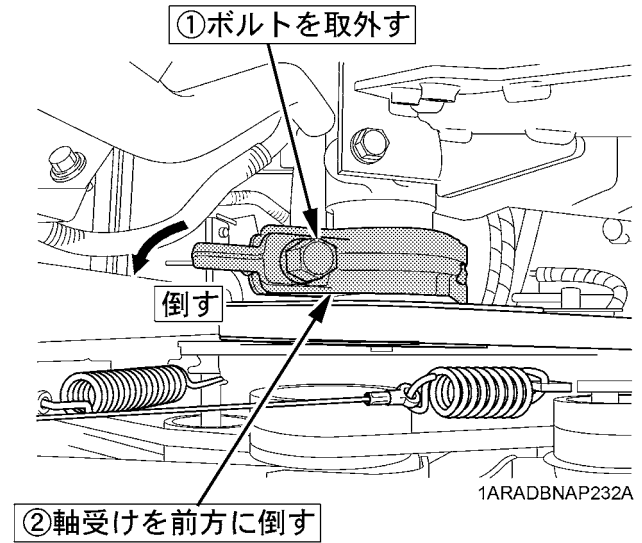
＊ 油圧シリンダの残圧が残っていると，閉じるときに刈取フレームと油圧シリンダの取付ピンの穴位置が合わなくなるおそれがあるため，２～３秒間はマルチワンレバーを押さえ続けてください。

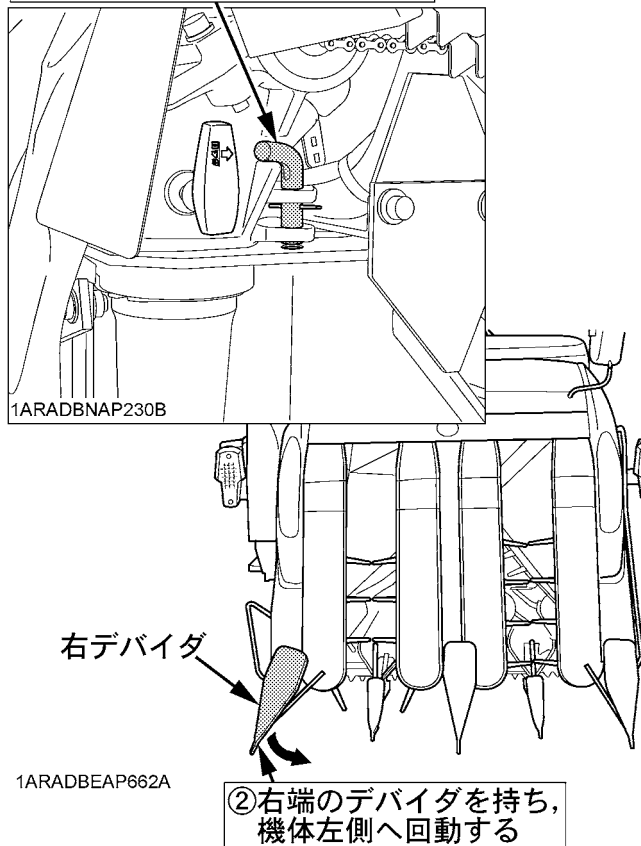
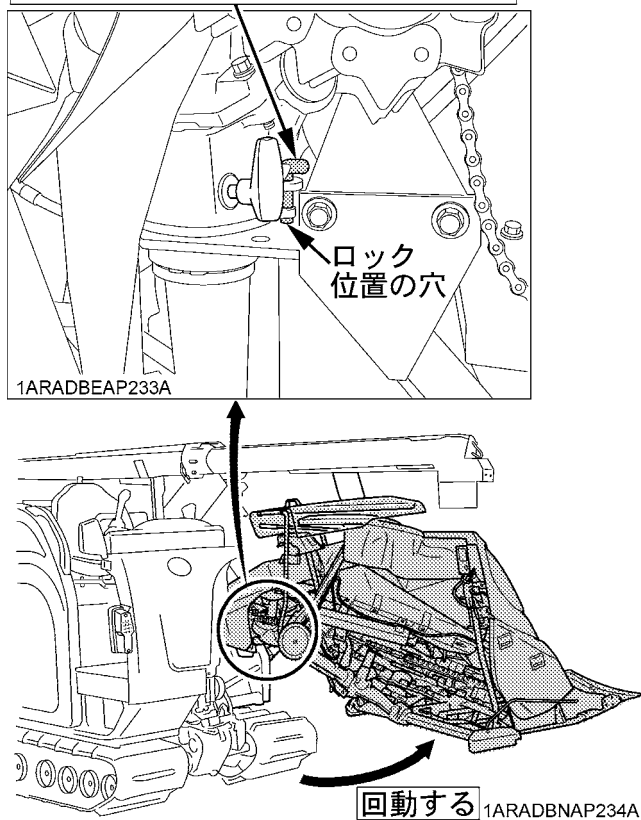
12. メインスイッチのキーを**［入］**位置にしたあと，手動こぎ深さスイッチでこぎ深さチェーンを**最上昇**（深こぎ側）位置にします。

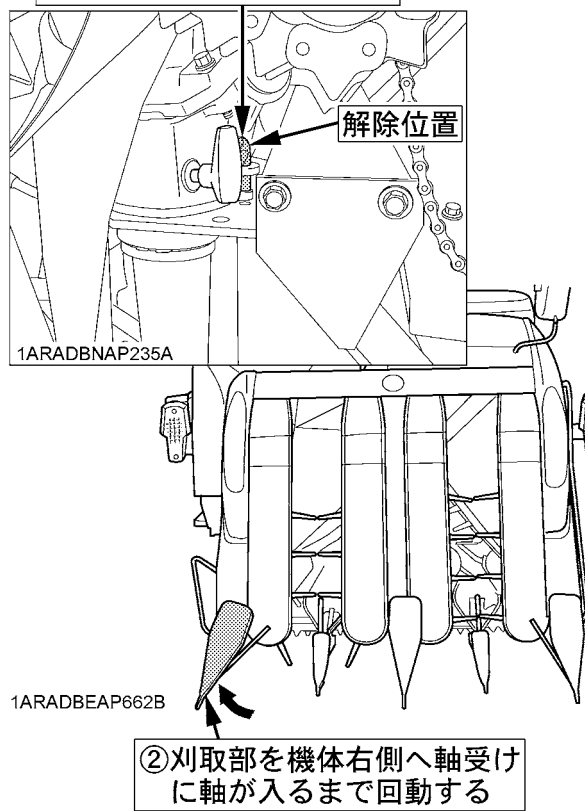
13. 刈取フレームから油圧シリンダを外します。

14. 手動こぎ深さスイッチでこぎ深さチェーンを**最下降**（浅こぎ側）位置にします。そのあと，メインスイッチのキーを**［切］**位置にします。

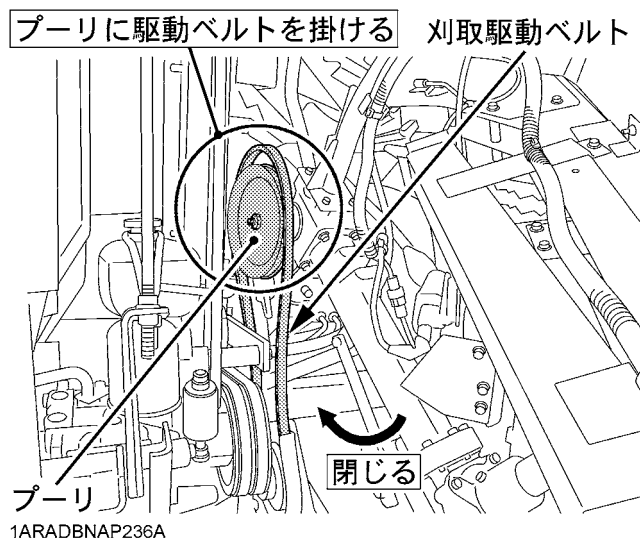
重　要

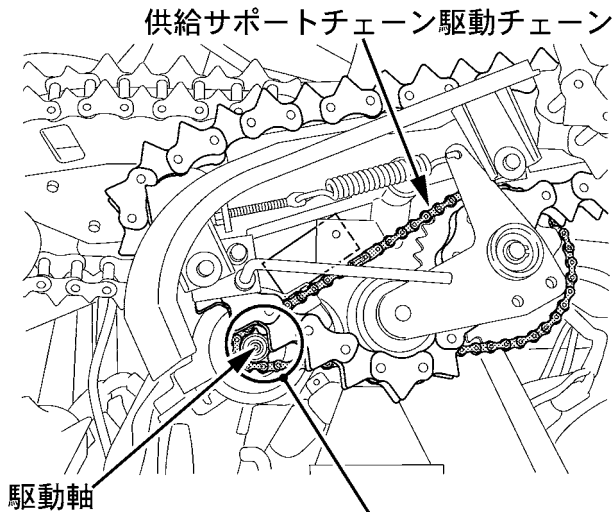
＊ 刈取部を開いたとき，こぎ深さチェーンが本機側に接触し，破損するおそれがあります。

15. 運転席左下側の本機と刈取部を固定している右側の軸受けを前方に倒します。

補　足

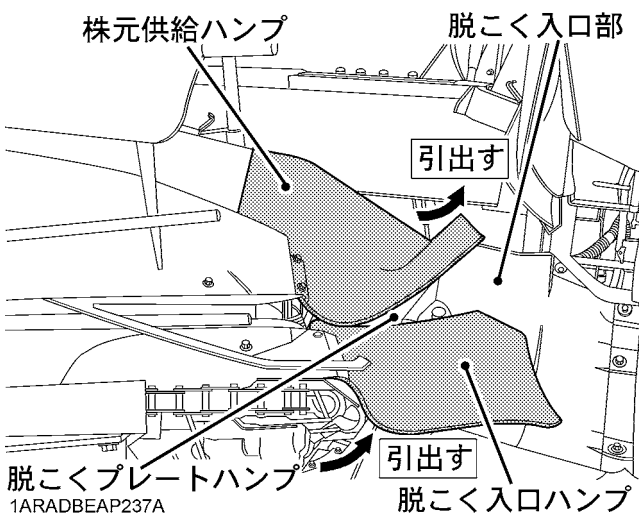
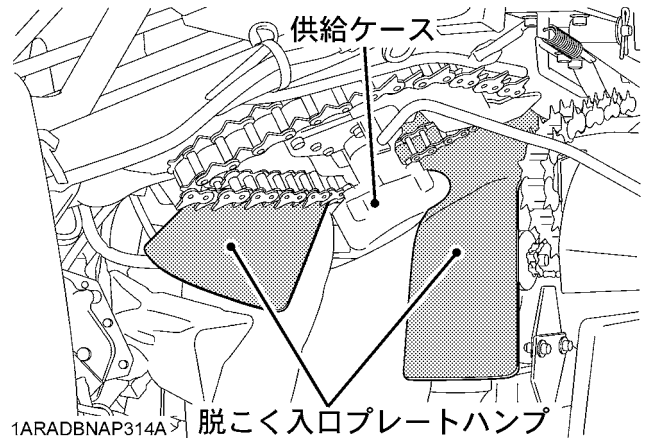
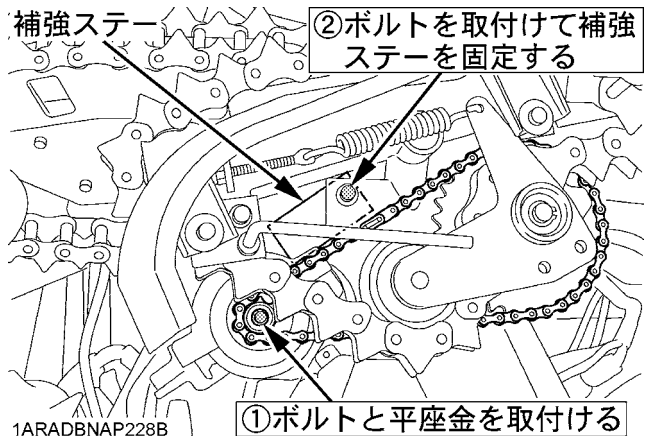
＊ ボルトの取外し作業は，運転席左側からも行なえますが，使用する工具については，購入先に相談してください。

16．刈取部を開きます。

◆閉じかた

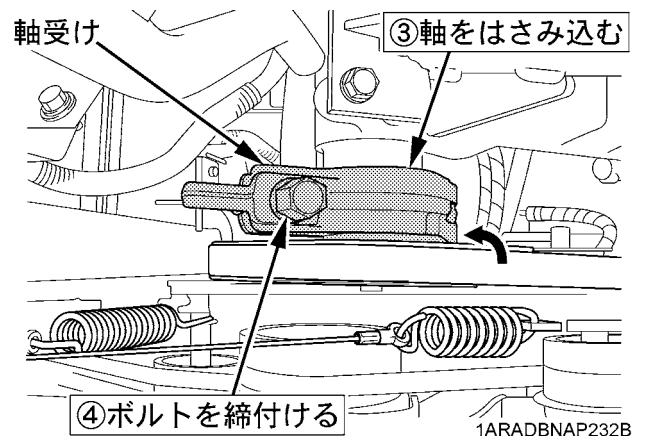
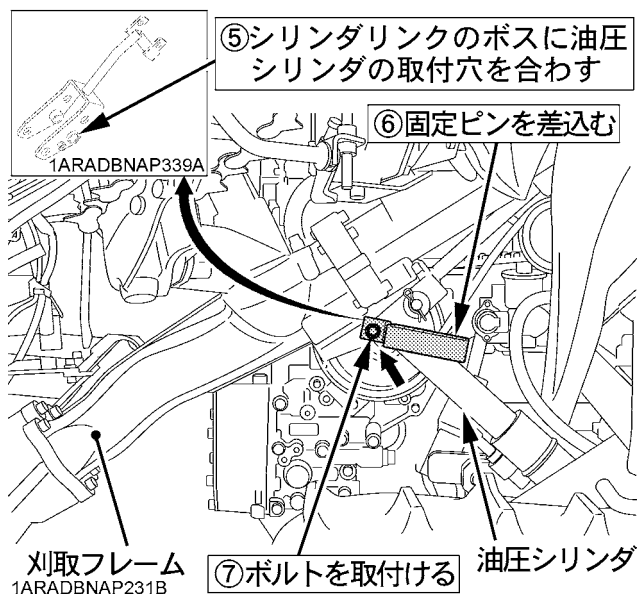
1．刈取部を閉じます。

補　足

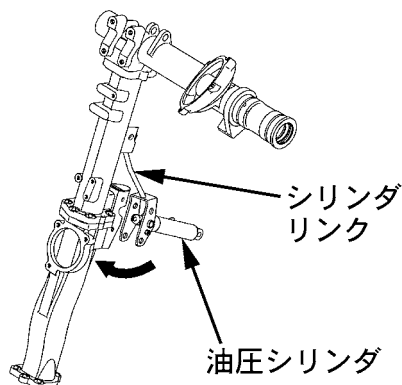
＊ 刈取部を閉じる前に刈取駆動ベルトをプーリに掛けながら閉じてください。

重　要

＊ 回動ロックピンがロック状態で刈取部を回動すると，回動ロックピンが変形したり，ケースが破損するおそれがあります。

補　足

＊ 刈取部を完全に閉じると，駆動スプロケットの取付けが困難となるため，必ず刈取部を閉じる前に駆動スプロケットを駆動軸に取付けてください。

＊ 刈取部を閉じるとき，脱こく入口ハンプ及び株元供給ハンプが垂れ下がり脱こく入口部に挟まらないように引出してください。また，ハンプは脱こく入口ハンプの上に株元供給ハンプを重ねてください。

＊ 刈取部を閉じたとき，脱こく入口プレートハンプを供給ケースをはさむようにセットしてください。正しくセットされていないとわら溜まりの原因となります。

2. 各部の取付けを行ないます。

補　足

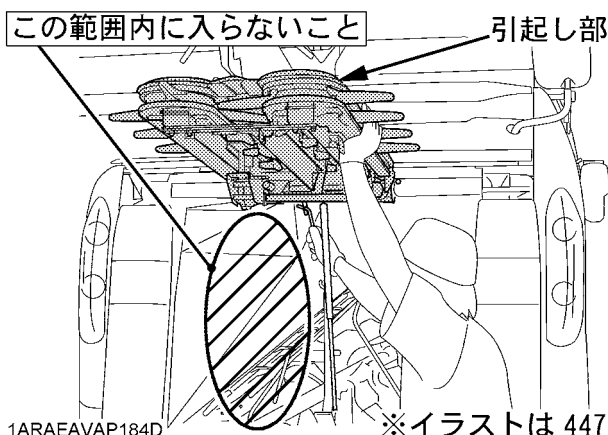
＊ 軸受けを上げる前に軸受けにグリースを塗布してください。

補　足

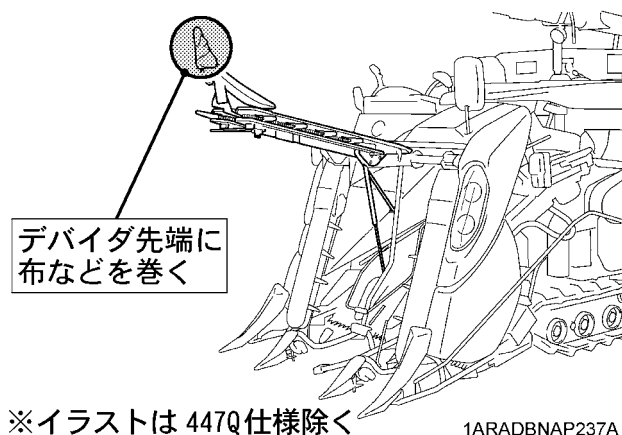
＊ 油圧シリンダが伸びたりして，穴位置が合わないときは，刈取部を再度開いて，油圧シリンダを最圧縮し，シリンダにシリンダリンクを取付けてください。

1ARADBNAP340A

3. 開きかたの逆の手順で各部品やカバー類を取付けます。

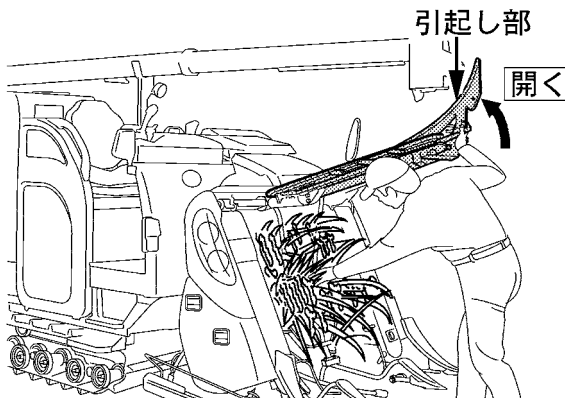
■引起し部の開閉

＊ 引起し部の開閉を行なうときは，平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。刈取部が動くとケガをするおそれがあります。
＊ 傾斜地では，引起し部の開閉は行なわないでください。
＊ 引起し部を分解した状態で開閉は行なわないでください。開くときは，引起し部に手を添えた状態で最上昇位置まで持上げて固定してください。途中で手を離すと引起し部が勢いよく上がり，体に当たるとケガをするおそれがあります。オプション部品のスイスイデバイダを装着している場合は特に注意してください。
＊ 引起し部の開閉作業中は，引起し部の下の位置で作業をしないでください。引起し部が落下すると体がはさまれてケガをするおそれがあります。

1ARAEAVAP184D　※イラストは 447

＊ 引起し部を開いた状態で作業するときは，デバイダ先端部に布などを必ず巻付けてください。

※イラストは 447Q仕様除く　1ARADBNAP237A

* **引起し部を開いたときは，引起し部が落下しないようにストッパを必ず掛けてください。引起し部が落下すると体がはさまれてケガをするおそれがあります。**
* **引起し部を開いた状態で走行をしないでください。**
* **引起し部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
* **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

補　足

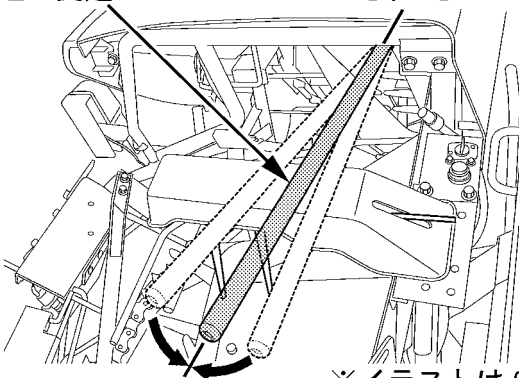
* 刈取部にわら詰まりが発生したときは，引起し部を開き，わらを取除いてください。また，必要に応じて刈取部のメンテナンスを行なうときに引起し部を開いてください。

1ARADBNAP238A　※イラストは 447Q仕様除く

◆ **開きかた**

1. 刈取部を地面から5～10cmの高さまで降ろしたあと，エンジンを停止します。

補　足

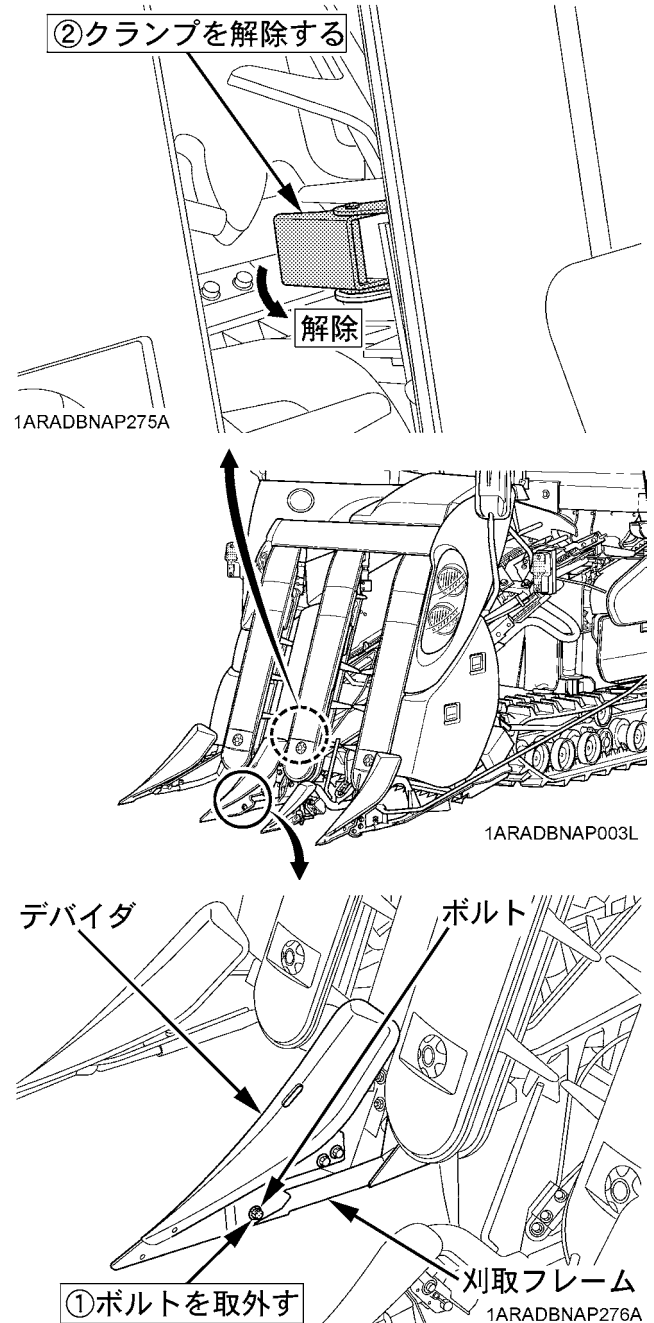
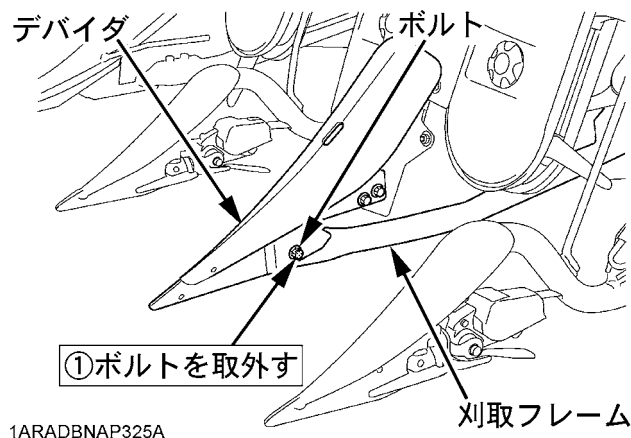
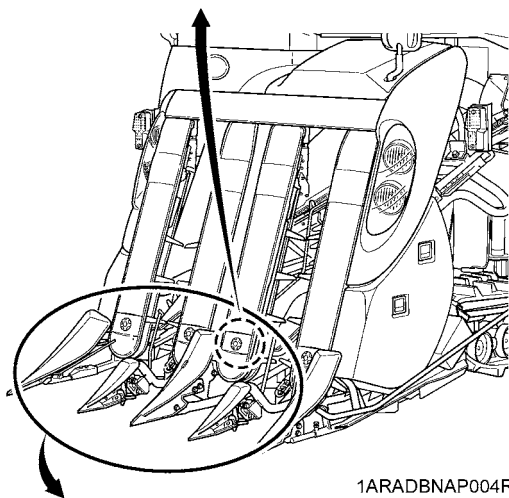
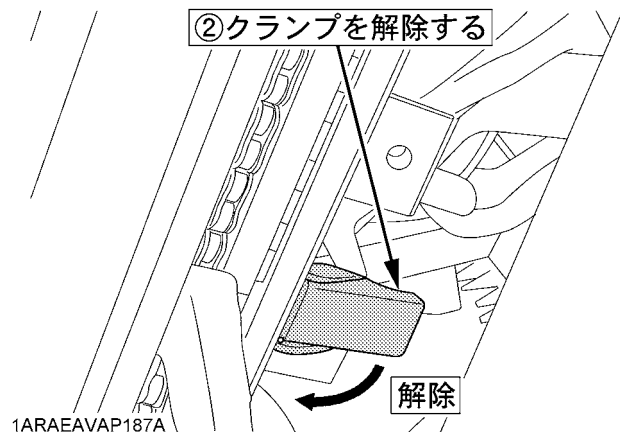
* 刈取部を地面に着くまで降ろすと，引起し部を開くことができません。

2. 引起し変速レバーを **［中立］** 位置にします。

1ARAEAVAP010E　※イラストは Q仕様

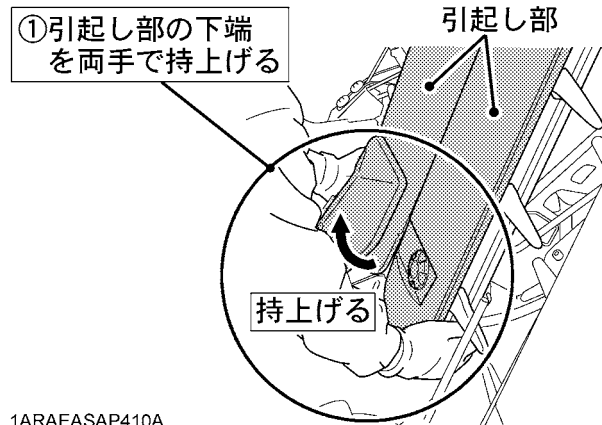
3. 刈取部の中央にある引起し部のデバイダと刈取フレームを固定しているボルトを取外したあと，クランプを解除します。

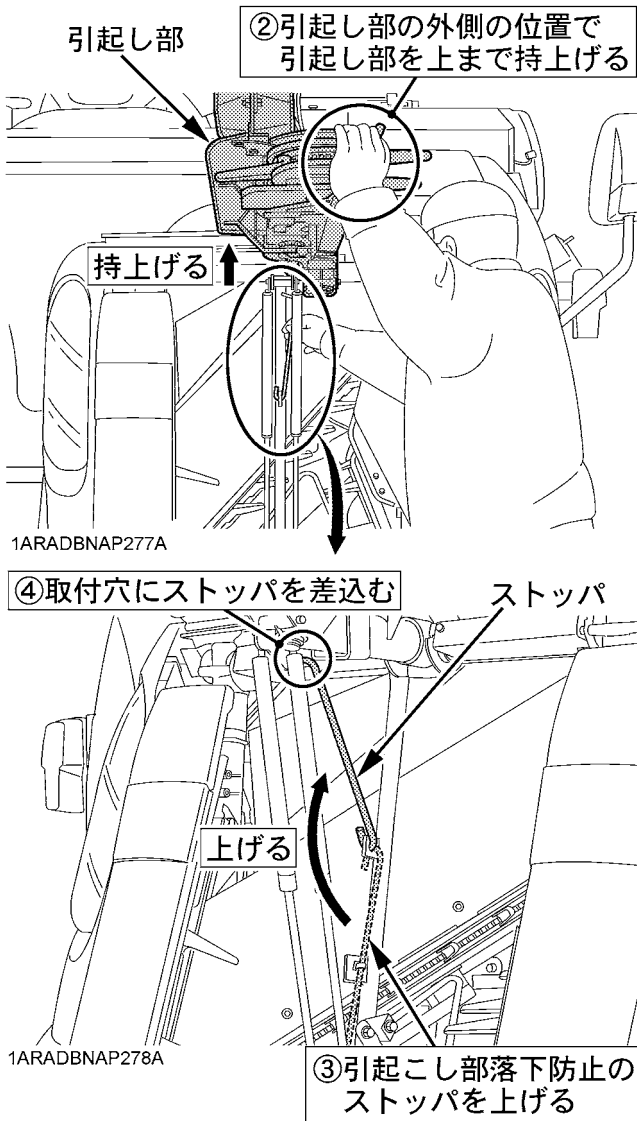
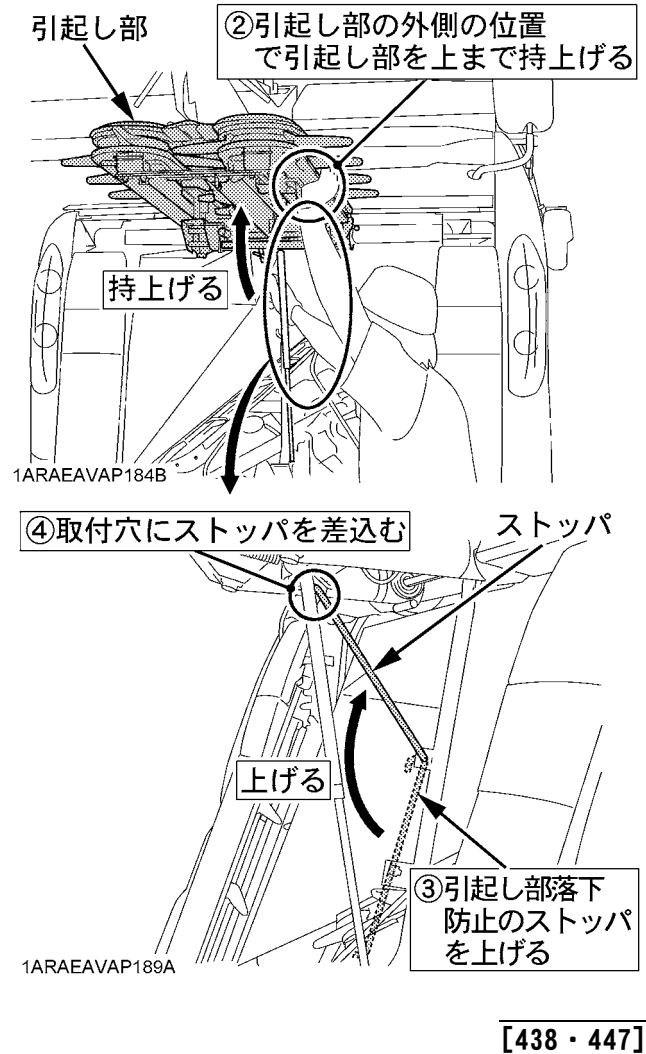
[329・335]

1ARADBNAP275A
1ARADBNAP003L

1ARADBNAP276A

[329・335]

［438・447］

［438・447］

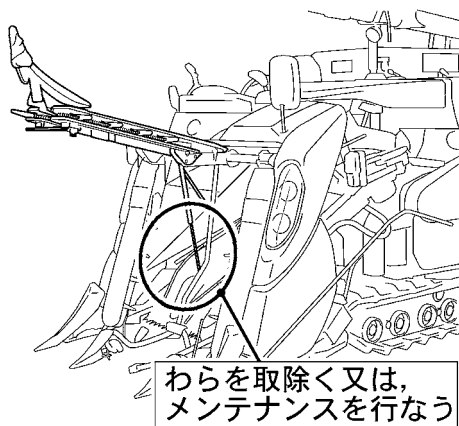
4. 引起し部を持上げて開きます。

重　要

＊ 引起し部を持上げるとき，デバイダを持上げないでください。デバイダの取付部が曲がるおそれがあります。

[329・335]

[438・447]

[438・447]

補　足

＊ 詰まったわらを取除く又は，メンテナンスを行なってください。

1ARADBNAP237B

◆ **閉じかた**

開きかたと逆の手順で閉じてください。

重　要

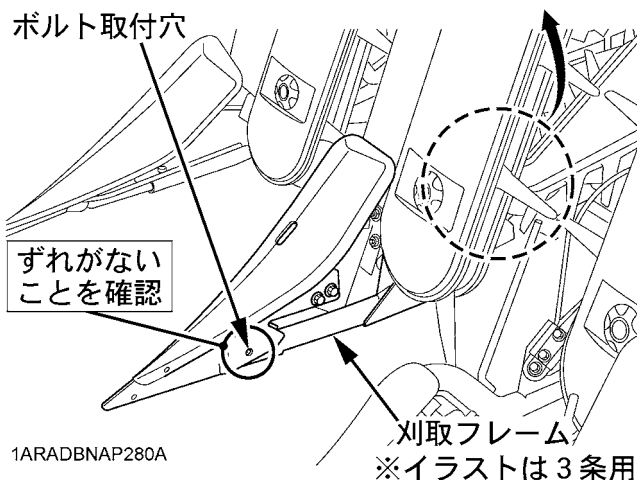
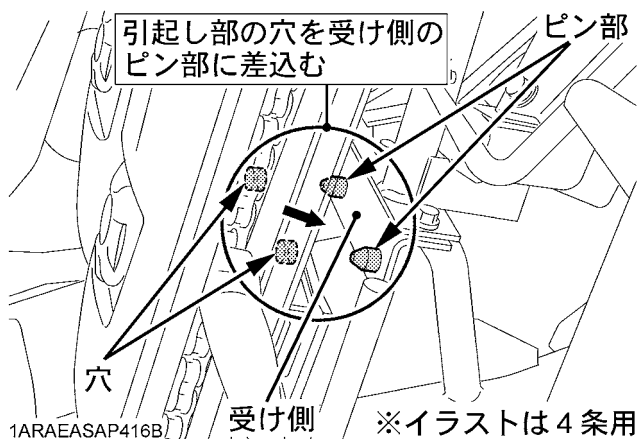
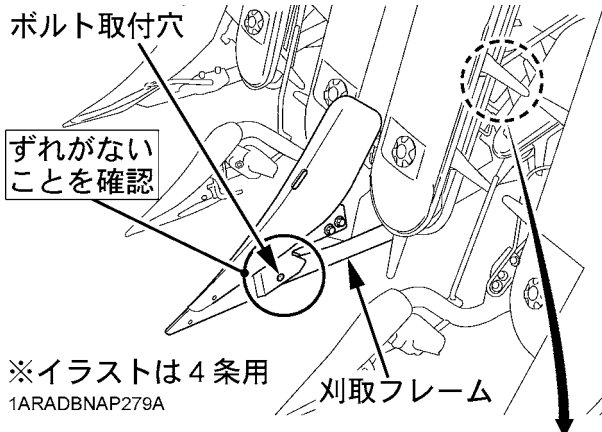
＊ 引起し部を分解した状態で閉じないでください。引起しフレームの取付け部が曲がるおそれがあります。
＊ 引起し部を閉じたときは，クランプとボルトで確実に引起し部と刈取フレームを固定してください。
＊ 引起し部を閉じるときは，ゆっくりと閉じて最後まで手を離さないでください。勢いよく閉じると，引起し爪が刈取フレームの丸棒に接触して破損するおそれがあります。

補　足

＊ 引起し部を閉じたあと，刈取フレームにデバイダをボルトで固定するとき，取付穴にずれがあるときは，引起し部を受け側にきちんとセットしてください。

1ARADBNAP279A

1ARAEASAP416B

1ARADBNAP280A

＊ 引起し部を閉じたあと，引起し変速レバーを**［標準］**又は，**［高速］**位置にしてください。引起し変速レバーが**［中立］**位置の状態では刈取部が作動しません。

■カッタ部の開閉

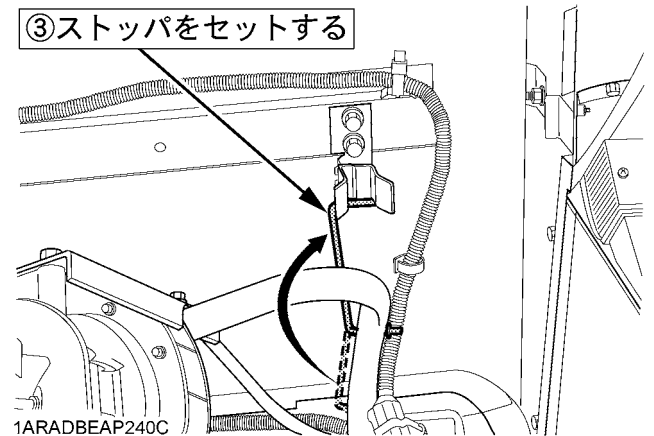
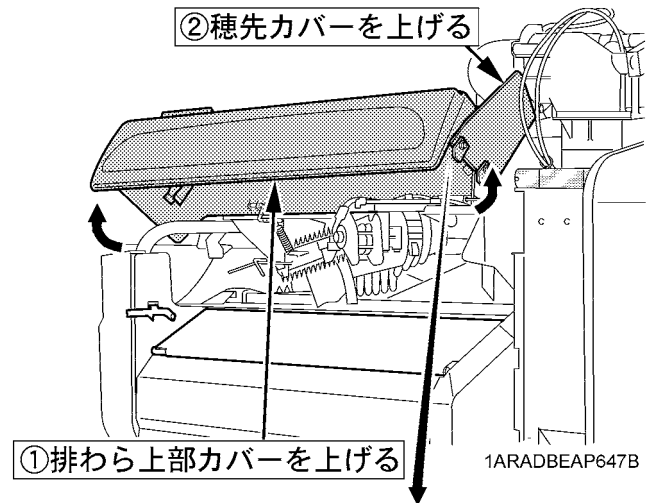
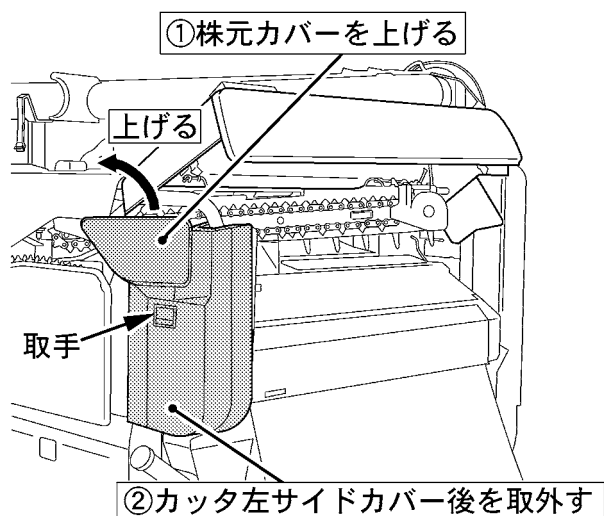
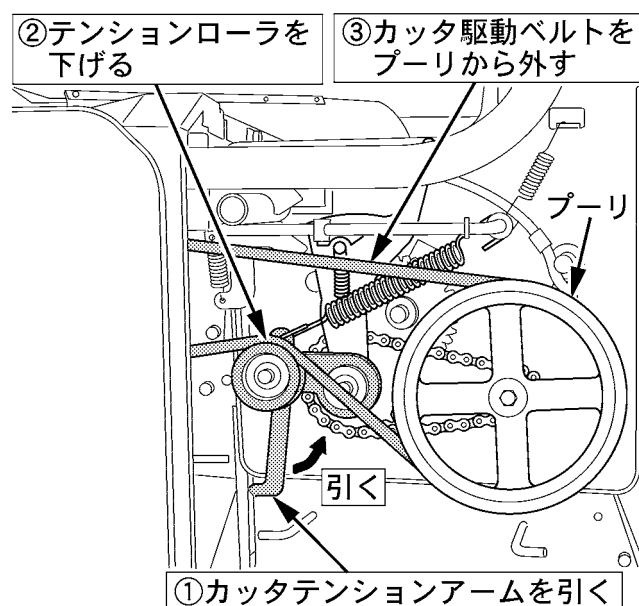
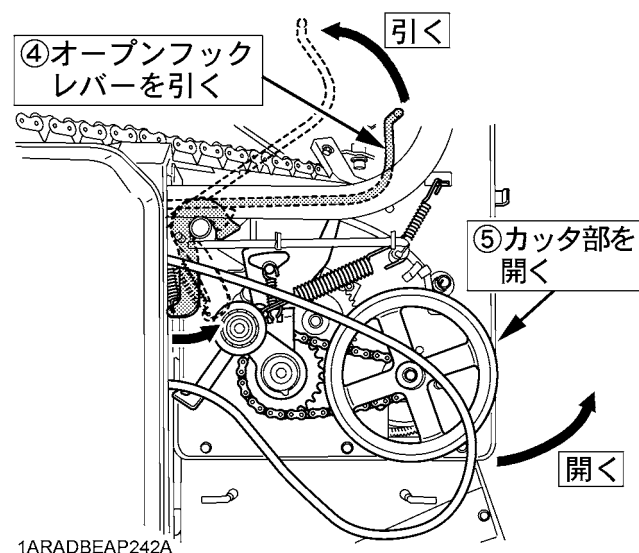
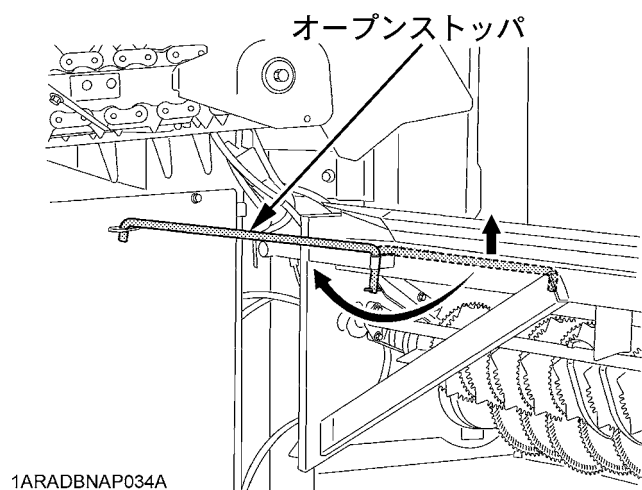
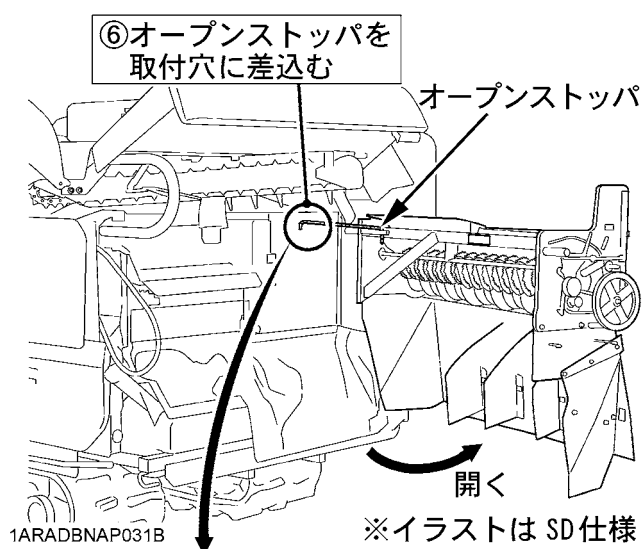
警 告

* **カッタ部を開いているときは，カッタの刃先に注意してください。**
* **平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
* **カッタ部を開いた状態で走行をしないでください。**
* **カッタ部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
* **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

注 意

* **傾斜地では，カッタ部の開閉をしないでください。**
* **カッタ部を開いたときは，オープンストッパを必ず掛けてください。**

◆開きかた

1. 排わら上部カバーを上げて，ストッパをセットしたあと，穂先カバーを上げます。

2. 取手を引いてカッタ左サイドカバーを外します。

3. カッタ部を開きます。

重　要

＊ カッタ部を開きすぎないでください。開きすぎると，破損の原因となります。

◆閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

重　要

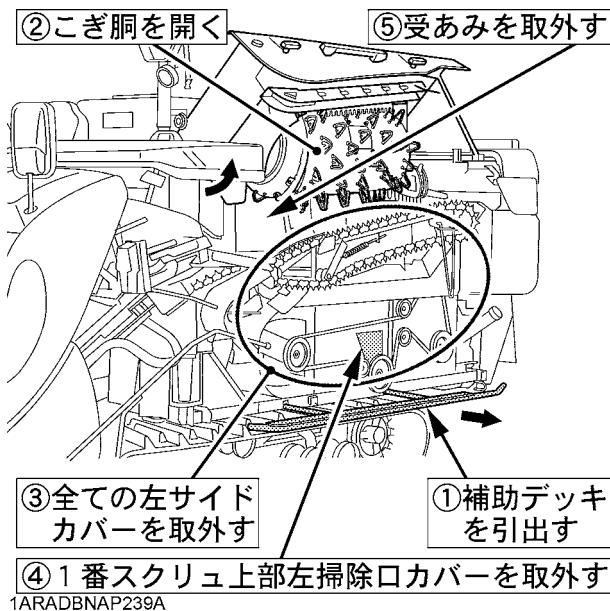
＊ カッタ部を閉じたあとは，オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。
＊ ベルトは掛け間違えないでください。

■シーブケースの脱着

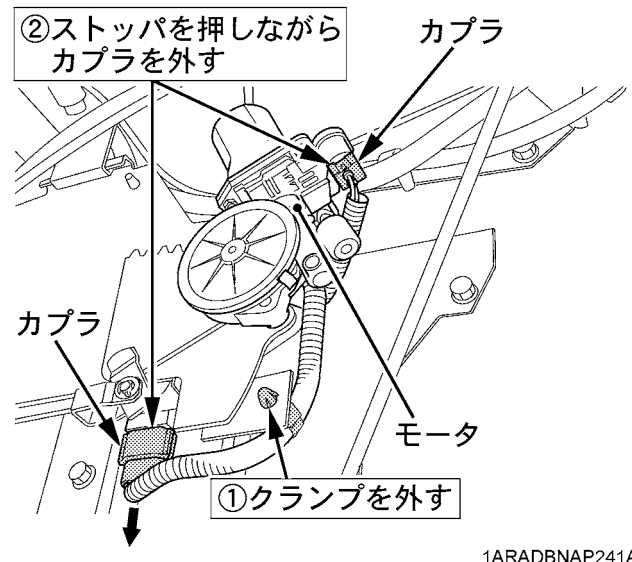
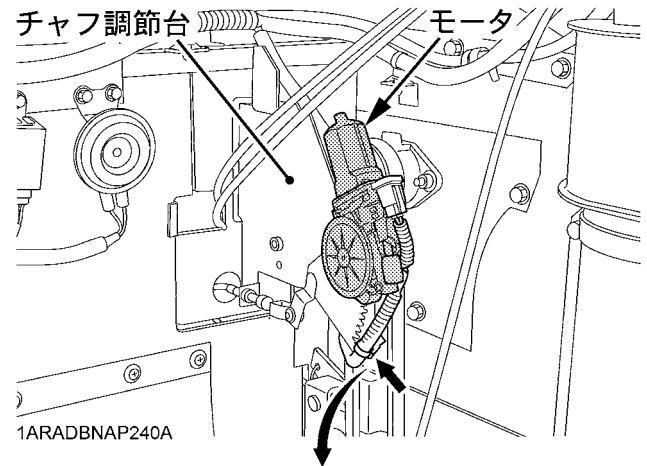
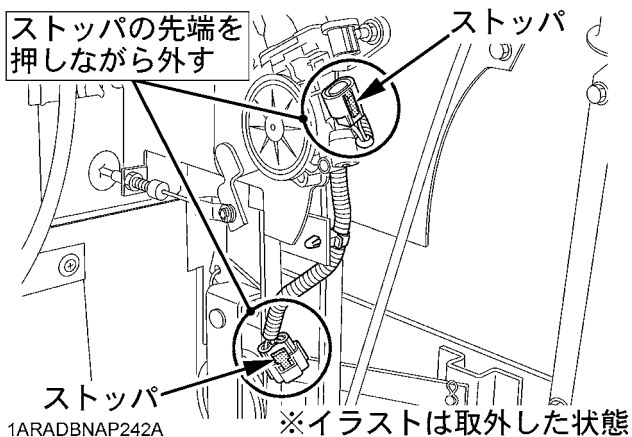
注　意

* **平たんで安全な場所で,エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
* **脱着作業は,合図を掛け合って 2 人以上で行なってください。**
* **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

◆ **抜出しかた**

1. アンローダを上位置にしたあと，エンジンを停止します。
2. 補助デッキを引出したあと，こぎ胴を開きます。(156 ページ参照)
3. 左サイドカバー上，下及び左サイドカバー内 1，2を取外します。(179 ページ参照)
4. ボルトを取外して，1番スクリュ上部左掃除口カバーを外します。
5. 受あみを取外します。(176 ページ参照)

6. カッタ部を開きます。(169 ページ参照)

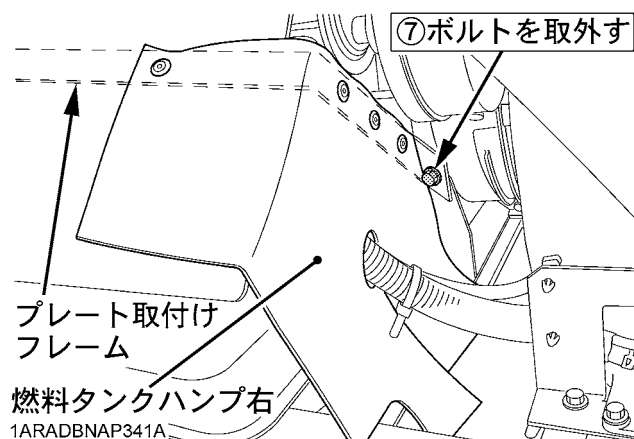
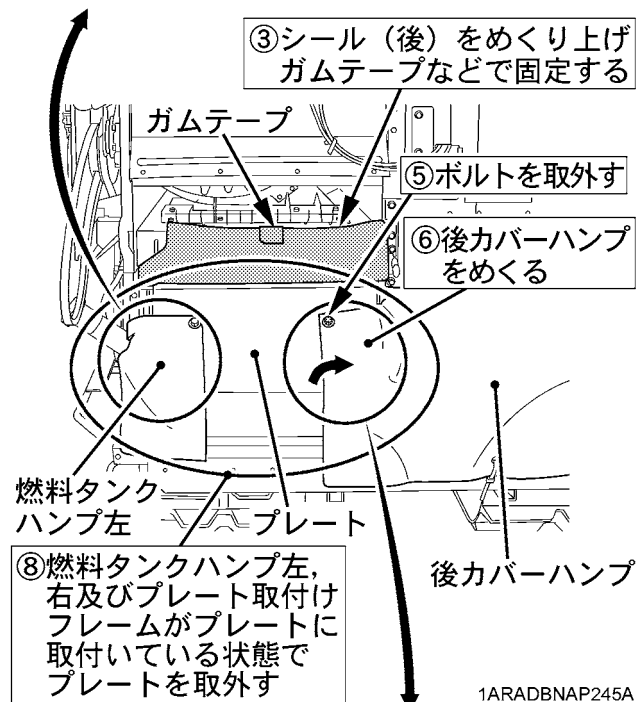
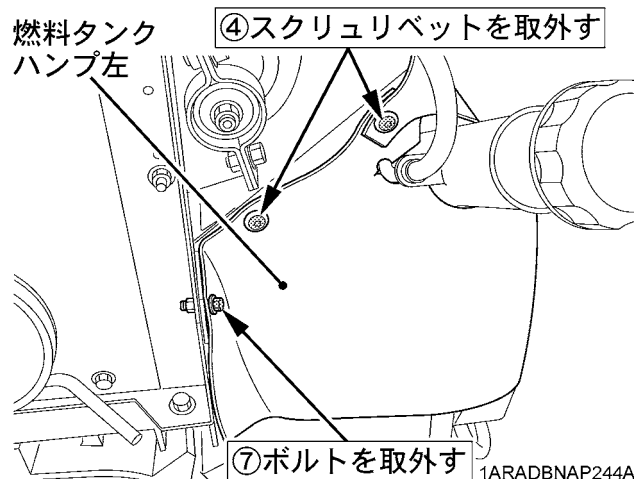
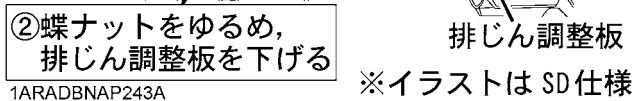
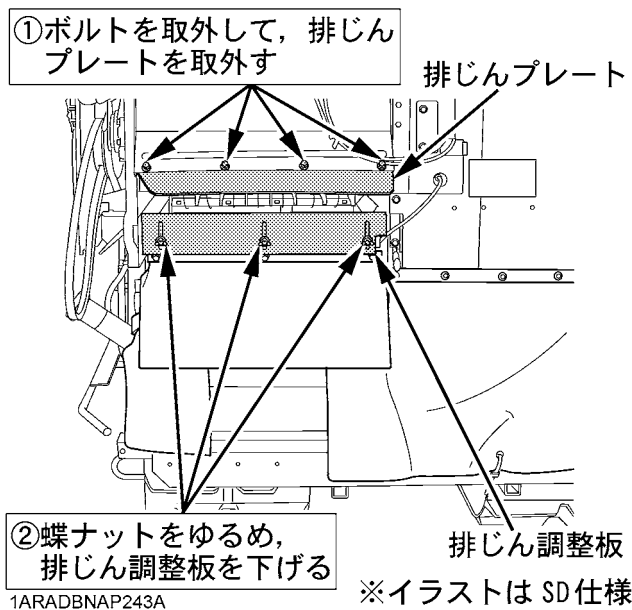
[HD・SD 仕様]

7. グレンタンクを開いたあと，チャフ調節台に取付けている３箇所のモータ用カプラとクランプを取外します。

補　足

＊ モータ下側にあるカプラを取外すときは，チャフ調節台側からストッパを押えながら引いてください。

8. グレンタンクを閉じます。

［HD・SD 仕様］

9. シーブケースを引出す準備をします。

1ARADBNAP248A

[SD 仕様]

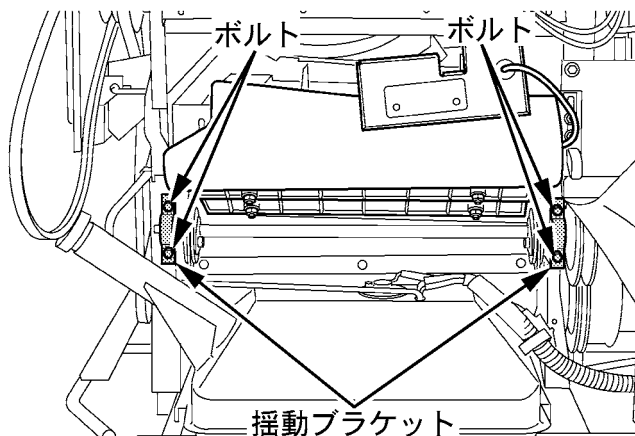
1ARADBNAP249A

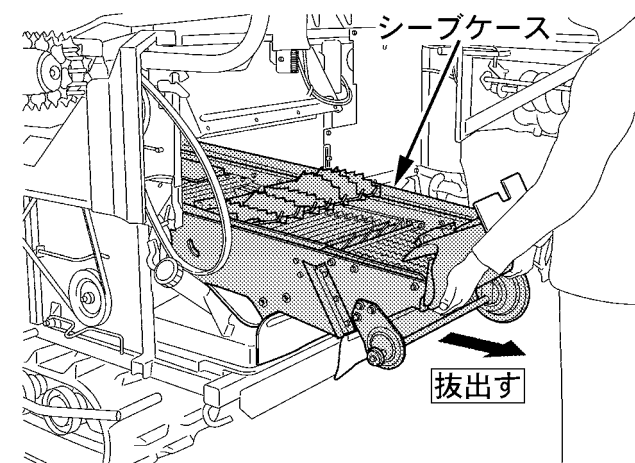
1ARADBNAP250A

重　要

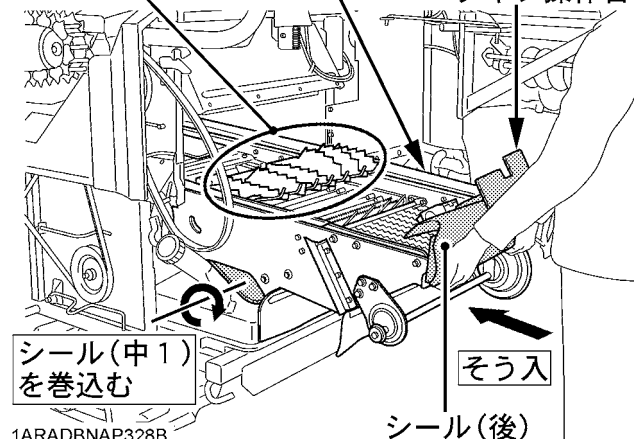
＊ チャフ操作台をシーブケースの上に乗せるとき，チャフ操作台を無理に引っ張らないでください。破損の原因となります。

[SD 仕様]

10. ボルトを取外して左，右の揺動ブラケットを外します。

1ARADBNAP250B

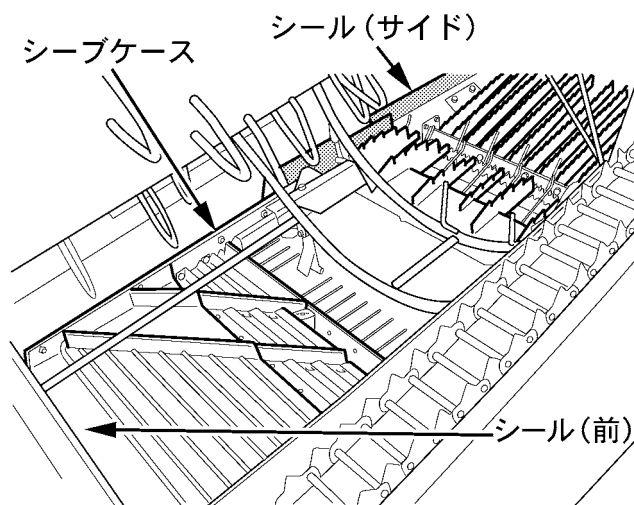
11. シーブケースを抜出します。

1ARADBNAP328A

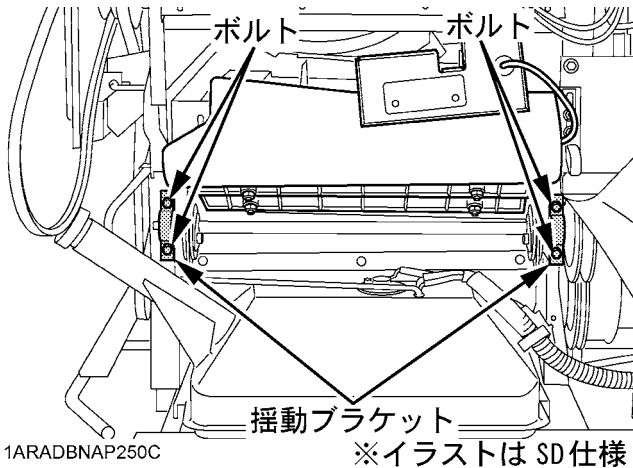
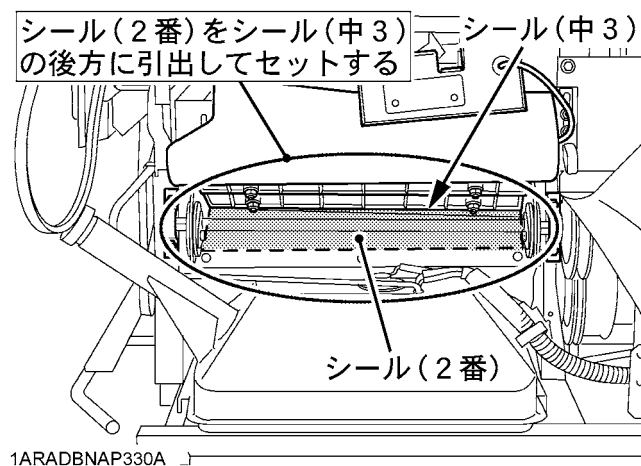
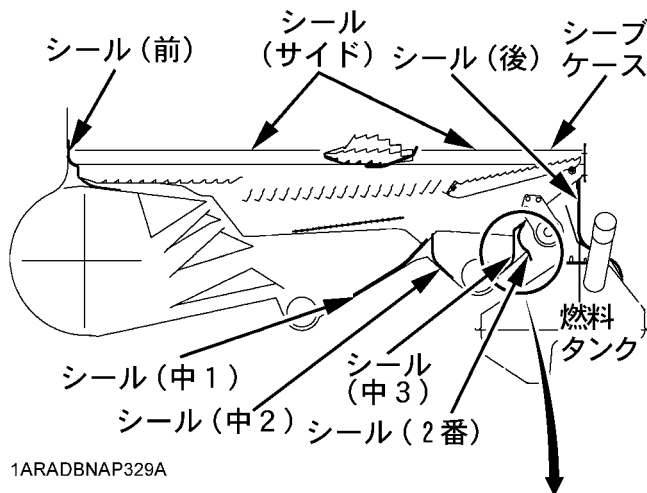
◆ **取付けかた**

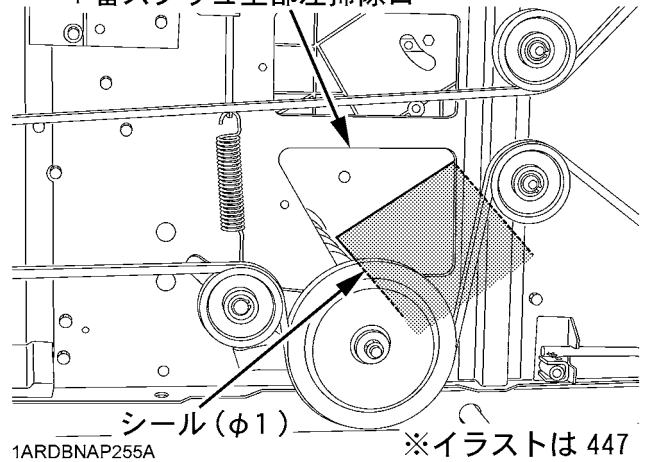
1. シーブケース後部のシール(後)をシーブケース上にめくり上げ，**[SD 仕様]** は，チャフ調節台をシーブケースに乗せます。
2. シーブケース下側のシール（中 1）を右巻きに巻込んだあと，シーブケースをそう入します。

1ARADBNAP328B

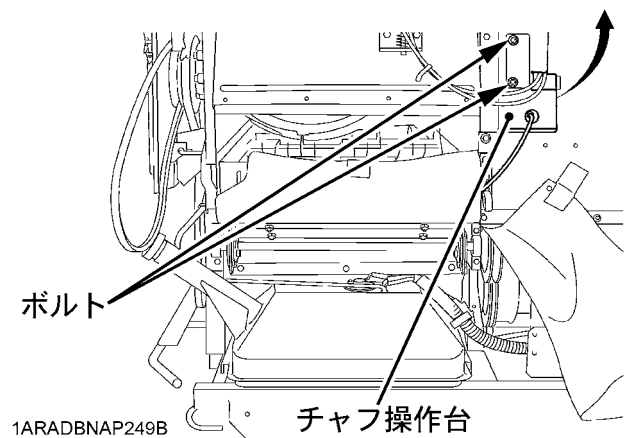
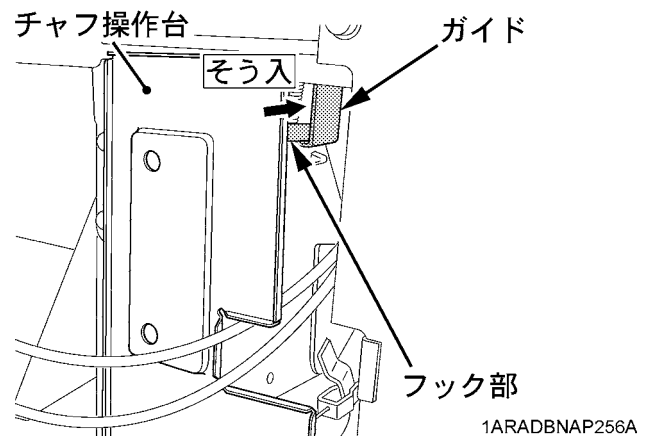
重　要

＊ ストローラックの引掛かりに注意してください。
＊ そう入途中で，大きく上下動させないでください。

3. そう入したあと，シーブケースの左，右及び前にあるシール（サイド）及びシール（前）が下向きに折れ曲がっているときは，シーブケースを前・後に動かして，シール（サイド）及びシール（前）の先端を上向きにします。

1ARADBEAP258A

4. 左，右の揺動ブラケットをボルトで取付けます。

5. シール各部を下図のような位置と向きにセットします。

補　足

＊ シール（中１）は，１番スクリュ上部掃除口より手を入れて下図のようにセットします。

[SD仕様]

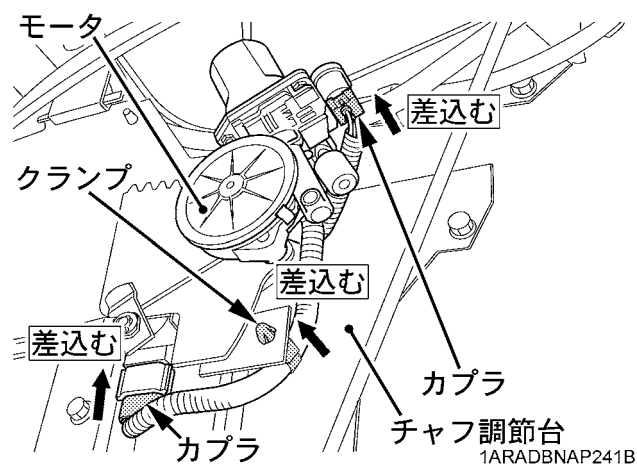
6. チャフ調節台のフック部をガイドに合わせてそう入し，ボルトで取付けます。

補　足

＊ モータのハーネスがガイドにくい込まないようにしてください。

[SD仕様]

7. 揺動駆動ベルトをプーリに取付けたあと，揺動駆動ベルトテンションレバーを下げてフック部に掛けます。
8. 燃料タンクハンプ左，右及びプレート取付けステーを取付け，後カバーハンプと共締め状態でボルトを取付けます。
9. 燃料タンクハンプ左のスクリュリベットを取付けます。
10. シール（後）をセットし，排じん調整板を作業位置に調整（143 ページ参照）したあと，排じんプレートを取付け，カッタを閉じます。

［SD 仕様］

11. グレンタンクを開いたあと，モータ用カプラとクランプをモータ及びチャフ調節台に差込んで取付けます。

12. グレンタンクを閉じます。

［SD 仕様］

13. 受あみを取付けたあと，１番スクリュ上部左掃除口カバーを取付けます。
14. 左サイドカバー内１，２を取付けたあと，左サイドカバー上，下を取付けます。
15. カッタ左サイドカバーを取付けます。
16. こぎ胴を閉じて補助デッキを収納したあと，アンローダを収納します。

■受あみの脱着

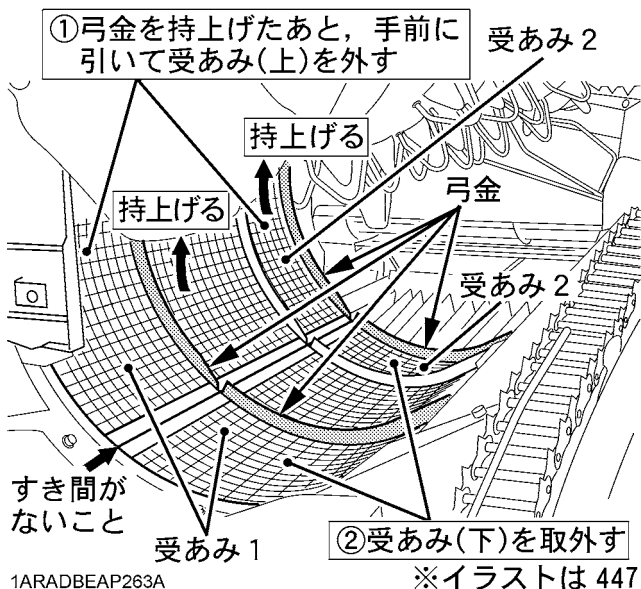
1. 補助デッキを引出します。
2. こぎ胴を開きます。
3. 受あみ１と **［438・447］** は２の各（上），（下）を取外します。

重　要

＊ 補助デッキの上に乗って作業を行なうとき，パイプ部の上に乗ると変形するおそれがあるため必ず板の部分に乗ってください。

補　足

＊ 受あみの脱着が困難なときは，付属部品の受あみ脱着金具を使用してください。

4. 逆の手順で受あみ（下）を取付け，受あみ（上）をそれぞれ取付けます。

重　要

＊ 取付けたときに受あみ（上），（下）の間にすき間があったり，（上），（下）を逆に組付けると，脱こく部の故障の原因となります。
＊ 受あみが確実に取付いていることを確認してください。
＊ 受あみ（上），（下）それぞれ２種類あります。

補　足

＊ **［329・335］** は受あみ２はありません。

5. こぎ胴を閉じたあと，補助デッキを収納します。

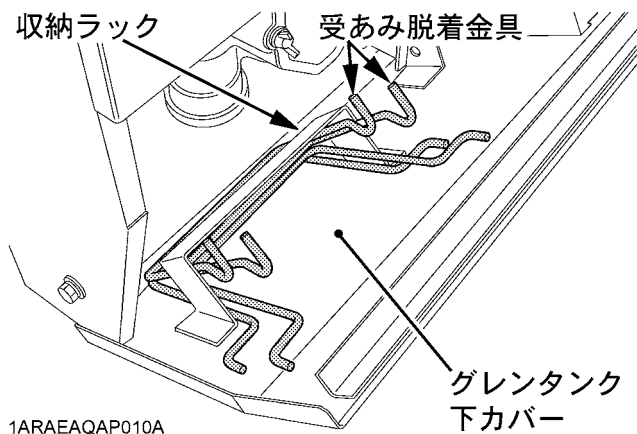
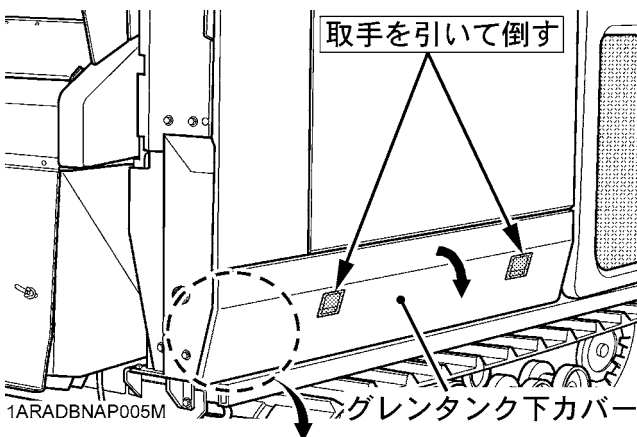
◆ 受あみ脱着金具の使いかた

＊ **受あみを取外すときは，受あみ脱着金具を強く握ってください。足元に受あみが落下しケガをするおそれがあります。**

● 保管について

付属部品箱から受あみ脱着金具2本を取出したあと，グレンタンク下カバー裏側にある受あみ脱着金具の収納ラックに収納します。

1ARADBNAP005M

1ARAEAQAP010A

補　足

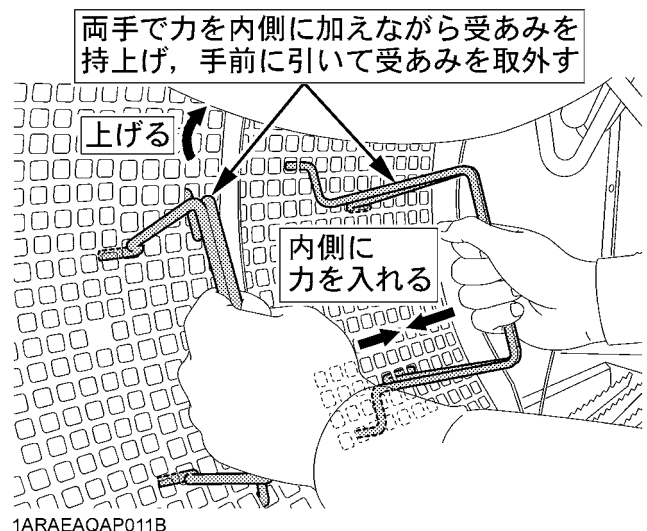
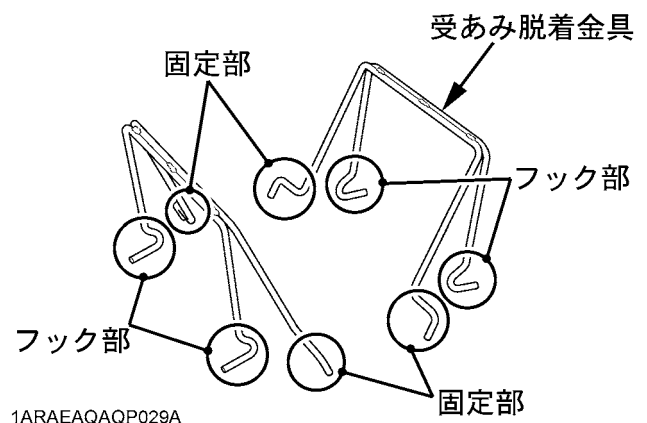
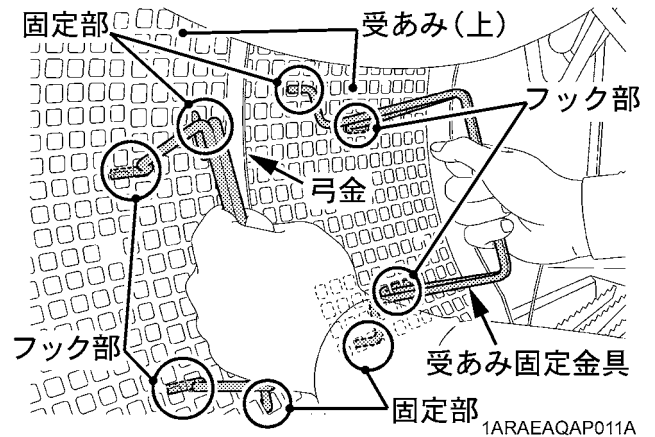
＊ 受あみ脱着金具を収納するとき，２本を重ねて収納ラックに収納してください。
＊ トラック輸送時など，グレンタンク下カバーが脱落したとき，受あみ脱着金具が落下するおそれがあるため，受あみ脱着金具は必ずグレンタンク下カバーから取外しておいてください。

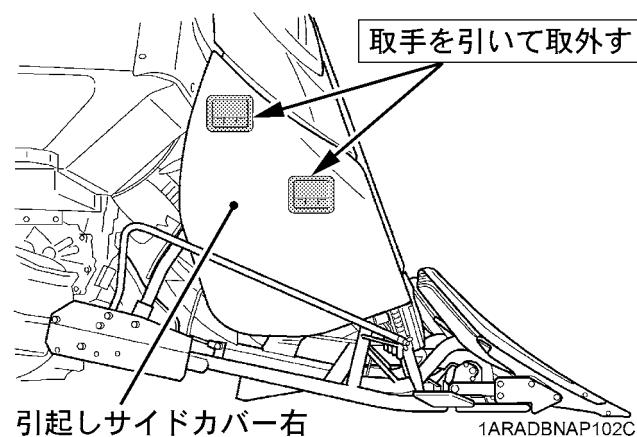
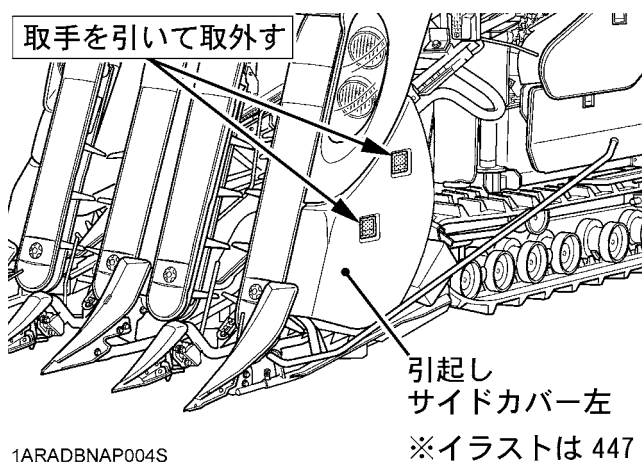
● 使いかた

1. グレンタンク下カバーから受あみ脱着金具２本を取外します。
2. 弓金を中心に受あみ脱着金具のフック部を受あみの穴にそれぞれフックしたあと，受あみ脱着金具を，下図のように固定部を受あみに差込み，２本の受あみ脱着金具を両手でしっかりと握り，内方向に力を加えながら受あみをゆっくり取外します。

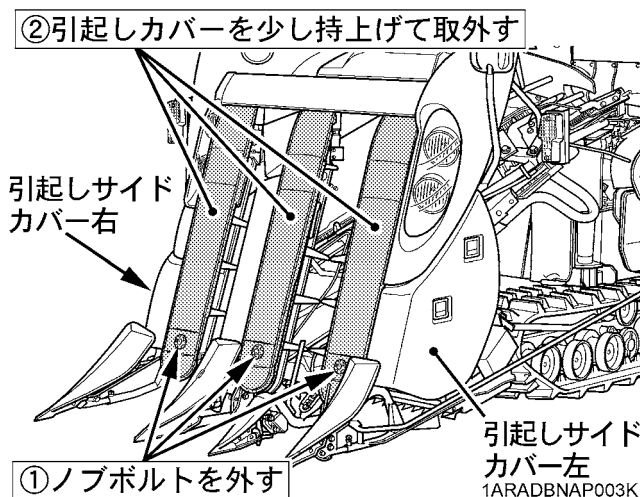
1ARAEAQAP011A

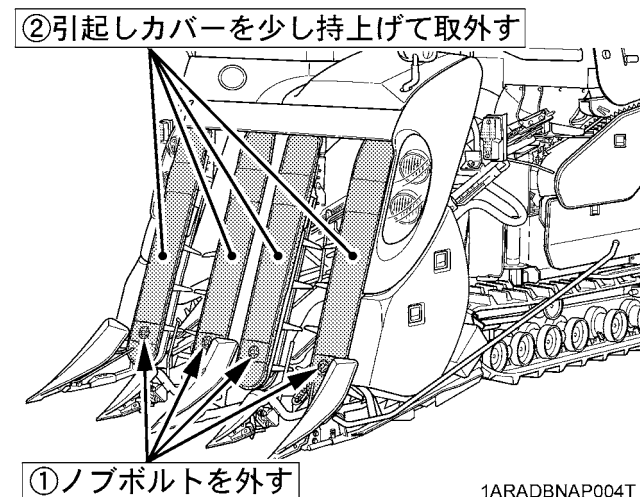
1ARAEAQAQP029A

1ARAEAQAP011B

3. 同じ要領で受あみ（下）の取外し及び取付けの作業を行ないます。

■引起しサイドカバーの脱着
刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた
◆取付けかた
引起し爪を全て上側に倒したあと，引起しサイドカバーを取付けます。

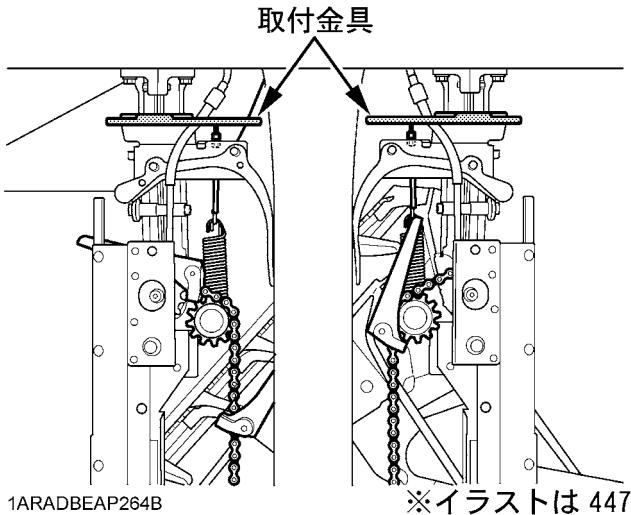
■引起しカバーの脱着
刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた
ノブボルトを外したあと，引起しカバーを少し持上げて取外します。

［329・335］

［329・335］

［438・447］

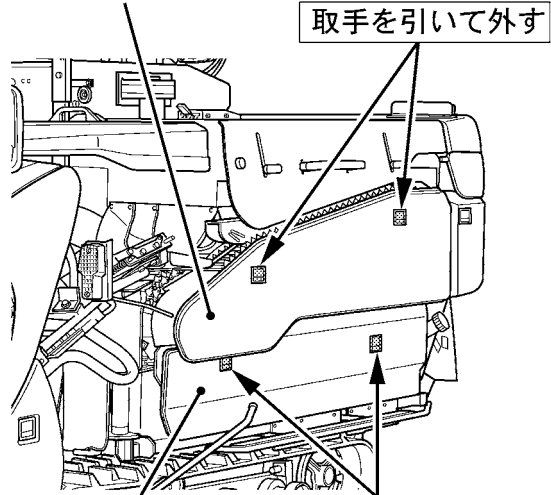
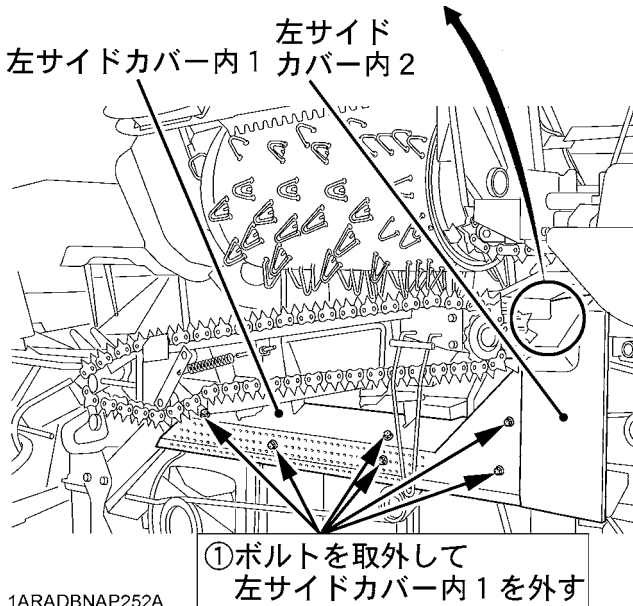
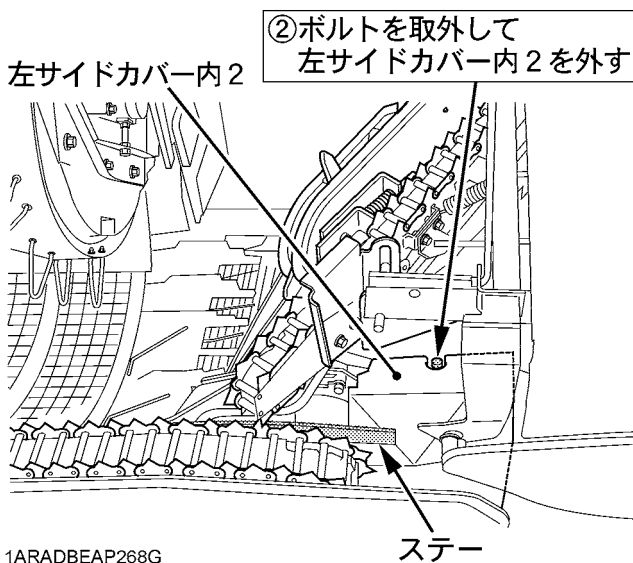
［438・447］

◆取付けかた
引起しカバーを取付けてノブボルトを締付けてロックします。

補　足
＊ 引起しカバーを取付けるとき，上部にある取付金具に引掛けてください。

■左サイドカバーの脱着

◆ 取外しかた

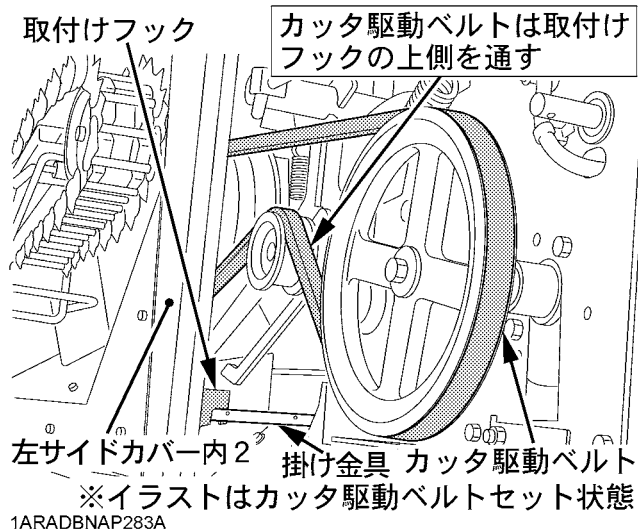
● 左サイドカバー上，下

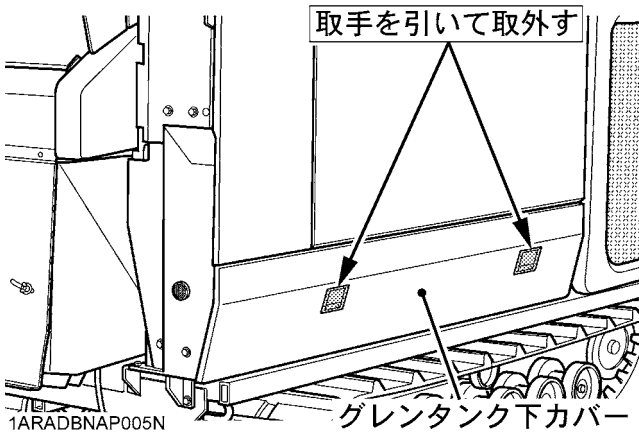
● **左サイドカバー内１，内２**

補　足

＊ ステーの引っ掛かりに注意してください。

◆ **取付けかた**

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

補　足

＊ 左サイドカバー内２を取付けるとき，内側の取付けフックを掛け金具に掛けてください。このとき，カッタ駆動ベルトの下側は，取付けフックの上側を通してください。

■グレンタンク下カバーの脱着

◆ 取外しかた

◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

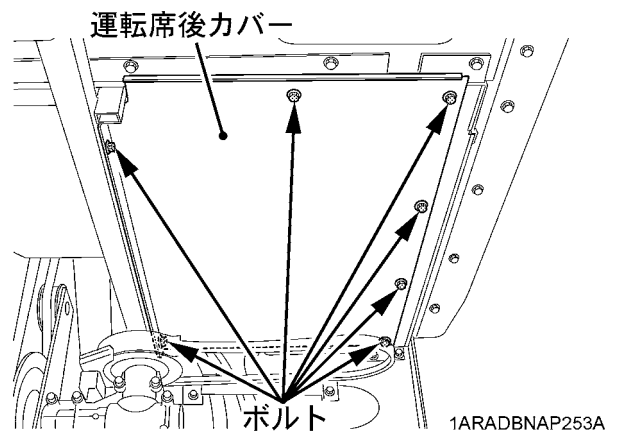
■運転席後カバーの脱着

＊ **グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
＊ **傾斜地では，グレンタンクの開閉を行なわないでください。**

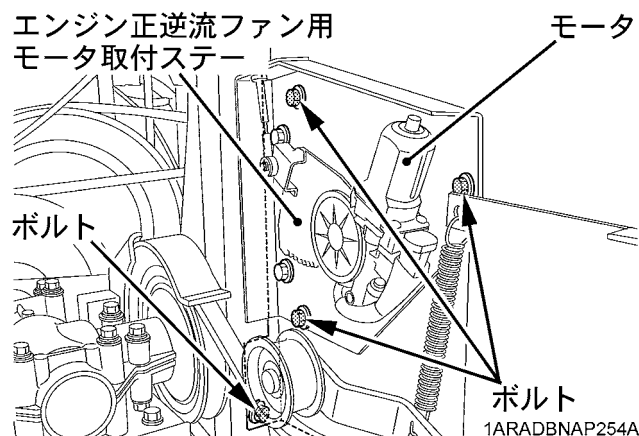
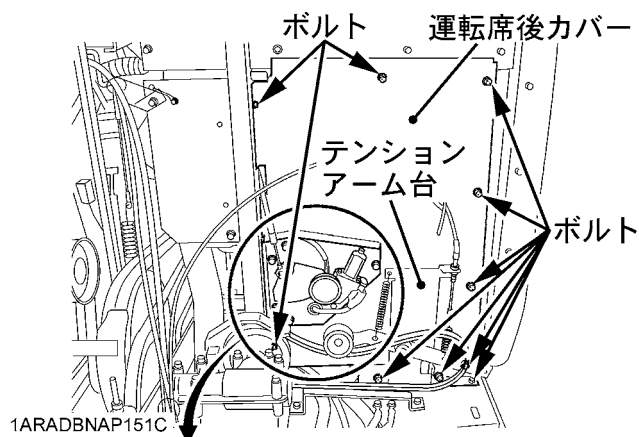
◆ 取外しかた

1. グレンタンクを開きます。（184 ページ参照）

［DX 仕様］

2. ボルトを取外して，運転席後カバーを外します。

［DX 仕様］

[438・447]

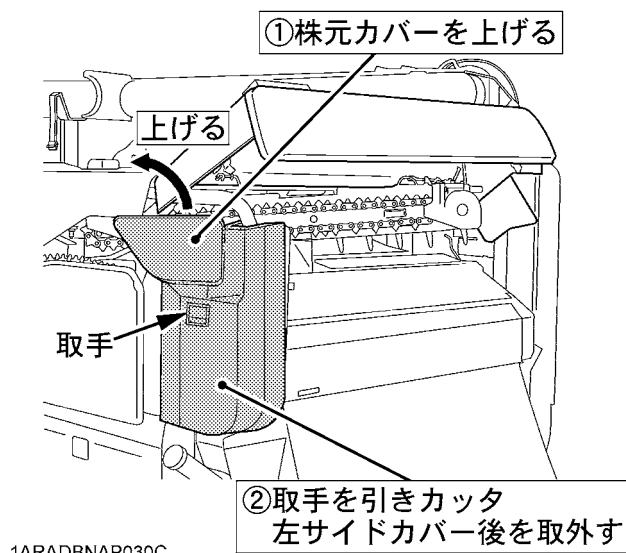
2. ボルトを取外してエンジン正逆流ファン用モータ取付ステーを取外したあと，ボルトを取外してテンションアーム台，運転席後カバーを外します。

[438・447]

◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けたあと，グレンタンクを閉じてください。

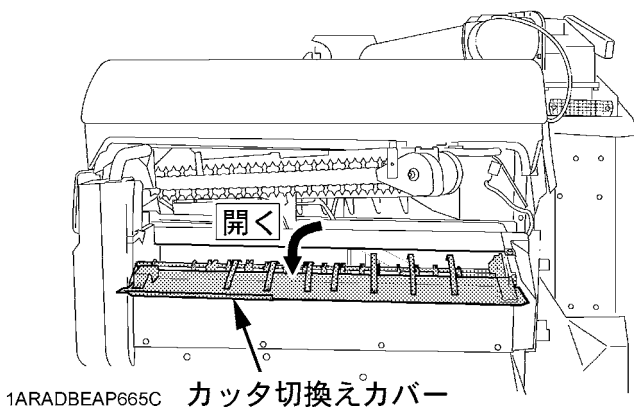
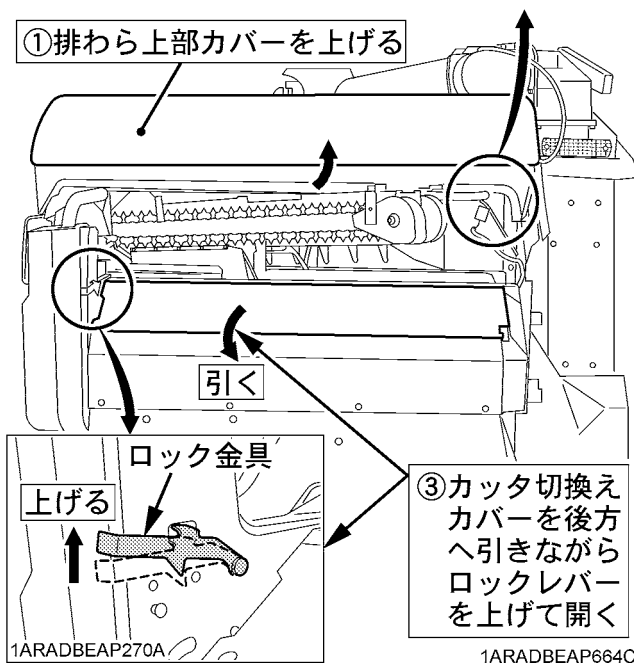
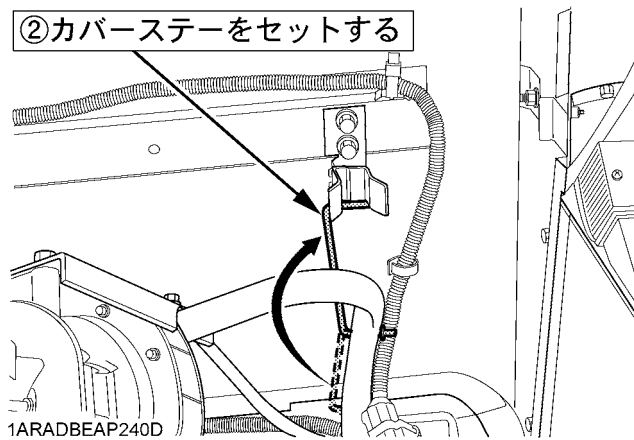
■カッタ左サイドカバーの脱着

◆ 取外しかた

1. 株元カバーを上げます。
2. 取手を引き，カッタ左サイドカバーを取外します。
3. ボルトを取外して，カッタ左サイドカバー前を取外します。

◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

■カッタ切換えカバーの開閉

◆ 開きかた

◆ 閉じかた

カッタ切換えカバーを閉じたあと，ロックレバーで確実にロックしてください。

補　足

＊ カッタ切換えカバーを開けたままでは，エンジンを始動しても **［DX 仕様］** は脱こく・刈取クラッチレバーを **［切］** 位置，**［HD・SD 仕様］** は作業レバーを **脱こく［切］** 位置にするとエンジンが止まります。点検・掃除後は，必ずロックレバーを引きながらカッタ切換えカバーを閉め，ロックレバーを確実にロックしてください。

■グレンタンクの開閉

注 意

- **＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- **＊ グレンタンクを開いた状態で走行しないでください。**
- **＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **＊ 傾斜地では，グレンタンクの開閉を行なわないでください。**
- **＊ グレンタンク部を開いたときは，グレンタンク部が閉じないようにストッパを必ず掛けてください。グレンタンク部が閉じると体がはさまれてケガをするおそれがあります。**
- **＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

重 要

＊ カッタ部が開いているときは，グレンタンクを開けないでください。グレンタンク後部カバーと接触し，破損するおそれがあります。

◆開きかた

1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(128 ページ参照)

[DX 仕様]

2. 主変速レバーを **[停止]** 位置にしたあと，脱こく・刈取クラッチレバーを **[切]** 位置にします。

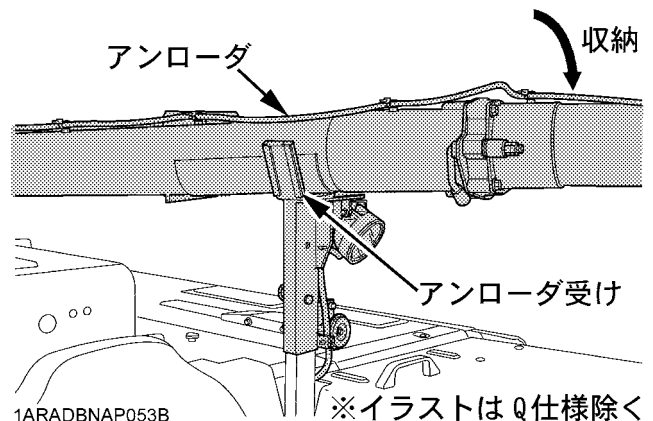
[DX 仕様]

[HD・SD 仕様]

2. 主変速レバーを **[停止]** 位置にしたあと，作業レバーを **[切]** 位置にします。

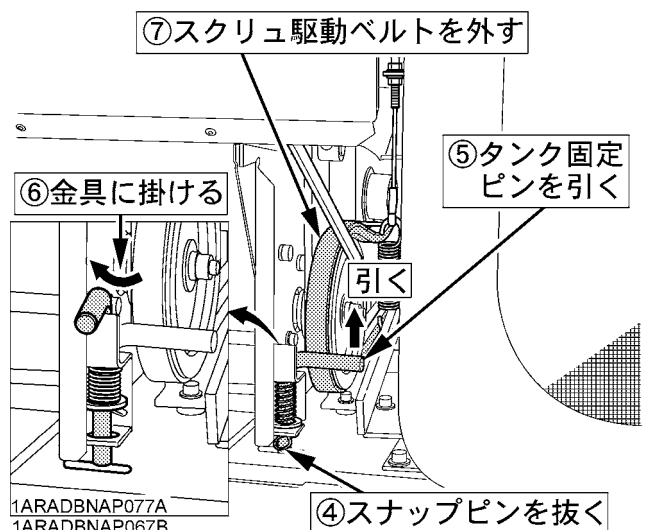
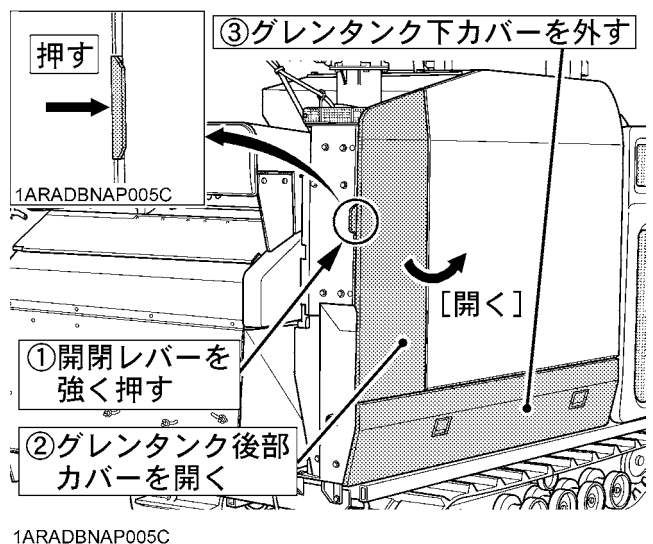
[HD・SD 仕様]

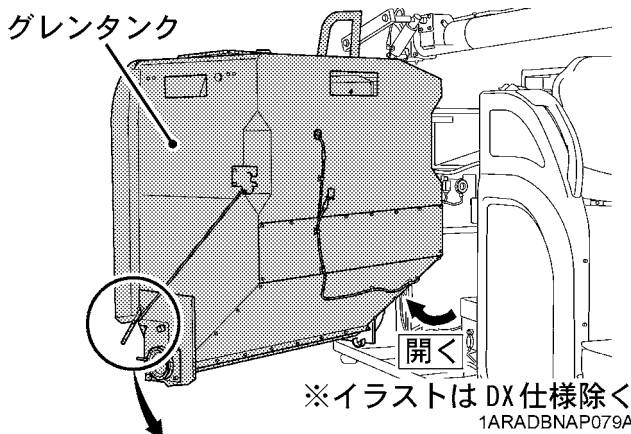
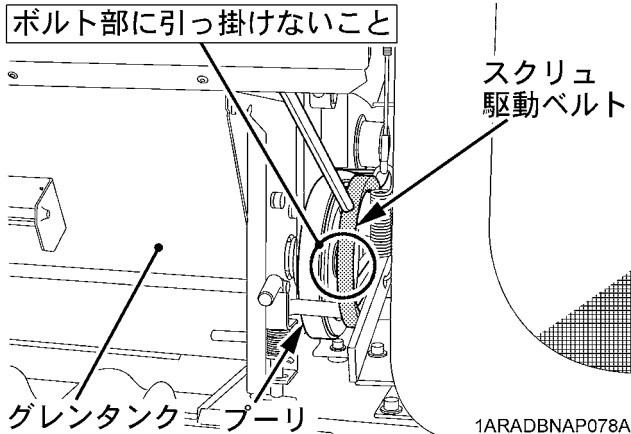
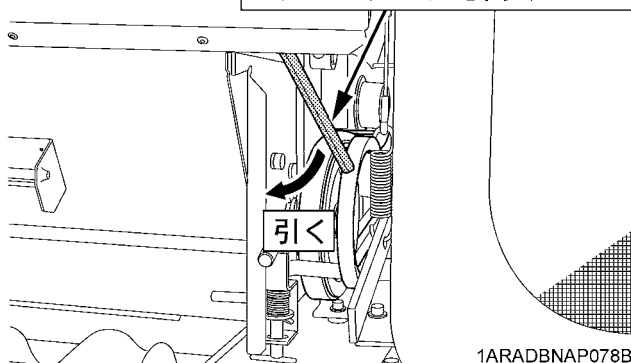
3. アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。

1ARADBNAP053B

重 要

＊ グレンタンクの開閉を行なうときは，アンローダを必ず収納位置にしてください。

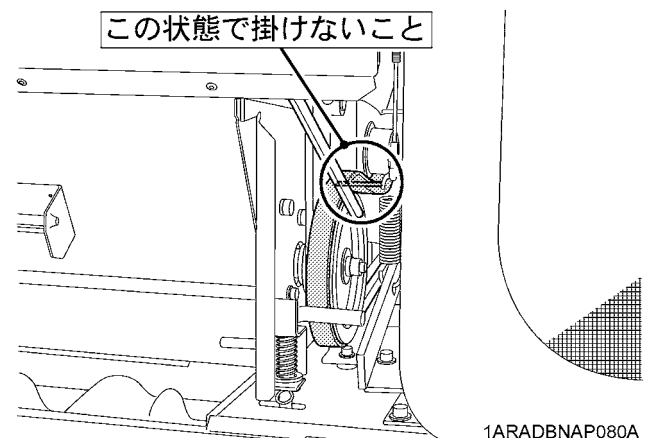
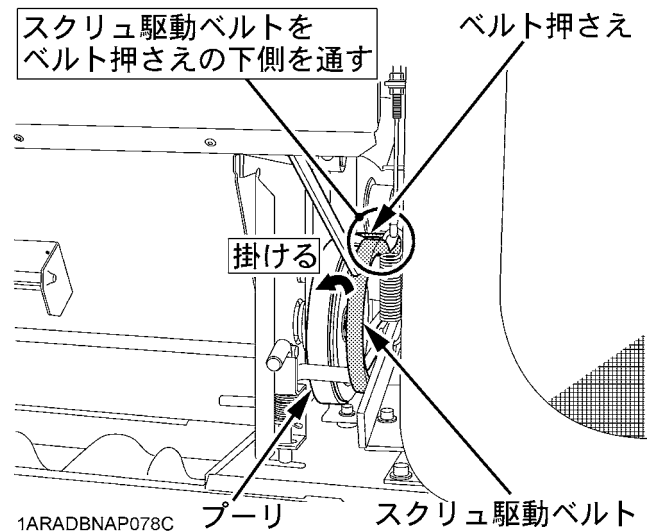
1ARADBNAP005C

1ARADBNAP067B

補　足

＊ グレンタンクを開くとき，グレンタンク側プーリのボルト部にスクリュ駆動ベルトを引っ掛けないようにしてください。

◆閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

重　要

＊ スクリュ駆動ベルトはベルト押さえの下側を必ず通してください。ベルトがベルト押さえの上側を通っていると接触してベルトやベルト押さえが破損するおそれがあります。

＊ グレンタンクのロックや固定ピンの差込みは確実に行なってください。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警告

＊ エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊ 取外したり，開いた回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

注意

＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ 空運転するときには必ず機体各部の開いたところは閉じ，カバー類を取付けてください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 刈刃やカッタの掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重要

＊ 水洗いするときは，電装部品に水を掛けないでください。故障の原因になります。
＊ 取外したボルトやナットは，必ず締付けてください。トラブルの原因となります。

補足

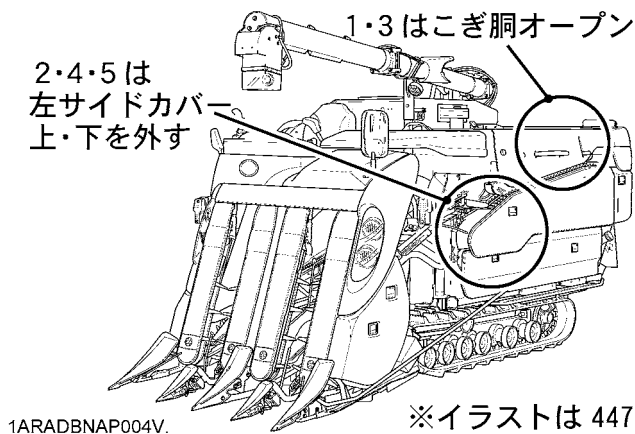
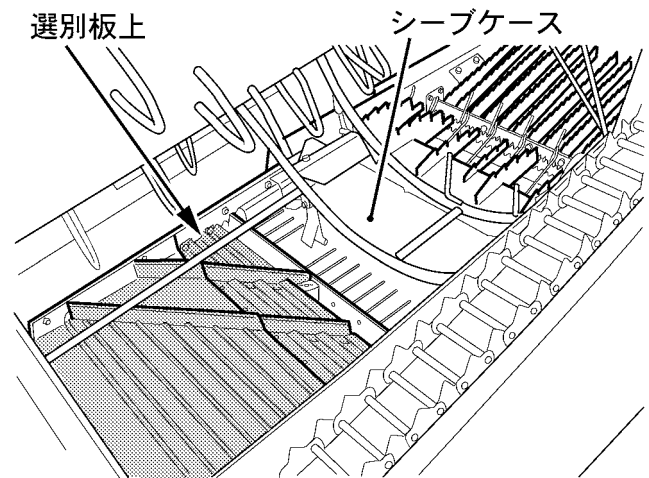
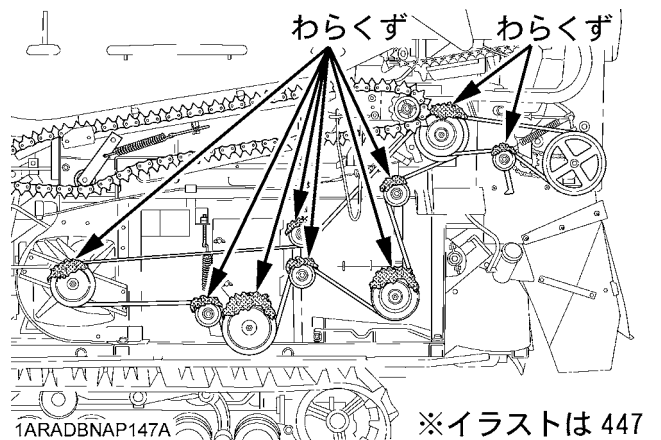
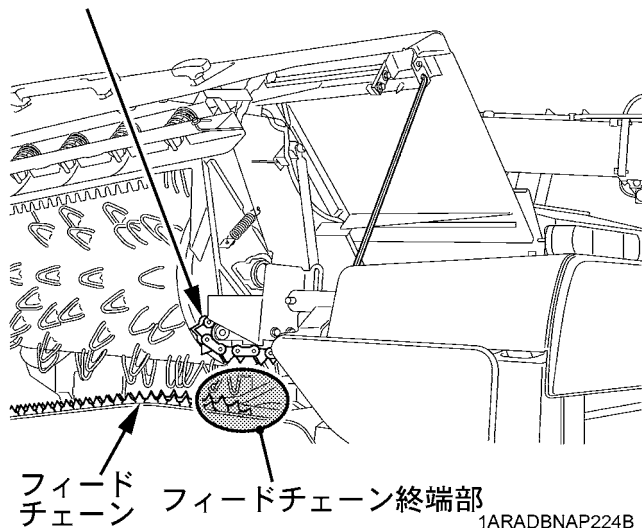
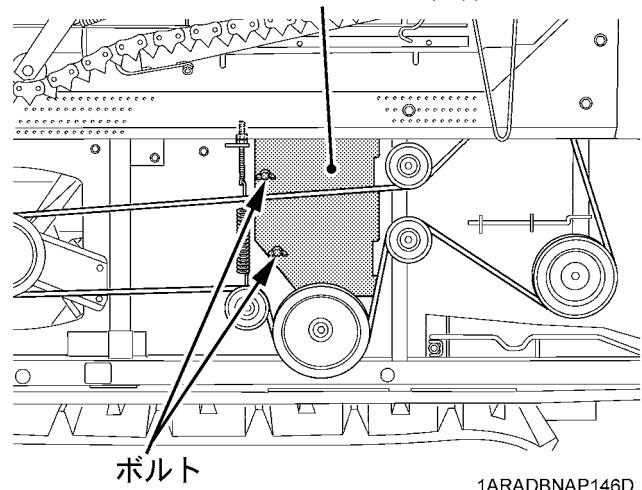
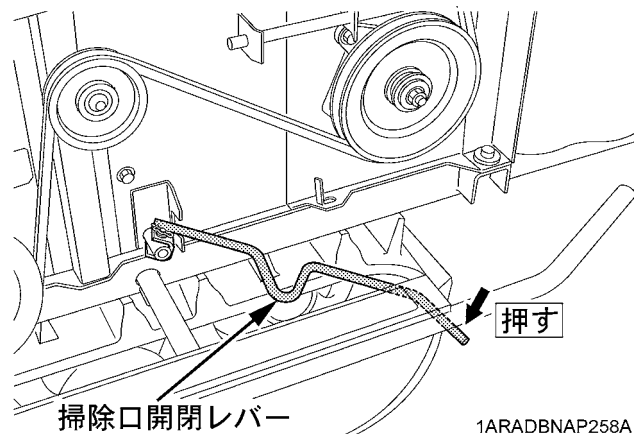
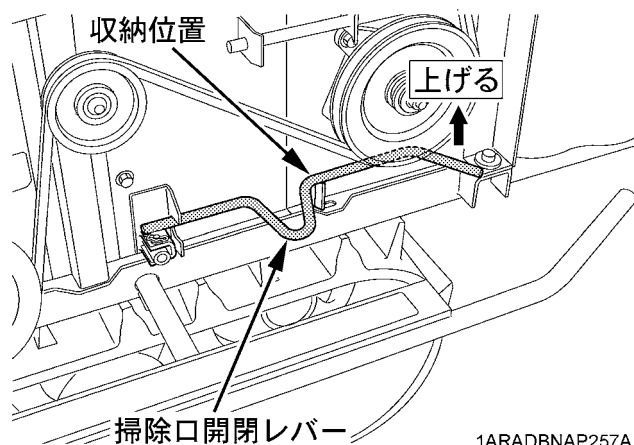
＊ 掃除したあと，もみが掃除口の中に残っていないことを確かめてから各カバーを閉じる又は，各カバーを取付けてください。
＊ 脱こく機の中をよく乾燥させてから掃除を行なってください。脱こく機の中が濡れているともみが脱こく機の中に付着します。
＊ 湿田で作業したあとは，クローラ及び周辺の泥を必ず取除いてください。

■各部の掃除

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

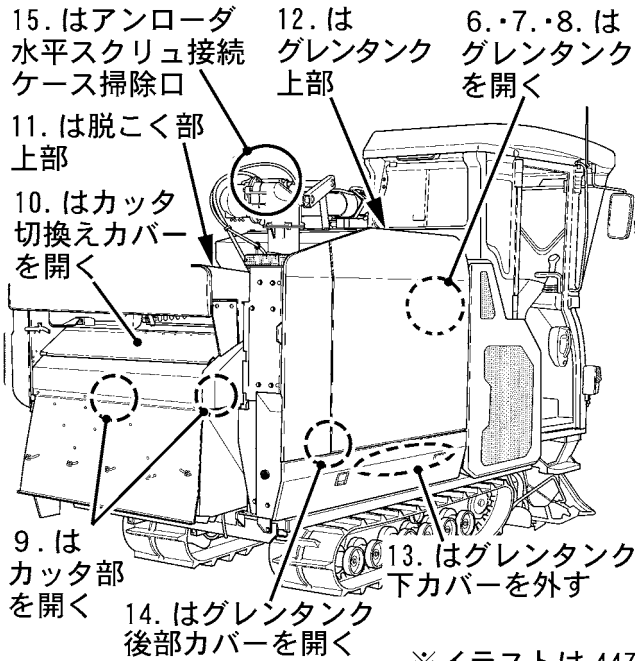
◆ 掃除のしかた

刈取り作業が終わり，もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，いったん機体各部を収納状態（100 ページ参照）にし，**［DX 仕様］**脱こく・刈取クラッチレバー，**［HD・SD 仕様］**は作業レバーを**［切］**位置にしてエンジンを止めます。
掃除をするときには，各部の開閉部を開き，掃除口カバーを取外してください。

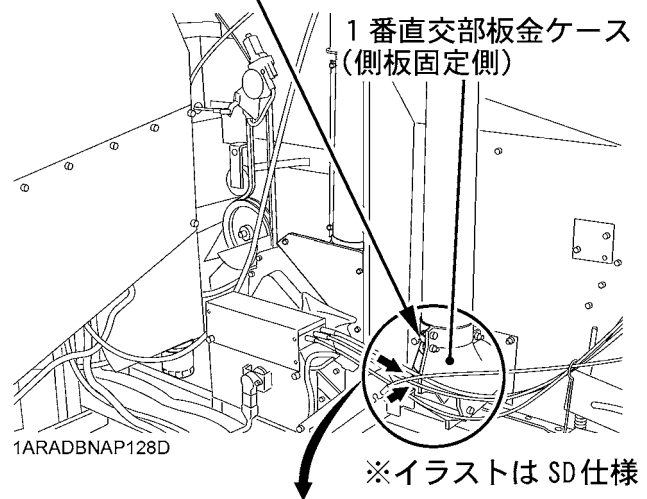
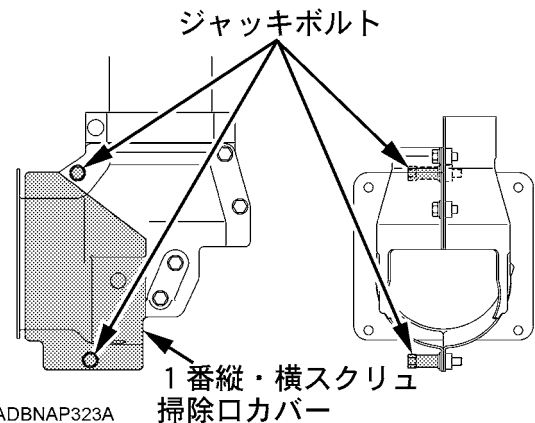
◆掃除箇所

1. 脱こく部内（シーブケース内選別板上）
受あみ（上，下）を取外して掃除してください。掃除後は，受あみ（上，下）を取付け，こぎ胴を閉じてください。（176 ページ参照）

2. ベルトカバー内
左サイドカバー上及び下とカッタ左サイドカバーを外したあと，左サイドカバーの内側カバー２箇所を取外して掃除してください。掃除後は，各カバーを取付けてください。（179 ページ参照）

3. フィードチェーン終端部・排わら搬送部
自動エンジン停止装置がはたらいたとき**［わら詰まりのとき］**に掃除してください。掃除後は，こぎ胴を閉じてください。

4. 1番スクリュ上部左掃除口
ボルトを外し，1番スクリュ上部左掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。

5. 1・2番横スクリュ下部掃除口
掃除口開閉レバーを収納位置から上げて，1・2番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。開くときは，開閉レバーを下側に押します。掃除後は，掃除口開閉レバーを収納位置に収納して各カバーを取付けてください。

重　要

＊ 掃除口開閉レバーを使用しないときは，収納状態にしておいてください。走行中に掃除口開閉カバーが開いて破損するおそれがあります。

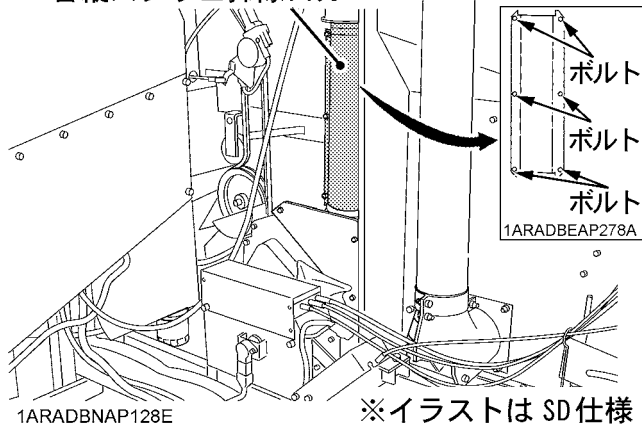
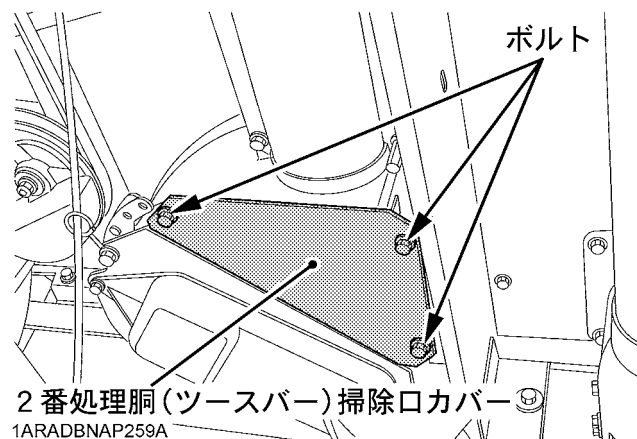
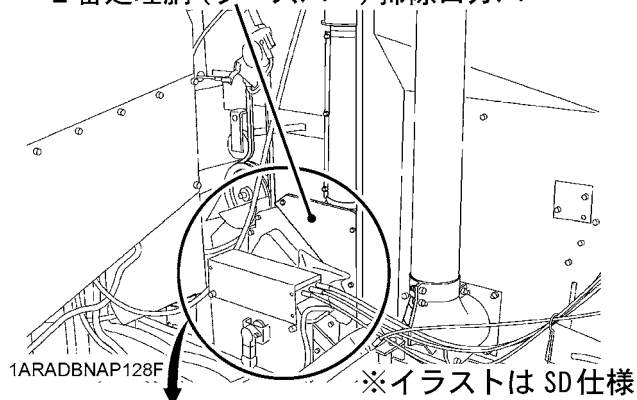
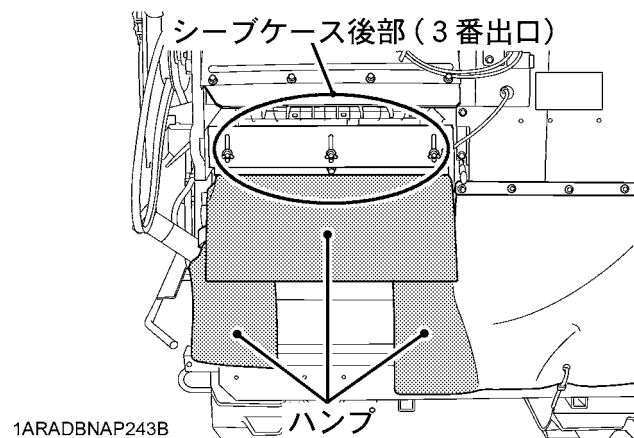
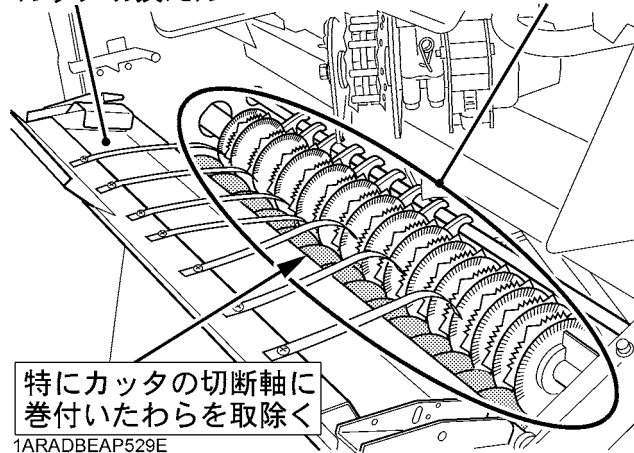
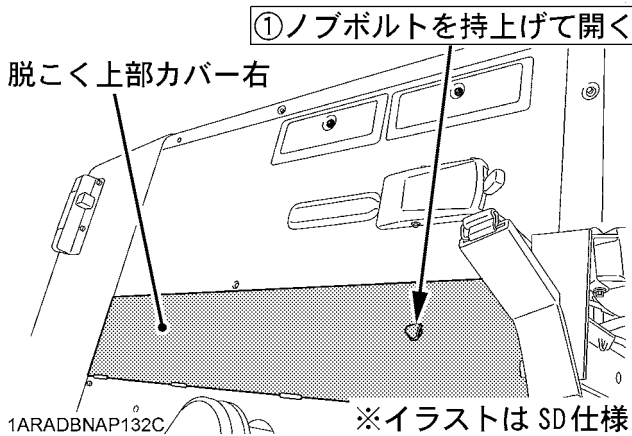
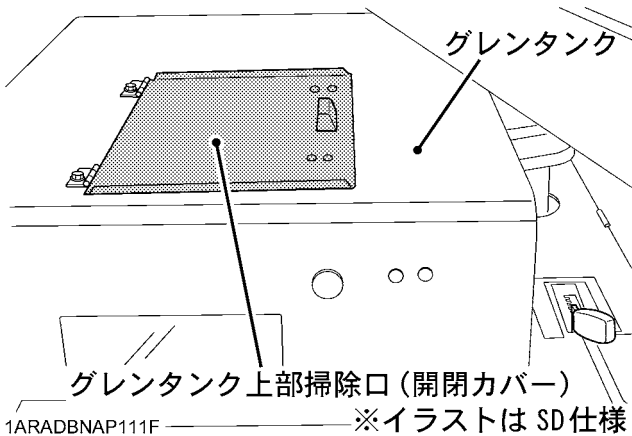
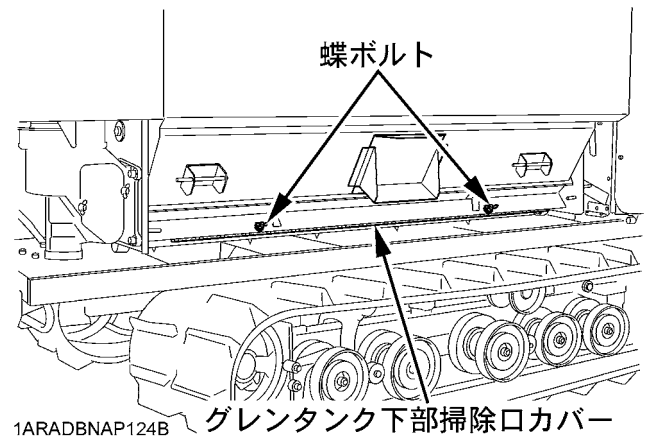
補　足

＊ クローラに付着している泥は取除いてください。掃除口開閉カバーに接触し，開閉しなくなります。

6. 1・2番スクリュ掃除口

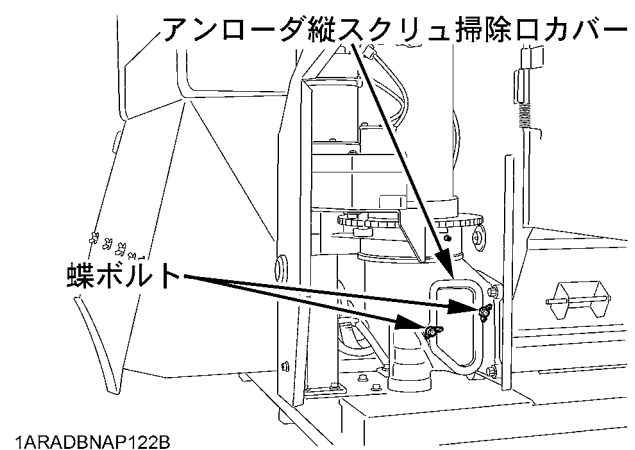
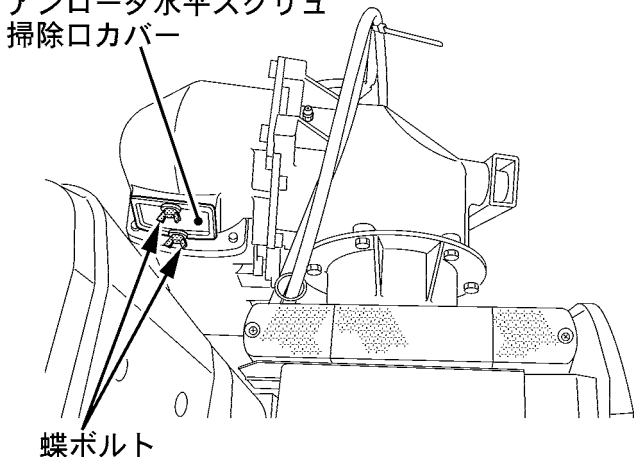
● 1番縦・横スクリュ掃除口

ジャッキボルトを外して，1番縦・横スクリュ掃除口の掃除口カバーを取外して掃除します。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンクを閉じてください。

補　足

＊ 掃除口カバーを取付けるときは，ジャッキボルトで確実に取付けてください。1 番直交部板金ケースと掃除口カバーの間にすき間があるともみ漏れの原因になります。

7. 2番縦スクリュケース掃除口
ボルトを外して2番縦スクリュケースの掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンクを閉じてください。

8. 2番処理胴（ツースバー）掃除口
ボルトを取外したあと，掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンクを閉じてください。

9. シーブケース後部（3番出口）
カッタ部を開いたあと，各ハンプを開いて掃除してください。掃除後は，カッタ部を閉じてください。

10. カッタ部内
カッタ切換えカバーを開いて掃除してください。掃除するときは，特にカッタの切断軸に巻付いたわらは全て取除いてください。掃除後は，カッタ切換えカバーを閉じてください。

11. こぎ室内
脱こく上部カバー右のノブを持上げて開閉カバーを開き，脱こく上部カバー左のハンドルを持上げて開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は，左，右の上部カバーを閉じたあと，グレンタンクを閉じてください。

12. グレンタンク内
掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は，開閉カバーを閉じてください。

13. グレンタンク下部掃除口
蝶ボルトを外し，掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンク下カバーを取付けてください。

重　要

＊ タンク下部掃除口を開いた状態で，グレンタンクの開閉をしないでください。掃除口カバーが変形するおそれがあります。

14. アンローダ縦スクリュ掃除口
蝶ボルトを外して掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンク後部カバーを閉じてください。

15. アンローダ水平スクリュ掃除口
蝶ボルトを外して掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。

◆掃除後の処置と確認
掃除終了後は，取外したり，開いた掃除口カバーや安全カバーは必ず閉じる又は，取付けてください。

■各部の注油

* 回転物や可動部に手や腕など体を近付けないでください。巻込まれてケガをするおそれがあります。特に機械が動いているとき，油差しを使っての注油作業を行なうときは，エンジン回転数を落としてじゅうぶん注意してください。
* 木片などで車止めをし，暴走を防いでください。
* そで口はきっちり止めて，手袋，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。
* 傾斜地では副変速レバーを絶対に［N］（中立）位置にしないでください。ブレーキがはたらかないため，暴走するおそれがあります。
* 刈取部，引起し部などの各部を開いて作業を行なうときは，下記事項を遵守してください。
  - 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
  - 傾斜地では，各部の開閉は行なわないでください。
  - 刈取部，引起し部を開いたときは，閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
  - 各部を開いた状態で走行をしないでください。
  - 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
* 刈取部を開いた状態で作業するときは，枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。
* 刈取部の開閉を行なうときは，機体を最下降位置にしてください。
* 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

* エンジン始動時やクラッチレバーを操作するときは，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取り作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

◆自動集中注油装置による注油

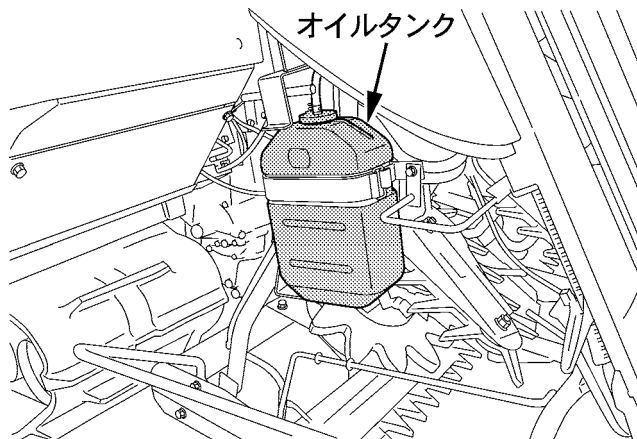
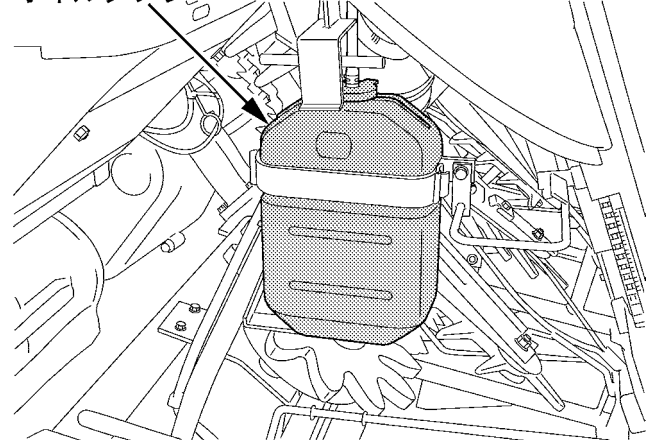
自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

補　足

* 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。
* 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。

● 注油のしかた

1. 平たんな場所に刈取部を地面から５～15cmの位置にしたあと，エンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー右を取外し，オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。

［329・335］

［329・335］

［438・447］

［438・447］

重　要

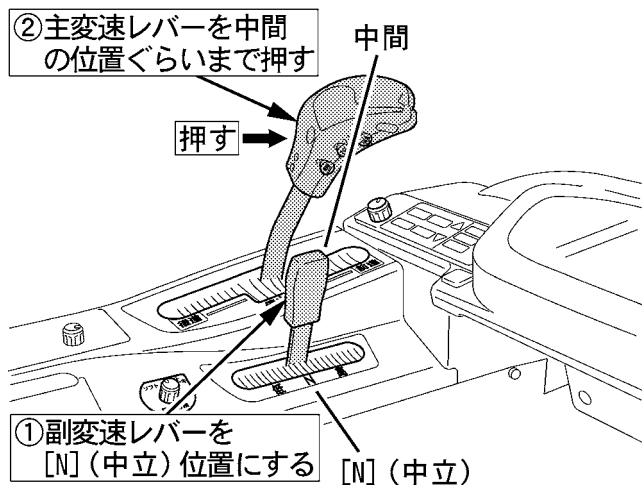
* 廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W-30	約 4L

3. エンジンを再始動したあと，エンジン回転数を中速回転（約 2000rpm）にし，**［DX 仕様］**は脱こく・刈取クラッチレバーを**［入］**位置，**［HD・SD 仕様］**は作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

補　足

* チェーンは中速回転で注油してください。その際，２番警報が出ますが，異常ではありません。
* 注油したときチェーンが停止していると，オイルが1箇所に集中するため，ベルトやカバーにオイルが付着したり，チェーンのスリップの原因となります。

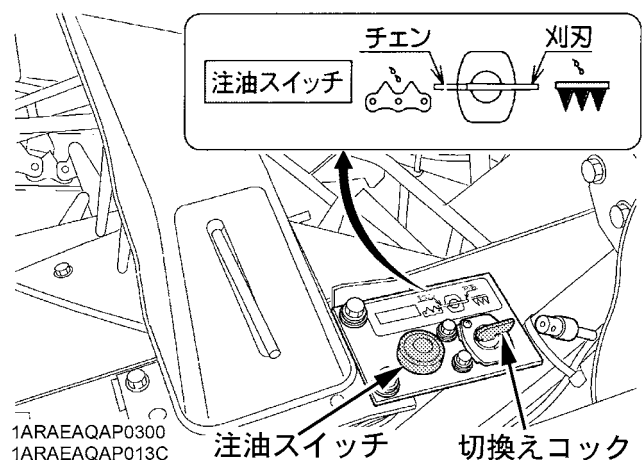
4. 副変速レバーを **[N]（中立）** 位置にしたあと，駐車ブレーキを解除して主変速レバーを前進側へ中間の位置ぐらいまで倒します。

1ARADBNAP007M ※イラストはSD仕様

5. 切換えコックの位置を確認（**チェーン**位置 / **刈刃**位置）して注油スイッチを押します。注油は切換えコックを切換えて各部チェーン・刈刃の両方共に行ないます。

- チェーン位置… 7 〜 10 秒間**連続**で押す。
- 刈刃位置……… 5 〜 7 秒間**断続**で押す。

1ARAEAQAP0300
1ARAEAQAP013C

重 要

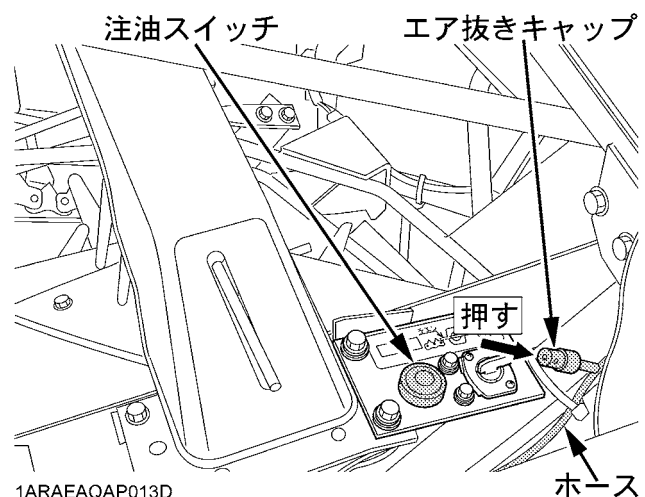
＊ オイルタンク内のオイルが空の状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。
＊ 万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り，注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は，エア抜きキャップを押し，エア抜きしてから作動してください。
＊ 必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。

6. エンジンを停止したあと，各部チェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

補 足

＊ 注油されていないときは，各注油ホースのノズルの掃除を行なってください。
＊ 最初の１回目は配管内部にオイルがゆきわたり，配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約 30 秒かかります。

7. 主変速レバーを **［停止］** 位置にします。

◆エア抜きの方法

図示のエア抜きキャップを押してから，注油スイッチを押して，油を送出してください。

1ARAEAQAP013D

1. 注油後２〜３分間そのままの状態で運転します。
2. 主変速レバーを **［停止］** 位置にし，エンジンを止めたあと，引起しサイドカバー右を取付けます。

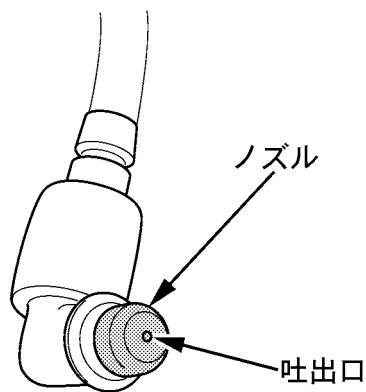
◆ 注油箇所・集中注油ノズルの掃除・グリース塗布

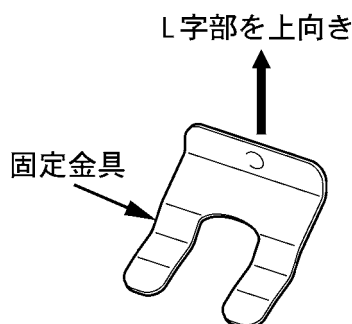
自動集中注油で注油が行なえる箇所以外の注油は，油差しで行なってください。

1. 自動集中注油箇所と掃除のしかた

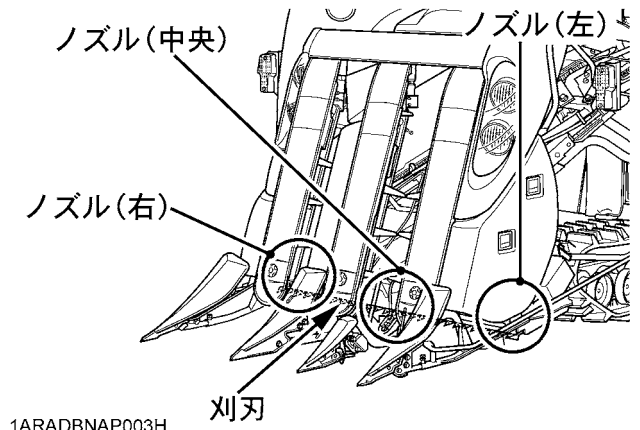
ノズルからオイルが出ていないときは，**エンジンを必ず止めて**，各ノズルの吐出口の掃除を行なってください。掃除を行なうときは，水洗い又は，圧縮空気などを使用してください。

補　足

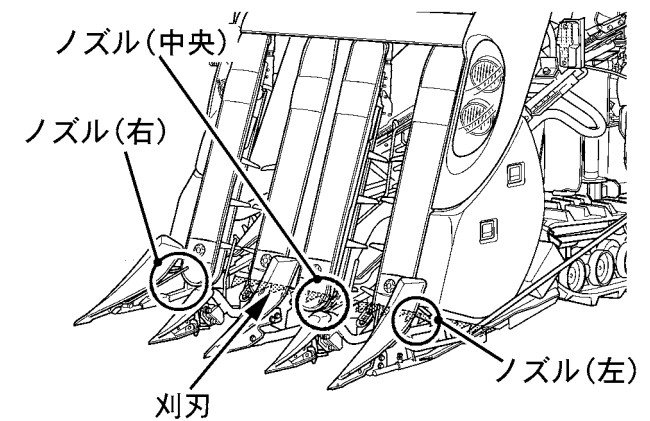
＊ ノズル先端部の吐出口の掃除を行なうときは，必ず針などを使用してください。つまようじなど折れやすい物を使用すると詰まりの原因となります。また，各ノズルの先端を固定している金具・ボルト・スナップピンなど各固定部品を取外すと掃除が容易に行なえます。

1ARADAFAP481A

＊ 固定金具を取付けるときは，必ず金具のＬ字部上側に向けて取付けてください。

1ARADBEAP288A

● 刈刃

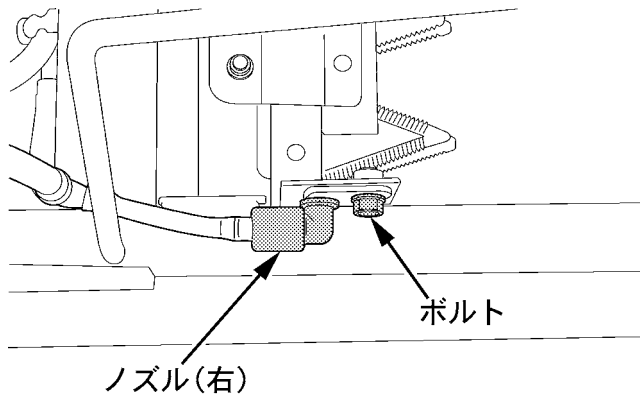
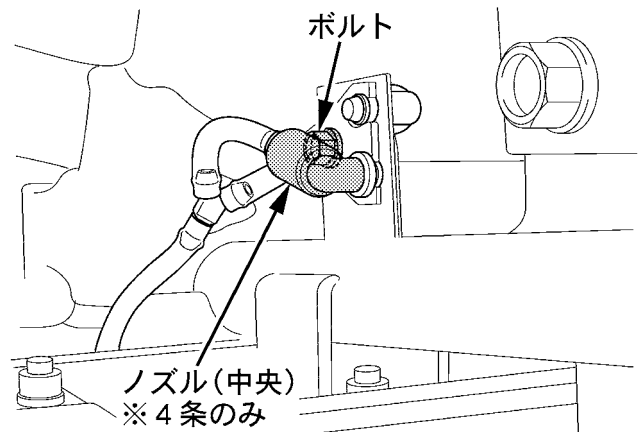
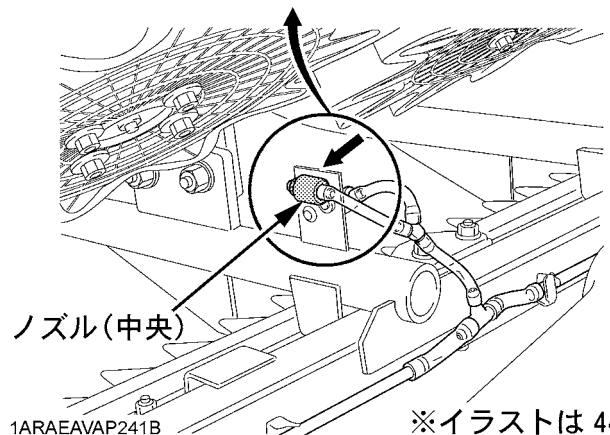
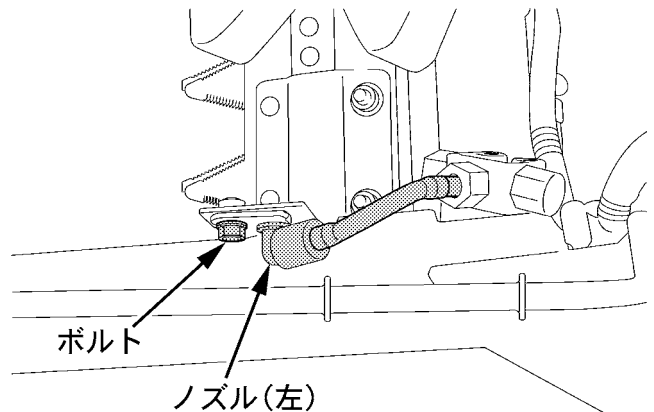
[329・335]

1ARADBNAP003H

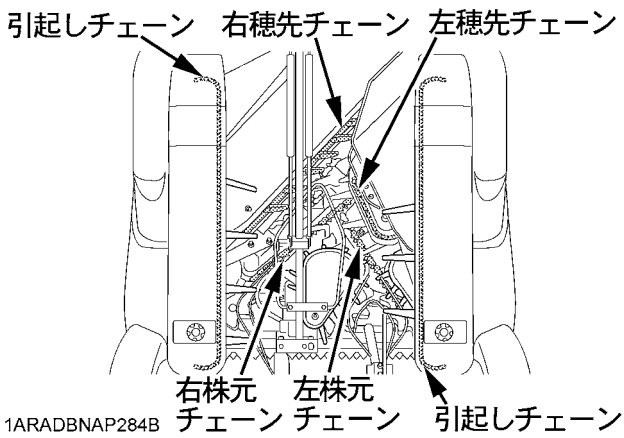
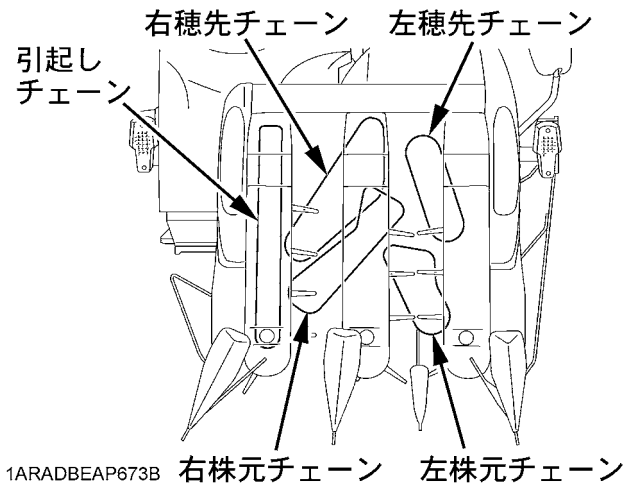
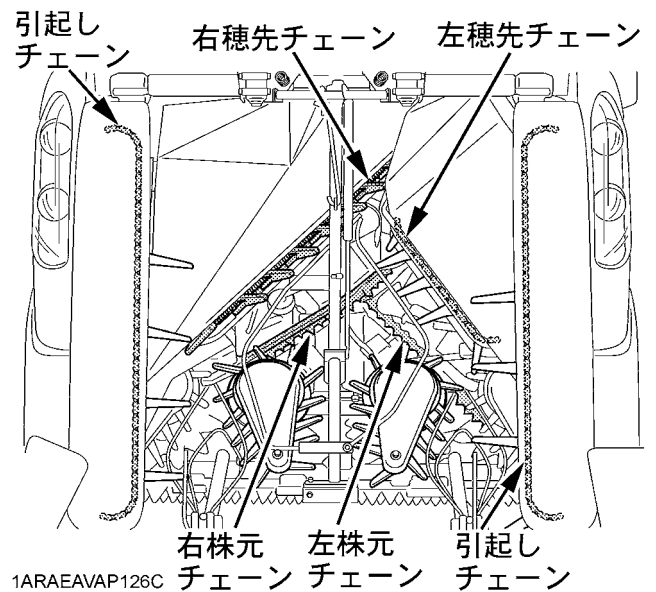
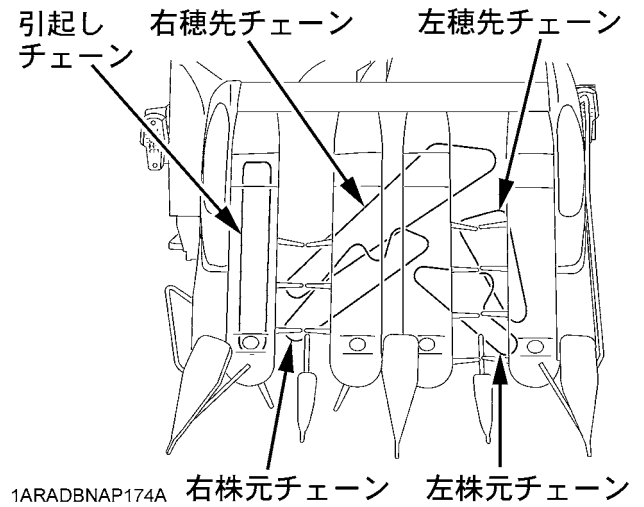
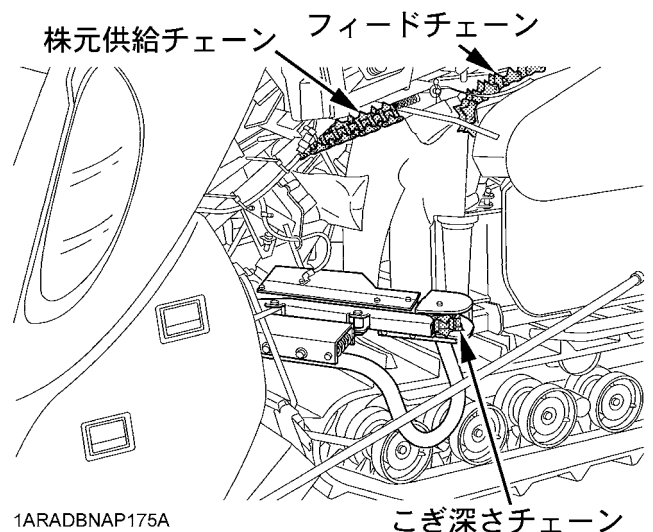
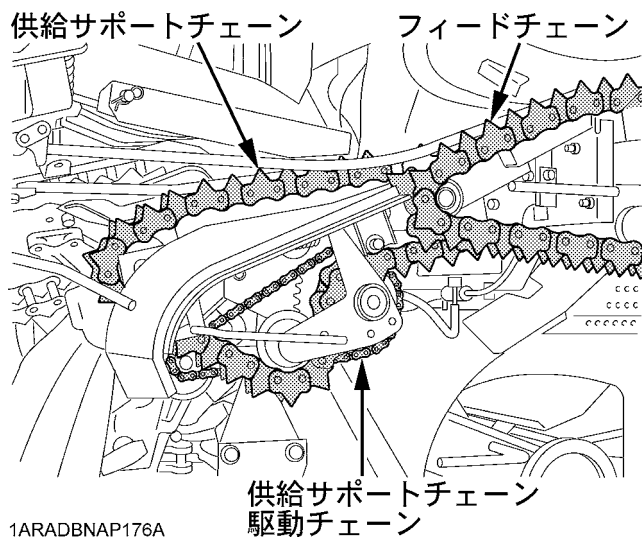
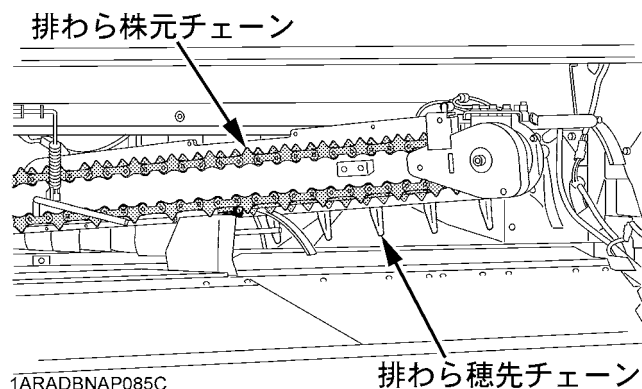
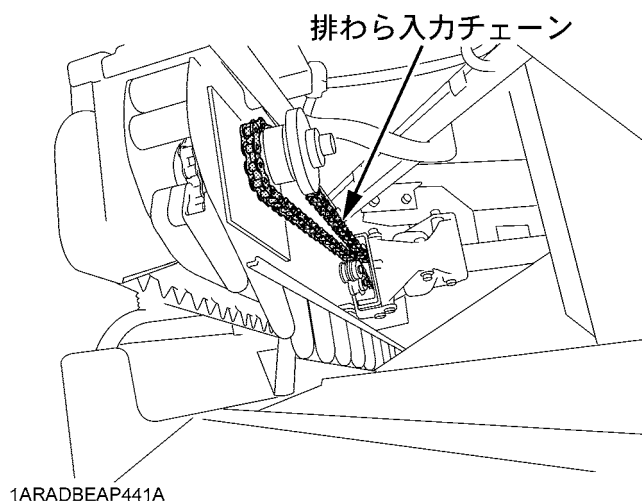
[329・335]

[438・447]

1ARADBNAP004O

[438・447]

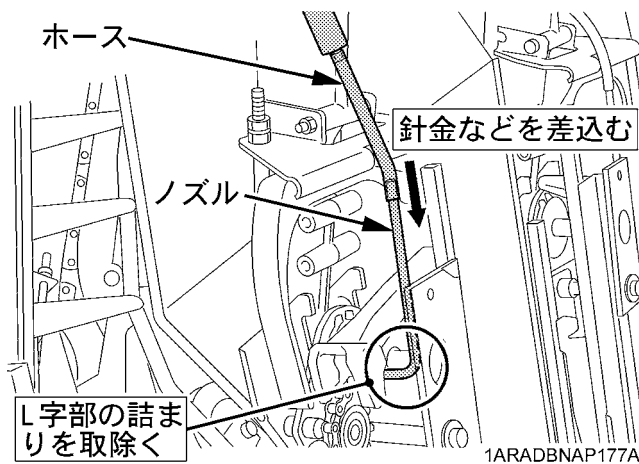
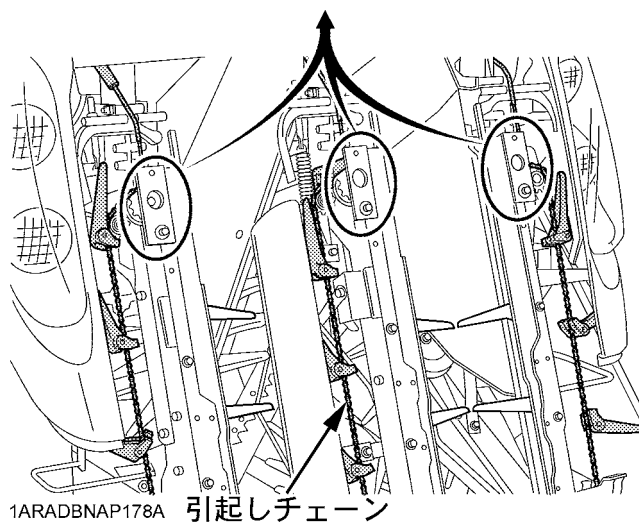
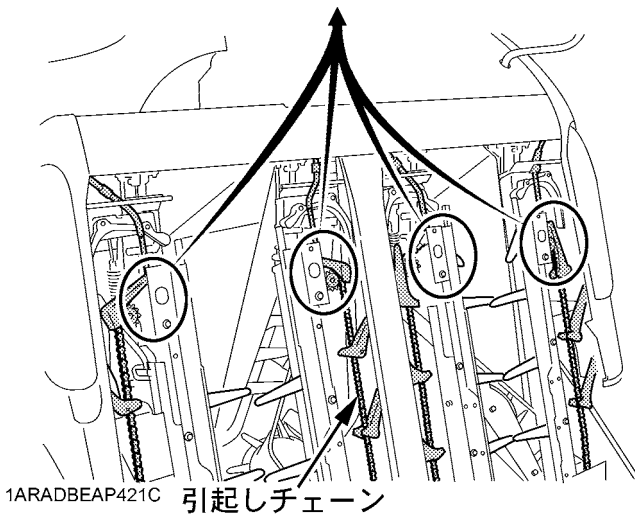
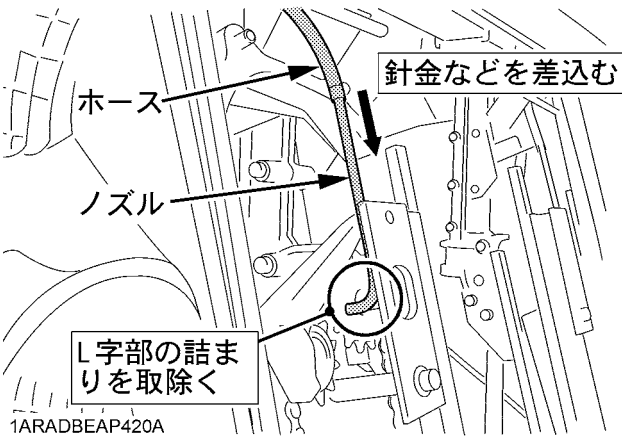
掃除箇所

刈取部を最上昇したあと刈取下降ロックをし，泥などの異物を取除いてください。また，引起しサイドカバー左右を取外したあと，ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，引起しサイドカバー左右を取付けてください。

- ●引起しチェーン　●右穂先チェーン
- ●右株元チェーン　●左穂先チェーン
- ●左株元チェーン　●株元供給チェーン
- ●供給サポートチェーン
- ●供給サポートチェーン駆動チェーン
- ●こぎ深さチェーン　●フィードチェーン
- ●排わら穂先チェーン　●排わら株元チェーン
- ●排わら入力チェーン

[329・335]

[329・335]

[438・447]

[438・447]

●引起しチェーン

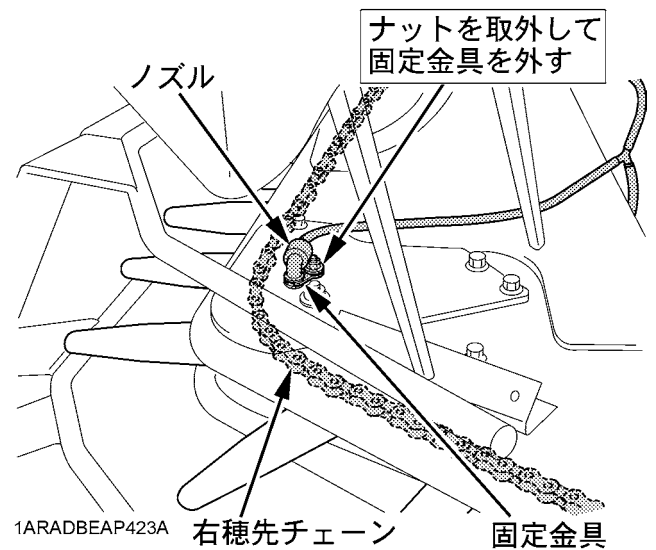
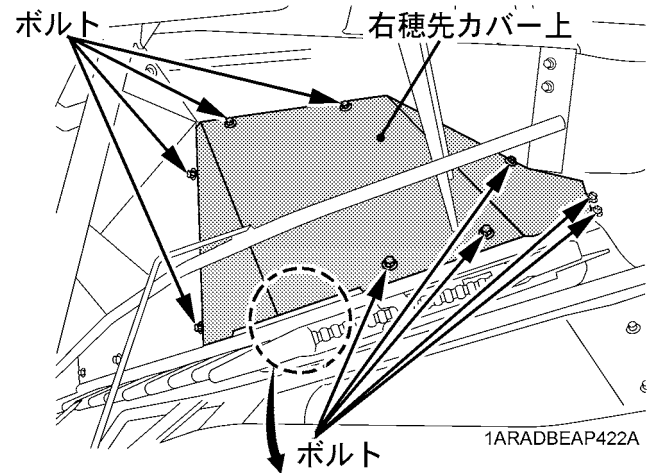
各引起しカバーを取外したあと，ホースをノズルから抜取り，針金などでL字部の詰まりを取除いてください。掃除後は，各引起しカバーを取付けてください。

[329・335]

[329・335]

[438・447]

[438・447]

●右穂先チェーン

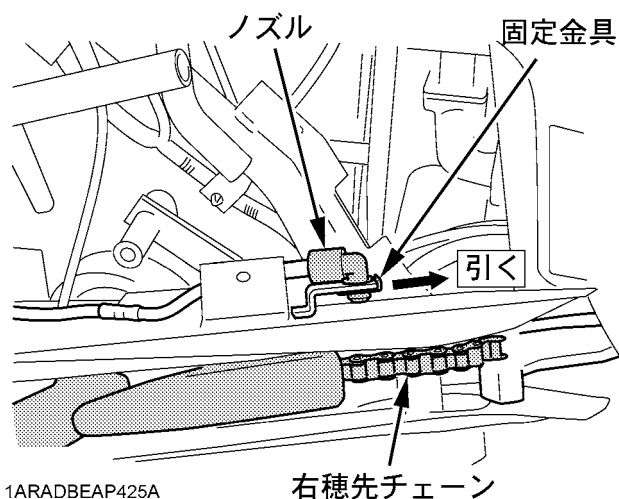
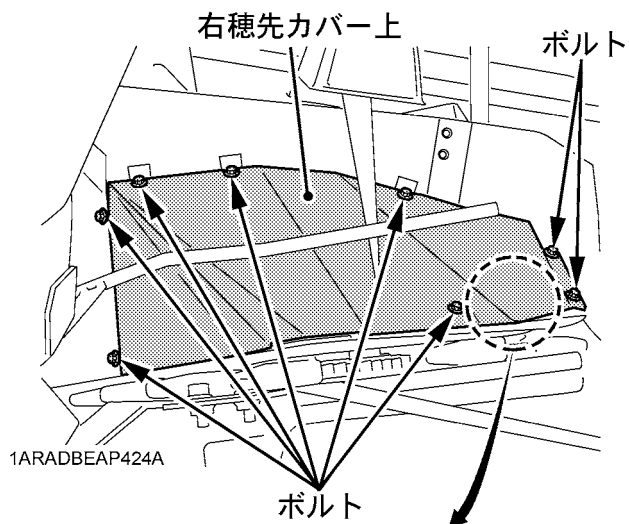
[329・335]

ボルトを外して右穂先カバー上を取外したあと，ナットを外して固定金具と共にノズルを取外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，右穂先カバー上を取付けてください。

[329・335]

[438・447]

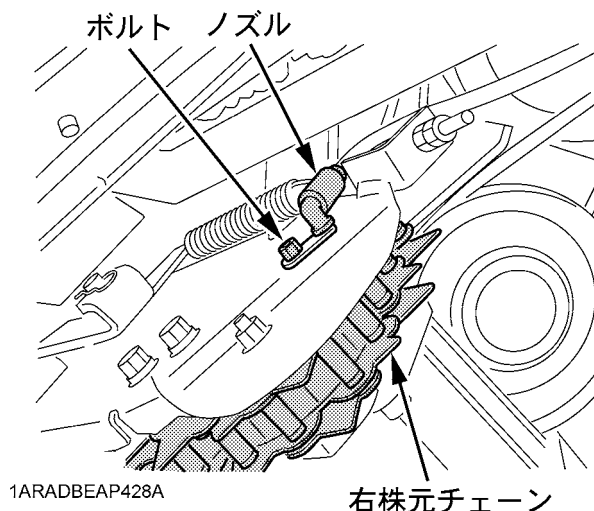
ボルトを外して右穂先カバー上を取外したあと，固定金具をノズルから取外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，右穂先カバー上を取付けてください。

1ARADBEAP424A

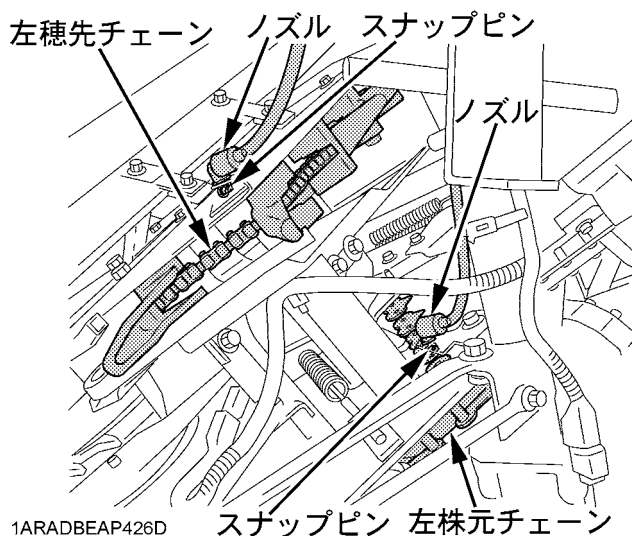
1ARADBEAP425A

[438・447]

●右株元チェーン

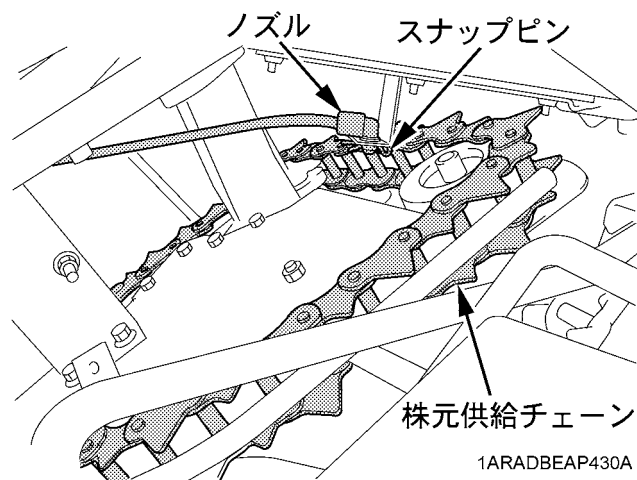
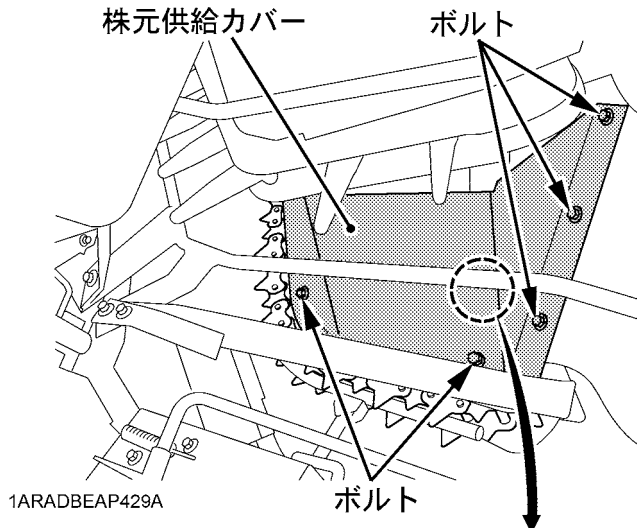
ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けてください。

1ARADBEAP428A

●左穂先チェーン・左株元チェーン

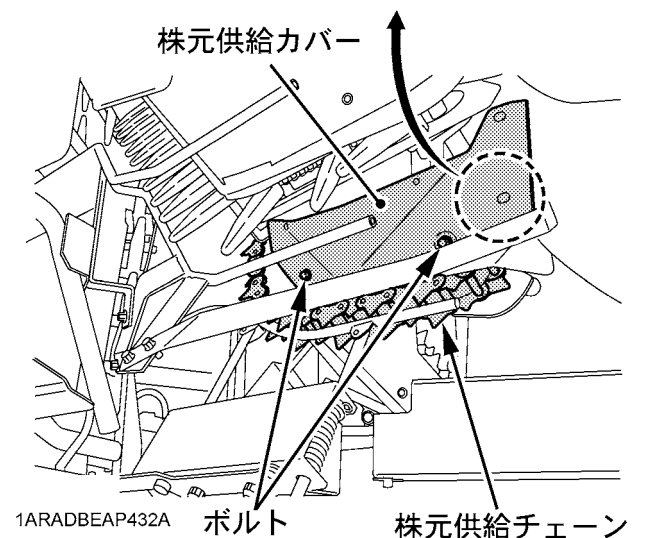
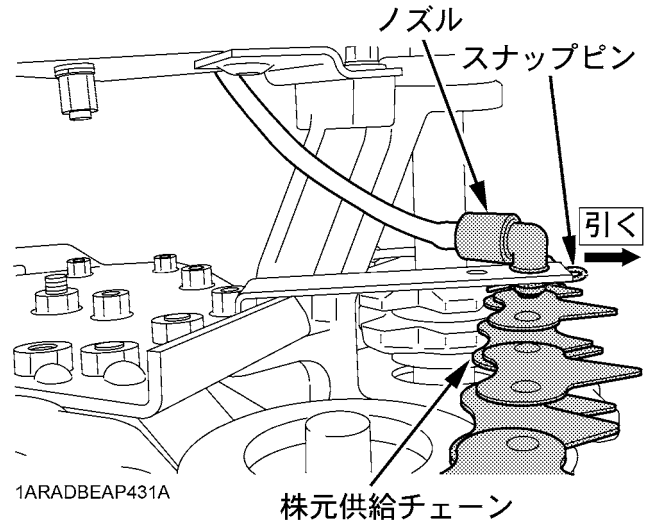
刈取左サイドカバーを取外したあと，スナップピンを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は，スナップピンを取付けたあと，ノズルを取付け刈取左サイドカバーを取付けてください。

1ARADBEAP426D

● **株元供給チェーン**

[329・335]

ボルトを外し，株元供給カバーを取外したあと，スナップピンをノズルから外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，株元供給カバーを取付けてください。

[329・335]

[438・447]

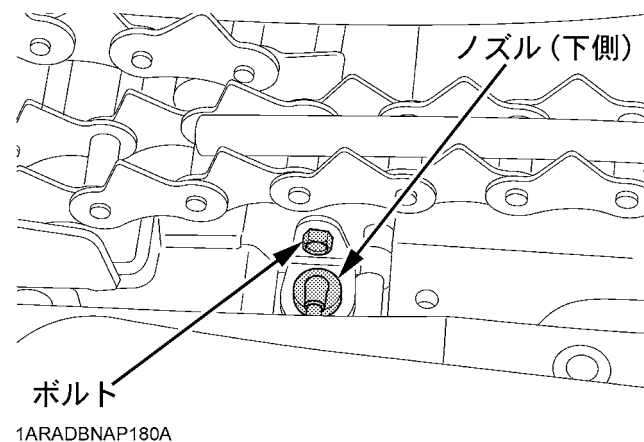
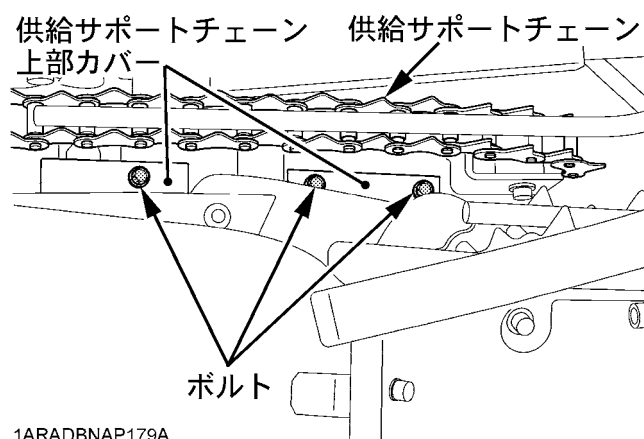
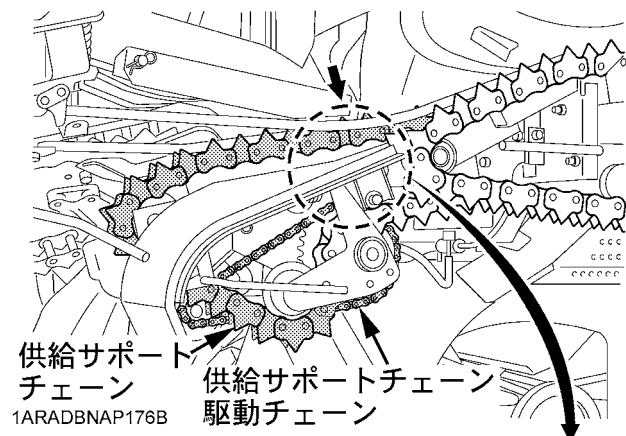
ボルトを外し，株元供給カバーを取外したあと，固定金具をノズルから外してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，株元供給カバーを取付けてください。

[438・447]

●供給サポートチェーン
●供給サポートチェーン駆動チェーン

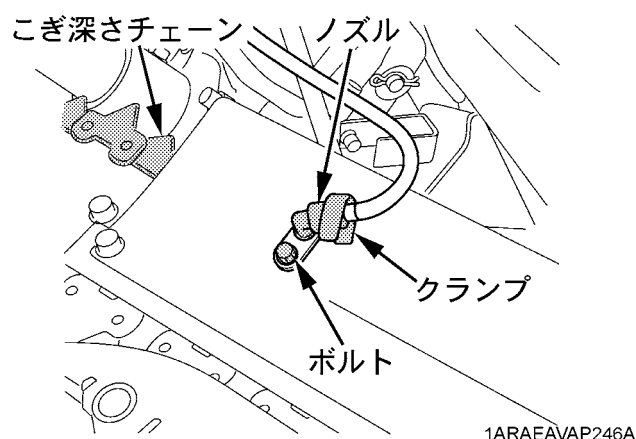
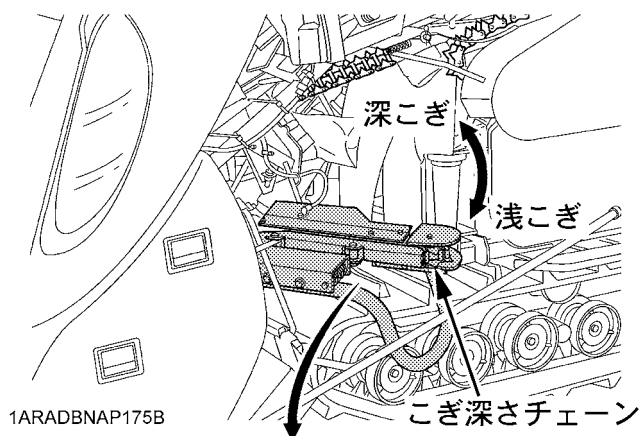
左サイドカバー上を取外し，ボルトを取外して供給サポートチェーン上部カバーを外したあと，ボルトを取外して，ノズルを外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，供給サポートチェーン上部カバー，左サイドカバー上を取付けてください。

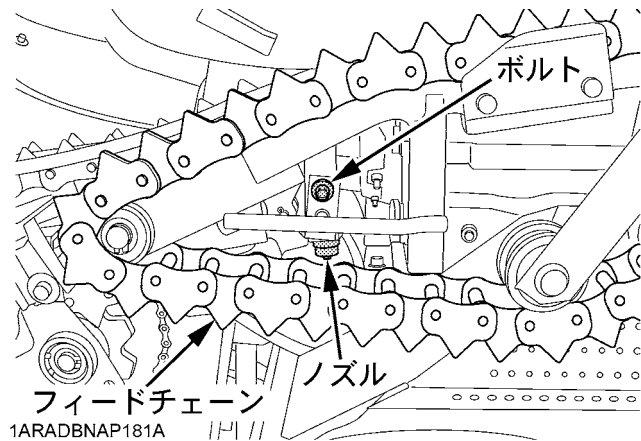
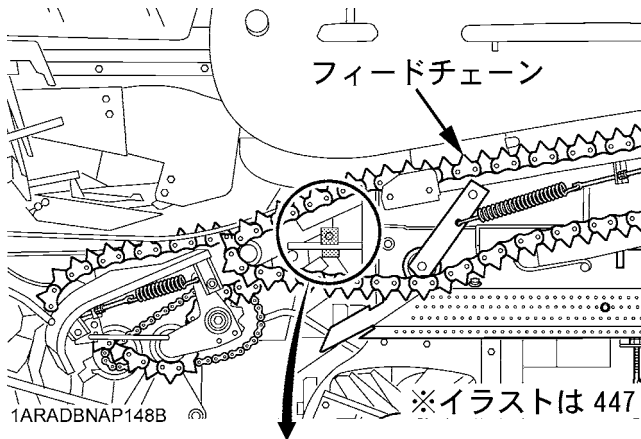
1ARADBNAP176B

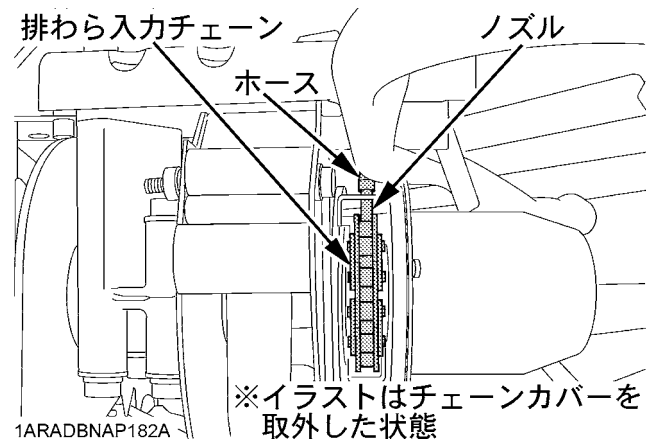
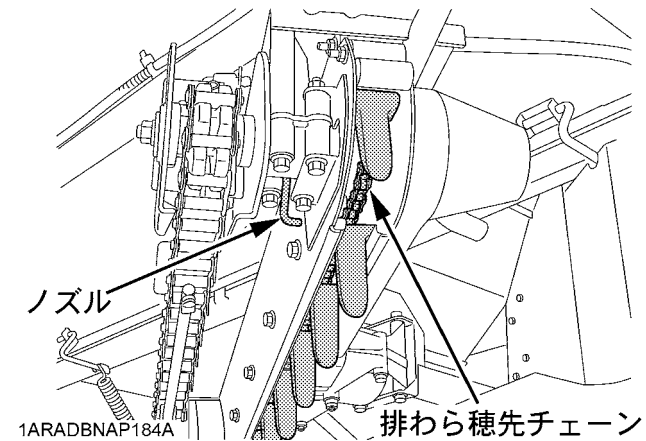
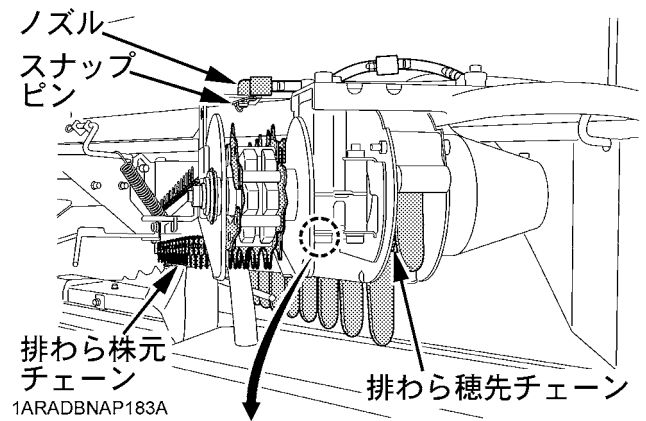
1ARADBNAP179A

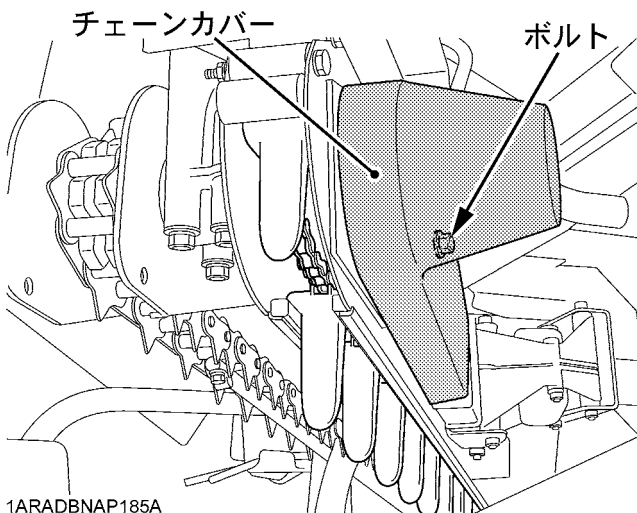
1ARADBNAP180A

●こぎ深さチェーン

こぎ深さチェーンを**浅こぎ**位置にしたあと，クランプを外し，ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，クランプをしてください。

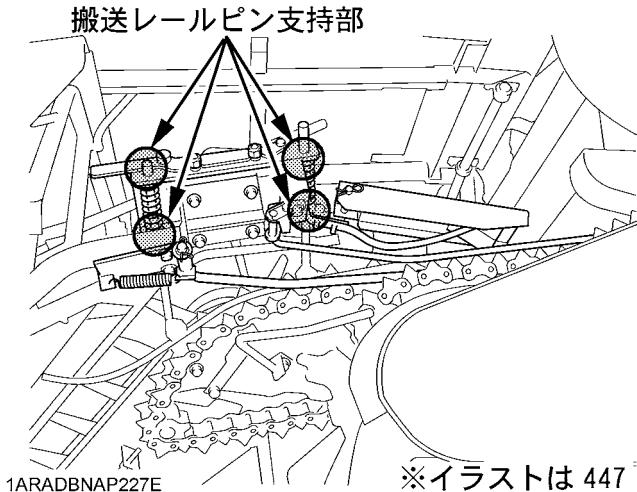
1ARADBNAP175B
1ARAEAVAP246A

●フィードチェーン

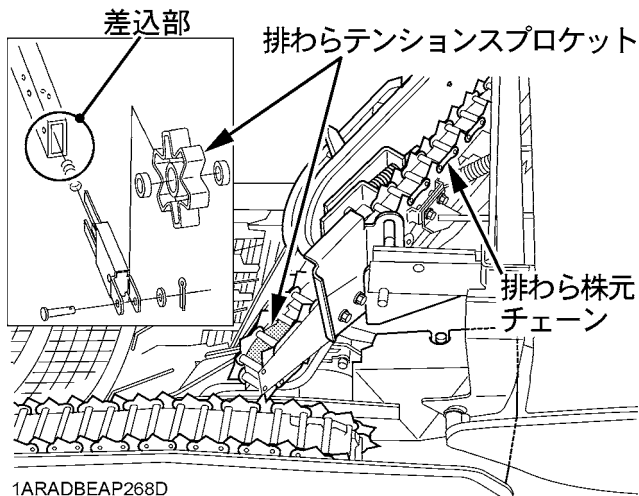
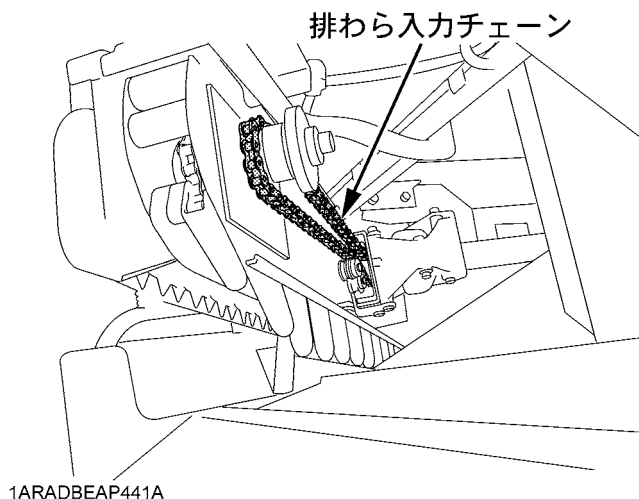
左サイドカバー上を取外したあと，ボルトを取外してノズルを外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，左サイドカバー上を取付けてください。

●排わら穂先チェーン　●排わら株元チェーン
●排わら入力チェーン

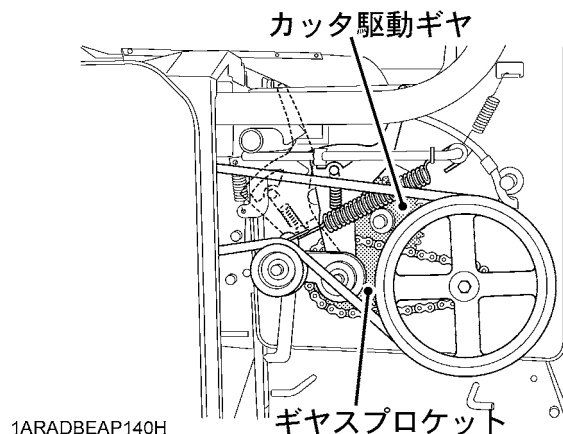
排わら株元チェーンは上部カバーを上げて，カバーステーで下降防止を行なったあと，スナップピンを外して掃除してください。掃除後は，上部カバーを閉じてください。

補　足

＊ 排わら穂先チェーン・排わら入力チェーンのノズルの掃除は不要です。
＊ ボルトを外してチェーンカバーを取外すと，排わら入力チェーンがあります。

2. 手差し注油

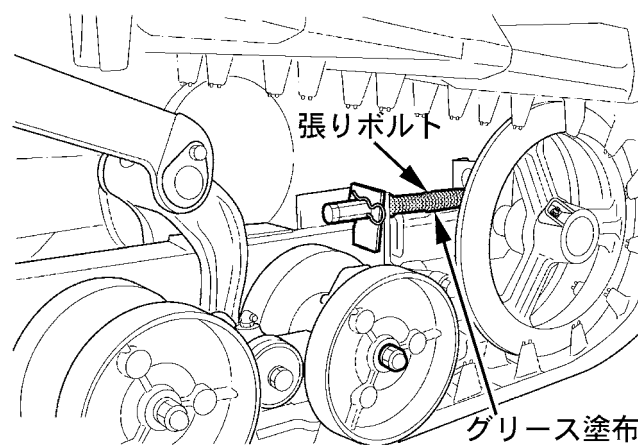
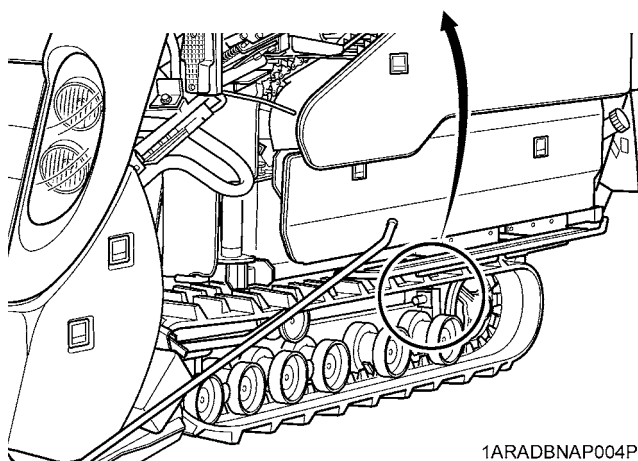
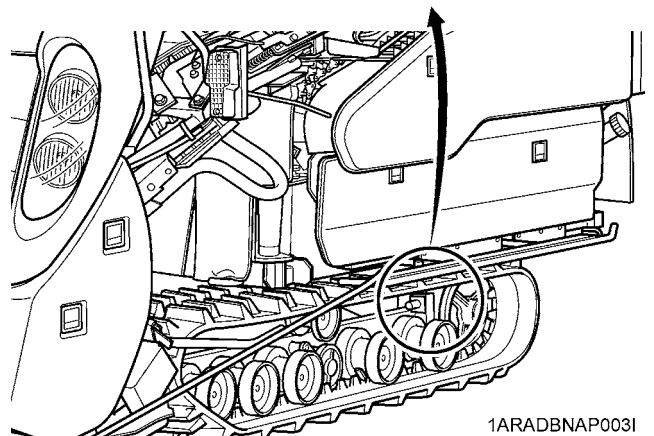
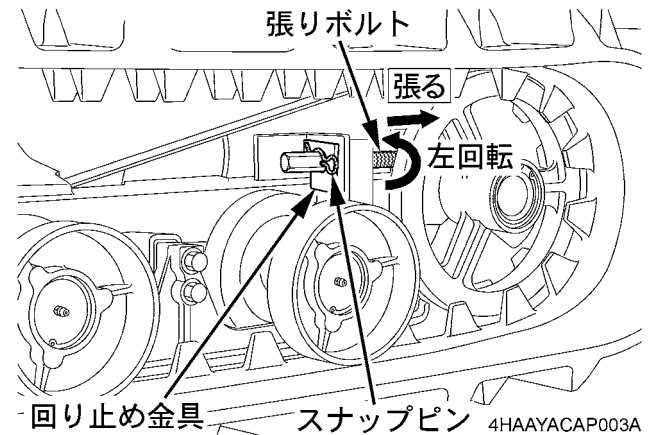
下記箇所は油差しを使用して行なってください。

●搬送レールピン支持部

●排わら株元チェーンテンション部

排わらテンションブラケットの差込部（角パイプのしゅう動部）に注油してください。

●排わら入力チェーン

●カッタ駆動ギヤ・ギヤスプロケット

カッタ左サイドカバー後を取外して，注油してください。注油後は，カッタ左サイドカバー後を取付けてください。

3. **グリース塗布**
グリースを塗布してください。

●クローラ張りボルト（左，右）

［M 仕様］

［M 仕様除く］

［M 仕様除く］

定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。
コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮されるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警 告

＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

**＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降ろしてください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。**
＊ エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 機械は平たんで，周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補 足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早目の点検をお願いします。

■オイル，フィルタ類の交換とチェーン，ベルト，クローラの張り調整

1. 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。チェーンやベルト類は初期 50 時間，クローラは初期 20，及び50時間で張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■廃棄物の処理について

**廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながります。
廃棄物を処理するときは**
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

■洗車時の注意

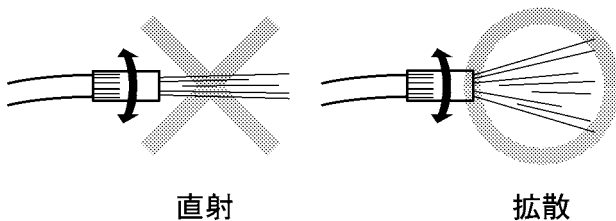
高圧洗車機の使用方法を誤まると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

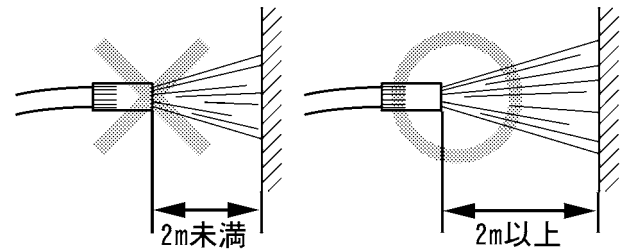
注　意

洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. **電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。**
2. **油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**

重　要

＊ 洗車のしかたが不適切な場合，以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。
［例］
(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内，キャビン室内等への浸入による故障
(3) クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁

1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは，購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- 結束部の結節部完備
- エンジン本体
- トランスミッション
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統（HST 含む）
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

重　要

＊ 分解・調整・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

■定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆エンジン部				
ファン駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	253 ☆
	交換	250時間ごと		
逆流ファン切換えワイヤ	交換	500時間ごと	438・447	☆
エアクリーナエレメント	掃除	50時間ごと	全型式	227
	交換	300時間ごと（点検・掃除が6回目のときに交換）		
インレットパイプ（エアクリーナ）	締付け	150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	229
	交換	300時間又は，2年ごとの早いほうで交換		
インレットパイプ（ターボ）	締付け	150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	447	229
	交換	300時間又は，2年ごとの早いほうで交換		
燃料フィルタエレメント	掃除	100時間ごと	全型式	234
	交換	400時間ごと		
燃料フィルタカートリッジ	交換	400時間ごと	全型式	234
エンジンオイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50時間後，それ以降200時間ごと（エンジンオイルの交換が2回目のとき，同時交換）	全型式	236
燃料パイプ	締付け	150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	229 ☆
	交換	300時間又は，2年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ	掃除	100時間ごと	全型式	215
オイルドレーンゴムホース	締付け	150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	☆
	交換	300時間又は，2年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース	締付け	150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	229 ☆
	交換	300時間又は，2年ごとの早いほうで交換		
排水ホース	締付け	150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	229 ☆
	交換	300時間又は，2年ごとの早いほうで交換		
オイルクーラホース	締付け	150時間又は，6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	229 ☆
	交換	300時間又は，2年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィン	掃除	50時間ごと	全型式	232
コンデンサフィン	掃除	50時間ごと	Q仕様	232
◆走行・操作部				
ミッション駆動ベルト	調整	初回又は,交換後:20時間後,それ以降100時間ごと	全型式	253 ☆
	交換	300時間ごと		
駐車ブレーキワイヤ	調整	初回又は,交換後:50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	239 ☆
	交換	300時間ごと		
ブレーキシュー	交換	500時間又は，2年ごとの早いほうで交換	全型式	☆
主変速レバー連結ロッドのリンクボール	交換	500時間ごと	全型式	☆
HSTオイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50時間後，それ以降300時間ごと	全型式	237

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
油圧サクションオイルタンクフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 300 時間後	全型式	237
クローラ	調整	初回又は，交換後：20，及び 50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	302 ☆
	交換	500 時間ごと		
反射器・車幅灯ラベル	交換	破損しているとき	全型式	☆
反射ラベル	交換	破損しているとき	Q 仕様	☆
ドライブスプロケット，可動ローラ	交換	300 時間ごと	全型式	☆
トラックローラ（固定転輪，揺動転輪）	点検	100 時間ごと	全型式	☆
	交換	500 時間ごと又は，リブの厚さが 2 mm 以下のとき		
テンションローラ（後輪），キャリアローラ，クローラガイド（前，後）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
ブッシュ（モンローリンク，揺動転輪軸部）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
シール（車軸，トラックローラ，テンションローラ，キャリアローラ）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
ベアリング（トラックローラ，テンションローラ，キャリアローラ）	交換	500 時間ごと	全型式	☆
◆刈取部				
刈取駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	254 ☆
	交換	300 時間ごと		
補助搬送（突起付）ベルト	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	256 ☆
	交換	500 時間ごと		
刈取クラッチワイヤ	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 50 時間ごと	HD・SD 仕様	242 ☆
	交換	500 時間ごと		
引起しチェーン	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	265 ☆
	交換	300 時間ごと		
引起し爪	交換	300 時間ごと	全型式	
引起しローラ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
引起しテンションスプロケット，引起しスプロケット，引起し駆動シャーピン	交換	500 時間ごと	全型式	☆
引起しフレーム，引起しカバー	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
引起しスライドレール，クッションゴム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
供給サポートチェーン	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	271 ☆
	交換	300 時間ごと		
供給サポートチェーン駆動チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	271 ☆
供給サポートチェーンの駆動シャーピン，ローラベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
供給サポートチェーンの駆動スプロケット	交換	300 時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
右穂先チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	267 ☆
右穂先爪	交換	300 時間ごと	全型式	
右株元チェーン	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	268 ☆
	交換	400 時間ごと		
右穂先チェーンのローラボールベアリング，アイドルスプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
右穂先カバー，右穂先フレーム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
左穂先フレーム（上，下）	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
左株元レール，供給フレームガイド，供給ガイド，株元押え	交換	800 時間ごと	全型式	☆
株元供給チェーン	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	270 ☆
	交換	400 時間ごと		
株元供給チェーンのローラボールベアリング，テンションローラボールベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
左穂先チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	267 ☆
左穂先爪	交換	300 時間ごと		
左株元チェーン	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	268 ☆
	交換	400 時間ごと		
左株元チェーンのローラボールベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
左穂先チェーンのローラボールベアリング，アイドルスプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
こぎ深さチェーン	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	271 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ深さテンションローラのボールベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
こぎ深さチェーン押え	交換	800 時間ごと	全型式	☆
刈刃	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	273 ☆
	交換	300 時間ごと		
刈刃クランクピン，ローラ，ベアリング，ベアリングホルダ，オイルシール	交換	300 時間ごと	全型式	☆
株元センサ	交換	800 時間ごと	全型式	☆
穂先センサ（株元側，穂先側）	交換	800 時間ごと	全型式	☆
パッカ	交換	800 時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆脱こく部				
脱こく駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	255 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ胴駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	258 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ胴駆動ケースベルト	点検	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	257 ☆
	交換	300 時間ごと		
脱こくクラッチワイヤ	調整	初回又は，交換後:20 時間後，それ以降 50 時間ごと	HD・SD 仕様	243 ☆
	交換	500 時間ごと		
フィードチェーンクラッチワイヤ	調整	初回又は，交換後:20 時間後，それ以降 50 時間ごと	SD 仕様	240 ☆
	交換	500 時間ごと		
１番・2 番・チェーン駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	259 ☆
	交換	300 時間ごと		
揺動・駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	☆
	交換	300 時間ごと		
フィードチェーン	調整	初回又は，交換後:50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	272 ☆
	交換	400 時間ごと		
排わら穂先チェーン	調整	初回又は，交換後:50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	272 ☆
	交換	300 時間ごと		
排わら穂先搬送爪	交換	300 時間ごと		☆
排わら株元チェーン	調整	初回又は，交換後:50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	272 ☆
	交換	300 時間ごと		
排わら入力チェーン	点検	初回又は，交換後:50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	272 ☆
	交換	300 時間ごと		
わら切刃（株元側）	交換	200 時間ごと	335・438・447	278
わら切刃（穂先側）	組換え	100 時間ごと	全型式	278 ☆
	交換	200 時間ごと		
こぎ歯	交換	300 時間ごと	全型式	276
受あみ１	交換	450 時間ごと	全型式	176
受あみ２	交換	400 時間ごと	全型式	
フロントハンプ	交換	400 時間ごと	全型式	☆
上唇板ハンプ	交換	250 時間ごと	438・447	☆
1 番縦スクリュ	交換	400 時間ごと	全型式	☆
1 番スクリュ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
1 番直交部板金ケース（側板固定側）	交換	400 時間ごと	全型式	☆
2 番縦スクリュ	交換	400 時間ごと	全型式	☆
2 番スクリュ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
2 番縦スクリュケース	交換	500 時間ごと	全型式	☆
2 番処理ケース	交換	400 時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
ツース（2番固定歯）	交換	300時間ごと	全型式	☆
ツース（2番回転歯）	交換	300時間ごと	全型式	☆
チャフ操作ワイヤ	調整	100時間ごと	SD仕様	☆
	交換	500時間ごと		
◆グレンタンク部				
タンク駆動ケース駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	260 ☆
	交換	300時間ごと		
もみ排出クラッチワイヤ	調整	初回又は，交換後:50時間後，それ以降100時間ごと	HD・SD仕様	247 ☆
	交換	500時間ごと		
スクリュ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	261 ☆
	交換	300時間ごと		
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	全型式	291
底スクリュ軸	交換	300時間ごと	全型式	☆
縦スクリュ軸	交換	300時間ごと	全型式	☆
◆カッタ部				
カッタ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後:20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	260 ☆
	交換	300時間ごと		
カッタ切換えカバーワイヤ	調整	初回又は，交換後:50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	244
	交換	500時間ごと		
カッタ刃（標準切断刃）	交換	150時間ごと	全型式	283
カッタ刃（セラミック切断刃）	交換	500時間ごと	329・335SD仕様，438・447全仕様	
供給軸と切断軸のナット	増締め	初回又は，交換後:50時間後，それ以降200時間ごと	全型式	281
◆キャビン				
コンプレッサ駆動ベルト	点検	作業シーズン前又は，後	Q仕様	257 ☆
	交換	２年ごと		
冷媒ガス	点検	作業シーズン前又は，後	Q仕様	290
内気・外気フィルタ	掃除	使用時間が30時間ごと	Q仕様	289
◆電装部				
バッテリ	充電	インジケータの色が黒色のとき	全型式	291
	交換	インジケータの色が透明のとき		
ワイヤハーネス，バッテリコード	点検	50時間ごと	全型式	291，297 ☆
	交換	破損しているとき		
ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	100時間ごと	全型式	297
	交換	破損しているとき		
ランプ（電球）	点検	100時間ごと	全型式	300
	交換	破損しているとき		
ホーンスイッチ	点検	100時間ごと	全型式	300 ☆
	交換	破損しているとき		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

■給･注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	処置			
燃料	燃料タンク	補給	作業前又は，作業後	—	・容量…………約 40	ディーゼル軽油	215
オイル	エンジン	補給・交換		・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …100 時間ごと	・容量 [329・335] ………………約 5.7 [438・447] ………………約 6.5 ＊規定量 オイルゲージの **下限**と**上限**の間	クボタ純オイル [329・335・438] ……… D10W-30 [447] ……… D10W-30 スーパー CD	216
	集中注油オイルタンク	補給		—	・容量…………約 4	クボタ純オイル D10W-30	192
	トランスミッションケース	補給・交換	100 時間ごと	・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …100 時間ごと	＊規定量 検油窓からオイルが見えるまで ………………約 10.0	クボタ純オイル スーパー UDT-2	218
	フィードチェーン駆動ケース	補給	—	分解時	・容量…………約 0.6	クボタ純オイル M80B 又は，M90	219
	こぎ胴駆動ケース				・容量…………約 0.15		220
	引起しチェーン	注油	作業前又は，作業後	—	適　量	クボタ純オイル D10W-30	192
	搬送レールピン支持部						
	供給チェーン（株元，穂先）						
	フィードチェーン						
	排わらチェーン（株元，穂先）						
	排わらチェーンテンション部（株元，穂先）						
	カッタ駆動ギヤ・ギヤスプロケット						

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	処置			
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水・交換	作業前又は，作業後	２年ごと又は，冬期停止時は排出	＊規定量 タンク側面の**L**（下限）と**F**（上限）の間 **L**(LOW)……0.15 **F**(FULL) …1.1	清水	225
グリース	**◆走行部**						
	固定転輪部 **[4M仕様除く]**	補給	作業シーズン終了後	—	適　量	クボタ純グリースNo.2	220
	揺動転輪部 **[M仕様]**						
	転輪部						
	スイングアーム部 **[M仕様]**						
	トラックフレーム部 **[M仕様]**						
	◆刈取部						
	刈取部各ケース	補給	分解時	—	適　量	クボタ純グリースNo.2	☆
	刈取軸受						
	◆脱こく部						
	排わらベベルケース	補給	分解時	—	適　量	クボタ純グリースNo.2	☆
	１番・ベベルケース						
	２番ベベルケース						
	２番チェーンケース						
	揺動ギヤケース						
	◆グレンタンク部						
	グレンタンク駆動ケース	補給	分解時	—	適　量	クボタ純グリースNo.2	☆
	アンローダケース1,2,3						220
	縦スクリュケース アンローダブラケット部		200時間ごと				
	縦スクリュケース 旋回モータベース部1,2						
	アンローダケース2						

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料，オイル，グリースの点検·補給·交換

> **注 意**
>
> **＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
> **＊ 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。**
> **＊ 燃料やオイルを補給又は，交換したあと，こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭取ってください。また，燃料もれや油もれがあるときは購入先に連絡してください。**

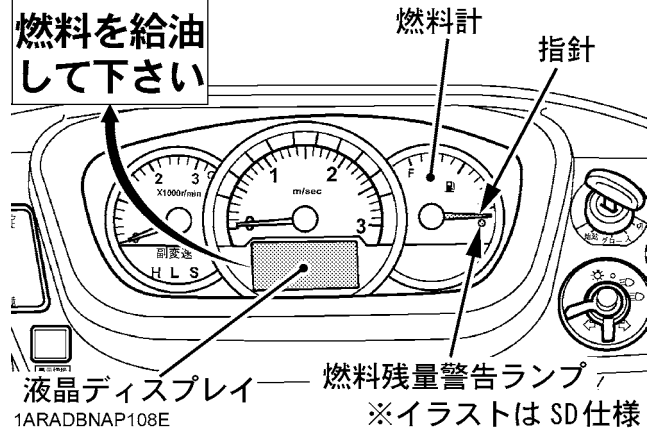
重 要

＊ 点検するときは，水平で平坦な場所にコンバインを移動して行なってください。コンバインが傾いていると正しいオイルの量が測定できません。

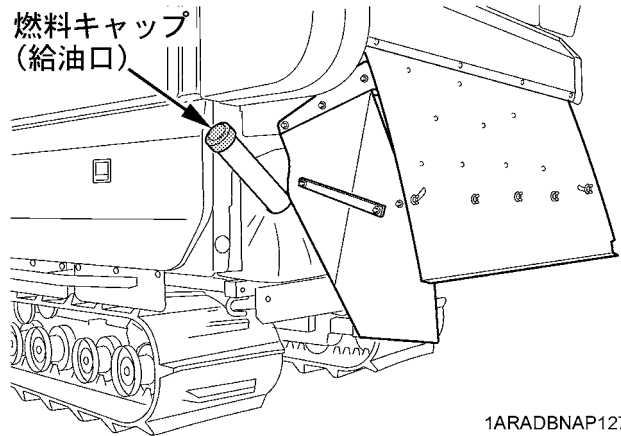
＊ コンバインの故障の原因となりますので下記事項を守ってください。

- 廃油は使用しないでください。
- オイルを補給するときは，現在使用しているオイルと同じメーカ・同じ品質（粘度など）のオイルを補給してください。また，異なるメーカ・異なる品質（粘度など）のオイルを使用するときは，オイルを全て排出してから新しいオイルと交換してください。
- 燃料やオイルを補給・交換するときは，ゴミや異物の混入を防ぐため，給油口付近を掃除してください。また，給油口からゴミなどの異物を入れないでください。
- オイルを補給するとき，規定量の上限以上にオイルを補給しないでください。
- 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル·クボタ純グリース**を使用してください。

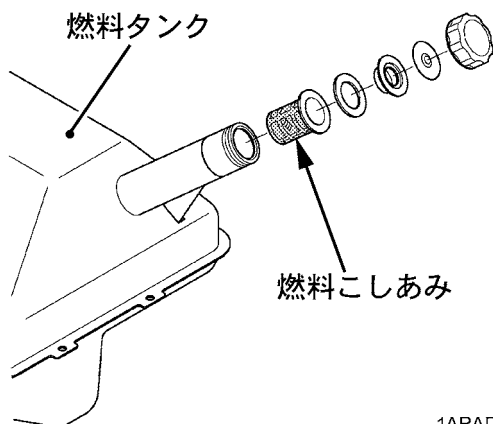
■燃料の補給

燃料計の指針が **[E]**（空）に近づくと，燃料残量警告ランプが点灯すると同時にマルチナビの液晶ディスプレイに **[燃料を給油して下さい]** と表示し，ブザーが鳴ります（燃料警報）。そのときは給油してください。

1ARADBNAP108E

◆ 給油

給油を行なうときは，燃料キャップを外してください。

1ARADBNAP127B

重　要

＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

◆ 補給

燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。また，メインスイッチのキーを **[入]** 位置にすると燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき，ブザーが鳴ります。また，ブザーが鳴ると同時に液晶ディスプレイに **[燃料が満タンです]** と表示します。給油後は燃料キャップを取付けてください。

燃料の種類	燃料タンク容量
ディーゼル軽油	約 40L

補　足

＊ **満タンお知らせ機能**は，ブザーが 5 回鳴ると停止します。
＊ ブザーが鳴ったあと，あふれさせないように注意してください。
＊ **満タンお知らせ機能**は下記の条件のとき，はたらかない場合があります。

- エンジン停止後約 20 秒間
- 給油中に機体を揺らしたり，急激に給油したとき
- 給油量が少ないとき
- 機体が極端に傾いているとき

■エンジンオイルの点検・補給・交換

＊ 点検・補給・交換をするときは，エンジンを必ず止めて，エンジンがじゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。ヤケドするおそれがあります。
＊ 傾斜地では，グレンタンクの開閉を行なわないでください。

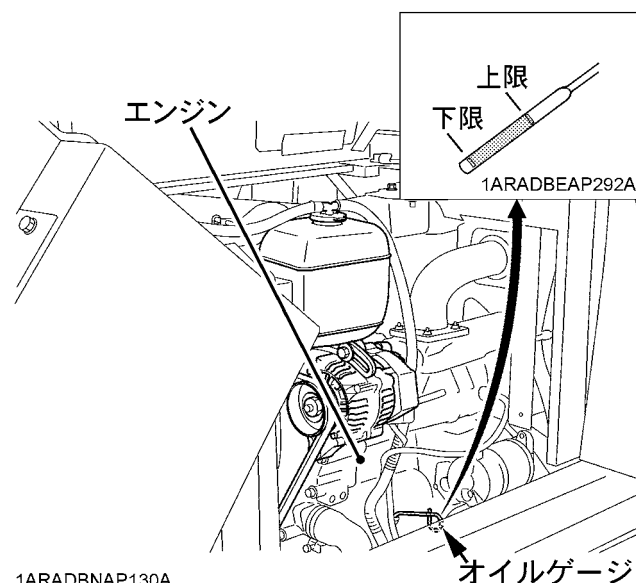
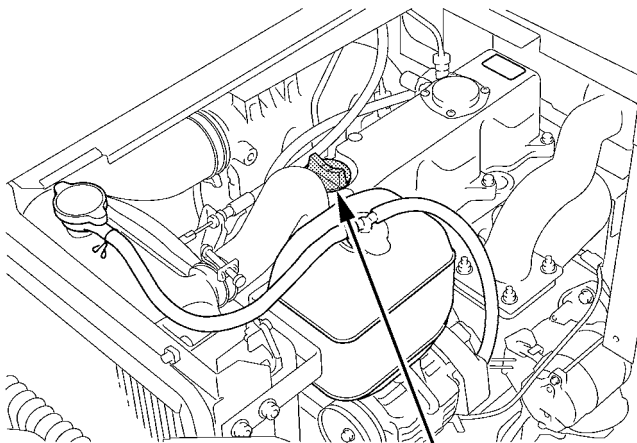
エンジンオイルの点検・補給・交換をするときは，**[Q 仕様除く]** はエンジンルームを開く又は，**[Q 仕様]** は運転席下カバーを取外してください。点検・補給・交換後は，エンジンルームを閉じる又は，運転席下カバーを取付けてください。

重　要

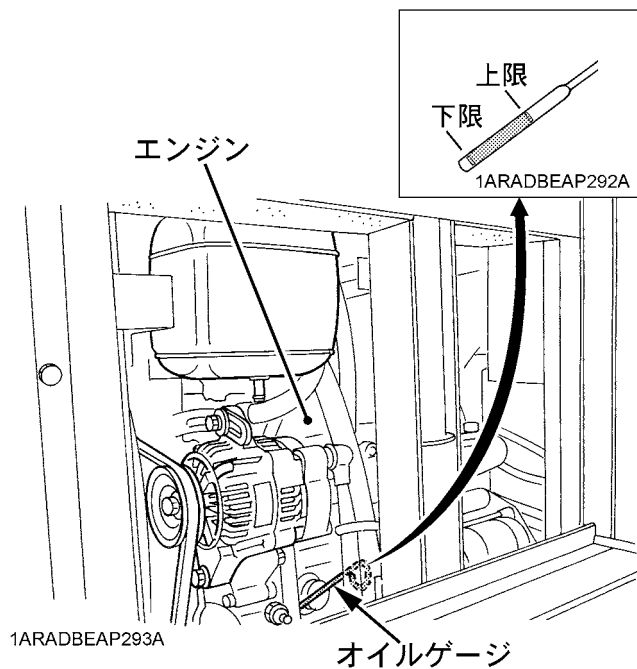
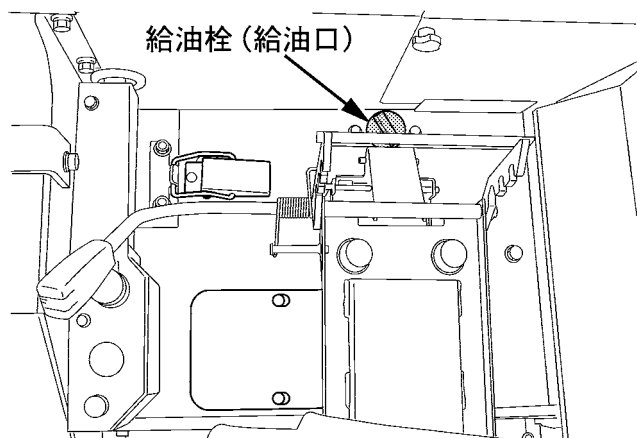
＊ エンジンオイルをオイルゲージの**上限**以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。

◆ 点検・補給

エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

[Q 仕様除く]

1ARADBNAP018C 給油栓（給油口）

［Q 仕様除く］

［Q 仕様］

1ARADBEAP293A

1ASADAIAP036B

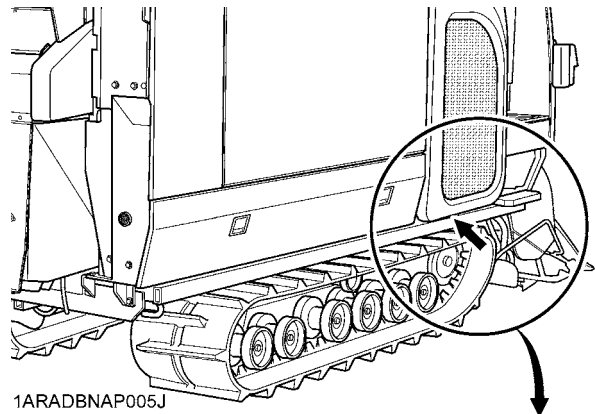
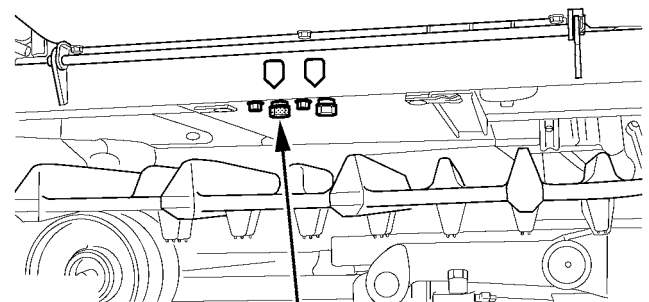
［Q 仕様］

◆ 交換

補　足

＊ オイルの交換と同時に，エンジンオイルフィルタカートリッジも交換してください。（236ページ参照）

● 排油のしかた

1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し，排油口からオイルを排出します。

1ARADBNAP005J

1ARADBEAP295A

3. 排油プラグを取付けます。

重　要

＊ 排油プラグを締め忘れると油もれが発生し，クローラの劣化やエンジントラブルの原因となります。

● **給油のしかた**

1. 給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けます。

重　要

＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。

オイルの種類	規定オイル量
クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) **[329・335・438]** ……D10W-30 **[447]** …… D10W-30 スーパー CD	**[329・335]** …約 5.7L **[438・447]** …約 6.5L

※ D10W-30 はオールシーズン用です。

2. エンジンを始動し，アイドリング状態で約１分間運転します。
3. エンジンを停止したあと，５分間以上たってからオイル量の点検を行ないます。
4. オイルが不足しているときは，規定量になるまでオイルを追加補給します。
5. **[Q 仕様除く]**はエンジンルームを閉じる又は，**[Q 仕様]** は運転席後カバーを取付けたあと，グレンタンクを閉じます。

■トランスミッションケースオイルの点検・補給・交換

注　意

＊ 刈取部の開閉を行なうときは，平たんで安全な場所で，機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

＊ 傾斜地では，刈取部の開閉は行なわないでください。

＊ 刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は，枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。

＊ 刈取部を開いたときは，閉じないようにストッパを必ず掛けてください。

＊ 刈取部各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

トランスミッションケースのオイル量を点検するときは，刈取部を最上昇位置にしたあと，刈取下降ロックスイッチを **[ロック]** 位置にして刈取部の下降防止を行なってください。
また，オイルの補給・交換を行なうときは，刈取部を開いてください。点検後は，刈取部を降ろし，補給・交換後は刈取部を閉じてください。

◆ 点検・補給

刈取駆動プーリの後側にある検油窓を確認し，油面が検油窓で確認できる範囲（規定量）まで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

◆ 交換

補　足

＊ オイルの交換と同時に，トランスミッションオイルフィルタカートリッジも交換してください。（237 ページ参照）

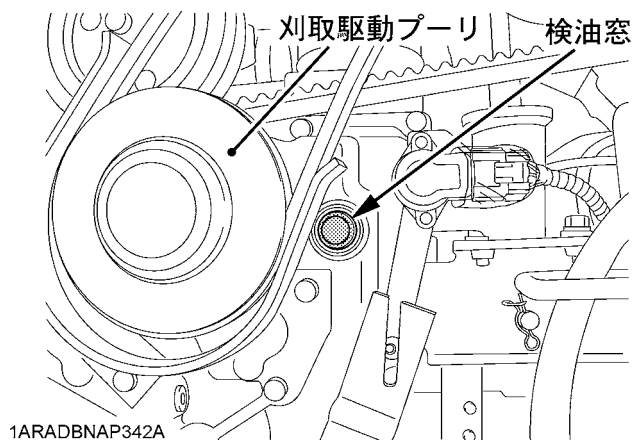
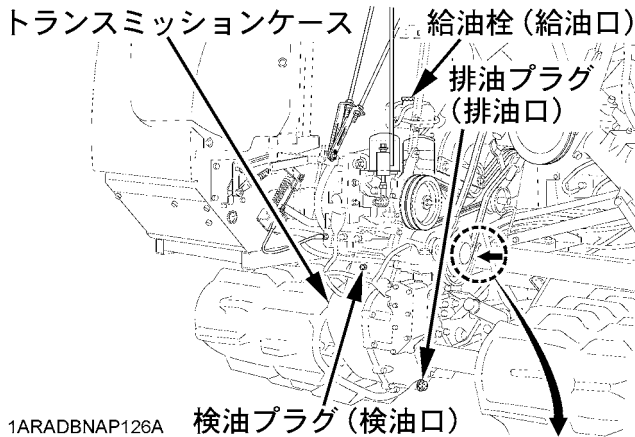
● **排油のしかた**

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● **給油のしかた**

排油プラグを締付けて，給油口から規定量オイルを給油したあと，給油栓を取付けてください。

トランスミッションケース
給油栓（給油口）
排油プラグ
（排油口）
検油プラグ（検油口）
1ARADBNAP126A

1ARADBNAP342A

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパー UDT-2	約 10.0L

重　要

＊ 給油したあと，エンジンをアイドリング状態で約１分間運転してエンジンを停止し，５分間以上たってから，再度点検を行ない検油窓からオイルが見えないときは，オイルを追加補給してください。

補　足

＊ オイルを規定量以上入れ過ぎて検油窓からオイル量が確認できないときは，検油プラグを取外してオイルを適量排出してください。

■フィードチェーン駆動ケースオイルの補給

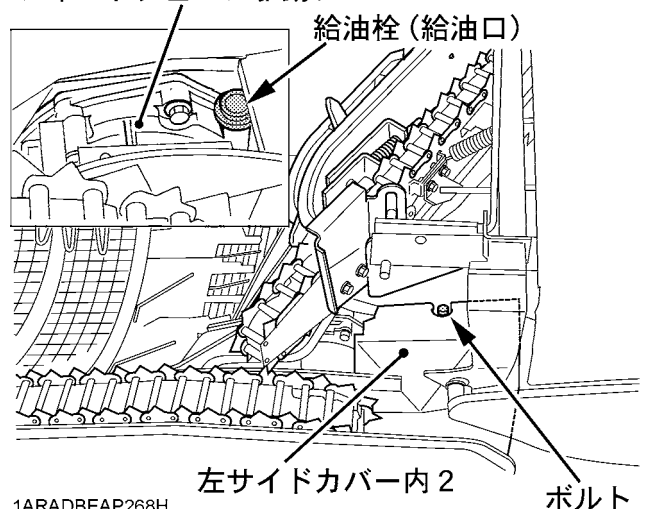
警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

フィードチェーン駆動ケースのオイルを補給するときは，こぎ胴を開いたあと，ボルトを取外して左サイドカバー内２を外してください。補給後は，左サイドカバー内２を取付けてください。

◆ 補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。補給後は，左サイドカバー内２を取付けたあと，こぎ胴を閉じてください。

1ARADBEAP268H

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90 又は，M80B	約 0.6L

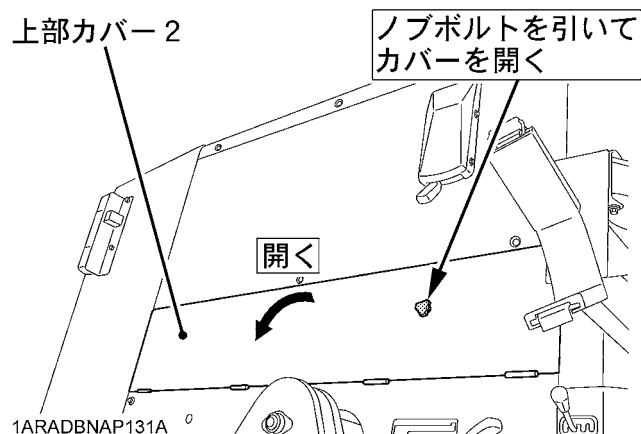
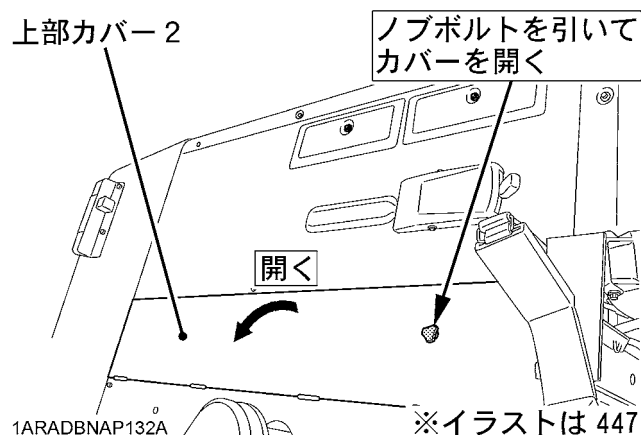
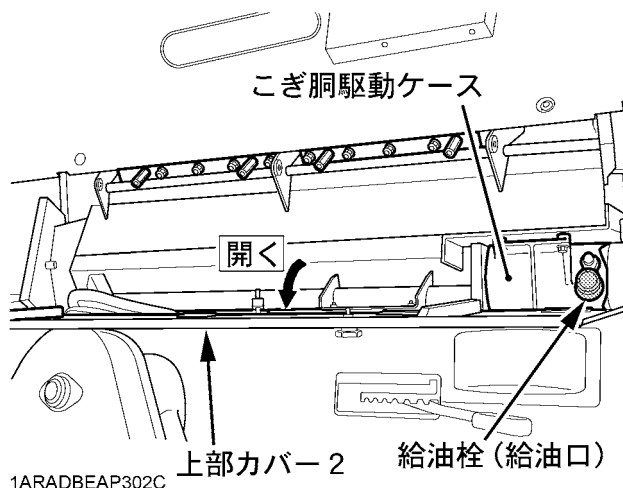
■こぎ胴駆動ケースオイルの補給

脱こく部上部の上部カバー２を開いてください。

◆ 補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。補給後は上部カバー２を閉じてください。

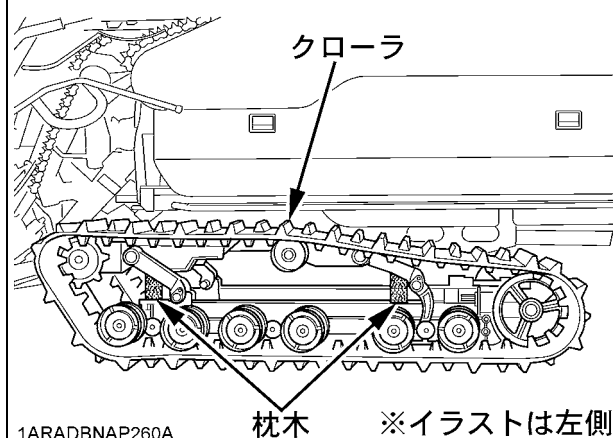
[329]

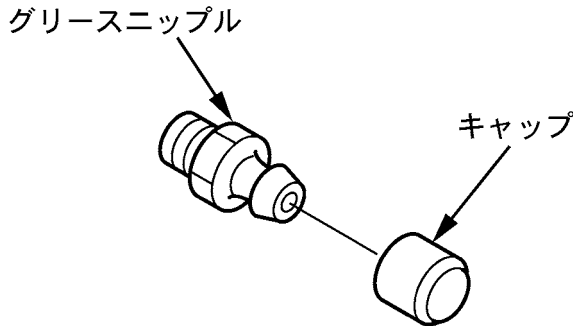
[329]

[335・438・447]

[335・438・447]

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル M90 又は，M80B	約 0.15L

■各部のグリース

＊ グリースの補給を行なうときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

＊ クローラ周辺部にグリースを補給するときは，平たんな場所で車体水平制御の手動スイッチを操作して，機体を最上昇位置にし［M 仕様］，刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。

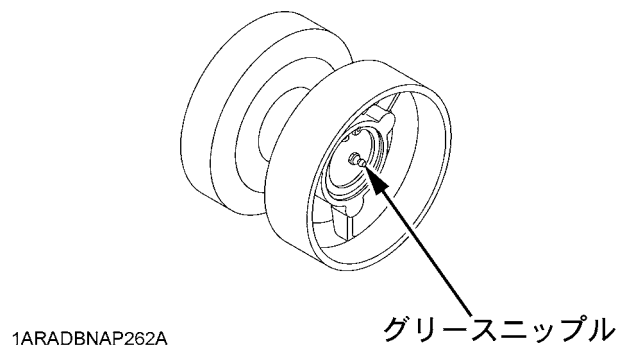
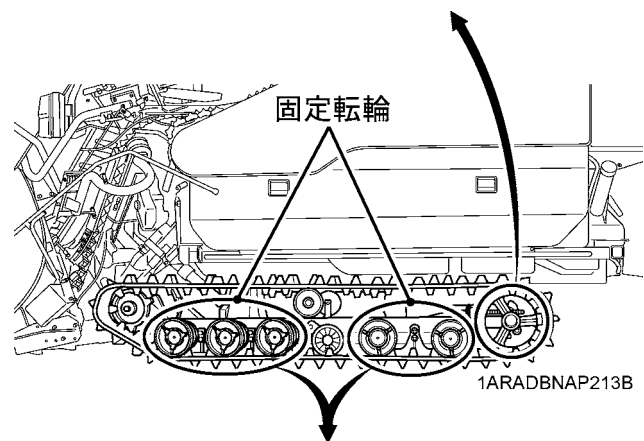
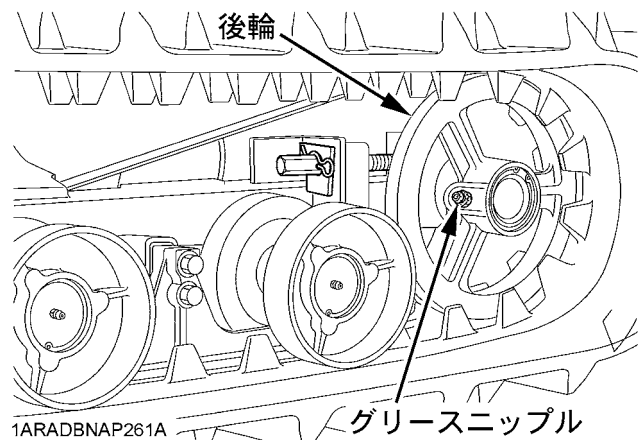
[M 仕様]

[M 仕様]

クボタ純グリース No.2 をグリースニップルから補給してください。また，走行部（転輪・後輪・スイングアーム各部）にグリースの補給を行なうときは，各グリースニップルのキャップを取外してください。また，補給が終わったあと，各グリースニップルにキャップを取付けてください。

1ARADBNAP350A

補　足

＊ グリースニップルはストレートタイプとＬ字タイプがあります。
＊ グリース注入後は，グリースニップルのキャップを必ず取付けてください。洗車時に水が浸入するおそれがあります。

[329・335 各 M 仕様除く]

◆ **固定転輪部（左，右各５箇所）**
◆ **後輪部（左，右各１箇所）**

1ARADBNAP261A

1ARADBNAP213B

1ARADBNAP262A

[329・335 各 M 仕様除く]

［329・335 各 M 仕様］［438・447 各 4M 仕様除く］

◆ **固定転輪部（左，右各４箇所）**
◆ **揺動転輪部（左，右各１箇所）**
◆ **後輪部（左，右各１箇所）**

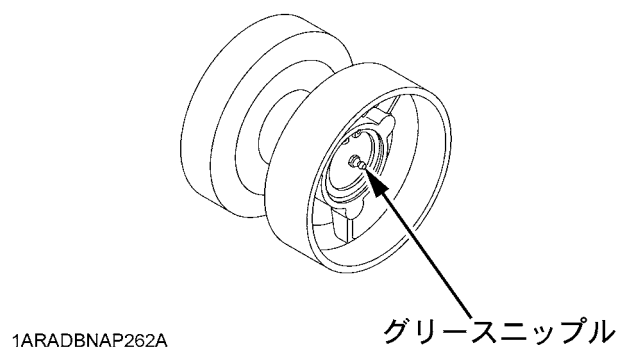
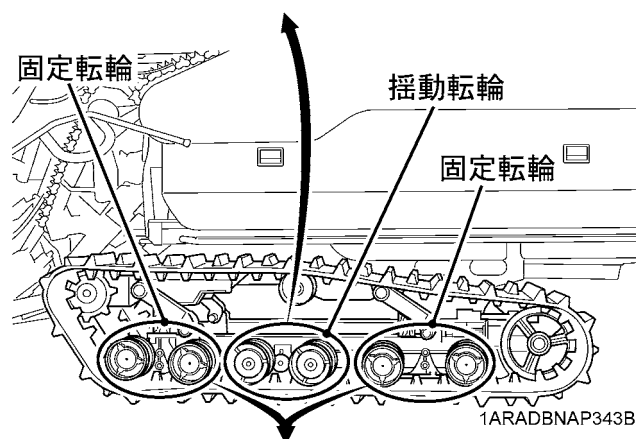
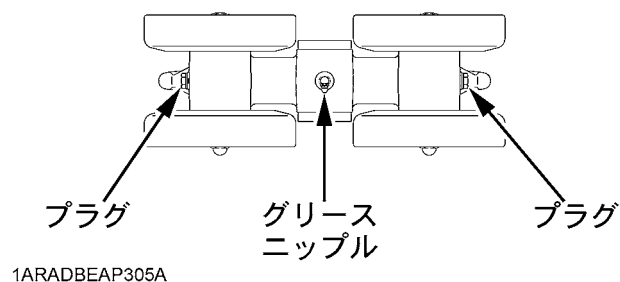
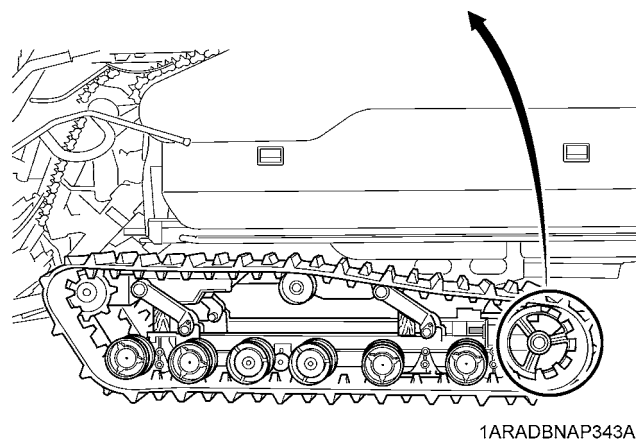
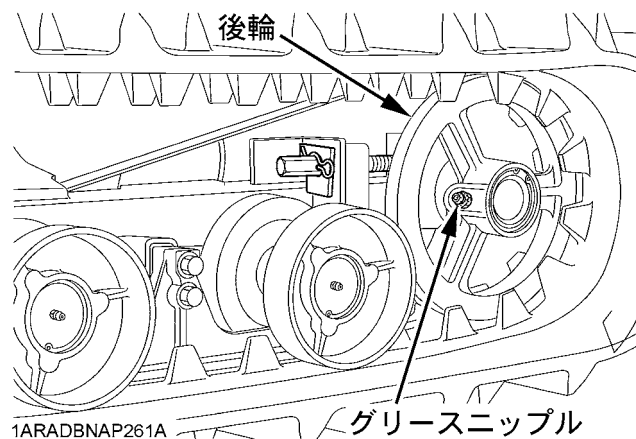
揺動転輪部のグリース補給は，プラグを取外してから行なってください。また，プラグを取外した穴からグリースがはみ出てきたら補給を中止してプラグにシールテープを巻付けて，取付けてください。

1ARADBNAP261A

1ARADBNAP343A

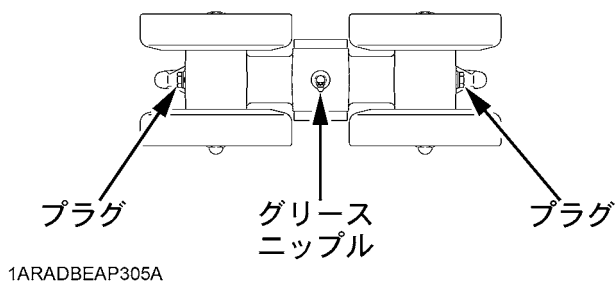
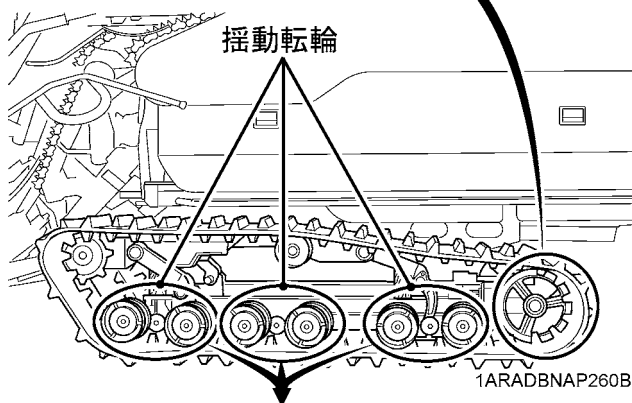
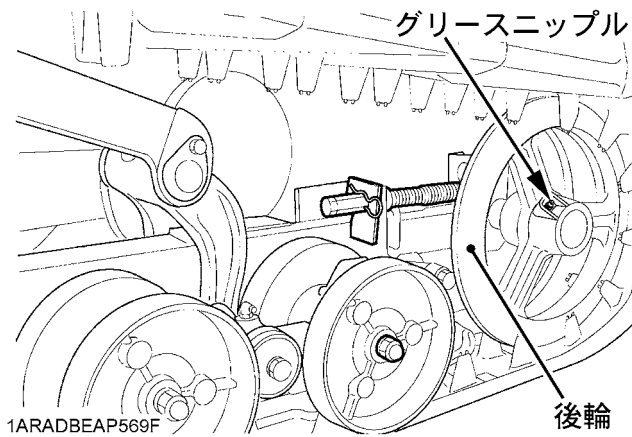
1ARADBEAP305A

1ARADBNAP343B

1ARADBNAP262A

［329・335 各 M 仕様］［438・447 各 4M 仕様除く］

［4M 仕様］

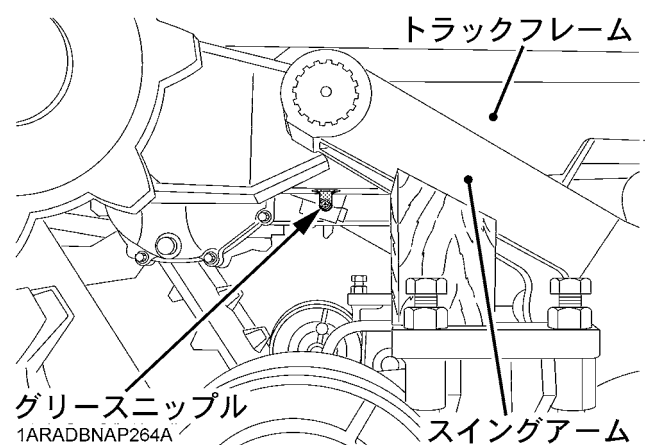
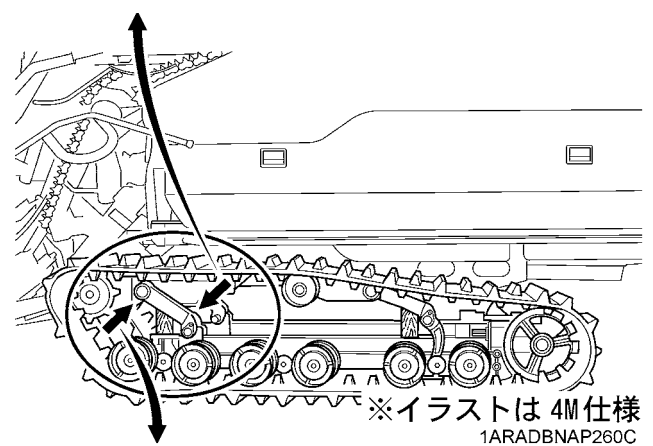
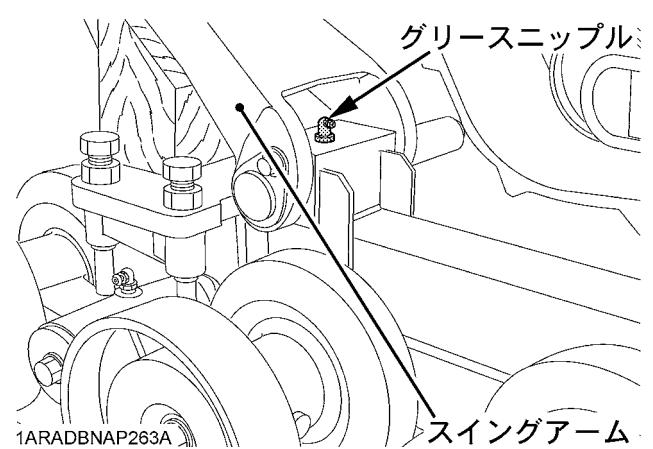
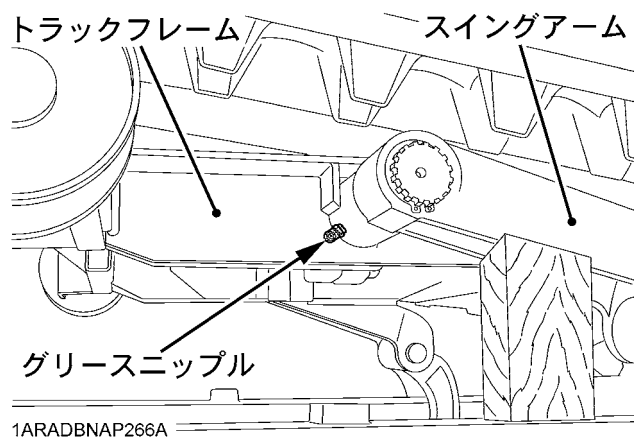
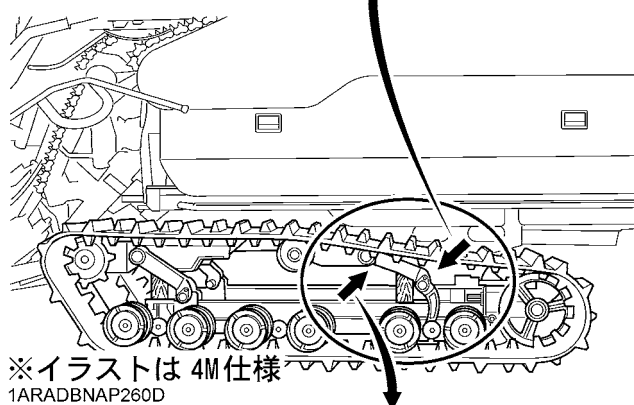
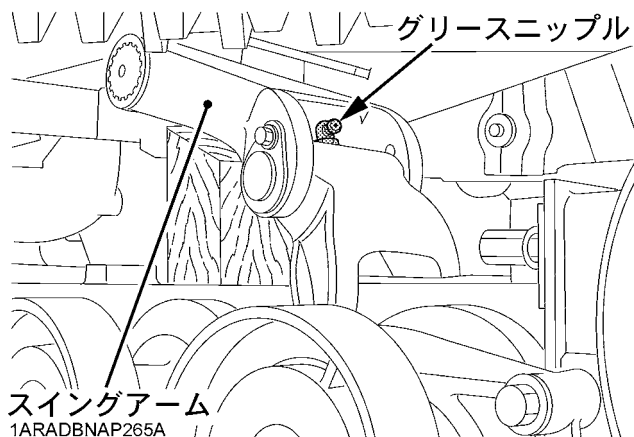
◆ **揺動転輪部（左，右各 3 箇所）**
◆ **後輪部（左，右各 1 箇所）**

揺動転輪部のグリース補給は，プラグを取外してから行なってください。また，プラグを取外した穴からグリースがはみ出てきたら補給を中止してプラグにシールテープを巻付けて，取付けてください。

［4M 仕様］

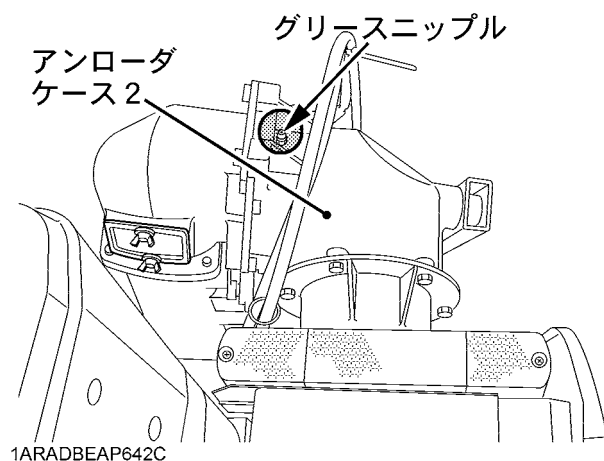
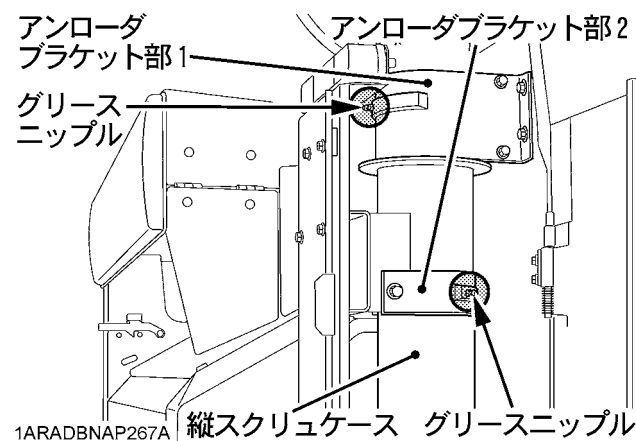
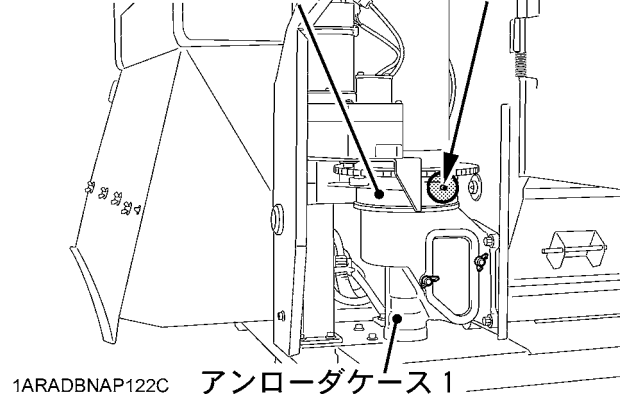
補　足

＊ シールテープについては購入先に連絡してください。

［M 仕様］

◆ **スイングアーム部（左，右各 2 箇所）**
◆ **トラックフレーム部（左，右各 2 箇所）**

［M 仕様］

◆ **アンローダ部**

グリースの補給をするときは，グレンタンク後部カバーを開いて行なってください。補給後は，グレンタンク後部カバーを閉じてください。

補　足

＊ アンローダケース 2 にグリースを補給するときは，掃除口を開いた状態でフランジの内側の面にグリースが付着しないように補給してください。もみにグリースが付着して汚粒発生の原因となります。

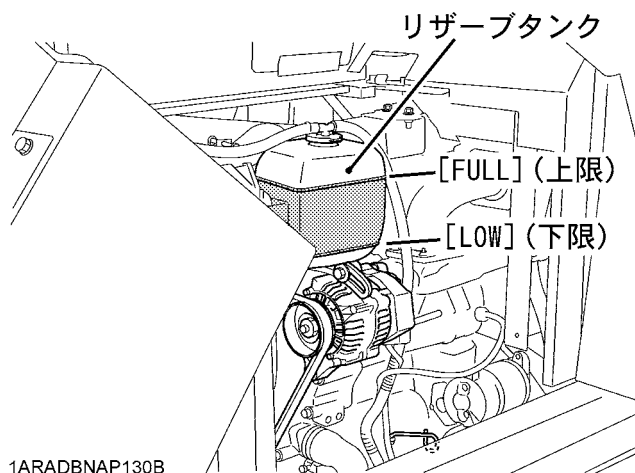
■ラジエータ冷却水の点検・補給・交換

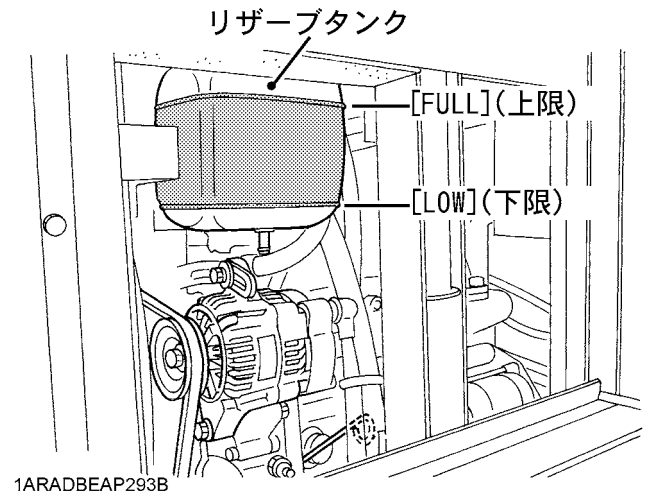
注 意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。

◆ 点検

1. **[Q 仕様除く]** はエンジンルームを開く又は，**[Q 仕様]** は運転席下カバーを取外します。
2. リザーブタンク内の冷却水が **[LOW]**（下限線）と **[FULL]**（上限線）の間にあるか確かめます。
3. リザーブタンク内の冷却水が **[LOW]**（下限線）より少ないときは，リザーブタンクのタンクキャップを取外して清水を補給します。

[Q 仕様除く]

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

[Q 仕様]

4. 冷却水補給口のキャップを取付けたあと，エンジンルームを閉じる又は，運転席下カバーを取付けます。

重 要

＊ オーバーヒート時は，ラジエータ内の冷却水の水量を確認し，水量が不足しているときは，清水を補給してください。

＊ 冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

補 足

＊ **[FULL]**（上限線）の線以上は補給しないでください。

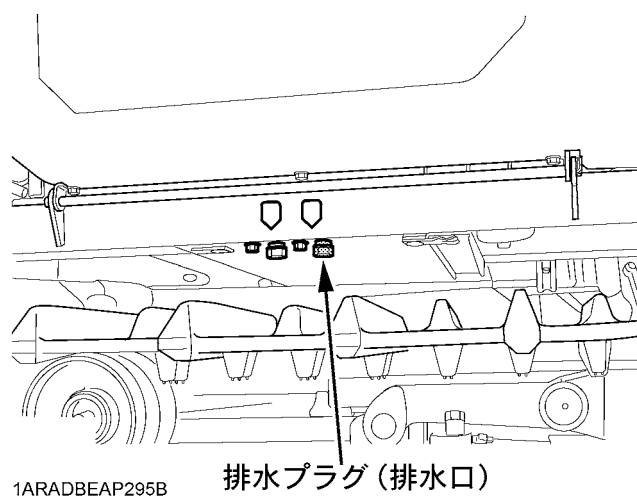
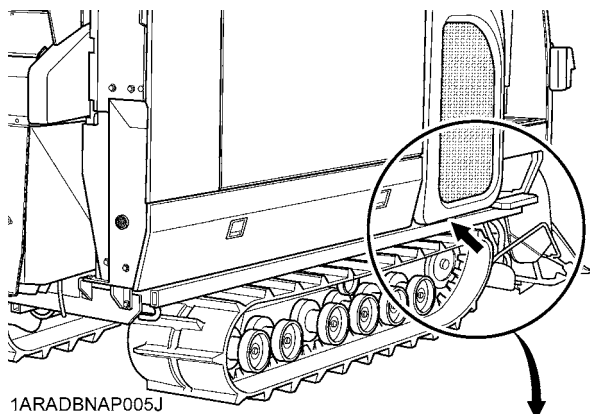
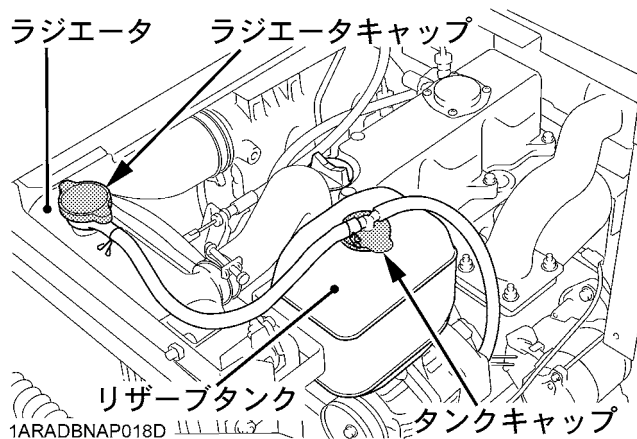
◆ **交換**

1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。

1ARADBNAP005J

1ARADBEAP295B

[Q仕様除く]

1ARADBNAP018D

[Q仕様除く]

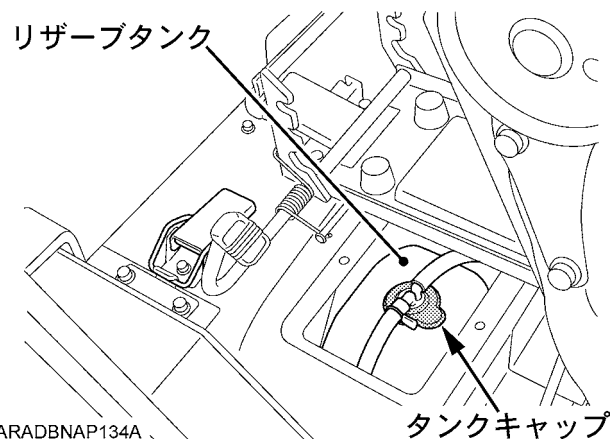
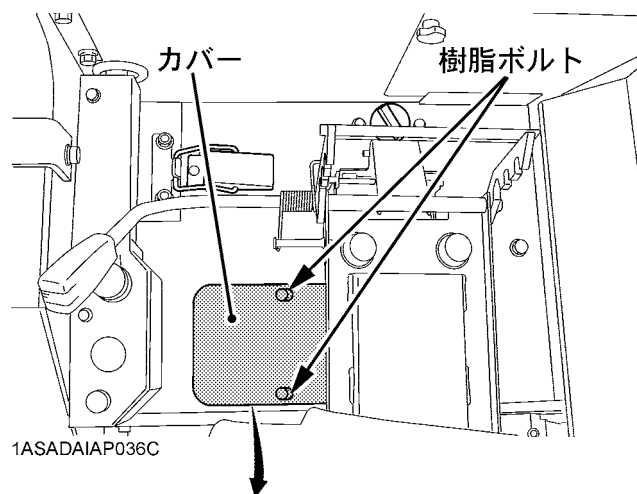
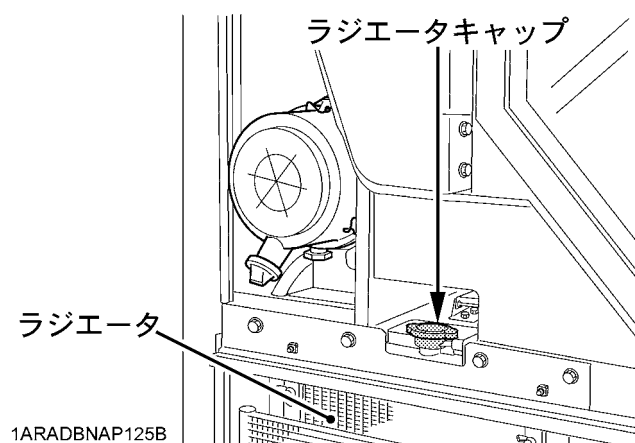
[Q仕様]

(1) 樹脂ボルト２個を外してカバーを取外します。

1ASADAIAP036C

1ARADBNAP134A

(2) 防じんカバーを開きます。

1ARADBNAP125B

[Q仕様]

2. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと，リザーブタンクを上側に抜いて取外し，排水します。

3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。
4. リザーブタンクを取付けます。
5. 排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。
＊ 異なるメーカの不凍液を混用しないでください。エンジンの故障の原因となります。
＊ 排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり，排水プラグ部を機体に取付け忘れると，ホースが破損するおそれがあります。

補　足

＊ 不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● **不凍液混合比率表**

外気温度（℃）		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比率	水（%）	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55

※ 出荷標準　不凍液35％(北海道[H]向け:50％)
※ ラジエータ容量：3.7L
（リザーブタンク容量は含まない）
※ 新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，冷却水が冷えてからラジエータキャップを取外して冷却水の補充とリザーブタンクの水量を確かめておいてください。

6. ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。
7. エンジンルームを閉じる又は，運転席下カバーを取付けます。

■エアクリーナの点検･掃除･交換

エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換を行なうときは，ダストカップを取外してください。

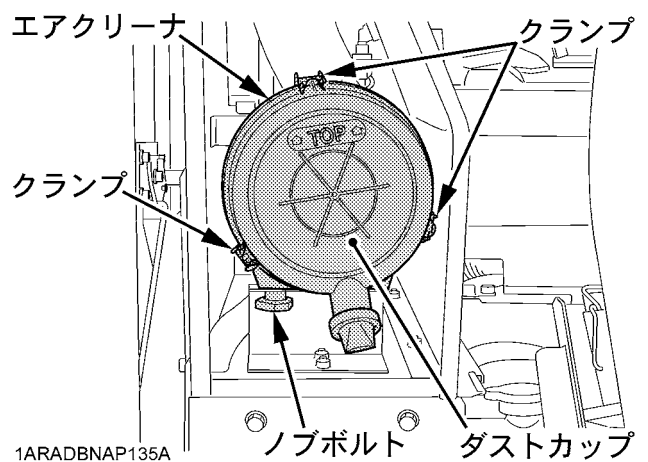
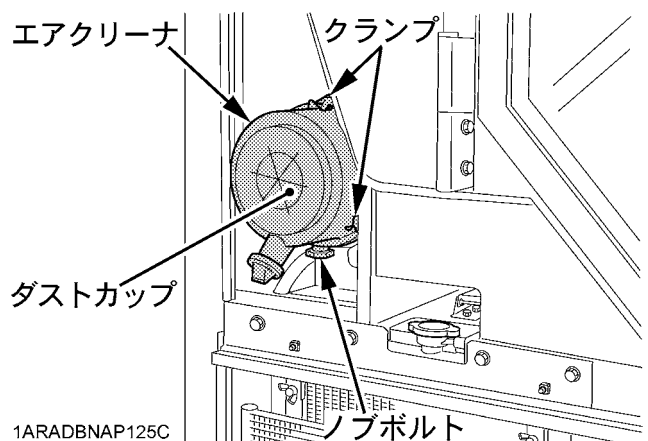
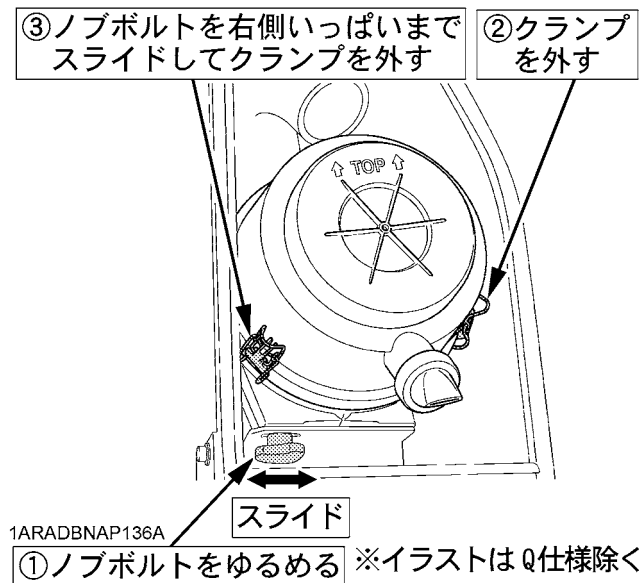
1. エンジンルーム　**[Q 仕様除く]** 又は，防じんカバー **[Q 仕様]** を開きます。
2. ノブボルトをゆるめます。
3. クランプ３箇所を外してダストカップを取外します。このとき，ダストカップの右又は，左側のクランプを外す場合は，ゆるめたノブボルトを右又は，左いっぱいまでスライドして外しやすい位置にします。

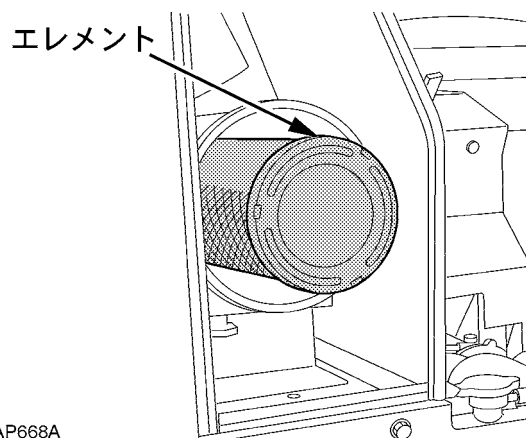
[Q 仕様除く]

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

[Q 仕様]

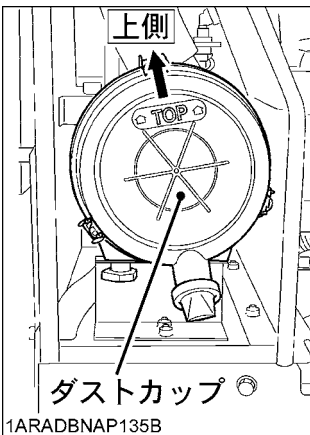
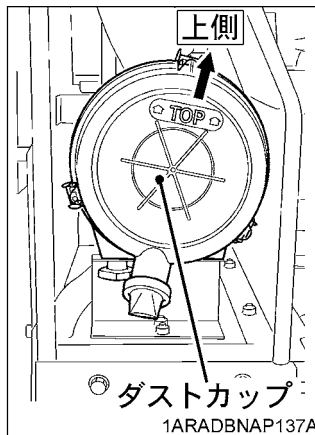
※イラストはQ仕様除く

◆ **点検・掃除・交換**

エアクリーナエレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントを掃除するときは，エレメントを引抜いて取外したあと，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や300時間経過しているときは，交換してください。作業終了後は，ダストカップを取付けて，ノブボルトを締付けたあと，エンジンルーム**［Q仕様除く］**又は，防じんカバー**［Q仕様］**を閉じてください。

重　要

＊ 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
＊ エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
＊ エレメントを掃除する場合，エアの圧力は205kPa（2.1kgf/cm²）をこえないよう注意し，エアガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。

補　足

＊ エアクリーナの点検を行なったときは，ダストカップのエバキュエータバルブの先端部をつまんでダストカップ内に溜まったゴミを排出してください。

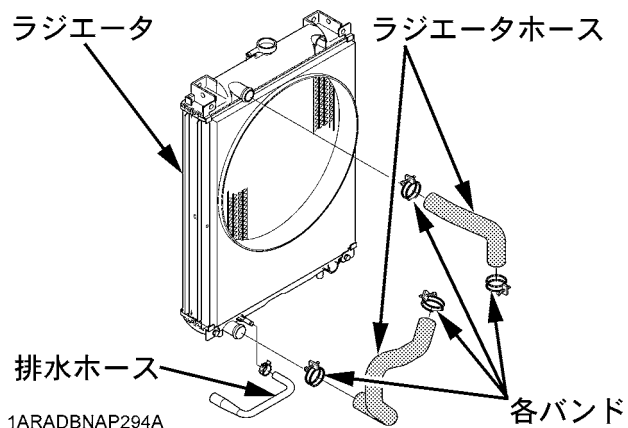
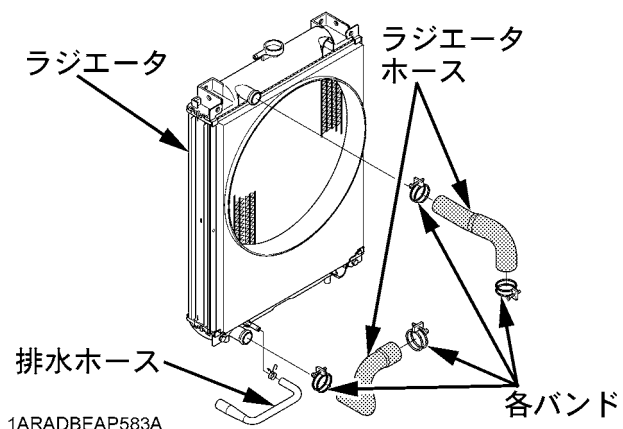
＊ ダストカップを取付けるときは【TOP】の文字を上側にしてください。

■パイプ，ホース類の点検

＊ 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。
＊ 使用者は交換作業を行なわないでください。

◆ 点検

エンジン，エアクリーナ，プレクリーナ，ラジエータ，各オイルクーラ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときやゆるんでいるときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重　要

＊ オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付きを起します。
＊ 油もれや水もれをしていなくても，**2年経過しているときや劣化の激しい場合**は購入先に連絡して交換してください。

［329・335］

［329・335］

［438・447 Q 仕様除く］

［438・447 Q 仕様除く］

［438・447 Q 仕様］

［438・447 Q 仕様］

［329・335］

［329・335］

［438・447］

※イラストは Q 仕様除く

［438・447］

[329・335]

[438・447]

[438・447]

[329・335]

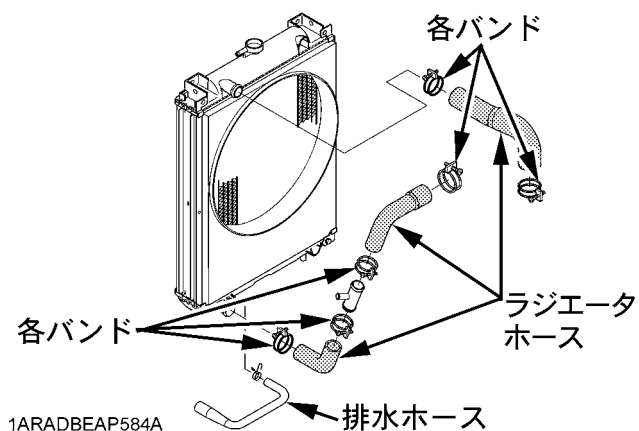
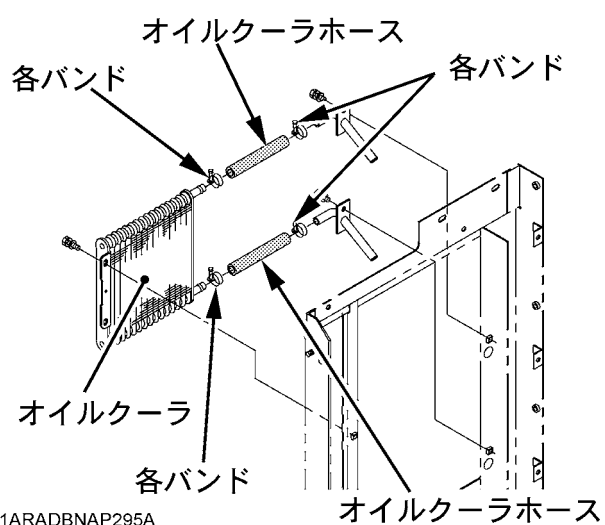
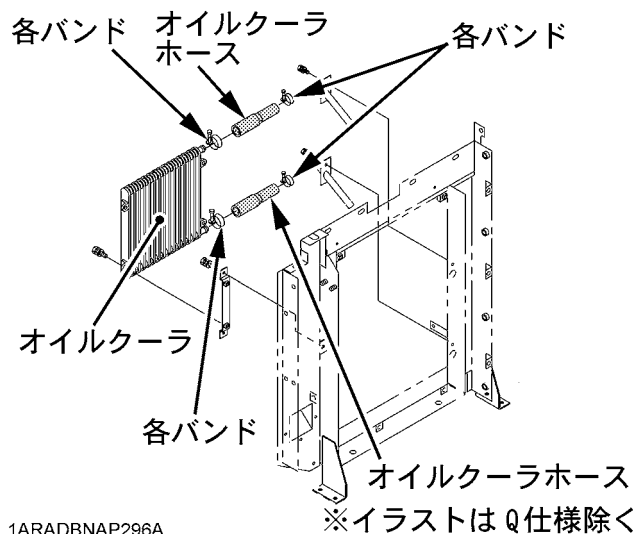
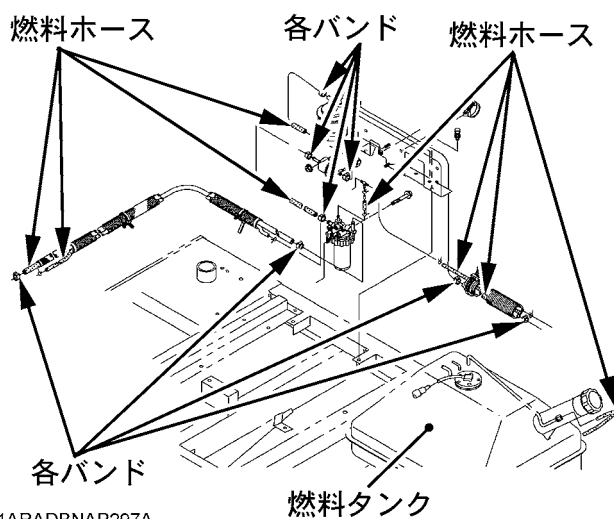
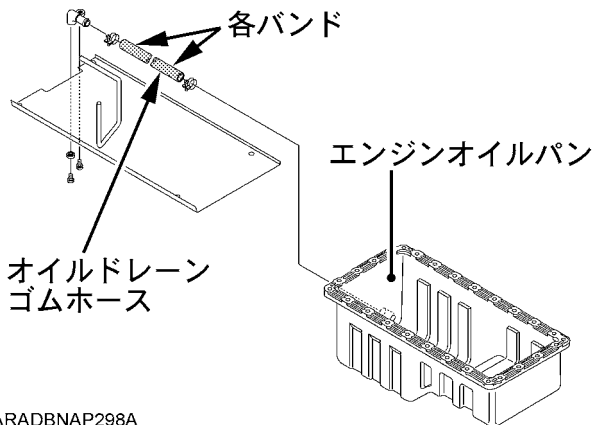
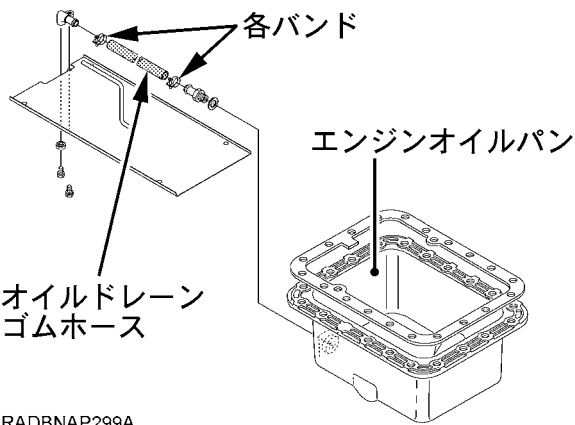
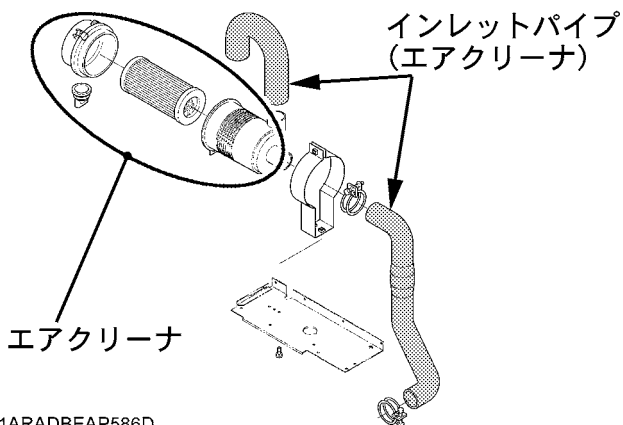
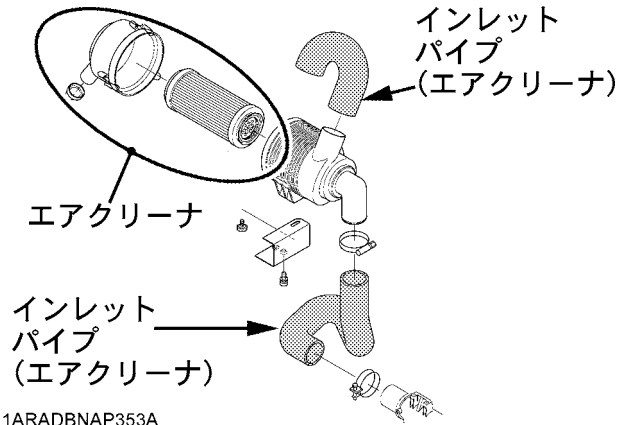
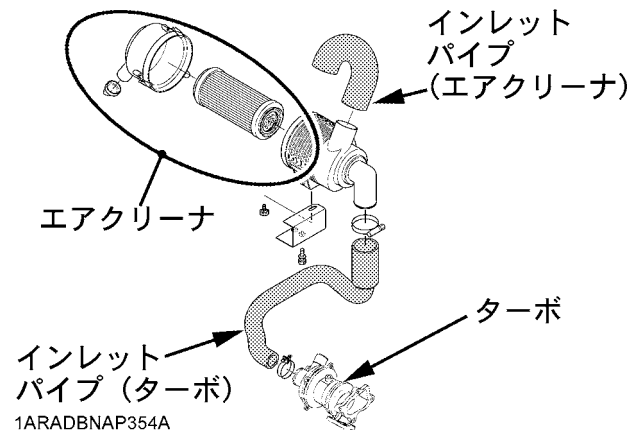
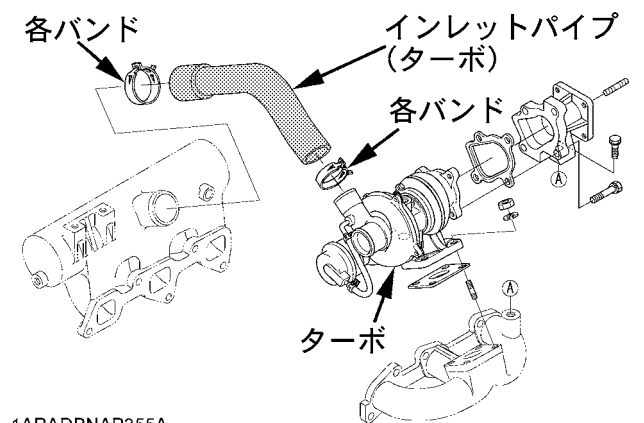
[329・335]

[438]

[438]

[447]

[447]

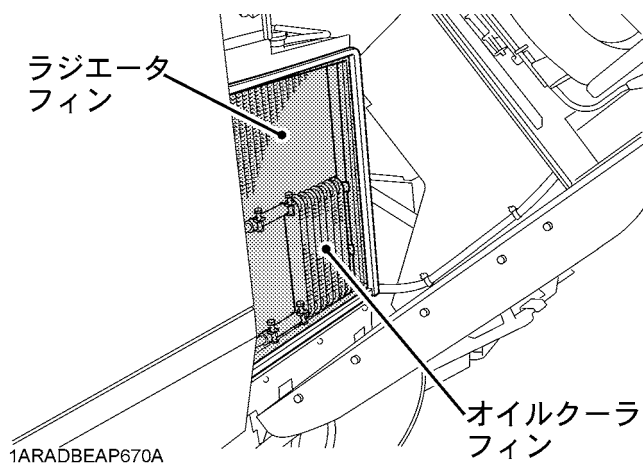
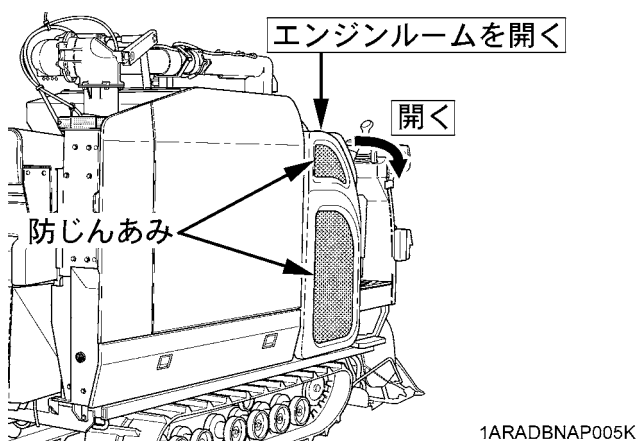
目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

■防じんあみ，各フィンの掃除

◆ 掃除

[Q 仕様除く]

エンジンルームを開いたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。

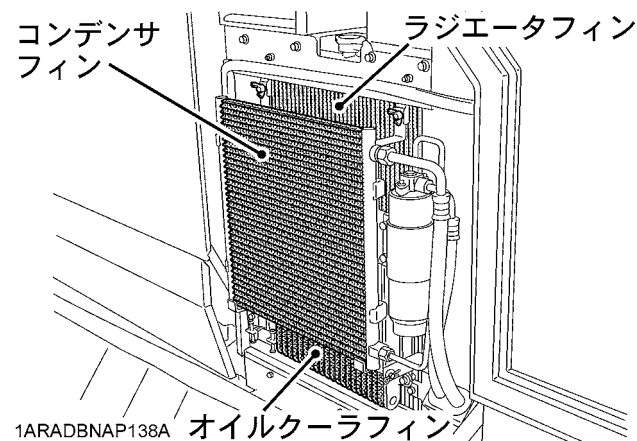
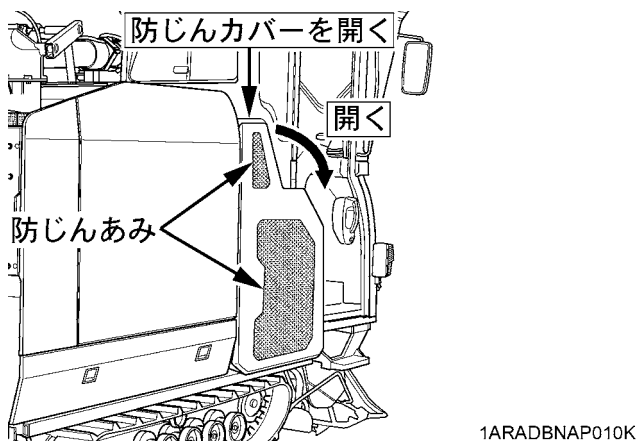
1ARADBNAP005K

1ARADBEAP670A

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

防じんカバーを開いたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。

1ARADBNAP010K

1ARADBNAP138A

[Q 仕様]

重　要

＊ ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して，各フィンの掃除をしないでください。ラジエータフィンを傷めると，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

補　足

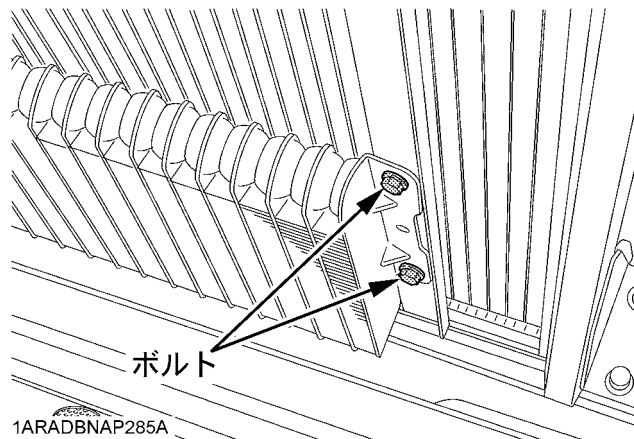
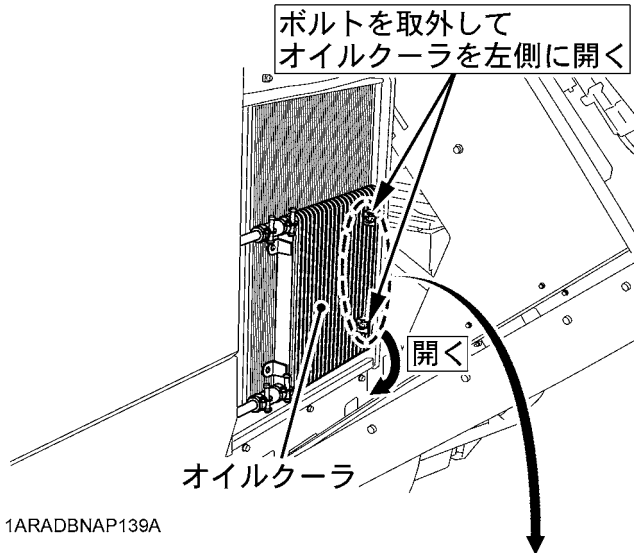
＊ ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は，ボルトを取外して各オイルクーラを手前に倒してから掃除してください。

● **取外しかた**

[Q 仕様除く]

1. ボルトを取外したあと，オイルクーラを左側に開きます。

1ARADBNAP139A

1ARADBNAP285A

2. 逆の手順で取付けたあと，エンジンルームを閉じます。

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

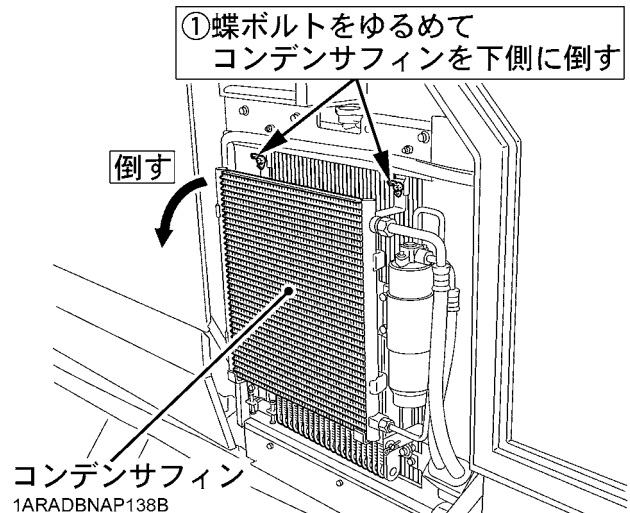
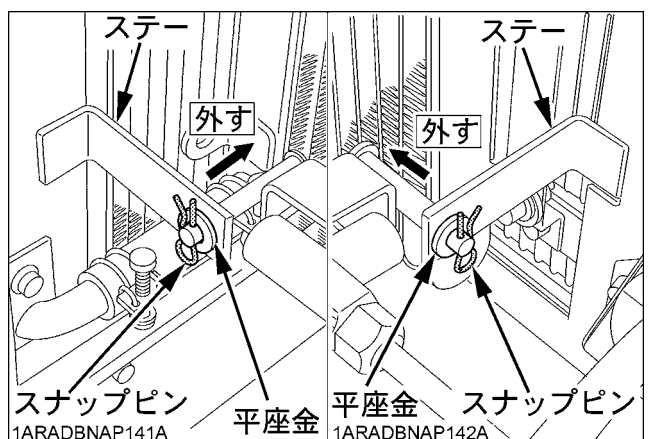
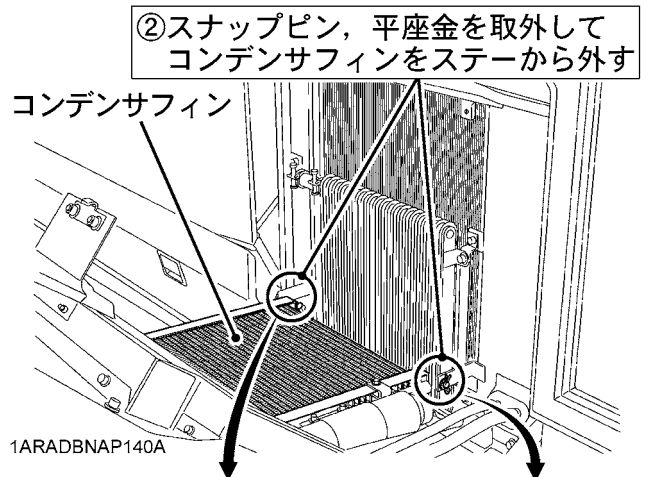
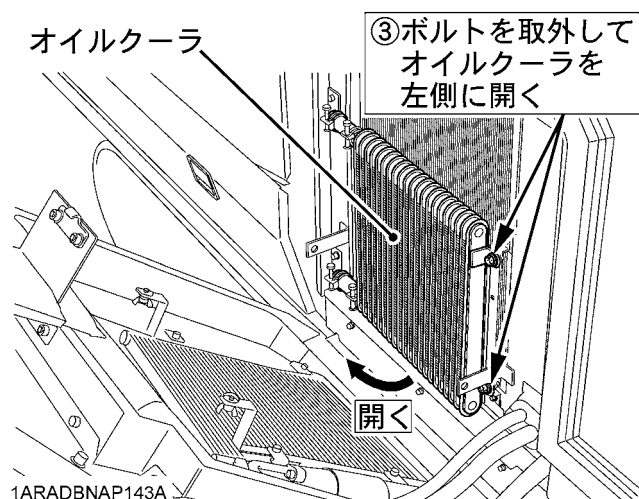
1. 蝶ボルトをゆるめてコンデンサフィンを下側に倒します。
2. スナップピン，平座金を取外したあと，コンデンサをステーから外します。
3. ボルトを取外してオイルクーラを左側に開きます。

1ARADBNAP138B

補　足

＊ 蝶ボルトは取外さないでください。

1ARADBNAP140A

1ARADBNAP141A　1ARADBNAP142A

4. 逆の手順で取付けたあと，防じんカバーを閉じます。

［Q 仕様］

■燃料フィルタエレメントの掃除，燃料フィルタカートリッジ・フィルタエレメントの交換

注 意

＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

燃料フィルタエレメントの掃除，燃料フィルタエレメント・カートリッジの交換を行なうときは，グレンタンクを開いてください。また，交換は燃料を給油する前に行なってください。掃除，交換後はグレンタンクを閉じてください。

重 要

＊ 燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し，エンジンの故障の原因となります。

補 足

＊ 交換後は，メインスイッチのキーを**［入］**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

◆ 燃料フィルタカートリッジの交換

1. グレンタンクを開きます。
2. ゴムハンプを後方に押出します。
3. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補 足

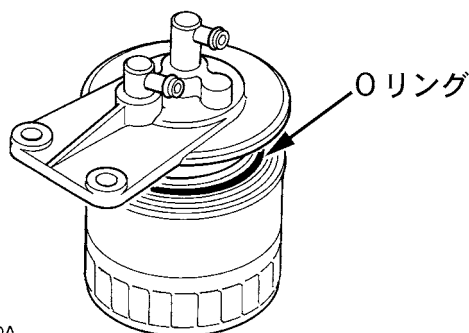
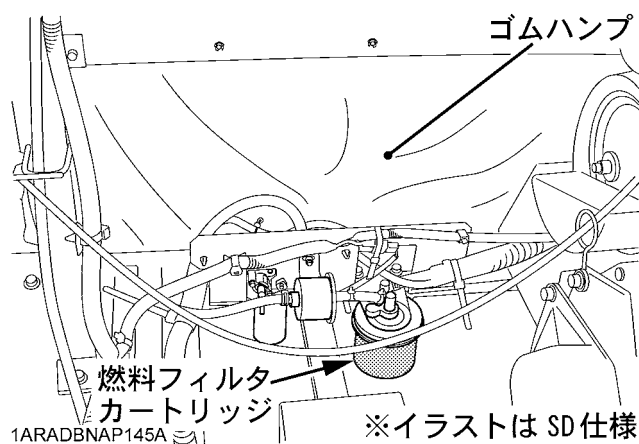
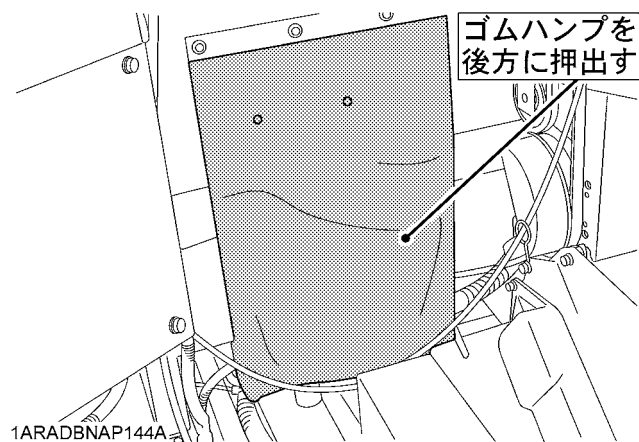
＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

4. 新しいカートリッジは0リングに燃料を薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

1ARADBNAP144A

1ARADBNAP145A

1ASADACAP500A

重 要

＊ 0リングは傷つけないようにしてください。また，溝にきちんと入れて組付けてください。

5. ゴムハンプを元の状態に戻したあと，グレンタンクを閉じます。

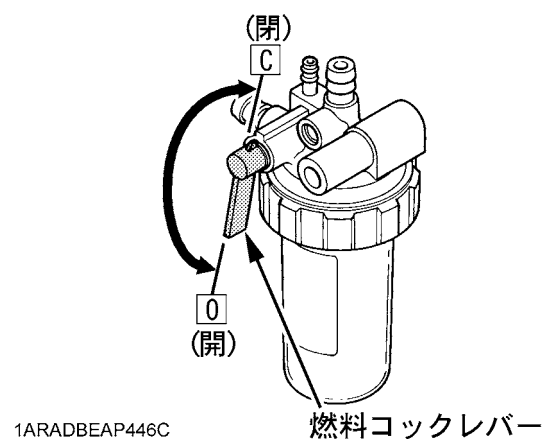
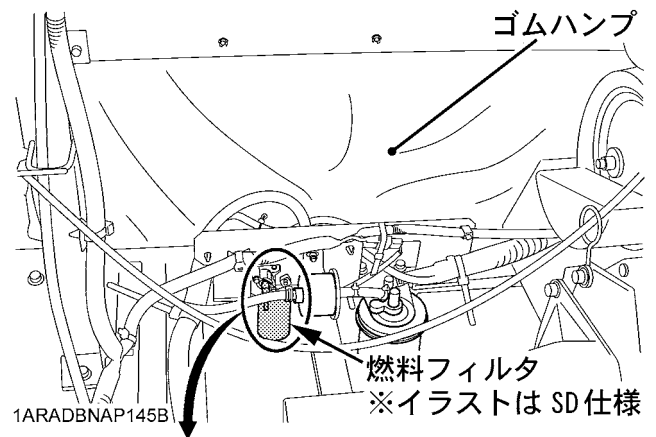
◆ 燃料フィルタのエレメントの掃除，交換

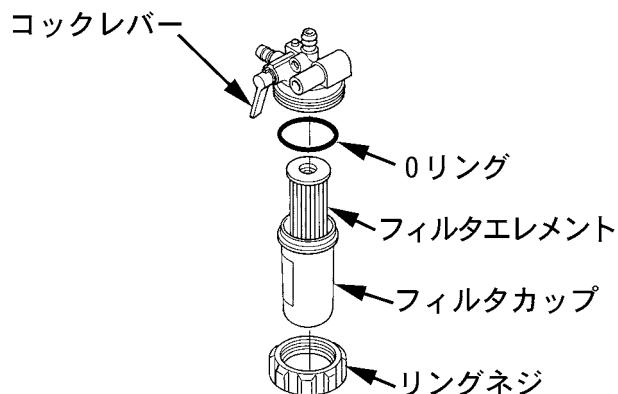
重 要

＊ フィルタ下部に水が溜まっているときは，早めに掃除又は，交換してください。
＊ 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

1. グレンタンクを開きます。
2. ゴムハンプを後方に押出します。
3. 燃料コックレバーを **[0]（開）** 位置から **[C]（閉）** 位置にします。

1ARADBNAP145B

1ARADBEAP446C

4. リングネジをゆるめてフィルタカップを外します。
5. フィルタエレメントを取出して**軽油**で0リングを含めて洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき，汚れのひどい場合や運転時間が 400 時間経過しているときは交換してください。

重　要

＊ 0リングは傷つけないようにしてください。また，失くさないでください。
＊ 汚れ（目詰まり）がひどい場合は，洗浄を行なっても短時間で目詰まりします。

6. 0 リングやフィルタエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。
7. ゴムハンプを元の状態に戻したあと，グレンタンクを閉じます。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクを開閉しないでください。

エンジンオイルフィルタカートリッジの交換を行なうときは，グレンタンクを開いてください。交換後は，グレンタンクを閉じてください。

◆ 交換

補　足

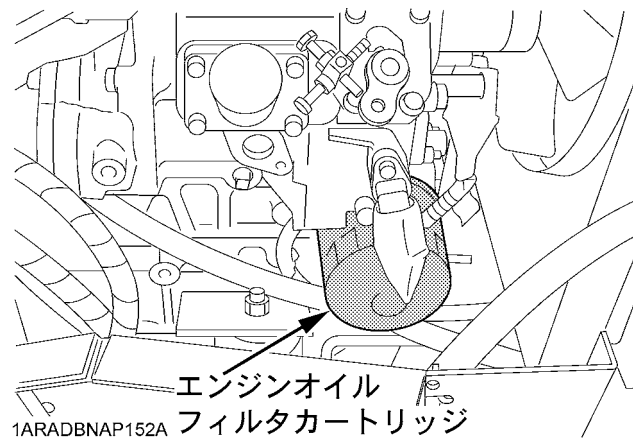
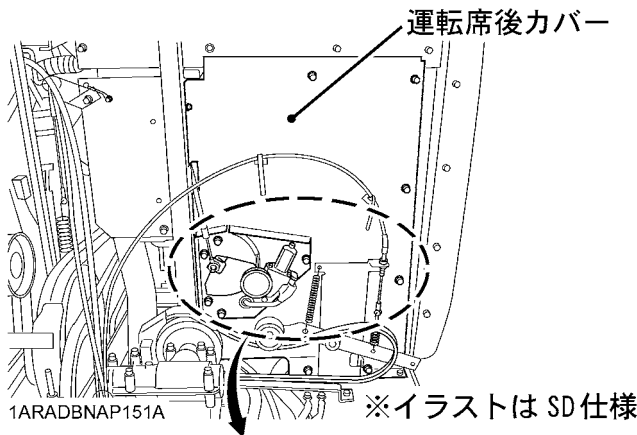
＊ エンジンオイルフィルタカートリッジは，エンジンオイルの交換と同時に交換してください。

1. グレンタンクを開いたあと，運転席後カバーを取外します。（184，181 ページ参照）
2. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

3. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
4. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。

重　要

＊ 新しいカートリッジは０リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

5. 運転席後カバーを取付けたあと，グレンタンクを閉じます。

■ HST オイルフィルタカートリッジ，油圧サクションオイルフィルタカートリッジの交換

警　告

＊ 刈取部の開閉を行なうときは，平たんで安全な場所で，機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 傾斜地では，刈取部の開閉は行なわないでください。
＊ 刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は，枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
＊ 刈取部を開いたときは，閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
＊ 刈取部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

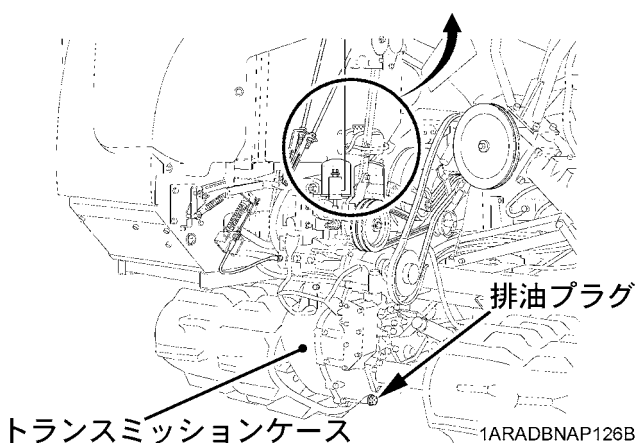
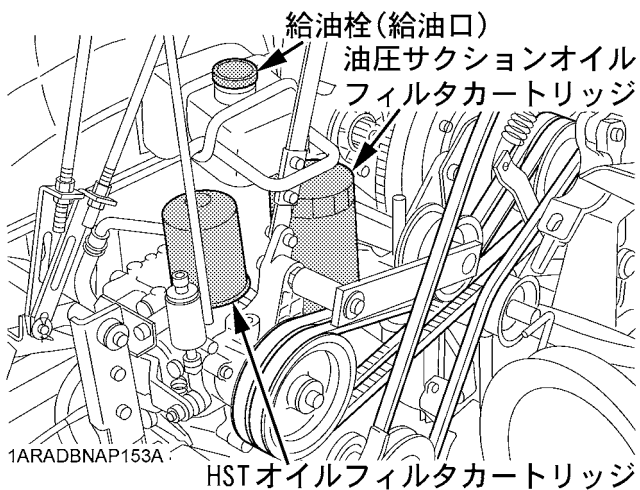
◆ **交換**

補　足

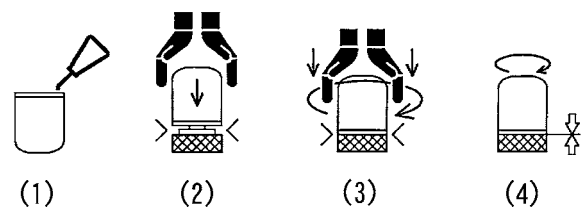
＊ HST オイルフィルタカートリッジと油圧サクションオイルフィルタカートリッジは同時に交換を行なってください。

1. 刈取部を開きます。（158 ページ参照）
2. トランスミッションケースの給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出します。（218 ページ参照）
3. 専用工具を使って HST オイルフィルタカートリッジ，油圧サクションオイルフィルタカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

4. 新しいオイルフィルタカートリッジを取付けます。

重　要

＊ 新しいカートリッジを取付けるときは，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。また，オイルフィルタカートリッジを交換するときに，ごみなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，HST の故障の原因となります。
＊ 新しいオイルフィルタカートリッジを取付けるときは，下記の手順で取付けてください。

(1) オイルフィルタカートリッジの取付面にオイルを薄く塗る
(2) オイルフィルタカートリッジが傾かないように取付ける
(3) ゆるまない程度まで締付ける
(4) オイルフィルタカートリッジと取付部にすき間がないことを確認する

5. トランスミッションケースの排油プラグを締付けます。
6. 218 ページを参照し，オイルを規定量給油します。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけ油圧タンクオイル，トランスミッションオイルの油面が下がります。

7. 刈取部を閉じます。

重　要

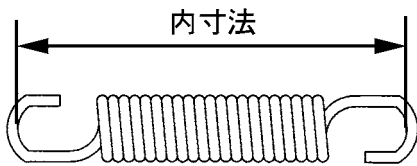
＊ 給油したあとエンジンを約１分間以上負荷をかけずに回転させて，検油窓で点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

■各部ワイヤの点検・調整

重　要

＊ テンションスプリングの張り調整が終わり，調整ナット又は，ロックナットを締付けるとき，テンションスプリングをねじれた状態で締付けないでください。破損の原因となります。

補　足

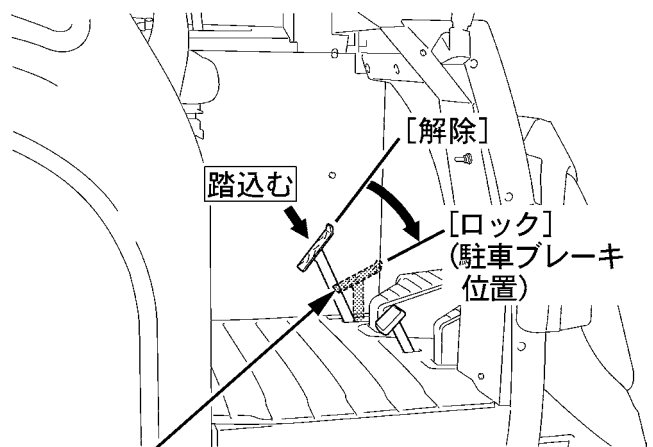
＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

1ASADACAP390A

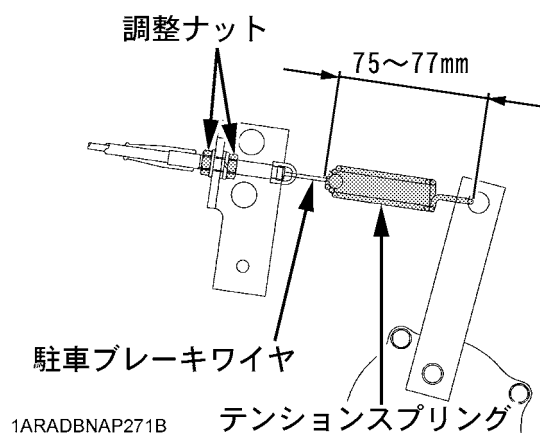
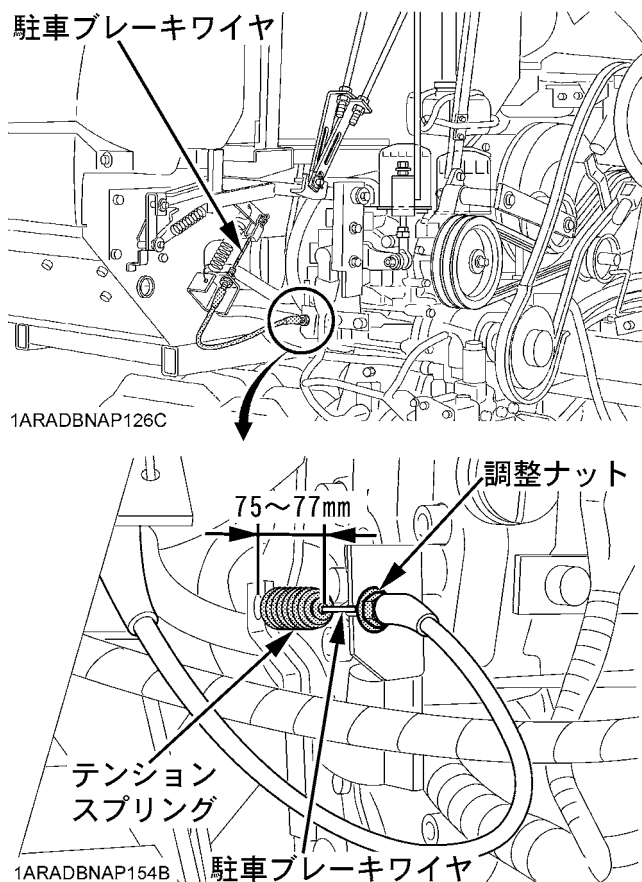
■駐車ブレーキワイヤの点検・調整

警　告

＊ **刈取部の開閉を行なうときは，平たんで安全な場所で，機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
＊ **傾斜地では，刈取部の開閉は行なわないでください。**
＊ **刈取部を開いた状態で作業を行なう場合は，枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。**
＊ **刈取部を開いたときは，閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
＊ **刈取部各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**

テンションスプリングの長さを75～77㎜に調整します。

1. 駐車ブレーキを掛けます。

1ARADBNAP027E

2. 刈取部を開きます。
3. 調整ナット２個をゆるめて，調整します。

4. 調整ナットを締付けます。
5. 刈取部を閉じます。
6. 駐車ブレーキを解除します。

■フィードチェーンオートクラッチワイヤの点検・調整

［SD 仕様］

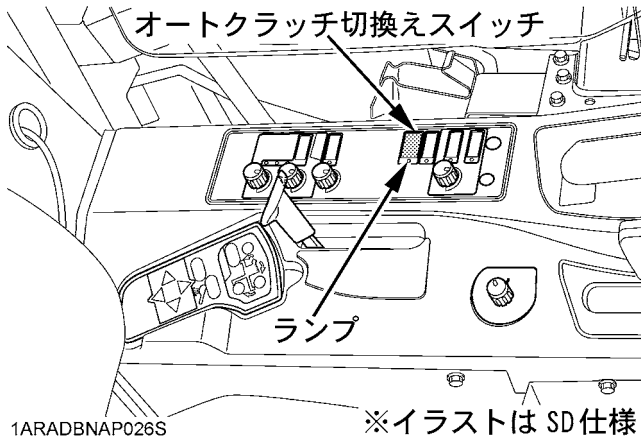
警 告

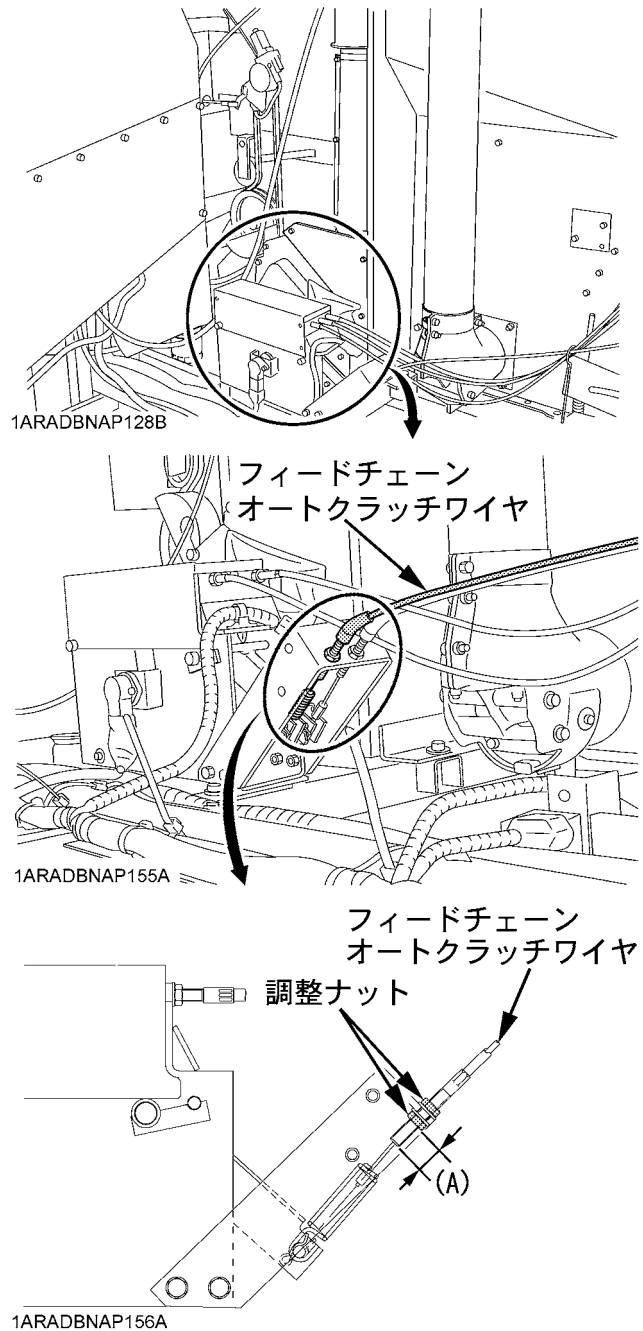
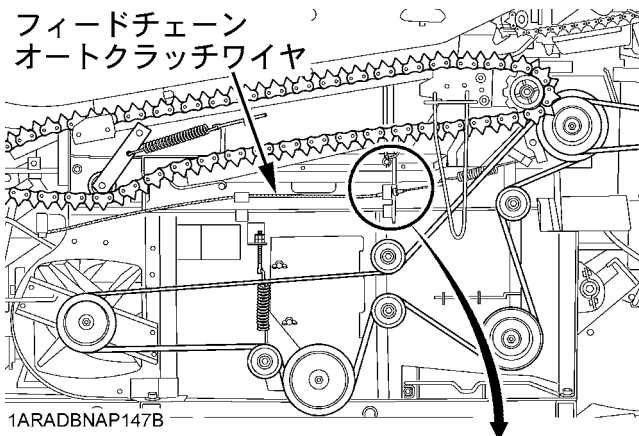
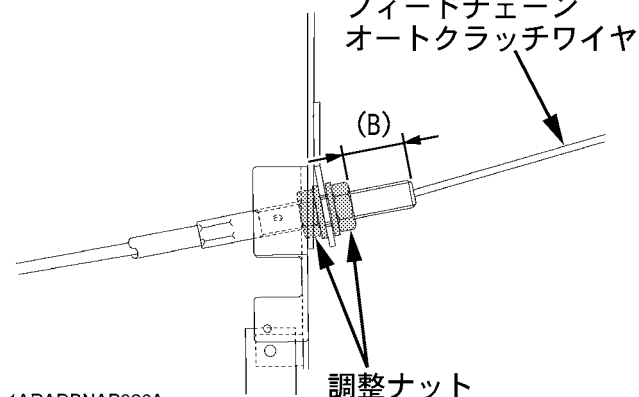
＊ 回転物や可動部に手や腕など身体を近付けないでください。巻込まれてケガをするおそれがあります。特に機械が動いているときに確認を行なうときは，じゅうぶん注意してください。
＊ 木片などで車止めをし，暴走を防いでください。
＊ 傾斜地では副変速レバーを絶対に［N］（中立）位置にしないでください。ブレーキがはたらかないため暴走するおそれがあります。
＊ 平たんで安全な場所で，調整を行なうときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

注 意

＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクの開閉を行なわないでください。
＊ グレンタンクを開いたときは，オープンストッパを必ず掛けてください。
＊ エンジン始動時やクラッチレバーを操作するときは，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

刈取部を上げたとき，刈取部がフィードチェーンと同時か少し早く停止し，刈取部を下げたとき，フィードチェーンが刈取部と同時か少し早く作動するようにワイヤを調整します。

1. 平たんな場所で副変速レバーを **[N]（中立）** 位置にし，エンジンを始動したあとオートクラッチ切換えスイッチを **[入]** にします。

2. 作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置にし，主変速レバーを前進側に操作して刈取部を作動したあと，刈取部を上げ下げし，作動状態を確認します。
3. 刈取部を上げたとき，刈取部が停止したあとにフィードチェーンが停止しない又は，停止するまで極端に遅い場合は，フィードチェーンオートクラッチワイヤの調整を行ないます。
   (1) 作業レバーを **[切]** 位置にしたあと，エンジンを停止します。
   (2) グレンタンクを開きます。
   (3) 左サイドカバー上，下を取外します。
   (4) 脱こく部右側のパワークラッチユニット前方又は，脱こく部左側にあるクラッチワイヤの調整ナット２個をゆるめて下図(A) 又は，(B) 寸法を縮める方向に調整します。

［脱こく部右側］

［脱こく部右側］

［脱こく左側］

［脱こく左側］

(5) 調整ナットを締付けたあと，再度確認を行ないます。

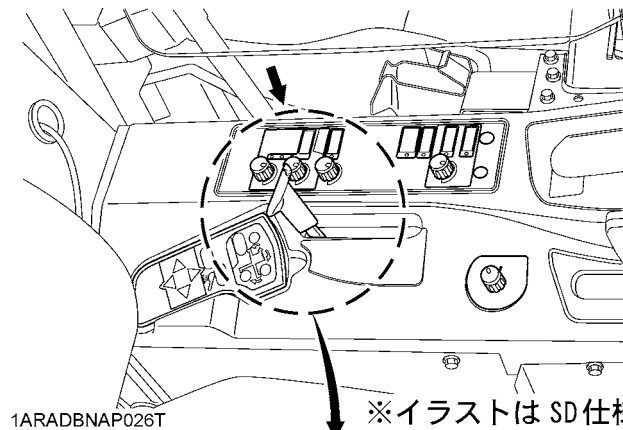
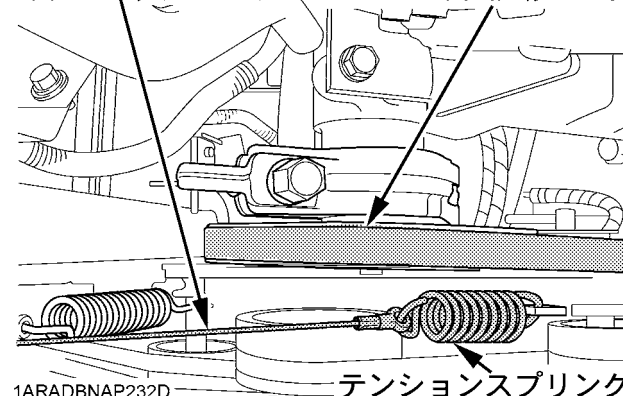
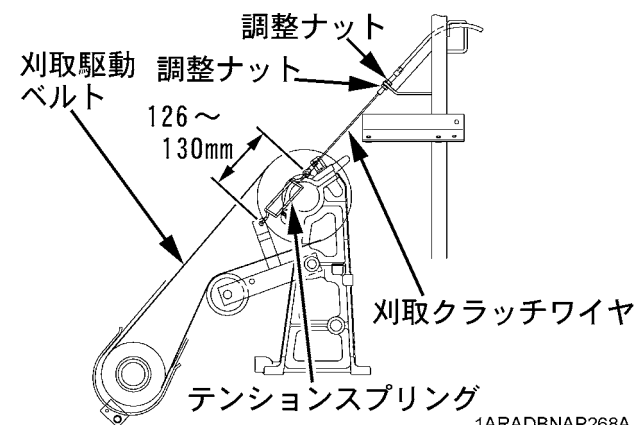
4. グレンタンクを閉じたあと，左サイドカバー上，下を取付けます。

［SD 仕様］

■刈取クラッチワイヤの点検・調整

［HD・SD 仕様］

テンションスプリングの長さを126～130mmに調整します。

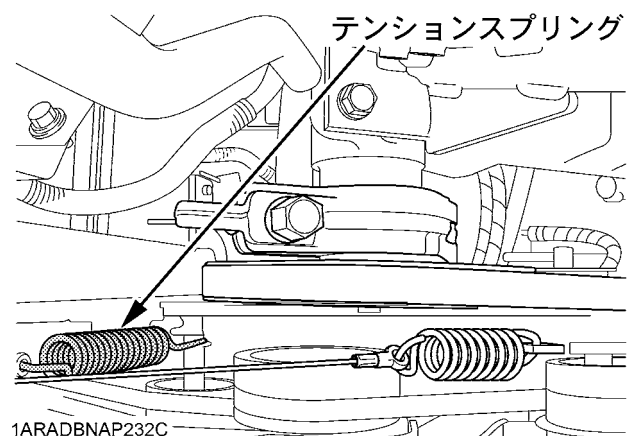
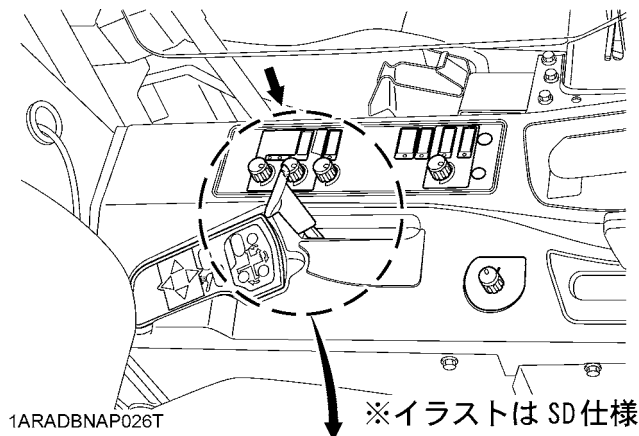
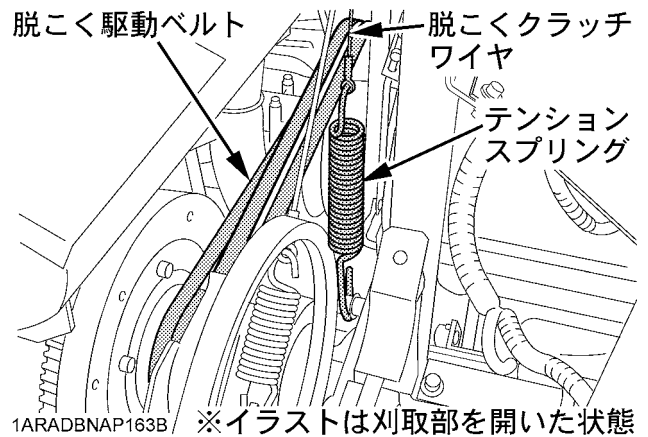
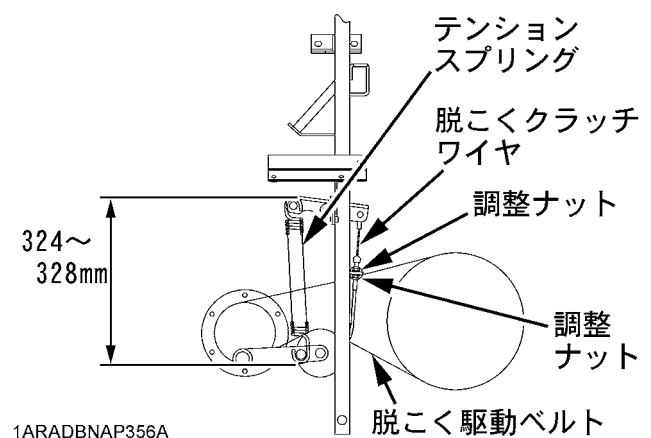
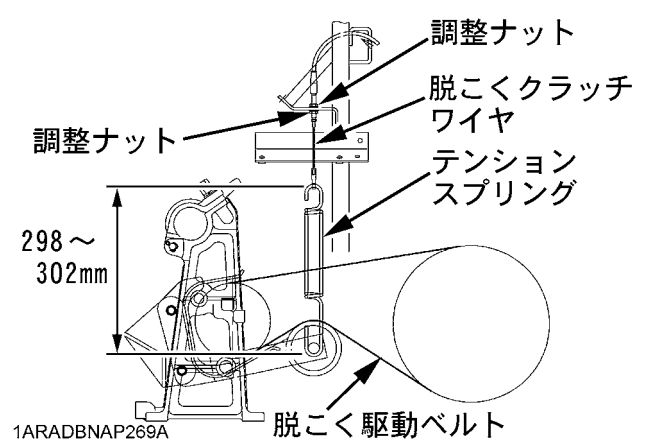
1. メインスイッチのキーを **［入］** 位置にしたあと，作業レバーを**刈取・脱こく［入］**位置にしてテンションスプリングを引張った状態にします。
2. メインスイッチを **［切］** 位置にします。
3. 調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けます。
5. メインスイッチを **［入］** 位置にしたあと，作業レバーを **［切］** 位置にします。

6. メインスイッチのキーを **［切］** 位置にします。

［HD・SD 仕様］

■脱こくクラッチワイヤの点検・調整

[HD・SD 仕様]

テンションスプリングの長さを **[329・335]** は 324 ～ 328mm，**[438・447]** は 298 ～ 302mm に調整します。

1. メインスイッチのキーを **[入]** 位置にしたあと，作業レバーを**刈取 [切]** 位置にしてテンションスプリングを引張った状態にします。
2. メインスイッチを **[切]** 位置にします。
3. 調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けます。
5. メインスイッチを **[入]** 位置にしたあと，作業レバーを **[切]** 位置にします。

6. メインスイッチのキーを **[切]** 位置にします。

[329・335]

[329・335]

[438・447]

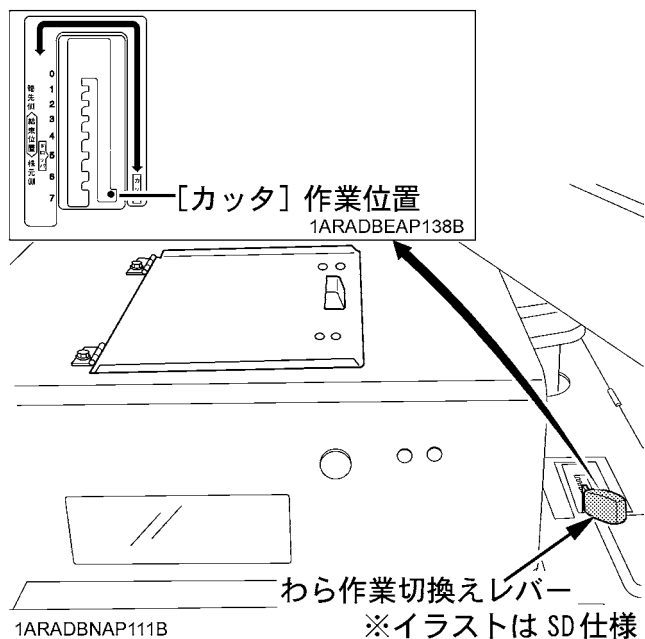
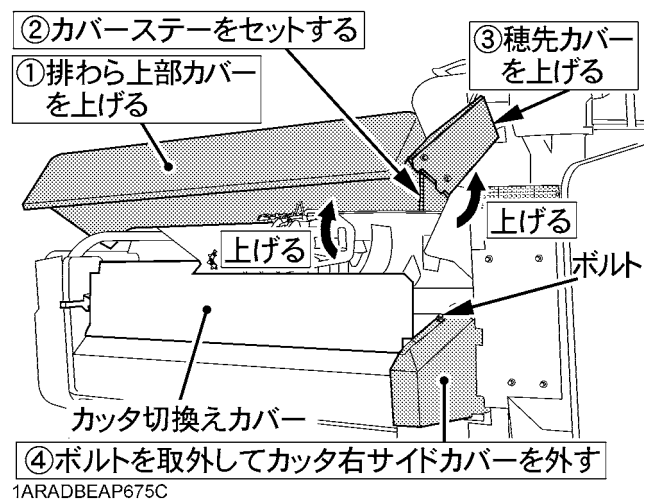
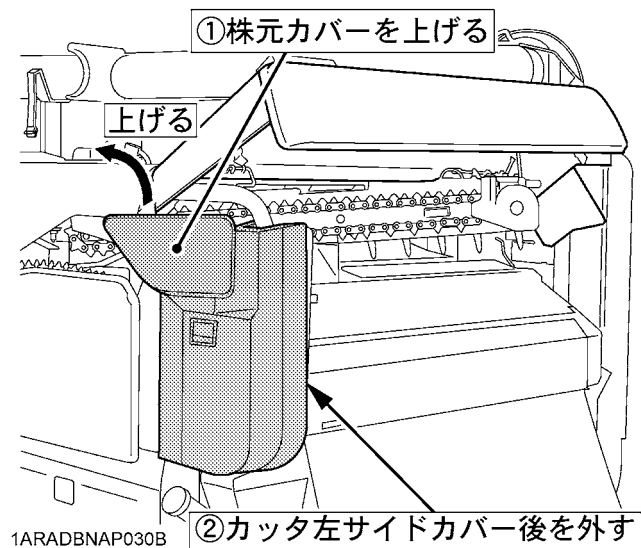
[438・447]

[HD・SD 仕様]

■カッタ切換えカバー開閉ワイヤの点検・調整

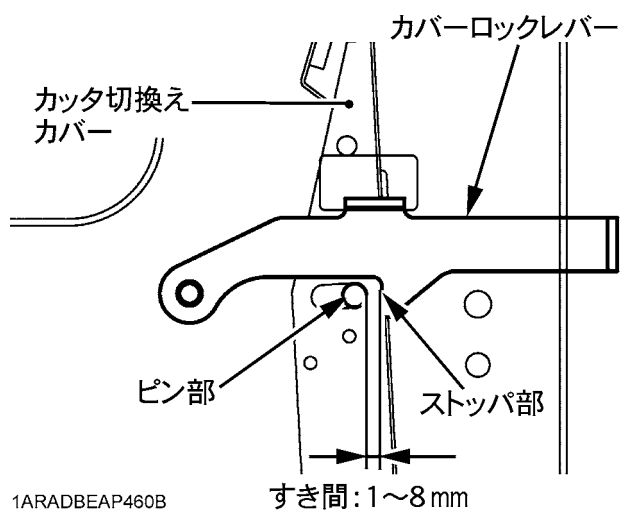
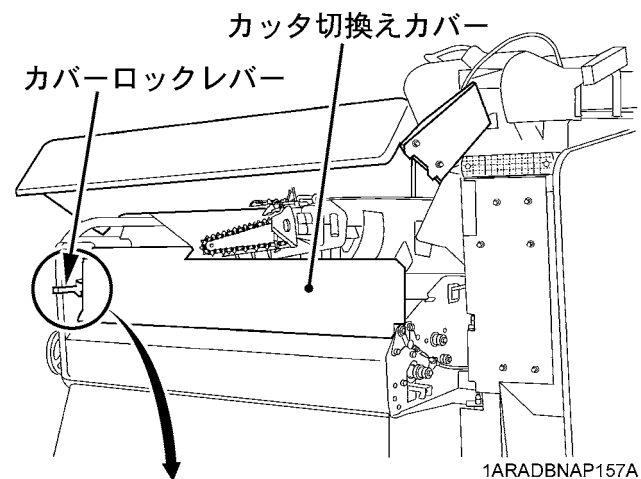
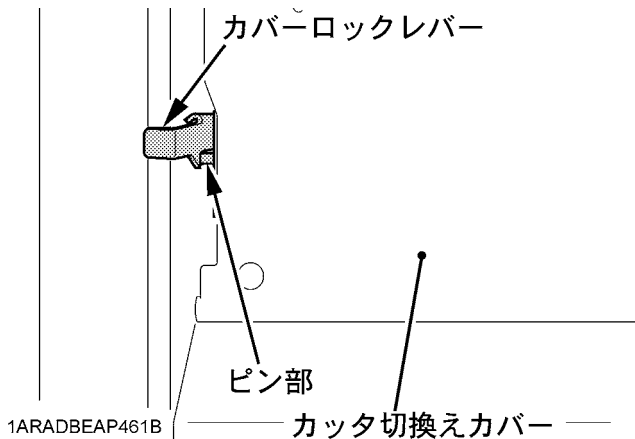
● 排わら切換えカバー

わら作業切換えレバーを［**カッタ**］作業位置にしたときにピンとカッタ切換えカバーのカバーロックレバーのすき間が８㎜以上のときは，カッタ切換えカバーの開閉ワイヤの張り調整を行なってください。

1. わら作業切換えレバーを［**カッタ**］作業位置にします。

2. 排わら上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。そのあと，ボルトを外してカッタ右サイドカバーを取外します。

3. 株元カバーを上げたあと，取手を引いてカッタ左サイドカバー後を外します。

4. カッタ切換えカバーのピン部とカバーロックレバーのストッパ部のすき間を測定します。

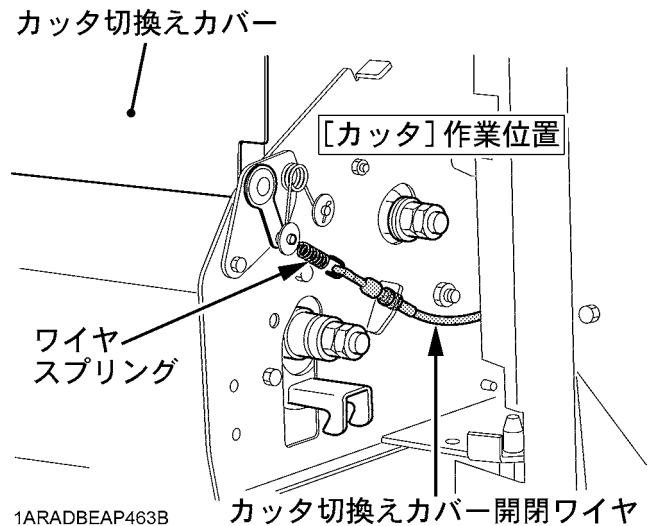
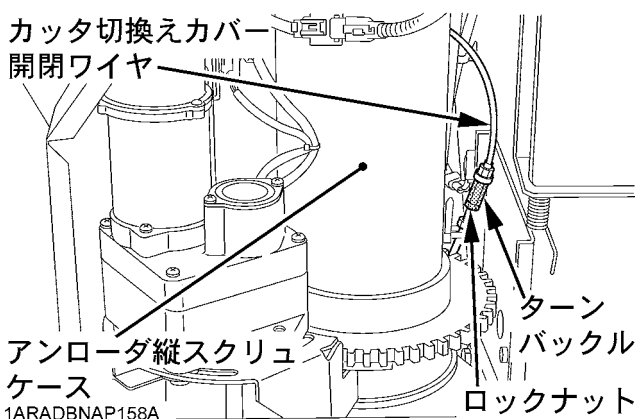
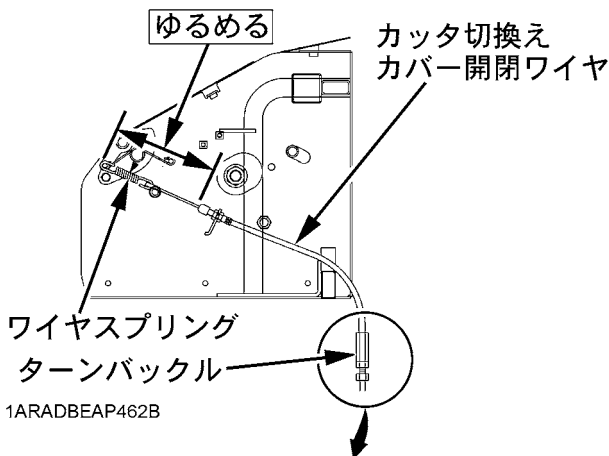
カバーロックレバー

ピン部

1ARADBEAP461B　カッタ切換えカバー

5. すき間が８ mm以上あるときは，すき間を１～８ mmの範囲に調整します。
   (1) わら作業切換えレバーを **［ドロッパ・バラ落とし］** 作業位置にしていったんカッタ切換えカバーを閉じます。
   (2) グレンタンク後部カバーを開き，カッタ切換えカバー開閉ワイヤ調整用のターンバックルのロックナットをゆるめ，ターンバックルを右回転方向に回してワイヤスプリングの張りをゆるめます。
   (3) 再度わら作業切換えレバーを **［カッタ］** 作業位置にします。
   (4) ターンバックルを締付け方向に回しながらすき間を１～８ mmに調整します。

1ARADBEAP462B

1ARADBNAP158A

1ARADBEAP463B

   (5) ターンバックルのロックナットを締付けたあと，グレンタンク後部カバーを閉じます。

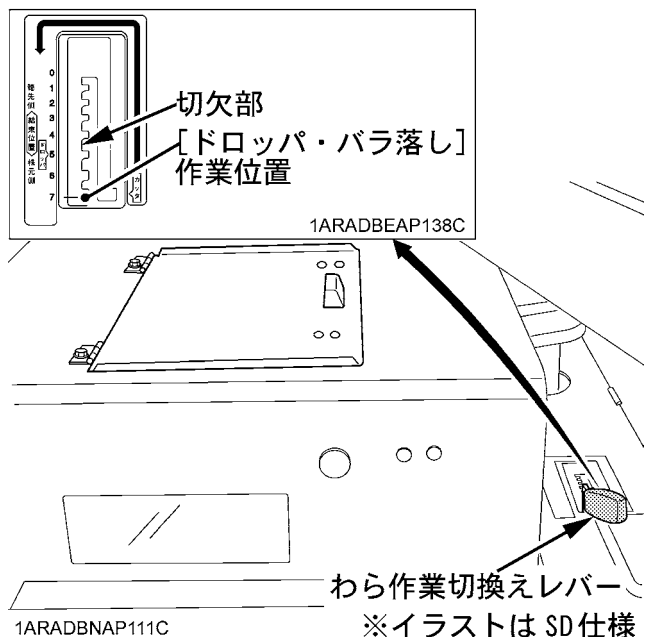
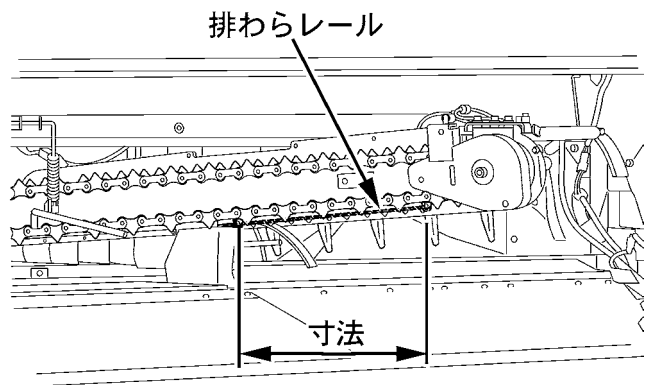
6. カッタ右サイドカバー及びカッタ左サイドカバー後を取付けたあと，株元カバーを降ろします。
7. 排わら上部カバー及び穂先カバーを閉じます。

■排わらレールワイヤの点検・調整

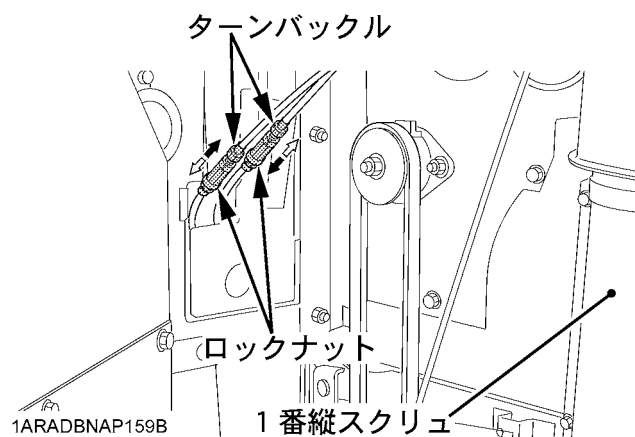
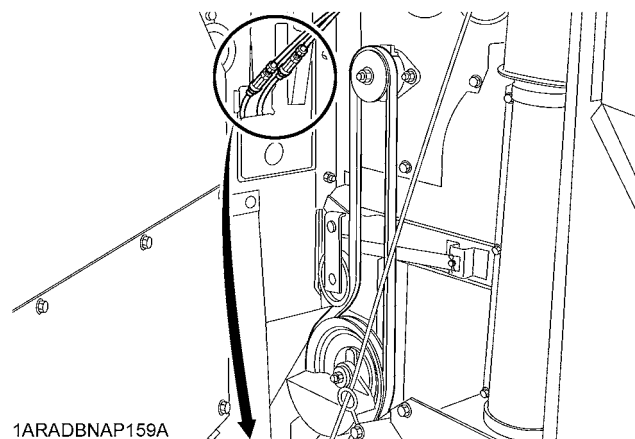
注 意

＊ グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 傾斜地では，グレンタンクの開閉を行なわないでください。

わら作業切換えレバーを **［ドロッパ］** 作業位置にしたとき，排わら株元チェーン下側にある排わらレールの出代を 370 ～ 390mm に調整します。

1. わら作業切換えレバーを **［ドロッパ］** 作業側の切欠部 **［7］** の位置（排わらレールがいっぱいまで出ている位置）にします。

2. 下図の出代の寸法を測定します。

3. グレンタンクを閉じます。

［329・335］

4. 寸法が規定値（370 ～ 390mm）から外れているときは 1 番縦スクリュ後部にある 2 箇所のターンバックルで調整します。ターンバックルのロックナットをゆるめ，ターンバックルを回して調整を行なって，調整後はターンバックルのロックナットを締付けます。

補 足

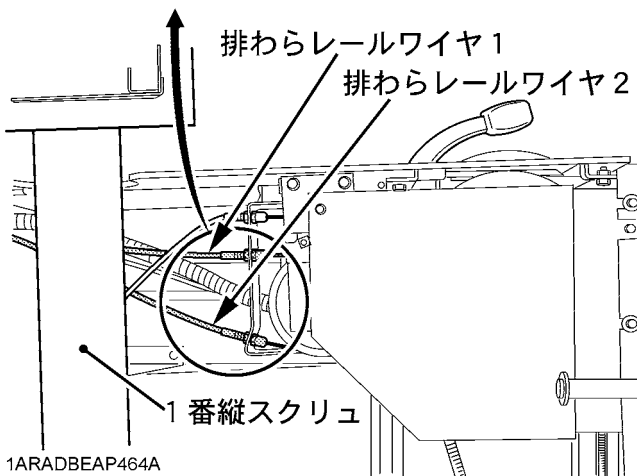
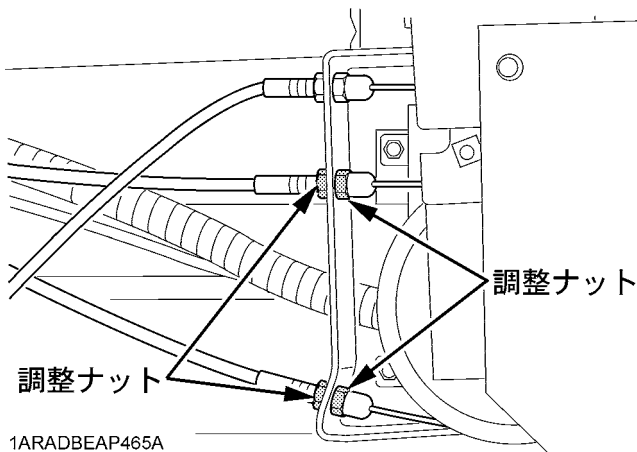
＊ 2 箇所のターンバックルは片方を回転させると同じ量だけ，もう片方も回転させてください。

［329・335］

[438・447]

4. 寸法が規定値（370 ～ 390mm）から外れているときは１番縦スクリュ前部にある２箇所の調整ナットで調整します。調整ナットをゆるめて調整を行ない，調整後は調整ナットを締付けます。

1ARADBEAP465A

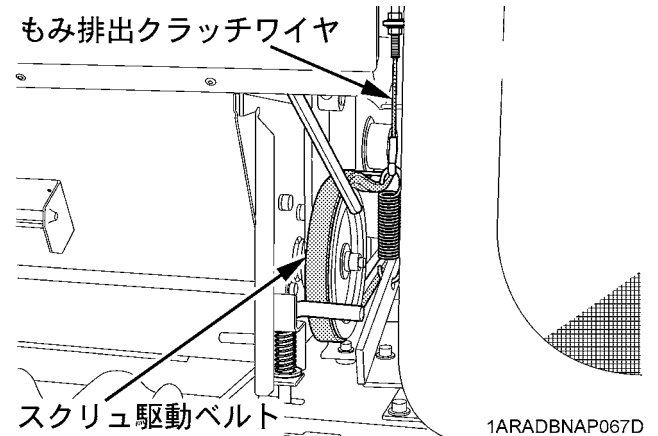
1ARADBEAP464A

[438・447]

5. グレンタンクを閉じます。

■もみ排出クラッチワイヤの点検・調整

[HD・SD 仕様]

調整については，261 ページを参照してください。
（ワイヤとベルトの張り調整は同じです。）

1ARADBNAP067D

[HD・SD 仕様]

■各部ベルトの点検･調整

注　意

＊ 刈取部，引起し部，エンジンルーム，グレンタンク，こぎ胴などの各部を開いて作業を行なうときは，下記事項を遵守してください。
- ● 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
- ● 傾斜地では，各部の開閉は行なわないでください。
- ● 刈取部，引起し部，こぎ胴を開いたときは，閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- ● 各部を開いた状態で走行をしないでください。
- ● 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

＊ 刈取部を開いた状態で作業するときは，枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。

＊ 刈取部の開閉を行なうときは，機体を最下降位置にしてください。[M 仕様]

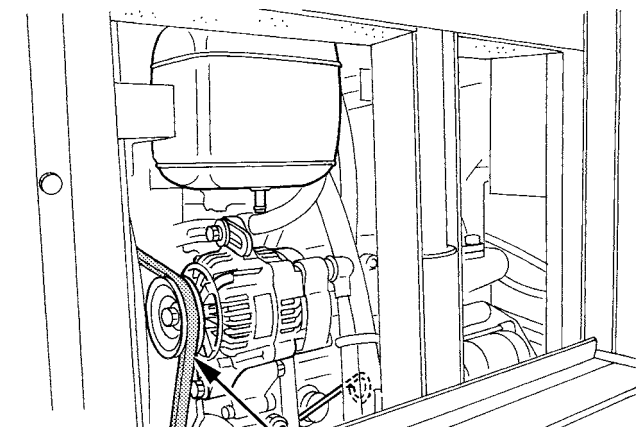
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

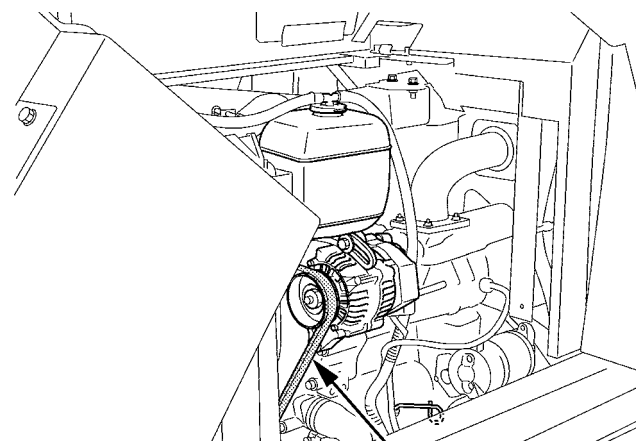
下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検個所	図番	名称	適応機種	サイズ	本数（本／台）	張り調整 テンションスプリング取付け長さ（mm）		張り調整 たわみ量（mm）
エンジン・刈取部周辺	(1)	ファン駆動ベルト	[329・335]	FM38 ブイベルト（コグ）	1	—		10 ～ 12
			[438・447]	A39.5 ブイベルト（コグ）				
	(2)	刈取駆動ベルト	[DX 仕様]	特 B59	1	A	184 ～ 188	—
			[HD・ SD 仕様]				126 ～ 130	
	(3)	ミッション駆動ベルト	[329]	特 B53	2	B	27 ～ 29	—
			[335・438]	特 B54				
			[447]	特 B56				
	(4)	脱こく駆動ベルト	[329・335]	特 B60	2	C	[DX 仕様]：498 ～ 502 [HD・SD 仕様]：324 ～ 328	—
			[438・447]	特 B61	2		[DX 仕様]：498 ～ 502 [HD・SD 仕様]：298 ～ 302	
	(5)	補助搬送（突起付）ベルト	[329・335]	—	3	—		10 ～ 15
			[438・447]		4			
	(6)	コンプレッサ駆動ベルト	[Q 仕様]	特 FM35 コグ	1			9 ～ 10
脱こく部・カッタ部周辺	(7)	こぎ胴ケース駆動ベルト	[329・335]	特 C87	1	D	200 ～ 205	—
			[438]	特 C88	1			
			[447]	特 B88	2			
	(8)	こぎ胴駆動ベルト	[329・335]	特 B55	2	E	233 ～ 238	—
			[438・447]	特 C55			238 ～ 243	
	(9)	１番・２番・チェーン駆動ベルト	[329・335]	特 B139	1	F	250 ～ 255	—
			[438・447]	特 B154				
	(10)	揺動・駆動ベルト	[全機種]	特 B50	1	G	74 ～ 79	—
	(11)	カッタ駆動ベルト	[全機種]	特 B54	1	スプリングの掛け換え		
グレンタンク部	(12)	タンク駆動ケース駆動ベルト	[全機種]	特 B63	1	H	187 ～ 191	—
	(13)	スクリュ駆動ベルト	[全機種]	特 B47	1	I	[DX 仕様]：117 ～ 122 [HD・SD 仕様]：103 ～ 107	—

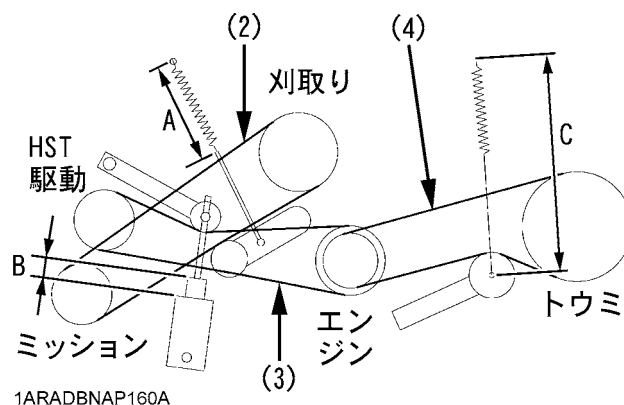
重　要

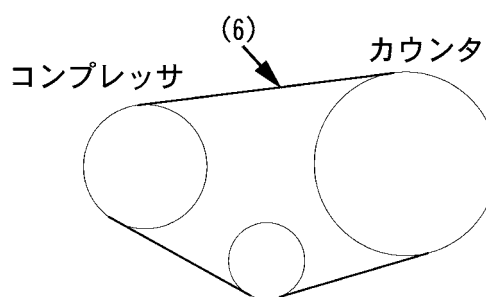
＊ ミッション駆動ベルト，脱こく駆動ベルト，こぎ胴ケース駆動ベルト ，こぎ胴駆動ベルトの交換を行なうときは，2 本同時に交換してください。単品で交換すると，新しく交換したベルトの寿命が短かくなるおそれがあります。

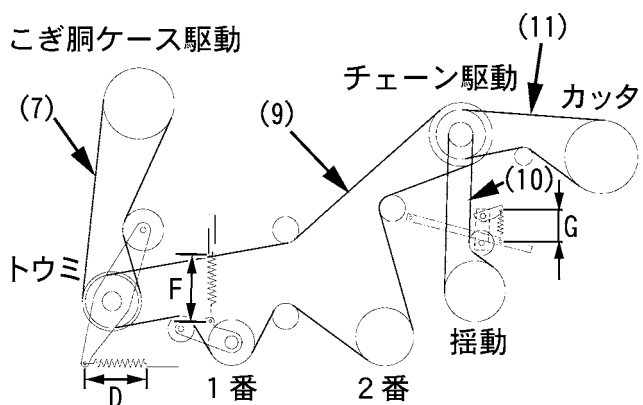
[Q 仕様]

1ARADBEAP293C

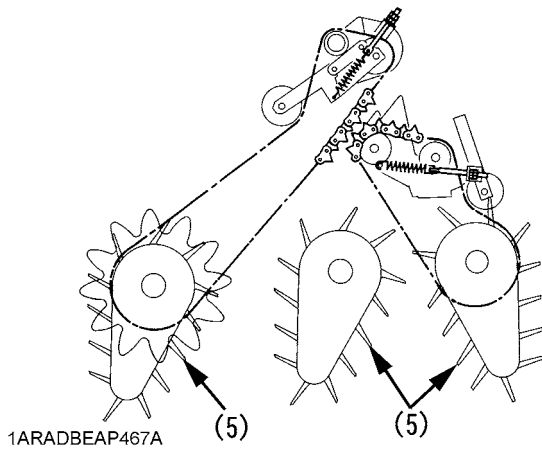
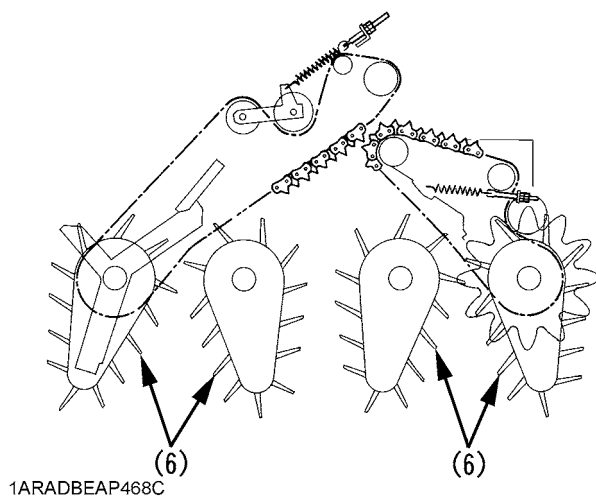
[Q 仕様]

[Q 仕様除く]

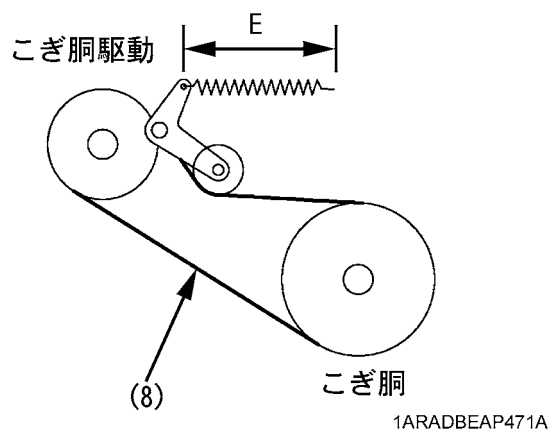
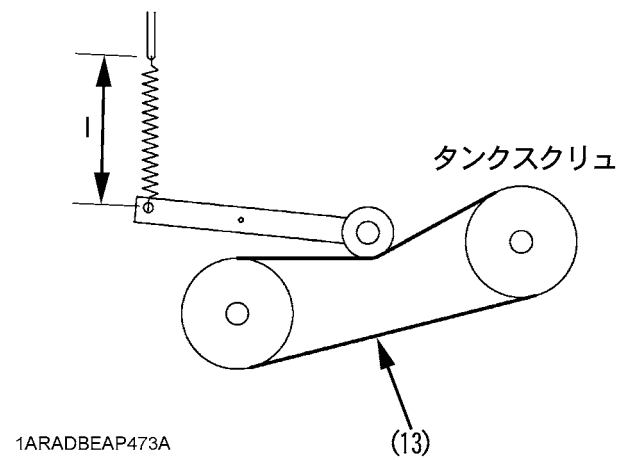
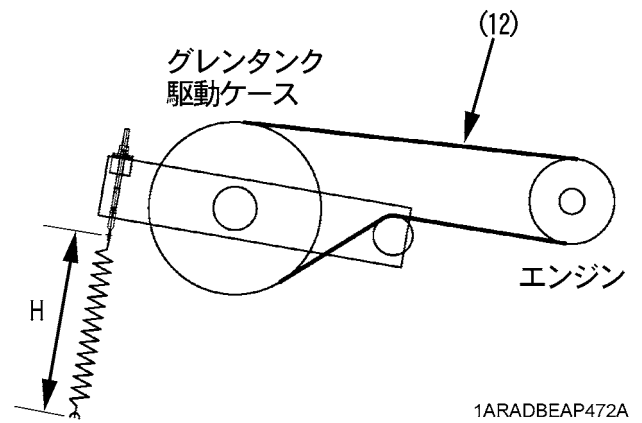
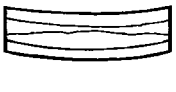
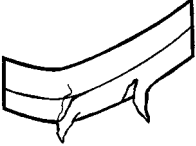
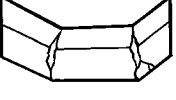
1ARADBNAP130C

[Q 仕様除く]

1ARADBNAP160A

[Q 仕様]

1ARADBNAP161A

[Q 仕様]

1ARADBNAP162A

[329・335]

[438・447]

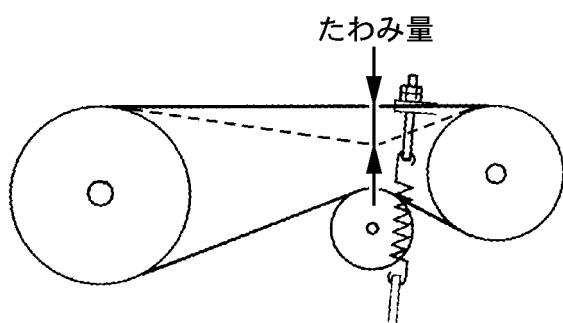
[438・447]

◆ 点検

各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

3. ベルトの伸び（たわみ量）

1ARADBEAP479A

上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

重　要

＊ ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

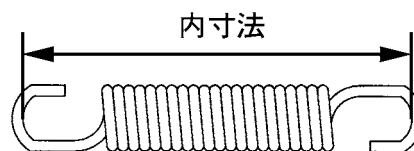
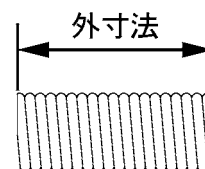
◆ 調整

ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は，張り調整を行なってください。

重　要

＊ テンションスプリングの張り調整が終わり，調整ナット又は，ロックナットを締付けるとき，テンションスプリングをねじれた状態で締付けないでください。破損の原因となります。

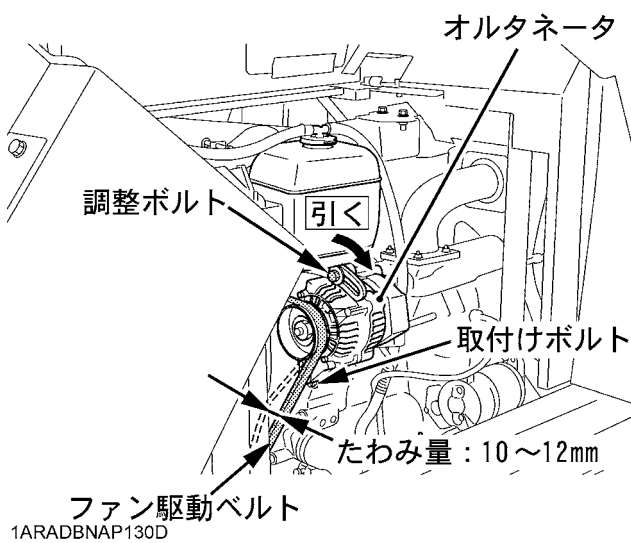
補　足

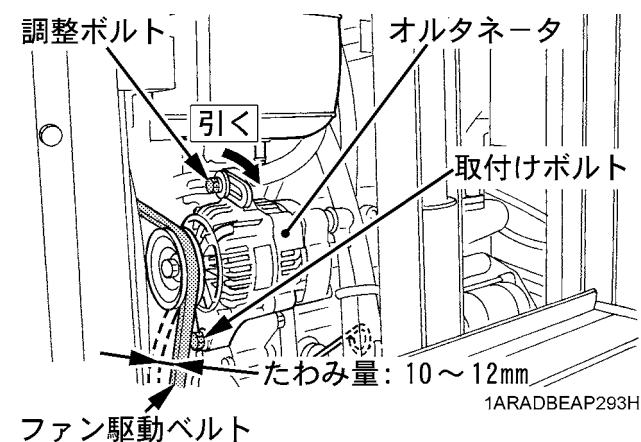
＊ スプリングの取付け長さは，引張りスプリングの場合はフックの内寸法，圧縮スプリングの場合は外寸法を測定してください。

1ARADBEAP480B

1ARADBLAP199A

■ファン駆動ベルトの点検・調整

指先でベルトの中央部を押したとき（約 100 ～ 112N {10 ～ 11kgf} の荷重）のたわみ量を 10 ～ 12mm に調整します。

1. **［Q 仕様除く］**はエンジンルームを開く又は，**［Q 仕様］**は運転席下カバーを取外します。
2. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. オルタネータを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。

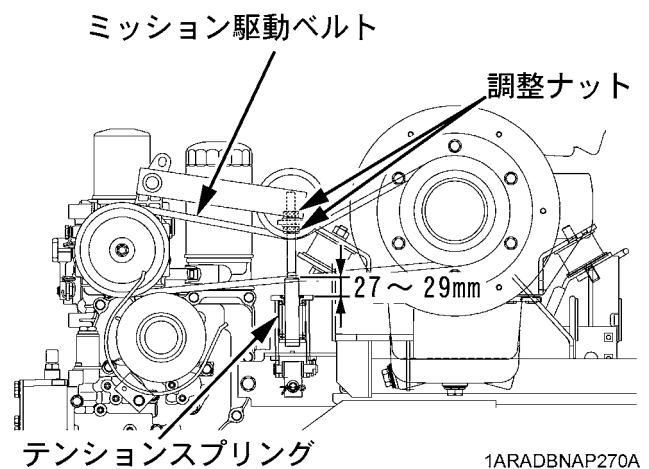
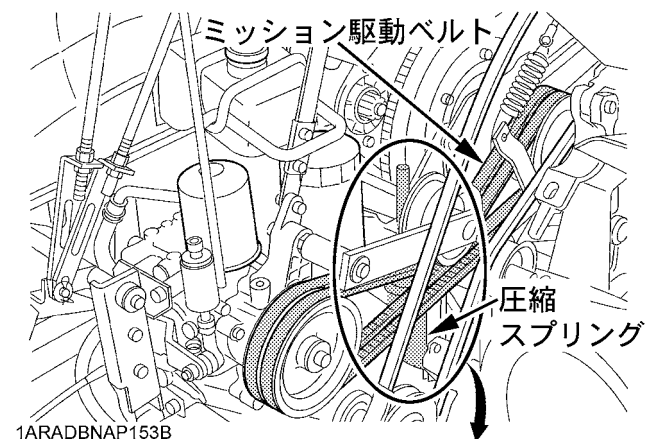
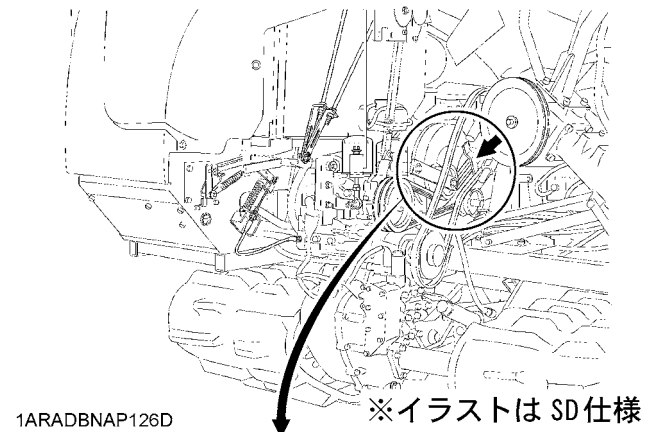
［Q 仕様除く］

［Q 仕様除く］

［Q 仕様］

［Q 仕様］

5. **［Q 仕様除く］**はエンジンルームを閉じる又は，**［Q 仕様］**は運転席下カバーを取付けます。

■ミッション駆動ベルトの点検・調整

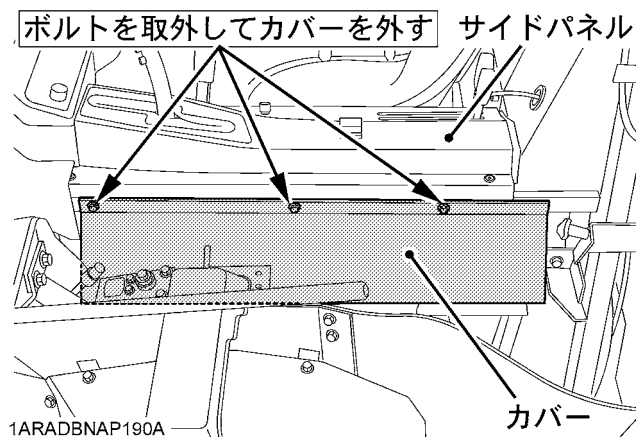
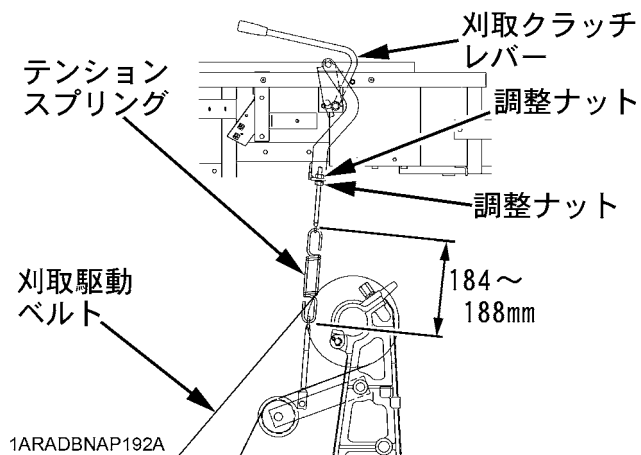
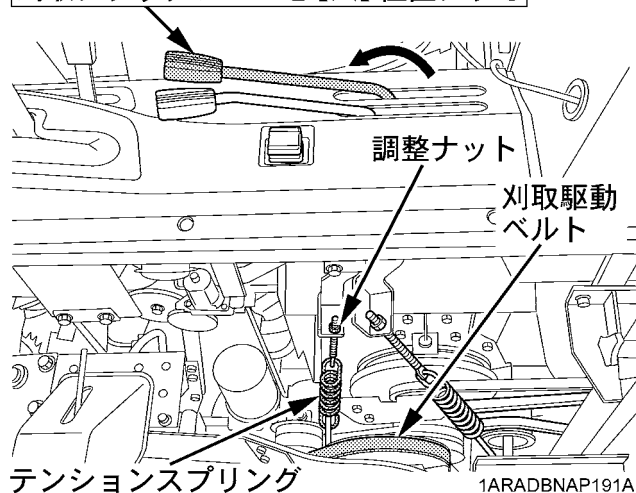
圧縮スプリングの長さを27～29mmに調整します。

1. 刈取部を開きます。
2. 調整ナット２箇所をゆるめて，調整を行ないます。

3. 調整ナットを締付けたあと，刈取部を閉じます。

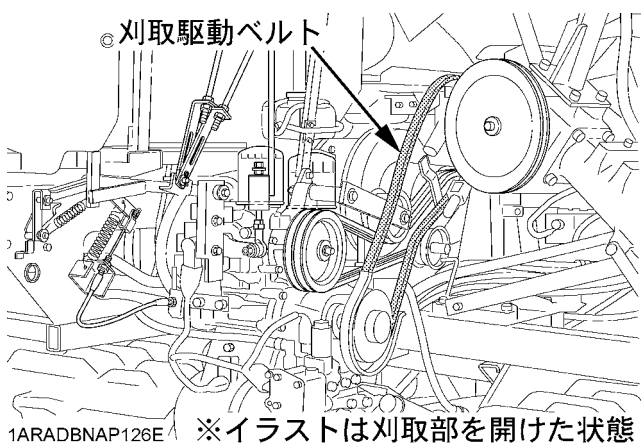
■刈取駆動ベルトの点検･調整

[DX 仕様]

テンションスプリングの長さを184～188mmに調整します。

1. 運転席左側のサイドパネル下側にあるカバーを取外します。

2. 刈取クラッチレバーを【入】位置にします。
3. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けたあと，カバーを取付けます。
5. 刈取クラッチレバーを【切】位置にします。

[DX 仕様]

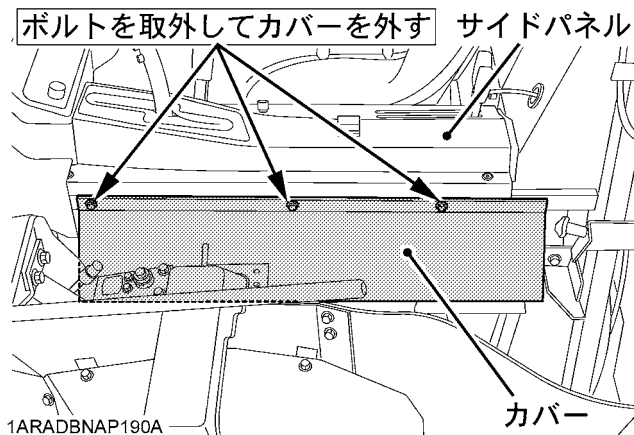
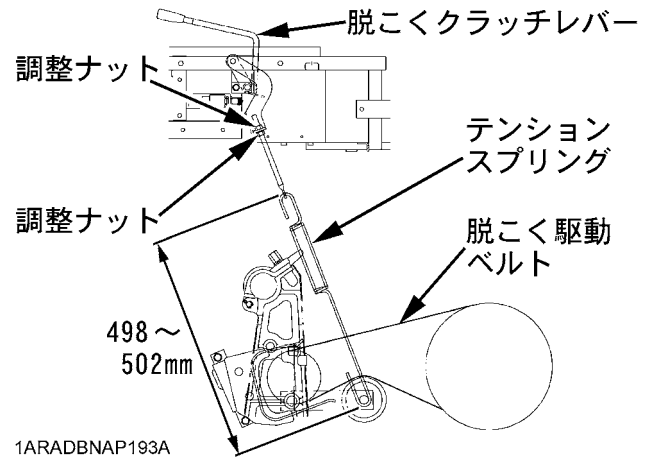
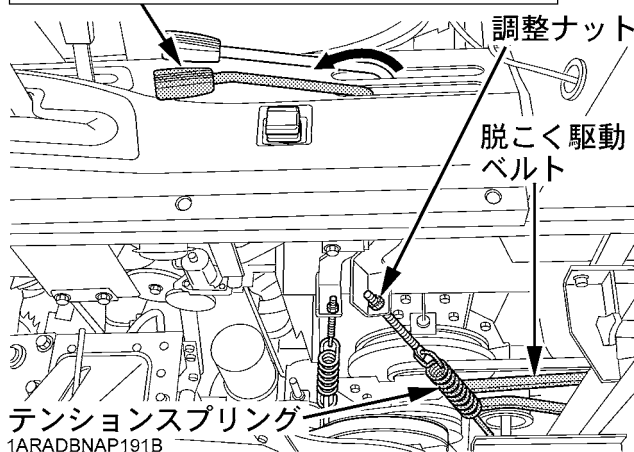
[HD・SD 仕様]

調整については，242ページを参照してください。（ワイヤとベルトの張り調整は同じです。）

[HD・SD 仕様]

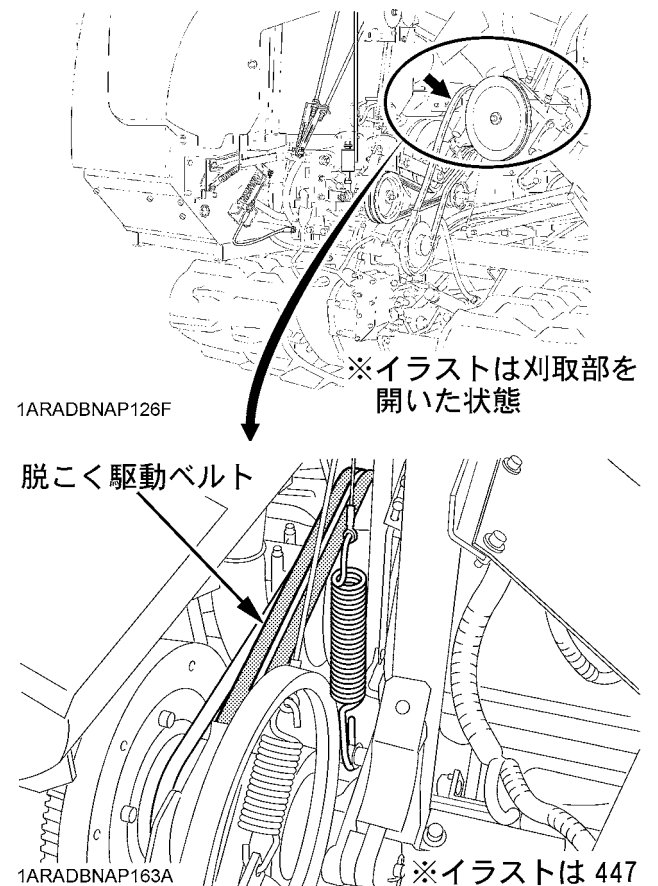
■脱こく駆動ベルトの点検･調整

[DX 仕様]

テンションスプリングの長さを498～502mmに調整します。

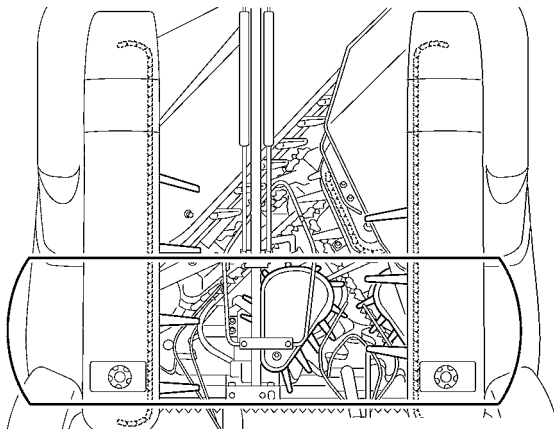
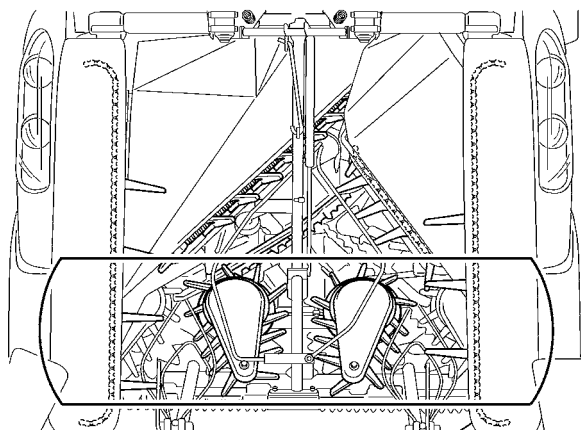
1. 運転席左側のサイドパネル下側にあるカバーを取外します。

2. 脱こくクラッチレバーを **[入]** 位置にします。
3. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けたあと，カバーを取付けます。
5. 脱こくクラッチレバーを **[切]** 位置にします。

[DX 仕様]

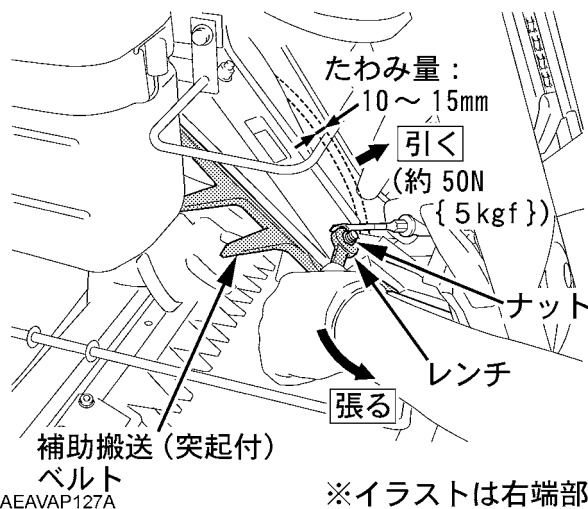
[HD・SD 仕様]

調整については,243ページを参照してください。（ワイヤとベルトの張り調整は同じです。）

[HD・SD 仕様]

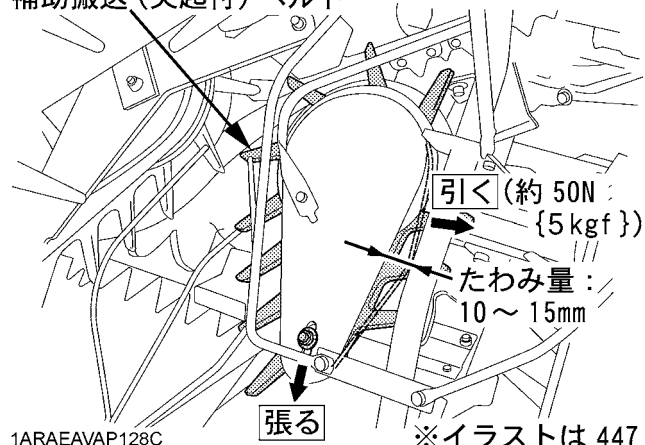
■補助搬送（突起付）ベルトの点検･調整

指先でベルトの中央部を引いたとき（約50N{5kgf} の荷重）のたわみ量を 10 ～ 15mm に調整します。

1. 引起しサイドカバー左，右を取外します。
2. 引起し部を上側に開きます。
3. ナットをゆるめます。
4. 両端部は固い棒（鉄の棒など）を切欠き部に差込み，張り方向に押しながらレンチでナットを締付けます。
5. 両端部以外はナットを少しゆるめて，樹脂ハンマーなどでナット取付部を前方に少しずつ張りながらベルトの調整を行なったあとナットを締付けます。
6. 引起しサイドカバー左，右を取付けます。
7. 引起し部を閉じます。

※イラストは 329･335

※イラストは 438･447

［両端部］

※イラストは右端部

［両端部］

［両端部以外］

※イラストは 447

［両端部以外］

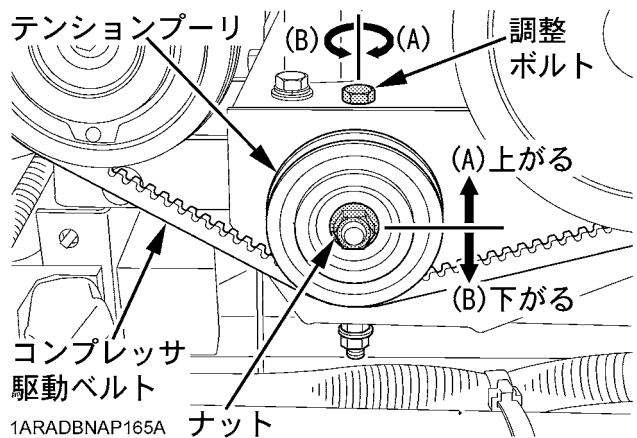
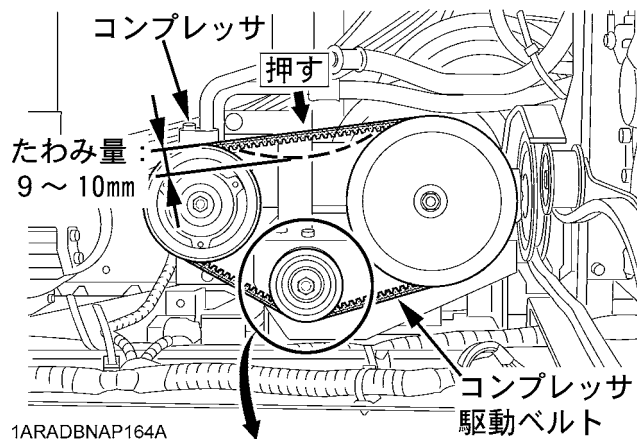
■コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整

[Q 仕様]

指先でベルトの中央部を押したとき（約 100N {10kgf} の荷重）のたわみ量を９～ 10mm に調整します。

1. グレンタンクを開きます。
2. テンションプーリを固定しているナットをゆるめて，調整ボルトを回して調整を行ないます。

1ARADBNAP164A

1ARADBNAP165A

3. テンションプーリを固定するナットを締付けます。
4. グレンタンクを閉じます。

補　足

＊ テンションプーリを固定した状態で調整ボルトを回さないでください。
＊ 調整ボルトを（A）方向に回すとテンションプーリは上がり，（B）方向に回すとテンションプーリは下がります。

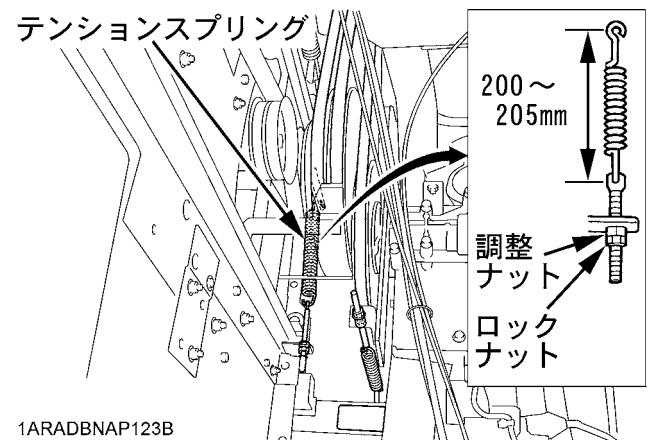
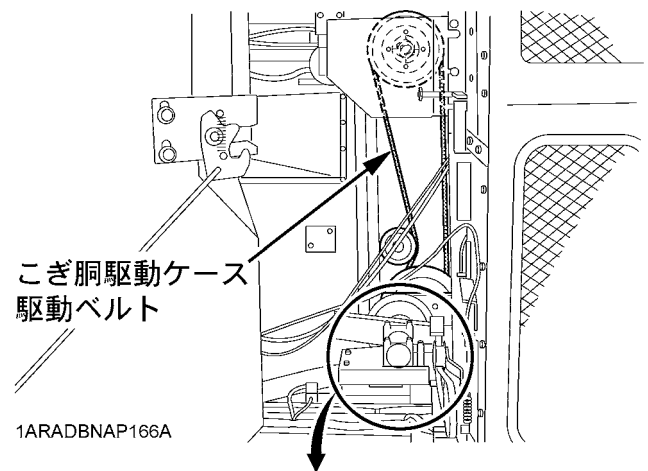
[Q 仕様]

■こぎ胴駆動ケース駆動ベルトの点検・調整

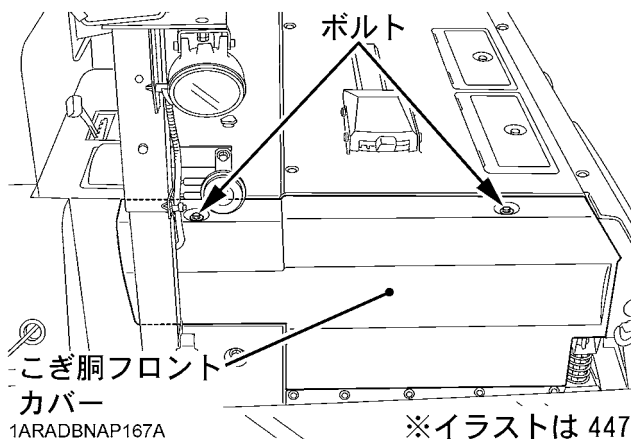
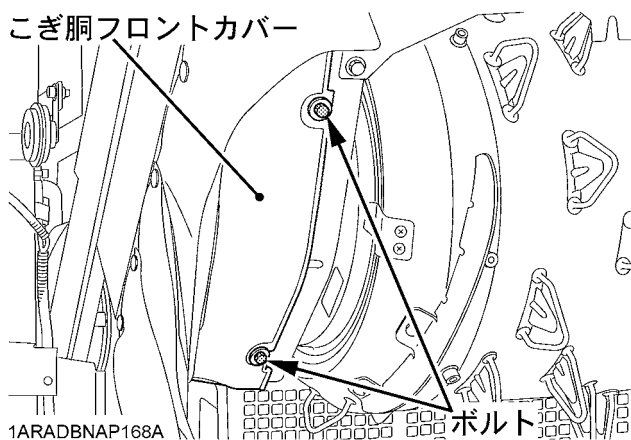
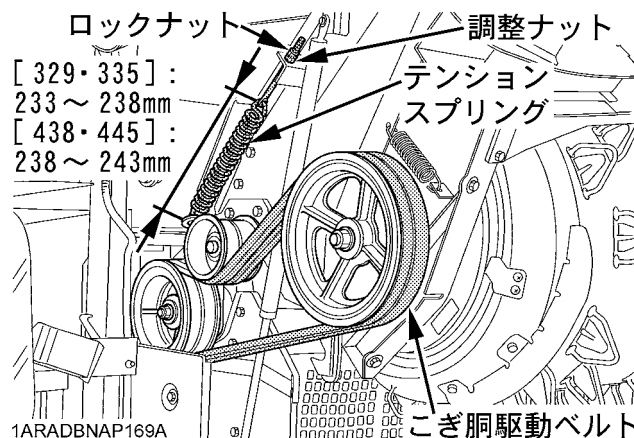
テンションスプリングの長さを 200 ～ 205mm に調整します。

1. グレンタンクを開きます。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じます。

1ARADBNAP166A

1ARADBNAP123B

■こぎ胴駆動ベルトの点検･調整

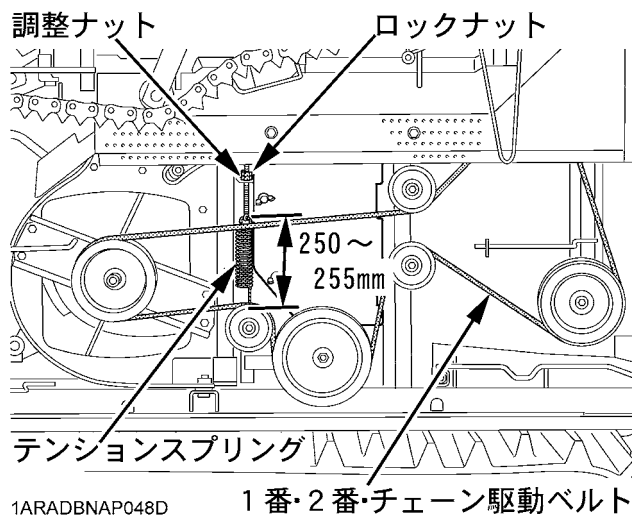
テンションスプリングの長さを **[329・335]** は 233 ～ 238mm, **[438・447]** は 238 ～ 243mm に調整します。

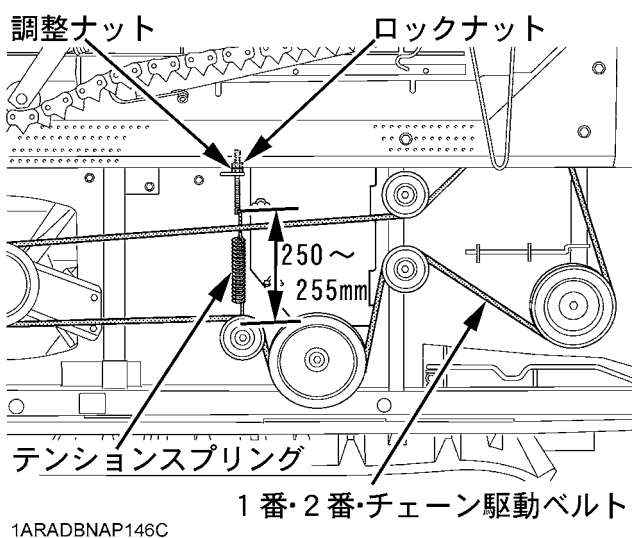
1. こぎ胴フロントカバーを取外します。
   (1) フロントカバー上部のボルト２本を取外します。

   (2) こぎ胴を開きます。
   (3) フロントカバー下部のボルト２本をゆるめたあと, フロントカバーを取外します。

2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

3. ロックナットを締付けたあと，こぎ胴フロントカバーを取付けます。
4. こぎ胴を閉じます。

■1番・2番・チェーン駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを250～255mmに調整します。

1. 左サイドカバー上・下を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，左サイドカバー上・下を取付けます。

[329・335]

[329・335]

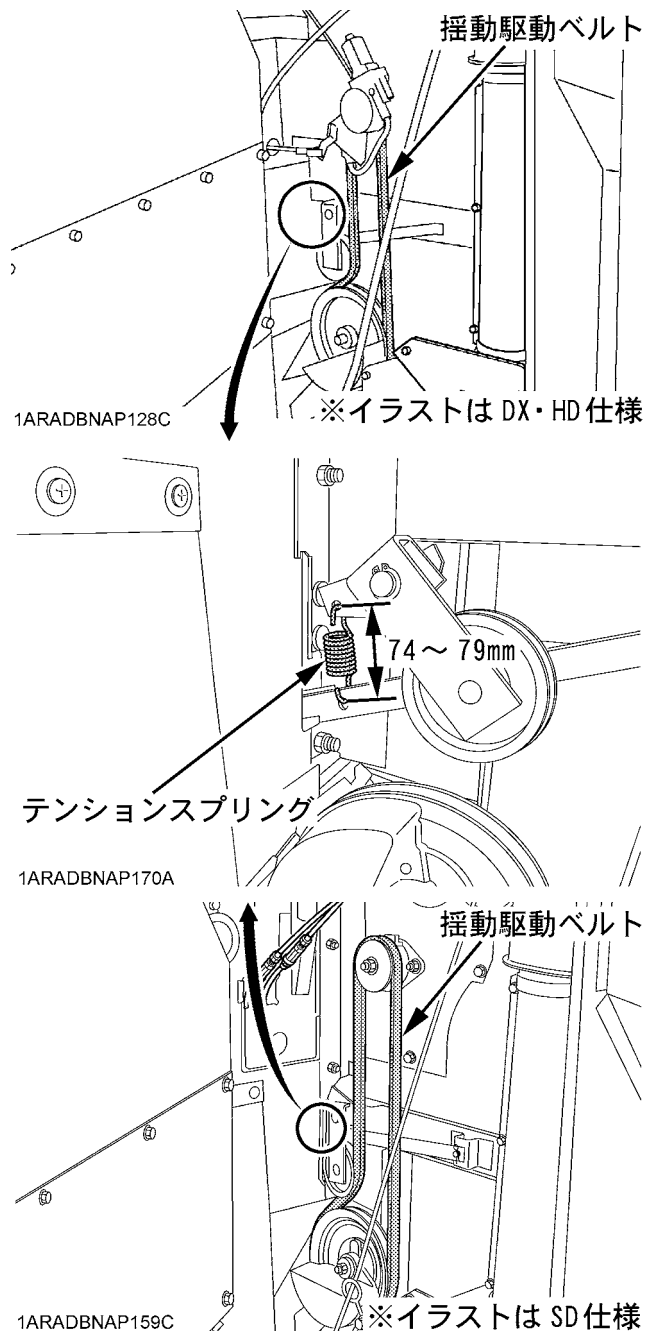
[438・447]

[438・447]

■揺動駆動ベルトの点検

揺動駆動ベルトが伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。

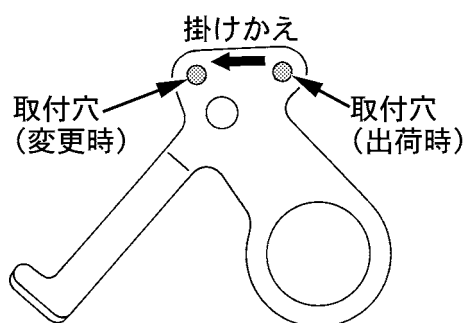
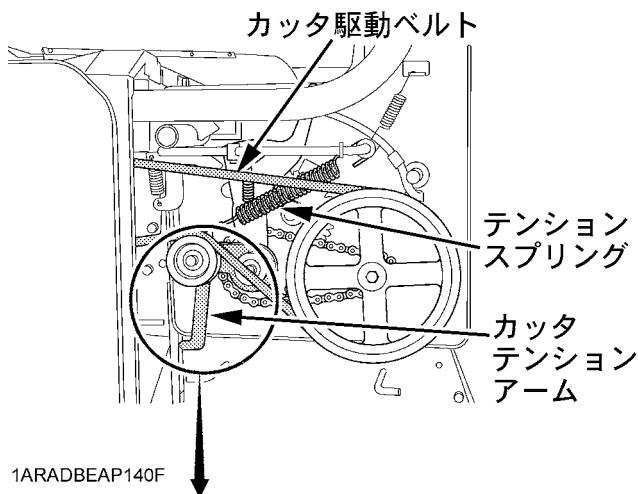
補 足

＊ テンションスプリングが張られた状態の長さは74～79mmです。

1. グレンタンクを開きます。
2. 点検を行なったあと，グレンタンクを閉じます。

■カッタ駆動ベルトの点検

カッタ左サイドカバー後を取外し，ベルトの張りが弱いときは，テンションスプリングを取付けているカッタテンションアーム側の取付穴の位置を変更（掛けかえ）したあと，カッタ左サイドカバーを取付けてください。

1ARADBEAP140F

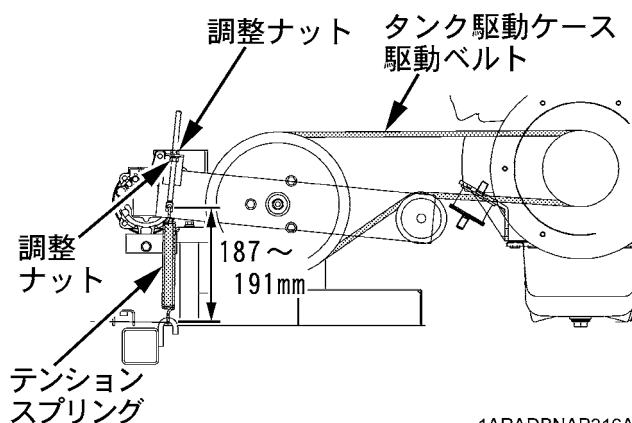
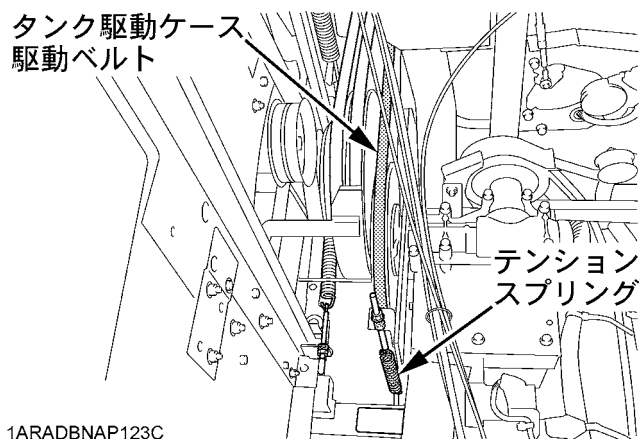
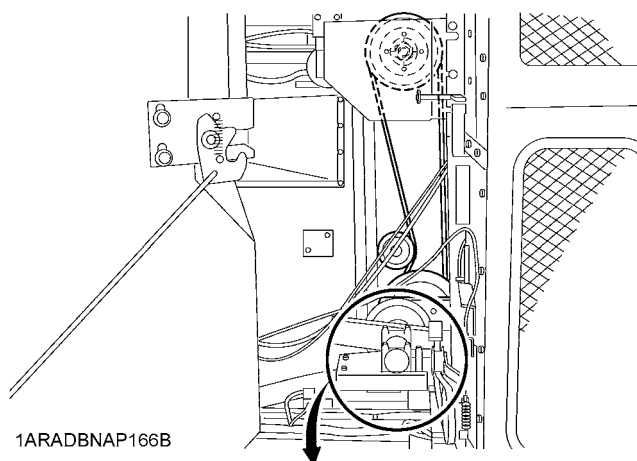
1ARADBEAP494A

■タンク駆動ケース駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを187～191㎜に調整します。

1. グレンタンクを開きます。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じます。

1ARADBNAP166B

1ARADBNAP123C

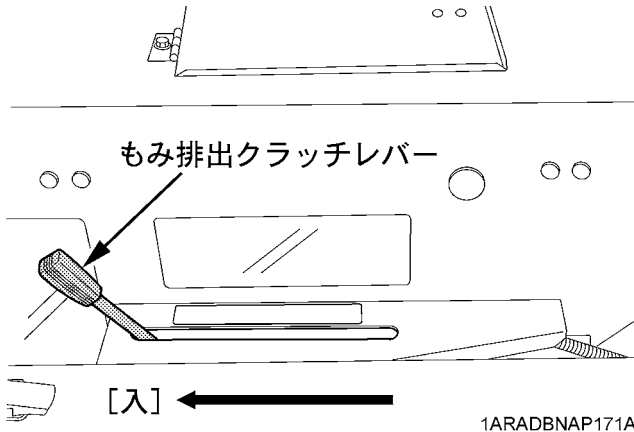
1ARADBNAP316A

■スクリュ駆動ベルトの点検・調整

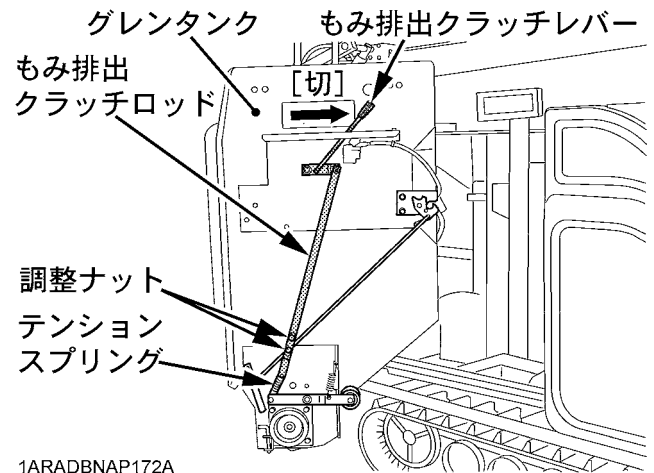
[DX 仕様]

テンションスプリングの長さを117～122mmに調整します。

1. もみ排出クラッチレバーを **【入】** 位置にします。
2. グレンタンク下カバーを取外します。
3. テンションスプリングの長さを測定します。

1ARADBNAP171A

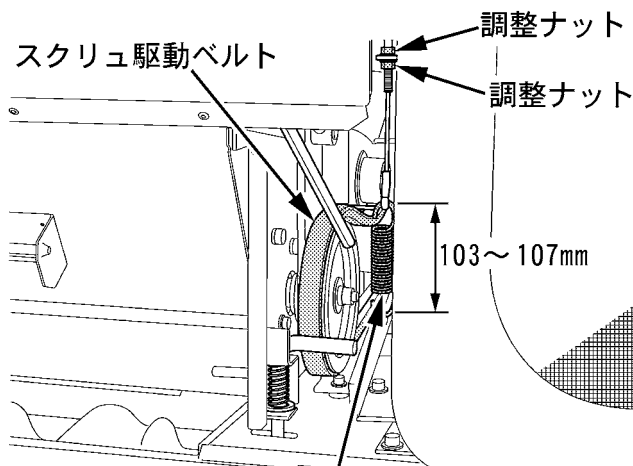
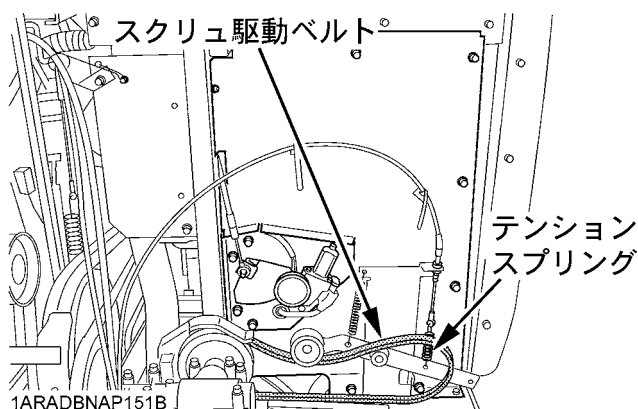
1ARADBEAP108C

4. 規定値（117～122mm）から外れているときはもみ排出クラッチレバーをいったん **【切】** 位置にしたあと，グレンタンクを開きます。
5. もみ排出クラッチロッド中間位置にある2箇所の調整ナットをゆるめて，調整を行ないます。

1ARADBNAP172A

6. 2箇所の調整ナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じてスクリュ駆動ベルトを取付けます。
7. もみ排出クラッチレバーを **【入】** 位置にしてテンションスプリングが規定値になっていることを確認します。
8. グレンタンク下カバーを取付けます。

[DX 仕様]

［HD・SD仕様］

テンションスプリングの長さを103～107mmに調整します。

1. メインスイッチのキーを**［入］**位置にしたあと，もみ排出スイッチを押してテンションスプリングを引張った状態にします。
2. メインスイッチを**［切］**位置にします。
3. グレンタンク下カバーを取外します。
4. 調整ナット2個をゆるめて調整を行ないます。
5. 調整ナットを締付けたあと，グレンタンク下カバーを取付けます。
6. メインスイッチのキーを**［入］**位置にし，もみ排出停止スイッチを押したあと，メインスイッチのキーを**［切］**位置にします。

※イラストはグレンタンクを開いた状態

［HD・SD仕様］

■各部チェーンの点検･調整

＊ 刈取部，引起し部などの各部を開いて作業を行なうときは，下記事項を遵守してください。
- **平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- **傾斜地では，各部の開閉は行なわないでください。**
- **刈取部，引起し部を開いたときは，閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
- **各部を開いた状態で走行をしないでください。**
- **各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**

＊ 刈取部を開いた状態で作業するときは，枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。

＊ 刈取部の開閉を行なうときは，機体を最下降位置にしてください。

＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

◆ 点検

各部のチェーンを点検して，ゆるみがあるときは調整してください。

● 点検箇所

[329・335]

[329・335]

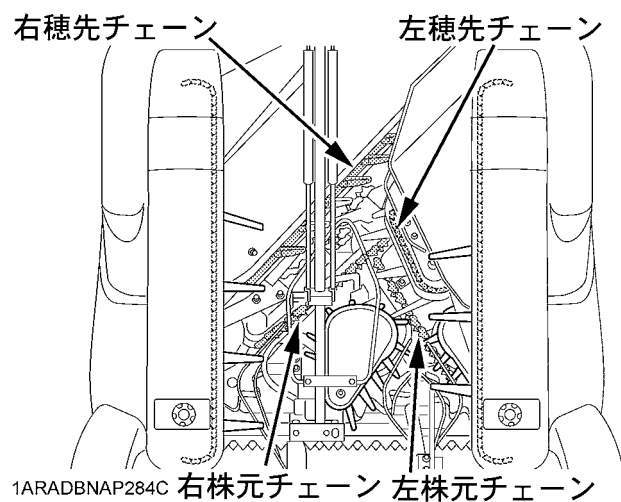
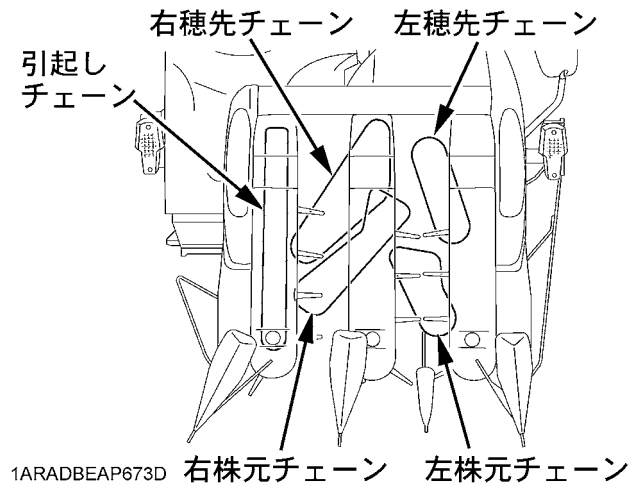
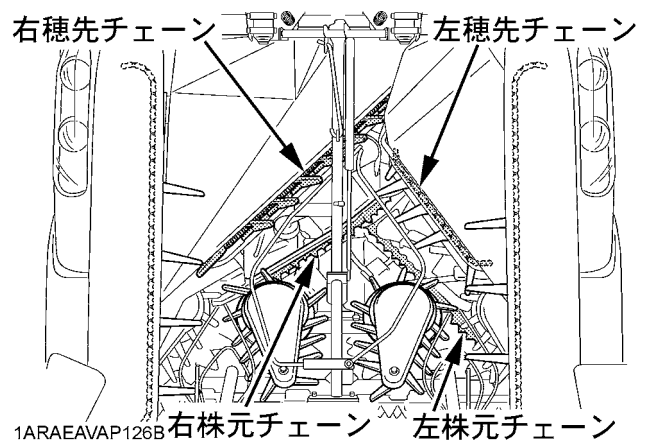
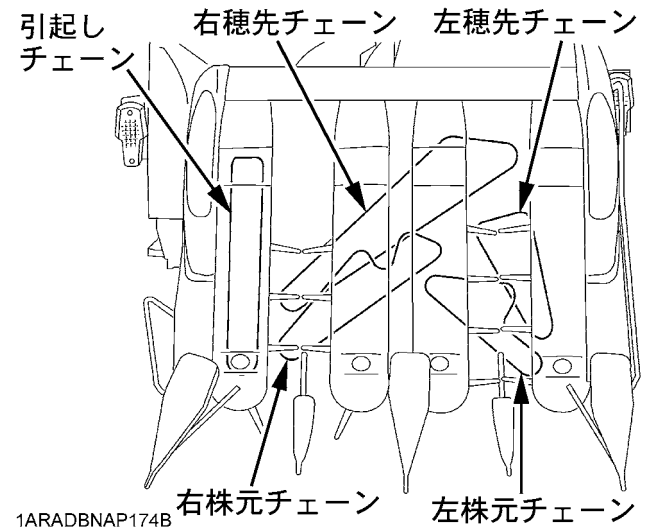
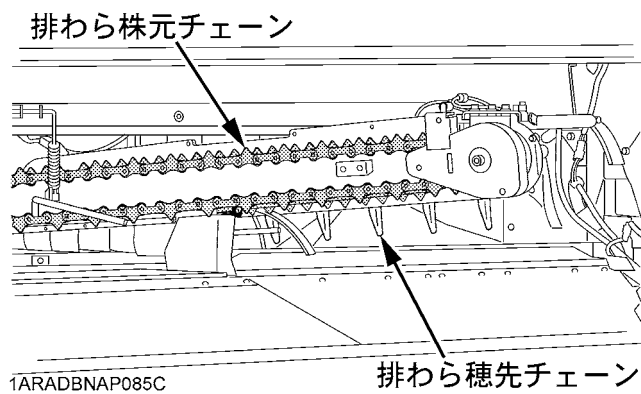
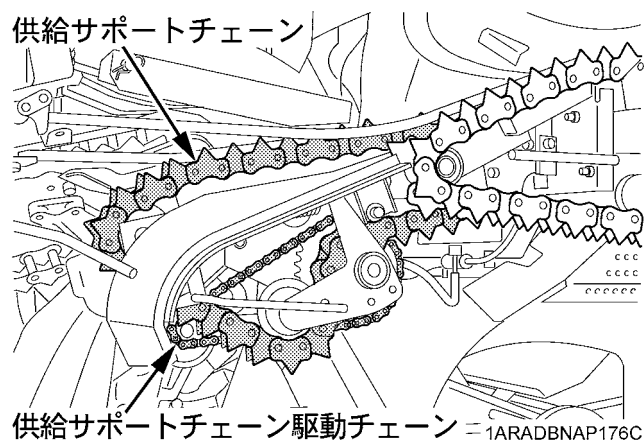
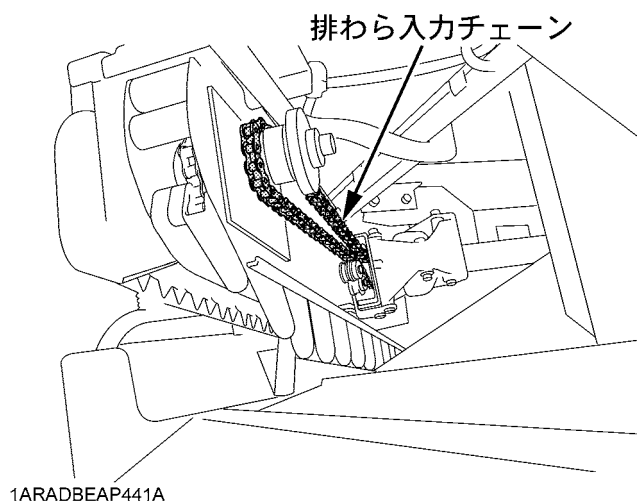
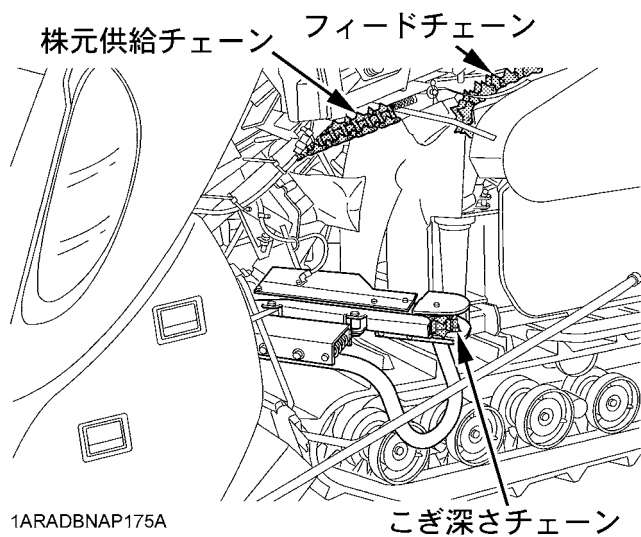
[438・447]

[438・447]

株元供給チェーン
フィードチェーン
こぎ深さチェーン
1ARADBNAP175A

排わら入力チェーン
1ARADBEAP441A

供給サポートチェーン
供給サポートチェーン駆動チェーン
1ARADBNAP176C

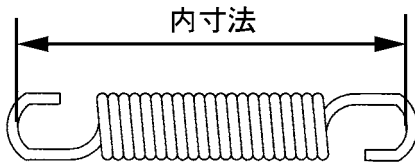
排わら株元チェーン
排わら穂先チェーン
1ARADBNAP085C

◆ **調整**

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

重 要

＊ テンションスプリングの張り調整が終わり，調整ナット又は，ロックナットを締付けるとき，テンションスプリングをねじれた状態で締付けないでください。破損の原因となります。

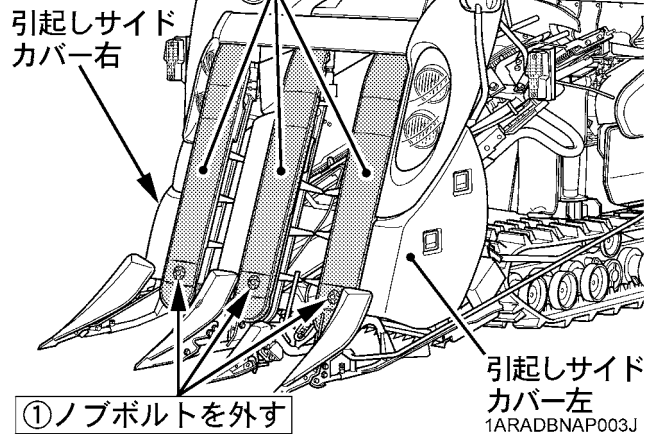
補 足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

1ASADACAP390A

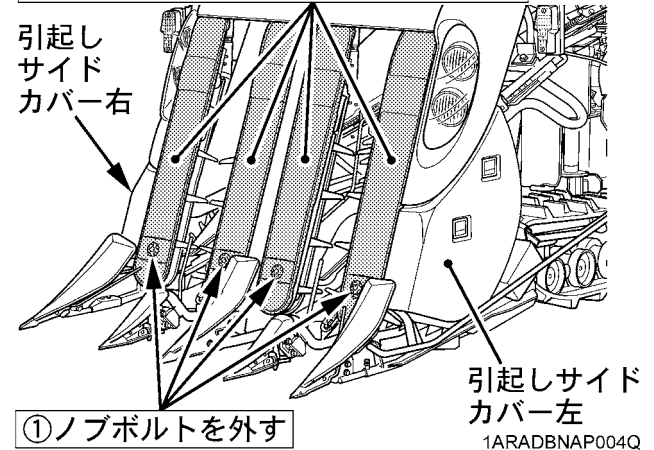
■引起しチェーンの点検·調整

引起しテンションフックとテンションスプリングの段差を 0.5 ～ 2.5mm に調整します。

1. 引起しカバー及び引起しサイドカバー左，右を取外します。

[329・335]

1ARADBNAP003J

[329・335]

[438・447]

1ARADBNAP004Q

[438・447]

2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整します。
3. ロックナットを締付けます。

[329・335]

1ARADBNAP186A

1ARADBNAP187A

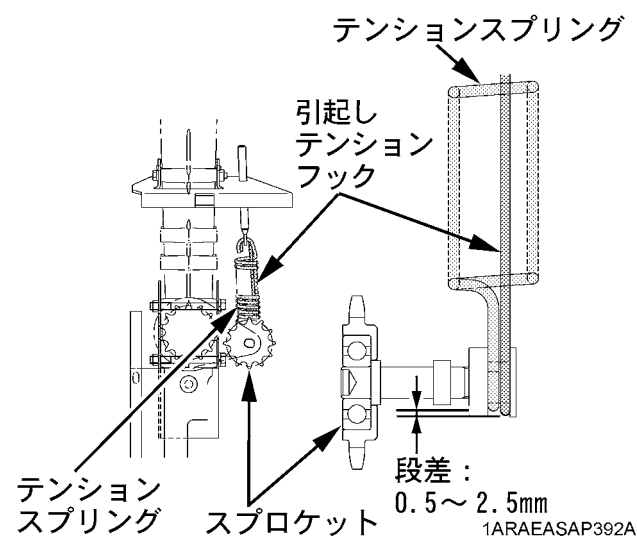
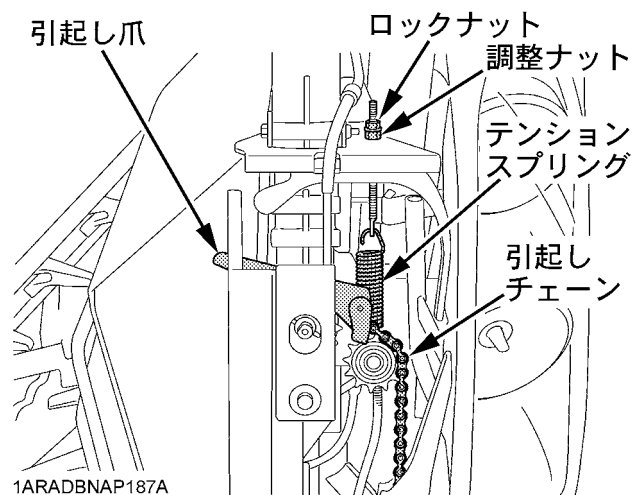
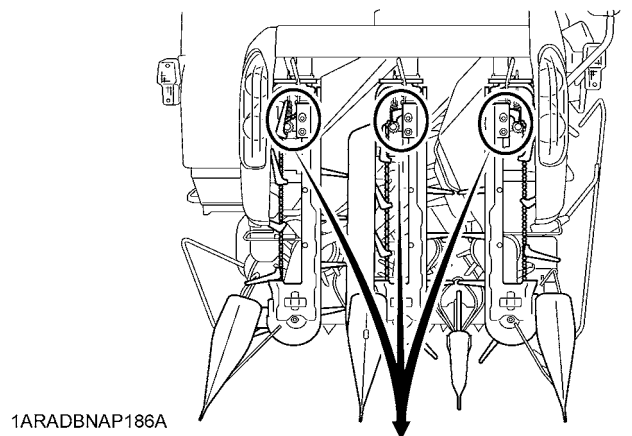
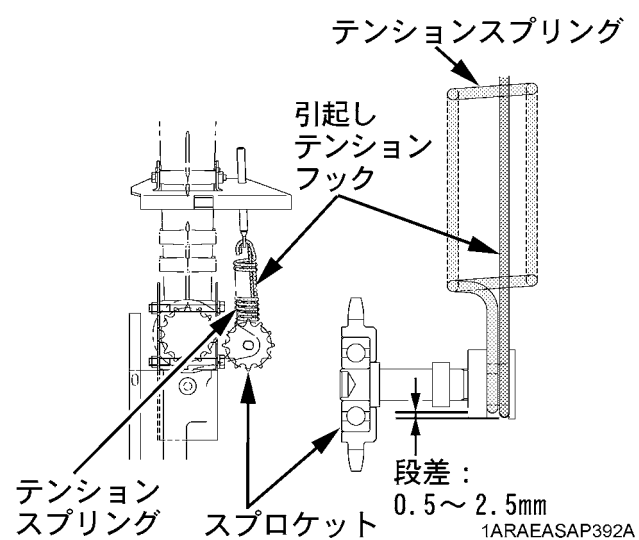
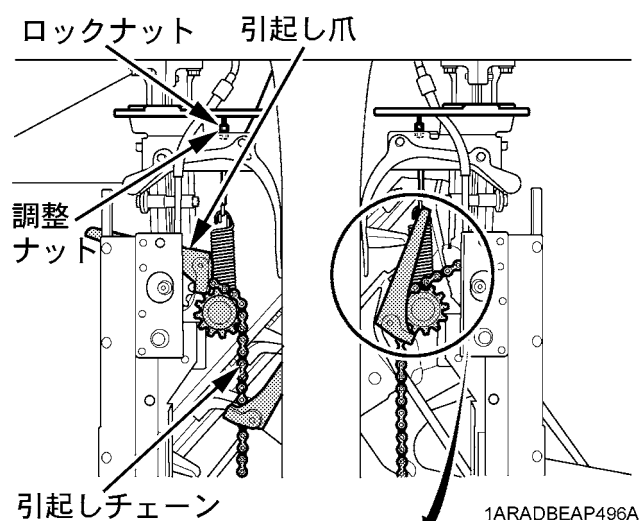
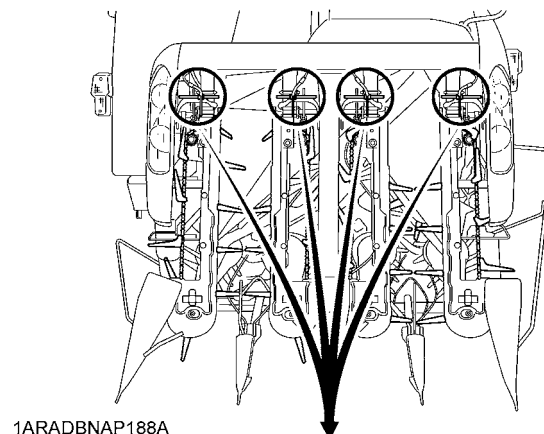
1ARAEASAP392A

[329・335]

[438・447]

1ARADBNAP188A

1ARADBEAP496A

1ARAEASAP392A

[438・447]

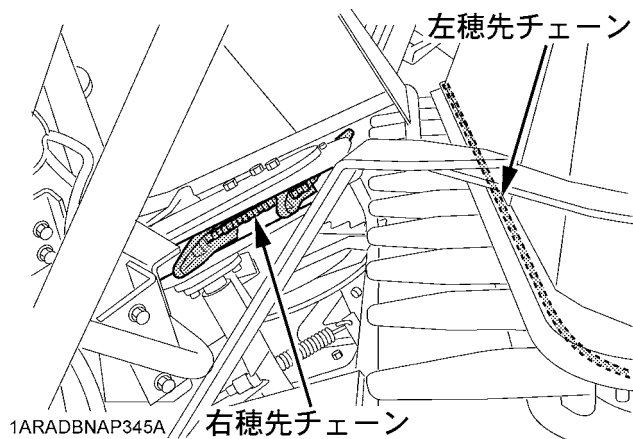
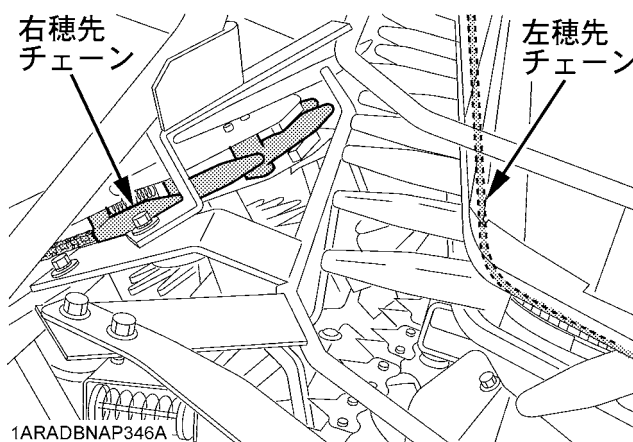
補　足

＊ 調整は全条行なってください。

4. 引起しカバーを取付けたあと，引起しサイドカバー左，右を取付けます。

■左穂先チェーン，右穂先チェーンの点検

自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

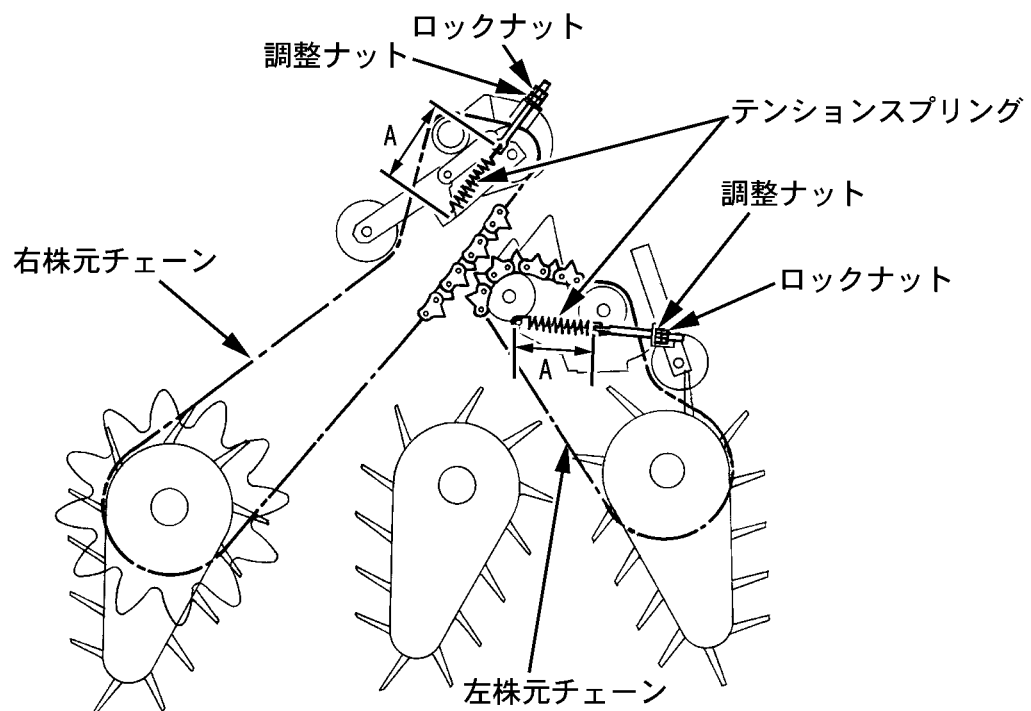
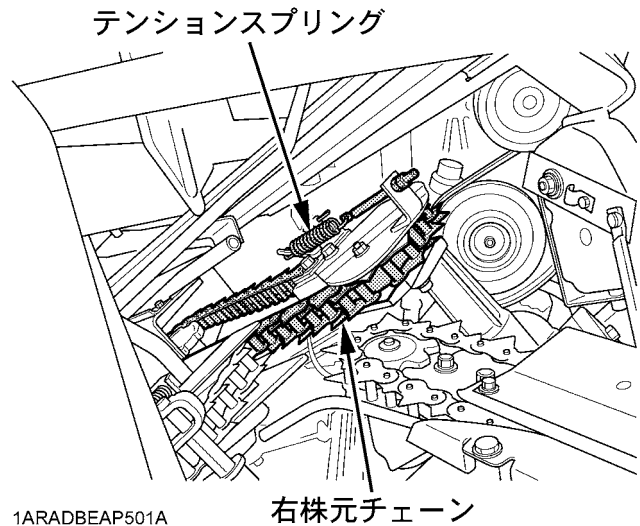
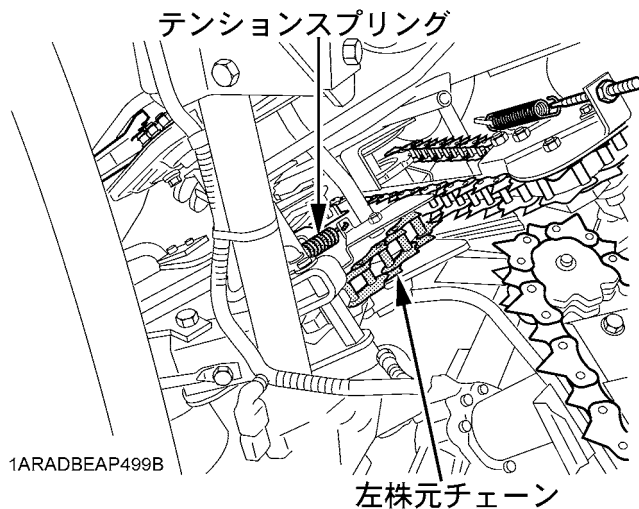
[329・335]

[329・335]

[438・447]

[438・447]

■左株元チェーン，右株元チェーンの点検・調整

[329・335]

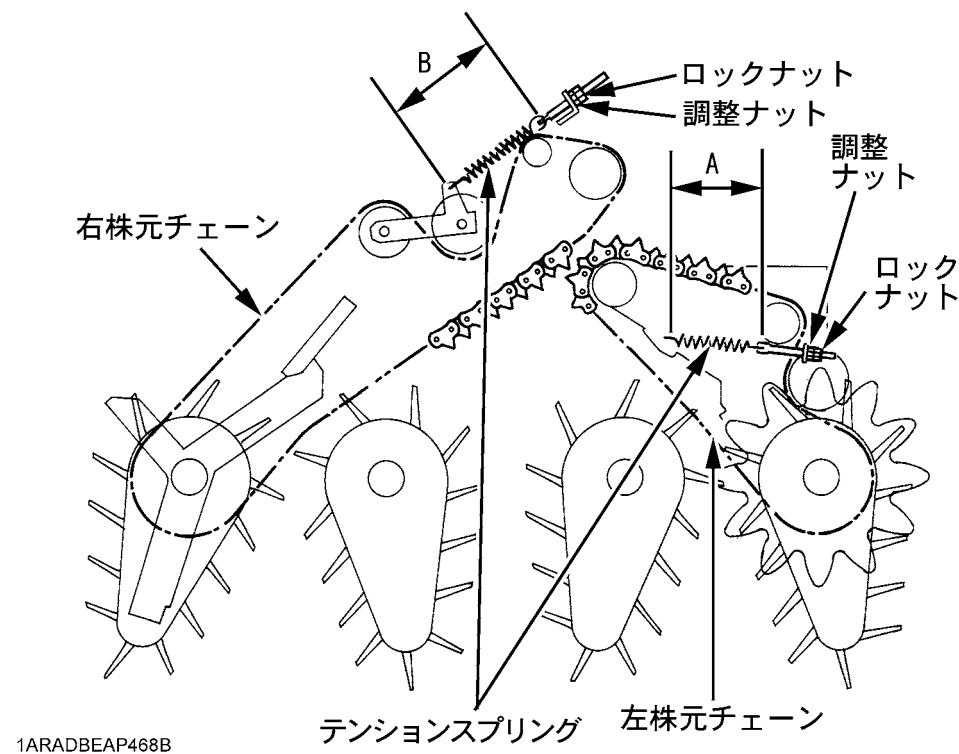
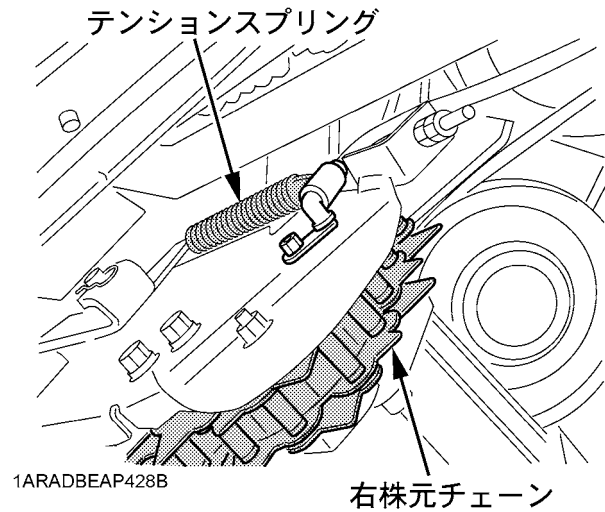
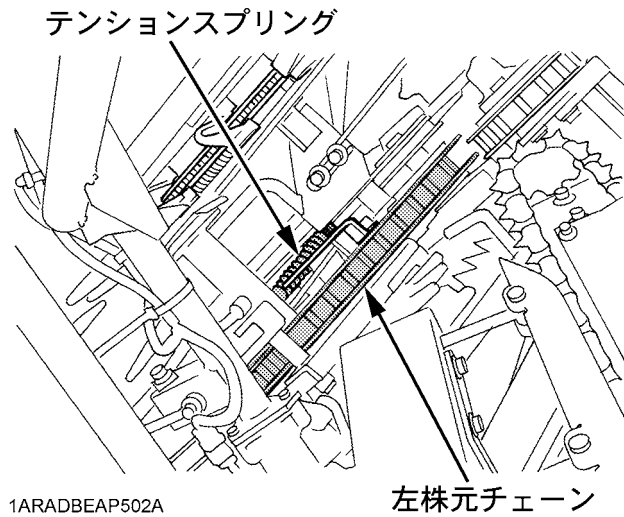
テンションスプリングの長さ A 寸法を 123 ～ 129mm に調整します。

1. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。

1ARADBEAP467B

[329・335]

[438・447]

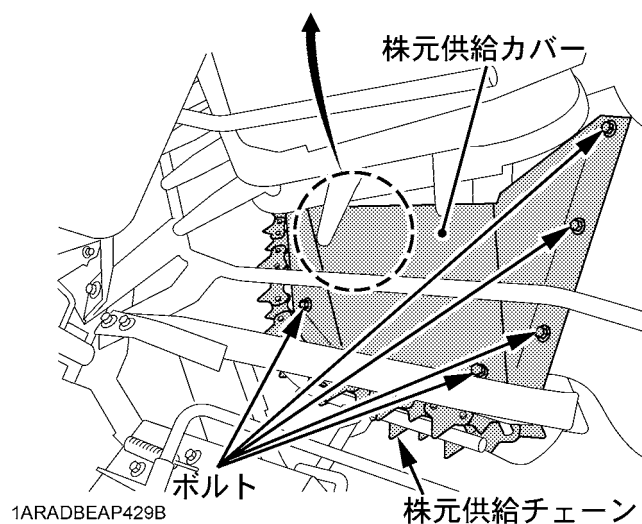
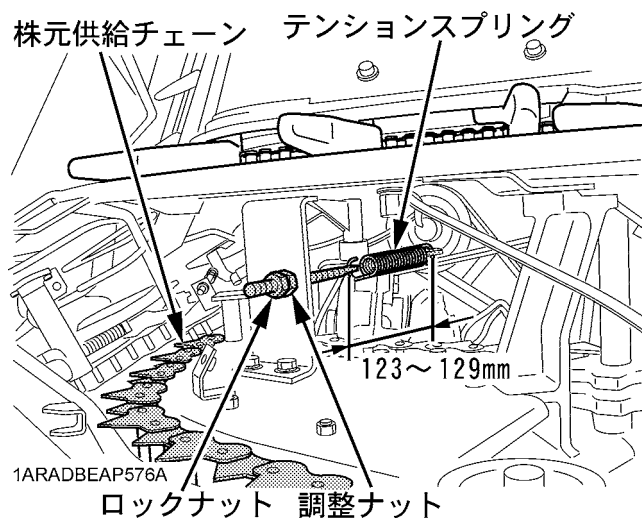
左株元チェーンはテンションスプリングの長さA寸法を139～145mmに調整し，右株元チェーンはテンションスプリングの長さB寸法を172～178mmにします。

1. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。

[438・447]

■株元供給チェーンの点検・調整

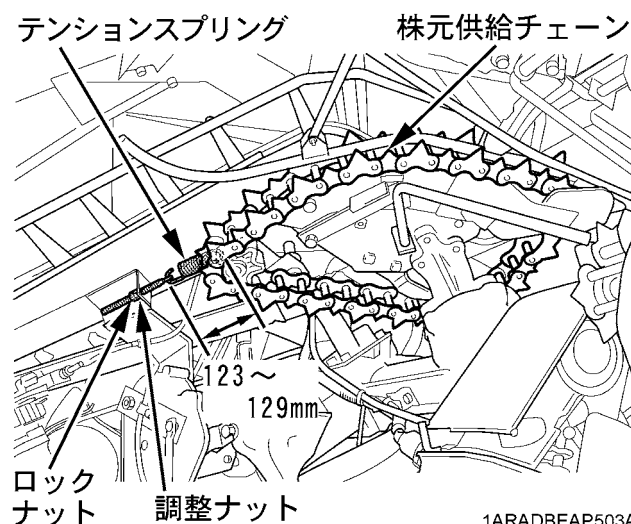
[329・335]

テンションスプリングの長さを123～129mmに調整します。

1. ボルトを取外して，株元供給カバーを外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けます。
4. 株元供給カバーを取付けます。

[329・335]

[438・447]

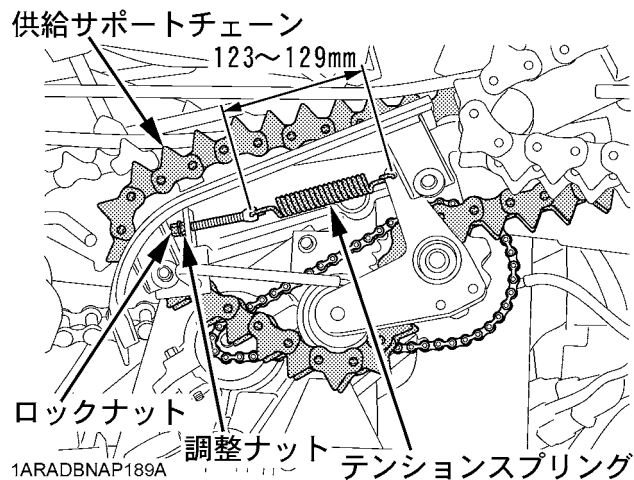
テンションスプリングの長さを123～129mmに調整します。

1. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
2. ロックナットを締付けます。

[438・447]

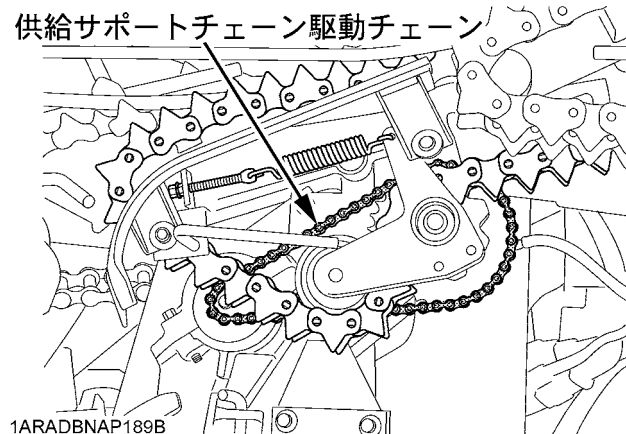
■供給サポートチェーンの点検・調整

テンションスプリングの長さを123～129mmに調整します。

1. 左サイドカバー上，下を取外します。
2. 調整ナットをゆるめて，調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー上，下を取付けます。

供給サポートチェーン
123～129mm
ロックナット
調整ナット
テンションスプリング
1ARADBNAP189A

■供給サポートチェーン駆動チェーンの点検

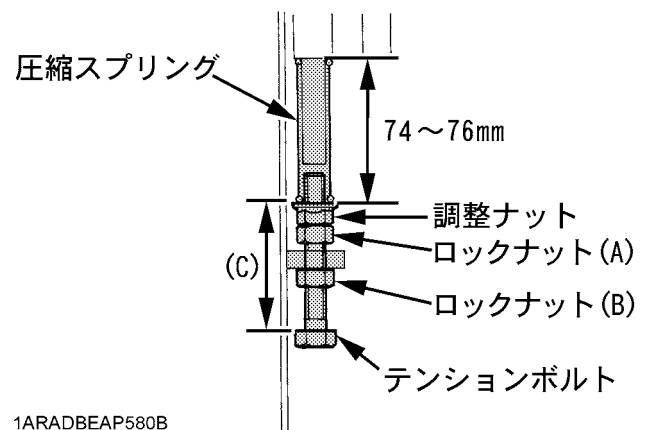
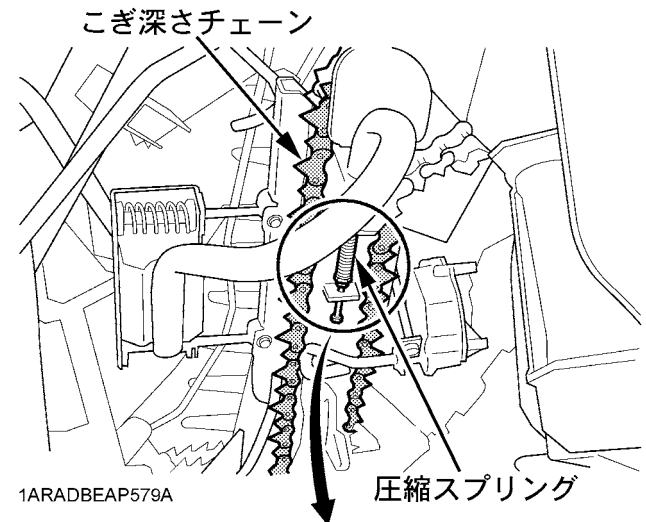
チェーンが伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

1ARADBNAP189B

■こぎ深さチェーンの点検・調整

圧縮スプリングの長さを74～76mmに調整します。

1. テンションボルトを固定しているロックナット（B）をゆるめて，テンションボルトで調整を行ないます。
2. ロックナット（B）を締付けます。

1ARADBEAP579A

1ARADBEAP580B

補　足

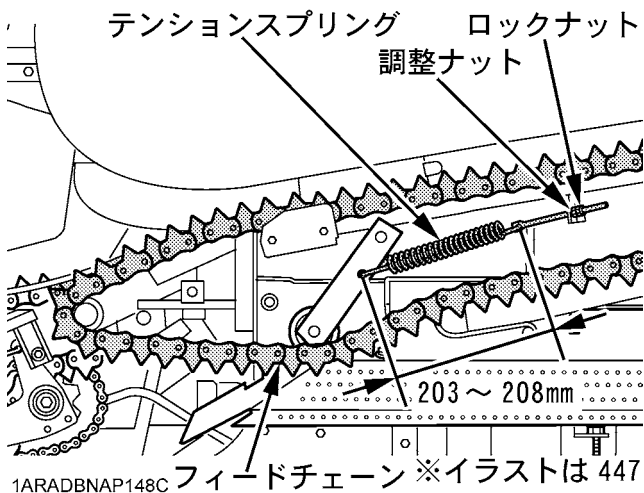
＊ ロックナット（A）はゆるめないでください。スプリングの張り代が変わるおそれがあります。もしロックナット（A）をゆるめたときは，（C）寸法を68 ～ 70mmに調整したあと，ロックナット（A）を締付けてください。

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

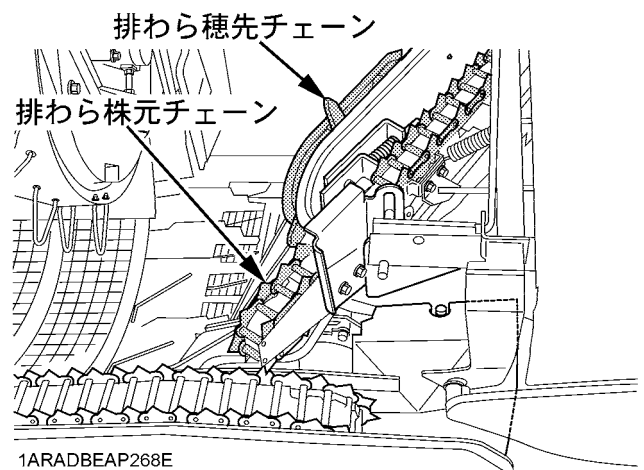
■フィードチェーンの点検･調整

テンションスプリングの長さを203～208㎜に調整します。

1. 左サイドカバー上を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめたあと，調整ナットで調整を行ないます。
3. 調整ナットを締付けたあと，左サイドカバー上を取付けます。

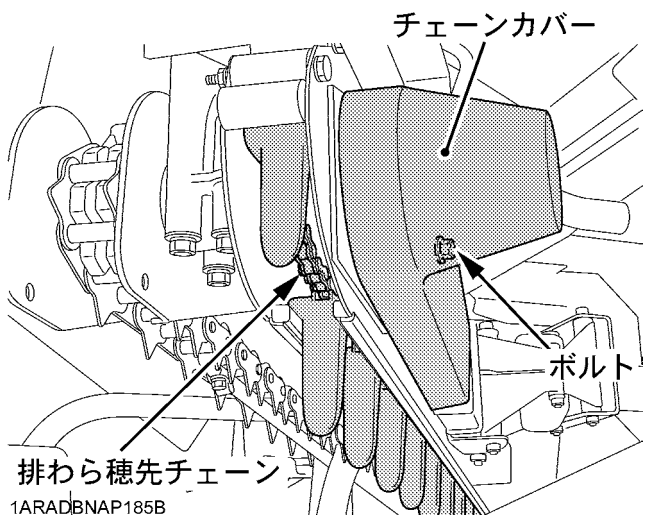
1ARADBNAP148C

■排わら穂先チェーン，排わら株元チェーンの点検

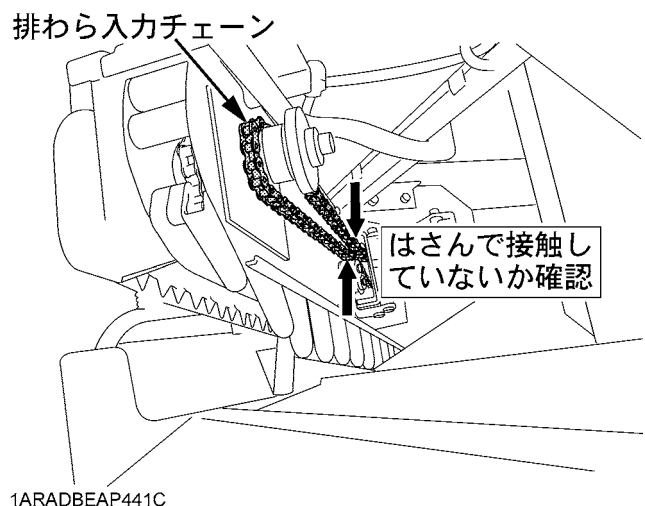
排わら穂先チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，チェーンが伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

1ARADBEAP268E

■排わら入力チェーンの点検

排わら入力チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，指で上下のチェーンをはさむと接触するときは，購入先に連絡してください。

1. ボルトを取外して排わら入力チェーンカバーを外します。

1ARADBNAP185B

2. 指で排わら入力チェーンの上下の幅が一番狭いところをはさみ，入力チェーンの上側と下側が接触していないか確認します。

1ARADBEAP441C

3. 排わら入力チェーンカバーを取付けます。

■刈刃の点検・調整

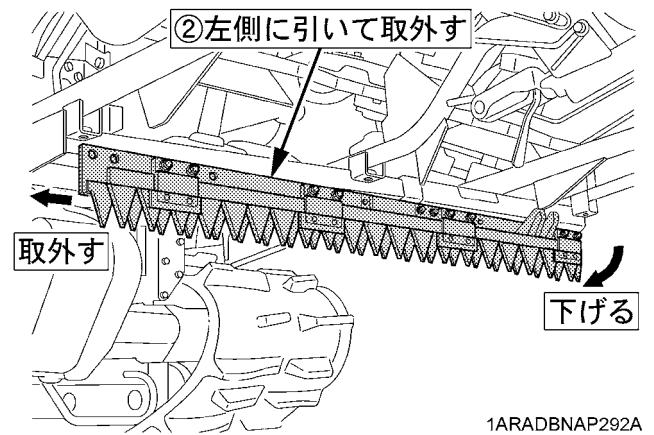
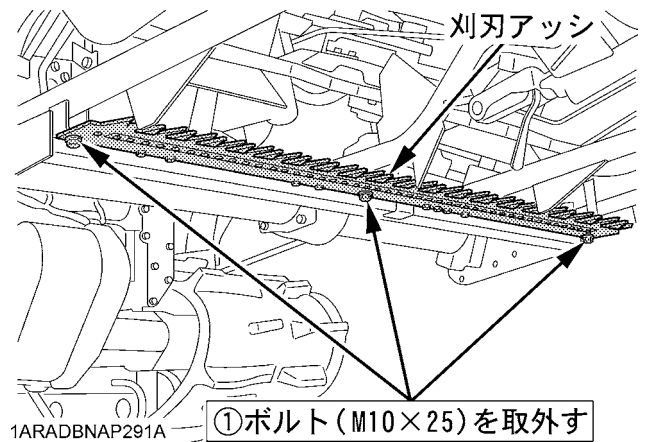
注 意

- **＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに，枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。**
- **＊ 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。**
- **＊ 脱着作業は手袋をして，２人で刈刃の両端を持って行なってください。**

刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

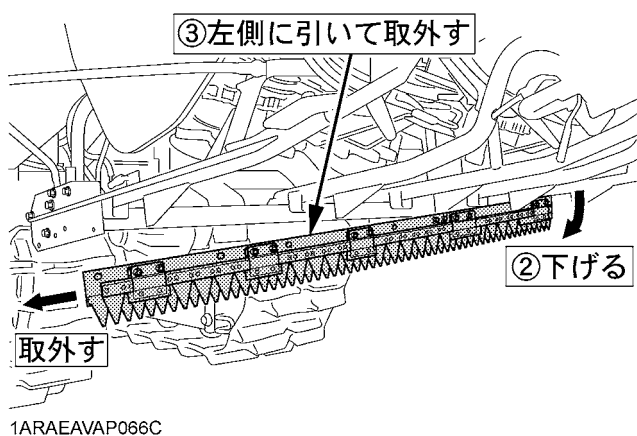
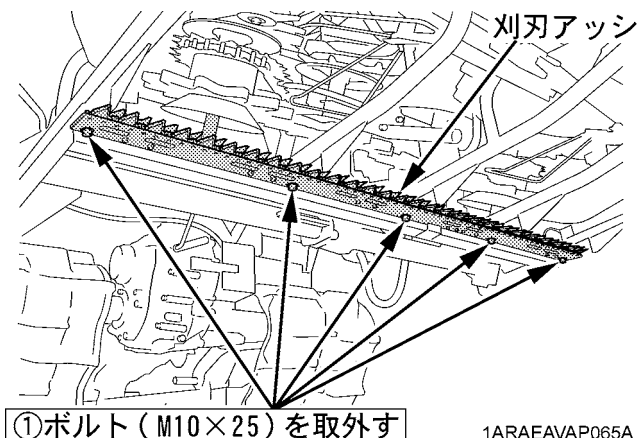
◆ 点検・取外し

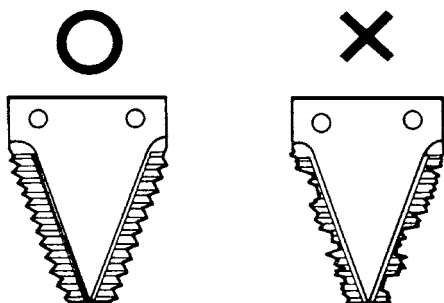
1. 自動車体水平制御の手動スイッチの **［上］** を押して，機体を最上昇位置にします。
2. 刈取部を最上昇させたあと，刈取下降ロックスイッチを **［ロック］** 位置にし，スイッチロック金具をセットして，刈取部の下降防止を行なったあと，エンジンを停止します。さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。
3. ボルトを取外して刈刃アッシを下げたあと，左側へ引いて刈刃アッシを取外します。

［329・335］

［329・335］

[438・447]

1ARAEAVAP065A

1ARAEAVAP066C

[438・447]

4. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して修理を依頼してください。

1ARADBEAP506A

◆ すき間調整

すき間を測定するときは，すき間ゲージを使用してください。

補　足

＊ 専用工具については，購入先にご相談ください。

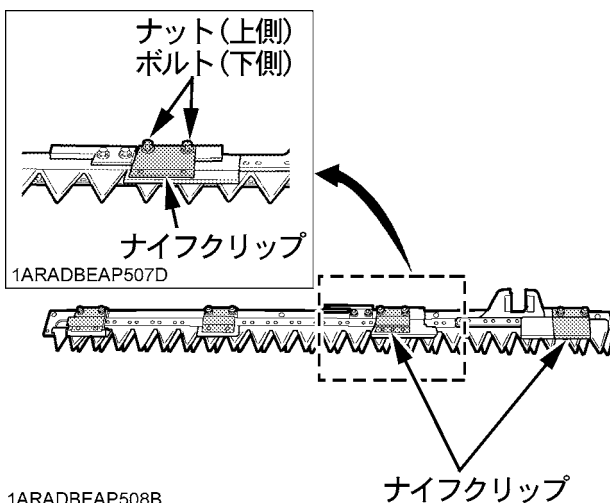
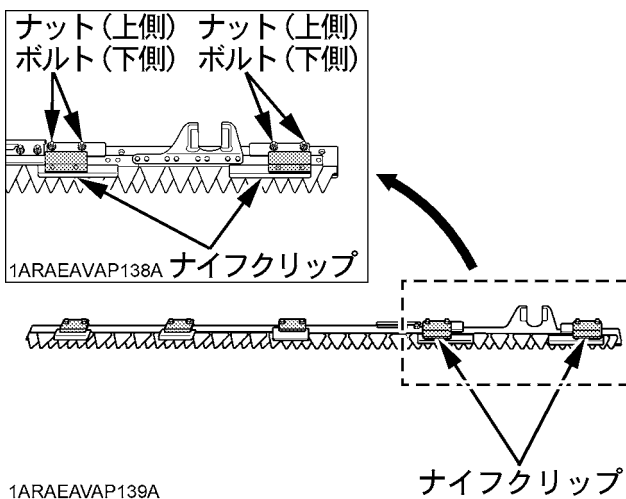
1. ボルト・ナットを取外して各ナイフクリップを受刃台から外します。

[329・335]

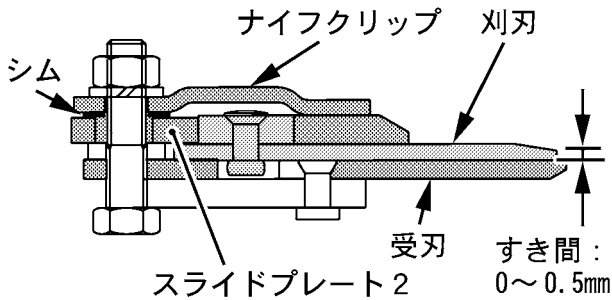
1ARADBEAP508B

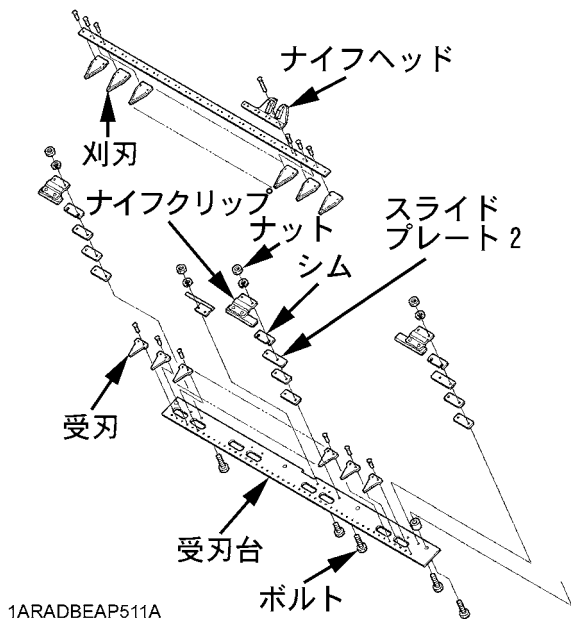
[329・335]

[438・447]

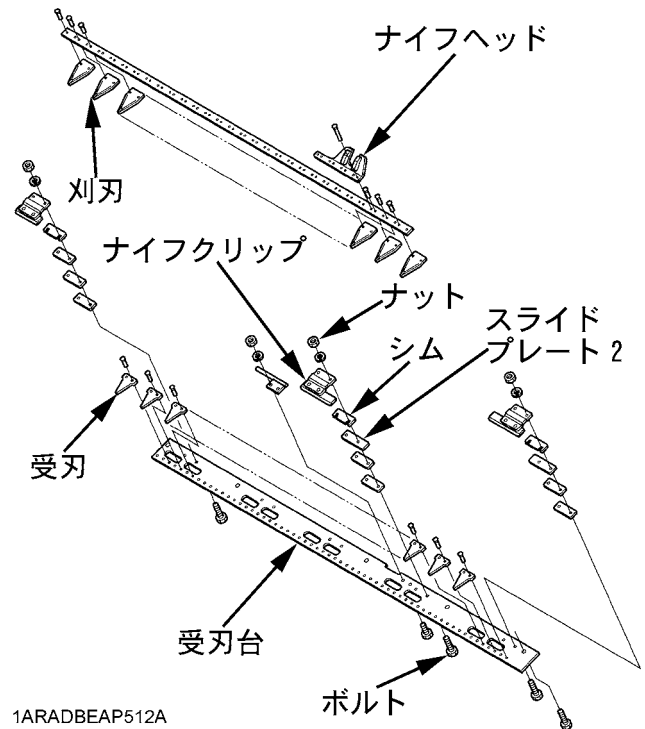
1ARAEAVAP139A

[438・447]

2. 刈刃を取外したあと，ワイヤブラシなどで泥やさびを取除きます。

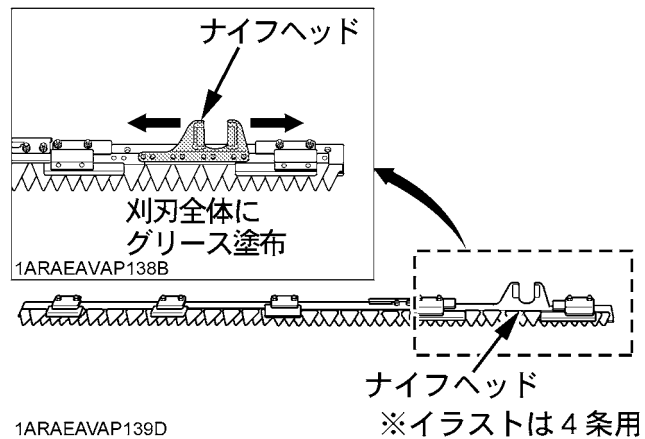
3. 刈刃と受刃のすき間を 0 ～ 0.5mm に調整します。
   (1) ナイフクリップとスライドプレート 2 の間にあるシムを増減して調整したあと，ボルト・ナットを締付けたときの刈刃と受刃のすき間を0～0.5mmに調整します。

1ARADBEAP510A

[329・335]

1ARADBEAP511A

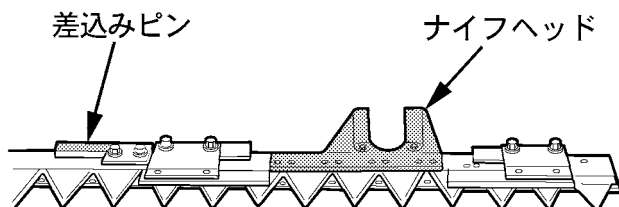
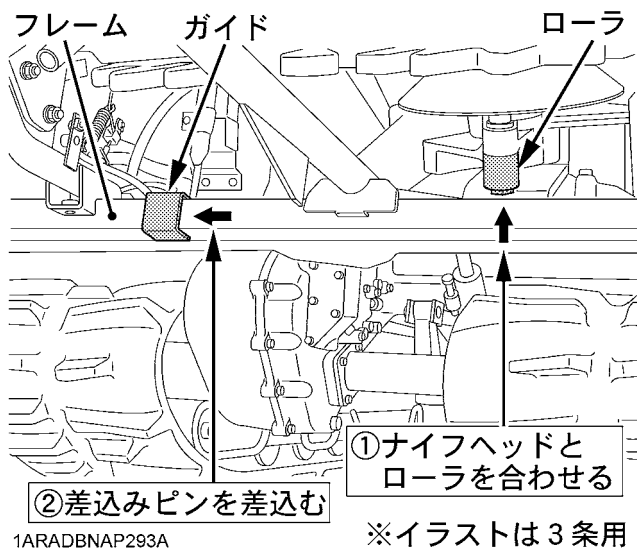
[329・335]

[438・447]

1ARADBEAP512A

[438・447]

   (2) ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときや軽く動くときは再調整を行ない，異常がなければ刈刃全体にグリースを塗布します。

1ARAEAVAP139D

◆ **取付け**

1. ２人作業で刈刃アッシを垂直の状態にして，刈刃の差込みピンをフレームとガイドのすき間に差込みます。
2. ナイフヘッドとローラの位置を合わせたあと，刈刃アッシを持上げた状態でボルトを取付けます。

1ARADBEAP507C

■こぎ歯の点検･交換

＊ **中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。**

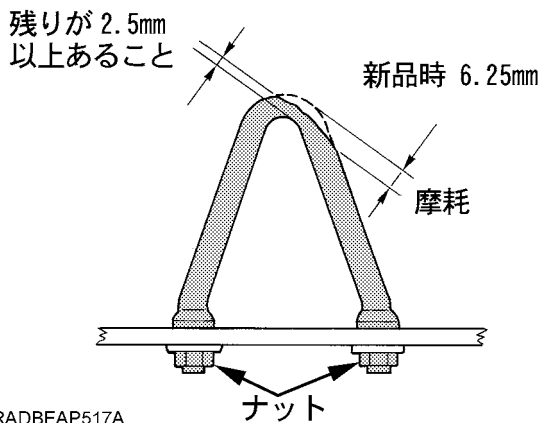
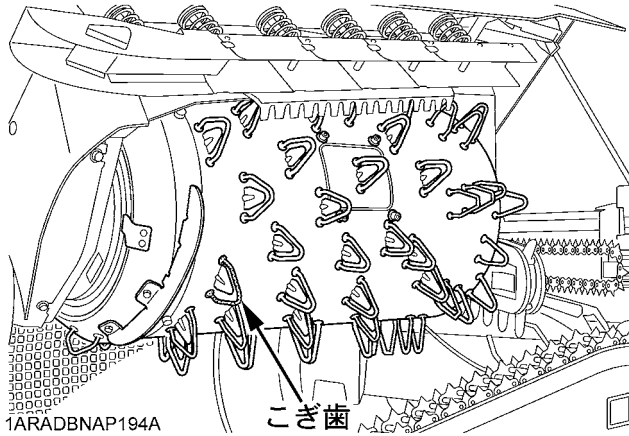
＊ **平たんな場所でこぎ歯の点検・交換を行なってください。**

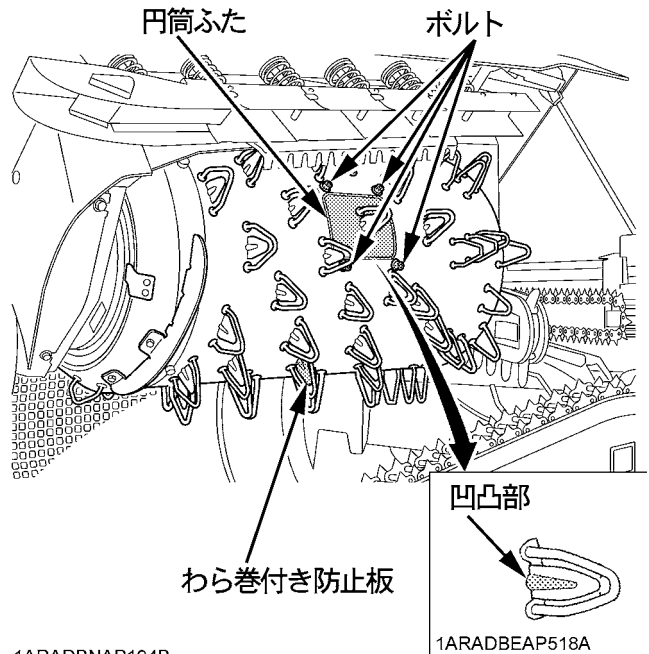
こぎ歯の歯先が摩耗してくると，受あみとのすき間が大きくなり，こぎ残しが発生する原因となりますので歯先の線径が 2.5mm 以下になったときは，こぎ歯の交換を行なってください。

重　要

＊ 歯先の線径が 2.5mm 以下になると，こぎ歯が変形したり，歯先が割れて故障の原因となります。

◆ **点検**

1. 補助デッキを引出したあと，こぎ胴を開きます。
2. こぎ歯の歯先の摩耗量を測定し,線径が2.5mm以下のときは交換します。

◆ **交換**

1. 六角レンチでボルト 4 本を取外し，円筒ふたを取外します。
2. 円筒ふたから手を入れて，こぎ胴の内側からナット 2 個を取外し，こぎ歯を取外します。
3. 新しいこぎ歯をナット 2 個で取付けます。
4. 円筒ふたを取付けます。

補　足

＊ 円筒ふたは 2 箇所あります。
＊ わら巻付防止板を取付けるときは，凹凸部の凸部を左側に向けた状態で取付けてください。

5. 補助デッキを収納したあと，こぎ胴を閉じます。

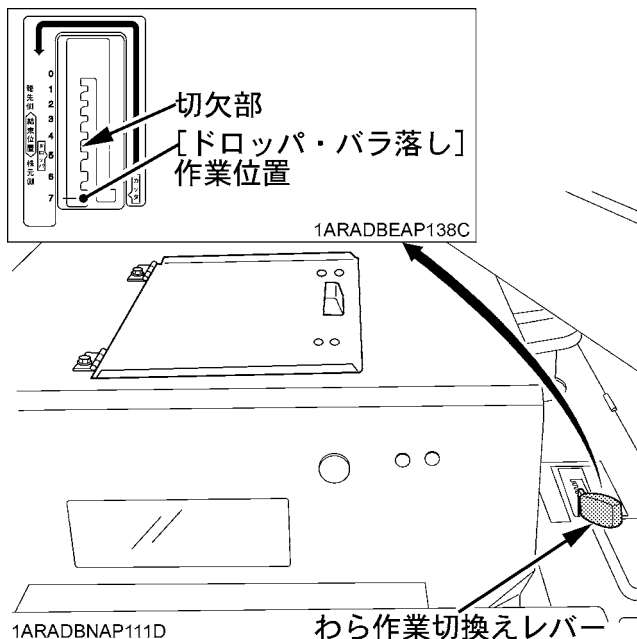
■わら切刃の点検・組換え・交換

注 意

＊ 刃部に手を掛けないでください。
＊ 危険ですので，手袋をして，脱着作業をしてください。

わら切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため，わらくずの移動が悪くなります。また，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたわらくずが 2 番スクリュに巻きついたり，2 番処理胴に詰まったりします。

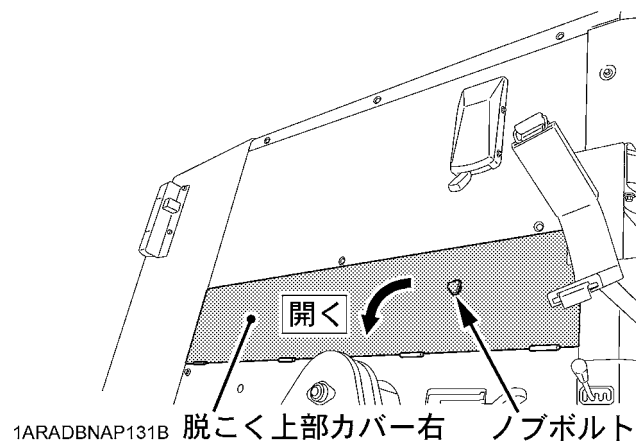
◆ 点検・組換え・交換

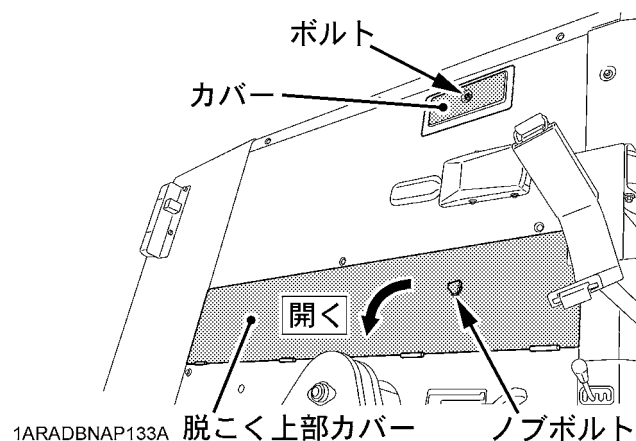
1. エンジンを始動したあと，アンローダを上昇します。
2. エンジンを停止します。
3. わら作業切換えカバーを **［ドロッパ・バラ落とし］** 位置にします。

4. **［穂先側］** のわら切刃の点検を行なうときは，ノブボルトを引いて脱こく上部カバーを開きます。

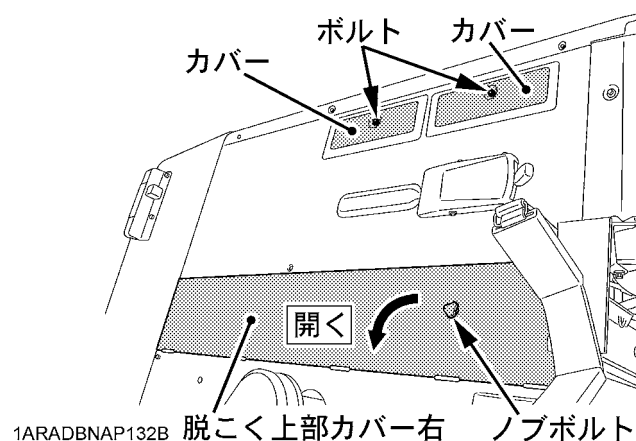
［335・438・447］

5. **［株元側］** のわら切刃の点検を行なうときは，ボルトを外してカバーを取外します。

［335・438・447］

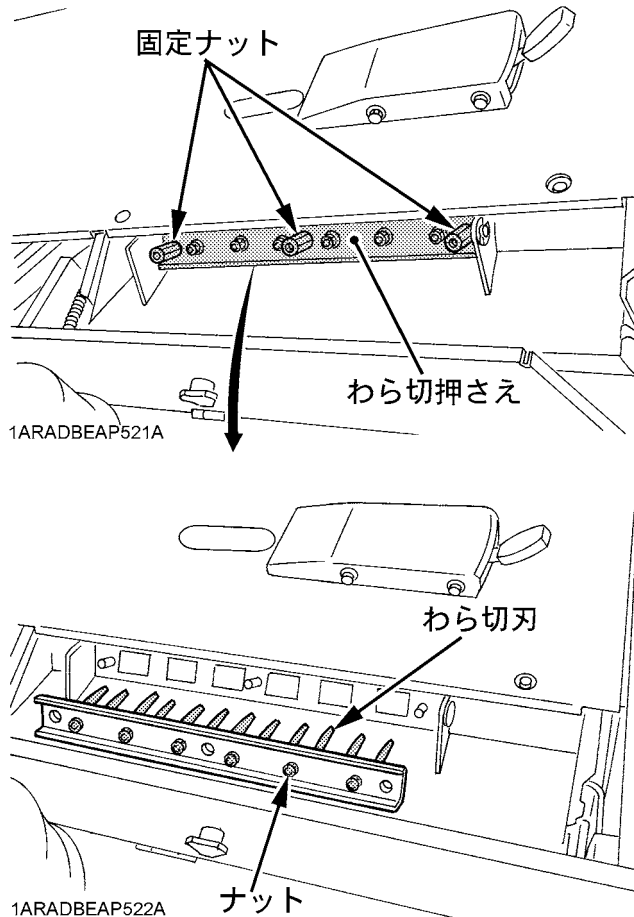
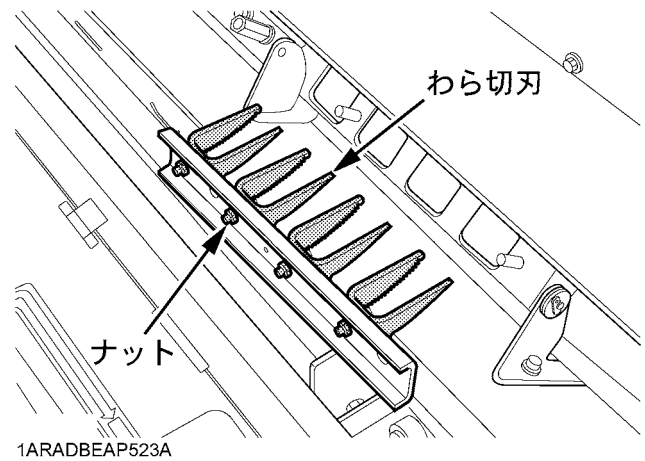
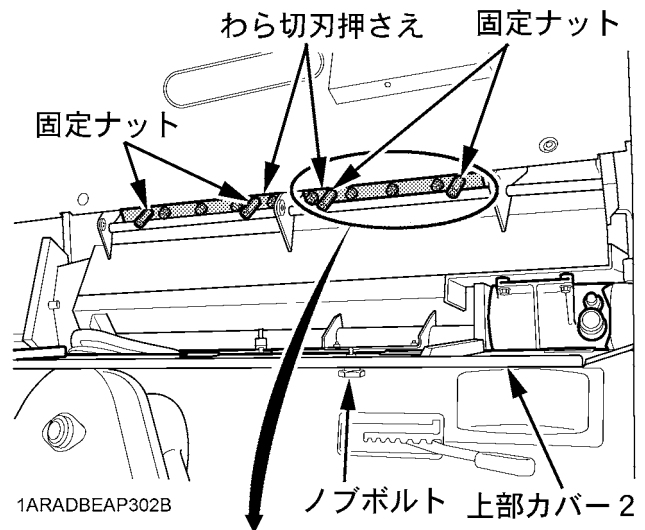
［329］

［329］

［335］

［335］

［438・447］

［438・447］

[穂先側]

(1) わら切刃押えの固定ナットを外します。
(2) わら切刃押えを取外します。

[329・335]

1ARADBEAP521A

1ARADBEAP522A

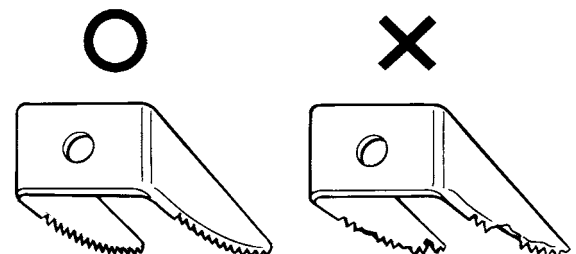
[329・335]

[438・447]

1ARADBEAP302B

1ARADBEAP523A

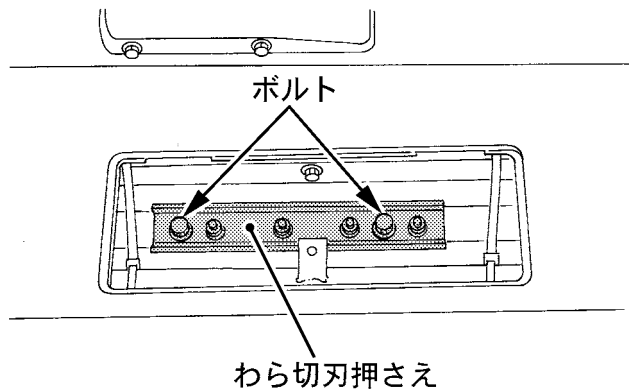
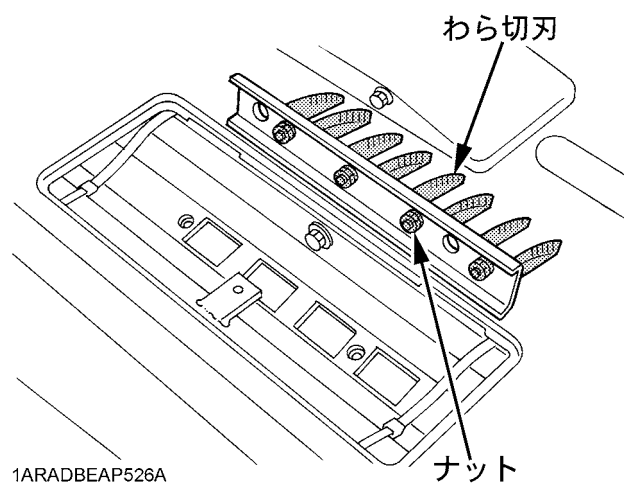
[438・447]

(3) わら切刃押えを取出したあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときはナットを取外して交換してください。

1ARADBEAP524A

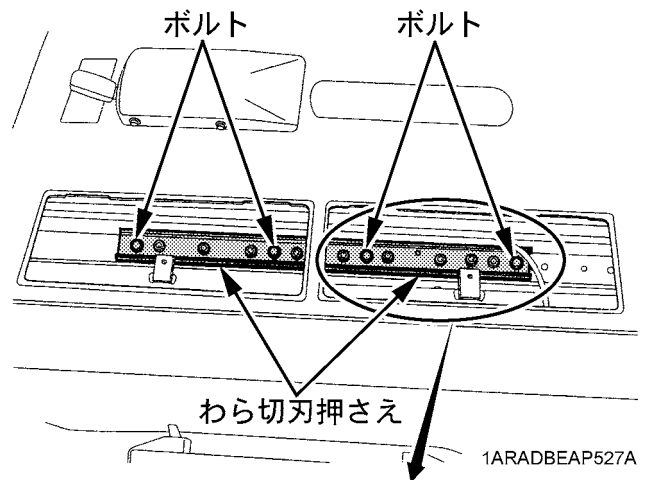
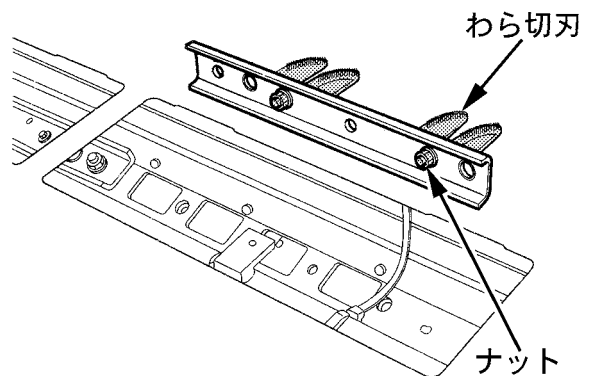
[穂先側]

[株元側]

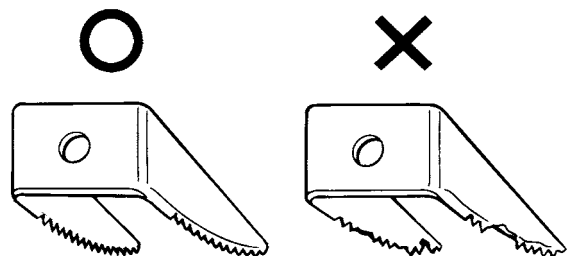
(1) わら切刃押えの固定ボルトを外します。
(2) わら切刃押えを取外します。

[335]

1ARADBEAP525A

1ARADBEAP526A

[335]

[438・447]

1ARADBEAP527A

1ARADBEAP528A

[438・447]

(3) わら切刃押えを取出したあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときはナットを取外して交換してください。

1ARADBEAP524A

[株元側]

6. **［穂先側］**は刃先を**下側**にし，**［株元側］**は刃先を**上側**にしてわら切刃押えを差込みます。
7. **［穂先側］**は固定ナット**［株元側］**は固定ボルトにネジロックを塗布してそれぞれ取付けます。
8. 脱こく上部カバーを閉じたあと，カバーを取付けます。

重　要

＊ わら切刃を取付けるときは，取付方向や傾きの出ないように注意して取付けてください。

補　足

＊ ネジロックは購入先に連絡してください。

9. エンジンを始動したあと，アンローダをアンローダ受けに収納します。

■カッタ部の点検･増締め

警　告

＊ 平たんな場所でエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。
＊ カッタ部を開いているときは，カッタの刃先に注意してください。
＊ 傾斜地では，カッタ部の開閉をしないでください。

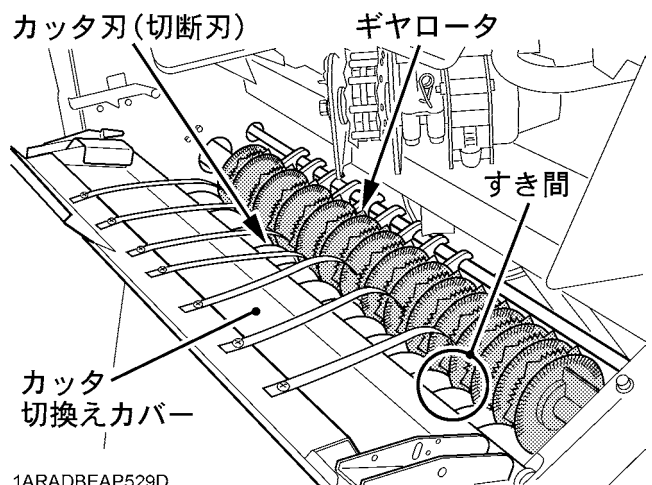
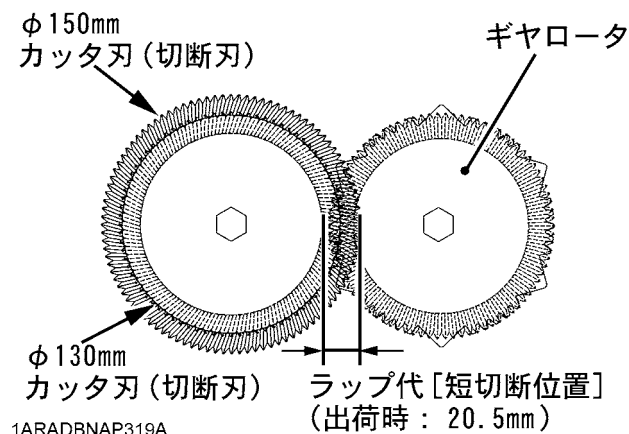
＊ カッタ部を開いて掃除をするときは，オープンストッパで必ず固定してください。

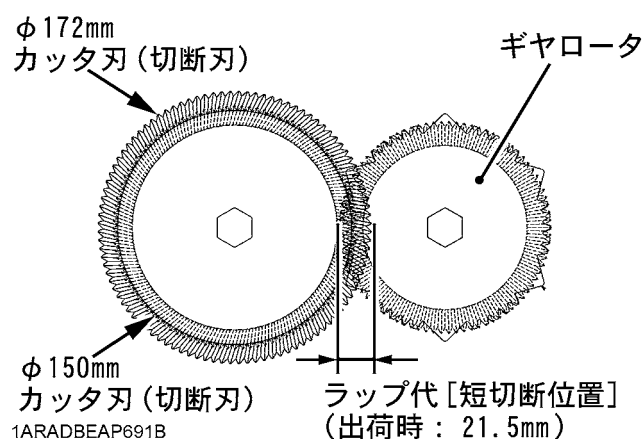
補　足

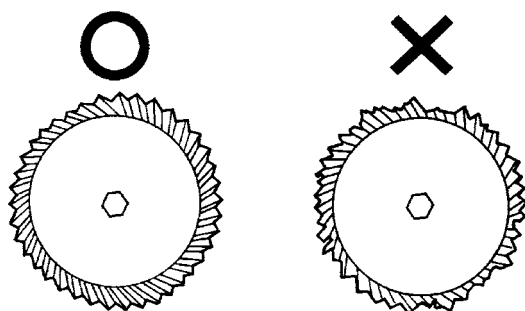
＊ わらくずなどは取除いてください。

カッタ切換えカバーを開いて（183 ページ参照）カッタ刃（切断刃）とギヤロータのラップ代とすき間を確認します。刃先が摩耗してラップ代が少なくなったり，欠けているときは交換してください。（283 ページ参照）また，定期的（初回又は，交換後 50 時間後，その後 200 時間ごと）に切断軸と供給軸の増締めを行なってください。

[329・335]

1ARADBNAP319A

[329・335]

[438・447]

1ARADBEAP691B

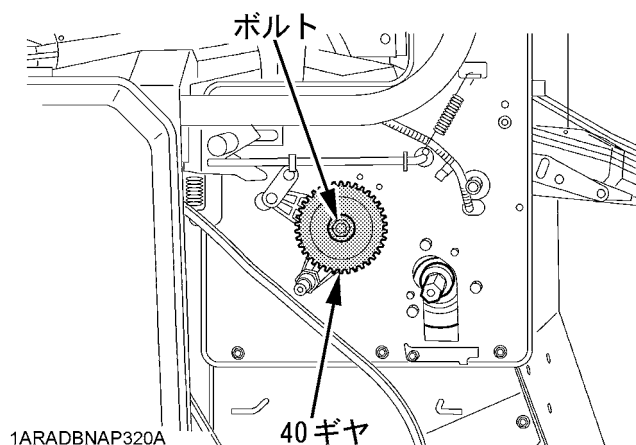
[438・447]

1ARADBEAP530A

重　要

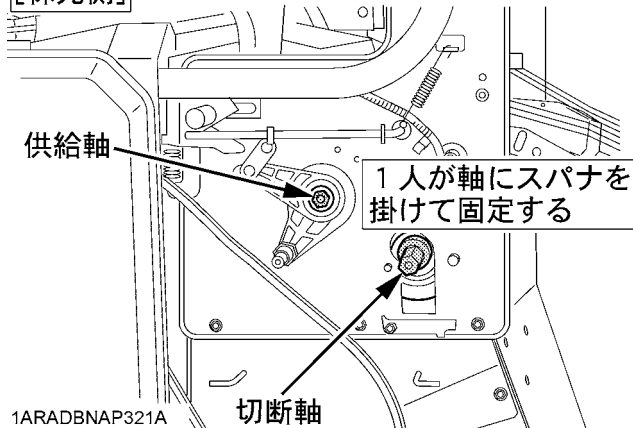
＊ ラップ代が少なくなると，わらの切断長さが長くなったり，わらのブリッジにより排わら警報の発生の原因となりますので早目に交換してください。

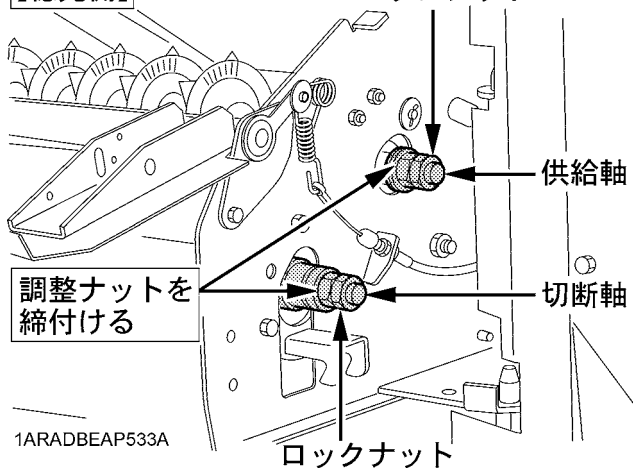
◆ 切断軸，供給軸の増締め

1. **［カッタ刃の交換］**の手順（283 ページ参照）の **1.** ～ **4.**（駆動チェーンの取外しまで）を行ないます。
2. ボルトを取外して，供給軸の 40 ギヤを外します。

1ARADBNAP320A

3. 切断軸株元側の六角軸に１人がスパナを掛けて軸が動かないように固定し，もう１人が切断軸穂先側のロックナットをゆるめます。そのあと，調整ナットを締付けて増締めを行ない，ロックナットを締付けます。

4. 同じ要領で供給軸の増締めをします。

［株元側］

［穂先側］

重 要

＊ 軸の締付けトルクは 49.0 ～ 58.8N・m(500 ～ 600kgf・cm) です。確実に締付けてください。

5. 取外した逆の手順で各部品の取付けを行ないます。
6. カッタ切換えカバーを閉じます。

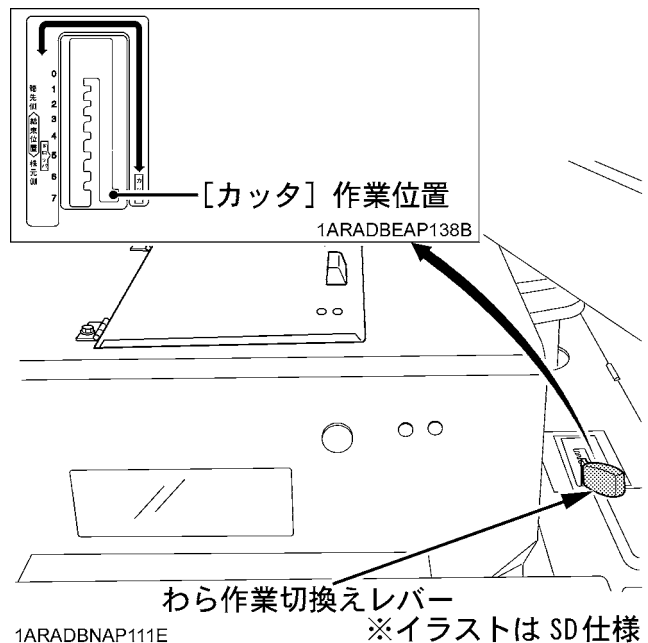
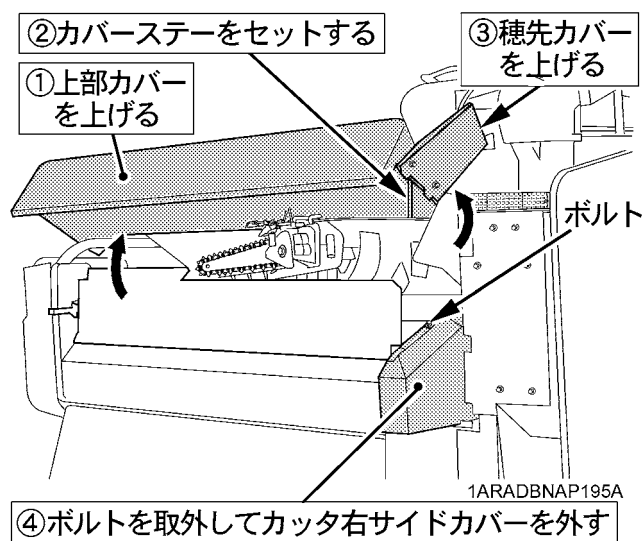
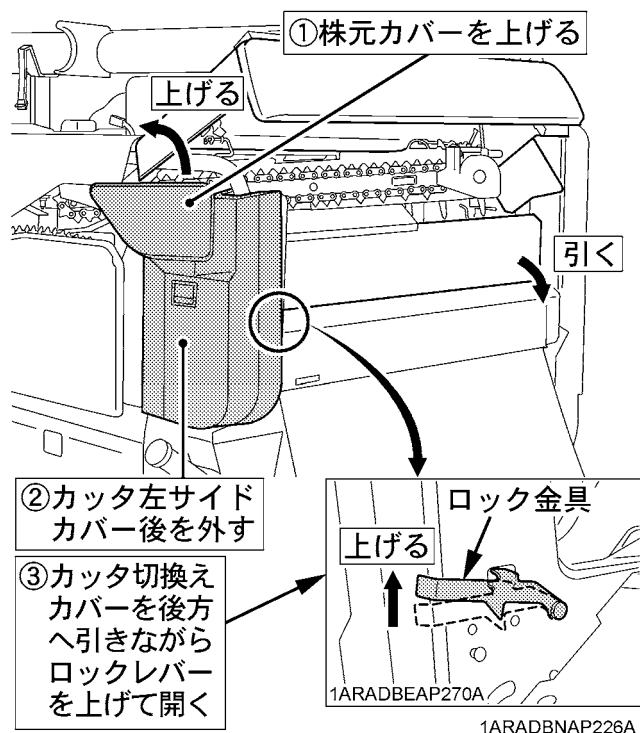
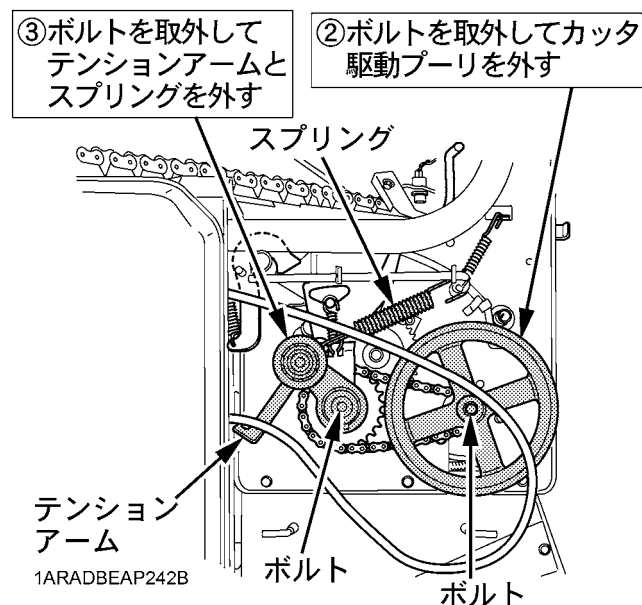
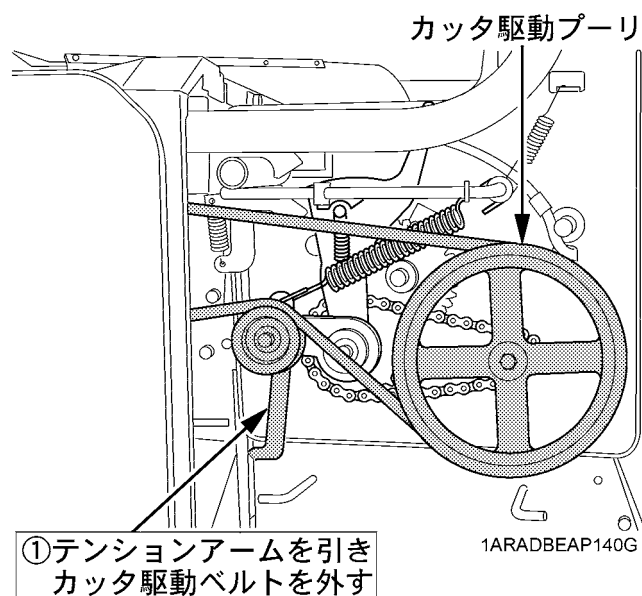
補 足

＊ カッタ切換えカバーをきちんと閉じないと，自動エンジン停止装置がはたらき，エンジンが始動しません。

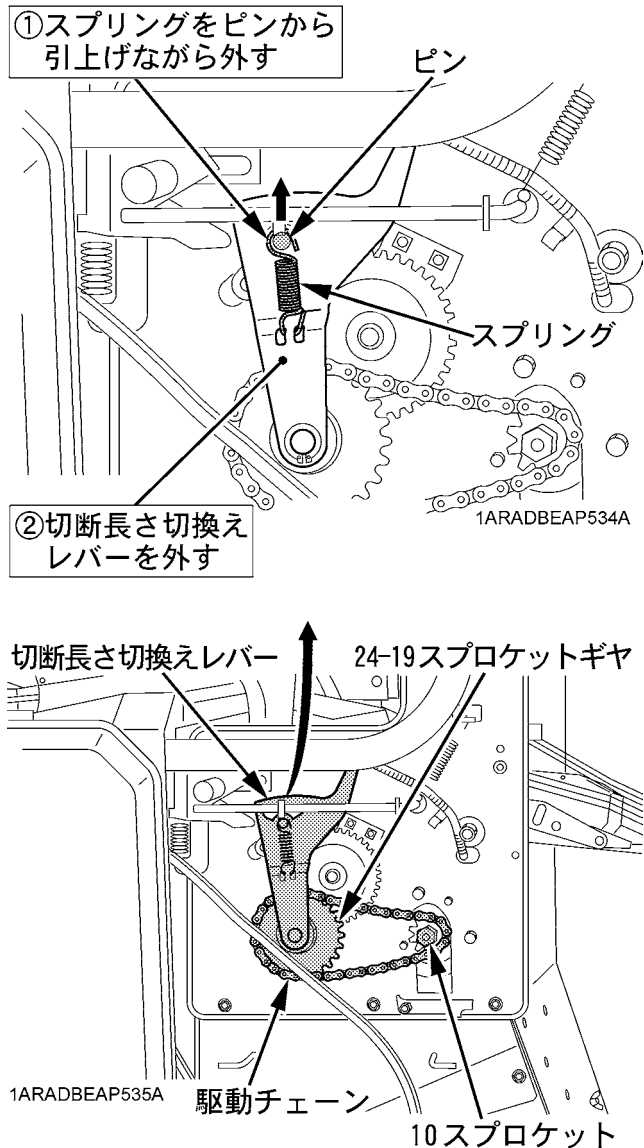
■カッタ刃の交換

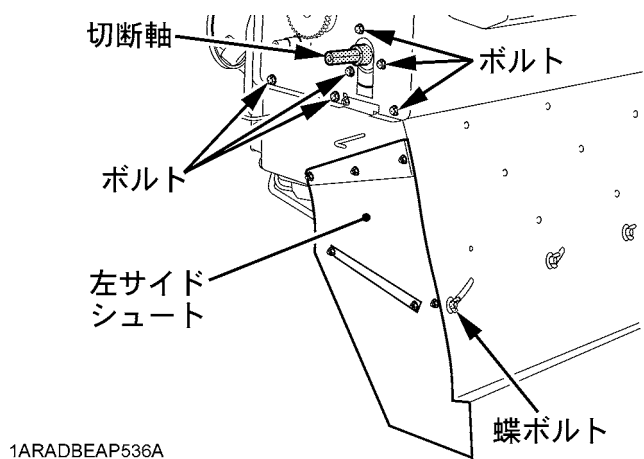
警 告

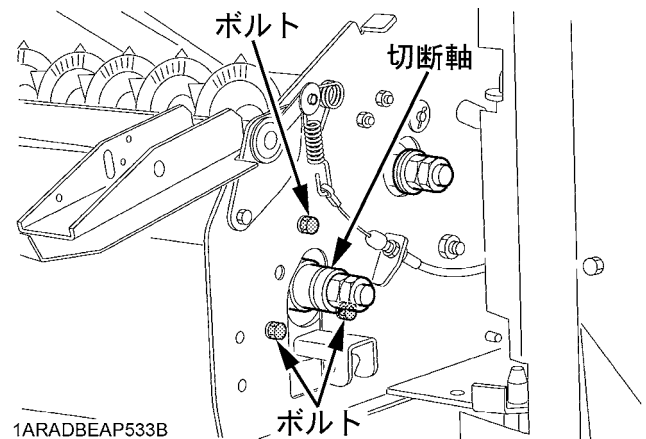
＊ **カッタ刃を交換するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。**
＊ **手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。**
＊ **切断軸完備を外すときは，2 人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。**
＊ **切断軸完備の分解・組立て作業は 2 人作業で行なってください。**

1. わら作業切換えレバーを **［カッタ］** 作業位置にします。

2. 上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。そのあと，ボルトを外してカッタ右サイドカバーを取外します。

3. 株元カバーを上げたあと，カッタ左サイドカバー後を外し，カッタ切換えカバーを後に倒します。

4. カッタ駆動ベルトをカッタ駆動プーリから外したあと，カッタ駆動プーリ及びテンションアーム，スプリングを外します。

5. 切断長さ切換えレバー，24-19 スプロケットギヤ，10 スプロケット，駆動チェーンを取外します。

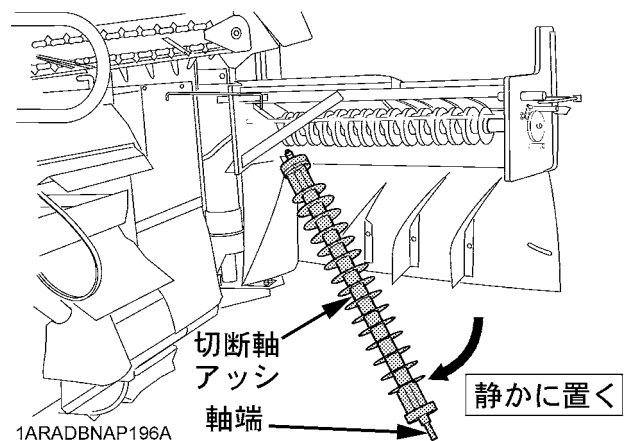
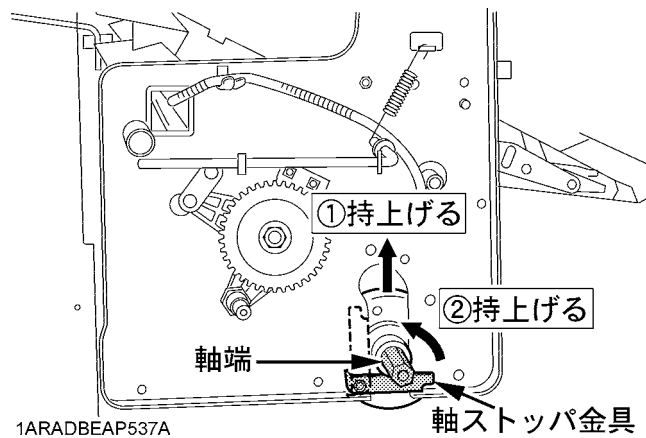
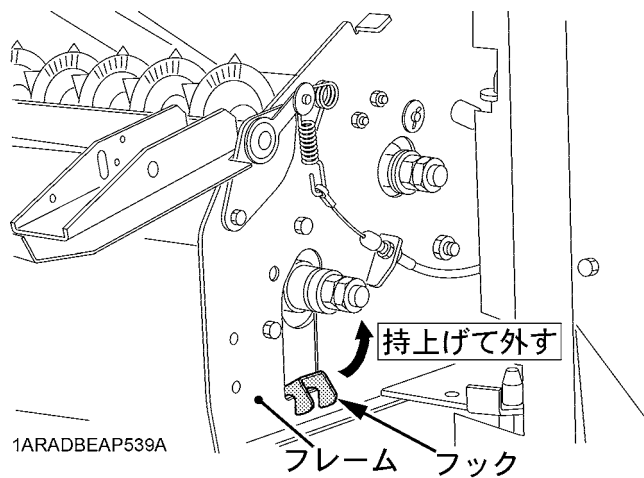
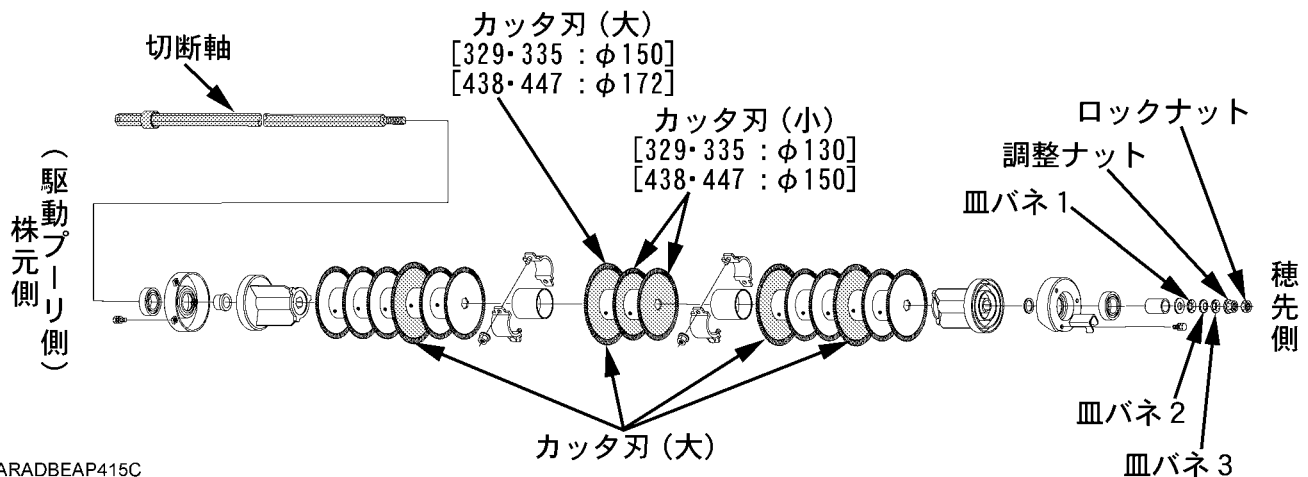
1ARADBEAP534A

1ARADBEAP535A

6. カッタを開いたあと，ナット，蝶ボルトを外し，左側のサイドシュートを取外したあと，株元側の切断軸軸受けボルトを外します。

1ARADBEAP536A

7. 穂先側の切断軸軸受けボルトを外します。

1ARADBEAP533B

8. 株元側の軸端を少し持上げて，軸ストッパ金具を上側に回動して，切断軸アッシの軸端を静かに地面に置きます。

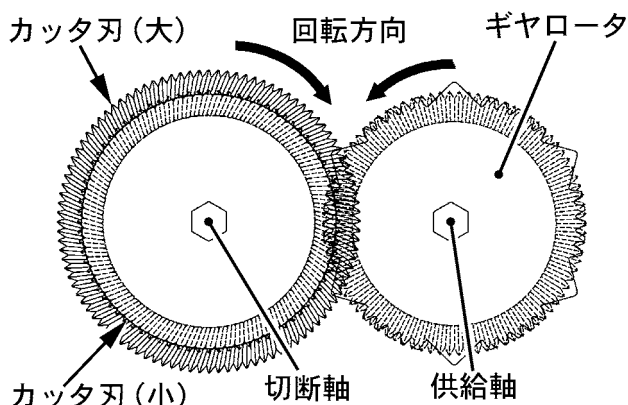
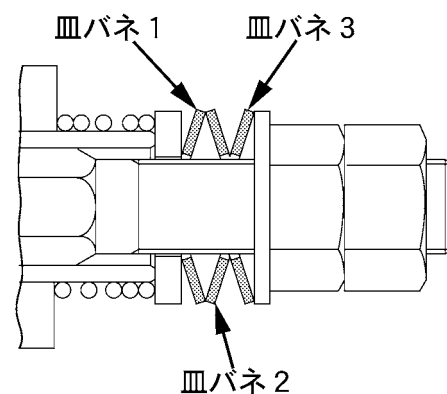
1ARADBEAP537A

1ARADBNAP196A

9. 穂先側の軸受けフックをフレームから外し，
   切断軸を取外します。

10. カッタ刃（切断刃）の交換を行ないます。交換作業を行なうときは，必ず補助者と共に２人作業で行なってください。
  (1) 切断軸アッシを安定した場所に置き，穂先側のロックナット，調整ナットと順番に取外して分解します。
  (2) 切断軸の穂先側を上向きにして垂直に立てた状態でカッタ刃の取付方向（刃先の向き）や大きさ（大，小）に注意しながら交換を行ないます。

1ARADBEAP415C

重　要

＊ 組付け後にカッタ刃が切断軸の垂直方向に対して傾いていると，切断軸が軸振れを起して異音が発生したり破損する原因となります。
＊ 組付け時にカッタ刃やパイプの端面に砂などの異物が付着すると，カッタ刃とギヤロータのすき間及びカッタ刃両端の寸法が規定値の範囲から外れ，上記の軸振れを起こすことやわらの切断性能が悪くなるおそれがあります。

補　足

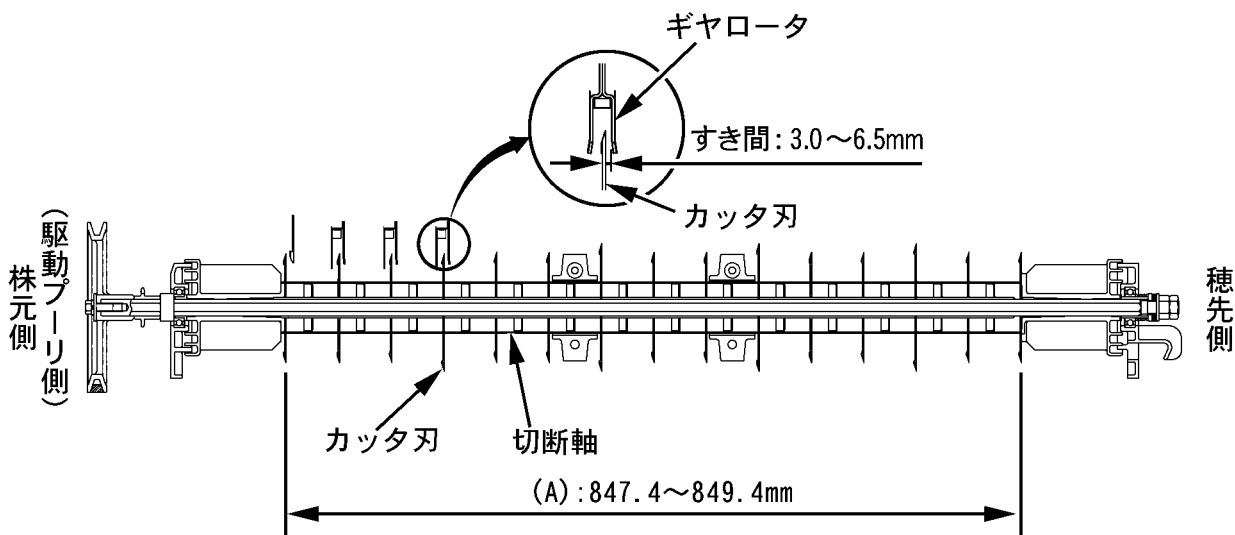
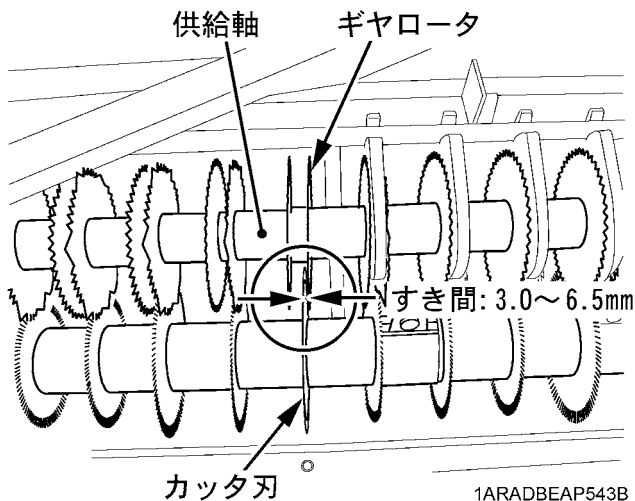
＊ 取付方向（刃先の向き）や大きさを間違うとわらの切断性能が悪くなります。
＊ カッタ刃の大きさは大小２種類あります。**[329・335 :φ150 とφ130，438・447 :φ172 とφ150]**
＊ 刃の向きと回転方向は下図のようになります。
＊ 皿バネ３枚は下図のように組付けてください。

1ARADBNAP319B　1ARADBEAP541A

  (3) カッタ刃の交換が終わると，分解と逆の手順で切断軸アッシを組立てます。
  (4) 切断軸アッシを垂直に立てた状態で調整ナットをスパナで軽く締付けたあと，ロックナットを仮止めします。

11. 切断軸アッシをカッタフレームに取付けます。（手順６～９の逆に取付けます。）
12. 切断軸の調整ナットとロックナットを増締めの要領（281 ページ参照）で締付けます。

重　要

＊ 軸の締付けトルクは 49.0 ～ 58.8N・m（500 ～ 600kgf・cm）です。確実に締付けてください。
　カッタ刃とギヤロータが接触していないか手で切断軸を軽く回して確かめてください。

13. 下図のようにカッタ刃の両端の寸法（A）が 847.4 ～ 849.4mm の範囲から外れているときやカッタ刃とギヤロータのすき間が 3.0 ～ 6.5mm の範囲から外れているときは，再度分解と正しい組立てを行ないます。

重　要

＊ 再組立てを行なっても範囲から外れるときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

14. カッタを閉じます。
15. 取外した逆の手順で各部品の取付けを行ないます。

■キャビン内気，外気フィルタの掃除・交換

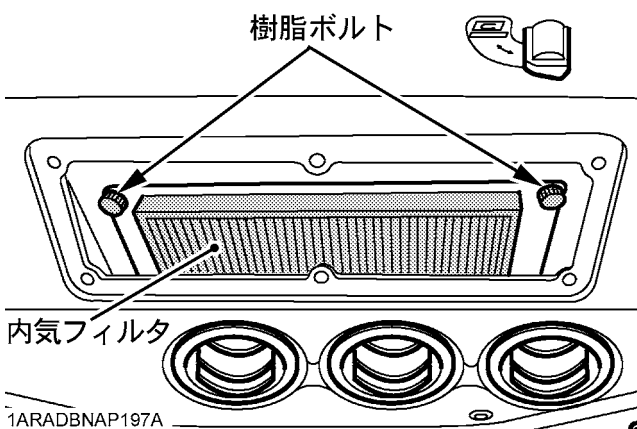
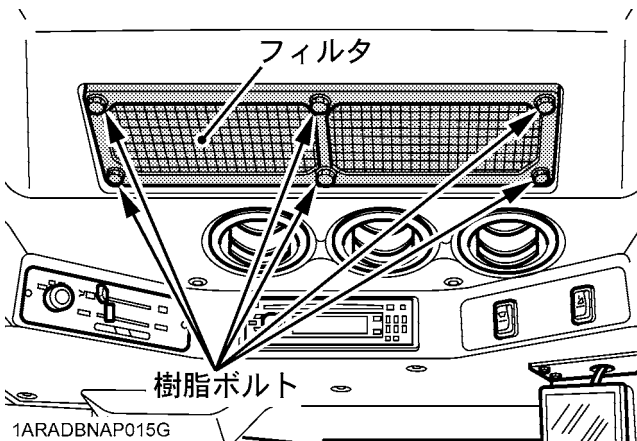
[Q 仕様]

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタを損傷させないように掃除してください。

◆ 内気フィルタの掃除・交換

1. フィルタの樹脂ボルトを取外して，フィルタを取外します。そのあと，内気フィルタの樹脂ボルトを取外して内気フィルタを取外します。
2. フィルタと内気フィルタを掃除します。掃除を行なっても汚れの取れないときや，損傷しているときは交換してください。
3. 内気フィルタとフィルタを取付けます。

1ARADBNAP015G

1ARADBNAP197A

重　要

＊ 洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

補　足

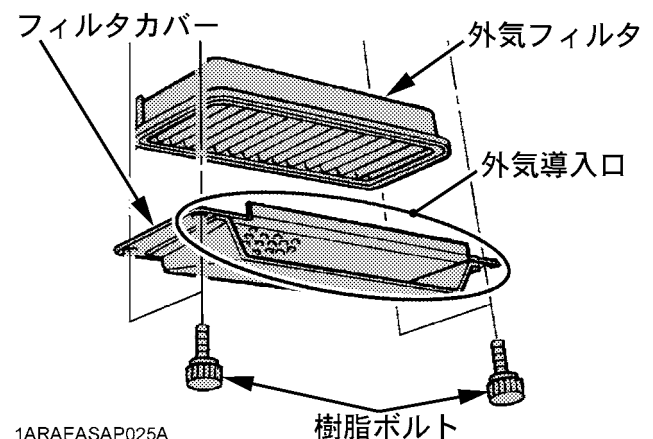
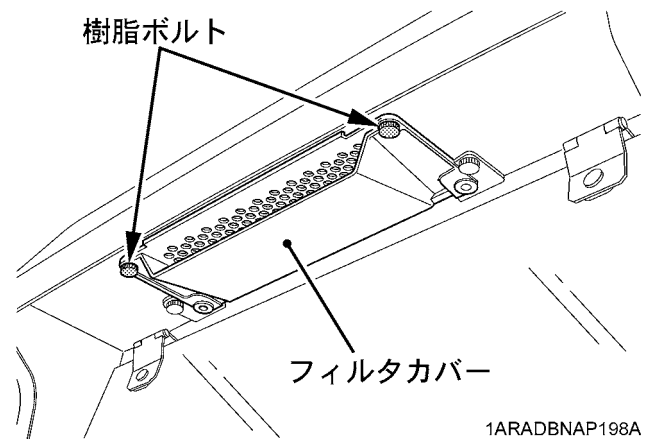
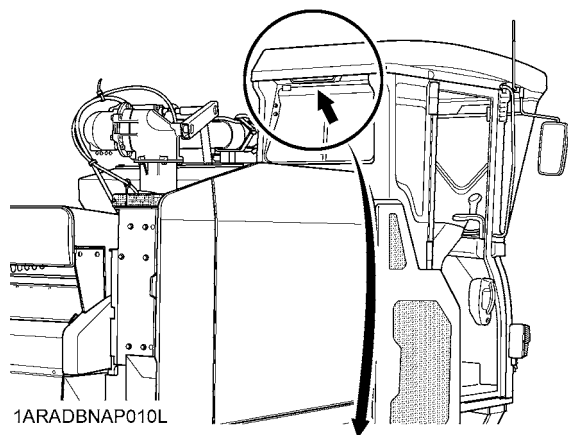
＊ 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。
＊ 汚れが著しいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

◆ 外気フィルタの掃除・交換

1. 樹脂ボルトを取外して，フィルタカバーと外気フィルタを取外します。
2. 外気フィルタを掃除します。掃除を行なっても汚れの取れないときや，損傷しているときは交換してください。

1ARADBNAP010L

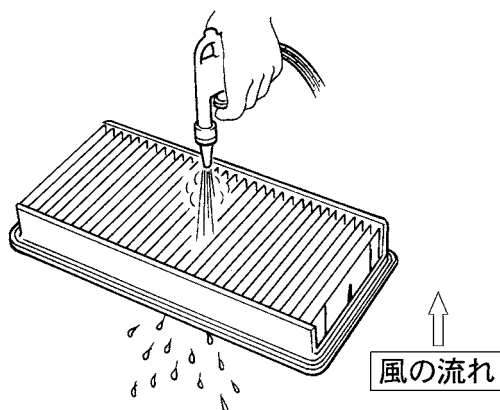
1ARADBNAP198A

1ARAEASAP025A

3. 外気フィルタとフィルタカバーを取付けます。

重　要

＊ エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり固い物に当てて変形させるとエアコンの故障の原因となりますのでしないでください。
＊ 外気フィルタを取付けるときは，傾きが出ないように確実に取付部に差込んでください。

補　足

＊ 風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。

1AGALAFAP314A

＊ 汚れが著しいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。
＊ フィルタカバーの空気導入口を外側に向けて組付けてください。

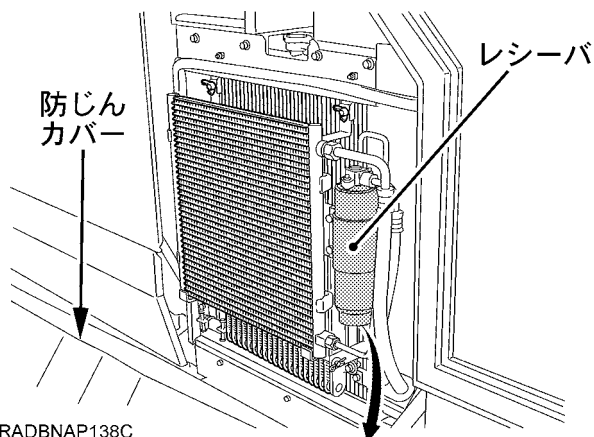
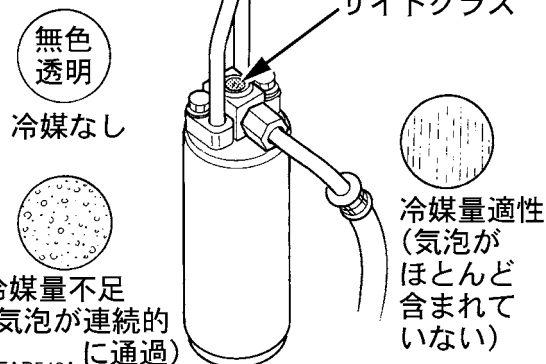
[Q 仕様]

■冷媒（ガス）量の点検

[Q 仕様]

冷媒が不足するとエアコンが冷えなくなります。下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先に連絡して補充してください。

◆ 点検

1. エアコンを以下の条件で運転します。
   - 外気温：30 度以上
   - エンジン回転数：約 1500rpm
   - 内外気切換えツマミ：**[内気循環]** 位置
   - 温度コントロールレバー:左端（**[COOL]**側）
   - ファンスイッチ：**[HI]（強）**位置
   - エアコンスイッチ：**[入]** 位置
   - 窓（左，後）を全開，ドア全開
2. 防じんカバーを開きます。
3. サイトグラスにより，冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認します。
4. レシーバに流れている冷媒ガスを，サイトグラスから確認します。

1ARADBNAP138C

1ARADBEAP548A

5. エンジンを停止し，ファンスイッチとエアコンスイッチを **[切]** 位置にします。
6. 防じんカバーを閉じます。

7. 窓（左，後）とドアを閉じます。

[Q仕様]

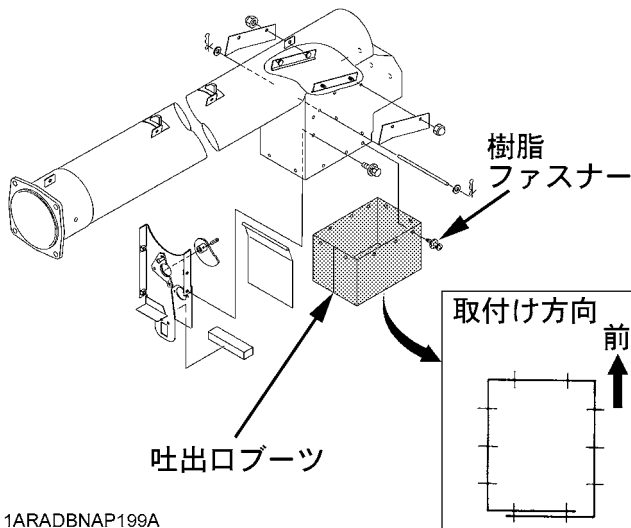
■吐出口ブーツの点検･交換

アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

◆ 交換

1. ブーツを取付けている樹脂ファスナーを外します。
2. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

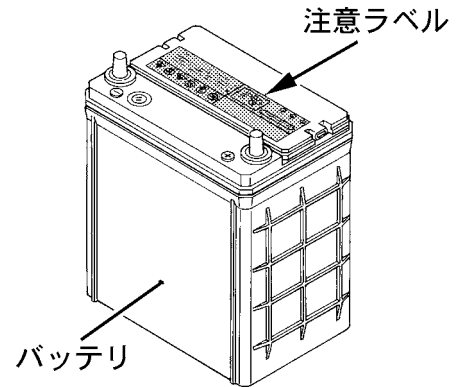
補　足

＊ ブーツを取付けるとき，ブーツの重なりの方向を間違えないでください。

1ARADBNAP199A

重　要

＊ 吐出口ブーツは必ずクボタ純正品を使用してください。

■バッテリの点検･交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

1ARADBEAP550A

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊ バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。
＊ 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。
＊ この 12V バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ 急速充電は厳禁です。
＊ 開封は厳禁です。（密封タイプ）

＊ バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

補　足

＊ 出荷時は，補水不要のバッテリです。

◆ 点検

バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき………
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。
＊ バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

[Q 仕様除く]

1. エンジンルームを開いたあと，ステップのゴムカバーを取外します。

[Q 仕様除く]

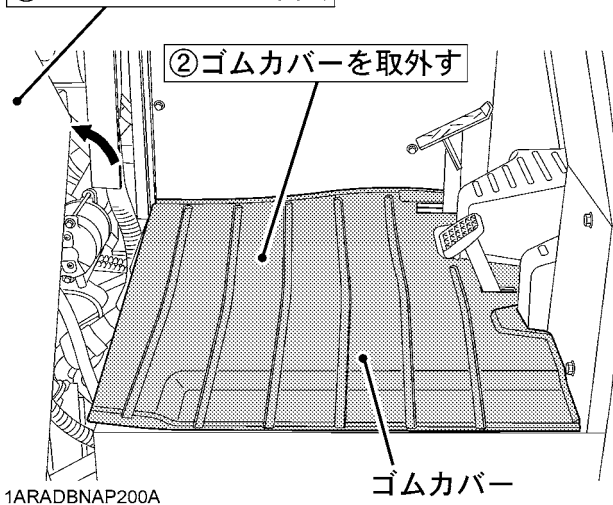
[Q 仕様]

1. キャビンのドアを開いたあと，ステップのゴムカバーを取外します。

[Q 仕様]

2. 点検カバーを取外します。

[Q 仕様除く]

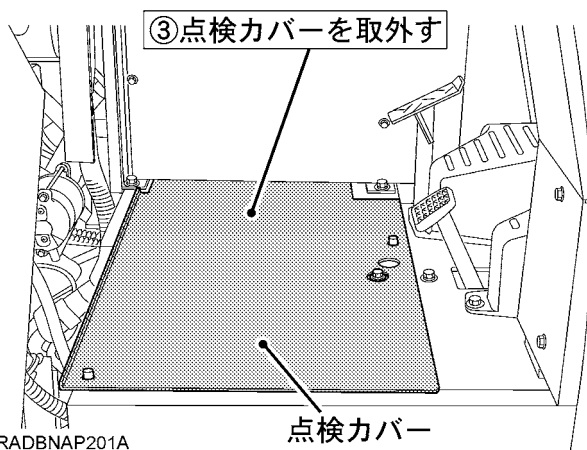
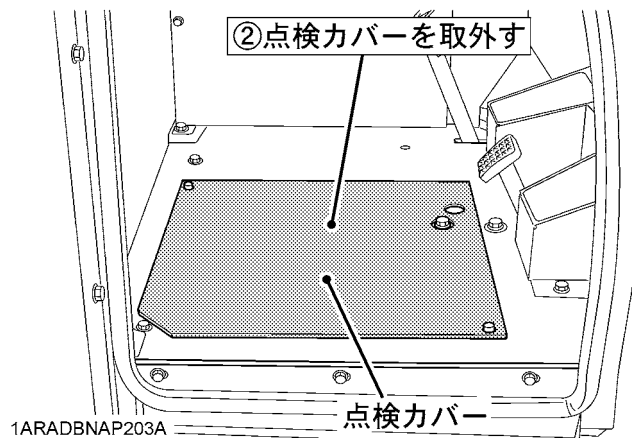
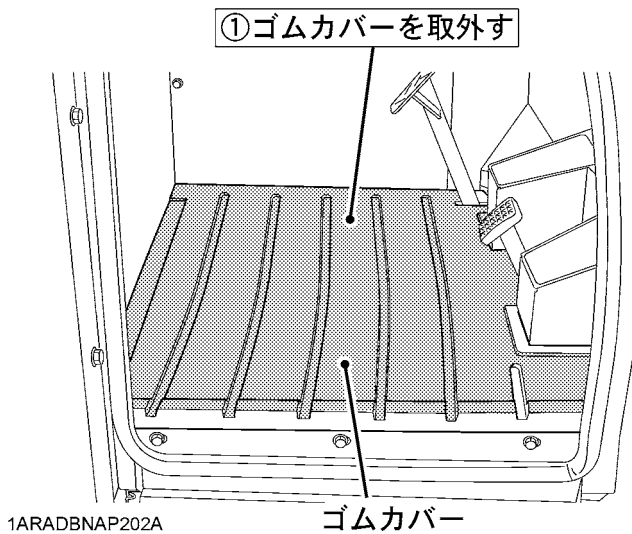
1ARADBNAP200A

1ARADBNAP201A

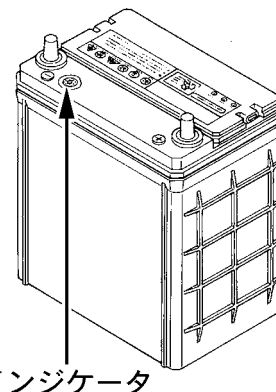
[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

1ARADBNAP202A

1ARADBNAP203A

[Q 仕様]

3. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
   (1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

1ARADBEAP550B

補　足

* インジケータは真上から確認してください。

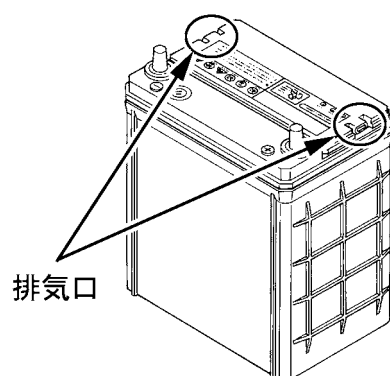
   (2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

重　要

* 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重 要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。

1ARADBEAP550C

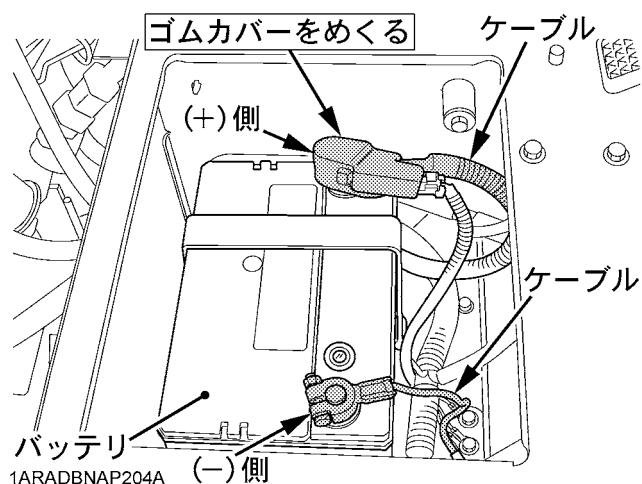
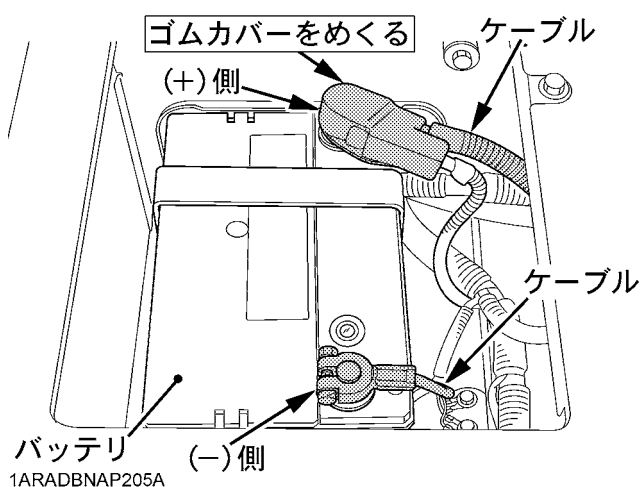
(4) バッテリケーブルの破損や（＋）端子，（－）端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。

[Q 仕様除く]

1ARADBNAP204A

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

1ARADBNAP205A

[Q 仕様]

4. 点検カバーを取付けたあと，ゴムカバーを取付けます。

◆ 補充電・交換

危 険

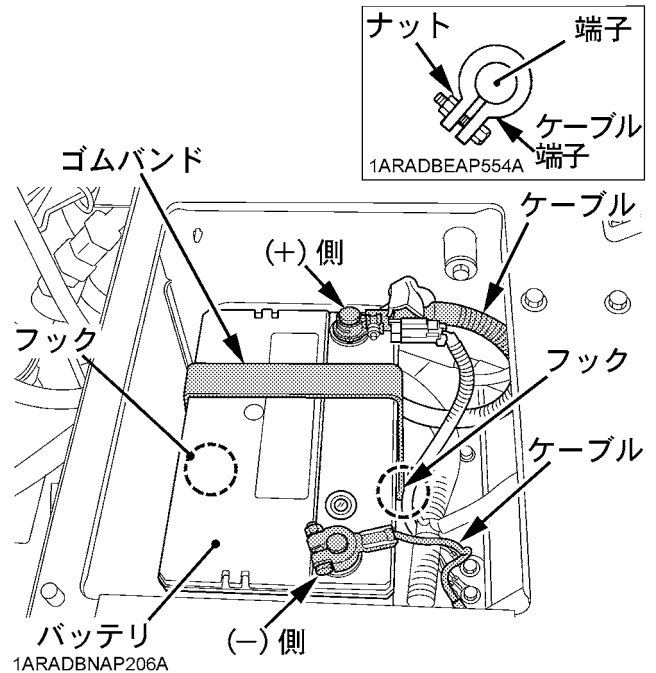
＊ バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
- **取外し…（－）端子側（アース側）から外す。**
- **取付け…（－）端子側（アース側）を最後に接続する。**

警 告

＊ バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊ バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（－）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊ バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。
- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。

1. バッテリを機体から取外します。
   (1) ゴムバンドの端部金具をフックから外します。
   (2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。

重 要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重 要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
  バッテリ形式：**80D26L-MF**
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。
＊ 機械にバッテリを搭載した状態で急速充電をしないでください。

補 足

＊ 端子にグリースを塗布してからケーブル端子を取付けてください。

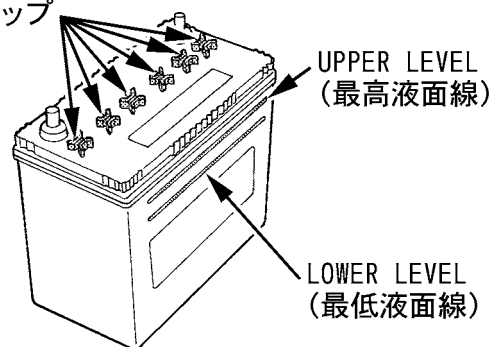
補水が必要なバッテリの場合

（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

◆ 点検・補水

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

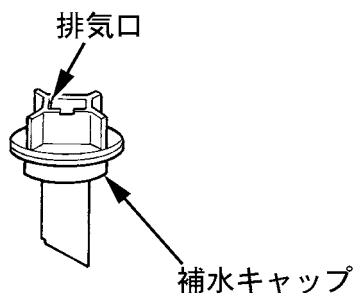
1. バッテリ液の量を点検し，**［UPPER LEVEL］**（最高液面線）と**［LOWER LEVEL］**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。

1ARADBEAP555A

重 要

* バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
* バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
* バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重 要

* 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。

1ARADBEAP556A

◆ 補充電・交換

*** 補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。**

1. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード，各ヒューズの点検・交換

警 告

*** 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。**

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，購入先へ連絡して修理を依頼してください。

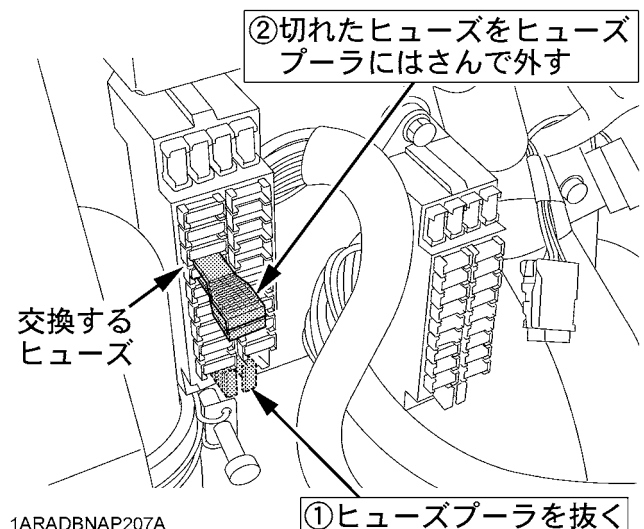
◆ 各ヒューズの交換

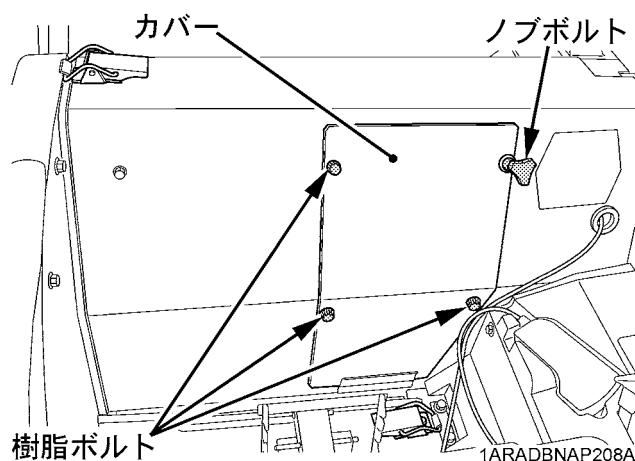
ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

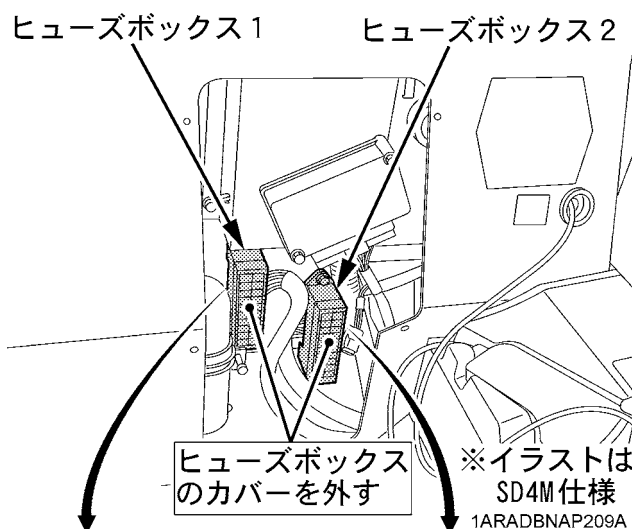
重 要

* 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
* ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，購入先に連絡して修理を依頼してください。

補 足

* ヒューズを交換するときは，ヒューズボックスのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。

1ARADBNAP207A

1. 刈取部を地面に着くまで降ろしたあと，エンジンを止めます。
2. 運転席（シート）を前方へ倒します。
3. 樹脂ボルト３本とノブボルト１本を取外して運転席後面のカバーを外します。

1ARADBNAP208A

4. ヒューズケースのカバーを取外します。
5. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。

1ARADBNAP209A

A	B	C	D
E		–	
F		O	
G		P	
H		Q	
I		R	
J		S	
K		T	
L		U	
M		V	
N		W	
ヒューズ抜き			

1ARADBNAP210A

A	B	C	D
E		–	
F		L	
G		M	
–		N	
–		O	
–		P	
H		Q	
I		R	
J		S	
K		T	
ヒューズ抜き			

1ARADBNAP211A

ヒューズボックス１

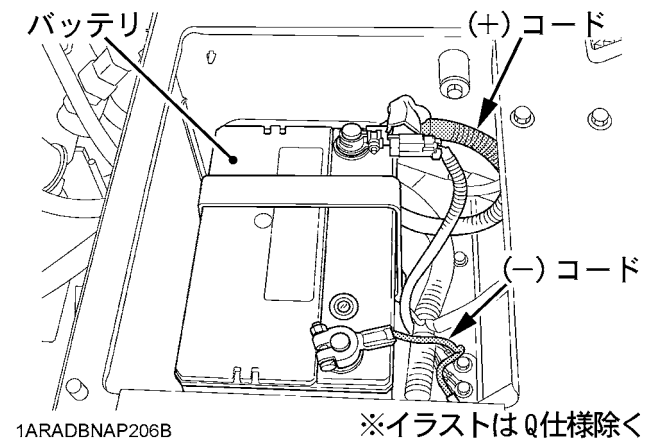
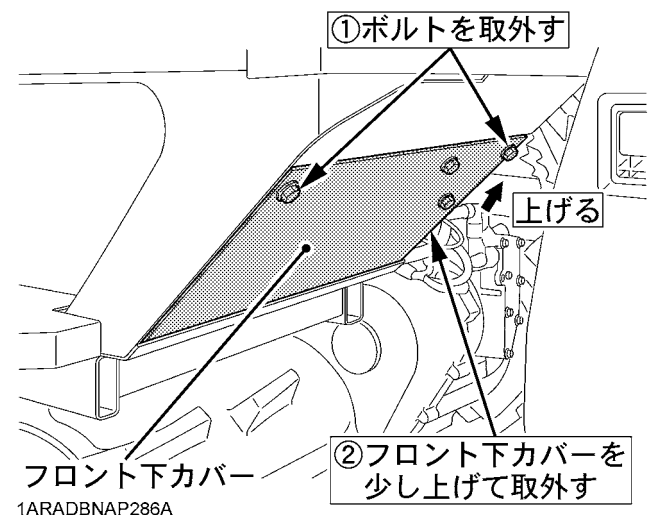
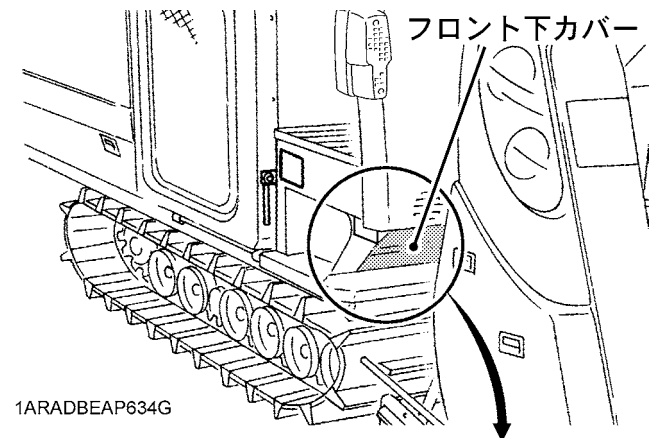
	回　路	容量(A)	対象型式
A	予備ヒューズ	25	全型式
B	予備ヒューズ	15	全型式
C	予備ヒューズ	10	全型式
D	予備ヒューズ	5	全型式
E	分草かんオープンモータ	20	HD・SD 仕様
F	脱こくクラッチモータ	25	HD・SD 仕様
G	逆流ファンモータ	20	438・447
H	車速モータ	20	全型式
I	こぎ深さモータ	25	全型式
J	油圧バルブ	15	全型式
K	オルタネータ，燃料ポンプ	10	全型式
L	エンジン	10	全型式
M	センサ	5	全型式
N	マイコン，パネル，メータ	5	全型式
O	キャビン	7.5	Q 仕様
P	ワイパ，ウオッシャ	20	Q 仕様
Q	ブロワ	20	Q 仕様
R	左右モンロ	10	HDM・DXM 仕様
S	アンローダ旋回モータ	30	全型式
T	ウインカ	10	全型式
U	ブザー	10	全型式
V	SW（エンジン始動）	5	全型式
W	ハイサイド SW	5	全型式

ヒューズボックス２

	回　路	容量 (A)	対象型式
A	予備ヒューズ	30	全型式
B	予備ヒューズ	20	全型式
C	予備ヒューズ	10	全型式
D	予備ヒューズ	5	全型式
E	スタータ SW	5	全型式
F	株揃えフレームモータ	20	全型式
G	ワラ作業切換モータ	20	全型式
H	ラジオ（直 B）	5	Q 仕様
I	本機作業灯（直 B）	30	全型式
J	マイコン，メータ（直 B）	5	全型式
K	メインスイッチ（直 B）	30	全型式
L	チャフモータ	20	SD4M 仕様
M	トウミモータ	20	SD4M 仕様
N	シャッタモータ	20	HD・SD 仕様
O	排ワラレールモータ	25	全型式
P	バックモニタ	10	Q 仕様
Q	ラジオ	15	Q 仕様
R	注油ポンプ	10	全型式
S	前照灯	15	全型式
T	制動灯，後退灯	10	全型式

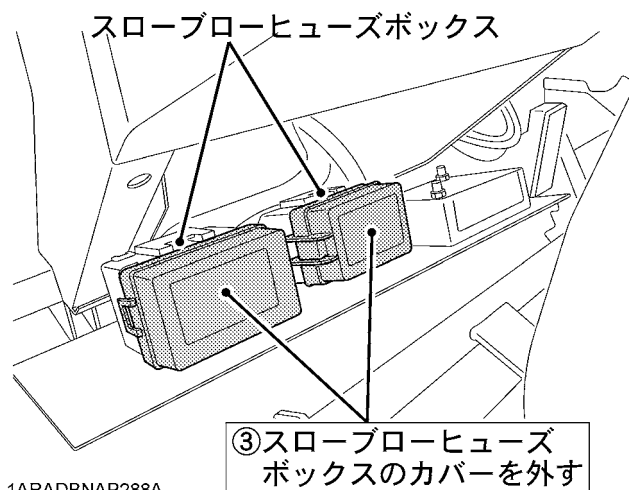
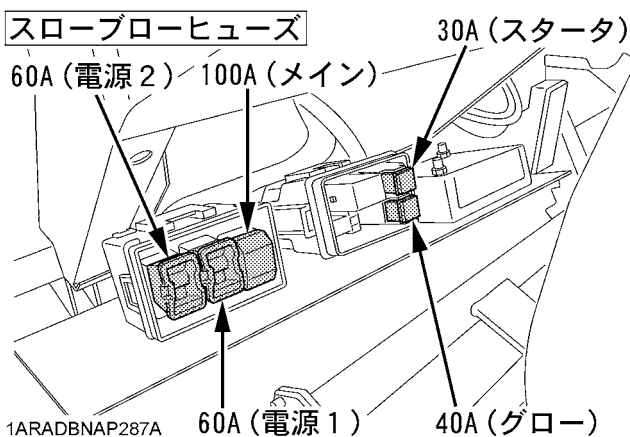
◆ スローブローヒューズ･バッテリ（＋）コードヒューズの点検･交換

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。

［バッテリ部］

1ARADBNAP206B

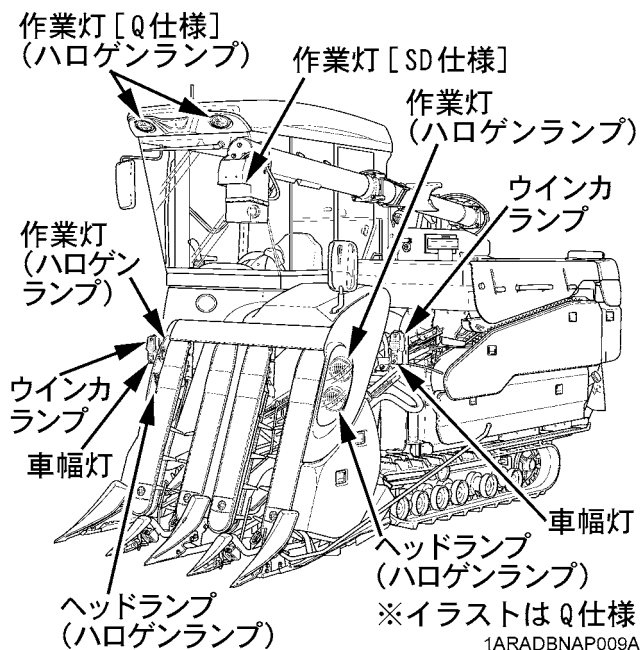
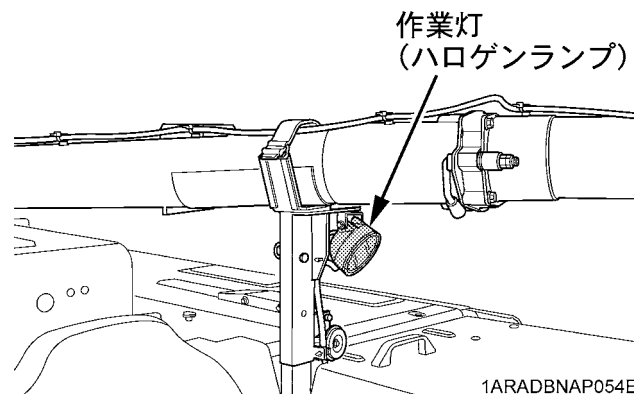
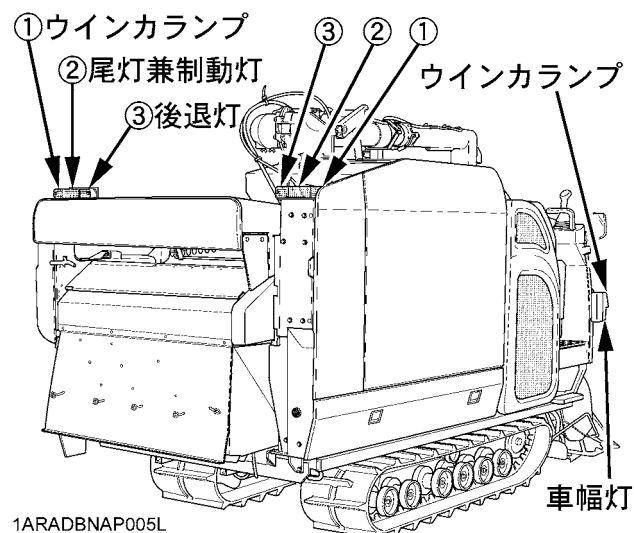
［バッテリ部］

［フロント下カバー内］

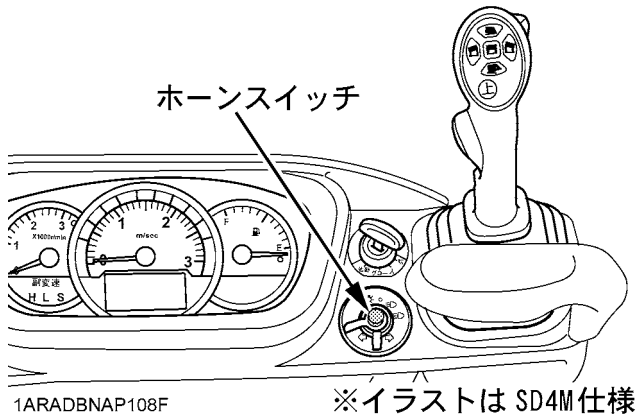
1ARADBEAP634G

1ARADBNAP286A

［フロントト下カバー内］

■ランプ（電球）の点検･交換，ホーンスイッチの点検

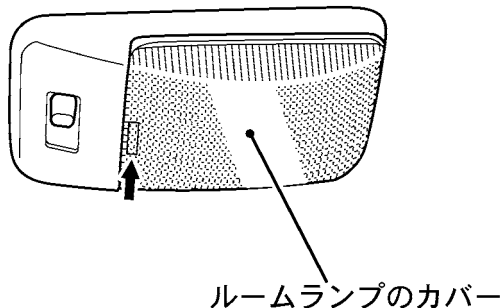
ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。

重 要

＊ ハロゲンランプ（作業灯，ヘッドランプ）の交換をしたとき，ランプの表面に指紋などの油分が付着したときは，きれいにふきとってください。破損する原因になります。

1ARADBNAP108F

● **ルームランプ**

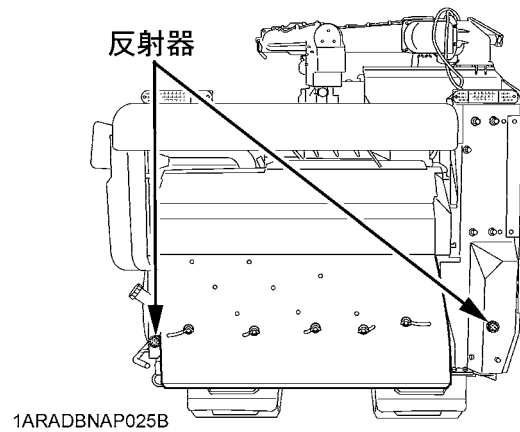
[Q 仕様]

カバーを➡の凹部にマイナスドライバなどの先端部を差込み，下方向に押して取外して，電球を交換してください。

1ARAEASAP014B

[Q 仕様]

■反射器，反射テープの点検・交換

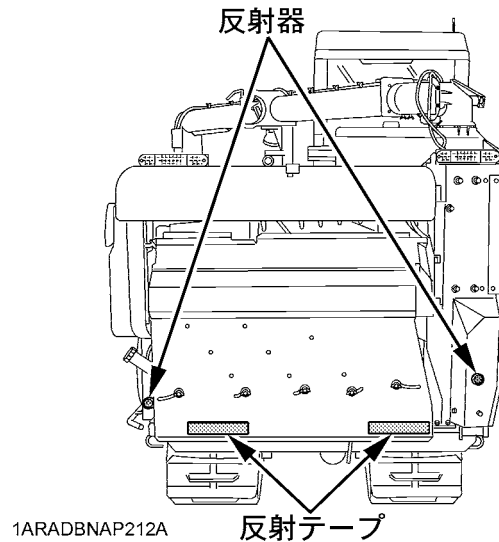
汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。

[Q 仕様除く]

1ARADBNAP025B

[Q 仕様除く]

[Q 仕様]

1ARADBNAP212A

[Q 仕様]

■クローラの点検·調整

警　告

* **＊ 点検・調整を行なうときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**

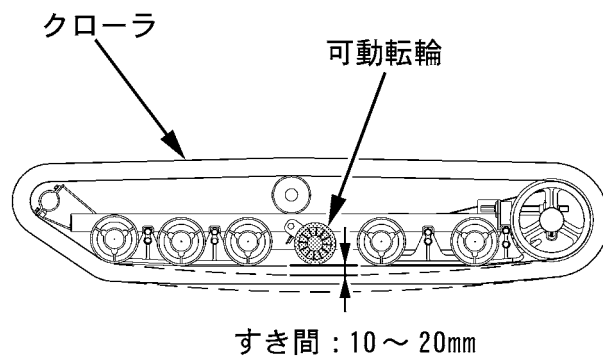
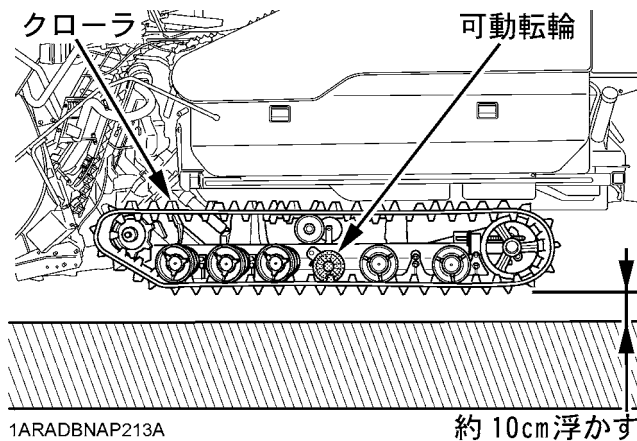
注　意

* **＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに，枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。**
* **＊ ジャッキアップを行なうときは，コンクリートなど地面の固い場所でバランスのとれた位置にして作業してください。**
* **＊ ジャッキは持上荷重が２トン以上の物を使用してください。**
* **＊ 機体にセットする木材やブロックなどは，じゅうぶんな強度があるもので，セットするときは機体から外れないように注意しながら行なってください。**

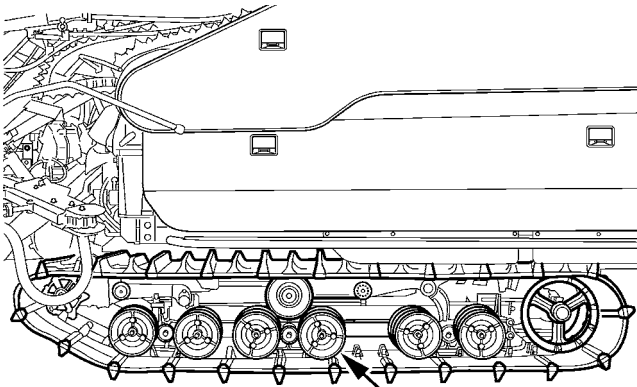
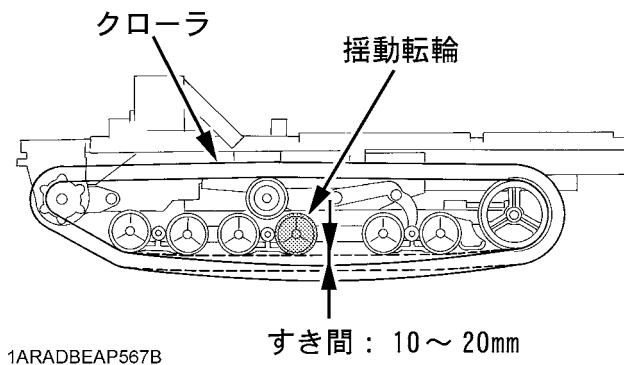
［M 仕様除く］

地面からクローラを約 10cm 浮かした状態で，クローラ下側上面と可動転輪下端のすき間を 10 ～ 20mm に調整してください。また，調整は片側ずつ行なってください。

1ARADBNAP213A

1ARADBNAP214A

［M 仕様除く］

［M 仕様］

地面からクローラを約 10cm 浮かした状態で，機体を**最下降**位置にし，クローラ下側上面と第３・第４の揺動転輪下端のすき間を 10 〜 20mm に調整してください。また，調整は片側ずつ行なってください。

4HAAYACAP008B

1ARADBEAP567B

［M 仕様］

1. 機体を平たんな場所に移動します。
2. クローラを地面から 10cm 程度浮かせます。

重　要

＊ ミッションケースを絶対にジャッキアップしないでください。破損するおそれがあります。

(1) エンジンを始動したあと，刈取部を**最上昇位置**にします。
(2) 刈取下降ロックスイッチを **［ロック］** 位置にして刈取部の下降防止を行なったあと，エンジンを停止します。

［M 仕様除く］

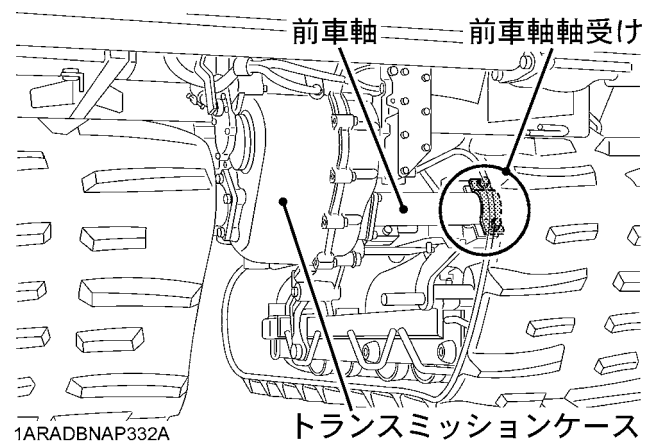
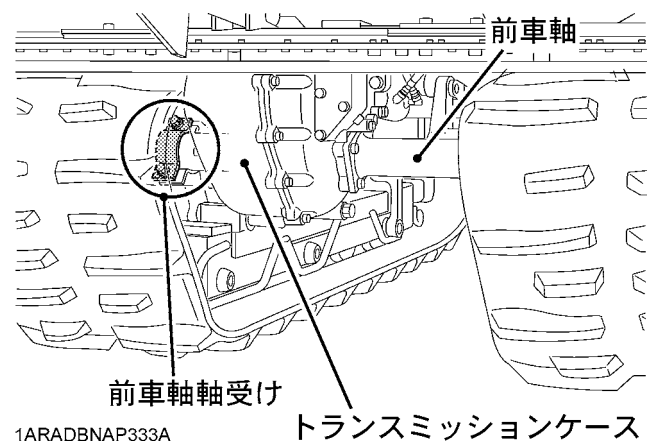
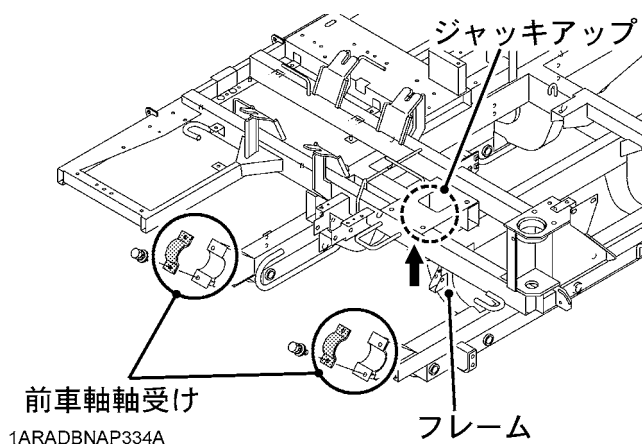
(3) 機体をジャッキアップし，クローラを地面から 10cm 程度浮かせます。

［M 仕様除く］

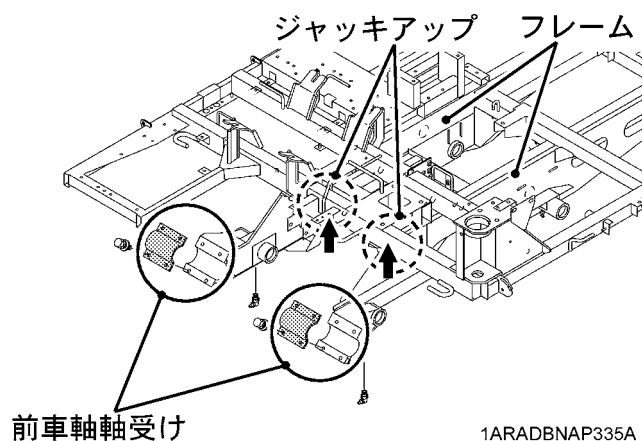
［M 仕様］

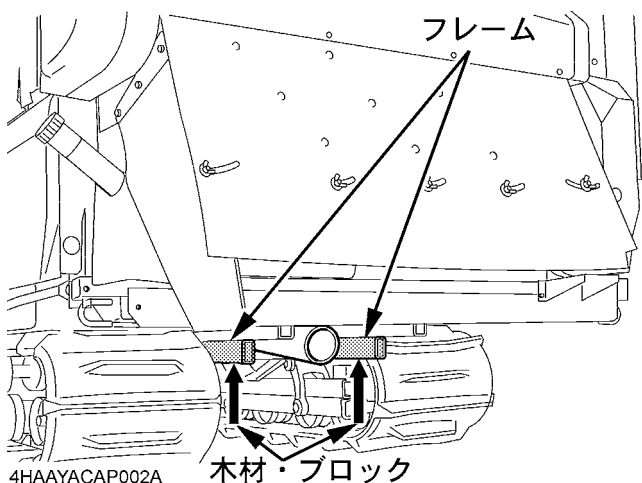
(3) エンジンを始動したあと，水平操作手動スイッチを操作し，機体を上昇させてからエンジンを停止します。

［M 仕様］

(4) 前部はトランスミッションケース部の前車軸後方にあるフレームに木材やブロックをセットします。

1ARADBNAP332A

1ARADBNAP333A

[M 仕様除く]

[M 仕様除く]

[M 仕様]

[M 仕様]

(5) 後部は機体フレームの下図位置に調整を行なう側のフレームに木材やブロックをセットします。

[M 仕様]

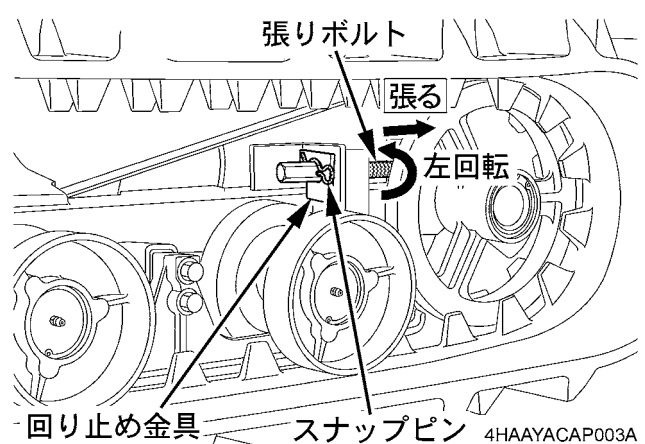
(6) エンジンを始動したあと，水平操作手動スイッチを操作し，機体を**最下降位置**まで下げたあと，エンジンを停止します。

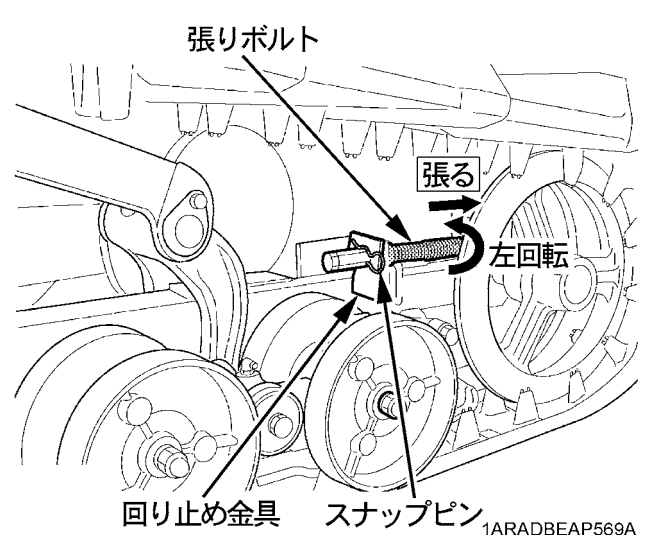
[M 仕様]

重　要

＊ ジャッキアップを行なうときは，前車軸にジャッキをセットしないでください。前車軸が変形するおそれがあります。

3. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。
4. 張りボルトでクローラを張りながら，すき間の調整を行ないます。

[M 仕様除く]

[M 仕様除く]

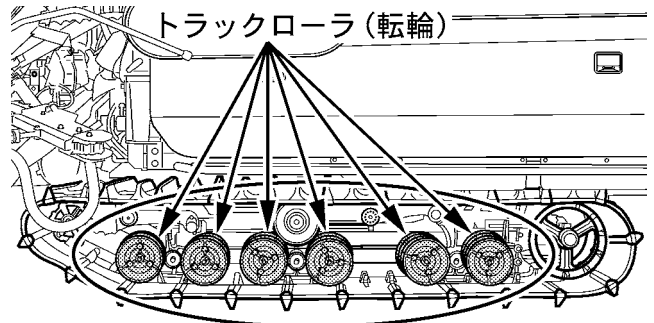
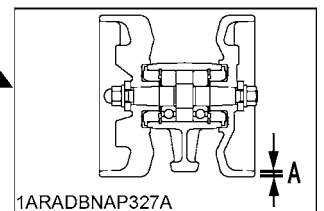
[M 仕様]

[M 仕様]

5. 左，右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。
6. ジャッキ及びブロックや木材を取外します。
   (1) エンジンを始動したあと，水平操作手動スイッチを操作して機体を上げます。
   (2) エンジンを停止します。
   (3) 木材やブロック及びジャッキを機体から取外します。

重　要

* クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
* クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期 20，及び 50 時間目に点検してください。
* クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため，下記事項を守ってください。
  - 日光や雨による劣化防止のため，屋外に長期保管しないでください。
  - オイルや燃料，農薬，肥料など油脂類の付着による劣化防止のため，クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。

■トラックローラ（転輪）の点検

トラックローラの下図 A 寸法が，2 mm 以下になったとき又は，使用時間が 800 時間経過したときの早いほうで交換してください。

補　足

* 交換を行なうときは，購入先に連絡してください。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

＊ 機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。（192 ページ参照）
3. アンローダを収納します。
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのキーを抜取ります。
6. キャビン仕様はバックミラーを収納し，ドアをロックしたあとキーを抜取ります。
7. 本機カバーを掛けます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。

重　要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。
＊ 作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの **［給・注油（水）一覧表］** を参照して，各部の給・注油（水）を行なってください。

補　足

＊ 各部にもみやわらくずが残っていると，ネズミに配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。
＊ 各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
＊ 塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

● 排水しておくとき

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。（225 ページ参照）
2. ラジエータキャップに **水なし** と書いた札を掛けておいてください。

● 不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。（225 ページ参照）

重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも 50% 以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。（ラジエータ容量……3.7L）
＊ 不凍液の混合比を誤まると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

◆ バッテリ

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注　意

＊ バッテリを点検するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１カ月，冬は２カ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，（－）側のケーブルを必ず取外してください。

◆ 各レバー・その他

重　要

＊ サイドシュートやリヤシュートをロープで押えないでください。変形するおそれがあります。
＊ 刈取部を地面に降ろしたとき，刈取部の下に物が置かれているとトラブルの原因となります。

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

- デバイダカバーを取付けたあと，分草かんを収納します。
- アンローダ受けを下げて収納します。
- アクセルダイヤルをいっぱい戻して（[ ] 位置）止めておきます。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- **[DX　仕様]** は脱こく・刈取クラッチレバー，**[HD・SD 仕様]** は作業レバーを **[切]** 位置にします。
- **[M 仕様]** の車体水平制御は，機体いっぱいまで下げます。
- メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管します。
- 本機カバーを掛けます。

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

警　告

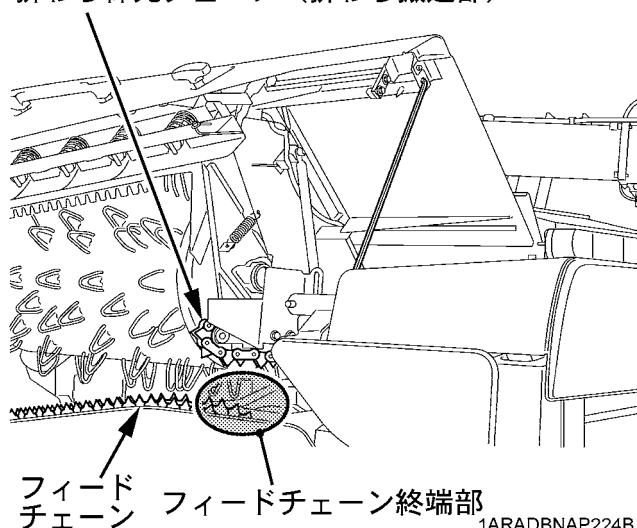
＊ **引起し部，グレンタンク，こぎ胴などの各部を開いて作業を行なうときは，下記事項を遵守してください。**
- **平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- **傾斜地では，各部の開閉は行なわないでください。**
- **引起し部，グレンタンク，こぎ胴を開いたときは，閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
- **各部を開いた状態で走行をしないでください。**
- **各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**

＊ **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

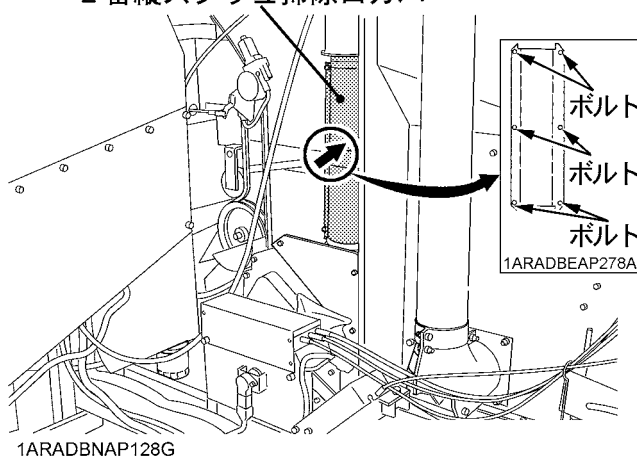
わらが詰まる

■自動エンジン停止装置がはたらいたとき

◆ フィードチェーン終端部・排わら搬送部

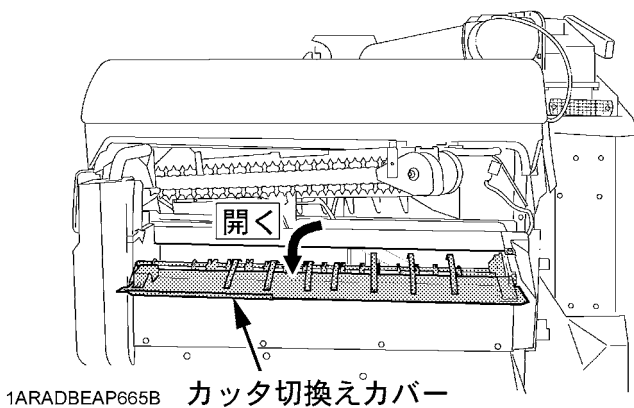
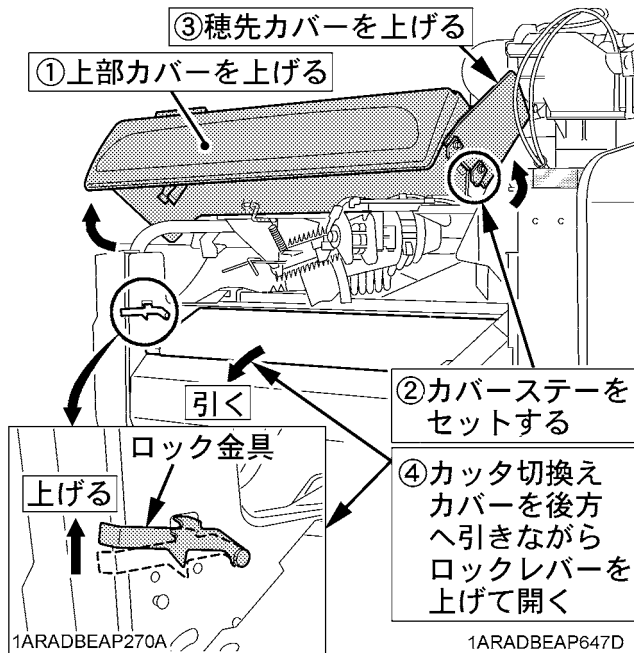
自動エンジン停止装置がはたらき，液晶ディスプレイに **[排ワラ]⟷[詰まりを取り除く]** と表示し，ブザーが鳴ったときには，掃除してください。

◆ 2番縦スクリュ掃除口

液晶ディスプレイに **[２番]** **[詰まりを取り除く]** と表示し，ブザーが鳴ったときには，掃除してください。

1. グレンタンクを開きます。
2. ２番縦スクリュの掃除口カバーを外します。

3. ２番縦スクリュ掃除口内のわらくずを取除きます。
4. ２番縦スクリュの掃除口カバーを取付たあと，グレンタンクを閉じます。

◆ **カッタ部・排わらチェーン部**

自動エンジン停止装置がはたらき，液晶ディスプレイに **[カッタ]⟷[詰まりを取り除く]** と表示し，ブザーが鳴ったときには，掃除してください。

1. カッタ切換えカバーを開きます。
   (1) 上部カバーを上げてカバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。
   (2) カバーロックレバーを引き，カッタ切換えカバーを後方へ倒します。

補　足

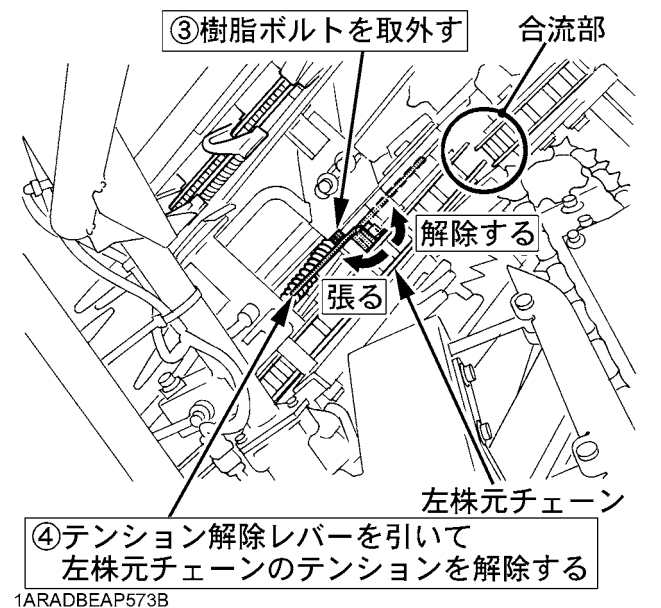
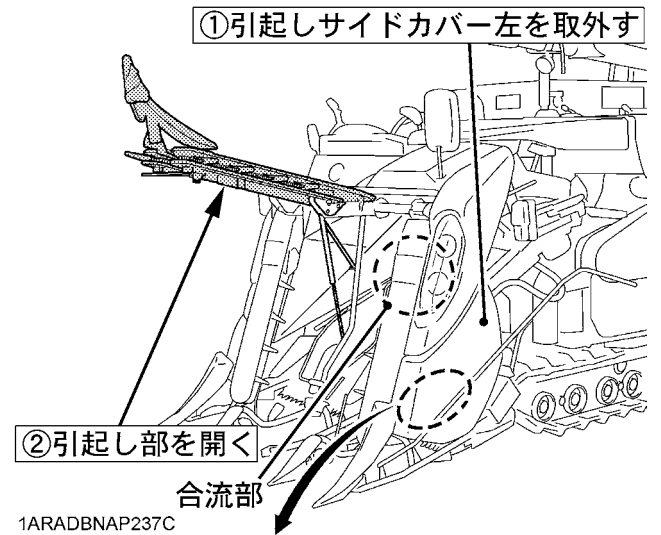
＊ 必要に応じて，このあとカッタ部を開いて掃除を行なってください。
＊ カッタ切換えカバーを開けたままでは，エンジンを始動しても **[DX 仕様]** は脱こくクラッチレバーを **[切]** 位置，**[HD・SD 仕様]** は作業レバーを **刈取 [切]** 位置にするとエンジンが止まります。

2. カバーをロック金具を引きながらカッタ切換えカバーを閉め，カバーロック金具を確実にロックします。

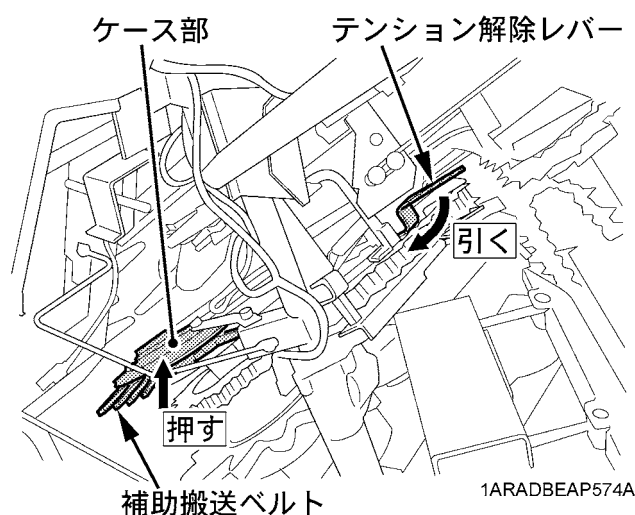
■わら詰まりの取除きかた

◆ **左，右株元チェーン合流部**

[438・447]

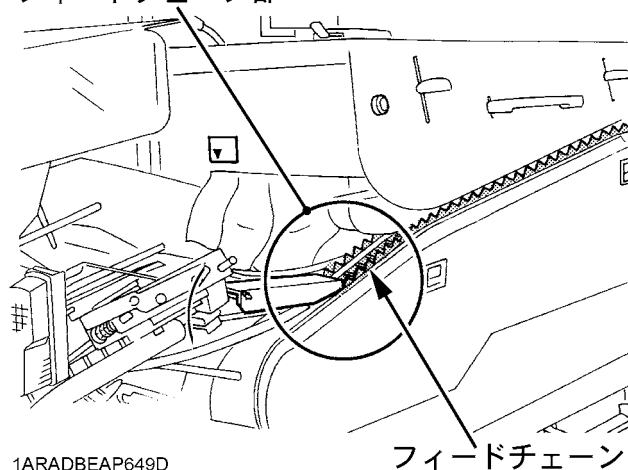
1. 刈取部を地面に着くまで降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー左を取外したあと，引起し部を開きます。
3. テンション解除レバーを右側に押して，左株元チェーンのテンションをゆるめたあと，合流部のわらを取除きます。

4. わらを取除きます。
5. テンション解除レバーを引いて，左株元チェーンのテンションを張ったあと，樹脂ボルトを取付けます。

補　足

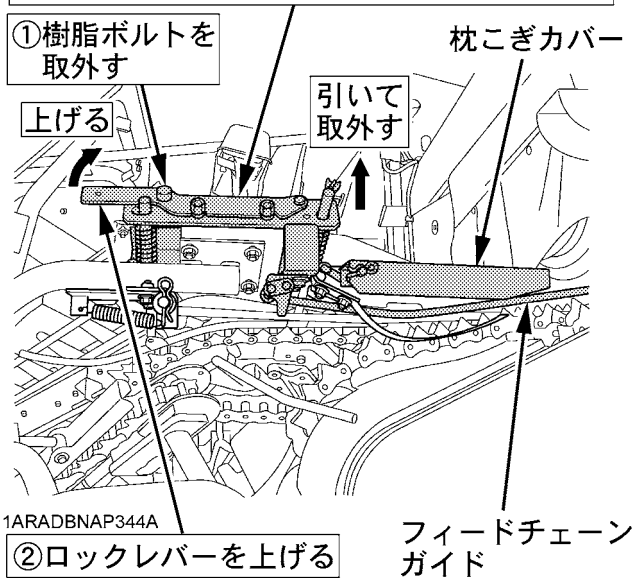
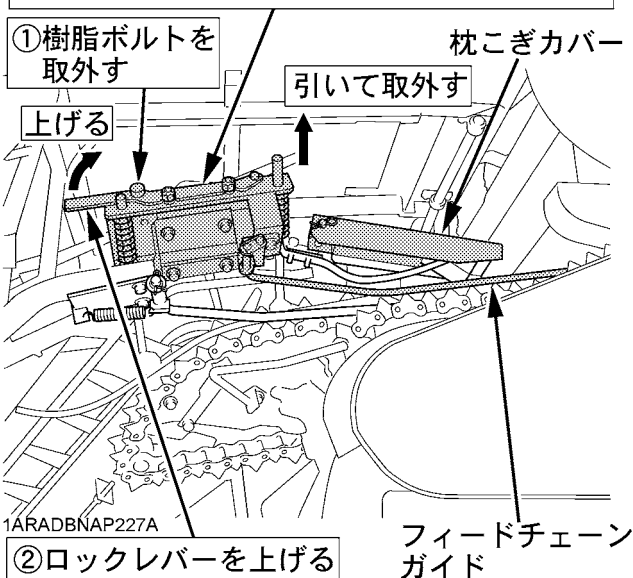
＊ チェーンが張りにくいときは，左側の補助搬送ベルトのケース部を右側へ押しながらテンション解除レバーを引いてください。

6. 引起し部を閉じたあと，引起しサイドカバー左を取付けます。

[438・447]

◆ 供給搬送・フィードチェーン部

供給搬送部のチェーンにわらが詰まったときは，エンジンを停止してわら詰まり除去装置を取外して，わらを取除いてください。

1. こぎ胴を開きます。
2. わら詰まり除去装置を取外します。

[329・335]

[329・335]

[438・447]

[438・447]

3. わらを取除きます。
4. わら詰まり除去装置を取付けたあと，こぎ胴を閉じます。

■シャーピンが破損したとき

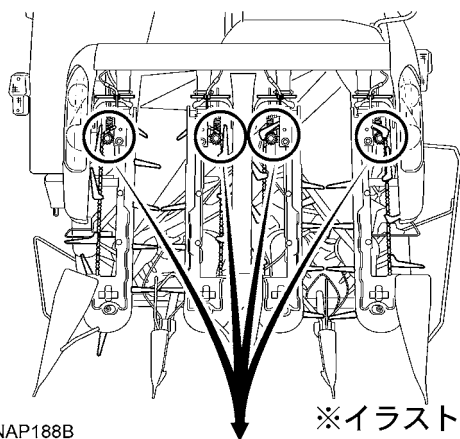
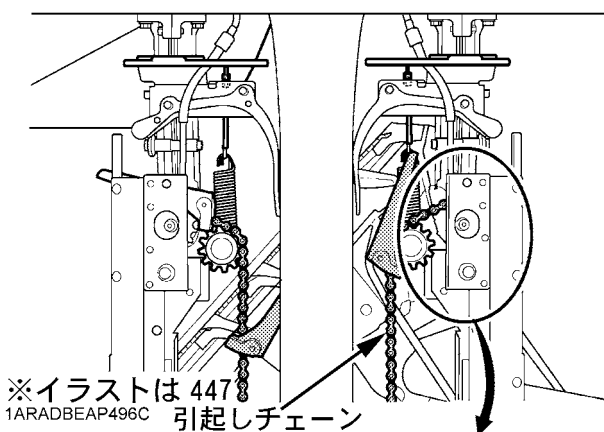
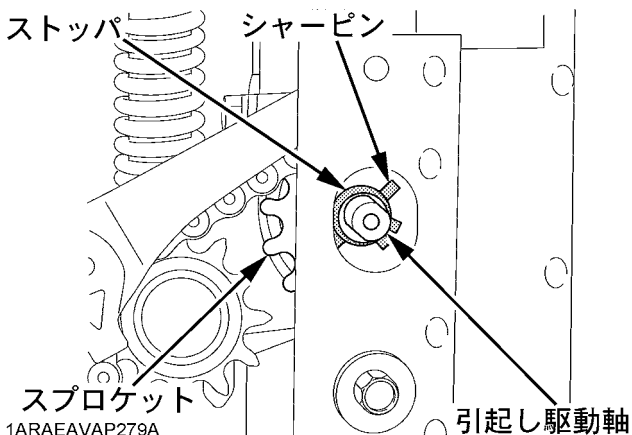
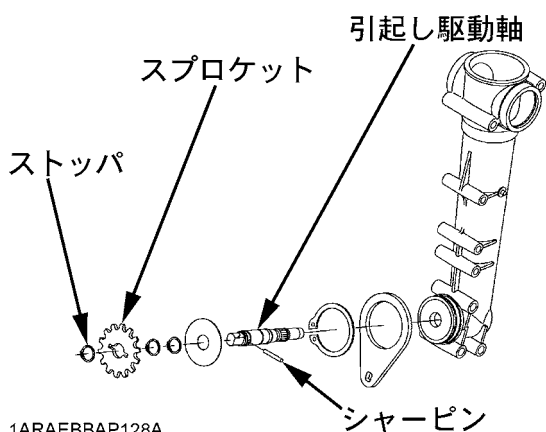
引起しチェーンが動かなくなり，わらが刈取部前面に滞留し，わら詰まりが発生したときは，各引起しチェーンの駆動軸に差し込まれているシャーピンを確認し，折損しているときは購入先に連絡して交換してください。

補　足

＊ シャーピンは予備部品で付属品箱に２個入っています。
＊ 予備のシャーピン（品番：5H803-4695-0）がなくなったときは補充しておいてください。

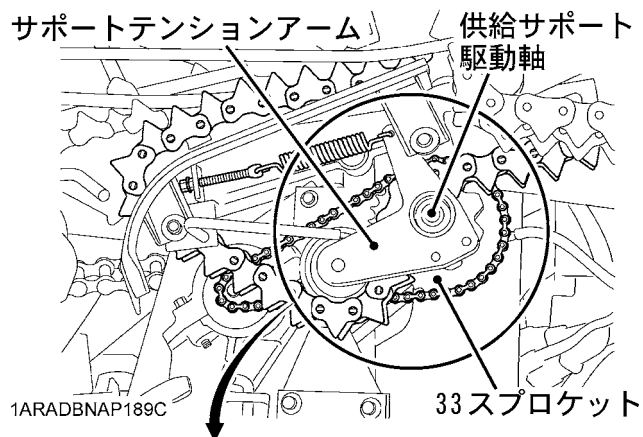
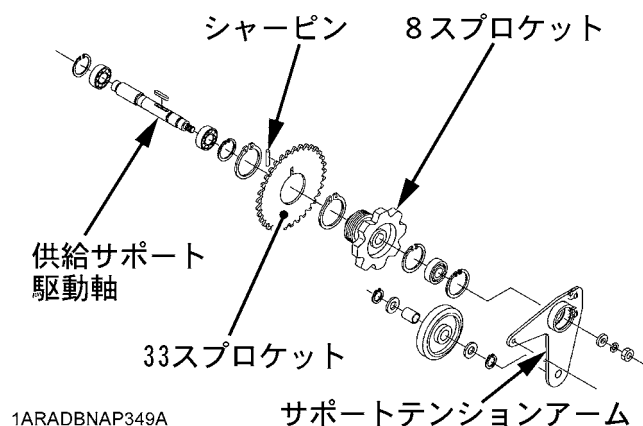
◆ 引起しチェーン駆動軸のシャーピン

刈取部前面にわらが滞留したときは，刈取作業をいったん中止し，シャーピンの確認を行なってください。

1. 平たんな場所に移動したあと，刈取部を地面に着くまで降ろしてエンジンを停止します。
2. 動いていない引起しチェーンの引起しカバーを取外します。
3. シャーピンを確認します。

4. 引起しカバーを取付けます。

◆ **供給サポートチェーン駆動軸のシャーピン**

供給搬送部にわらが滞留し，詰まりが発生したときは，刈取作業をいったん中止し，わらを取除いたあとシャーピンの確認を行なってください。

1. エンジンを停止したあと，わらを取除きます。
2. 左サイドカバー上，下を取外します。
3. シャーピンを確認します。

4. 供給サポートチェーンのカバーを取付けたあと，左サイドカバー上，下を取付けます。

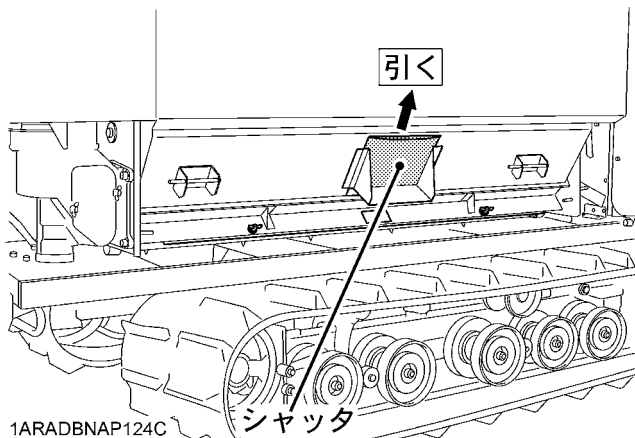
もみが詰まる

■アンローダからもみが排出されないとき

下記事項を点検し，もみ排出クラッチを **[切]** 位置にしたあと，エンジンを必ず止めてから処置してください。

1. 異物がかみ込んでいるときは，アンローダの各掃除口を点検（187 ページ参照）し，異物を取除きます。

[DX 仕様]

2. タンク駆動ベルトがスリップしているときは，シャッタを引いてもみを排出したあと，グレンタンクを開いて（184 ページ参照），スクリュ駆動ベルトのテンションスプリングの調整（261 ページ参照）を行ないます。調整を行なってもスリップが止まらないときは，ベルト交換を行なってください。

[DX 仕様]

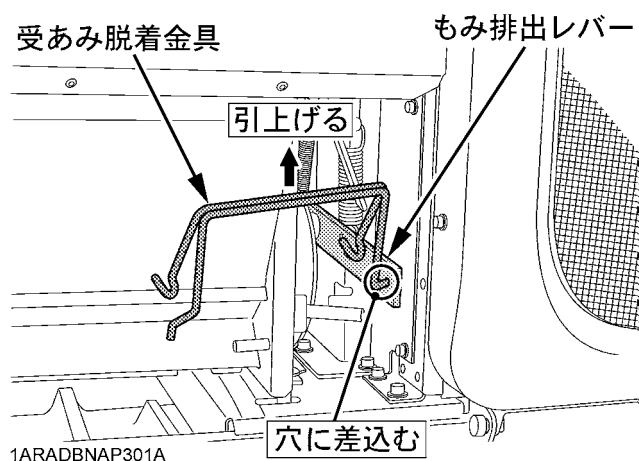
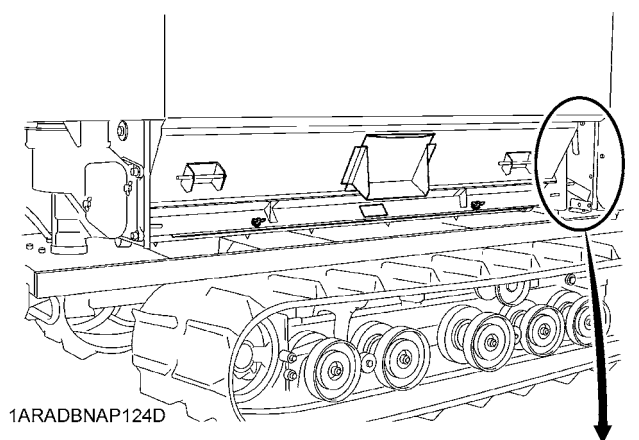
[HD・SD 仕様]

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ もみ排出スイッチを操作してもみを排出するときは，近くの回転物にじゅうぶん注意してください。
＊ アンローダの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

2. もみ排出スイッチを押しても，もみを排出しないときは，下記の要領でもみを排出してください。

- **もみ排出スイッチを押したとき，排出クラッチが作動せずもみが排出されない場合**

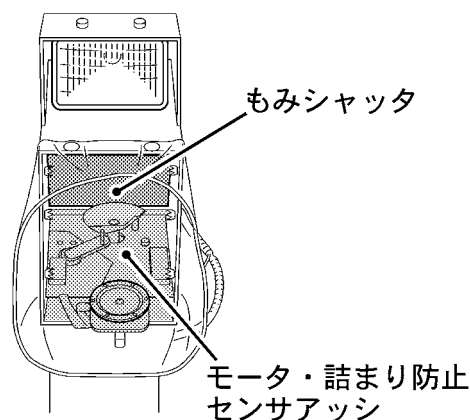
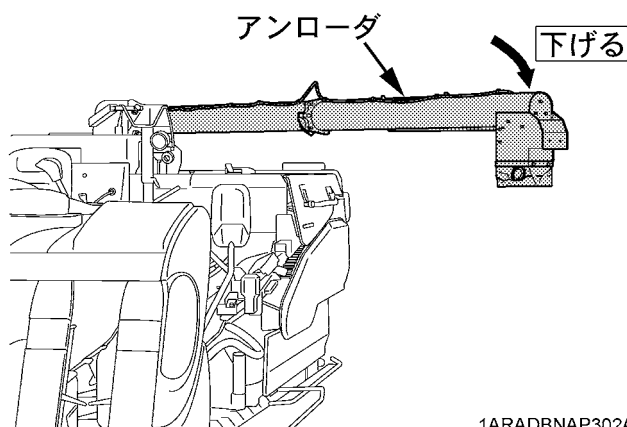
もみ排出レバーを操作してもみを排出してください。

(1) エンジンを停止します。
(2) グレンタンク下カバーを取外します。
(3) グレンタンク下カバーの収納ラックから受あみ脱着金具を1個取出します。
(4) エンジンを始動したあと，エンジン回転を作業回転にします。
(5) グレンタンクと防じんカバーの間にあるもみ排出レバーの穴に受あみ脱着金具を差込み，受あみ脱着金具を引上げてもみを排出します。

(6) もみの排出が終わったあと，収納ラックに受あみ脱着金具を収納してグレンタンク下カバーを取付けます。
(7) ヒューズや配線を点検し，もみ排出スイッチがはたらかない原因を処置します。

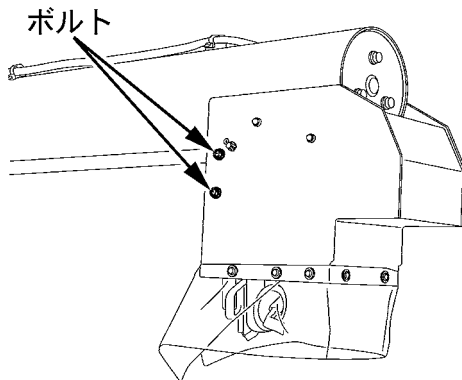
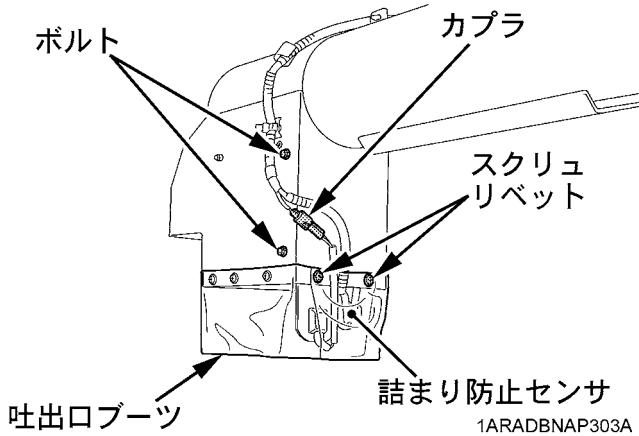
補　足

＊ 処置しても直らないときは，購入先に連絡してください。

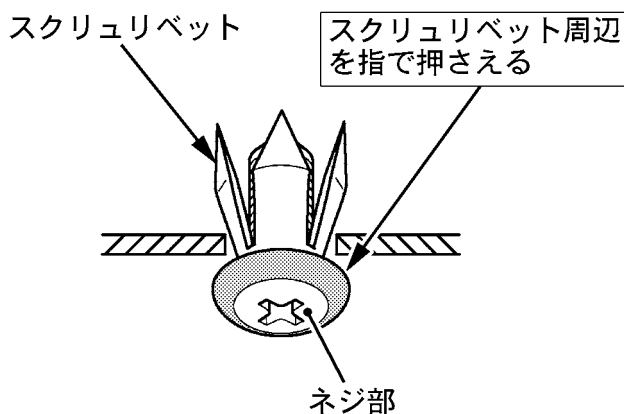
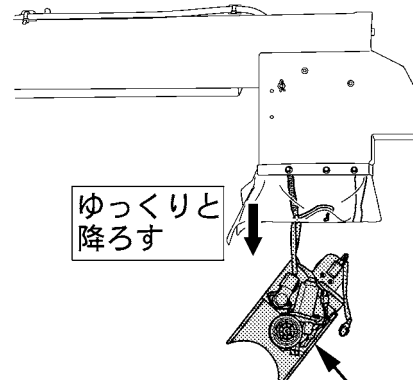
- **もみシャッタが開かないためもみが排出されない場合**

もみシャッタ用のモータ･詰まり防止センサアッシともみシャッタを取外して排出してください。

(1) もみ排出スイッチを **［切］** にしたあと，平坦な場所に移動します。
(2) マルチアンローダリモコンを操作してアンローダを最下降位置にしたあと，エンジンを停止します。

(3) ドライバーを使用して吐出口ブーツ後方のスクリュリベット２個を取外します。
(4) モータ・詰まり防止センサアッシを固定しているボルト及び詰まり防止センサのカプラを取外します。このとき，モータ・詰まり防止センサアッシが落下しないように手で支えます。

1ARADBNAP303A

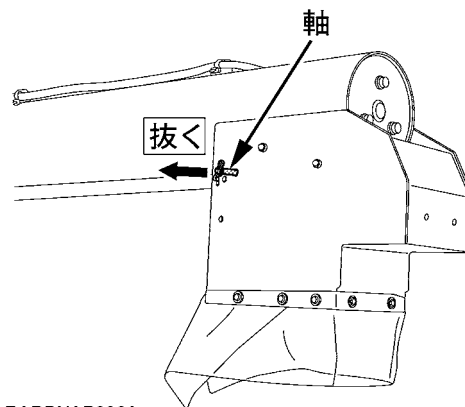
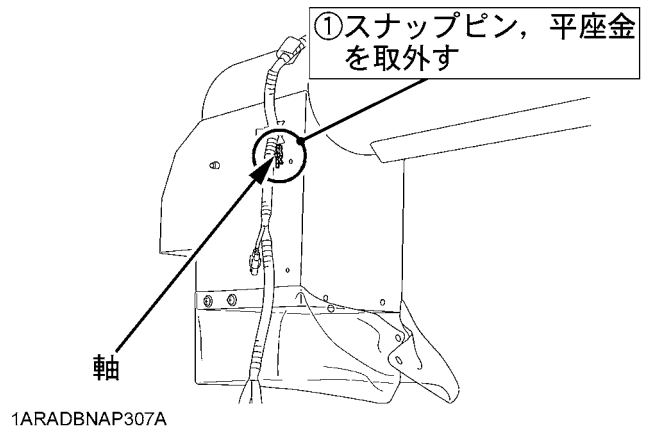
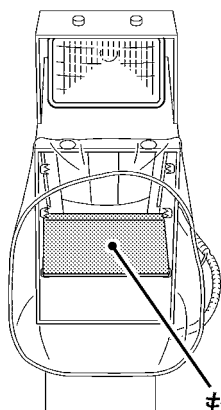
1ARADBNAP304A

補　足

＊ スクリュリベットのネジ部をドライバーで回してもネジ部が空回りして取外せないときは，スクリュリベットの周辺を指で押さえながらネジ部を取外してください。

1ARADBNAP305A

(5) モータ・詰まり防止センサアッシをゆっくりと降ろします。

1ARADBNAP306A

補　足

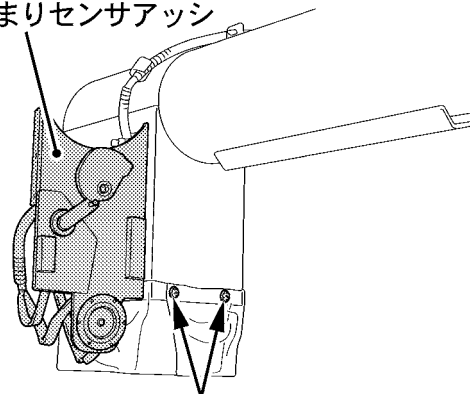
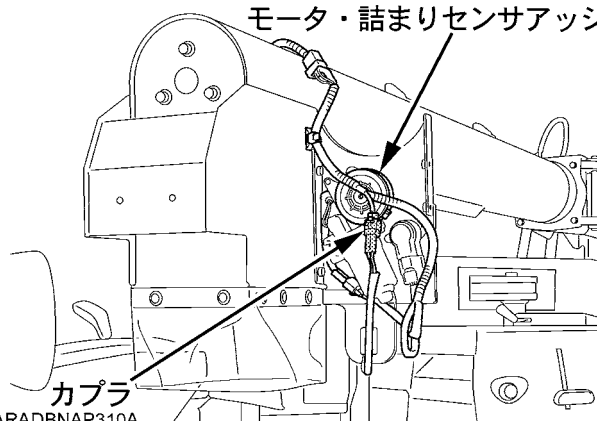
＊ 取外したボルト（２個）はなくさないように保管してください。

(6) もみシャッタを取付けている軸の左側のスナップピン，平座金を取外したあと，右側から軸を抜いてもみシャッタを取外します。このとき，もみシャッタが落下しないように手で支えます。

1ARADBNAP307A

1ARADBNAP308A

補　足

＊ 取外したもみシャッタ，軸，スナップピン，平座金はなくさないように保管してください。

(7) モータ・詰まり防止センサアッシを取外したボルトで下図のように固定したあと，(3) の手順で取外した吐出口ブーツ後方のスクリュリベット２個をドライバーを使用して取付けます。そのあと，モータ・詰まり防止センサアッシのカプラを接続します。

(8) もみシャッタを取外すと，もみ排出スイッチを押してももみは排出されないため，もみ排出レバーを引上げてもみを排出します。(313 ページ参照)

補　足

＊ もみを排出したあとは，購入先に連絡してください。

[HD・SD 仕様]

付表

主要諸元

農機型式名			クボタ　R0904					クボタ　R0903		
商品名			ER329					ER335		
区分			DXW	DXMW	HDW	HDMW	SD4MW	HDW	HDMW	SD4MW
機体寸法	全長（mm）		3890							
	全幅（mm）		1870							
	全高（mm）		2090							
機体質量（kg）			1950	2100	1960	2110	2140	1960	2110	2140
エンジン	型式名		V1505-E3-C-16					V1505-E3-C-18		
	種類		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル							
	総排気量（L{cc}）		1.498 {1498}							
	出力／回転速度（kW{PS}/rpm）		21.3 {29.0} / 2800					25.7 {35.0} / 3000		
	使用燃料		ディーゼル軽油							
	燃料タンク容量（L）		40							
	始動方式		セルモータ式							
	バッテリ（V・Ah）		12・55〔80D26L-MF〕							
走行部	クローラ	中心距離（mm）	900							
		幅×接地長（mm）	410×1430	410×1475	410×1430	410×1475		410×1430	410×1475	
		平均接地圧（kPa{kgf/cm^2}）	16.3 {0.17}	17.0 {0.17}	16.4 {0.17}	17.1 {0.17}	17.3 {0.18}	16.4 {0.17}	17.1 {0.17}	17.3 {0.18}
	最低地上高（mm）		180	180〜310	180	180〜310		180	180〜310	
	変速方式		油圧モータ式〔HST〕							
	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速３段〕							
	走行速度（m/s）〔エンジン定格回転速度時〕	前進 / 後進	〔副変速レバー・副変速切換えスイッチ併用〕 倒伏：0〜0.64 作業：0〜1.05 走行：0〜1.72					〔副変速レバー・副変速切換えスイッチ併用〕 倒伏：0〜0.76 作業：0〜1.25 走行：0〜2.05		
	旋回方式		ブレーキ・ソフトターン，ソフトターン〔ダイヤル切換え式〕							
刈取部	刈取り条数（条）		3							
	刈幅[デバイダ先端間隔]（mm）		1210							
	刈取装置形式		シングルアクション							
	刃幅（mm）		1198							
	変速段数（段）		車速同調２段＋引起し２段							
	刈高さ範囲（mm）		35〜150							
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式（自動・手動併用）							
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式							
	こぎ胴	径×幅（mm）	420×600							
		回転速度（rpm）	506							
	処理胴	径×幅（mm）	190×100							
		回転速度（rpm）	1114							
	２番還元方式		スクリュ式							
	揺動板	幅×長さ（mm）	600×1160							
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引							

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付表

農機型式名			クボタ　R0904	クボタ　R0903
商品名			ER329	ER335
区分			DXW / DXMW / HDW / HDMW / SD4MW	HDW / HDMW / SD4MW
こく粒処理部	処理方式		グレンタンク式	
こく粒処理部	排出方式		スクリュコンベア式	
こく粒処理部	タンク容量(L{袋})		850 {約17袋} 〔1袋約50L〕	
こく粒処理部	アンローダ	長さ(mm)	3900	
こく粒処理部	アンローダ	旋回範囲(度)・旋回方式	320〔右，左〕・ 電動モータ	
こく粒処理部	アンローダ	昇降範囲(度)・昇降方式	0〔水平〕～ 45・油圧式	
こく粒処理部	アンローダ	排出高さ〔作業時〕(mm)	1790 ～ 4780	
こく粒処理部	アンローダ	排出長さ〔作業時〕(mm)	2360 ～ 3580	
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ　又は，　●カッタ後部標準結束機 カッタ切断長さ：60/180mm切換え式 〔切断刃：標準切断刃 **[DX・HD仕様]**，標準切断刃/セラミック切断刃 **[SD仕様]**〕	
わら処理部	オプション		●60/180mm切換え式カッタ〔切断刃：標準切断刃/セラミック切断刃〕 ●カッタ後部標準結束機　●カッタ後部ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロッパ　●シュータ式拡散装置	
諸装置	安全装置	エンジン始動時安全装置	駐車ブレーキ，主変速レバー，脱こくクラッチ， 刈取クラッチ，もみ排出クラッチ	
諸装置	安全装置	エンジン自動停止装置	フィードチェーン詰まり，排わら詰まり， 結束機わら詰まり/ひも切れ（ひも無し）/ビル巻付き **[結束機付き仕様]**	
諸装置	安全装置	その他の安全装置	刈取部下降ロック，枕こぎカバー， エンジン停止装置 **〔手こぎ作業非常緊急停止装置〕**	
諸装置	警報装置		燃料，充電，油圧，水温〔オーバーヒート〕，もみ満杯，負荷，刈取詰まり， ２番詰まり，シーブ，排わら詰まり，カッタ詰まり， 結束機わら詰まり/ひも切れ（ひも無し）/ビル巻付き **[結束機付き仕様]**	
諸装置	自動化装置		自動エンジン回転セット **[HD・SD仕様]**，刈取オートクラッチ **[HD・SD仕様]**， 自動こぎ深さ制御，自動刈高さ制御〔上昇自動 **[HD・SD仕様]**，昇降自動 **[SD仕様]**〕， 自動車体水平制御〔左右 **[HDM仕様]**〕，4PC **[SD4M仕様]**，自動車速制御 **[SD仕様]**， 自動脱こく制御 **[SD仕様]**，アンローダ自動旋回制御，自動エンジン停止	
諸装置	オープン装置		引起しオープン，刈取オープン，供給チェーンレールオープン， エンジンルームオープン，グレンタンクオープン，排わらチェーンオープン， カッタオープン	
諸装置	その他の装置	運転操作部	ファインビューメータ，アクセルダイヤル，副変速切換えスイッチ， 作業（楽刈）レバー **[HD・SD仕様]**，ワンタッチ設定スイッチ **[SD仕様]**， 旋回モード切換えダイヤル，ポジピタスイッチ **[SD仕様]**，刈取かき込みペダル， もみ排出スイッチ〔パワークラッチ〕**[HD・SD仕様]**・〔アンローダリモコン〕， 左分草かん開閉スイッチ **[HD・SD仕様]**，集中注油装置	
諸装置	その他の装置	エンジン部・走行部	揺動転輪	
諸装置	その他の装置	刈取部	供給サポートチェーン，刈取防じんカバー **[SD仕様]**	
諸装置	その他の装置	グレンタンク部	もみこぼれ防止シャッタ **[HD・SD仕様]**，バイブロシャッタ **[SD仕様]**	
諸装置	その他の装置	オプション	湿田用泥玉防止スクレーパ，スイスイデバイダ，自動方向制御 **[SD仕様]**， 前分草かん，左分草かん(後)，刈取スタンド，刈取防じんカバー **[DX,HD仕様]**， 種子用交換部品，キャノピ，無線アンローダリモコン **[SD仕様]**， 作業灯ランプ **[DX,HD仕様]**，中間モミセンサ **[DX仕様]**，延長アンローダ， バックミラー，カッタ切換えカバー電動切換え装置	
適応作物範囲〔全長〕(mm)			550～1300	
倒伏適応性（度）			追刈り：85以下・向刈り：70以下	
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			34～9 {18～64}	41～9 {15～64}

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

項目		DXW2	DXMW2	HDW2	HDMW2	SD4MW2	SD4MSQW2	HDW2	HDMW2	SD4MW2	SD4MSQW2
農機型式名		クボタ　R0902						クボタ　R0901			
商品名		ER438						ER447			
区分		DXW2	DXMW2	HDW2	HDMW2	SD4MW2	SD4MSQW2	HDW2	HDMW2	SD4MW2	SD4MSQW2
機体寸法	全長 (mm)	4090									
機体寸法	全幅 (mm)	1900					1950	1900			1950
機体寸法	全高 (mm)	2090					2510	2090			2510
機体質量 (kg)		2090	2240	2100	2250	2280	2425	2110	2260	2290	2435
エンジン	型式名	D1803-M-E3-C-3						D1803-M-TE3-C-3			
エンジン	種類	水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル						水冷４サイクル３気筒立形ディーゼルターボ			
エンジン	総排気量 (L{cc})	1.826 {1826}									
エンジン	出力／回転速度 (kW{PS}/rpm)	27.9 {38.0} / 2700						34.5 {47.0} / 2700			
エンジン	使用燃料	ディーゼル軽油									
エンジン	燃料タンク容量（L）	40									
エンジン	始動方式	セルモータ式									
エンジン	バッテリ(V・Ah)	12・55〔80D26L-MF〕									
走行部	クローラ 中心距離(mm)	960									
走行部	クローラ 幅×接地長(mm)	470×1475	470×1525	470×1475	470×1525			470×1475	470×1525		
走行部	クローラ 平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})	14.8 {0.15}	15.3 {0.16}	14.8 {0.15}	15.4 {0.16}	15.6 {0.16}	16.6 {0.17}	14.9 {0.15}	15.5 {0.16}	15.7 {0.16}	16.6 {0.17}
走行部	最低地上高 (mm)	180	180～310	180	180～310			180	180～310		
走行部	変速方式	油圧モータ式〔HST〕									
走行部	変速段数	前進無段・後進無段〔副変速３段〕									
走行部	走行速度(m/s)〔エンジン定格回転速度時〕 前進／後進	〔副変速レバー・副変速切換えスイッチ併用〕 倒伏：0～0.70 作業：0～1.15 走行：0～1.90						〔副変速レバー・副変速切換えスイッチ併用〕 倒伏：0～0.84 作業：0～1.38 走行：0～2.28			
走行部	旋回方式	ブレーキ・ソフトターン，ソフトターン〔ダイヤル切換え式〕									
刈取部	刈取り条数(条)	4									
刈取部	刈幅［デバイダ先端間隔］(mm)	1400～1500									
刈取部	刈取装置形式	シングルアクション									
刈取部	刃幅 (mm)	1450									
刈取部	変速段数(段)	車速同調２段＋引起し２段									
刈取部	刈高さ範囲 (mm)	35～150									
刈取部	こぎ深さ調節方式	電動モータ式（自動・手動併用）									
脱こく部	脱こく方式	下こぎ・単胴・軸流式									
脱こく部	こぎ胴 径×幅(mm)	424×800									
脱こく部	こぎ胴 回転速度(rpm)	504									
脱こく部	処理胴 径×幅(mm)	190×100									
脱こく部	処理胴 回転速度(rpm)	1209									
脱こく部	２番還元方式	スクリュ式									
脱こく部	揺動板 幅×長さ(mm)	600×1360									
脱こく部	選別方式	揺動・圧風・全幅吸引									

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

<table>
<tr><td colspan="3">農機型式名</td><td colspan="6">クボタ　R0902</td><td colspan="4">クボタ　R0901</td></tr>
<tr><td colspan="3">商品名</td><td colspan="6">ER438</td><td colspan="4">ER447</td></tr>
<tr><td colspan="3">区分</td><td>DXW2</td><td>DXMW2</td><td>HDW2</td><td>HDMW2</td><td>SD4MW2</td><td>SD4MSQW2</td><td>HDW2</td><td>HDMW2</td><td>SD4MW2</td><td>SD4MSQW2</td></tr>
<tr><td rowspan="8">こく粒処理部</td><td colspan="2">処理方式</td><td colspan="10">グレンタンク式</td></tr>
<tr><td colspan="2">排出方式</td><td colspan="10">スクリュコンベア式</td></tr>
<tr><td colspan="2">タンク容量(L{袋})</td><td colspan="10">1050 {約21袋} 〔１袋約50Ｌ〕</td></tr>
<tr><td rowspan="5">アンローダ</td><td>長さ(mm)</td><td colspan="10">3900</td></tr>
<tr><td>旋回範囲(度)・旋回方式</td><td colspan="10">320〔右，左〕・ 電動モータ</td></tr>
<tr><td>昇降範囲(度)・昇降方式</td><td colspan="10">0 〔水平〕～ 45・油圧式</td></tr>
<tr><td>排出高さ〔作業時〕(mm)</td><td colspan="10">1790 ～ 4780</td></tr>
<tr><td>排出長さ〔作業時〕(mm)</td><td colspan="10">2360 ～ 3580</td></tr>
<tr><td rowspan="2">わら処理部</td><td colspan="2">工場出荷仕様</td><td colspan="10">●カッタ　又は，●カッタ後部標準結束機，●シューータ式拡散装置，
カッタ切断長さ：60/180mm切換え式〔切断刃：標準切断刃/セラミック切断刃〕</td></tr>
<tr><td colspan="2">オプション</td><td colspan="10">●60/180mm切換え式カッタ〔切断刃：標準切断刃/セラミック切断刃，
簡易拡散装置付き〕●カッタ後部標準結束機　●カッタ後部ストンパ結束機
●カッタ後部ドロッパ</td></tr>
<tr><td rowspan="14">諸装置</td><td rowspan="3">安全装置</td><td>エンジン始動時安全装置</td><td colspan="10">駐車ブレーキ，主変速レバー，脱こくクラッチ，
刈取クラッチ，もみ排出クラッチ</td></tr>
<tr><td>エンジン自動停止装置</td><td colspan="10">フィードチェーン詰まり，排わら詰まり，
結束機わら詰まり/ひも切れ（ひも無し）/ビル巻付き〔結束機付き仕様〕</td></tr>
<tr><td>その他の安全装置</td><td colspan="10">刈取部下降ロック，枕こぎカバー，
エンジン停止装置〔手こぎ作業非常緊急停止装置〕</td></tr>
<tr><td colspan="2">警報装置</td><td colspan="10">燃料，充電，油圧，水温〔オーバーヒート〕，もみ満杯，負荷，刈取詰まり，
２番詰まり，シーブ，排わら詰まり，カッタ詰まり，
結束機わら詰まり/ひも切れ（ひも無し）/ビル巻付き〔結束機付き仕様〕</td></tr>
<tr><td colspan="2">自動化装置</td><td colspan="10">自動エンジン回転セット〔HD・SD仕様〕，刈取オートクラッチ〔HD・SD仕様〕，
自動こぎ深さ制御，自動刈高さ制御〔上昇自動〔HD・SD仕様〕，
昇降自動〔SD仕様〕〕，自動車体水平制御〔左右〔HDM仕様〕〕，
4PC〔SD4M仕様〕，自動車速制御〔SD仕様〕，自動脱こく制御〔SD仕様〕，
アンローダ自動旋回制御，自動エンジン停止，
エンジン正逆流ファン制御〔ラジエータ目詰まり防止装置〕</td></tr>
<tr><td colspan="2">オープン装置</td><td colspan="10">引起しオープン，刈取オープン，供給チェーンレールオープン，
防じんカバーオープン〔SDSQ仕様〕，エンジンルームオープン〔SDSQ仕様除く〕，
グレンタンクオープン，排わらチェーンオープン，カッタオープン</td></tr>
<tr><td rowspan="6">その他の装置</td><td>運転操作部</td><td colspan="10">ファインビューメータ，アクセルダイヤル，副変速切換えスイッチ，
作業（楽刈）レバー〔HD・SD仕様〕，ワンタッチ設定スイッチ〔SD仕様〕，
旋回モード切換えダイヤル，ポジピタスイッチ〔SD仕様〕，
刈取かき込みペダル，もみ排出スイッチ〔パワークラッチ〕〔HD・SD仕様〕・
〔アンローダリモコン〕，左分草かん開閉スイッチ〔HD・SD仕様〕，集中注油装置</td></tr>
<tr><td>エンジン部・走行部</td><td colspan="10">揺動転輪</td></tr>
<tr><td>刈取部</td><td colspan="10">供給サポートチェーン，刈取防じんカバー〔SQ仕様除くSD仕様〕</td></tr>
<tr><td>グレンタンク部</td><td colspan="10">もみこぼれ防止シャッタ〔HD・SD仕様〕，バイブロシャッタ〔SD仕様〕</td></tr>
<tr><td>キャビン〔SDSQ仕様〕</td><td colspan="10">内外気切換え式エアコン，バックモニタ，CDプレーヤ付きラジオ</td></tr>
<tr><td>オプション</td><td colspan="10">湿田用泥玉防止スクレーパ，スイスイデバイダ，自動方向制御〔SD仕様〕，
前分草かん，左分草かん(後)，刈取スタンド，刈取防じんカバー〔SDSQ仕様除く〕，
種子用交換部品，キャノピ〔SDSQ仕様除く〕，無線アンローダリモコン〔SD仕様〕，
作業灯ランプ〔DX・HD仕様〕，モミセンサ〔DX仕様〕，延長アンローダ，
バックミラー，カッタ切換えカバー電動切換え装置</td></tr>
<tr><td colspan="3">適応作物範囲〔全長〕(mm)</td><td colspan="10">550～1300</td></tr>
<tr><td colspan="3">倒伏適応性(度)</td><td colspan="10">追刈り：85以下・向刈り：70以下</td></tr>
<tr><td colspan="3">作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})</td><td colspan="6">45～11 {14～53}</td><td colspan="4">53～11 {12～53}</td></tr>
</table>

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊保証書　1
＊メンテナンスブック　1
＊取扱説明書確認カード　1
＊取扱説明書　1
＊本機カバー　1
＊バックミラー（左）　1
＊カラー（刈高さ調整カラー）　3 **[329・335]**
（138 ページ参照）　5 **[438・447]**
＊ボルト（低刈用）　3 **[329・335]**
（138 ページ参照）　5 **[438・447]**
＊シム（供給サポート）　1
＊シャーピン　2
（311 ページ参照）
＊受あみ脱着金具　2

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

◆ 運転席部

■キャノピ

コンバインの日除け装置です。

品番	品　名	対象型式
5H722-0000-0	CP-445　キャノピ	Q 仕様除く

◆ 走行部

■湿田用泥玉防止スクレーパ

湿田走行時，大きな泥玉の発生が少なくなります。

品番	品　名	対象型式
5H773-9950-4	オプション（ドロタマ，コテイ）	DX・HD 仕様
5H773-9940-0	オプション（ドロタマ，ヨウドウ）	SD 仕様

◆ 刈取部

■自動方向制御装置

刈取作業中に自動的に方向を修正する装置です。

品番	品　名	対象型式
5H773-9910-0	オプション（ADC）	SD 仕様

■前分草ガイド

刈取前部に取付ける分草かんです。

品番	品　名	対象型式
5H766-9960-0	オプション（3，マエブンソウ）	329・335
5H756-9960-0	オプション（マエブンソウガイド）	438・447

■左分草かん後（サイドデバイダ）

脱こく部左下側に取付ける分草かんです。

品番	品　名	対象型式
5H776-9930-0	オプション（デバイダ L，329）	329・335
5H773-9930-0	オプション（デバイダ L，447）	438・447

■刈取スタンド（刈取部脱着用）

刈取部を安定した状態で取外すためのスタンドです。

品番	品　名	対象型式
5H700-87100	スタンド，アッシ（カリトリ）	全型式

■刈取り防じんカバー

運転席側へ飛散してくるごみやちりを防ぐカバーです。

品番	品　名	対象型式
5H766-9501-0	カバー，アッシ（ボウジン）	329・335
5H764-9501-0	カバー，アッシ（ボウジン）	438・447

■スイスイデバイダ

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

品番	品　名	対象型式
5H717-00000	ERM329（２連）	329・335
5H718-00000	ERM329-R（右１連）	
5H715-00000	ERM467（２連）	438・447
5H716-00000	ERM467-R（右１連）	

◆ 脱こく部

■種子用交換部品

品番	品　名	対象型式
5K222-9330-0	交換部品，アッシ（シュシヨウ）	329・335
5K127-9330-1	交換部品，アッシ（シュシヨウ）	438
5K126-9330-1	交換部品，アッシ（シュシヨウ）	447

■バックミラー

機体後方確認用ミラーです。

品　番	品　名	対象型式
5H730-9220-0	ミラー，キット（コウホウ，ケッソクキ）	結束機付き仕様
5H730-9210-0	ミラー，キット（コウホウ）	結束機付き仕様除く

◆ こく粒処理部

■無線アンローダリモコン

アンローダの昇降，旋回やもみの排出の操作が無線で行なえます。

品　番	品　名	対象型式
5G079-98100	オプション（ムセンリモコン）	SD仕様

■作業灯

アンローダ先端に取付けます。

品番	品　名	対象型式
5H776-99550	オプション（サギョウトウ，DX）	DX仕様
5H773-99550	オプション（サギョウトウ，HD）	HD仕様

■グレンタンク中間モミセンサ

グレンタンク内のもみの量が約２／３ぐらいになるとブザーが知らせてくれます

品番	品　名	対象型式
5H773-99080	オプション（GT，モミセンサ）	DX仕様

■延長アンローダ（0.5m）

品番	品　名	対象型式
5G084-9901-0	オプション（エンチョウUL，DX）	DX仕様
5G079-9901-0	オプション（エンチョウUL，HD）	HD・SD仕様

◆ 排わら処理部

■カッタ切換えカバー電動切換え装置

スイッチ操作でわら処理（カッタ作業 / ドロッパ・バラ落とし・結束作業）に合わせてカッタ切換えカバーの切換えが行なえます。

品番	品　名	対象型式
5K126-9580-0	オプション （カツドロデンドウ）	※１
57925-9110-0	オプション （カツケツデンドウ，SY）	※２
57926-9110-0	オプション （カツケツデンドウ，SR）	※３

※１：結束機付き仕様除く
※２：標準結束機付き仕様
※３：ストンパ結束機付き仕様

■カッタ後部標準結束機

品番	品　名	対象型式
57925-00000	K-E447SY	全型式

■カッタ後部ストンパ結束機

品番	品　名	対象型式
57926-00000	K-E447SR	全型式

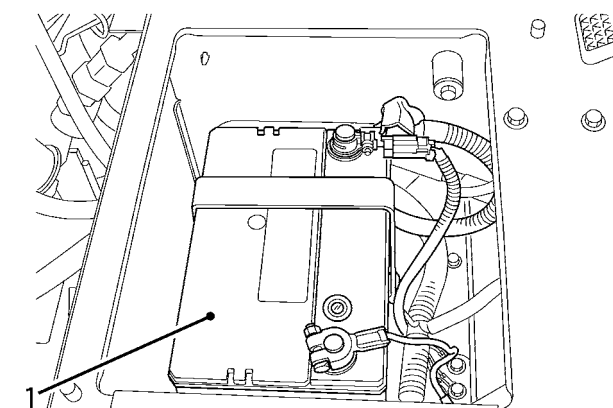
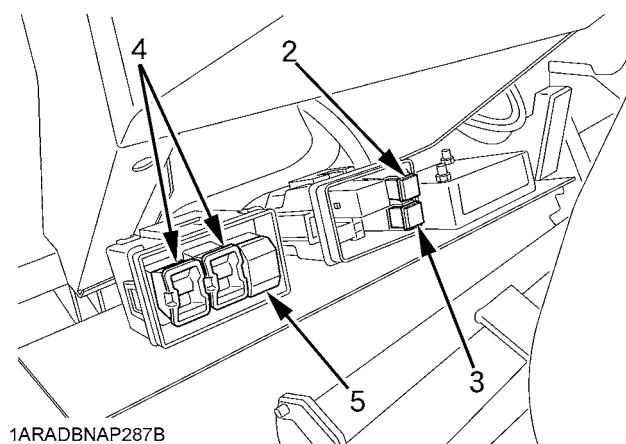
■カッタ後部ドロッパ

品番	品　名	対象型式
5F905-00000	DARN445	全型式

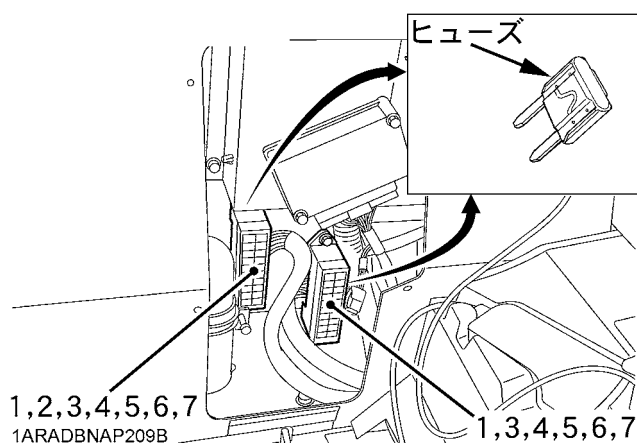
■シュータ式拡散装置

品番	品　名	対象型式
5F611-91200	カクサン，アッシ （３条，簡易）	329・335

消耗部品（純正部品を使いましょう）

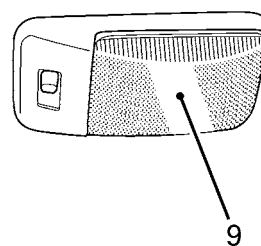
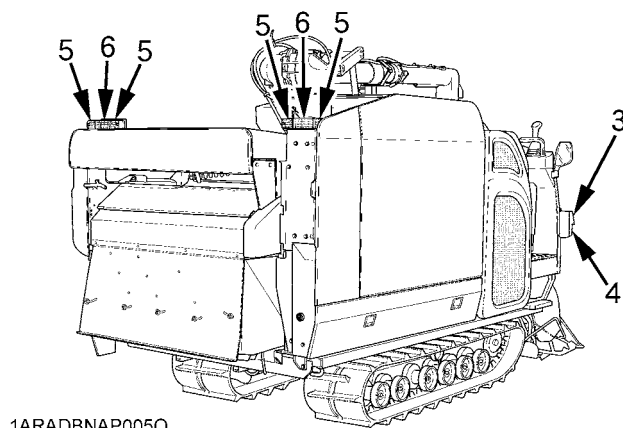
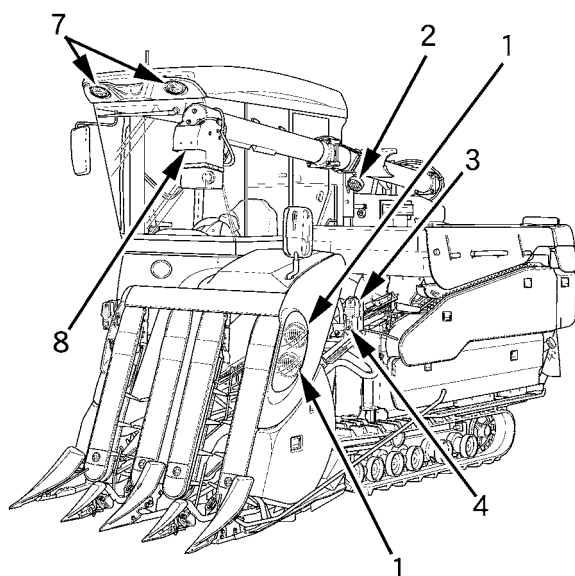
◆ バッテリ・スローブローヒューズ

※イラストはＱ仕様除く

図番	品　　　名	品　　番	対象型式
1	バッテリ	07908-2531-0	全型式
2	スローブローヒューズ （ミニ，30A）	3C581-7716-0	
3	スローブローヒューズ （ミニ，40A）	3C581-7717-0	
4	ヒューズ （スローブロー，60A）	T1150-3050-0	
5	スローブローヒューズ （100A）	5H801-4186-0	

◆ ヒューズ

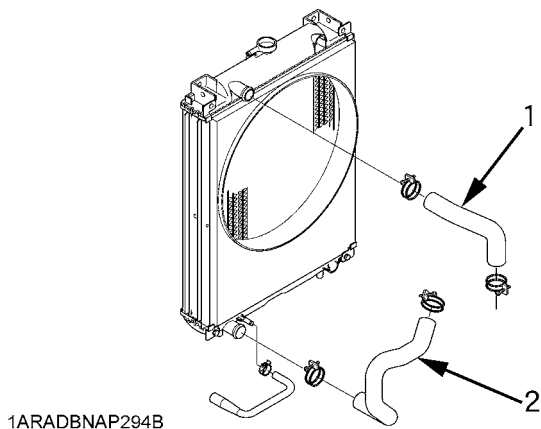
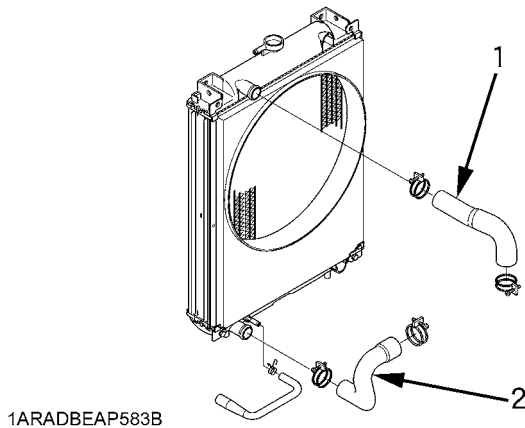
1ARADBNAP209B

図番	品名	品番	対象型式
1	ヒューズ（ミニ 5A）	T1065-3043-0	全型式
2	ヒューズ（ミニ 7.5A）	T1065-3048-0	
3	ヒューズ（10A，オート）	5H050-4162-0	
4	ヒューズ（15A，オート）	5H050-4163-0	
5	ヒューズ（20A，オート）	5H050-4164-0	
6	ヒューズ（25A，オート）	5H050-4165-0	
7	ヒューズ（30A，オート）	5H050-4166-0	

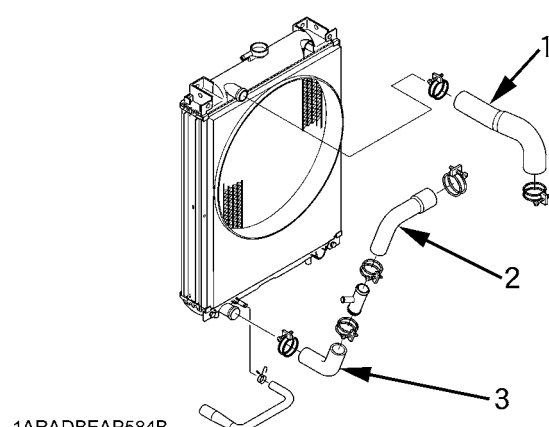
◆ ランプ（電球）

1ARADBNAP009B ※イラストは Q仕様

1ARADBNAP005O

1ARAEASAP014E

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	バルブ （12V35W，ハロゲン）	T1275-9106-0	全型式
2	バルブ （ヘッドライト 55W）	K3611-5515-0	
3	バルブ（12V21W）	T1370-9911-0	
4	バルブ（12V5W）	T1370-9914-0	
5	バルブ（12V21W）	T2255-9912-0	
6	バルブ（12V21/5W）	5K110-6562-0	
7	バルブ（12V55W）	3C581-7590-0	Q 仕様
8	ヘッドランプ デンキュウ	76611-5519-0	SD 仕様
9	ランプ（ルーム）	3C581-5422-0	Q 仕様

◆ ラジエータホース

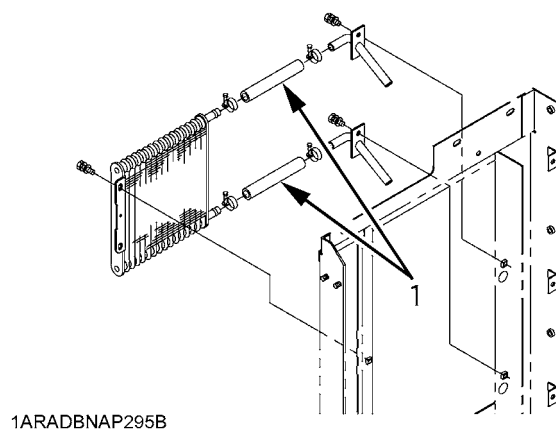
[329・335]

[329・335]

[438・447 Q仕様除く]

[438・447 Q仕様除く]

[438・447 Q仕様]

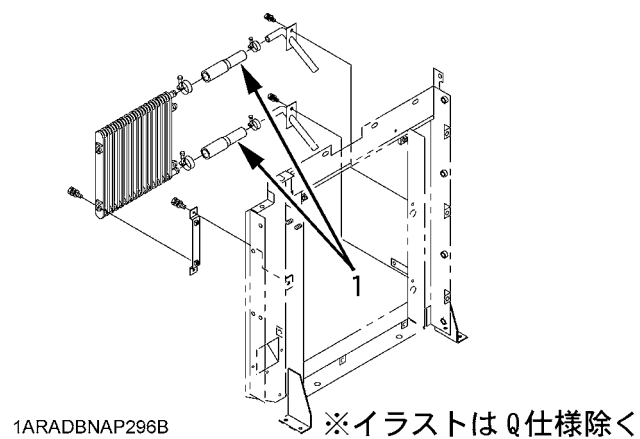
[438・447 Q仕様]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ホース（1，ウォータ）	5H700-2571-0	329・335
		5H730-2571-0	438・447
2	ホース（2，ウォータ）	5H702-2572-0	329・335
		5H730-2572-0	438・447 Q仕様除く
		5H736-2572-0	438・447 Q仕様
3	ホース（3，ウォータ）	5H736-2573-0	

◆ オイルクーラホース

[329・335]

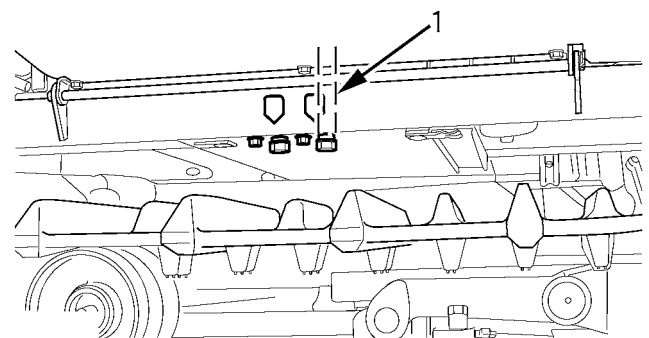
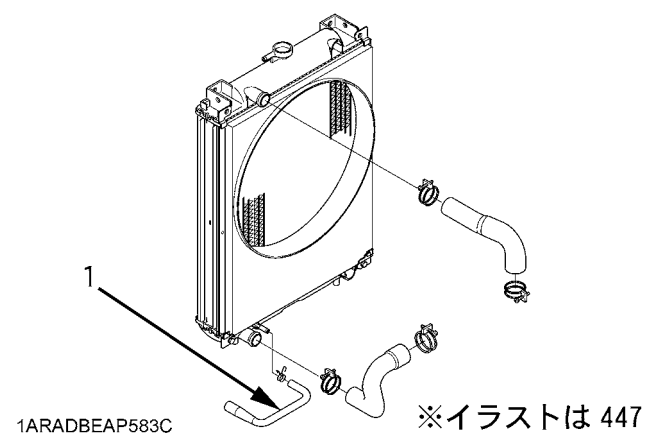
1ARADBNAP295B

[329・335]

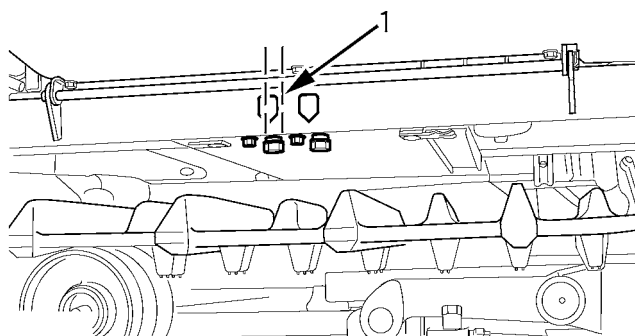
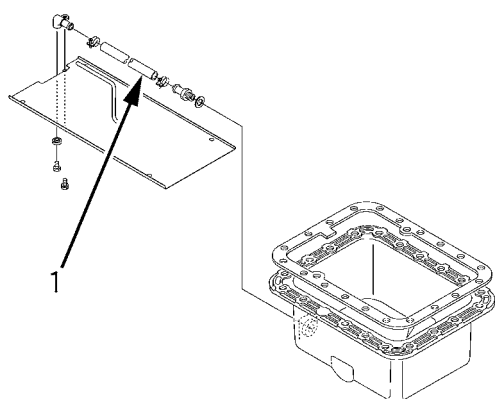
[438・447]

1ARADBNAP296B ※イラストは Q仕様除く

[438・447]

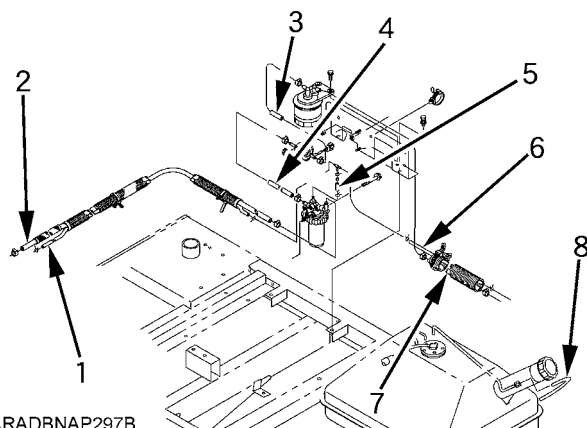
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース (オイルクーラ，3)	5H730-2776-0	329・335
2		5H773-2776-0	438・447

◆ 排水ホース

1ARADBEAP295C

1ARADBEAP583C ※イラストは 447

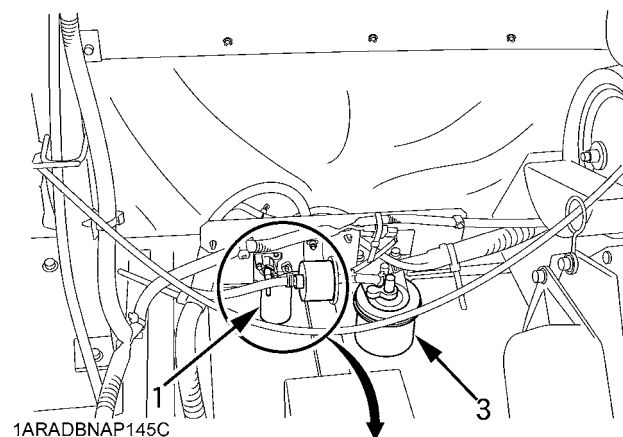
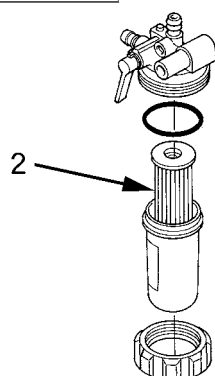
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チューブ（ハイスイ）	5H700-2574-0	329・335
		5H730-2574-0	438・447

◆ オイルドレーンゴムホース

1ARADBEAP295D

1ARADBNAP299B ※イラストは 447

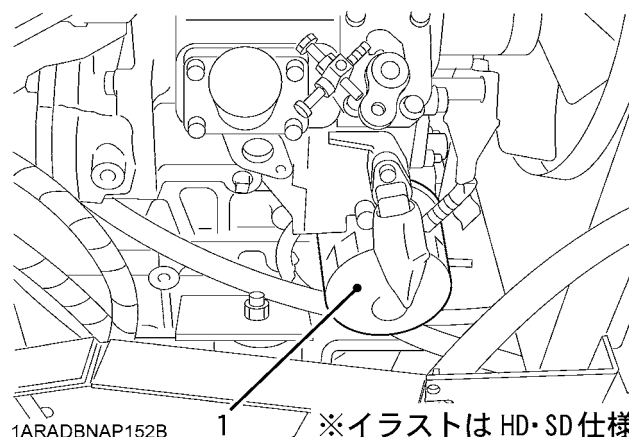
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チューブ（ハイユ）	52450-2591-0	329・335
	オイルドレーンホース	52600-2531-2	438・447

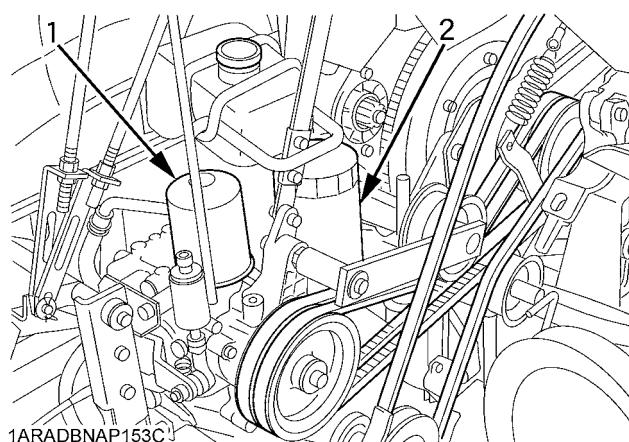
◆ 燃料ホース

1ARADBNAP297B

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フューエルチューブ	09661-42100	329・335
		09661-42300	438・447
2	フューエルチューブ	09661-72300	329・335
		09661-72500	438・447
3	フューエルチューブ	09661-70050	全型式
4	フューエルチューブ	09661-70260	
5	フューエルパイプ	09661-40040	
6	フューエルパイプ	09661-40650	
7	フューエルチューブ	09661-40480	
8	フューエルチューブ	09661-70600	

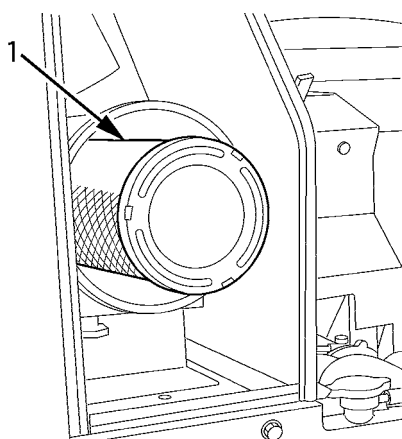
◆ 燃料フィルタアッシ
◆ 燃料フィルタエレメント
◆ 燃料フィルタカートリッジ

[燃料フィルタアッシ]

図番	品名	品番	対象型式
1	セパレータ	5H773-2687-0	全型式
2	エレメント，アッシ（フューエル）	5H591-2688-0	
3	フィルタエレメント	15221-4317-0	

◆ エンジンオイルフィルタカートリッジ

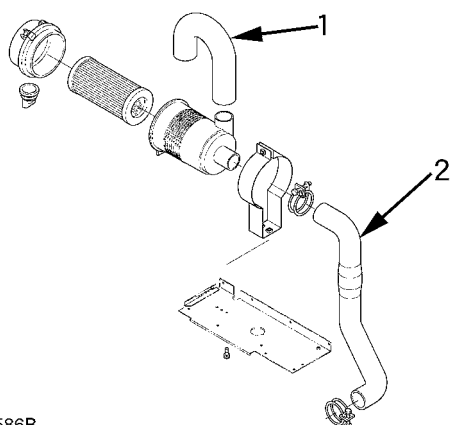
※イラストはHD・SD仕様

図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ（オイル，カートリッジ）	16271-3209-3	329・335
		16414-3243-4	438・447

◆ 油圧サクションオイルフィルタカートリッジ
◆ HSTオイルフィルタカートリッジ

図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ（オイル）	K7561-1407-0	全型式
2	フィルタ	33960-8263-0	

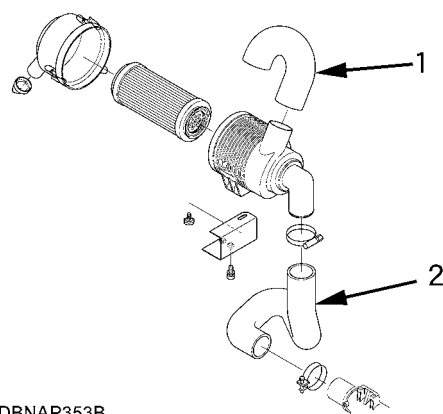
◆ エアクリーナ

1ARADBEAP668B

図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタコンプ（エアクリーナ）	T0270-1632-0	329・335
	エレメント（アウタ）	R1401-4227-0	438・447

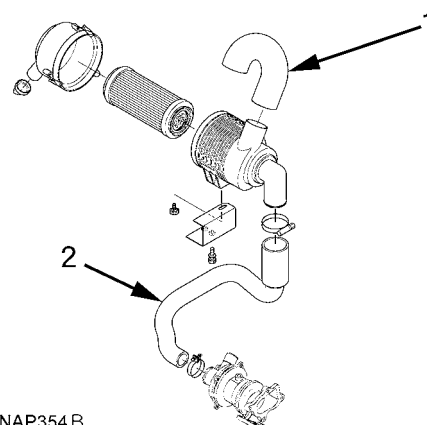
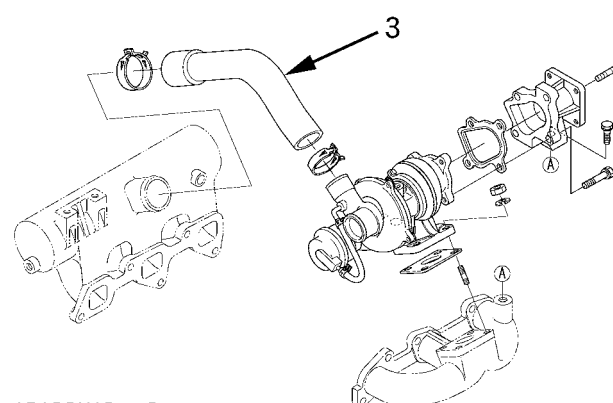
◆ インレットパイプ

[329・335]

1ARADBEAP586B

[329・335]

[438]

1ARADBNAP353B

[438]

[447]

1ARADBNAP354Ｂ

1ARADBNAP355B

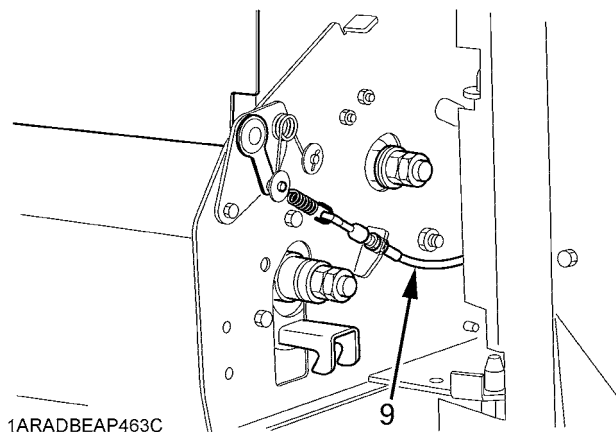
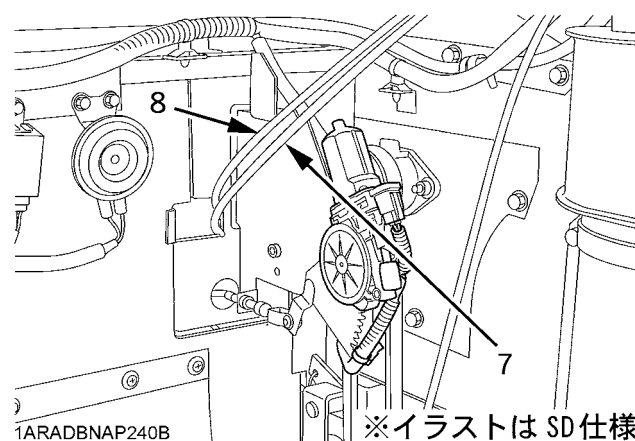
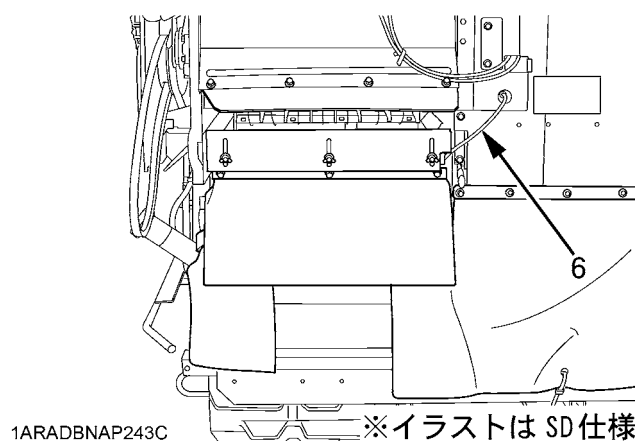
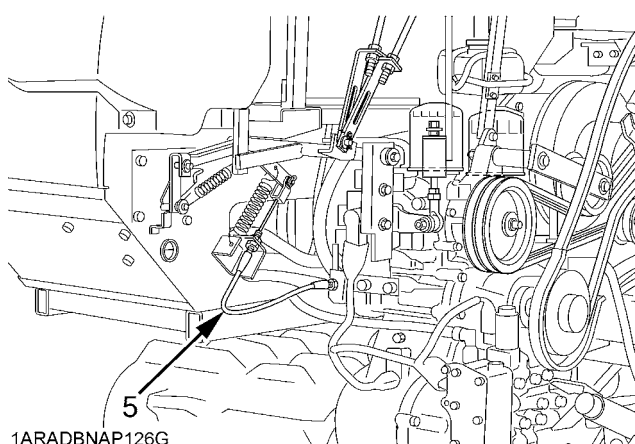
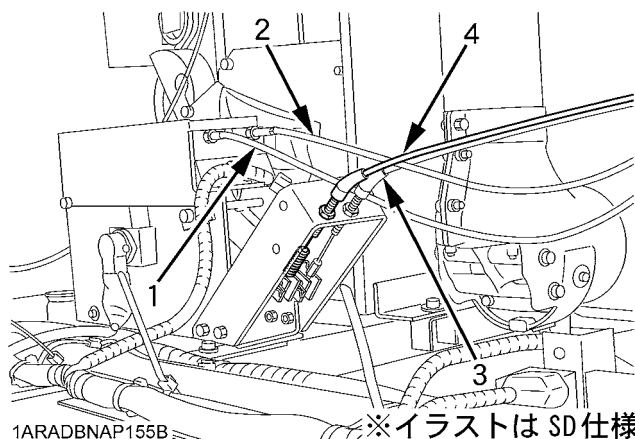
[447]

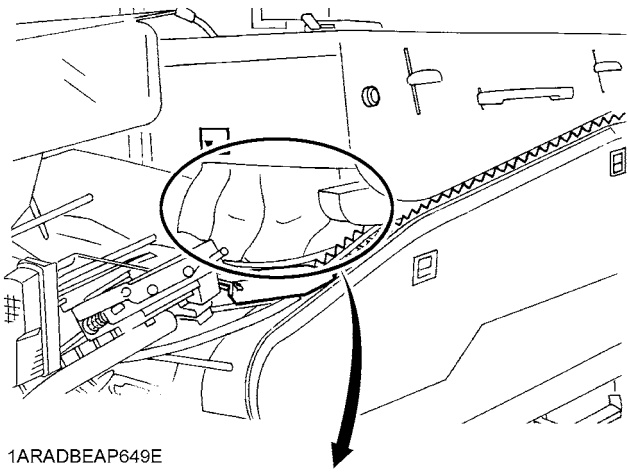
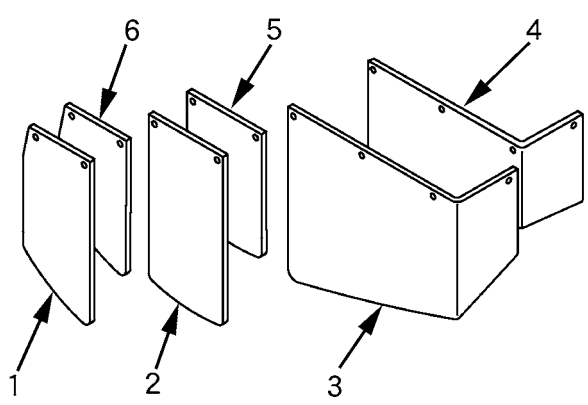
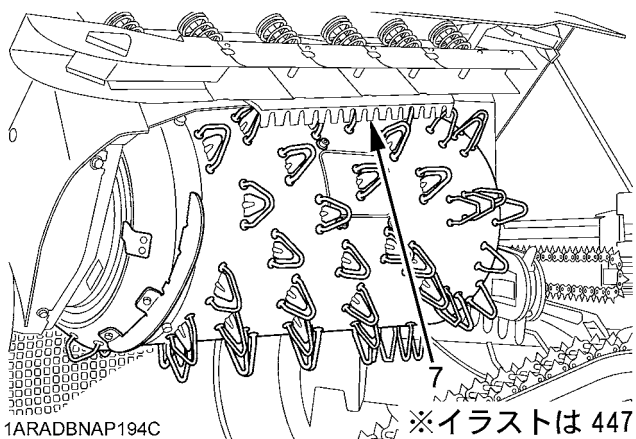
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース（2，インレット）	5H702-2632-0	329・335
		5H730-2632-0	438・447
2	ホース（1，インレット）	5H735-2631-0	329・335
		5H732-2631-0	438
		5H730-2631-2	447
3	ホース（インレット）	1G849-1164-0	447

◆ 各ワイヤ

※イラストは SD 仕様

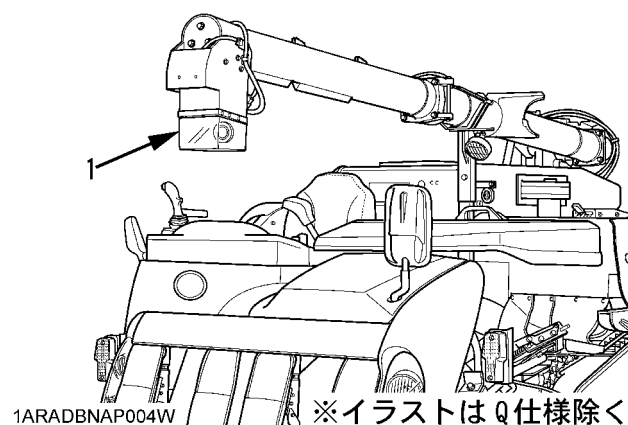
※イラストは SD 仕様

※イラストは SD 仕様

図番	品名	品番	対象型式
1	ケーブル（ダッコククラッチ）	5H776-3186-0	329・335 HD・SD 仕様
		5H773-3186-0	438・447 HD・SD 仕様
2	ケーブル（カリトリクラッチ）	5H776-3185-0	329・335 HD・SD 仕様
		5H773-3185-0	438・447 HD・SD 仕様
3	ケーブル（グレンタンク）	5H776-2167-0	329・335 HD・SD 仕様
		5H773-2167-0	438・447 HD・SD 仕様
4	ケーブル（フィードチェーン）	5H776-3167-2	329・335 SD 仕様
		5H773-3167-2	438・447 SD 仕様
5	ケーブル（ブレーキ）	5H773-3218-4	全型式
6	ケーブル（チャフソウサ）	5K200-2673-2	SD 仕様
7	ケーブル（1，レール）	5K205-4385-2	438・447
		5K200-4385-2	
8	ケーブル（2，レール）	5K205-4386-2	438・447
		5K200-4386-2	
9	ケーブル（カッタ）	5K200-4377-7	全型式

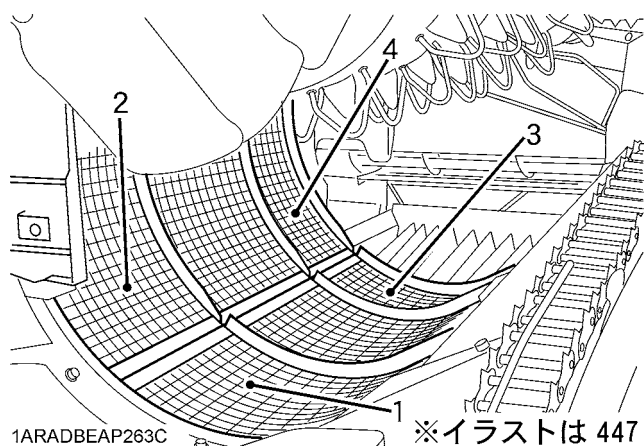
◆ フロントハンプ
◆ 上唇板ハンプ

※イラストは 447

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	シール （1，入口飛散防止）（上側）	5K200-6115-0	全型式
2	シール （2，入口飛散防止）（上側）	5K200-6116-0	
3	シール （3，入口飛散防止）（上側）	5K200-6117-2	
4	シール （4，入口飛散防止）（下側）	5K210-6115-0	
5	シール （5，入口飛散防止）（下側）	5K210-6116-0	
6	シール （6，入口飛散防止）（下側）	5K210-6117-0	
7	ハンプ （ジョウシン）	5K126-2318-0	438・447

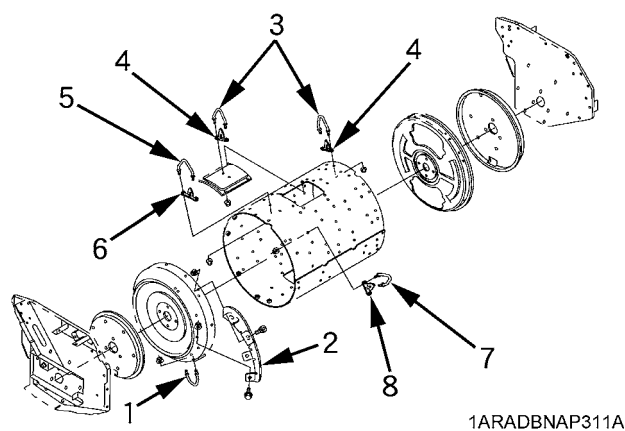
◆ 吐出口ブーツ

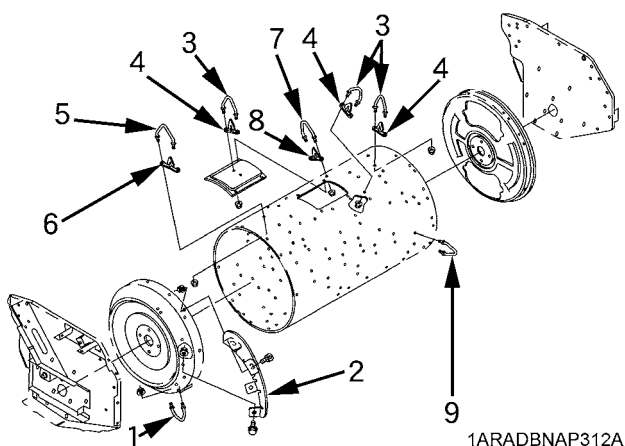
※イラストはＱ仕様除く

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ブーツ	5G079-5123-0	全型式

◆ 受あみ

※イラストは 447

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	コンケーブ（１,11 ＋ 13）	5K222-2111-0	329・335
	コンケーブ（１,13 ＋ 15）	5K126-2111-0	438・447
2	コンケーブ（２,11 ＋ 13）	5K222-2112-0	329・335
	コンケーブ（２,13 ＋ 15）	5K126-2112-0	438・447
3	コンケーブ （１，17 × 19）	5K200-2113-0	438・447
4	コンケーブ （２，17 × 19）	5K200-2115-0	

◆ こぎ歯

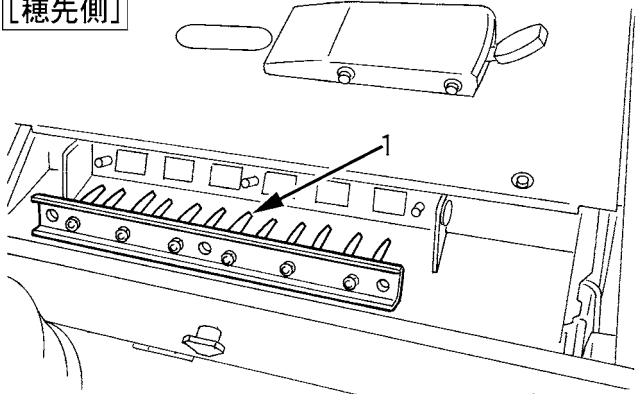
［329・335］

［329・335］

［438・447］

［438・447］

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ダイ１セイソシ	53582-7212-3	全型式
2	イタセイソシ	53961-2257-3	
3	ナミハ	53582-7219-3	
4	イタコキハ	53567-2147-0	
5	ダイ２ホキョウシ	53821-2247-3	
6	イタホキョウシ	53821-2246-0	
7	ナミハ	53821-2248-4	
8	イタコキハ	53821-2249-0	
9	コキハ（ヘンケイ）	5K200-2251-3	438・447

◆ わら切刃

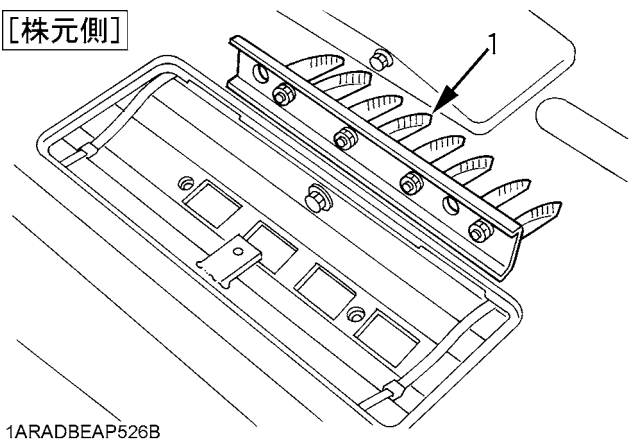
[329・335]

［穂先側］

1ARADBEAP522C

※イラストは 335

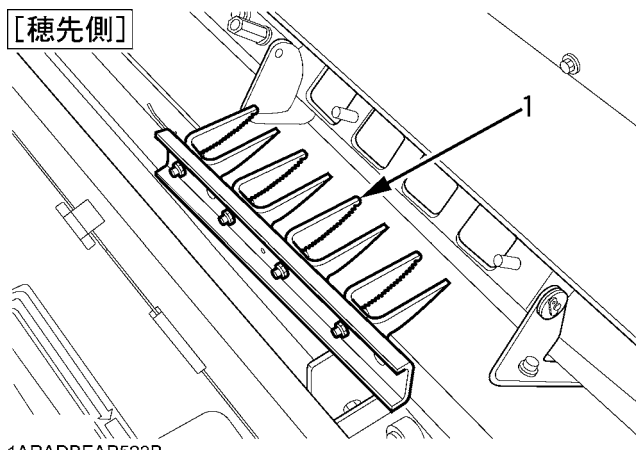
[329・335]

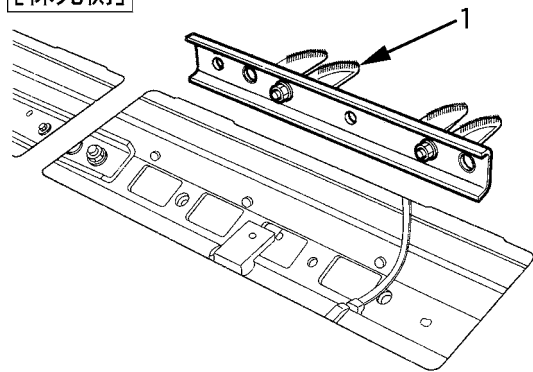
[335]

［株元側］

1ARADBEAP526B

[335]

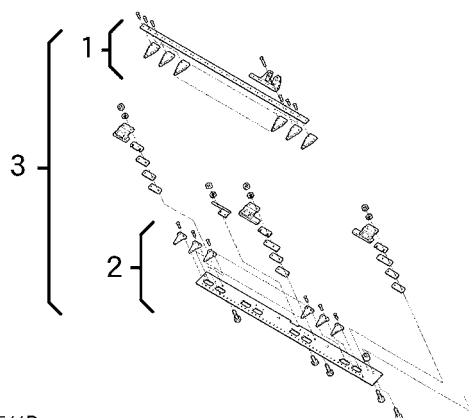
[438・447]

［穂先側］

1ARADBEAP523B

［株元側］

1ARADBEAP528B

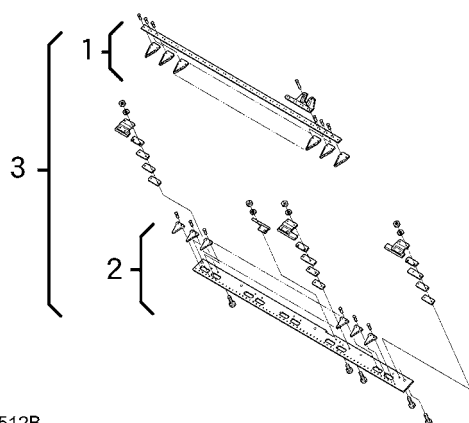
[438・447]

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	セツダンバ（ワラキリバ）	53605-2151-0	全型式

◆ 刈刃

[329・335]

1ARADBEAP511B

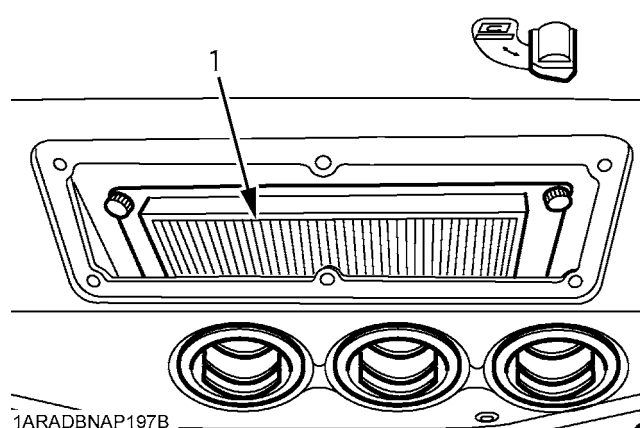
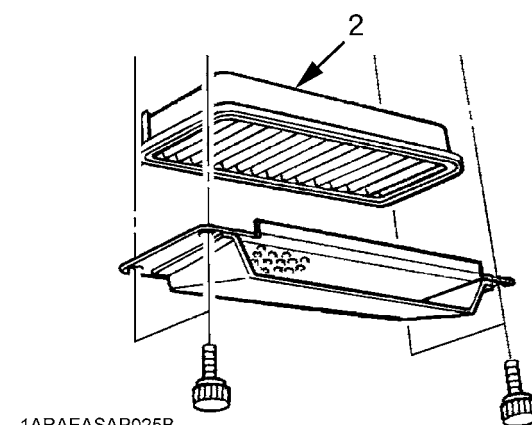
[329・335]

[438・447]

1ARADBEAP512B

[438・447]

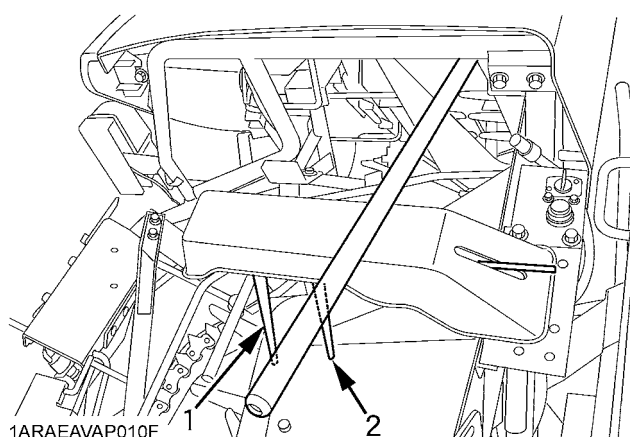
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	刈刃コンプ	5H766-5920-0	329・335
		5H700-5920-0	438・447
2	受刃コンプ	5H766-5910-0	329・335
		5H756-5910-0	438・447
3	刈刃アッシ	5H766-5901-0	329・335
		5H756-5901-0	438・447

◆ エアコンフィルタ

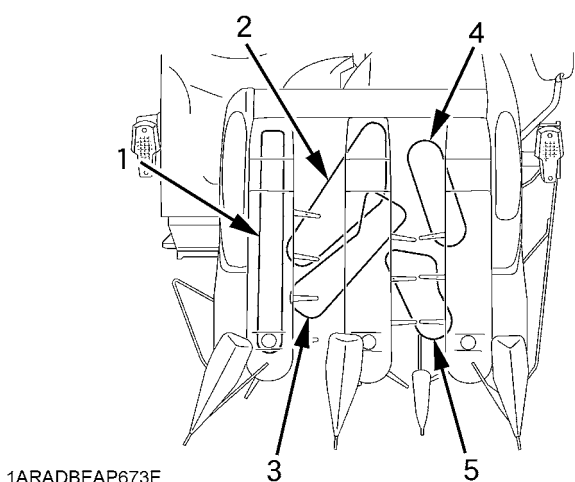
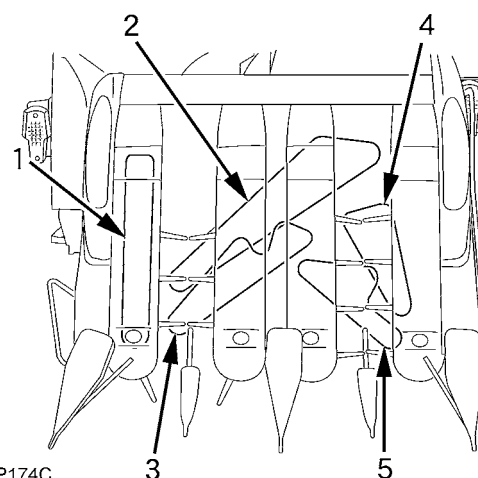
[Q 仕様]

1ARADBNAP197B

1ARAEASAP025B

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタ (ウチ, ナイキ)	5H736-3844-0	Q 仕様
2	フィルタ (ペーパー)	TA043-7160-0	

[Q 仕様]

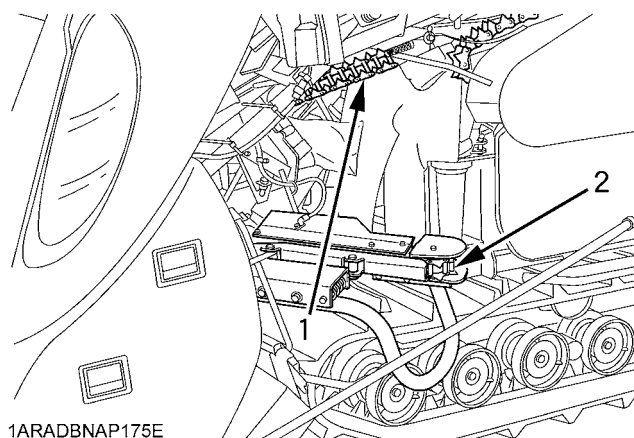
◆ 穂先センサ

図番	品名	品番	対象型式
1	スイッチ，アッシ （ホサキ，225）	5H632-7560-0	全型式
2	スイッチ，アッシ （ホサキ，190）	5H632-7570-0	

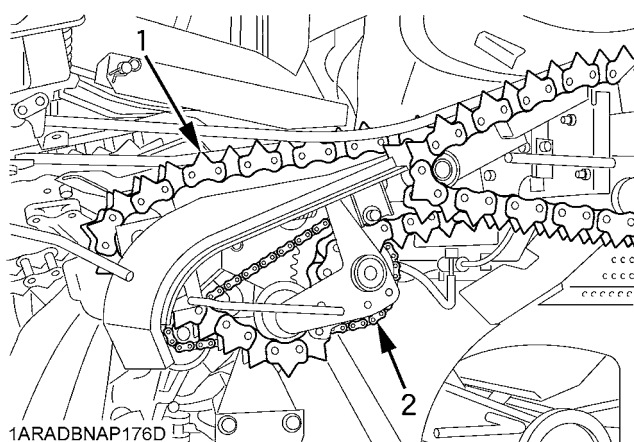
◆ 各チェーン
● 引起しチェーン
● 右穂先・株元チェーン
● 左穂先・株元チェーン

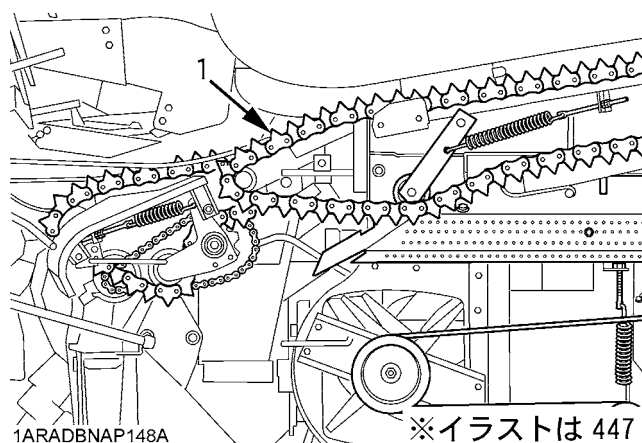
［329・335］

［329・335］

［438・447］

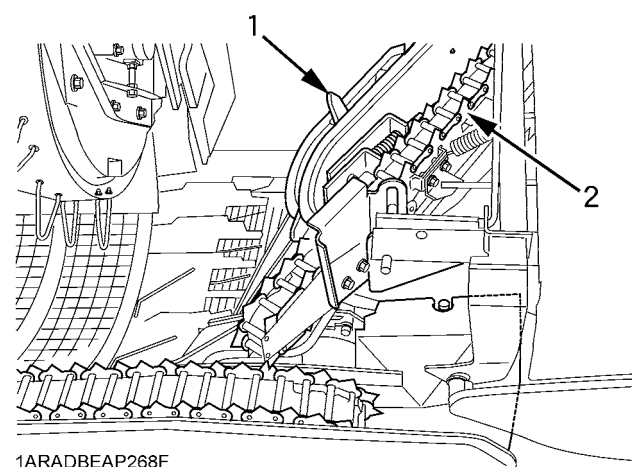
［438・447］

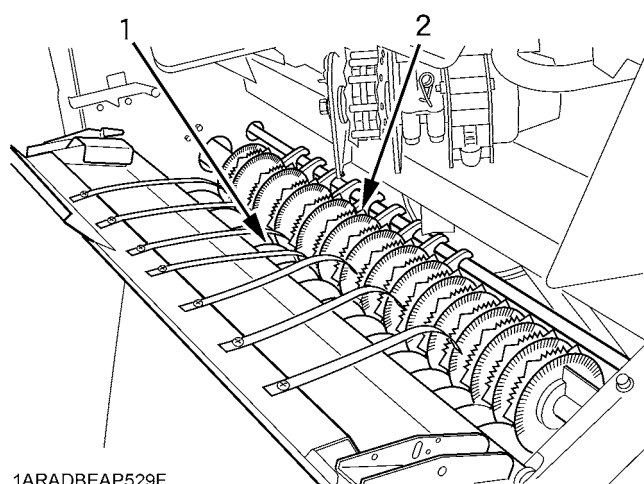
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン，爪アッシ （ヒキオコシ）	5H700-5401-0	全型式
2	チェーン，爪アッシ （ホサキ，R）	5H700-6703-0	全型式
3	チェーン，アッシ （58，ミギ）	5H766-6360-0	329・335
	チェーン，アッシ （63，ミギ）	5H700-6360-0	438・447
4	チェーン，爪アッシ （ホサキ，L）	5H702-6501-0	329・335
		5H700-6501-0	438・447
5	チェーン，アッシ （34，ヒダリ）	5H766-6320-0	329・335
	チェーン，アッシ （42，ヒダリ）	5H700-6320-2	438・447

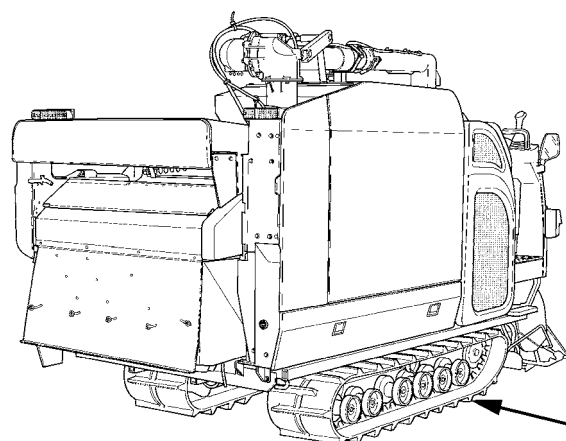
● 株元供給チェーン
● こぎ深さチェーン

図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン，アッシ（36，キョウキュウ）	5H700-6610-0	全型式
2	チェーン，アッシ（44，フカサ）	5H700-7130-0	

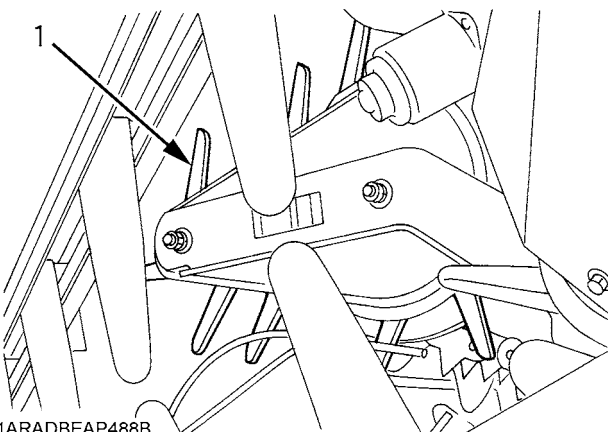
● 供給サポートチェーン
● 供給サポートチェーン駆動チェーン

図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン，アッシ（34，サポート）	5H766-6680-2	全型式
2	チェーン，アッシ（55，サポート）	5H766-6660-0	

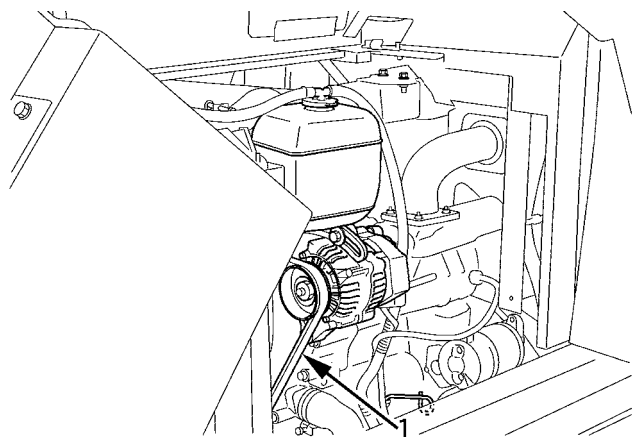
● フィードチェーン

図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン（フィード，77L）	5K215-4212-0	329・335
	チェーン（フィード，89L）	5K210-4212-0	438・447

● 排わら穂先・株元チェーン

図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン，アッシ（ハイワラホサキ）	5K200-4340-0	全型式
2	チェーン（ハイワラ）	5K200-4311-2	

◆ カッタ刃・供給刃

図番	品名	品番	対象型式
1	セツダンバ（150 × 17 セラミック）	57748-2121-0	329・335
	150 セツダンバ	57783-2121-2	
	セツダンバ（130 × 17 セラミック）	57748-2122-0	
	セツダンバ 130	57775-2223-2	
	セツダンバ（172 × 21 セラミック）	5F051-2114-0	438・447
	セツダンバ （170）	5F618-2123-0	
	セツダンバ（150 × 21 セラミック）	5F519-2123-0	
	セツダンバ（150）	5F618-2123-0	
2	ロータ（130-17，ギヤ）	5F051-2138-0	全型式
	ロータ（130，ギヤ）	5F517-2139-0	
	ロータ（130-21，ギヤ）	5F051-2161-0	438・447
	ロータ（21-130，ギヤ）	5F635-2139-0	

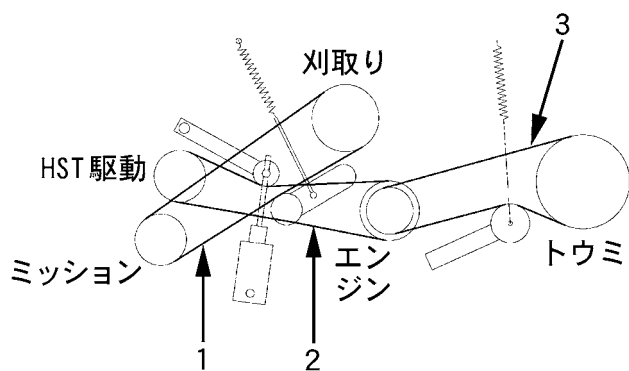
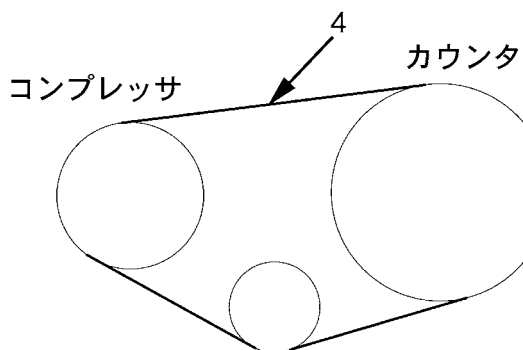
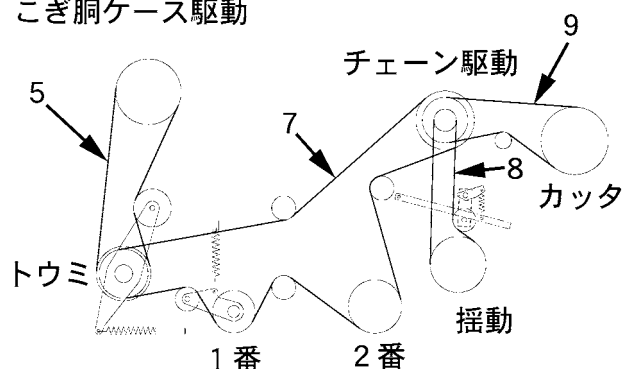
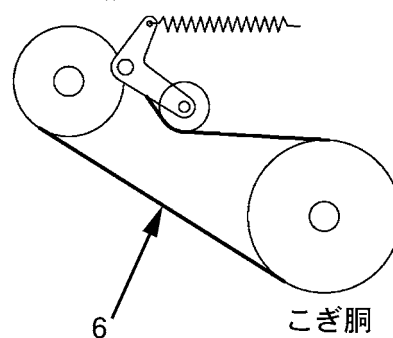
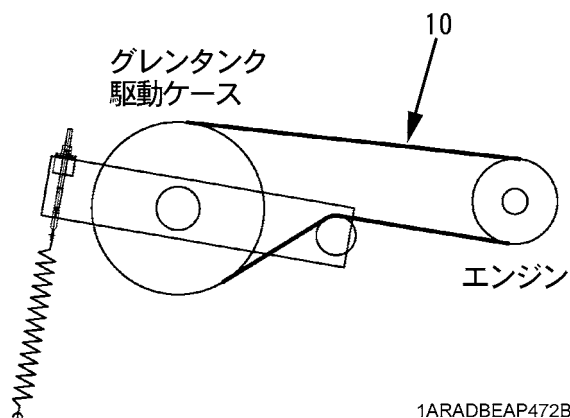
◆ クローラ

図番	品名	品番	対象型式
1	クローラ（410 × 46）	5H776-2253-0	329・335（M 仕様除く）
	クローラ（410 × 47）	5H776-2251-0	329・335（M，4M 仕様）
	クローラ（470 × 47）	5H773-2251-0	438・447（M 仕様除く）
	クローラ（470 × 48）	5H773-2252-0	438・447（M，4M 仕様）

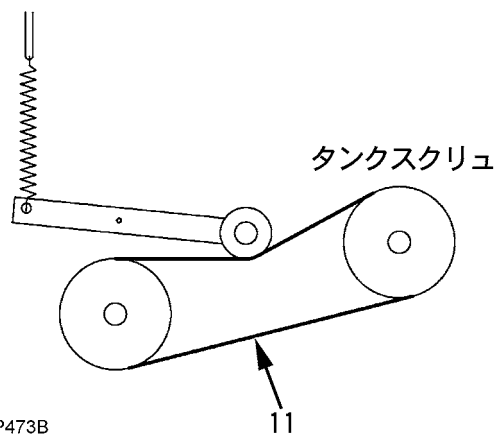
◆ 突起付ベルト

図番	品名	品番	対象型式
1	ベルト（突起付）	56718-6212-2	全型式

◆ ファン駆動ベルト

1ARADBNAP130E

※イラストはQ仕様除く

図番	品　　　名	品　　番	対象型式
1	コグベルト（38，コグ）	16206-9701-3	329・335
	ファンベルト（A39.5，コグ）	5H730-9258-0	438・447

◆ 各ベルト

1ARADBNAP160B

1ARADBNAP161B

1ARADBNAP162B

1ARADBEAP471B

1ARADBEAP472B

1ARADBEAP473B

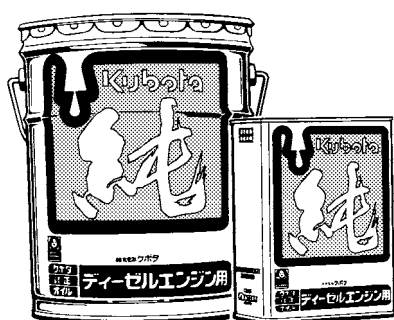
品番	名称	品名	品番	対象型式
1	刈取駆動ベルト	Vベルト（B59）	5H773-1181-0	全型式
2	ミッション駆動ベルト	Vベルト（B53）	5H776-1160-0	329
		Vベルト（B54）	5H774-1160-0	335・438
		Vベルト（B56）	5H773-1160-0	447
3	脱こく駆動ベルト	Vベルト（B60）	5H775-1164-0	329・335
		Vベルト（B61）	5H730-1164-0	438・447
4	コンプレッサ駆動ベルト	Vベルト（FM35）	5H777-2161-0	Q仕様
5	こぎ胴ケース駆動ベルト	Vベルト（C87）	5K200-9332-0	329・335
		Vベルト（C88）	5K200-1581-0	438
		Vベルト（B88）	5K210-1581-0	447
6	こぎ胴駆動ベルト	Vベルト（B55）	53681-1588-0	329・335
		Vベルト（C55）	5K200-1588-0	438・447
7	１番・２番・ チェーン駆動ベルト	Vベルト（B139）	5K222-2592-0	329・335
		Vベルト（B154）	5K126-2592-0	438・447
8	揺動駆動ベルト	Vベルト（B50）	5K126-2591-0	全型式
9	カッタ駆動ベルト	Vベルト（B54）	5K210-7116-0	全型式
10	タンク駆動ケース駆動ベルト	Vベルト（B63）	5H773-1211-0	全型式
11	スクリュ駆動ベルト	Vベルト（B47）	5H730-1213-0	全型式

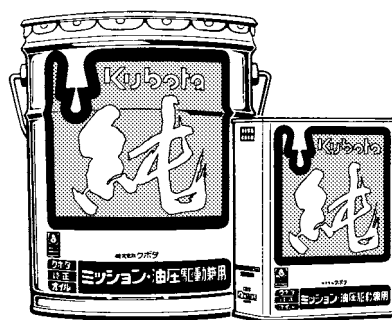
クボタ純オイル

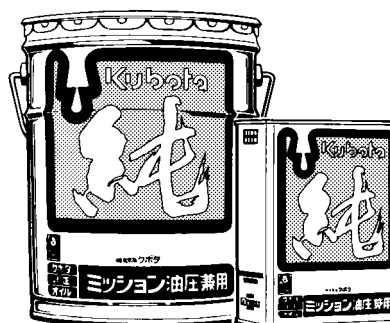
■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

お買求めは，購入先へご用命ください。

- **D10W-30（ディーゼルエンジン用）**
  D10W-30 スーパー CD（ターボ付きエンジン）

1ARADAFAP393A

- **スーパー UDT-2**
  （油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）

1ARADAFAP394A

- **M80B（ミッション油圧兼用）**

1ARADAFAP395A

- **M90（一般ミッション・各ギヤ用）**

1ARADAFAP396A

■クボタ純グリース

- **No. 2**

1ARADAFAP397A

索引

英数字

あ

い

う

え

お

か

き

く

こ

さ

し

す

せ

ふ

ほ

ま

み

む

め

も

よ

ら

り

る

れ

わ

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，該当する項目に記入されると便利です

購入先名 担当 電話番号（　　　）　　－	型式名
	区分
	車台番号（製造番号）
	エンジン型式 エンジン番号
ご購入日 / キーナンバー	その他装着型式 機械番号

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

秋田事務所	電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事務所	電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182-１
東京事務所	電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５－２－36
新潟事務所	電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上１－14-15
金沢事務所	電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956-１
名古屋事務所	電(0586)24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町１－１
大阪事務所	電(06)6470-5850	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜１－１－１
岡山事務所	電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市東区宍甘275
米子事務所	電(0859)39-3181	〒689-3547	鳥取県米子市流通町430-12
福岡事務所	電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１－７－３
熊本事務所	電(096)357-6181	〒861-4147	熊本市南区富合町廻江846-１
株式会社北海道クボタ本社	電(011)661-2491	〒063-0061	北海道札幌市西区西町北16-１－１
株式会社四国クボタ本社	電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタ

国内農機カスタマーセンター	電(072)241-1375	〒590-0823	大阪府堺市堺区石津北町64

ER329/335/438/447
AT. G. 18-22. 21. K

Kubota

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

品番　5H773-8511-5

株式会社クボタ

〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号